

国立国語研究所学術情報リポジトリ

現代雑誌九十種の用語用字 第3分冊：分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001236

現代雑誌九十種の用語用字

第三分冊 分析

見 坊 豪 紀
水 谷 静 夫
石 綿 敏 雄
宮 島 達 夫

国立国語研究所

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、現代の書きことばの実状を明らかにするために、第一研究部書きことば研究室において用字用語の調査を進めてきた。その一環としてさきに報告21『現代雑誌九十種の用語用字』第一分冊（総記および語彙表、1962）および報告22同上第二分冊（漢字表、1963）を刊行したが、ここに報告25として第三分冊分析編を刊行して、この調査を終了する。

分析編は、用語調査の結果の分析であつて、内容的には第一分冊に接続するものである。（用字調査の分析は第二分冊に収めてある）おもな内容は、（1）語の基本度（2）語彙の量的構造（3）助詞・助動詞の用法（4）複合語（5）同じ語か異なる語かの判別 の五部分に分かれ、巻頭には目次細目と内容解説を、巻末には調査データの概略を添えて読者の便に供した。

なお、この分冊の執筆には

- 見 坊 豪 紀（0章，4章）
- 水 谷 静 夫（1章，2章の1）
- 石 綿 敏 雄（2章の2～4，5章）
- 宮 島 達 夫（2章の4，3章）

の4名が分担して当たつた。

昭和39年2月15日

国立国語研究所長 岩 淵 悦 太 郎

目 次

刊行のことば	i
目 次	ii
表・図の目次	iii
目次細目・内容解説	iv
第三部 分 析	1
0 調査のあらまし(見坊)	1
1 語の基本度(水谷)	7
2 語彙の量的な構造(水谷・石綿・宮島)	52
3 助詞・助動詞の用法(宮島)	69
4 複合語(β結合)(見坊)	240
5 同じ語か異なる語かの判別(石綿)	294
索 引	331
調査データの概略	335
報告書(第一～第三分冊)の要目一概説と目次の抜粋	336

東京大学出版会

表 の 目 次

1 語の基本度	
表 1.1	各カテゴリに属する語数 17
1.2	基本度函数の作成に使った刺激語 17~18
1.3	刺激語特性値 19
1.4	「力」の測定値一覧 20
1.5	基本度函数のパラメタ 22
1.6	カテゴリに対する結果一覧 23
1.7	カテゴリ順位一覧 24
1.8	使用率上位千二百二十語の基本度 26~45
1.9	基本度上位七百語の意味分類による比率 48
1.10	基本度上位七百語の意味分類 49~51
2 語彙の量的な構造	
2.1	語の使用率の分布 53
2.2	多義語の語義の合計と平均 54
2.3	語種・品詞別の異なり語数表 (1) 57
2.4	人名・地名の度数分布 57
2.5	語種・品詞別の異なり語数表 (2) 58
2.6	語種・品詞別の延べ語数表 59
2.7	上位1220語の語種・品詞 60
2.8	雑誌の種類と語種・品詞 62
2.9	普通の品詞分類による分布 63
2.10	動詞の活用の種類 64
2.11	原語別にみた外来語(異なり数) 64
2.12	原語別と層別 65
2.13	混種語の内訳 65
2.14	活用形別の度数分布 67
2.15	活用形の内訳 (その一) 67
2.16	活用形の内訳 (その二) 68
3 助詞・助動詞の用法	
第1表	助詞・助動詞の用法別度数表 71~90
第2表	文節形度数表 91~111
表 3.1	自立語から助詞・助動詞への接続 112~114
3.2	二つの<かかり>の前後関係(索引は、176~177) 178~228

表 3.3	三つの<かかり>の前後関係 229~231
3.4	<かかり>の位置 232~233
3.5	<うけ>の集中度 234~235
3.6	<うけ>の集中度(延べ語数100について) 237
3.7	<かかり>の共存度 238
4 複合語	
4.1	見出し語と複合語表との関係 248
4.2	複合語の度数分布 249
4.3	見出し語の結合率(異なり) 249
4.4	見出し語の複合語生産量(異なり) 250
4.5	生産された複合語 251
4.6	複合語の生産量の大きい見出し語 251
4.7	複合しにくい見出し語の例 252
4.8	標本使用度数の多い複合語(度数順) 253
4.9	複合の相手方の類別 255
4.10	五十音順付属要素一覧表 256
4.11	複合語の語種別分布 258
4.12	複合語の品詞別分布 258
4.13	複合語の語種別・品詞別分布 259
4.14	人名・地名の含有率 260
4.15	人名・地名、それ以外の語の結合率 260
4.16	人名・地名の複合語生産量 261
4.17	人名・地名の総数(推定)その他 261
第3表	複合語の表 262~293
5 同じ語か異なる語かの判別	
第4表	判別の実例一覧表 301~330

図 の 目 次

図 1.1	視測データ 21
1.2	調査平面による結果 24
1.3	刺激語の基本度 25
2.1	語種・品詞別異なり語数と延べ語数 61
2.2	度数別にみた語種・品詞(異なり語数) 61
2.3	度数別にみた語種・品詞(延べ語数) 61
3.1	「を」(空間的起点)の集中度 236
4.1	見出し語数と複合語数との関係 251

目次細目

内容解説

	ページ
0 調査のあらまし	1
1 語の基本度	
1.1 本章の課題	7
1.2 散らばり度	9
1.21 予備的考察	9
1.22 散らばり度の定義	11
1.23 散らばり度の標本推定	12
1.3 基本度函数の作成法	13
1.31 方針	14
1.32 基本度に関する「力」の定義	14
1.33 函数 ϕ の定め方	16
1.4 基本度函数の試作	16
1.41 実験手続きの概要	16
1.42 刺激語	17
1.43 観測された「力」	19
1.44 データの最小二乗法調整	20
1.5 試作函数による結果とこの試みの反省	22
1.51 概括的な結果	22
1.52 使用率上位千二百二十語の基 本度	25
1.53 この方法に関する反省	45
1.54 基本度上位七百語の意味分類	47
2 語彙の量的な構造	
2.1 使用率の分布	52
2.2 使用率と語種・品詞	54
2.21 調査対象全体に対する語種・ 品詞別の分布	56
2.22 雑誌の種類と語種・品詞別	62
2.3 語種・品詞の内容	62
2.4 活用形の使用度数の分布	66
3 助詞・助動詞の用法	
3.1 総記	69

5項目に分け、経過・対象・調査項目などを説明。
基本語彙を選ぶに当たって、もし一々の語に基本度と呼ぶ何らかの数量が定められ、その大小によって基本語彙に入れるか否かが決められれば、便利である。そういう方法の開発を目ざし、ひとまず、基本度を語の使用率と散らばり度との函数だと定義してみる。ここに散らばり度とは、その語が様々の分野で満遍なく使われるか否かの度合を表わす量である。1の章では、基本度函数の試案を示すと共に、現代雑誌九十種の用語調査のデータに立ってこの考えを実行してみた。

この章の方法は、客観的に測れる使用率・散らばり度の二量を使った函数値の大小が、人間の主観的判定の結果となるべく並行するように、函数の中の定数を調整する仕方である。このためには人間の判定結果を数量化しなければならないが、これには一対比較法から定められる優越行列によって「力」というものを算出する仕方を使った。この「力」は実験を通して測る。また函数の型は第一近似として線型式にした。

使用率・散らばり度の観点で量的性質が似ている語の中から五語ずつ、二十五組をランダムに抜いて実験に供し、組の対についてどちらが一層基本的かを判定させた。この判定結果を使って、函数の中の定数を調整する。こうして得た試作基本度函数は、

$$\text{基本度} = -0.6356 + 1.5825x - 0.4181y,$$

$$\text{但し } x = \log_{10}(\text{使用率}) + 5,$$

$$y = \log_{10}(\text{散らばり度}) + 3.$$

この式を使って、使用率の大きい方から順に1220語を取り、これに対して基本度を算出した。また基本度の高い方からの七百語の意味分類も行なった。この範囲では抽象的關係をさす語が半数以上を占め、生産物・用具や自然物・自然現象をさす語が少ない。

使われた語の総体である語彙の構造を二三の観点から数量的に記述した。

2.1では、使用率がしかじかの値以上の語が幾つあるか、それで延べ語数の何割をおおうかを調べた。結果は、雑誌の部門別にかかわらず、かなりよい安定を見せている。延べ語数をおおう割合は、庶民、娯楽・趣味の部門の動きが全体の動きにもっとも近い。

2.2, 2.3では語種と品詞の内訳を、語の使用度数、雑誌の部門と関連させて扱う。語種についてみると異なり語数では漢語が和語より多いが、延べ語数では和語が漢語より多く、全体のなかば以上を占める。品詞では、異なり、延べとも名詞が最も多い。

2.4では活用形の使用度数を扱う。動詞は「て」「た」などに続く形が多く、形容詞では終止連体形が多い。

用法別度数表(140項)は、助詞・助動詞の意味・用法ごとに使用度数を全体と各層に分けて示したものの。文節

第1表 助詞・助動詞の用法別度数表 71

第2表 文節形度数表 91

3.2 助詞・助動詞における類義表現の分析 115

(1) 主格の表現……「が」「の」「は」 115

(2) 「対象語」など……「が」「の」「を」 123

(3) 到達点・方向の表現……「に」「へ」 125

(4) 出発点の表現……「から」「より」 126

(5) 相手の表現〔一〕……「に」「へ」 126

(6) 相手の表現〔二〕……「から」「に」 127

(7) 使役の相手の表現……「を」「に」 130

(8) 基準の表現……「に」「と」 132

(9) 思考内容の表現……「に」「と」 132

(10) 結果の表現……「に」「と」 135

(11) 並列の表現〔一〕……「と」 139

(12) 並列の表現〔二〕……「か」「とか」
「なり」「の」「や」「やら」 143

(13) 並列の表現〔三〕……「たり」 144

(14) 同時性の表現……「ながら」「つつ」 145

(15) 条件の表現〔一〕……「と」「ば」「た
ら」「なら」 147

(16) 条件の表現〔二〕……「なら」「ならば」 159

(17) 条件の表現〔三〕……「ても」「とも」 160

(18) 命令の表現……「ろ」「よ」 160

(19) 推量の表現……「う」「だろう」「まい」 161

(20) 否定の表現〔一〕……「ない」「ぬ」 163

(21) 否定の表現〔二〕……「ぬ」「ん」 165

(22) 状態の表現……「た」「ている」 166

(23) 接続のちがいが「まい」「べし」の接続 168

(24) 文体のちがいが……接続助詞の前の
「です・ます」体 169

(25) 語順のちがいが 171

3.3 <かかり>の量的性質 231

3.31 位置 231

3.32 <うけ>の集中度 236

3.33 共存度 238

形度数表(105項)は、「動詞+でしよ」「名詞+には」のように自立語に助詞・助動詞のついた文節の形の度数を全体と各層に分けて示したものである。

類義表現の分析結果のうち、いくつかをしるす。

○主格の表現では、「は」は特に名詞述語文に多い。動詞述語文では、肯定一「が」、否定一「は」という傾向がある。

○「～が～たい」と「～を～たい」とでは、「～を～たい」が圧倒的に多い。

○受け身の「～から～れる」は相手が人間のばあいには用いられ、「～に～れる」はそれ以外にも用いられる。

○使役の相手の表現「～を～せる」は大体自動詞に、「～に～せる」は他動詞について用いられる。

○結果の表現では「に」の方が「と」よりもずっと多く、特に「なる」「する」以外の動詞では差がいちじるしい。

○並列の「Aと(や、か)B」「Aと(や、か)Bと(や、か)」という二つの型のうちでは、「と」「や」「か」いずれのばあいも前者が多い。

○「～たり～する」という型は、「～たり～たりする」という型とはほぼ同程度に使われている。

○条件の「～と」は、つづいて起こる動作の表現に使われること、主文に命令・希望などの表現があるときは使えないこと、などの点で「～ば」や「～たら」とちがっている。

○「ならば」は「なら」より少ないが、「～たならば」という形ではわりに多い。

○活用語の推量表現では「～だろう」が「～う」の約3倍ある。否定のばあいは「～ないだろう」「～まい」が多く、「～なかろう」は少ない。

○否定表現の「ぬ」は「ない」に比べて少ないが、その中では「～ねば」の形が比較的多い。

○「べき」がサ変動詞につづくときは、「するべき」よりも「すべき」の方がはるかに多い。

○「です」体の文中に接続助詞がくるとき、「が」「から」「けれど」などの前では「です・ます体」になりやすいが、「て」「と」「ので」「のに」などの前ではなりにくい。

○語順については状況語や陳述的成分は他の成分よりも前にきやすく、補語や連用語はあとにきやすい。(二つの<かかり>の語順関係の一覧表(602項)を用例つきでそえた)

主語・連用修飾語などの<かかり>のうち、補語・目的語は<うけ(述語)>に近い位置にあるのがふつうで、<うけ>の種類も特定のものに集中している。逆に状況語や陳述的成分は<うけ>から遠く、<うけ>の集中度も低い。また、補語は他の<かかり>と共存することが比較的少ない。

4	複合語(β結合)	
4.1	複合語の名称と範囲	240
4.11	複合語の名称	240
4.12	複合語の範囲	244
4.13	一次結合と二次結合	246
4.14	語彙表(第一分冊)との関係	247
4.2	複合語の概観	248
4.21	度数分布の分析	249
4.22	結合率の分析	249
4.23	複合語の生産量の分析	249
4.24	複合しない見出し語	252
4.25	標本使用度数の多い複合語	253
4.26	付属要素と複合語	255
4.27	語種・品詞と複合語	258
4.28	人名・地名と複合語	260
第3表	複合語の表	262
	前書き	262
	複合語の表	264
5	同じ語か異なる語かの判別	
5.1	この問題の分析	294
5.11	語の変化	295
5.12	語形と意味の並行性	299
第4表	判別の実例一覧表	301
	前書き	301
	判別の実例一覧表	302

この調査では文を単位語に分割する際、β単位という規準によった。このため〈自転車〉は〈自転〉〈車〉のように二語扱いを受けるなど、語彙表(第一分冊)の利用上不便な面があった。そこで今回は、β単位を土台として形成された複合語(β結合)のうち、出現回数3以上のもの4381語の一覧表を出すことにした。

複合語とは自立語同士の緊密な結び付きをさし、今回は二つのβ単位同士の結合(一次結合)に限って調査した。この結果、語彙表所収の7234語のうち2252語を取り上げたことになる。なお冒頭で、β結合の理解に必要な限りで、β単位の解説を行なった。

複合語の表にのせた4718語は、延べ約29万語の単位語について調査した結果の抜き書きで、出現回数2~1のものをはぶいた。出現回数の最高は、〈匱乏-年〉の821回で、以下主として、人名、地名、数字などとの結合形が続く。複合語をもっとも多種類生産した単位語は〈する〉で、1957種の複合語を生産した。

複合語の表の作成と並行して行なった2000語(延べ56860語)だけの抜き取り調査の結果によれば、

- 1 出現回数別に見ると、よく使うことばほど複合しており、かつ、多種類の複合語を生産する。
- 2 人名・地名・数字は、それ以外の語よりも多く複合しており、かつ、多種類の複合語を生産する。
- 3 複合語の生産量についてみると、語種では漢語、品詞では名詞、動詞がすぐれ、語種・品詞の組み合わせでは和語動詞がまさる。

はじめは同じことばであったが、意味の分化によって別の語と意識されるようになったものがある——など、語の歴史的な変化や体系のずれの面からこの問題を概観した。

判別一覧表(974項)は、同じ語か異なる語かの判別を要する語を集めたもので、同音語を主とし、その他のものも含む。たとえば

- | | | |
|-----|-----------|------|
| せめる | ①[攻] 敵陣を～ | セメル① |
| | ②[責] 怠慢を～ | セメル② |

第三部 分 析

0 調査のあらまし

0.0 これまでの経過

われわれが「現代雑誌九十種の用語用字」の調査を計画したのは昭和30年、着手したのは昭和31年であった。今、ここに第三部 分析編を刊行して、一往この調査を終えようと思う。

われわれはこれまで三回にわたり、大規模な用語用字の調査を経験してきた。作業量の増大につれてカードの枚数も当初の32万枚から、今回(第三回)の82万枚へと増加している。^{注1)} また調査対象の範囲も当初の一部門二種(婦人雑誌)から今回の五部門九十種(総合雑誌から娯楽雑誌に至る)に拡大し、現代普通に見られる代表的な成人向け雑誌一般に行なわれる用語用字上の各種の状況をほぼ概観することができるようになった。

これまでの調査経験を通じて、われわれは方法的にも実践的にも多くの成果をあげたように思う。そのおもな項目ならびに作成した各種諸表の目録は、巻末に一括して示した(「調査データの概略」参照)。ここでは、回顧の意味も含め、書きことば研究室がこれまで行なってきた用語用字調査の規模その他をまとめて示す。

用語調査

資料	調査対象 (刊行日付け) ^{注2)}	抽出比	標本 延べ語数	標本 異なり語数	母集団の推 定延べ語数	語彙表 収録語数	発 表
1 婦人雑誌	主婦之友 (1952.1~12)	1/6	14.6万	2.7万	90万	2481 (延べ9回以上の語)	婦人雑誌の用語 (1953)[報告4]
2 総合雑誌	中央公論など 13種 (1953.7~54.6)	1/40	23万	2.3万 ^{注3)}	900万	4181 (延べ7回以上の語)	総合雑誌の用語 (前, 後)(1957) [報告12~13]
3 現代雑誌	5部門90種 一般 (1956.1~12)	1/230	53万	4.0万	1.4億	7234 (延べ7回以上の語)	現代雑誌九十種の 用語用字(一, 三) (1962, 1964)[報告 21, 25]

注1) 用語調査 用字調査 計

婦人雑誌	15万	17万	32万
総合雑誌	23万	12万	35万
雑誌九十種	54万	28万	82万

注2) 別に、実用記事だけについて同じ期間の『婦人生活』を同じ方法で調査した。

注3) 文を単位語に分割する規準が、 α 単位から β 単位に変わったので、1と2との間で、異なり語数の多少を直接比較することはできない。

α 単位によれば、〈国立国語研究所〉は、〈国立〉〈国語研究所〉の二単位(二語)に分割されるが、 β 単位によれば〈国立〉〈国語〉〈研究〉〈所〉の四単位(四語)に分割される。一般に α 単位でかぞえた方が異なり語数は多くなる。

用 字 調 査 (用語調査のために抽出した標本について調査)

資 料	調査対象	抽出比	標 本 延べ字数	標 本 異なり字数	現われな かった当用漢 字の数	漢 字 表 収 録 数	発 表
4 婦人雑誌	1に同じ	全 標 本	17.0 万	3048	41	—	1に同じ
5 総合雑誌	2に同じ	全標本の $\frac{1}{2}$	11.7 万	2781	73	1412	総合雑誌の用字 (1960)[報告19]
6 現代雑誌 一般	3に同じ	全標本の $\frac{1}{3}$	28.0 万	3328	15	1734	現代雑誌九十種の 用語用字(二) (1963)[報告22]

参考 婦人雑誌の調査の前に、朝日新聞の1950年6月分に対し全数調査を行ない、延べ24万、異なり1.5万(これは人名・地名を含まない。上記1～3の調査では含む。)の語数を得た。参照、『語彙調査——新聞用語の一例——』(1952)[資料集2]。

われわれの用語用字調査の方法上の特色は、標本の抽出から数量的な主要結果の算定まで、一貫した計画のもとに標本抽出理論を使ったことにある。この種の調査では十万分の一のオーダーにあるような小さい比率のものまでを多数扱わなければならない等の事情があるため、既成の標本抽出技法では思わしくない所がある。こうしてわれわれは新たな技法の必要に迫られ、確率比例抽出法や比推定の長所を加味して、層化集落抽出法の一変形を案出した。(担当は水谷静夫)これで手作業による場合の用語(用字)調査の方法はほぼ確立したと考える。

ついでに各分冊の内容を紹介すると、

第一分冊(1962)[報告21]は総記・語彙表編である。はじめにこの調査のあらましを述べ、次に語彙表をのせる。語彙表は第一分冊の大部分を占め、この調査で得た四万種の語(延べ43.8万)の中、標本使用度数7以上の語7234をかかげる。語彙表は、五十音順および使用率順(全体と各層)の七つの表に分かれ、上位1220語(標本使用度数50以上)には使用率の推定精度もあわせて示してある。また付録として、この調査の標本抽出法と使用率推定法についての理論的説明を行ない、最後に、この調査のデータ一覧をのせて概観に便利なようにした。

第二分冊(1963)[報告22]は漢字編である、用語調査のための標本の三分の二の範囲から漢字28万字を採集し、個々の語の表記形式、表記に用いた漢字の音訓の用法を調査した結果がまとめられている。使用度数の分布表によれば、異なる1000字で延べ字数の90.3%を、2000字で98.6%をまかなうことがわかる。一方、当用漢字1850のうち、この調査で現われなかったものが15字で、うち、「蚕」「式」の二字は教育漢字である。第二分冊におさめた表は三つあり、第1表は個々の漢字を使用率順(全体と各層)にならべたものである。第2表は個々の漢字ごとに音訓別の用法を、実際に使われた語形とその使用度数つきで示したものである。そして第3表は上記二表への索引をかねた、五十音順漢字表である。(第1表、第2表は標本使用度数9回以上の漢字に限ってのせた)

さてこの第三分冊は、用語調査の結果の分析であり、内容的には第一分冊に続くべきものである。分析項目については次の§0.1を、分析した内容のあらましについては、目次細目と内容解説のページを、それぞれ参照していただきたい。

なお、このたびの調査全体の輪郭の詳細は第一分冊の総記にゆずり、ここでは当面必要なことだけをのべる。「調査対象」(§0.2)、「実施機関と担当者」(§0.3)の二項は、第一分冊にもしるしたが、ここにもしるすことにした。前者は、この分冊だけを利用する読者の便を考えたものであり、後者は、担当者などにその後の部分的な出入りがあったからである。

0.1 調査のねらいと調査研究項目

この調査のねらいは、現代書きことば資料のうち雑誌という形態をとる刊行物（5部門90種）について、その用語・用字の実態を記述・分析し、基本語彙設定、表記法体系の改善への基礎的な資料を得ようとするにある。

ここに現代雑誌とは、総合雑誌、婦人雑誌などのような特定の部門にかたよらず、ひろく各分野にわたり選択された成人用の雑誌（季刊、月刊、旬刊、週刊）をさす。ただし学術・技術・専門雑誌を含まない。九十種の誌名は次の§0.2にしるした。^{注4)}

この分冊の調査研究項目と担当者・執筆者は次のとおりである。

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1 語の基本度 | 水谷 静夫 |
| 2 語彙の量的構造 | 2の1 水谷 静夫 2の2, 2の3 石綿 敏雄 2の4 石綿・宮島 |
| 3 助詞・助動詞の用法 | 宮島 達夫 |
| 4 複合語(β結合) | 見坊 豪紀 |
| 5 同語別語の判別 | 石綿 敏雄 |

0.2 調査対象

調査対象は、以下にしるす五部門九十種の雑誌の、昭和31年1月号から12月号までの本誌・増刊号および付録の本文である。各部門をそれぞれ一つの層として調査した。また、雑誌数の次のかっこ内にしるしたものは、選択の規準となった、推定発行部数である。

一 評論・芸文 12誌（一万部以上）
群像 芸術新潮 新潮 世界 大法輪 短歌 中央公論 俳句 美術手帖 文芸 別冊文芸春秋 みづゑ

二 庶民 14誌（五万部以上）
葦 家の光 キング サンデー毎日 週刊朝日 週刊サンケイ 週刊読売 人生手帖（特集）人物往来 知性 日本週報 文芸春秋 丸 リーダーズダイジェスト

三 実用・通俗科学 15誌（一万部以上）
エコノミスト(週刊) 科学朝日 科学読売 自然 実業之日本(半月刊) ジュリスト(半月刊) 商店界 ダイヤモンド(週刊) 東洋経済新報(週刊) 時の法令(旬刊) 農業朝日 農業世界 農耕と園芸 保健同人 ポピュラーサイエンス

四 生活・婦人 14誌（五万部以上）
暮しの手帖(季刊) 主婦と生活 主婦の友 スタイル 装苑 それいゆ ドレスメーカーズ 婦人朝日 婦人画報 婦人倶楽部 婦人公論 婦人生活 婦人之友 若い女性

五 娯楽・趣味 35誌（娯楽七万部以上、スポーツ・カメラ七万部以上、その他の趣味一万部以上）

注4) この分冊での分析は、用語関係の分析に限った。用字関係の分析は第二分冊漢字編にのせてある。

アサヒカメラ 囲碁 映画之友 映画ファン オール読物 面白倶楽部 音楽の友 棋道 近代映画 月刊フェイト 傑作倶楽部 講談倶楽部 娯楽よみうり 実話雑誌 週刊新潮 週刊東京小説倶楽部 小説サロン 小説春秋 小説新潮(別冊小説新潮を含む) 小説と読物 小説の泉 スクリーン 相撲 旅 トルーストーリー 文芸春秋漫画読本 平凡 ベースボールマガジン 宝石 明星 野球界 読切倶楽部 読切小説集 笑の泉

これら九十種の雑誌の全紙面(広告などを除く本文の全部)の約二百三十分の一について調査を実施した。採集したカードと得た見出し語の数は次のとおりである。

	採集したカード	得た見出し語数
自立語	43.8万	40016
助詞・助動詞	9.5万	140
計	53.3万	40156

なお、この調査では全標本を三分の一ずつに分けて途中集計を行なった。そして三分の一ずつの標本集団を始めから順に前段、中段、後段と呼ぶことにした。たとえば前段の延べ語数14.5万、異なり語数2.3万とは、全標本の最初の三分の一における採集カード枚数が14.5万であり、そこで得た見出し語の数が2.3万である、という意味である。

また、これらの標本を、分析の目的に応じて次のように利用した。

- 1 語の基本度 全標本中、延べ使用度数50以上のすべての語
- 2 語彙の量的構造 全標本
- 3 助詞・助動詞 前段
- 4 複合語(β結合) 前段と中段
- 5 同語か別語かの判別 全標本

注意 第二分冊の漢字の調査は前段と中段とについて行なった。

0.3 研究機関と担当者

この調査は、国立国語研究所第一研究部書きことば研究室ならびに第四研究部第三資料研究室の共同作業として行なったものである。直接従事した所員は

林 大、見坊 豪紀、斎賀 秀夫、水谷 静夫、石綿 敏雄、宮島 達夫、松本 昭の7名である。またこの調査には、補助者として、橋本圭子、高木翠、小林さち子、本多レイ子、宇野瑠美子(以上現職者)、岡本美奈子、松垣玲子、広吉玲子、西尾芙美子、西山洋子、鈴木百合子、渡辺嘉子、池田稔子、植田房子(以上退職者)が担当者を助けた。このほか小沼正枝ほか所外のアルバイト十数名を使った。

0.4 調査の結果と報告書の構成

0.41 この調査で行なった分析の内容

1 語の基本度(水谷)

語の使用率と散らばり度(各層にわたって満遍なく現われるかどうかの度合)とを手掛かりにして基本語彙を選定するというアイデアを提出し、このアイデアに基づいて、現代雑誌九十種の語

彙表(7230 語)の中, 上位 1220 語から 700 語を選定する実演を行なった。

2 語彙の量的構造(水谷・石綿・宮島)

語の使用率の分布, 語種・品詞の分布, 使用率と語種・品詞との相関性, 活用語の活用形ごとの使用度数の割合などについて分析した。

3 助詞・助動詞の用法(宮島)

初めに, 助詞・助動詞に属する各語の用法別度数表(140 項)ならびに文節形度数表(105 項)を示し, 次に, 主格の表現, 推量の表現, 文体, 語順のちがいなど類義表現の比較分析(25 項目)を論じ, 最後に, 「かかり」の位置, 「うけ」の集中度, 共存度などの関係を数量的に分析した。

4 複合語(β 結合)(見坊)

複合語がどのように形成され, また生産されるかを, 単位語(β 単位)の使用度数, 語種, 品詞, 人名・地名などいろいろの観点から分析し, 前置きとして β 単位の解説を, β 結合とまぎれやすい問題点に即して行なった。また, 分析に続いて, 複合語の表(4718 語)を添えた。

5 同じ語が異なる語かの判別(同音語を中心とした)(石綿)

同音の語が, 意味の違う別な語か, 同じ語の中の小さな違いかを判別する問題を, 意味の分化のし方という観点から考察し, 前回の調査(総合雑誌)およびこの調査の中で現われた語例を中心として判別した一覧(974 項目)を添えた。これは同音異語集としても役立つであろう。この語例集は, 「わたし」「あたし」(私)のように, 同じ見出しにまとめるべき語例なども含んでいる。

0.42 この報告書におさめたおもな表

上の調査の結果としてまとめたおもな表は次のとおりである。

表 1.9 使用率上位 1220 語の基本度一覧

表 1.10 基本度上位 700 語の意味分類表

表 2.1 語の使用率の分布表

図 2.1 語種・品詞別の異なり語数と延べ語数(百分比)(くわしい数字は, 表 2.3, 表 2.6 にある)

表 2.14 活用形の比率の表

第 1 表 助詞・助動詞の用法別度数表

第 2 表 助詞・助動詞の文節形度数表

第 3 表 複合語(β 結合)の表

第 4 表 同語別語判別の語例集

0.43 この報告書の構成

この報告書のおもな構成は次のとおりである。

目次

目次細目兼本書の内容解説

本文

索引

調査データの概略

全三冊の要目

以上の構成を取るにあたって特に努力した点は、読者の理解の便をはかるためのいろいろのくふうである。

まず、この報告書のおもな内容を生き生きと伝えるために、目次の細目欄の右半分を利用して内容解説を行ない、各章のねらい、得た結果の代表的なもの、重要なデータなどを簡潔に紹介し、必要最少限の情報がすぐ得られるように努力した。

内容の解説と対応して、この報告書の中のおもなデータが一覧できるページ(pp. 335～6)を巻末に設けた。この調査の輪郭ならびに分析のうち、全般に関係あるデータはここを見れば簡単にわかる。

また、このたびの調査の報告書全三冊の要目を最後に付録して、調査の全容ならびにこの分冊の位置づけを知る手がかりとした(pp. 336～7)。

事項索引(pp. 331～4)中にも、必要に応じて、前二冊にさかのぼって所在をしるしたもの、ひとえに全容を知るたよりとしたかったからにはかならない。

最後に、第一分冊の「刊行のことば」の中で、この報告書は全五冊になる予定である旨をしるしたが、第三分冊に予定した「意味による分類語彙表」(担当は、林 大)は、この調査から得た語彙のほか、阪本一郎『教育基本語彙』その他から補充し、総語数三万三千にのぼる『分類語彙表』(五十音順索引付き)の形で別に刊行した(国立国語研究所資料集 6, 1963)。第四、第五分冊に予定した内容は一冊にしてこの第三分冊にまとめた。

1 語の基本度

1.1 本章の課題

いわゆる基本語彙を、客観的測定が可能な操作に基づいて選定するには、どんな方法があるか。この問いに一つの試案をもって答えるのが、本章の課題である。ここでは、これこれのものが現代語の書きことばにおける基本語彙表だという形で結果を示す事を、意図してはいない。無論そうした具体的な結果を出すのを怠ってはなるまいが、この選定を「科学的に」となると、筆者らにそれをあえてするほどの知見がまだ備わっていない。しかしただデータの集積を期するという態度を執るだけでは、この問題に一步の進展も見られまい。そこで、われわれとして最大の規模で行なった現代雑誌九十種の用語調査のデータを使って、基本語彙選定法の具体化に至る一つの道程としての試案を示す所までは、しておきたいと思った。本章はかかる実践の報告である。

以上の課題について、考え方の大要をしるしておこう。

語彙調査(word count)の目的の一つに、量的にまとめられた調査結果を基本語彙選定に役立てようとする事がある。それは、語彙調査が試みられたそもそもの最初からのねらいであったと言える^{注1)}。ではその基本語彙とは何か。ここでは一往、大まかに

(0) 様々の言語表現によく現われる(見出し)語を組として考えたものが基本語彙であると言っておこう。事実、「基本語彙」ということばをそういう含みで使うことが多かった。人あって、この規定には「基本」という事への考慮が表立っては出ていない不満を述べるかも知れない。この反問に対して今は次の事実を指摘すれば足りる^{注2)}：

様々の言語表現によく使われる語と、そうした量的観点から離れた考えた「基本的な」語との間には、かなり高い相関がある。

さて仮説(0)に立ち返って、

(1) 「よく現われる語」という事は、基本語彙という集合Sに属する元である任意の見出し語 u と、Sに属しない見出し語 v について、前者の使用率が後者のそれより(概して)大きい事を含意する。

この性質は、量的観点から基本語彙を決めようとする態度を選んだ時、従来も真先に取り上げられたものである。語彙調査と言えば度数調査と考えられ、極言すればただ使用度数の勘定をするだけで事が終わるとさえ見られた。これは二重の意味で当たらない。第一に、慎重な調査設計なしで度数勘定をするだけでは、良い語彙調査はできない。第二に、にもかかわらず語の使用率の測定は重要

注1) 水谷静夫：語彙調査大體、『国語学』15(1953)。

注2) 基本語彙の概念規定論を、ここで正面切って取り上げようとは思わない。言語的データと基本語彙選定手続きの具体案とを抜きにした論では、始まらないと考えるからである。かような態度に関するやや立ち入った議論は、水谷静夫：語の基本度の決定法試案、『国語学』53(1963)に見られる。

であるのに、その重要さを見落とすか曲げて解するかしている。ただし使用率だけが基本語彙選定の決め手となる目安ではない。そこで HORN の調査でも、使用度数のほかに何種の文献に現われたかという“range”を調べ、両者を組み合わせて credit number というものを定めた。方法論が幼稚だったこれら先行調査において、この素朴な credit number にどれほどの価値を認めていいかは、はなはだ疑わしいが、しかしその考え方自体には聞くべき所がある。すなわちまず、基本語彙に属せしめるべき語の性質の一つとして、広く様々の文献に現われる事を考慮した点である。先の仮説 (0) で

- (2) 「様々の言語表現に現われる語」だという事は、特殊な分野にだけよく使われるのではなく、(概して)広く満遍なく使われるような語である事を含意する。

ところで性質(1)と(2)とは、実際問題としてはかなり高い相関を示すようであるが、目安そのものとして考えれば別の次元のものである(一層正確には、性質(2)の数量化が性質(1)の量的表示である使用率の大小の影響を被らないように行なえる)。かくてわれわれは THORNDIKE らと共に、その考え方を一層精密にして、次の仮説を置くことにしよう：

- (3) 各見出し語にはそれぞれに、その語を基本語彙に属せしめるか否かを決する手掛りとなる、かつ一次元の尺度で表わせる、ここで「基本度」と呼ぶ量が対応する。その基本度は、少なくとも二つの変数、すなわちそれぞれ性質(1)、(2)にかかわる量的表示である「使用率」「散らばり度」の函数として決定できる。

以上の線に従って大づかみに述べれば、各見出し語につき使用率 P と散らばり度 Sc とを測り、適当に定義した基本度函数 ϕ をもって基本度 $f = \phi(P, Sc)$ を算出し、 f の大きい方から所要の語数だけ見出し語を選び、その集合を「基本語彙」と定めるといふ、操作主義的な道が開け、後述の実践例が提示されるのである。

なお次の注意もあらかじめしておく：上述の態度を執る場合特に明らかにすべきは、

- (4) 操作の結果定まる基本語彙が常に、量的調査を施した対象たる言語表現の集合、すなわち「語彙区間」と相対的に得られる

という点である。漠とした現代日本語一般についての基本語彙というような形では、結果が出て来ない。後述の実践例で言えば、それは直接には「昭和31年刊の一般成人向け雑誌しらかの九十誌における基本語彙」を旨とするものであり、もう少しゆるめて言えば、語彙に全体として大きな食い違いがない限り、先のものを「現代の一般成人向け雑誌の基本語彙」と考えてもよく、更に同様な何らかの保証が得られればこれを「現代書きことばの基本語彙」とまで拡張解釈していいかも知れない。但しそういう拡張解釈が許されるためには、直接に結果が適用できる「語彙区間」と、拡張解釈を加える「語彙区間」とが、語彙の観点からは大差がないという保証を求める努力が必要である。そしてまた今述べた事は、われわれがデータを得た調査が標本調査であるという事とは全く別の問題である。この点も初めに明らかにしておく必要を覚える。標本調査であるがゆえに使用率や散らばり度に伴うはずの抽出誤差の影響は、算定した基本度を扱う際に当然(客観的な方法で)考慮しなければならぬし、またそれは原理的に可能な事でもある。かような抽出誤差と、拡張解釈に基づく誤差とは、初めから分けて考えなければならない。

以上は考え方を中心に述べたが、次に本章で扱う事柄に即して若干述べる。

先にも断わった通り、本章では量的操作に立って基本語彙を定める方式の一試案を提出することをねらっている。更に正確に言えば、そうした選定の目安として使うに耐えるような基本度をどう構成するか、主眼がある。データを現代雑誌九十種の用語調査に仰いだのは、一方ではもちろんこの調査の締めくくりの一つとしての意味もあるが、一方また前述の事を実践するのにわれわれが使い得る唯一のデータだからである。ここから定め得よう基本語彙をもって、それで現代書きことばの基本語彙が得られるはずだと考えているのではない事は、言うまでもない。(しかし反面、この実践例が方法論上の試みとして以外、実質的な情報を何も提供しないとは思えない。)

さて前述のアイデアを具体化するに当たっては少なくとも次の手順を踏む必要があり、本章もほぼその順に述べて行くことにする：

- 1° 基本度函数 ϕ の変数を定める。——われわれの場合には、使用率 (P) と散らばり度 (Sc) との二種だけを採ろう。更に多種類の変数を、言語的見地から選んでもいいが、いたずらに変数の数をふやしても効率が高まるとは限らない。そこで当面は前記二種の変数を使う。
- 2° ϕ の変数に予定した目安の数量化を行なう。——変数は属性的な形であってもいいが、一般には適当なしかたで数量化した方がいい。総体的な、現われる度合を反映する使用率は、既に数量化が済んでいる。そこで他の一方、すなわち様々の分野における現われ方のばらつき具合である散らばり度の数量化が、当面の問題になる。§ 1.2 参照。
- 3° 基本度函数 ϕ の形を定める。—— ϕ の形の定め方いかんが結果の効率に大きく影響しよう。ここではどういふ形を選ぶかの先験的な規準は何もあり得まい。われわれは、エキスパート判定の客観化という線で、しかも計算が容易な一次結合の形を採ってみる。§ 1.3 参照。
- 4° 基本度函数を使って算定した基本度 f によって、個々の見出し語を基本語彙の中に取り入れるか否かを定める。——これを行なうには、前もって基本語彙の大きさが決まっていることを要する。また f の大小だけにたよっていいか否かも問題になる。しかしこの段階で取捨を加えるとすれば、その取捨の規準が恣意的であってはならない。そうなら段階 1°~3° の苦勞を否定する結果にもなりかねない。もし取捨の規準が相当程度客観化できるようなら、それを段階 1° に持ち込んで ϕ の変数を有効に増す行き方をする(これは初めの ϕ の改良である)のが、本章の態度を持する限り、本筋である。なお本章では、残念ながら、この段階 4° について十分な論述をすることができない。なぜできないかは § 1.53 で触れる。

1.2 散らばり度

われわれは以前に一度「散らばり度」を形作る試みをした^{注3)}。今回定義して使う散らばり度は、それを改良したものである。初めに、その定義がよって立つところの考え方を述べ、次いで定義式を掲げ、更に散らばり度推定量の標本誤差について略述する。

1.21 予備的考察

散らばり度を定義するに当たって何よりもまず考えるべき事は、対象とする言語表現全域をどん

注3) 国立国語研究所：婦人雑誌の用語(国研報告4)，1953，§ 4. 2

な部分に分けて、それを散らばり度測定の単位領域と定めるか、の問題である。散らばり度は、ある見出し語が様々の言語表現(語彙区間)に現われるか否かの度合を表わす量として、予定された。従ってその「様々の言語表現」と、識別する単位的な区間とが決めてなければならない。それは、あるいは一編ずつの記事、あるいは雑誌の一冊ずつ、あるいは小説・随筆・論説のような記事分類の別に求められよう。何を単位に採るべきかは、当然それ自体問題になり得る。(この場合、散らばり度を測る目的によっても単位区間の選択が変わって来よう。)しかしこの論議には今は立ち入らない。それは宙で論ずるより、少なくとも一つの具体的な結果を踏まえて考えた方がいいからである。われわれは今回の用語調査の雑誌部門別の五つの層(すなわち評論・芸文、庶民、実用・通俗科学、生活・婦人、娯楽・趣味)を、かかる単位的な区間と定める。この意味で、後に実際に算出する散らばり度は、雑誌種別間の使用率のばらつき工合を示す量という色彩を帯びる。(念のため言えば、こうした単位区間の定め方でも大まかには記事別のばらつきを反映していると思われなくもない。また言うまでもなく、かような事は散らばり度の定義自体に由来するものでもない。)

次に、単位区間(今の場合、層)が定まったとして、調査対象の構造を形式化して述べておく。その形式化は、ある程度まで今回の用語調査に即して行なうから、幾分か抽出法の記述^{注4)}と重複しよう。

対象は R 個の単位区間(われわれの場合は五つの部門別層)から成る。その第 i 層は更に L_i 個の集落に分けられており(集落はランダムに形成)、その第 i - j 集落の延べ語数が Y_{ij} 、着目する見出し語の第 i - j 集落での使用度数が X_{ij} である。従って $Y_i = \sum_{j=1}^{L_i} Y_{ij}$ は第 i 層の延べ語数、 $X_i = \sum_{j=1}^{L_i} X_{ij}$ はそこでのある見出し語の使用度数、 $P_i = X_i/Y_i$ はその使用率である。同様に、 $Y = \sum Y_i$ 、 $X = \sum X_i$ 、 $P = X/Y$ はそれぞれ、対象全体での延べ語数、使用度数、使用率である。更に $W_i = Y_i/Y$ と置けば、当然 $\sum W_i = 1$ であって、また $P = \sum W_i P_i$ と表わせる。

対象全体での使用率 P の母分散 $\sigma^2 = PQ$ ^{注5)} が、それぞれ下記の式で表わされる層間分散 σ_B^2 と層内分散 σ_W^2 との和に等しい事は、周知である。

$$(1) \quad \sigma_B^2 = \sum W_i (P_i - P)^2$$

$$(1') \quad = \sum W_i P_i^2 - P^2 = S \frac{Y_i}{Y} \frac{X_i^2}{Y_i^2} - \frac{X^2}{Y^2} = \frac{1}{Y} \left(S \frac{X_i^2}{Y_i} - \frac{X^2}{Y} \right),$$

$$\sigma_W^2 = \sum W_i P_i (1 - P_i).$$

層間分散 σ_B^2 が R 個の P_i の間のばらつきの物差しになり得る事は、定義式(1)の形から容易に見取れよう。

この σ_B^2 がどんな値の範囲にあるかを考えよう。 $\sigma^2 = \sigma_B^2 + \sigma_W^2$ であり、かつ σ_B^2 も σ_W^2 も非負だから、容易に $0 \leq \sigma_B^2 \leq \sigma^2$ は言える。また $P=0$ でない限り $\sigma_W^2 > 0$ だから、 $P=0$ であるような見出し語を問題にしなければ $0 \leq \sigma_B^2 < \sigma^2$ である。もっと精しく調べよう。

まず i を固定して考え、その目を着けた

$$(*) \quad \text{第 } i_0 \text{ 層において } X_{i_0} = X, \text{ 従って他の層において } X_i = 0; \text{ ただし } X \leq Y$$

注4) 第一分冊(国研報告21), 1962, 付録 § 2.1, § 3.1

注5) この定義は、第一分冊(国研報告21)付録に述べた COCHRAN 流の分散の定義法と少しく異なる。しかしその違いは全く名目的な事であり、後述の議論がしやすい通例のしかたによつたに過ぎない。

の場合を考えれば、式(1')によって

$$(2) \quad \sigma_{B_0}^2 = \frac{X^2}{Y} \left(\frac{1}{Y_{i_0}} - \frac{1}{Y} \right).$$

従って、一定の X の下に条件(*)を満たす限りでは、 Y_{i_0} が最小すなわち延べ語数が最小の層にだけその見出し語が現われている時、 $\sigma_{B_0}^2$ は最大になる。そういう Y_{i_0} を Y_0 と書き、 Y_0 による $\sigma_{B_0}^2$ を σ_0^2 と書けば、後述の事から

$$(3) \quad \sigma_0^2 = \max \sigma_{B^2}$$

が結論できる。まず式(2)、(1')を参照して

$$\sigma_0^2 - \sigma_{B^2} = \frac{X^2}{YY_0} - \frac{1}{Y} S \frac{X_i^2}{Y_i} = \frac{1}{Y} \left(\frac{X^2}{Y_0} - S \frac{X_i^2}{Y_i} \right).$$

この最終辺が非負である事を示せばいい。そこで上式と等価な次の式により、

$$\begin{aligned} Y(\sigma_0^2 - \sigma_{B^2}) &= \frac{X^2}{Y_0} - S \frac{X_i^2}{Y_i} \\ &= \frac{SX_i^2 + SX_{i'} S X_{i'}}{Y_0} - S \frac{X_i^2}{Y_i} = SX_i^2 \left(\frac{1}{Y_0} - \frac{1}{Y} \right) + \frac{SS' X_i X_{i'}}{Y_0}. \end{aligned}$$

ここで $0 < X_0 \leq Y_i$ かつ $X_i \geq 0$ だから、上式最終辺は非負である。よって式(3)が証明できた；また、指定された X に対して $\sigma_{B^2} = \sigma_0^2$ となるのは、条件(*)が成り立つ時に限る事も分かる。

一方 σ_{B^2} が最小となるのは、定義式(1)から直ちに分かる通り

$$(**) \quad \text{任意の } i \text{ に対して } P_i = P$$

となる時であり、かつこの時に限る。以上をまとめて次の事が結論できる：

$$0 \leq \sigma_{B^2} \leq \frac{X^2}{Y} \left(\frac{1}{Y_0} - \frac{1}{Y} \right).$$

1.22 散らばり度の定義

前項の結果から散らばり度として層間分散 σ_{B^2} を採ってもいい訳であるが、使われ方の度合を考えるのに絶対度数 X を採らず使用率 P を採ったように、散らばり度も相対尺度にしておく方が便利であろう。使用率について $0 \leq P \leq 1$ であった。そこで散らばり度 Sc についても、これにそろえて $0 \leq Sc \leq 1$ とする方針を採ろう。かくてわれわれは、散らばり度の定義式として

$$(4) \quad Sc \equiv \frac{\sigma_{B^2}}{\max \sigma_{B^2}}$$

を選ぶ事にする。ところで

$$\max \sigma_{B^2} = \sigma_0^2 = \frac{X^2}{Y} \left(\frac{1}{Y_0} - \frac{1}{Y} \right) = \frac{X^2}{Y^2} \left(\frac{Y}{Y_0} - 1 \right) = \frac{1}{Y^2} \left(\frac{1}{W_0} - 1 \right) X^2 = \frac{K_0 X^2}{Y^2},$$

$$\text{但し } K_0 = \frac{1}{W_0} - 1;$$

$$\sigma_{B^2} = \frac{1}{Y^2} \left(S \frac{Y}{Y_i} X_i^2 - X^2 \right) = \frac{1}{Y^2} \left(S \frac{X_i^2}{W_i} - X^2 \right).$$

ここから

$$(5) \quad Sc = \frac{SX_i^2/W_i - X^2}{K_0 X^2} = \frac{1}{K_0} \left(\frac{SX_i^2/W_i}{X^2} - 1 \right).$$

式(5)はもちろん式(4)と等価である。また $X=0$ という trivial な場合の事は度外視した。

1.23 散らばり度の標本推定^{注6)}

対象全体における式(5)の値を標本から推定するには色々な方法が考えられるが、ここでは計算の便宜上、一致推定量を採る。すなわち $X_i \sim x_i = r_i f_i$, $X \sim x = Sx_i$, $W_i \sim w_i = y_i/y = r_i n_i / S r_i n_i$ として^{注7)}、これで式(5)の X_i , X , W_i (従って K_0)を置き換えた式(6)による:

$$(6) \quad sc = \left(\frac{w_0}{1-w_0} \right) \left(\frac{Sx_i^2/w_i}{x^2} - 1 \right).$$

次に推定量 sc の標本誤差を調べよう。誤差を表わす片寄り・平均二乗誤差の式を厳密に求める事はむずかしい。特にわれわれの場合には、標本延べ語数もまた確率変数なので、事情を複雑にする。しかし集落延べ語数を大差ないようにする手が打ってあるから、実用的な近似としては延べ語数関係の情報を既知定数と見なしてもよからう。事実、後段まで五十四集落の情報を使って評価した W_i の相対誤差は1パーセント程度にとどまったし、相対的な片寄りは 10^{-4} のオーダーであった。

かくて重み関係の情報には誤差がないと見なそう。そうすれば式(6)から

$$sc - Sc = \frac{1}{K_0} \left(\frac{Sx_i^2/W_i}{x^2} - \frac{SX_i^2/W_i}{X^2} \right).$$

これを $\frac{1}{K_0} \left(\frac{\varphi}{\psi} - \frac{\Phi}{\Psi} \right)$ と書けば、

$$\varphi - \Phi = S \frac{x_i^2 - X_i^2}{W_i} = Y S \frac{x_i^2 - X_i^2}{Y_i}, \quad \psi - \Psi = x^2 - X^2.$$

一方、比推定の定理によって

$$(7) \quad \begin{aligned} B(sc) &= E(sc - Sc) = \frac{1}{K_0} E \left(\frac{\varphi}{\psi} - \frac{\Phi}{\Psi} \right) \\ &\doteq \frac{1}{K_0} \left(\frac{\Phi}{\Psi} \right) \left[\frac{B(\varphi)}{\Phi} - \frac{B(\psi)}{\Psi} + \frac{V'(\psi)}{\Psi^2} - \frac{C'(\varphi, \psi)}{\Phi\Psi} \right] \\ &= \frac{1}{K_0} \frac{SX_i P_i}{XP} \left[\frac{S V(x_i)/Y_i}{S X_i P_i} - \frac{V(x)}{X^2} + \frac{V'(x^2)}{X^4} - \frac{SC'(x_i^2, x^2)/Y_i}{(S X_i P_i) X^2} \right], \end{aligned}$$

ここに V' , C' は平均二乗誤差および二変量でのそれに当たるものをさす、また

$$(8) \quad \begin{aligned} V'(sc) &= E(sc - Sc)^2 = \frac{1}{K_0^2} E \left(\frac{\varphi}{\psi} - \frac{\Phi}{\Psi} \right)^2 \\ &\doteq \frac{1}{K_0^2} \left(\frac{\Phi}{\Psi} \right)^2 \left[\frac{V'(\varphi)}{\Phi^2} + \frac{V'(\psi)}{\Psi^2} - 2 \frac{C'(\varphi, \psi)}{\Phi\Psi} \right] \\ &= \frac{1}{K_0^2} \left(\frac{S X_i P_i}{XP} \right)^2 \left[\frac{S V'(x_i^2)/Y_i + \{S V(x_i)/Y_i\}^2 - S(V(x_i)/Y_i)^2}{(S X_i P_i)^2} \right. \\ &\quad \left. + \frac{V'(x^2)}{X^4} - 2 \frac{S C'(x_i^2, x^2)/Y_i}{(S X_i P_i) X^2} \right]. \end{aligned}$$

ここで新たに次の記号を導入しよう:

$$\mu_k(x) \doteq E(x - X)^k, \quad \mu_k(x_i) \doteq E(x_i - X_i)^k, \quad \mu_k(x_i) \doteq E(x_{ij} - \bar{X})^k;$$

特に $\mu_2(\cdot)$ と $\mu_2(i)$ とを、それぞれ $V(\cdot)$, σ_i^2 と書く。これらを使えば、 $X \doteq 0$ の見出し語に対して一般に、

注6) この項を飛ばして読んでも、以後の論旨を取る点ではさしつかえない。

注7) 小文字の記号の意味は、第一分冊の表7(298ページ)、表8(301ページ)参照。

$$V'(x^2) = 4 X^2 V(x) \left[1 + \frac{\mu_3(x)}{X V(x)} + \frac{\mu_4(x)}{4 X^2 V(x)} \right],$$

$$V'(x_i^2) = 4 X_i^2 V(x_i) \left[1 + \frac{\mu_3(x_i)}{X_i V(x_i)} + \frac{\mu_4(x_i)}{4 X_i^2 V(x_i)} \right],$$

$$C'(x_i^2, x^2) = 4 X X_i V(x_i) \left[1 + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{X_i} + \frac{1}{X} \right) \frac{\mu_3(x_i)}{V(x_i)} + \frac{1}{4 X_i X} \left\{ \frac{\mu_4(x_i)}{V(x_i)} + V(x) - V(x_i) \right\} \right]$$

だから、上式の〔 〕の部分それぞれ〔CF. 0〕, 〔CF. 1*i*〕, 〔CF. 2*i*〕と書けば、

$$V'(x^2) = 4 X^2 V(x) [\text{CF. 0}], \quad V'(x_i^2) = 4 X_i^2 V(x_i) [\text{CF. 1}i],$$

$$C'(x_i^2, x^2) = 4 X X_i V(x_i) [\text{CF. 2}i]$$

と表わせる；但し〔 〕内の分母に 0 が来る場合には全体が 0 となる。この結果を使って式(7), (8)をもう一度書き替えると、

$$(9) \quad B(sc) \doteq \frac{S X_i P_i}{K_0 \bar{X} P} \left[\frac{S V(x_i)/Y_i}{S \bar{X}_i P_i} + \left(4 [\text{CF. 0}] - 1 \right) \frac{S V(x_i)}{(S \bar{X}_i)^2} + 4 \frac{S P_i V(x_i) [\text{CF. 2}i]}{(S \bar{X}_i P_i)(S X_i)} \right]$$

$$(10) \quad V'(sc) \doteq \left(\frac{S X_i P_i}{K_0 \bar{X} P} \right)^2 \left[\frac{\{S V(x_i)/Y_i\}^2 - S \{V(x_i)/Y_i\}^2 + 4 S P_i^2 V(x_i) [\text{CF. 1}i]}{(S \bar{X}_i P_i)^2} + 4 [\text{CF. 0}] \frac{S V(x_i)}{(S X_i)^2} - 8 \frac{S P_i V(x_i) [\text{CF. 2}i]}{(S \bar{X}_i P_i)(S X_i)} \right].$$

これで標本誤差を評価する式が導けた。上式中の $V(x_i)$ は、この調査では抽出比が小さくて有限修正項が無視できるから、簡単に $V(x_i) = r_i^2 l_i \sigma_i^2$ と表わせる。同様に、〔CF〕中の三次・四次の積率も、

$$\begin{aligned} \mu_3(x_i) &= r_i^3 l_i \mu_{3(i)}, & \mu_4(x_i) &= r_i^4 l_i \{ \mu_{4(i)} + 3(l_i - 1)\sigma_i^4 \}, \\ \mu_3(x) &= S \mu_3(x_i), & \mu_4(x) &= S \mu_4(x_i) + 3 \{ S V(x_i) \}^2 - 3 V^2(x_i), \\ \text{一般には} &= S r_i^3 l_i \mu_{3(i)}, & &= S r_i^4 l_i \{ \mu_{4(i)} - 3\sigma_i^4 \} + 3 (S r_i^2 l_i \sigma_i^2)^2, \\ \text{比例配分なら} &= r^3 S l_i \mu_{3(i)}, & &= r^4 \{ S l_i (\mu_{4(i)} - 3\sigma_i^4) + 3 (S l_i \sigma_i^2)^2 \}. \end{aligned}$$

式(9), (10)の値を標本値から推定するには、式中の母積率の推定量として k -統計量^{注8)}を使えばよい。詳細は割愛する。(特に、前段打ち切りの語については四次積率の不偏推定のためのデータが不足するが、この場合には既知のデータとの相関で推定した事を言い添えておく。)

1.3 基本度函数の作成法

それぞれの見出し語について使用率 P と散らばり度 Sc とは、共に測定できる量である。(もちろん実際上はそれぞれ P , Sc の推定値 p , sc が推定される。かつその推定値を生ずる推定量の誤差の程度も、評価できる。) そこで使用率と散らばり度とを変数として、ある種の函数 ϕ を定め、

注8) FISHER, R. A.: *Statistical Methods for Research Workers*, Oliver and Boyd, 初版 1925, 改訂十二版 1954, pp. 70-73.

$f = \phi(P, Sc)$ によって算定される f を、その見出し語の「基本度」と操作的に定義しようというのである。従って今定義した基本度を、これだけの事からうんぬんしても始まらない。少なくとも函数 ϕ の具体的な型まで定めた段階で、この定義法の可否は論ぜらるべきものである。この §1.3 では ϕ の型を定める手続きについて述べる。

1.31 方針

上記の見地から各見出し語には、まず直交座標で表示された平面上の一点 (P, Sc) が対応する。次に、適当な ϕ が与えられたと仮定して、 ϕ を使って算定される f まで勘案すれば、各見出し語には三次元空間の一点 (P, Sc, f) が対応する。かような点 (P, Sc, f) の集合を考えた時、この点の集合が何らかの規則立った曲面(平面や曲線をも含めていい)に載る、またはその近くにあるようなら、われわれの課題に対してきわめて都合がいい。実際の言語事象にこうした集団的規則性がある事を期待し、上記の模型によって適当な曲面を決定するというのが、ここでの方針である。この曲面としてどんなものを選ぶかは、研究者に依存せざるを得ないが、ひとたびある型の曲面を想定した上では、これを具体的な形の方程式に書きあげるには最小二乗法が使える。そしてその方程式こそが基本度函数 ϕ の具体的な形である。

ところでこの議論には、適当な ϕ の型が与えられる事を予定していた。この ϕ の型はわれわれみずから与えなければならない。これを与えるためには、ただ観測点 (P, Sc) の組をながめるだけでは足りない。何らかの方法で f の値に対する近似をする必要がある。一方また基本度に予定される f について、われわれはほとんど何も知らない。これでは堂々めぐりに陥りそうである。それを抜け出するため、次項に述べる方法を採用することにする。

1.32 基本度に関する「力」の定義

およそ「基本語彙」はそれを使う(であろう)人々にとっての基本語彙である。使用者(言語主体)の存在を捨象しては「基本的か否か」を論ずるいわれがない。客観的決定というのは、使用者を捨て去って決められるというのではなく、使用者の判断の集合に認められよう秩序^{注9)}を再現するに当たって、その方法を客観的にしようということである。端的に言えば、その一つの方法は、エキスパート判定の結果を総体として再現することに帰する。

たといこの方法でいいとしても、そのエキスパート判定の結果が適当に数量化されなければ、かいたない。ここにわれわれは、エキスパート判定の結果として、見出し語のある集合(具体的には後述の実験で刺激語とした見出し語の集合)の間で各語に与えられる「力」^{注10)}というものを定義する。一般的に言って、互いに異なる n 個の元 A_1, A_2, \dots, A_n の間での順位づけを問題にする。 n 個の元を一遍に順位づけるのは n が大きい時たやすくなく、理論的にも次の手順の総合として全体での順位が決まるのである：

注9) かかる集団的安定性の存在は、仮定する。使用者の判断が集団的にも安定していないという対立仮説の下では、基本語彙を考えること自体、恐らく意味のないわざとなるであろう。ただし集団的安定性の存在が、許容できる前提であるか否かは、それ自体、別個に追究してしかるべき問題である。

注10) KEMENEY, J. G. et al. : *Introduction to Finite Mathematics*, Prentice-Hall, 1957; 矢野健太郎訳: 新しい数学, 共立出版, 1958, 第七章第一節

相異なる二元 A_i, A_j を取ってこの対につき優劣を判定する；かかる判定を (A_i, A_j) の対のすべてについて行なう；その結果を総合する^{注11)}。

これは言わば一本勝負により引分けを許さないリーグ戦を行なう事である。この場合、(i)どのチームも自分自身と試合をする事はない；(ii) A_i が他のチーム A_j と試合をして必ず勝負をつける^{注12)}。以上の二性質を形成化して「優越関係」を定義する：

定義1 次の性質を満たす二項関係 \succ を優越関係という：

- (i) 任意の i に対して $A_i \succ A_i$ は成り立たない；
- (ii) $j \neq i$ である任意の対 (A_i, A_j) に対して $A_i \succ A_j$ か $A_j \succ A_i$ かのどちらか一方だけが成り立つ。

集合 $\{A_1, A_2, \dots, A_n\}$ での優越関係の総体は行列で表示できる。すなわち

定義2 元素として0か1かだけを持ち次の条件を満たす正方行列 D を、(一段階)優越行列という：

- (i) D の第 i 行第 i 列元素 d_{ii} につき $d_{ii}=0$ ；
- (ii) $A_i \succ A_j$ の時かつその時だけ、 D の第 i 行第 j 列元素、第 j 行第 i 列元素につきそれぞれ $d_{ij}=1, d_{ji}=0$ 。

なお D^2 を二段階優越行列と呼ぶ。さて以上を準備として「力」を次のように定義する：

定義3 A_i の力は行列 $S=D+D^2$ の第 i 行の元素の和である。

こうして定義された力は、単に順序を示すだけの量ではなく、少なくとも力 g_i と g_j との差については計量的意味を持つもの、すなわち間隔尺度になっていると考えられよう^{注13)}。

力の形式的定義は上述の通りであるが、これを当面の課題に組み入れるには次の仕方を取る。使用率と散らばり度とが近いという意味で量的性質の似ている見出し語を集め、そこから m 語(後述の実験では $m=5$) をランダムに抜いて組を作る。これが先の A_i に当たる。こういう組を n 組作る。その上でこの n 組から二つ取った組の対のすべてにわたり(それは $n(n-1)/2$ 対できる)、どちらの組の方が一層基本的な語の組と認められるかを判定させる。そうすれば、一名の判定者につき n 組のそれぞれに対して「基本的な度合の力」が一通りに定まる。これをもって基本度 f の近似値とする。判定者が一名だけでは判定者の個性または個癖が反映しようから、何人かの判定者を使うことが考えられる。この場合には、組 i に属する見出し語の平均的な基本度の近似値として、各判定者の判定から得られたそれぞれの f_i の平均値を採ればよい^{注14)}。以上で語の基本度にかかわる力を、一往定義し終えた。

注11) 水谷静夫：数量化の立場序説、『計量国語学』1, 1957

注12) (ii)は、総合した順位で同順位を生ずる事を拒むものではない。また念のために言えば、 A_i が A_j に勝ち A_j が A_k に勝てば A_i も A_k に勝つという推移律を、ここでは何ら仮定していない。

注13) この文言の更に詳しい解説は、前掲[注2]の水谷：語の基本度の法定法試案にある。

注14) ここでも無論、判定者の選び方の問題がある。これについての詳しい議論は省く。また先に言語主体の判断の集団的安定性を仮定したが、この仮定が許せるか否かは判定者の間での f_i のばらつきの程度を目安にして検証できる。基本語彙選定の実用段階では、この事は大切である。今は選定法自体の研究に重点があるので、これ以上詳しくは述べない。

1.33 函数 ϕ の定め方

§1.32 で力 g を基本度 f の近似値にする事を述べた。従ってわれわれは、今や、客観的に測定し得た三種の量 (p, sc, g) を持っている。そしてこれらが $g = \phi(p, sc)$ でつながれる事を予定していた。こうして測定値 (p, sc, g) の集合が得られた上では、たとえばそれを三次元のグラフに描く事によって、 ϕ の大体の型が見て取れよう。まず候補にあがるのが平面である。次数を高めて二次曲面を考えれば、放物楕円面や双曲楕円面が候補になる。いずれにせよ、観測点の集合に対し適当な曲面を当てはめる事、すなわち最小二乗法調整を加える事によって、基本度函数 ϕ の具体的な形が定まるわけである。

1.4 基本度函数の試作

今回の調査で標本使用度数が 50 以上の見出し語 千二百二十に対し、前述の方法を適用しよう。まず実験手続きを略述し、次いで必要な細部に及ぶ。

1.41 実験手続きの概要

- I) 刺激語の選定 (1) 見出し語の類別 使用率・散らばり度という二量それぞれの大小の観点から五水準ずつ、都合二十五のカテゴリを立てる事とし^{注15)}、かつ各五水準にはいる語数なるべく等しくなるように、カテゴリを定めた (§ 1.42 の表 1.1 参照)。この結果、千二百余語は量的に近い語をまとめた 25 個の類に配せられた。
- (2) 刺激語の抽出 各類からそれぞれ五見出し語、25 組都合 125 個を、無作為に(その類の範囲で等確率で)抽出して刺激語とした (§ 1.42 参照)。
- II) 「力」の測定 (1) 調査票の作成 25 組の刺激語から相異なる二組を取って作り得るあらゆる対を求め(対の数は三百である)、これを特別な傾向を示さないように順序を乱して排列し(ただし同じ組の内で刺激語を並べる順序は固定した)、調査票とした。
- (2) 調査票の実施 国語研究所内で男五名・女四名を被験者とし、各対について「五語を組として考えた時、どちらの組の方が一層基本的と感ずるか；この判定はあくまで組に対して行なりものである；また基本的か否かの判定規準は判定者の裁量に委ねる；なお各組は、計量的観点から似寄りの語を集めて作ってある」ことを指示し、判定結果を書き込ませた。更に「同程度という判定はせず、無理にでも優劣をつけること；いったん下した判定を後になって消して直してもいいが、原則としてそうはしないこと——じゃんけんのような三すくみが生じてさしつかえなく、判定の一貫性を保とうという意図での修正は、三百対もあるから實際上できるものではない」という指示も、合わせて与えた。被験者が書き込みに要した時間は二時間ないし四時間半であった。

一語ずつの比較判定でなくて五語一組の組の間での判定を求めた理由は、観測点数が 25 個と割合に少ない(実施上多くはできない)から、特定の見出し語の個性的なものによって結果が

注15) カテゴリ数は II 2 の実験遂行の難易繁簡の度合と得られる情報の豊かさを商量して決めた。4×4=16 の水準では情報が余りにも乏しく、また 6×6=36 では遂行が労力的に困難になり(630 対の比較を要する!)、反応の精度もかえって落ちると思われる。

大きく左右されるのを防ぐ事にある注16)。

(3) 反応の整理 各被験者の反応をそれぞれに、§ 1.32 に述べた優越行列 D の形にまとめ、これに基づいて被験者ごとの 25 カテゴリに対する「力」を算出した。

Ⅲ) データの最小二乗法調整 § 1.44 参照

1.42 刺激語

前記 I 1 の方針で立てたカテゴリを、下記の区分によってローマ字二字で表わす：

	散らばり度(%)		使用率(‰)
A	< 1.20	a	.469 ≤
B	1.20 ≤ < 2.35	b	.260 ≤ < .469
C	2.35 ≤ < 3.83	c	.183 ≤ < .260
D	3.83 ≤ < 8.43	d	.137 ≤ < .183
E	8.43 ≤	e	.114 ≤ < .137

表 1.1 各カテゴリに属する語数

	a	b	c	d	e	計
A	87	54	44	35	25	245
B	55	48	51	42	47	243
C	39	49	52	54	50	244
D	43	37	40	59	65	244
E	21	56	60	56	51	244
計	245	244	247	246	238	1220

表 1.1 を見れば分かる通り、散らばり度の小さい語は概して使用率が大きく、この逆も成り立つ。この

相関は統計的に有意である。しかしその一方で他方を代用してよいほどまで高い相関ではない。従って基本度函数の作成に当たってこの二変量を使う事は、むだとは言えない。

この事を確かめた上で、Aa, Ab, ..., Ee, の 25 カテゴリから各五語を無作為に抜いて刺激語とした。表 1.2 参照

表 1.2 基本度函数の作成に使った刺激語

Aa	Ab	Ac	Ad	Ae
デキル	シカモ [接]	カイ 界	チョウド [副]	重イ
ブ 部	オコリル 起・興	残りル	社長	過去
シカシ [接]	深イ	タチッ 経	カワリ 代・変・替	ニクイ 憎・難
ウチ 内・中・裡	最後	以外	限リル	トリアゲル
多イ	二ツ	ム 無	多ク [体]	マモリル
Ba	Bb	Bc	Bd	Be
シャ 者	ジュウブン	ノボリル	リッパ	ソコ 底
若イ	死ニヌ	一方	病院	カッテ 嘗
非常	夫人	ケッシテ [副]	校	家族
ドコ 何処	大変	学生	有名	移リル
キキク 聞・訊	ワガ	全部	ヨロシイ	サイ 際

注16) この理由づけは、語の基本度が個々の見出し語について決まるべきであるという事からすれば、一見奇異であろう。しかしわれわれは刺激語に採られた見出し語の範囲でだけ基本度を決めようとしているのではない。特定の刺激語は、直接その語自体を問題にする目的で選んだのではなく、その背後に計量的性質の似た多数の語があるという事を踏まえて扱うべきものである。この見地からは、余りに強く語の個性が判定に影響するのは好ましくない。従って五語を提示して、組についての判定を求めたのである。他方一組内の語数が多くなると、組の間での判定がしにくくなる。この事と、もう一つ測定値に関する統計的理由とから、組の語数を5とした。

Ca	Cb	Cc	Cd	Ce
オ 御	ノミ、ム 飲・呑	クミ 組	人物	ヤヤ
二十	ハハ 母	不思議	一体 [副]	並ビ、フ
帰リ、ル	相当	主人	ヤメル 止	熱イ
現在	ウマイ 巧・美味	驚キ、ク	ナミダ	入り [名]
カン 間	シン 新	事務	ハラ 腹・肚	約束
Da	Db	Dc	Dd	De
対シ、スル	小サイ、な	イヤ 否	モドリ、ル	ガリ、ル [接尾]
五	方法	ノセル 乗・截	ヒ 火	連中
マエ 前	クン 君	同様	雑誌	コッチ [指]
円 [金額]	女性	家庭	フエル 増・殖	近代
映画	ミトメル	イタリ、ル	個人	表情
Ea	Eb	Ec	Ed	Ee
マン 万	オモテ 表・面	位置	セン 船	競争
ワリ 割	ゴト 毎	現実	投資	折り、ル
メ 目・眼	リョク 力	トン ton	トメル 止・停・泊・留	制度
九十	アワセル	タチ、ッ 断・裁	政策	切り替エ
マイ 枚	前後	テンシチ .7	ウリアゲ 売上	カワ 皮・革

これらのカテゴリに関する特性値を表 1.3.1~1.3.2 に掲げる。表の値には紛らわしいものがあるから、あらかじめ記号で定義しておく。添え字 s, r でそれぞれ使用率・散らばり度の水準 (s は a, b, ..., e のどれか一つ, r についても同様) をさし、添え字 $t (= 1, 2, \dots, 5)$ で交わりカテゴリ rs に属する t 番目の刺激語をさすことにする。さて表 1.3.1 の左欄・右欄はそれぞれ

$$(\text{カテゴリ } rs \text{ における}) \text{ 使用率平均} \quad p_{rs} = \overline{p_{rst}} = \frac{1}{5} \sum_{t=1}^5 p_{rst};$$

$$(\text{カテゴリ } rs \text{ における}) \text{ 散らばり度平均} \quad sc_{rs} = \overline{sc_{rst}} = \frac{1}{5} \sum_{t=1}^5 sc_{rst}$$

である。これらと区別して、使用率・散らばり度の水準ごとに

$$(\text{カテゴリ } s \text{ における}) \text{ 平均使用率} \quad p_s = \overline{p_{rs}} = \frac{1}{5} \sum_r p_{rs};$$

$$(\text{カテゴリ } r \text{ における}) \text{ 平均散らばり度} \quad sc_r = \overline{sc_{rs}} = \frac{1}{5} \sum_s sc_{rs}$$

を定義する。(以上は表 1.3.1 に示す。) 同様の見方で、もし r の違いをプールのした s について考えれば、カテゴリ s には 25 個の刺激語が属するわけである。これに一連番号を与え、それを添え字 q で表わそう。 r についても同様。この時

$$(\text{カテゴリ } s \text{ における}) \text{ 使用率の分散} \quad u_s^2 = \frac{1}{24} \sum_{q=1}^{25} (p_{sq} - p_s)^2;$$

$$(\text{カテゴリ } r \text{ における}) \text{ 散らばり度の分散} \quad u_r^2 = \frac{1}{24} \sum_{q=1}^{25} (sc_{rq} - sc_r)^2$$

とする。更に刺激語について測定した使用率 p_{sq} 、散らばり度 sc_{rq} は推定量であるから、抽出誤差

を伴う。そこでそれぞれの絶対誤差(の評価値, ただし第一分冊の付録および本章の § 1.23 に示した平均二乗誤差の形による)を t^2_{sq} , t^2_{rq} と書いた上で,

$$\text{(カテゴリ } s \text{ における) 使用率(推定量)の平均精度} \quad \bar{t}^2_s = \frac{1}{25} \sum_{q=1}^{25} t^2_{sq};$$

$$\text{(カテゴリ } r \text{ における) 散らばり度(推定量)の平均精度} \quad \bar{t}^2_r = \frac{1}{10} \sum_{q=1}^{10} t^2_{rq} \quad \text{注17)}$$

とする。

表 1.3.1 刺激語特性値 (平均)

	使用率平均(%)					散らばり度平均(%)					sc_r (%)
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	
A	1.166	.313	.215	.158	.125	.734	.648	1.02	.963	.848	.844
B	.865	.316	.214	.159	.120	1.82	1.97	1.53	1.63	1.90	1.77
C	2.019	.332	.206	.156	.123	2.71	2.85	2.98	3.24	2.87	2.93
D	2.199	.349	.213	.159	.126	5.53	4.93	5.08	5.19	6.15	5.37
E	1.334	.334	.202	.162	.120	15.9	18.5	26.0	24.2	24.1	21.7
p_s	.983	.329	.210	.159	.123						

表 1.3.2 刺激語特性値 (分散・平均精度)

区分	使用率の		区分	散らばり度の	
	分散	平均精度		分散	平均精度
a	1.650×10^{-6}	9.75×10^{-9}	A	1.10×10^{-5}	1.086×10^{-4}
b	3.89×10^{-9}	1.04×10^{-9}	B	4.4×10^{-6}	1.700×10^{-4}
c	4.79×10^{-10}	7.17×10^{-10}	C	8.0×10^{-6}	3.786×10^{-4}
d	1.17×10^{-10}	5.42×10^{-10}	D	1.2×10^{-4}	6.466×10^{-4}
e	3.2×10^{-11}	3.49×10^{-10}	E	1.4×10^{-2}	2.425×10^{-2}

表 1.3.1 に見る使用率 p_{sr} は, 同じ s については r の間で差があるとは言いきれず, また sc_{sr} も, 同じ r については s の間で差があるとは言いきれない事が, 分散分析の結果確かめられた。この意味で, 前記のような両水準の間に相互作用がないと仮定してよ

ろ。そこで u^2_s , u^2_r , \bar{t}^2_s , \bar{t}^2_r については, 表 1.3.2 に見るとおり, 他の一方のカテゴリをプールした値を算出した。これらの値は § 1.44 で使う。

1.43 観測された「力」

被験者九名(男五名, 女四名)による判定の結果から算出した, 各カテゴリの「力」は, 表 1.4 のとおりとなった。念のため, 男・女のそれぞれの範囲で, 順位づけの一致係数 W を求めたところ, 0.630 と 0.731 とであった。これはさして大きな値ではないが, 各人の判定がでたらめの順位づけによるという帰無仮説は否定できる。男と女とで一致係数にやや大きい差が認められるようではあるが, 更に男平均と女平均との間の一致係数を求めて 0.917 を得た事からすれば, 集団としての男女差は無視してもよい程度と思われる。

注 17) 散らばり度推定量の平均二乗誤差の計算には大変手間がかかる。今回は各交わりカテゴリから更に二語を抽出し, 都合 50 個の刺激語についてだけ t^2_{rq} を算出した。従って散らばり度の各水準には 10 個あての数値しか使えなかった。

表 1.4 「力」の測定値一覧

カテゴリは被験者全体での平均の大小順に並べた。C.V.は被験者全体の $\sqrt{\text{分散}}/\text{平均}$ の百分比。被験者のア～オは男、カ～ケは女。

カ テ ゴ リ	被験者全体			男	女	被 験 者 個 別								
	平均	分散	C. V.	平均	平均	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
Aa	279.9	948.6	11.1	263.8	300.0	300	210	278	254	277	300	300	300	300
Da	224.8	4657.5	30.4	222.6	227.5	82	300	279	277	175	181	253	240	236
Ba	211.2	2903.7	25.5	197.0	229.0	211	163	204	192	215	110	276	254	276
Ab	196.8	5047.2	36.1	216.0	172.7	276	276	88	159	281	138	160	233	160
Ca	192.4	5333.1	37.4	177.4	211.3	253	253	212	156	13	210	211	213	211
Ea	169.1	6060.1	46.0	174.8	162.0	172	231	255	212	4	108	157	151	232
Eb	159.8	2214.0	29.4	166.2	156.8	193	147	193	119	159	217	111	212	87
Cb	158.3	3924.3	39.6	151.8	166.5	173	178	42	258	108	161	220	127	158
Ac	113.0	3818.0	54.7	89.4	142.5	120	62	104	16	145	233	69	125	143
Bb	110.3	4983.3	64.0	104.2	118.0	212	98	141	49	21	15	139	127	191
Db	108.4	2417.0	45.4	108.2	108.8	44	118	194	105	80	66	174	80	115
Ae	108.0	7206.8	78.6	102.6	114.8	83	88	75	47	220	276	29	115	39
Dd	91.1	6269.1	86.9	121.4	53.3	6	92	81	254	174	57	97	47	12
Bc	87.6	5225.0	82.5	107.2	63.3	136	31	46	70	253	15	70	59	109
Ad	73.4	1453.3	52.9	71.0	76.5	47	48	52	79	129	55	48	147	56
Ce	69.0	3266.0	82.8	66.0	72.8	30	98	98	80	29	194	17	67	13
Cd	68.9	3461.9	85.4	108.6	19.3	93	70	148	172	60	30	12	10	25
Dc	59.0	1603.0	67.9	72.4	59.0	71	106	67	3	115	32	2	70	65
Bd	53.6	1722.0	77.4	48.0	60.5	61	77	47	16	39	0	140	27	75
Cc	48.9	736.1	55.5	36.8	64.0	15	22	70	16	61	85	58	36	77
Be	40.8	485.5	54.0	48.0	31.8	38	30	50	48	74	70	19	30	8
De	33.8	1537.4	113.0	37.0	29.8	1	51	98	6	29	96	10	0	3
Ee	24.8	628.6	101.1	22.6	27.8	3	8	25	38	39	21	80	10	0
Ed	22.8	629.7	110.0	15.6	31.8	0	69	0	1	8	52	11	30	34
Ec	18.2	569.2	131.1	6.4	33.0	10	21	1	0	0	26	8	22	76

被験者による判定の個別的なものの追求は、今は省く。これをめぐる問題のほかにも、もちろん被験者の選び方に関する問題があるが、これらは、基本度函数試作の現段階では、一往保留しておく。ただし表 1.4 の「C. V.」の欄に見るとおり、「力」の変動係数は概して大きい。この事は各人の主観的判定が大いにまちまちな事を予想させる。これは初めから予期した事であり、それゆえにこそ、ここで論ずるような基本度函数への試みが必要なのである。

1.44 データの最小二乗法調整

以上に述べたデータを使い § 1.3 の方針で、基本度函数 ϕ の具体的な形を定める段になった。図 1.1 にデータの状況を示す。この図では各カテゴリの $(\log p, \log se, g)$ が三次元に表わしてある。図からおよその見当がつくとおり、このデータに二次曲面を当てはめても、余り良い結果は得られそうにない。そこで最小二乗法によって調整した平面を求めることにしよう。その式を一往

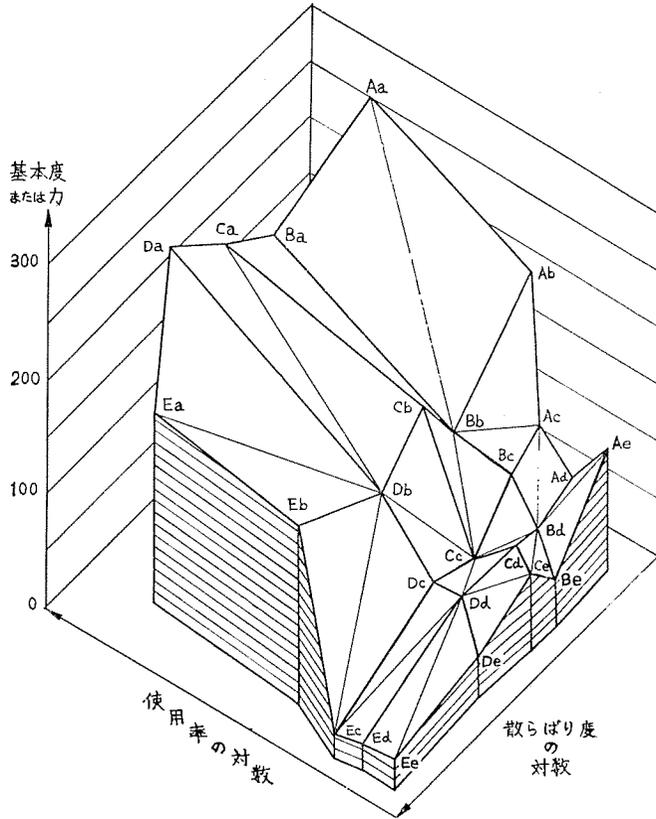


図 1.1 観測データ

$g = \alpha + \beta \log p + \gamma \log sc$ に選ぶ^{注18)}。

計算の便宜などを考えて次の変数変換を施す：

$$x \underset{D}{=} \log_{10} p + 5, \quad y \underset{D}{=} \log_{10} sc + 3, \quad z \underset{D}{=} 0.01 g.$$

これによって、当てはめるべき式を書き替えば、

$$(1) \quad z = a + bx + cy$$

となる。ところで観測値の重みは一樣でないから、そのそれぞれの重みを W として、 $\sum W(z - a - bx - cy)^2$ が最小になるようにパラメタ a, b, c の値を定めなければならない（ここに \sum は観測点 25 個にわたる）。そのパラメタは、周知のとおり、 $[]$ を GAUSS の和の記号として、次の正規方程式の根として求められる：

$$(2) \quad \begin{cases} [W]a + [xW]b + [yW]c = -[f_0W] \\ [xW]a + [xxW]b + [xyW]c = -[xf_0W] \\ [yW]a + [xyW]b + [yyW]c = -[yf_0W] \end{cases}$$

ここに f_0 は、パラメタの出発近似値を a_0, b_0, c_0 に取り式(1)の右辺から算出した値を、測定値 g

注18) 二種の変数には、図でもそうしたように、対数変換を施す。これは、注2にあげた論文に述べた予備試験の結果、何の変換もしないものより対数変換をしたものの方が、当てはまりがよかったからである。

から引いたものである。

次に重み W の決め方について一言する。変数 x, y, z の重みをそれぞれ w_x, w_y, w_z とすれば、われわれの場合、

$$(13) \quad \frac{1}{W} = \frac{b^2}{w_x} + \frac{c^2}{w_y} + \frac{1}{w_z} = (\log_{10} e)^2 \left(\frac{b^2}{p^2 w_p} + \frac{c^2}{(sc)^2 w_{sc}} \right) + \frac{10^{-4}}{w_g}$$

$$= \left(\frac{\log_{10} e}{\sigma} \right)^2 \left(b^2 \frac{\sigma_p^2}{p^2} + c^2 \frac{\sigma_{sc}^2}{(sc)^2} \right) + \frac{10^{-4}}{\sigma^2} \sigma_g^2$$

と表わせる；ここに σ^2 は比例定数と考えておいてよい。さて $\sigma_p^2, \sigma_{sc}^2, \sigma_g^2$ はそれぞれカテゴリ rs についての使用率平均・散らばり度平均・「力」平均の推定量の分散である。従って、前二者については § 1.42 の表 1.3.2 の値を使って

$$\sigma_p^2 \sim \frac{u_s^2}{25} + \frac{1}{\tau_s^2}, \quad \sigma_{sc}^2 \sim \frac{u_r^2}{25} + \frac{1}{\tau_r^2}$$

で評価できる。また残る一つは § 1.43 の表 1.4 の「被験者全体、分散」の値を u_{rs}^2 で表わすとして、

$$\sigma_g^2 \sim \frac{u_{rs}^2}{9}$$

で評価できる。結局、カテゴリ rs に荷する重みの相対的な値は次式から(近似的に)算定できる：

$$(14) \quad \frac{1}{W_{rs}} \sim (0.43429)^2 \left\{ b_0^2 \frac{u_s^2/25 + 1/\tau_s^2}{p_{rs}^2} + c_0^2 \frac{u_r^2/25 + 1/\tau_r^2}{(sc_{rs})^2} \right\} + \frac{u_{rs}^2}{90000},$$

ここに b_0, c_0 は、もちろん出発近似値である。なおパラメタに関する三個の出発近似値には、25個の観測点の重みを等しく1と仮定して直接に求めた最小二乗解を採用した。

図 1.1 に見る通り、観測データの点 (x, y, z) は平面、一般にはなだらかな曲面の近くに集まってはいない^{注19)}。そのため一回だけの調整では余りいい結果を得なかった。そこでその調整値を更に第二近似値として調整を繰り返す、次の結果に到達した；式(15)および表 1.5 参照：

$$(15) \quad z = -0.6356 + 1.5825x - 0.4181y$$

これが今回の実験データによって得られた基本度函数の具体的な形である。なお表 1.5 で見ると、パラメタ a の推定精度が特に悪いが、見出し語 u と見出し語 v との基本度を比較する時にはこの a はきいて来ないので、さほど問題にはなるまい。こうした問題は更に § 1.53 で取り上げる。

表 1.5 基本度函数のパラメタ

パラメタ	(1) 調整値	(2) 標準誤差	(2)/(1)
a	-0.6356	.3343	52.6%
b	1.5825	.1749	11.1%
c	-0.4181	.1252	30.0%

1.5 試作函数による結果とこの試みの反省

1.51 概括的な結果

前述のごとく、今回の実験から得られた基本度函数は、 $x = \log p + 5, y = \log sc + 3$ と変数変換した (x, y) に対し

注19) 各組の「力」の判定結果の、人による食い違いが、割合に大きい事の反映であると解せられる。

$$z = -.6356 + 1.5825x - .4181y$$

であった。改めてこの z を「基本度」 f と呼ぶことにし、それに応じて力 g も前述のものを 100 で割った値で考える。

さて観測した 25 組について基本度 f と力 g とを比べると、表 1.6 のようになる。両者の間の順位

表 1.6 カテゴリに対する結果一覧

順位	力 g 観測値	カテ ゴリ	順位	基 本 度 f 計算値	標準誤差 σ_f	差 $g - f$
5	1.9244	Ca	1	2.4135	.1720	-.4891
2	2.2478	Da	2	2.3428	.1797	-.0950
1	2.7939	Aa	3	2.2710	.1581	.5279
3	2.1122	Ba	4	1.9032	.1206	.2090
6	1.6911	Ea	5	1.8076	.1625	-.1165
4	1.9678	Ab	6	1.3912	.1209	.5766
10	1.1033	Bb	7	1.1971	.0769	-.0938
8	1.5833	Cb	8	1.1626	.0684	.4207
11	1.0844	Db	9	1.0984	.0653	-.0140
9	1.1300	Ac	10	1.0527	.1020	.0773
14	.8767	Bc	11	.9735	.0855	-.0968
15	.7344	Ad	12	.8478	.1109	-.1134
7	1.5978	Eb	13	.8286	.0972	.7692
20	.4889	Cc	14	.8280	.0653	-.3391
19	.5356	Bd	15	.7569	.0900	-.2213
18	.5900	Dc	16	.7546	.0589	-.1646
12	.9284	Ae	17	.7125	.1238	.2159
17	.6899	Cd	18	.6216	.0711	.0683
13	.9111	Dd	19	.5469	.0658	.3642
21	.4078	Be	20	.5380	.0957	-.1302
16	.6900	Ce	21	.4805	.0838	.2095
25	.1822	Ee	22	.4220	.1050	-.2398
22	.3378	De	23	.3585	.0757	-.0207
24	.2278	Ed	24	.2827	.1037	-.0549
23	.2489	Ee	25	.0770	.1101	.1719

相関係数は 0.903 で、高いと言える；すなわち 25 のカテゴリについては、基本度の大小順は、判定者九名が与えた力の平均値の大小順と相当によく歩調をそろえている。但しデータ自体が先の図 1.1 に見る通り不規則な散り方をしているので、各カテゴリでの差 $g - f$ は必ずしもすべて小さくはなっていない。表の「差」の欄と「 σ_f 」の欄とを見比べれば、この事がはっきりする。（ $f \pm 2.0739 \sigma_f$ で計算点の 95% 信頼帯を得るが、この帯の外に出ている点が多い。）従ってわれわれのデータは、もともと平面で近似できるような散り方をしていなかったわけである。しかし平面の当てはめその事がわれわれの課題だったのでない。平面でよく近似されればこれに越した事はないが、そうでない場合にもわれわれの方法は、データと平面(理論曲面)上の計算点との隔たりの重みつき二乗和を最小にする。言い替えれば「基本らしさ」の判定結果の平均と計算値との食い違いが総体として最小になり、しかも各計算値の間に秩序正しさが保たれるようにしてある。従って、他に一層よい基本

度函数の型を具体的に示し得るまでは、この計算結果を基本度と見ておくのも無意味ではない。それが有用か否かは、今得た結果すなわち式(15)を各見出し語に適用して算定した基本度を見て、その後に評価すべきである。各語の基本度は§ 1.52に示す。

なおカテゴリについての結果に関し、もう少し見て行こう。図 1.2 は基本度函数式(15)による平面と各観測点との関係を描いたものである。計算点(各カテゴリの平均的な値に対する基本度)は、

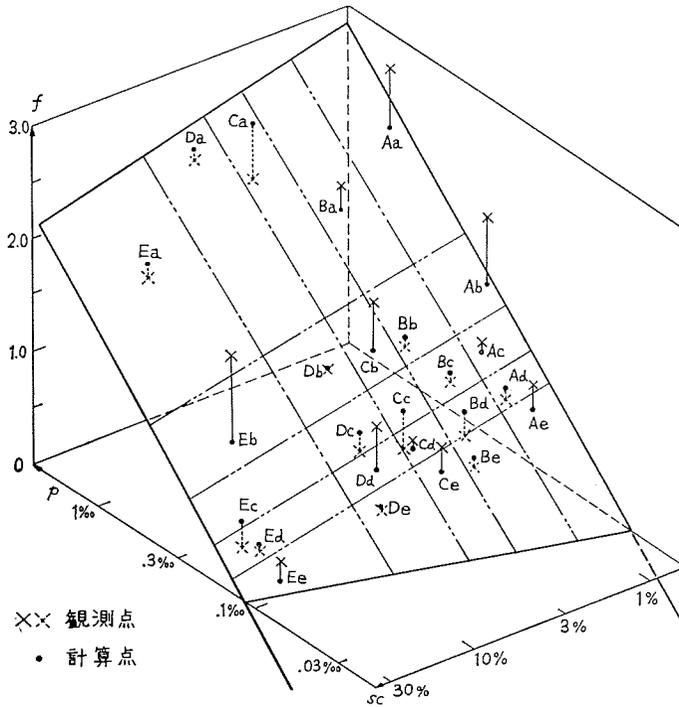


図 1.2 調整平面による結果

もちろん、鎖線で示したそれぞれの区画の内に納まっている。また全体の傾向を見るために表 1.6 を編み直して、表 1.7 のようなカテゴリ順位を得た。左の表の一つの行または列だけに着目すれば、これは二種の変量の中の一方向(ほぼ)等しい値のものについてだけ考えているわけだから、そこでの順序は、行については a b c d e、列については A B C D E の順になっている事が、当然期

表 1.7 カテゴリ順位一覧

	f による						g による				
	a	b	c	d	e		a	b	c	d	e
A	3	6	10	12	17	A	1	4	9	15	12
B	4	7	11	15	20	B	3	10	14	19	21
C	1	8	14	18	21	C	5	8	20	17	16
D	2	9	16	19	23	D	2	11	18	13	22
E	5	13	22	24	25	E	6	7	25	24	23

ば、これは二種の変量の中の一方向(ほぼ)等しい値のものについてだけ考えているわけだから、そこでの順序は、行については a b c d e、列については A B C D E の順になっている事が、当然期

待される。また左上から右下への対角線方向についても同様。ところで主観判定の結果による力 g でこの性質が認められるのは、わずかに B 行だけである。しかし調整結果たる基本度 f について見れば、逆に a 列でだけこの性質が乱れているに過ぎない。乱れた原因は、使用率に関するカテゴリ a の幅がきわめて広いという所にある。またパラメタ b が c の四倍近くになった事からも分かる通り、式(15)では使用率の基本度に対するきき方が散らばり度のそれよりも、はるかに強い。このため、割合に大きい使用率の見出し語が刺激語として抜かれた Ca, Da が, Aa より優位に立ったのである。

更に、刺激語百二十五語のそれぞれに対する基本度を図示したのが、図1.3である。この図のカテゴリ排列順は基本度 f の大小順によっている。実線で結んだのが表 1.6 の f 動き、破線で結んだの

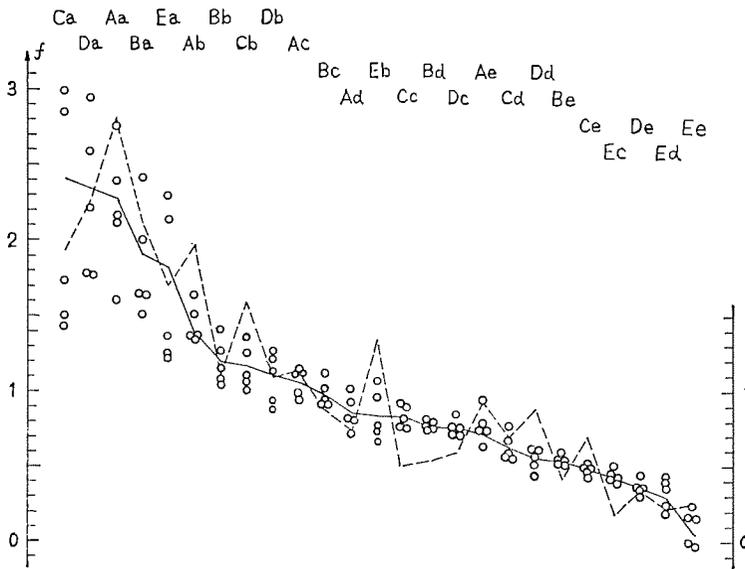


図 1.3 刺激語の基本度

が同じく g の動きである。なお f がそのカテゴリ五点の平均の位置に来ていないものもあるが、これは一般には $\varphi(\bar{x}, \bar{y})$ と $\overline{\varphi(x, y)}$ とが等しくならないためである。また右端の二つの基本度が負数になっているが、基本度は比例尺度としては定義していないので、負数が出ても一向にさしつかえない。

1.52 使用率上位千二百二十語の基本度

第一分冊の語彙表で使用率に推定精度をつけた千二百二十語(標本使用度数が 50 以上だった見出し語のすべて)に対し、上記の仕方基本度を算定してみた。それを表 1.8 に掲げる。

表の各行は左から次の事項を示す： (1)算出した基本度の大きい方からつけた順位， (2)その基本度の値(z)； (3)その基本度をもつ見出し語； (4)その見出し語が属するカテゴリ(cf. §1.42)； その見出し語の (5)使用率(p)， (6)散らばり度(sc)； (7)使用率による順位(大きい方から)， (8)散らばり度による順位(小さい方から)。次の点に注意せられたい。第一に順位欄であるが、(7)は第一分冊の第 2 表と同じものであり、確かに標本における第一位から順に千二百二十語に及んでいる。一方

(1)と(8)との順位は、この千二百二十語の範囲でつけたものである。従ってたとえば使用率順位が第1228.5位の見出し語の基本度が、必ずしもここに載せた千二百二十語の基本度のどれよりも小さいとは限らない。(8)の順位についても同様。つまりこの表を、基本度が1位の語から1220位の語までを完全に並べたものと解してはならない。もしそういう表を作ろうと思えば、使用率順の千二百余語よりは広い範囲について基本度を算出した上で、表に記載する語を限らなければならない。なお本表については大体八百十位ぐらまでは、標本基本度の順になっていると考えられる。第二に、(2)欄の z の値は算出した値の末位が四捨五入してある。従ってたとえば第741位と第742位とのように、四捨五入の結果が等しくなった場合にも、もとの計算値で順序づけをした結果を(1)欄に記入した。(概してこの四捨五入した桁までが、計算上の有効数字であった。)第三に、(3)欄の見出し注記部は簡略にしてあるので、同語の範囲などについては第一分冊の語彙表の脚注やこの分冊の§5と読み合わせられたい。前者と照合するには、第一分冊第1表のその見出し形の所を見、それが本表の(5)欄「変数値 p 」の値と第1表の「使用率、全体」の値とが同じか否かを確かめて判定すればよい。

表 1.8 使用率上位千二百二十語の基本度

基本度 順位	z	見 出 し	カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位	
				p (%)	sc (%)	p	sc
1	4.837	シ・スル	Aa	29.820	.115	1	9
2	4.250	ナリ・ル	シ	9.274	.0350	6	1
3	4.239	イ	シ	17.326	.397	2	54
4	4.025	イイ・ウ	シ	14.326	.631	3	106
5	3.857	レル, ラレル	シ	8.037	.178	7	15.5
6	3.776	アリ・ル	シ	7.201	.184	9	17
7	3.687	モノ	シ	6.717	.230	11	22
8	3.673	キ・クル	Ba	4.122	1.30	20	273
9	3.623	イチ	Ca	11.444	2.47	4	520
10	3.569	ソの	Aa	7.125	.553	10	88
11	3.533	コト	Ca	11.161	3.68	5	714.5
12	3.512	コの	Aa	5.363	.257	15	30
13	3.501	ヨウ	シ	5.963	.410	12	58
14	3.434	ミル	シ	3.393	.070	27	3
15	3.268	ソレ	シ	4.860	.682	17	122.5
16	3.232	ヨイ	シ	3.711	.299	21	34
17	3.215	ジュウ	Ba	5.929	1.93	13	403.5
18	3.213	ナイ	Aa	4.444	.657	19	107
19	3.131	サン	Ca	5.721	2.68	14	560.5
20	3.126	ニ	Da	7.405	7.35	8	943
21	3.097	コレ	Aa	3.671	.604	23	101.5
22	3.017	オモイ・ウ	シ	3.183	.544	29	84
23	2.979	オ	Ca	4.616	2.75	18	575
24	2.945	ワタクシ	Ba	3.666	1.39	24	296
25	2.942	ゴ	Da	4.893	4.22	16	769
26	2.902	サレル	Aa	2.625	.496	35	76
27	2.870	ユキ・ク	シ	3.070	1.07	31	214
28	2.868	トキ	シ	2.617	.593	36	95
29	2.852	ニジュウ	Ca	3.699	2.40	22	508
30	2.829	ネン	Ba	3.143	1.47	30	312.5
31	2.819	サン	Ca	3.648	2.73	25	570.5
32	2.782	イマ	Aa	1.682	.173	63	15.5
33	2.780	トコロ	シ	2.049	.381	50	48
34	2.755	ロク	Ca	3.522	3.39	26	670
35	2.744	デキル	Aa	2.190	.597	46	96
36	2.715	ナニ	Ba	2.874	1.96	32	410
37	2.698	ヒト	Aa	2.384	1.06	41	210.5
38	2.660	ソウ	シ	2.260	1.07	43	214
39	2.616	ナカ	シ	1.906	.712	52	127
40	2.614	ニッポン	シ	1.983	.838	51	154

基本度 順位	z	見出し		カテ ゴリ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
41	2.607	ハチ	八	Ca	2.795	3.20	33	638
42	2.604	モチ.ッ	持	Aa	1.529	.331	72	40.5
43	2.591	ホウ	方的	シ	1.600	.422	68	62
44	2.587	テキ	的	Da	3.207	6.00	28	897
45	2.568	トリ.ル	取・撮	Aa	1.531	.406	71	56
46	2.554	デル	出	シ	1.630	.555	64	89
47	2.547	ヤリ.ル		シ	1.866	.965	53	186.5
48	2.535	シチ	七	Ca	2.545	3.33	38	662
49	2.521	ドウ	[指]	Aa	1.577	.587	70	93.5
50	2.511	ソウ	相	Ba	.767	1.35	145	283
51	2.508	タメ	為	Aa	1.714	.868	61	161
52	2.494	キュウ	九	Ca	2.361	3.14	42	627.5
53	2.484	シン	四	Da	2.492	4.08	39	759.5
54	2.471	タイ	度	Aa	1.486	.618	73	104
55	2.461	ド	度	Ac	.910	.102	118	5
56	2.454	マタ	又・亦	Ba	1.728	1.20	59	247
57	2.439	サンジュウ	三十	Da	2.553	5.73	37	886.5
58	2.411	シマイ.ウ		Aa	1.581	1.09	69	218
59	2.401	ニン	人	シ	1.261	.487	78	73.5
60	2.400	タチ	[接尾]達	Ba	1.756	1.72	56	363
61	2.396	シカシ	[接]	Aa	1.406	.758	75	136
62	2.389	シヤ	者	Ba	1.615	1.33	66	278.5
63	2.375	クライ	位	Aa	1.052	.587	92	93.5
64	2.353	ダイ	第	Ba	1.689	1.92	62	401.5
65	2.350	カタ	方	Da	2.131	4.73	48	823
66	2.334	エン	円[金額の]	シ	2.403	8.12	40	969
67	2.334	サセル	令為	Aa	.770	.109	144	7
68	2.327	カンガエル		シ	1.409	1.12	74	227
69	2.321	ガツ	月	Da	2.061	4.89	49	839
70	2.312	オオキい,な		Aa	1.007	.340	98	43
71	2.311	ヨ(ン)	四	Ca	1.750	2.77	57	581.5
72	2.301	レイ	零	Da	2.162	6.52	47	919.5
73	2.296	メ	目・眼	Ea	2.665	14.8	34	1085.5
74	2.280	ジブン	自分	Ba	1.372	1.31	76	275
75	2.269	カレ	彼	Ca	1.747	3.47	58	687.5
76	2.257	オキ.ク	置	Aa	1.286	1.16	77	233.5
77	2.251	ワケ	訳	シ	1.232	1.02	79	202
78	2.250	オナジ		シ	.906	.321	120	37
79	2.223	ヨリ.ル	依・因・拠	Ca	1.625	3.40	65	671.5
80	2.216	マエ	前	Da	1.830	5.56	54	877
81	2.198	ツヨイ		Aa	.566	.139	209	12
82	2.196	ダン.ス	出	Ba	1.186	1.20	83	247
83	2.193	ゴジュウ	五十	Da	1.778	5.64	55	881.5
84	2.192	ヒトツ		Aa	.922	.472	117	70
85	2.192	ヒヤク	百	Ea	2.212	13.0	44	1063
86	2.183	ホド		Aa	1.041	.784	93	144
87	2.168	ソシテ	[接]	シ	.981	.682	106	122.5
88	2.161	ウチ	内・中・裡	シ	.747	.252	150	28
89	2.153	トモ	共・偕	シ	.627	.138	181	11
90	2.150	ハイリ.ル		シ	1.034	.919	95	171.5
91	2.149	ヒ	日	シ	.758	.284	148	32
92	2.141	シジュウ	四十	Da	1.606	5.10	67	852
93	2.138	マン	万	Ea	2.191	16.7	45	1102.5
94	2.130	ニチ	日	Aa	.977	.829	107	150.5
95	2.121	セル,サセル	令	Ba	1.069	1.22	90	252.5
96	2.121	シリ.ル	和	シ	1.108	1.40	86	298.5
97	2.110	アマリ	[名・副]	Aa	.662	.212	167	20.5
98	2.107	オオイ	多	シ	.994	1.00	102	195
99	2.107	バアイ	場合	Ba	1.105	1.50	87	317
100	2.104	コウ	[副]	Aa	.891	.673	123	117.5
101	2.104	ワカリ.ル	分	Aa	.971	.934	108	176
102	2.034	ジカン	時間	シ	.593	.212	197	20.5
103	2.032	ココ	[指・接]	シ	.863	.887	128	166.5
104	2.023	ソコ	[指・接]	シ	.908	1.13	119	229
105	2.019	アイダ	間	シ	.695	.421	159	60.5

基本 順位	度 z	見出し		カテ ゴリ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
106	2.009	ダイ	大聞	Aa	.771	.658	143	108.5
107	1.998	キキ・ク	手	Ba	1.032	2.11	96	437.5
108	1.996	テ	[副]	シ	.984	1.78	104	472.5
109	1.996	モウ	付	シ	.955	1.59	111	329.5
110	1.992	ツキ・ク		Aa	.878	1.18	126	238.5
111	1.992	アゲル	上・拳	シ	.658	.396	168	52.5
112	1.986	セイカツ	生活	Ba	.888	1.29	125	271
113	1.985	ハナシ	話	シ	.949	1.65	112	345
114	1.978	ツギ	次	Aa	.648	.403	172	55
115	1.976	ウエ	上	Da	1.206	4.30	82	782
116	1.956	ホカ	他	Aa	.676	.534	163	82
117	1.950	アイ・ウ	合・会・逢	Ba	.872	1.40	127	298.5
118	1.950	ココロ		Aa	.737	.769	152	138
119	1.949	クレル	與	Ca	1.097	3.48	89	689
120	1.935	マダ	未	Aa	.599	.380	192	47
121	1.933	ボク	僕	Da	1.115	4.05	85	757
122	1.928	アト	後	Aa	.669	.601	166	99
123	1.926	シ	氏	Ba	.929	2.10	115.5	432
124	1.912	ツクリ・ル		Da	1.211	6.21	81	909
125	1.905	トウキョウ	東京	Ca	.930	2.37	114	498.5
126	1.902	カノジョ	彼女	Ca	1.029	3.54	97	697
127	1.898	オリ・ル	居	Ba	.776	1.24	142	258
128	1.896	モンダイ	題	Da	1.098	4.68	88	817.5
129	1.894	イツ	何	Ba	.831	1.65	130	342
130	1.871	オンナ	女	Da	1.041	4.38	94	791
131	1.868	スギル		Aa	.596	.540	195.5	83
132	1.861	セシ	千	Da	1.169	7.17	84	938.5
133	1.859	キ	気	Ba	.809	1.80	132	381
134	1.857	シゴト		Aa	.557	.443	211	66
135	1.854	カオ	顔	Ca	.963	3.59	109	704
136	1.847	カカリ・ル	罹・懸・掛	Ab	.468	.242	248	24
137	1.843	ママ	儘	Aa	.611	.680	188	121
138	1.837	ツケル	付	Da	1.054	5.53	91	875
139	1.836	ウケル		Aa	.523	.391	226	49.5
140	1.836	カイ	会	Ba	.753	1.56	149	326
141	1.831	ラ	等	Da	1.000	4.68	99	817.5
142	1.830	ヒトリ	一・独	Ba	.812	2.15	131	444
143	1.830	タダ	[名・副]	Aa	.621	.779	184	142
144	1.825	タチ・ツ	立・建・発	シ	.621	.800	182.5	146
145	1.821	テンゴ	.5	Ea	1.719	38.6	60	1184
146	1.810	ヤハリ		Aa	.650	1.03	171	205
147	1.800	ソナ		Ba	.776	2.13	141	443
148	1.798	カイ	回	Ca	.831	2.79	129	585
149	1.796	オトコ	男	Da	.981	5.30	105	862.5
150	1.791	シレル	知	Aa	.601	.849	190	157
151	1.788	テン	点	Ba	.657	1.21	169	249
152	1.785	タイシ・スル	対	Da	.942	4.83	113	833.5
153	1.781	アメリカ		Aa	.598	.883	193	165
154	1.772	エイガ	映	Da	.929	4.91	115.5	840
155	1.770	アナタ	貴方	Ca	.795	2.75	136	575
156	1.768	シ	市	Aa	.568	.780	208	143
157	1.750	スコシ	少	シ	.583	.953	203	182
158	1.748	イチバン	一・番	Ab	.432	.309	271	35
159	1.742	アの	[指]	Ca	.787	3.10	139	616.5
160	1.737	イジョウ	以上	Aa	.571	.942	207	178
161	1.737	カエリ・ル	帰	Ca	.759	2.77	147	581.5
162	1.736	ヒト	一	Da	1.000	7.91	100	962.5
163	1.732	イエ	家	Ba	.678	1.86	162	387.5
164	1.731	チュウ	中	Ca	.746	2.68	151	560.5
165	1.721	センセイ	先生	Ba	.596	1.213	195.5	250
166	1.713	ツカイ・ウ		シ	.651	1.77	170	369
167	1.712	トコロが・モ		Aa	.502	.665	234	112
168	1.710	カワリ・ル	変・代・替	Ab	.402	.289	297	33
169	1.707	ジダイ	時	Ba	.585	1.22	202	252.5
170	1.705	サイ	歳	シ	.689	2.29	160	478.5

基本度 順位	z	見出し		カテ ゴリ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
171	1.701	カイ、ウ	買	Ab	.431	.396	272.5	52.5
172	1.700	マズ	先	シ	.468	.545	248	85
173	1.693	シヨキ	所	Ba	.573	1.22	206	252.5
174	1.691	ツキ、タ	aboutの意	Da	.902	6.87	121	928
175	1.689	イレル	入	シ	.889	6.56	124	923
176	1.688	ココロ	心	Ba	.672	2.29	165	478.5
177	1.688	メ	[接尾]目	Ab	.446	.486	265	72
178	1.687	ワルイ		Aa	.532	.950	222	180
179	1.686	カケル	掛	Ca	.734	3.24	153	644
180	1.683	ミナ		Ba	.634	1.89	176	395.5
181	1.682	カキ、タ	書・描・画	Da	.809	4.77	133	829
182	1.675	ロクジュウ	六十	Ea	.986	10.5	103	1022
183	1.672	ズイブン	随分	Ad	.146	.502	921	77
184	1.671	ゴ	御	Da	.766	4.14	146	763.5
185	1.666	エル	得	Ba	.635	2.09	175	429
186	1.665	モン	[副]	Ab	.317	.151	385.5	13
187	1.662	トオリ	通	Aa	.509	.922	231	173
188	1.651	コンド	今度	Ba	.546	1.28	215	266
189	1.646	フタリ	今二人	Ca	.708	3.52	155	693.5
190	1.642	ワカイ	若	Ba	.613	2.08	186	428
191	1.641	タカイ		Ab	.422	.508	282.5	78
192	1.636	ジ	時	Ba	.534	1.28	221	266
193	1.634	ドコ	何処	シ	.597	1.97	194	413
194.5	1.632	サイゴ	最後	Ab	.281	.115	444	8
シ	1.632	スグ	直	Aa	.475	.840	241	155
196	1.627	ダレ	誰	Ca	.630	2.51	179	528
197	1.626	ミエル		Ba	.589	1.96	200	410
198	1.624	コドモ	子供	Da	.807	6.52	134	919.5
199	1.623	コンナ	[指]	Ba	.582	1.90	204	398.5
200	1.622	セン	線	Ca	.673	3.31	164	659.5
201	1.617	ジツ	実	Ab	.313	.187	391.5	18
202	1.614	イロイロ		シ	.425	.608	281	103
203	1.608	ケン	県	Aa	.502	1.18	232.5	238.5
204	1.605	ツツケル		Ab	.431	.673	272.5	117.5
205	1.604	ブ	部	Aa	.491	1.11	237	224
206	1.600	コエ	声	Ca	.630	2.91	178	600
207	1.594	アラワレル		Ab	.304	.191	406	19
208	1.593	ナガイ		シ	.445	.814	266	148.5
209	1.591	ツマリ	[名・接]詰	シ	.349	.327	338	38
210	1.590	ニンゲン	人間	Ca	.592	2.43	198	515
211	1.587	サマ	様	Da	.701	4.69	158	819.5
212	1.585	モライ、ウ		Ba	.529	1.63	224	337.5
213	1.582	シチジュウ	七十	Da	.792	7.64	137	955
214	1.580	ベツ	別	Ab	.393	.546	309.5	86
215	1.574	ホウ	法	Da	.712	5.36	154	866
216	1.570	コトバ	言葉	Ba	.518	1.64	229	339.5
217	1.567	オク	億	Ea	1.221	42.8	80	1192
218	1.565	ゴ	後	Ca	.612	3.16	187	633
219	1.556	ゴウ	号	Ba	.511	1.68	230	357
220	1.554	サキ	先	Ab	.429	.876	276	163
221	1.553	セカイ	世界	Ca	.565	2.50	210	526
222	1.550	キリ、ル	切	シ	.556	2.39	212	504.5
223	1.548	アル	或	Ba	.536	2.10	220	432
224	1.546	ムリ	或無理	Ac	.187	.0395	702.5	2
225	1.544	ニヒヤク	二百	Ea	.799	9.74	135	1001
226	1.540	クダサリ、ル		Ca	.582	3.00	205	607.5
227	1.540	カ	家	Ba	.541	2.28	218	474.5
228	1.536	チガイ、ウ		Ab	.413	.836	288.5	152
229	1.534	ジン	人	Ba	.525	2.10	225	432
230	1.529	ハヤイ	早・速	Bb	.462	1.33	257	278.5
231	1.526	アタラシイ		Ab	.411	.867	291	160
232	1.526	キ	機・器	Ca	.553	2.67	213	555.5
233	1.521	ワタシ		シ	.587	3.45	201	679.5
234	1.513	カンケイ	関係	シ	.591	3.70	199	718
235	1.508	サラに	更	Ba	.500	2.02	235	421.5

基本 順位	度 z	見 出 し	カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
236	1.507	ヒジヨウ	非常	Ba	.469	1.59	245	329.5
237	1.506	カナラズ		Ab	.320	.376	382.5	46
238	1.506	フタツ	二	シ	.315	.355	388.5	44
239	1.504	カン	間	Ca	.520	2.39	227.5	504.5
240	1.503	トク	特	Ab	.422	1.09	282.5	218
241	1.501	ドンナ	[指]	シ	.404	.933	293.5	174.5
242	1.495	ハジメル	始	Bb	.456	1.53	262	322
243	1.492	ヒツヨウ	必要	Da	.601	4.41	191	795.5
244	1.483	ハジメ	[名・副]	Ab	.329	.474	366	71
245	1.473	ミギ		シ	.338	.556	356.5	90
246	1.470	ダン	段	Ea	.956	28.9	110	1157
247	1.463	カンジ、ズル	感	Ba	.456	1.82	260.5	333
248	1.458	フ	不	Ab	.395	1.09	306	218
249	1.455	ハチジユウ	八十	Ea	.705	9.93	157	1008.5
250	1.449	イミ	意味	Ba	.474	2.28	242	274.5
251	1.447	ミチ	道・途	Ab	.377	.967	319	188
252	1.444	スウ	数	シ	.374	.955	323.5	183
253	1.440	ガクコウ	学校	シ	.383	1.07	316	214
254	1.438	コ	子・娘・姪	Bb	.397	1.24	301	258
255	1.435	チャン	[接尾]	Ca	.469	2.36	244	493
256	1.433	ヒラキ、ク		Ab	.274	.312	455	36
257	1.432	アタマ	頭	Bb	.433	1.78	270	372.5
258	1.430	モチロン	勿論	Ab	.342	.737	348.5	131
259	1.429	ダイガク	大学	シ	.345	.762	343	137
260	1.429	シロ	白	Da	.632	7.57	177	950
261	1.427	キモチ	気持	Bb	.429	1.76	276	367
262	1.427	ズ	図	Ea	.707	11.7	156	1042.5
263	1.425	ゲンザイ	現在	Ca	.502	3.24	232.5	644
264	1.424	オコナイ、ウ		Da	.628	7.58	180	951
265	1.418	オキ、ク	於	シ	.621	7.54	182.5	948
266	1.416	オオサカ	大阪	Ab	.340	.778	351.5	141
267	1.416	ハンタイ	反対	Ac	.253	.254	501.5	29
268	1.415	センチ	cm	Ea	1.000	46.5	101	1202
269	1.415	キュウヒヤク	九百	シ	.685	11.1	161	1030
270	1.413	ウマレル		Ac	.251	.250	505.5	27
271	1.411	ワガ		Bb	.427	1.89	280	395.5
272	1.407	ハナ	花	Ab	.322	.666	378.5	114
273	1.403	クロ	黒	Da	.614	7.84	185	960
274	1.402	タ	他	Ca	.487	3.27	238	650.5
275	1.397	ジュウ	自由	Bb	.438	2.25	267.5	467.5
276	1.394	ムカシ		Ab	.338	.356	356.5	159
277	1.394	ホントウ	本	Bb	.429	2.12	276	441.5
278	1.388	レイ	例	Ab	.262	.337	479.5	42
279	1.388	ホン	[助数]本	Da	.520	4.54	227.5	809.5
280	1.382	シンブン	新聞	Cb	.461	3.16	258.5	633
281	1.380	ウツクシイ		シ	.468	3.17	248	635.5
282	1.377	マツタク		Ab	.329	.350	366	158
283	1.376	カイシヤ	会社	Ea	.603	8.47	189	978
284	1.373	タクサン	沢山	Ac	.185	.0984	718	4
285	1.371	カネ	金	Cb	.434	2.51	269	528
286	1.368	ヤマ	山	シ	.428	2.42	279	512
287	1.367	フカイ	深	Ab	.347	1.10	339.5	221.5
288	1.367	ヨビ、フ	呼	Bb	.361	1.28	332	266
289	1.365	ヤ	屋・家	シ	.390	1.73	312.5	364
290	1.360	キュウジュウ	九十	Ea	.641	11.7	173.5	1041.5
291	1.359	キャク	客	Ab	.308	.732	397	129
292	1.359	シカモ	[接]	シ	.342	1.09	348.5	218
293	1.358	カラダ	体	Bb	.402	2.02	297	421.5
294	1.353	ハハ	母	Cb	.418	2.41	286	510.5
295	1.351	キケン	危険	Bd	.155	1.88	864	392.5
296	1.348	スクナイ		Bb	.377	1.67	321	354
297	1.339	シヤ	車	Cb	.429	2.36	276	592.5
298	1.335	ヒギ、ク	引・曳	Eb	.374	1.74	323.5	365.5
299	1.331	オコリ、ル	起・興	Ab	.278	.578	448.5	92
300	1.331	ケッコウ	結婚	Da	.482	4.65	239	816

基 本 度 順位	z	見 出 し	カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位	
				p (%)	sc (%)	p	sc
301	1.331	センチメートル	Ea	.901	49.8	122	1211
302	1.329	ショウワ	Bb	.395	2.17	306	449
303	1.327	サンビヤク	Da	.547	7.68	214	958
304	1.325	ミセ	Ab	.269	.529	462	80.5
305	1.323	マチ	Bb	.396	2.31	303	484
306	1.320	チチ	シ	.377	1.95	319	408
307	1.318	ハン	Ab	.308	.919	397	171.5
308	1.317	ナカナカ	Ac	.235	.331	545.5	40.5
309	1.317	シタ	Da	.480	4.96	240	843
310	1.315	ゴビヤク	シ	.545	8.09	216	967
311	1.309	サイキン	Bb	.383	2.21	316	458.5
312	1.305	アイテ	Cb	.429	3.45	276	682
313	1.305	ツツキ、ク	Ab	.310	1.01	394	197.5
314	1.303	タテル	シ	.322	1.18	378.5	238.5
315	1.303	チカラ	シ	.313	1.06	391.5	210.5
316	1.302	ウシロ	Ea	.791	35.7	138	1178.5
317	1.300	イカ	Ab	.262	.549	479.5	87
318	1.298	カタ	シ	.290	.814	429	148.5
319	1.296	サイショ	Ac	.256	.513	496	79
320	1.295	クチ	Cb	.393	2.62	309.5	548.5
321	1.293	ムスメ	Da	.493	4.02	236	754.5
322	1.291	セイ	Ea	.536	8.70	219	981
323	1.290	シキ	Bb	.374	2.23	323.5	461
324	1.289	ミセル	Db	.438	4.08	267.5	759.5
325	1.286	ステに	Bb	.372	2.23	326	461
326	1.279	キミ	Cb	.413	3.45	288.5	682
327	1.277	アルキ、ク	シ	.377	2.47	319	520
328	1.276	ソレゾレ	Ac	.205	.247	629.5	26
329	1.273	カギリ	シ	.258	.600	492.5	98
330	1.271	ナクナリ、ル	Ad	.180	.155	740	14
331	1.271	ズット	シ	.162	.104	817.5	6
332	1.271	シャシン	Bb	.322	1.41	378.5	302
333	1.268	ハジメテ	シ	.333	1.62	360.5	334.5
334	1.265	カエル	Ac	.201	.244	648	25
335	1.264	カゲツ	Ab	.278	.837	448.5	153
336	1.264	アタエル	シ	.292	1.01	425	197.5
337	1.260	ジョセイ	Db	.461	5.80	258.5	889
338	1.260	ヘヤ	Cb	.363	2.35	330	490
339	1.260	ジュウブン	Bb	.331	1.66	362.5	349
340	1.257	オワリ、ル	Ab	.281	.904	444	168
341	1.251	ハッキリ	シ	.294	1.11	419.5	224
342	1.247	マチ、ツ	Db	.416	4.24	287	772.5
343	1.245	マイ	Ea	.530	10.7	223	1024
344	1.244	シン	Cb	.390	3.37	312.5	666.5
345	1.244	イキル	Bb	.329	1.77	366	369
346	1.240	ワレワレ	Cb	.399	3.76	299	722.5
347	1.236	ミゴロ	Ea	.787	50.2	140	1214
348	1.236	イケル	Bb	.304	1.37	406	289.5
349	1.234	ミズ	Cb	.383	3.33	316	662
350	1.229	クニ	Db	.404	4.19	293.5	767
351	1.225	カンジ	Bb	.338	2.17	356.5	449
352	1.225	シ	Db	.452	6.54	264	922
353	1.225	スベテ	Bb	.331	2.01	362.5	420
354	1.225	アル(い)は	シ	.299	1.37	413.5	289.5
355	1.225	イクラ	Ac	.219	.421	591	60.5
356	1.224	ハナシ、ス	Ab	.283	1.12	441	227
357	1.223	カタチ	Cb	.358	2.73	333	570.5
358	1.223	キマリ、ル	Ac	.196	.280	666.5	31
359	1.221	モット	Bb	.292	1.29	425	271
360	1.220	アタリ、ル	シ	.297	1.37	415.5	289.5
361	1.220	ハトラキ、ク	Ab	.274	1.01	455	197.5
362	1.219	ワリ	Ea	.641	25.4	173.5	1144.5
363	1.219	セイネン	Cb	.354	2.68	334.5	560.5
364	1.219	ジャカイ	Db	.466	7.61	252	954
365	1.218	スガタ	シ	.393	4.00	399.5	751.5

基本度 順位	z	見出し	カテ ゴリ	変数値		変数順位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
366	1.218	ヤスイ	安・易・廉	Cb	.353	2.67	336	555.5
367	1.217	ケンキユウ	研究	Dh	.468	7.80	248	959
368	1.215	シゼン	自然	Ac	.237	.599	537	97
369	1.215	ナイ	内	Ac	.221	.460	583.5	69
370	1.213	ホトンド		Bb	.294	1.37	419.5	289.5
371	1.212	ドの	[指]	Ac	.242	.659	522.5	110
372	1.210	イロン	色・情人	Db	.397	4.34	301	787.5
373	1.210	クン	君	シ	.395	4.26	306	776
374	1.208	チョウ	長[chiefの意の]	Cb	.374	3.51	323.5	692
375	1.207	フン	分	シ	.347	3.53	339.5	695
376	1.206	ジョウ	上	シ	.342	2.53	346	533
377	1.203	ヨウ	用	Db	.402	4.73	297	823
378	1.201	マ	間	Bb	.324	2.12	374.5	441.5
379	1.189	アシ	足・脚	シ	.326	2.31	371.5	484
380	1.188	オレ	俺	Db	.406	5.34	292	865
381	1.180	ナオ	[副]	Bb	.304	1.87	406	390
382	1.179	アカイ		Dd	.144	4.52	934.5	807.5
383	1.176	カントク	監督	Eb	.455	8.79	263	983
384	1.167	コトシ	今年	Bb	.288	1.63	434.5	337.5
385	1.166	ク	区	シ	.315	2.31	388.5	484
386	1.166	アタリ	辺	シ	.278	1.44	448.5	308.5
387	1.165	ヨル	夜	Cb	.339	3.06	353	613.5
388	1.164	チュウシン	中心	Bb	.315	2.33	388.5	487
389	1.164	ワスレル		Cb	.324	2.60	374.5	544
390	1.161	タシカ	確	Ac	.231	.734	560	130
391	1.160	ハゲシ		シ	.237	.812	537	147
392	1.157	チ	地	Bb	.274	1.43	455	306
393	1.154	イタダキ・ク		Db	.354	3.83	334.5	734
394	1.150	バシヨメル	場所	Cb	.333	3.11	360.5	620
395	1.115	モトメル	求	Ac	.194	.487	675	73.5
396	1.149	シニ・ヌ	死	Bb	.294	1.95	419.5	407
397	1.148	ワタリ・ル		Ac	.194	.407	675	57
398	1.147	アカルイ		シ	.235	.793	545.5	145
399	1.147	ナツ	夏	Eb	.297	2.05	415.5	425.5
400	1.147	ノリ・ル	乗	Cb	.308	2.36	397	493.5
401	1.145	イッショ	一所・一緒	Cb	.345	3.65	341	711
402	1.141	ジケン	事件	シ	.308	2.43	397	515
403	1.139	シャ	社	Ac	.244	1.02	517.5	202
404	1.138	タチ・ツ	経後	シ	.217	.658	598.5	108.5
405	1.138	ノチ	後	シ	.212	.602	612	100
406	1.135	ウチ・ツ	打・撃・射	Db	.403	6.95	295	930
407	1.131	ダイタイ	大体	Ac	.228	.770	566.5	139
408	1.130	カ	化	Eb	.463	12.1	252	1050.5
409	1.130	チョット		Ba	.545	1.43	217	306
410	1.129	チイサイ・な		Db	.363	4.84	330	835
411	1.125	モットモ	最	Cb	.301	2.43	411	515
412	1.124	トウジ	当時	シ	.304	2.54	406	535.5
413	1.123	ガワ	側	シ	.315	2.92	388.5	601
414	1.120	ナサリ・ル		Dh	.338	3.89	356.5	742.5
415	1.119	シツ	室	Ac	.189	.433	689	64
416	1.117	ケッキョク	結局	シ	.224	.829	577	150.5
417	1.115	ジジツ	事実	Cb	.299	2.51	413.5	523
418	1.114	サクヒン	作品	Eb	.420	9.13	284	989
419	1.112	ホシイ		Ac	.237	1.06	537	210.5
420	1.108	ブ	分・歩	Eb	.468	14.2	248	1077
421	1.108	ガクセイ	学生	Be	.258	1.49	492.5	315
422	1.107	ム	無	Ac	.233	1.02	552.5	202
423	1.105	ノコリ・ル		シ	.237	1.10	537	221.5
424	1.103	アレ	[指]	Cb	.326	3.71	370	719
425	1.103	オモシロイ		シ	.290	2.39	429	504.5
426	1.099	トウ	党	Eb	.466	14.7	252	1083
427	1.099	ノミ・ム		Cb	.301	2.81	411	587.5
428	1.096	セイ	生	Bd	.278	2.11	448.5	437.5
429	1.096	シユギ	主義	Eb	.456	13.8	260.5	1071
430	1.096	トシ	年・齢	Bb	.269	1.87	462	390

基 本 度 順位	z	見 出 し		カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
431	1.095	キン	金	Eb	.463	14.7	255	1083
432	1.094	ゴトシ		Bb	.265	1.78	471.5	372.5
433	1.093	ツマ	妻	シ	.272	1.98	458.5	415
434	1.092	コマリ.ル		Ac	.237	1.18	537	238.5
435	1.091	フルイ	古・旧	シ	.208	.723	624	128
436	1.090	シダイ	次第	シ	.215	.773	606	140
437	1.087	テン	店	シ	.187	.494	702.5	75
438	1.083	スキ	好	Cb	.294	2.81	419.5	587.5
439	1.081	フウ	風	Bb	.272	2.11	458.5	437.5
440	1.079	オンガク	音楽	Db	.329	4.39	366	793
441	1.077	オマエ	[代]	シ	.320	4.01	382.5	753
442	1.075	フジン	夫人	Bb	.269	2.10	462	432
443	1.074	テイド	程度	Db	.324	4.25	374.5	775
444	1.073	シミ.ム	濟身	Ac	.224	1.06	577	210.5
445	1.069	スミ		Db	.313	3.84	393	736.5
446	1.069	ヒトビト	人々	Cb	.276	2.39	452	504.5
447	1.060	ソウトウ	相当	シ	.288	2.94	434.5	603
448	1.053	リョク	力	Eb	.393	9.93	309.5	1008.5
449	1.051	イズレ		Bc	.253	2.04	492.5	423
450	1.050	オクリ.ル	送・贈	シ	.244	1.66	517.5	349
451	1.048	スズキ	[人]鈴木	Ae	.135	.122	997.5	10
452	1.047	タトエバ		Bb	.262	2.21	479.5	458.5
453	1.044	バアセント		Ea	.470	20.6	243	1124
454	1.043	マイニチ	毎日	Cb	.260	2.37	488	498.5
455	1.043	ムネ	胸	シ	.294	3.49	419.5	690
456	1.040	タイヘン	大変	Eb	.260	2.24	488	464
457	1.037	ナゼ		Bc	.231	1.45	560	310
458	1.034	ワズカ	[副]	Ad	.180	.573	740	91
459	1.033	ニサン	二三	Bc	.231	1.48	560	314
460	1.032	ハズ	筈	Db	.363	8.27	330	973
461	1.031	オク	奥	シ	.304	4.25	406	774
462	1.030	シバラク		Ac	.187	.676	702.5	119
463	1.030	トニカク		シ	.217	1.19	598.5	243.5
464	1.028	ナ	名	Cc	.256	2.56	496	538.5
465	1.027	ミタイ	[接尾]	Cb	.288	3.54	434.5	697
466	1.026	チガイ	違	シ	.262	2.48	479.5	523
467	1.024	ツトメル	努・勉・勤	Ac	.199	.887	658	166.5
468	1.022	ブブン	部分	Cb	.267	2.72	466.5	567.5
469	1.021	ウゴキ.ク	動	Bc	.217	1.25	598.5	260
470	1.020	コタエル	答・応	シ	.233	1.65	552.5	345
471	1.019	カズ	数	Ad	.139	.234	959.5	23
472	1.019	キ	期	Eb	.466	22.9	252	1136
473	1.017	シンバイ	心配	Bc	.217	1.29	598.5	271
474	1.017	チカイ	近	シ	.253	2.29	501.5	478.5
475	1.016	ユルシ.ス		シ	.215	1.24	606	258
476	1.015	クワエル	加	Cb	.288	3.77	434.5	724
477	1.014	キメル		Ad	.151	.330	889.5	39
478	1.012	ゼンブ	全部	Bc	.219	1.36	591	285.5
479	1.009	ヨンヒヤク	四百	Eb	.420	16.3	285	1097
480	1.008	ビョウキ	病氣	Ac	.183	.703	730.5	125
481	1.007	シャチョウ	社長	Ad	.162	.446	817.5	67
482	1.005	ウマイ	巧・美味	Cb	.261	2.74	485.5	573
483	1.002	カタリ.ル	語・騙	Bc	.228	1.67	566.5	354
484	.997	ニセン	二千	Eb	.397	14.1	301	1076
485	.995	B, b		Bc	.240	2.11	529	437.5
486	.994	ヤク	役	Cb	.267	3.19	466.5	637
487	.991	ヒロイ		Ac	.194	.965	675	185
488	.987	アキ	秋	Bc	.242	2.28	522.5	474.5
489	.987	ムズカシイ		Ac	.194	.988	675	194
490	.984	カイ	界	シ	.203	1.19	636.5	243.5
491	.983	A, a		Db	.276	3.84	452	736.5
492	.982	ワライ.ウ		Cb	.271	3.60	460	706
493	.981	シメシ.ス	示	シ	.264	3.28	475	652
494	.980	タズネル	導・訓・訪	Bc	.240	2.30	529	481
495	.979	アガリ.ル	上・揚・騰	シ	.231	2.00	557	419

基本 順位	度 z	見出し		カ テ ゴ リ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
496	.978	キョウ	今日	Cb	.262	3.23	479.5	614.5
497	.976	チュウ	中央	Eb	.463	28.3	255	1155
498	.974	グン	軍	Db	.320	7.07	382.5	934
499	.972	チホウ	地方	シ	.292	5.03	425	847.5
500	.972	キシヤ	記者	Cc	.240	2.40	529	508
501	.971	フツウ	普通	Cb	.265	3.50	471.5	691
502	.970	ウタ	歌	Db	.285	4.65	439	815
503	.969	ハナレル		Ac	.183	.872	730.5	162
504	.969	センソウ	戦争	Db	.329	8.05	366	966
505	.965	フランス		Bc	.231	2.16	560	446.5
506	.963	ジシン	自身	Cc	.237	2.40	537	508
507	.963	イソギ		Ae	.132	.741	1020	133
508	.961	ドウジ	同時	Ac	.183	.913	730.5	170
509	.959	ケイザイ	経済	Eb	.386	15.6	314	1089.5
510	.958	ゼンゴ	前後	シ	.413	20.3	290	1122
511	.956	ヤク	約	Db	.290	5.33	429	868.5
512	.955	ブンの	分の[分数]	Eb	.365	12.9	328	1061
513	.955	サケ	酒	Cc	.251	3.13	505.5	627.5
514	.954	ブン	分	Eb	.326	8.43	371.5	977
515	.950	イッパン	一般	Db	.290	5.54	429	876
516	.949	ヒダリ	左	Cc	.258	3.58	492.5	701.5
517	.944	センゴ	戦後	Bc	.228	2.31	566.5	484
518	.942	オヤ	親	Ad	.164	.668	803	116
519	.941	ショウ	書	Bc	.217	1.94	598.5	405.5
520	.940	イガイ	以外	Ac	.187	1.11	702.5	224
521	.940	オット	夫	Cc	.249	3.29	508	654
522	.939	ミトメル		Db	.260	3.89	488	742.5
523	.938	ノボリ		Bc	.205	1.59	629.5	329.5
524	.934	カク	各	Cc	.246	3.25	513	647
525	.934	コンニチ	今日	シ	.228	2.44	566.5	518
526	.934	ユメ	夢	Cc	.253	3.62	501.5	707.5
527	.933	ヒドイ		Bc	.196	1.38	666.5	294
528	.932	カゼ	風・風邪	Cc	.235	2.76	545.5	578
529	.932	イン	員	シ	.246	3.29	513	654
530	.931	デンワ	電話	Bc	.196	1.40	666.5	298.5
531	.929	クイ	食	シ	.205	1.67	629.5	354
532.5	.929	カルイ		シ	.187	1.28	702.5	266
シ	.929	ヤツメイ	説明	シ	.187	1.23	702.5	266
534	.926	アサ	朝	Cc	.233	2.76	552.5	578
535	.926	トテモ	[副]	シ	.233	2.77	552.5	581.5
536	.923	メン	面	Db	.265	4.57	471.5	812
537	.922	チョウド	[副]	Ad	.173	.912	760	169
538	.920	キル	着	Eb	.322	9.75	378.5	1002
539	.918	ムシロ	[副]	Bc	.201	1.65	648	345
540	.916	ソレン	ソ連	Eb	.324	10.2	374.5	1013
541	.915	シュ	主人	Cc	.233	2.94	552.5	603
542	.914	イッポウ	一方	Bc	.201	1.69	648	359
543	.909	ダイヒョウ	代表	シ	.185	1.27	718	261.5
544	.908	サテ	[接]	Ad	.173	.985	760	192
545	.908	ウンドウ	運動	Cc	.233	3.06	552.5	613.5
546	.907	ワライ	笑	Db	.260	4.64	488	814
547	.906	イライ	以来	Bc	.199	1.70	658	361
548	.905	ツレル	連	シ	.201	1.77	648	369
549	.904	テガミ	手紙	Cc	.228	2.87	566.5	594.5
550	.904	ヒクイ	低	Ad	.137	.417	972.5	59
551	.904	ト	都	Bc	.196	1.62	666.5	334.5
552	.903	オコシ	起・発・興	シ	.201	1.79	648	377
553	.903	イヨイヨ		シ	.194	1.57	675	327
554	.902	センシユク	選手	Eb	.345	13.9	343	1072.5
555	.902	ガイコク	外国	Ad	.171	.980	771.5	191
556	.899	ススミ	進	Cc	.215	2.36	606	493.5
557	.898	エラビ		Bc	.187	1.40	702.5	298.5
558	.897	イッパイ	[副]	Ad	.173	1.05	760	208
559	.895	ノコシ		Bc	.203	1.94	636.5	405.5
560	.895	ニル	似	Ad	.169	.973	784	139

基本 順位	度 z	見出し		カ テ ゴ リ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
561	.894	ハル	春	Cc	.228	3.04	566.5	612
562	.893	カナリ	[副]	Be	.201	1.89	648	395.5
563	.892	サクネン	昨年	Db	.293	7.92	423	964
564	.892	クミ	組	Cc	.217	2.55	598.5	538.5
565	.888	ウチ	家	Cc	.219	2.69	591	565
566	.885-	ダメ	駄目	Be	.203	2.06	636.5	427
567	.884	ケイカク	計画	Eb	.349	16.1	337	1095
568	.883	ドリョク	努力	Be	.208	2.25	624	467.5
569	.882	セイフ	政府	Eb	.306	9.86	400	1005
570	.882	アツマリ.ル		Ad	.155	.756	864	135
571	.880	イタシ.ス		De	.242	4.10	522.5	761
572	.880-	ロウドウ	労働	Eb	.306	10.0	402	1012
573	.879	ムカイ.ウ	向	Cc	.231	3.46	560	685
574	.879	ハツビヤク	八方法	Eb	.320	11.9	382.5	1047
575	.878	ハウホウ	方法	Db	.265-	5.85-	471.5	892
576	.878	リョウ	料	Ae	.130	.395-	1042.5	51
577	.877	ハジマリ.ル		Cc	.224	3.11	577	620
578	.877	ケツシテ		Be	.185-	1.51	718	318
579	.875	アメ	雨	Ad	.164	.966	803	186.5
580	.873	タベル		Db	.267	6.21	466.5	909
581	.872	ゼンゼン	全然	Ad	.148	.666	905	114
582	.871	ヨミ.ム	読	Db	.288	8.36	434.5	975
583	.870	ケツカ	結果・結類	シ	.272	6.76	457	926
584	.870-	ハツケン	発見	Bd	.178	1.36	747	285.5
585	.868	アケル	開	Be	.187	1.65-	702.5	342
586	.868	セイカク	性格	Ad	.162	.961	817.5	184
587	.867	タノシイ		Cc	.212	2.68	612	560.5
588	.866	ジョウケン	条件	Be	.192	1.85	681.5	385.5
589	.865	フリ	[飲むフリなどの]	Ad	.171	1.19	771.5	243.5
590	.864	サイコウ	最高	Ae	.132	.452	1020	68
591	.862	ツキ	month	Ad	.157	.880	846	164
592	.860	ヒン	品	De	.246	4.87	513	838
593	.859	ショウネン	少年	Be	.199	2.20	658	457
594	.859	チュウイ	注意	Cc	.205	2.52	629.5	530.5
595	.855	ジドウ	自動	De	.235	4.22	545.5	769
596	.855-	リエキ	利益	Eb	.304	11.2	406	1032
597	.855-	オヨビ	[接]	シ	.342	17.5	348.5	1109.5
598	.854	ジツサイ	実際	Cc	.219	3.25-	591	646
599.5	.854	ウシナイ.ウ		Be	.187	1.79	702.5	377
シ	.854	ゲンイン	原因	シ	.187	1.79	702.5	377
601	.853	シヨウ	使用	Cc	.226	3.69	573.5	716.5
602	.852	ツイに		Be	.196	2.16	666.5	446.5
603	.850	ダイ	代・台(orderの意)	シ	.196	2.18	666.5	452.5
604	.849	コウカ	効果	シ	.189	1.91	689	400
605	.849	ヨク	[しばしばの意]	Ad	.160	1.02	831.5	202
606	.847	ショウ	省	Eb	.294	10.3	419.5	1016
607	.845-	フタタビ	再	Ad	.162	1.09	817.5	218
608	.844	セイサン	生産	Eb	.367	24.3	327	1140
609	.843	トウゼン	当然	Be	.192	2.10	681.5	432
610	.843	マタは		De	.246	5.37	513	867
611	.842	コクミン	国民	Eb	.288	9.78	434.5	1003
612	.841	ゼツタイ	絶対	Bd	.171	1.37	771.5	289.5
613	.840	イヤ	否	De	.249	5.72	508	885
614	.839	イウタイ.ウ		Cc	.210	3.01	618	609
615	.839	ドウ	同	De	.253	6.11	501.5	900.5
616	.838	ダン	団	Be	.194	2.24	675	464
617	.837	カン	館	シ	.185-	1.88	718	392.5
618	.837	センモン	専門	Ae	.126	.439	1075	65
619	.834	リョウ	利用	De	.246	5.64	513	881.5
620	.832	キョウイク	教育	シ	.224	3.99	577	749.5
621	.831	アリガタイ		Ae	.119	.365	1147.5	45
622	.831	フネ		Ad	.162	1.18	817.5	238.5
623	.829	イヤ	嫌・厭	Cc	.205	2.90	629.5	598.5
624	.828	コウジョウ	工場	Eb	.340	19.8	351.5	1119
625	.828	オオク	多	Ad	.162	1.19	817.5	243.5

基本度 順位	z	見出し		カテ ゴリ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
626	.828	キョク	局	Cc	.199	2.61	658	546
627	.826	カンタン	簡単	Ad	.153	.974	878.5	190
628	.825	イケン	意見	Cc	.196	2.50-	666.5	525
629	.823	ツモリ	積・心算	シ	.194	2.43	675	515
630	.823	モウシ.ス	申	Dc	.235	5.03	545.5	847.5
631	.822	ゼン	全	Cc	.210	3.30	618	657
632	.821	オオイに, なる		Bd	.178	1.73	747	372.5
633	.819	ニンキ	人気	Cc	.196	2.65-	666.5	552
634	.819	ムラ	村	Bc	.189	2.26	689	470.5
635	.818	カワリ	代・替・変	Ad	.157	1.12	846	227
636	.818	ゴセン	五千	Eb	.342	21.4	348.5	1127
637	.816	マチガイ		Ad	.137	.677	972.5	120
638	.816	リップ	立派	Bd	.162	1.28	817.5	266
639	.815	バン	番	Cc	.215-	3.75-	606	721
640	.815	トウ	等[例示の]	Eb	.306	14.3	401	1078
641	.814	オト	音	Cc	.210	3.45-	618	679.5
642	.813	カゲ	影・陰	シ	.192	2.47	681.5	520
643	.811	オドロキ.ク		シ	.208	3.38	624	669
644	.809	アイ	相	Ae	.135-	.666	997.5	114
645	.809	セイシン	精神	Dc	.221	4.31	583.5	784
646	.807	ア, アア	[感]	シ	.242	6.14	522.5	903.5
647	.806	ブンカ	文化	シ	.253	7.33	501.5	942
648	.805-	キタイ	期待	シ	.233	5.40	552.5	872
649	.802	● ゼンタイ	[すもゝの黒星]	Eb	.338	22.4	356.5	1134
650	.802	ゼンタイ	全体	Cc	.201	3.13	648	627.5
651	.801	ダンダン	段々	Ae	.130	.604	1042.5	101.5
652	.794	リョコウ	旅行	Bd	.162	1.44	817.5	308.5
653	.794	ハッピーウ	発表	Cc	.201	3.27	648	650.5
654	.791	モットモ	尤	Ad	.146	.987	921	193
655	.790-	ホンシ	本誌	Ae	.114	.391	1207	49.5
656	.790-	ナガメル		Bd	.164	1.55-	803	324
657	.790-	オソラク		Ad	.148	1.04	905	206.5
658	.789	タイ	隊	Dd	.173	6.33	760	915
659	.787	エ	絵	Dc	.219	4.71	591	821
660	.786	オチル		Bd	.167	1.69	793.5	359
661	.786	タダシ	但	Ad	.139	.847	959.5	156
662	.785-	コクサイ	国際	Ec	.258	8.86	490	984
663	.784	ニクイ	憎・難	Ae	.128	.624	1057	105
664	.784	イカ	以下	Bd	.178	2.18	747	452.5
665	.783	ウラ	裏	Eb	.343	26.3	345	1150
666	.780-	シロイ		Cc	.199	3.41	658	673
667	.779	タダシ		Bd	.151	1.20	889.5	247
668	.776	オシエル		Ae	.121	.529	1120	80.5
669	.775-	キボウ	希望	Cc	.201	3.63	648	709
670	.775-	スッカリ		Ad	.148	1.14	905	230
671	.774	タイセツ	大切	Bd	.169	1.89	784	395.5
672	.774	サンゼン	三千	Eb	.285	13.7	439	1069.5
673	.774	カタ	肩	シ	.262	9.98	484.5	1011
674	.774	フクミ.ム		Ae	.114	.427	1207	63
675	.772	アテル	当・充・衝	シ	.132	.752	1020	134
676.5	.772	ケイケン	経験	Ad	.148	1.16	905	233.5
シ	.772	ハコビ.ブ		シ	.148	1.16	905	233.5
678	.769	ジョウタイ	状態	Dc	.228	6.03	566.5	898
679	.769	ノベル	述	Cc	.187	2.85-	702.5	591
680	.769	イッタイ	一体	Cd	.178	2.37	747	498.5
681	.768	ケンコウ	健康	Ad	.139	.933	959.5	174.5
682	.768	アワセル		Eb	.262	10.3	479.5	1016
683	.767	タイヨウ	太陽	Bd	.169	1.97	784	413
684	.765-	モチ.ッ	以	Cc	.192	3.23	681.5	641.5
685	.765-	ソウダン	相談	Bd	.160	1.62	831.5	334.5
686	.762	ミカエシ	見返し[裁]	Eb	.396	50.8	304	1215
687	.762	セイコウ	成功	Bd	.157	1.53	846	322
688	.761	ジュウ	中	シ	.148	1.23	905	255.5
689	.761	フシギ	不思議	Cc	.185-	2.37	718	594.5
690	.760-	リユウ	理由	シ	.187	2.80	702.5	586

基本 順位	度 z	見出し		カ テ ゴ リ	変数値		変数順位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
691	.757	カ	テ	De	.221	5.73	583.5	886.5
692	.757	ビ	ョウ	Bd	.167	1.99	793.5	417
693	.755	ウ	ジ.	シ	.162	1.79	817.5	377
694	.753	ハ	シ	De	.210	4.83	618	833.5
695	.752	リ.	ル	Ce	.196	3.74	666.5	720
696	.752	ヤ	ガ	シ	.189	3.26	689	648.5
697	.752	テ	シ	シ	.187	3.14	702.5	627.5
698	.751	エ	キ	De	.203	4.29	636.5	779
699	.750	イ	タ	Eb	.230	14.6	446	1081
700	.750	リ.	ョウ	Bd	.171	2.26	771.5	470.5
701	.749	イ	チ	シ	.162	1.85	817.5	385.5
702	.748	オ	ウ	シ	.153	1.50	878.5	316
703	.747	メ	イ	De	.201	4.23	648	771
704	.745	ド	ウ	Bd	.153	1.52	878.5	319.5
705	.744	コ	ウ	De	.210	5.08	618	851
706	.744	ウ	シ	Bd	.155	1.61	864	332
707	.743	シ	イ	Cd	.178	2.73	747	570.5
708	.743	ト	リ	Ae	.126	1.740	1075	132
709	.741	ラ	シ	De	.196	3.97	666.5	748
710	.741	シ	ア	Cd	.176	2.64	753	550.5
711	.740	ゲ	ル	Bd	.146	1.31	921	275
712	.738	ル	ク	Ce	.183	3.12	730.5	624
713	.738	エ	グ	Eb	.264	12.5	474	1054
714	.736	フ	ジ	De	.221	6.46	583.5	917
715	.735	ン	ン	Ae	.123	1.704	1096.5	126
716	.733	メ	イ	Bd	.157	1.79	846	377
717	.733	カ	コ	Eb	.267	13.4	466.5	1067.5
718	.732	マ	ワ	Ec	.242	9.28	522.5	991.5
719	.731	ワ	ン	Ce	.189	3.67	689	712.5
720	.728	シ	イ	De	.219	6.52	591	919.5
721	.727	ウ	ン	Bd	.146	1.41	921	302
722	.727	シ	イ	Eb	.327	29.9	369	1162.5
723	.727	オ	モ	Ce	.185	3.46	718	684.5
724	.726	テ	キ	De	.217	6.36	598.5	916
725	.726	ド	ル	Bd	.157	1.87	846	390
726	.725	ゴ	シ	Bd	.151	1.62	889.5	334.5
727	.723	ソ	ン	Ae	.119	1.663	1147.5	111
728	.723	ザ	イ	Cb	.185	3.54	718	697
729	.722	カ	ワ	Cd	.167	2.41	793.5	510.5
730	.720	カ	ン	Ad	.137	1.15	972.5	231
731	.720	カ	ギ	De	.226	7.66	573.5	957
732	.719	リ.	ル	シ	.210	5.82	618	891
733	.718	シ	ョウ	Ce	.187	3.78	702.5	725
734	.715	セ	イ	Bd	.144	1.43	934.5	306
735	.714	ト	オ	Ec	.256	12.7	496	1056.5
736	.713	フ	ユ	シ	.249	11.5	508	1036
737	.710	ズ	ツ	シ	.237	9.66	537	1000
738	.710	ロ	ッ	De	.201	5.20	648	856
739	.708	ビ	ャ	Cd	.178	3.31	747	659.5
740	.708	ク	ハ	De	.192	4.45	681.5	803
741	.705	ケ	イ	Cd	.162	2.36	817.5	493.5
742	.705	サ	ツ	Cd	.171	2.90	771.5	598.5
743	.704	ツ	バ	De	.215	6.91	606	929
744	.704	マ	ア	シ	.192	4.51	681.5	806
745	.703	マル	デ	Cd	.162	2.38	817.5	501.5
746	.701	フ	ウ	シ	.164	2.53	803	533
747	.700	ケ	イ	Bd	.144	1.55	934.5	325
748	.699	ヘ	ン	Ae	.116	1.690	1177	124
749.5	.698	シ	シ	Bd	.157	2.18	846	452.5
750	.698	ム	カ	シ	.157	2.18	846	452.5
751	.697	ヤ	マ	Bd	.157	2.19	846	455.5
752	.695	モ	ト	シ	.137	1.32	972.5	277
753	.694	ス	ミ	シ	.146	1.69	921	359
754	.693	ム	カ	Ec	.233	9.97	552.5	1010
755	.693	エ	シ	Ae	.132	1.16	1020	234

基 本 度 順位	z	見 出 し		カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
756	.693	ハウソウ	放送	Dc	.189	4.52	689	807.5
757	.691	マド	窓	Bd	.155	2.15	864	445
758	.690	カア	母場	Ec	.237	10.8	537	1026
759	.690-	ジョウ	場	Bd	.155	2.17	864	449
760	.690-	ミミ	耳	Cd	.171	3.15	771.5	630.5
761	.689	カンシ.スル	関	Ec	.237	10.9	537	1028
762	.687	カンゼン	完	Cd	.164	2.72	803	567.5
763	.687	エン	全	Bd	.144	1.67	934.5	354
764	.685-	○	園	Ec	.285	22.4	439	1134
765	.681	シラベル	[すもうの白星]	Ae	.126	1.04	206.5	1075
766	.681	カタイ	堅・固・硬	Be	.135-	1.35-	997.5	283
767	.680	ペエジ	page	Ec	.242	12.4	522.5	1052.5
768	.679	シドウ	指導	Bd	.139	1.52	959.5	319.5
769	.679	イッソウ	一層	Ae	.130	1.18	1042.5	238.5
770	.678	ゾウシ	増資	Eb	.345-	48.0	343	1205
771	.676	ヤメル		Cd	.160	2.64	831.5	550.5
772	.675	ウミ	海・湖	シ	.176	3.80	753	728
773	.675	オサエル		シ	.169	3.26	784	648.5
774	.675-	カメラ		シ	.171	3.42	771.5	675.5
775	.672	ユニュー	輸入	Dd	.180	4.22	740	769
776	.670-	ゼンコク	全国	Cd	.160	2.73	831.5	570.5
777	.670-	ヨッカ	四日	Ae	.121	.949	1120	179
778	.669	ザ	座	Dc	.183	4.56	730.5	811
779	.669	シホン	資本	Eb	.290	26.1	429	1149
780	.669	カブ	株	シ	.301	30.1	411	1164
781	.666	カン	官	Dc	.189	5.23	689	859.5
782	.666	エ, エエ	[感]	Dd	.176	4.00	753	751.5
783	.666	キロク	記録	Cd	.153	2.36	878.5	493.5
784	.664	ゴト	毎	Eb	.276	22.2	452	1131.5
785	.663	ノビル	伸・延	Bd	.148	2.11	905	437.5
786	.663	メイジ	明治	Dd	.180	4.43	740	798.5
787	.663	ドクシヤ	読者	Be	.123	1.22	1057	252.5
788	.662	シヤク	尺	Cd	.155	2.53	864	533
789	.660-	リュウ	流	シ	.169	3.55	784	699
790	.659	キコエル		シ	.167	3.40	793.5	671.5
791	.659	ヤツ	奴	Dc	.199	6.64	658	924
792	.658	トウシヤ	当社	Eb	.338	49.6	356.5	1209.5
793	.658	ムコウ	向	Be	.132	1.41	1020	302
794	.657	リツ	率	Eb	.282	25.1	442	1142
795	.656	アイシ.スル	愛	Cd	.155	2.61	864	546
796	.655-	ドイツ	[国名]	シ	.157	2.76	846	578
797	.653	オシ.ス	抑・推・捺	Dd	.171	3.86	771.5	739
798	.651	シュウカン	週間	Be	.135-	1.59	997.5	329.5
799	.650	ヘンカ	変化	シ	.126	1.23	1075	255.5
800	.650	モチイル	用	Dc	.185-	5.28	718	861
801	.649	ウレシイ		Cd	.153	2.59	878.5	543
802	.647	ワ	輪	Eb	.317	41.3	385.5	1189
803	.646	クビ	首・臆首	Cd	.160	3.12	831.5	624
804	.645	ツタエル		Ae	.119	1.02	1147.5	202
805	.645-	ステル		Bd	.139	1.84	959.5	384
806	.645-	タイ	対	Ec	.219	10.3	591	1016
807	.643	ノゾミ.ム	望	Be	.132	1.53	1020	322
808	.642	ハライ.ウ		Ae	.116	.940	1177	177
809	.640	ナルベク		シ	.116	.951	1177	181
810	.639	ラジオ		Be	.126	1.31	1075	275
811	.638	ギジュツ	技術	Ec	.210	9.10	618	988
812	.637	ワカレル		Cd	.162	3.43	817.5	678
813	.635	ケイエイ	経営	Eb	.267	22.0	466.5	1128
814	.635-	ウリ.ル	売	Be	.126	1.34	1075	280.5
815	.635-	オモイ	思・想	Cd	.155	2.94	864	603
816	.634	ミズカラ		Be	.126	1.35	1075	283
817	.631	ムスビ.フ		Ec	.221	11.5-	583.5	1036
818	.630	ハクシ	博士	Bd	.144	2.28	934.5	474.5
819	.629	オモイ	重	Ae	.116	1.01	1177	197.5
820	.629	ショウカイ	紹介	Be	.135-	1.80	997.5	381

基本度 順位	z	見出し	カテ ゴリ	変数値		変数順位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
821	.626	ナイヨウ	内容	De	.187	6.26	702.5	913
822	.625	スナワチ		Dd	.171	4.50	771.5	804.5
823	.623	リョウ	料理	シ	.171	4.54	771.5	809.5
824	.621	スイウ	縫	Eb	.308	42.7	397	1191
825	.621	ショウライ	将来	Dd	.169	4.40	784	794
826	.617	タン	単	Be	.121	1.27	1120	261.5
827	.616	ハイ	杯	Ec	.246	18.7	513	1116
828	.616	ヒ	火	Dd	.171	4.73	771.5	883
829	.615	アナ	穴・孔	Be	.121	1.28	1120	266
830	.614	クライ	暗	Cd	.148	2.77	905	581.5
831	.613	ヨウス	様子	Be	.132	1.80	1020	381
832	.613	ミリョク	魅力	シ	.135	1.96	997.5	410
833	.611	コ	箇・個	Ec	.221	12.8	583.5	1058.5
834	.611	ザッシ	雑誌	Dd	.164	4.14	803	763.5
835	.610	サク	作	Be	.135	1.99	997.5	417
836	.610	シアイ	試合	Ec	.242	18.2	522.5	1111.5
837	.609	チョウサ	調査	Dd	.180	5.96	740	894.5
838	.609	ブタイ	舞台	Cd	.153	3.22	878.5	640
839	.609	ワレ	[代]	シ	.160	3.82	831.5	731.5
840	.607	トクベツ	特別	Dd	.162	4.05	817.5	757
841	.606	ナガレル		Cd	.151	3.11	889.5	620
842	.605	キョウト	京都	シ	.155	3.46	864	685
843	.603	リカイ	理解	Be	.132	1.90	1020	398.5
844	.603	コク	国	De	.187	7.13	702.5	937
845	.603	スジ	筋	Be	.123	1.46	1096.5	311
846	.602	タイカイ	大会	Cd	.144	2.67	934.5	555.5
847	.601	カンガエ	考	シ	.146	2.82	921	589
848	.601	ホン	book	シ	.153	3.37	878.5	666.5
849	.600	ケ	家	Dd	.164	4.41	803	795.5
850	.599	ナカマ	仲間	シ	.167	4.74	793.5	825.5
851	.599	ケツタイ	決定	Dd	.180	6.32	740	914
852	.598	キエル	消	Bd	.137	2.25	972.5	466
853	.598	サイ	際	Be	.126	1.64	1075	339.5
854	.598	アミム	編	Eb	.304	46.1	406	1201
855	.598	ファン	fan	Ec	.212	11.8	612	1044.5
856	.597	クラベル		Dd	.167	4.80	793.5	830
857	.594	ハカリル	計・測・図	Cd	.155	3.68	864	714.5
858	.592	イ	[符号]	シ	.151	3.36	839.5	664
859	.592	ヨンセン	四千	Eb	.267	29.2	466.5	1159
860	.591	ドモ	[接尾]	Be	.130	1.92	1042.5	401.5
861	.590	チョウシ	調子	シ	.121	1.47	1120	312.5
862	.590	ダイ	台	シ	.132	2.05	1020	424
863	.588	バカ		Cd	.146	3.03	921	610.5
864	.588	ナミダ	涙	シ	.155	3.81	864	730
865	.586	トオシス		De	.183	7.23	730.5	941
866	.585	グン	郡	Cd	.148	3.24	905	644
867	.585	キュウ	急	Dd	.155	3.87	864	740
868	.585	サイバン	裁判	De	.189	8.21	689	972
869	.584	シンジズル	信	Be	.130	1.99	1042.5	417
870	.584	イイン	委員	Ec	.201	10.4	648	1020
871	.581	ヤット	[副]	Cd	.137	2.48	972.5	523
872	.580	ブンガク	文学	Eb	.262	29.0	479.5	1158
873.5	.579	オボエル		Be	.123	1.66	1096.5	349
シ	.579	カエツテ	却	シ	.123	1.66	1096.5	349
875	.578	シュミ	趣味	Dd	.164	4.96	803	843
876	.578	マワシス		Be	.116	1.34	1177	280.5
877	.576	アキラカ		Cd	.151	3.67	839.5	712.5
878	.574	ネツ	熱	Be	.116	1.37	1177	289.5
879	.574	イク	幾	シ	.123	1.71	1096.5	362
880	.573	キツ	[副]	Cd	.137	2.58	972.5	542
881	.573	ソウ	総	シ	.144	3.12	934.5	624
882	.571	ジギョウ	事業	Ec	.237	20.8	537	1126
883	.571	イシキ	意識	De	.185	8.15	718	970
884	.571	イチブ	一部	Ec	.203	11.6	636.5	1038.5
885	.569	タガイ	互	Be	.135	1.38	997.5	294

基 本 度 順位	z	見 出 し	カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
886	.568	ハッテン	発展	Ec	.208	12.9	624	1061
887	.568	モノガタリ	物語	Cd	.144	3.21	934.5	639
888	.567	サリル	去	シ	.139	2.83	959.5	590
889	.567	シンケイ	神経	シ	.142	3.07	948.5	615
890	.566	ゲンダイ	現代	Dd	.169	5.96	784	894.5
891	.565	トチ	土地	Ce	.132	2.35	1020	489
892	.565	オオ	大	シ	.135	2.56	997.5	538.5
893	.564	フト	[副]	Cd	.148	3.64	905	710
894	.564	ハウコク	報告	Ce	.132	2.36	1020	493.5
895	.563	モドリル		Dd	.162	5.16	817.5	855
896	.561	キョウミ	興味	Cd	.142	3.16	948.5	633
897	.560	アネ	姉・姐	Be	.121	1.74	1120	365.5
898	.559	ハラ	腹・肚	Cd	.144	3.37	934.5	666.5
899	.557	ウデ	腕	Dd	.157	4.74	846	825.5
900	.556	コウドウ	行動	Be	.114	1.42	1207	304
901	.555	テンニ	.2	Ec	.208	14.0	624	1074.5
902	.551	クルマ	車	Dd	.153	4.43	878.5	798.5
903	.550	アジ	味	シ	.173	7.09	760	935
904	.550	チュウゴク	[国名]中国	シ	.148	3.93	905	744
905	.550	カガク	科学	シ	.155	4.69	864	819.5
906	.549	タナカ	[人]田中	Cd	.146	3.76	921	722.5
907	.548	ジンブツ	人物	シ	.144	3.59	934.5	704
908	.546	コンゴ	今後	Ec	.203	13.3	636.5	1066
909	.546	スカアト		Eb	.281	45.6	444	1199
910	.546	イギリス		Dd	.151	4.34	889.5	787.5
911	.545	ヨ	世	Ce	.132	2.62	1020	548.5
912	.544	フタ	二	Ec	.212	15.9	612	1092.5
913	.542	バン	晩	Ce	.128	2.37	1057	498.5
914	.541	ホクカイドウ	北海道	シ	.132	2.68	1020	560.5
915	.540	カブク	家族	Be	.116	1.65	1177	342
916	.540	フレル	触	シ	.126	2.26	1075	470.5
917	.539	ネライウ		シ	.116	1.66	1177	349
918	.539	キカイ	機械・器械	Ec	.183	9.37	730.5	994
919	.539	ロクセン	六千	シ	.255	32.9	498	1169
920	.538	コノゴロ		Be	.116	1.67	1177	354
921	.537	ナマエ	名前	Cd	.142	3.62	948.5	707.5
922	.536	カンセイ	完成	Dd	.148	4.24	905	772.5
923	.536	コウフク	幸福	シ	.153	4.82	878.5	832
924	.536	ハバ	幅	Ec	.253	32.4	501.5	1167
925	.536	ウツリル	轉移	Be	.123	2.11	1096.5	437.5
926	.530	カツドウ	活動	Ce	.130	2.68	1042.5	560.5
927	.530	リュウコウ	流行	Dd	.155	5.22	864	857.5
928	.530	タカハシ	[人]高橋	Be	.121	2.05	1120	425.5
929	.530	コタエ	答・応	Ce	.128	2.54	1057	535.5
930	.529	アツメル		シ	.135	3.11	997.5	620
931	.529	チカク	近	シ	.132	2.86	1020	592.5
932	.529	サゲル	下・提	Be	.119	1.93	1147.5	403.5
933	.528	イワユル		Cd	.142	3.80	948.5	728
934	.527	サガシス		Ce	.128	2.57	1057	541
935	.526	ムキ	向	シ	.130	2.75	1042.5	575
936	.526	ツネ	常	Be	.119	1.97	1147.5	413
937	.525	ヤ	[休みの印 や]	Ec	.226	22.4	573.5	1134
938	.523	カツテ	管	Be	.123	2.26	1096.5	470.5
939	.523	カイギ	会議	Dd	.160	6.14	831.5	903.5
940	.520	セキニン	責任	シ	.173	8.39	760	976
941.5	.520	シチヒヤク	七百	Ec	.202	15.1	641	1088
シ	.520	ヘイワ	平和	Dd	.144	4.19	934.5	766
943	.517	ヒカリ		Ce	.130	2.88	1042.5	596
944.5	.516	エイキョウ	影響	Dd	.153	5.38	878.5	868.5
シ	.516	ショウ	小	Ec	.187	11.5	702.5	1036
946	.516	メズラシイ		Dd	.151	5.12	889.5	853
947	.515	ヨウキョウ	要求	Be	.121	2.23	1120	461
948	.514	ヤクソク	約束	Ce	.126	2.61	1075	546
949	.514	シヨク	色	Be	.121	2.24	1120	464
950	.512	ヒハン	批判	Dd	.167	7.65	793.5	956

基本 順位	度 z	見 出 し	カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
951	.512	コジン	個人	Dd	.160	6.52	831.5	919.5
952	.510	イン	院	Ce	.126	2.67	1075	555.5
953	.509	オカシ <small>い、な</small>		Cd	.137	3.69	972.5	716.5
954	.508	ジン	自信	Be	.121	2.31	1120	484
955	.507	ダイ	大臣	Dd	.162	7.02	817.5	931
956	.507	ソコ	底	Be	.114	1.86	1207	387.5
957	.506	カナシ		シ	.119	2.19	1147.5	455.5
958	.505	ジキ	時期	Dd	.151	5.39	889.5	870.5
959	.505	カイ	解決	Ce	.135	3.56	997.5	700
960	.505	ツメ	タイ	Be	.123	1.38	1096.5	294
961	.504	アイ	愛情	Dd	.142	4.34	948.5	787.5
962	.503	ベン	勉強	シ	.139	4.02	959.5	754.5
963	.503	ゲン	現実	Ec	.183	11.4	730.5	1033.5
964	.502	シト	士	Ce	.126	2.78	1075	584
965	.502	コト	殊	シ	.128	2.95	1057	605
966	.502	オイ	追	Dd	.137	3.83	972.5	734
967	.501	ネル	寧	Ce	.135	3.58	997.5	701.5
968	.500	ヘン	返事	シ	.132	3.37	1020	666.5
969	.499	サシ	刺・差・指・挿・注	シ	.121	2.43	1120	515
970	.495	ハヤ	[人]林	シ	.121	2.48	1120	523
971	.495	イリ	入	シ	.123	2.65	1096.5	553
972.5	.494	ソラ	空・虚	Dd	.137	3.99	972.5	749.5
シ	.494	ツキ	突・衝・搦	Be	.119	2.34	1147.5	488
974	.494	サビ		Ce	.132	3.47	1020	687.5
975	.493	テレビ		シ	.130	3.30	1042.5	657
976	.492	キム	[人]木村	Ce	.121	2.52	1120	530.5
977	.492	ツエ	出演	Ed	.169	8.95	784	987
978	.491	ミツ	三	Ce	.119	2.38	1147.5	501.5
979	.491	ヤヤ	稍	シ	.126	2.96	1075	606
980	.488	ヤキ	野球	Ec	.185	12.9	718	1061
981	.486	チ	血	Ce	.130	3.42	675.5	1042.5
982	.486	ダマ		De	.135	3.96	997.5	747
983	.485	コロ		Dd	.160	7.56	831.5	949
984	.483	ウマ	馬・午	シ	.148	5.69	905	884
985	.483	ハイ	配当	Eb	.262	49.6	479.5	1209.5
986	.482	アソ		Ce	.126	3.11	1075	620
987	.481	バ	場	De	.135	4.05	997.5	757
988	.481	オロ	下・卸	Be	.116	2.29	1177	478.5
989	.481	ロン	論	Dd	.137	4.30	972.5	782
990	.479	スン	寸	De	.135	4.11	997.5	762
991	.477	ユシ	輸出	Ec	.239	36.1	531	1180
992	.477	ギ	企業	シ	.228	30.3	566.5	1165
993	.476	トビ	飛・跳	Dd	.142	5.07	948.5	849.5
994	.475	クミ	組合	Ec	.187	14.4	702.5	1079
995	.475	ナキ	泣・鳴	Dd	.155	7.10	864	936
996	.474	ソバ	傍	Ce	.132	3.45	1020	682
997	.471	バス	bus	De	.132	3.94	1020	745.5
998	.470	カエ	返	Ec	.183	13.7	730.5	1069.5
999.5	.469	コウ	行為	Ce	.119	2.69	1147.5	565
シ	.469	ナラ	並	シ	.119	2.69	1147.5	565
1001	.469	ギン	銀行	Ec	.199	18.9	658	1117
1002	.466	セイ	製作	De	.130	3.83	1042.5	734
1003	.465	カノ	可能	Dd	.144	5.66	934.5	883
1004	.465	キカ	機関	Ed	.169	10.4	784	1020
1005	.462	キモ	着物	Dd	.155	7.60	864	952.5
1006	.461	オモ		Ce	.116	2.55	1177	538.5
1007	.461	ケン	権	Ed	.164	9.48	803	995.5
1008	.461	ナカ	[人]中村	Dd	.139	5.07	959.5	849.5
1009	.458	ノバ	伸・延	シ	.146	6.19	907	921
1010	.456	クロ	イ	Ce	.119	2.89	1147.5	597
1011	.456	スノ	布	Ec	.237	39.3	537	1185.5
1012	.455	ソデ		シ	.215	49.0	606	1207
1013	.453	ハリ	張・貼	Ce	.123	3.23	1096.5	662
1014	.448	ロ	[符号]	シ	.123	3.42	1096.5	675.5
1015	.447	オド		シ	.119	3.03	1147.5	610.5

基本度 順位	z	見出し	カテ ゴリ	変数値		変数順位	
				p (%)	sc (%)	p	sc
1016	.447	ワキ	脇	.226	34.5	573.5	1175
1017	.447	ダチ.ッ	切	.235	40.1	545.5	1187
1018	.445-	キレイ	綺麗	.135-	4.96	997.5	843
1019	.445-	スイシロ	縫代[裁]	.246	48.2	513	1206
1020	.443	セツビ	設備	.224	34.0	577	1173.5
1021	.443	タマリ.ル	堪・溜	.119	3.10	1147.5	616.5
1022	.443	インシヨウ	印象	.137	5.30	972.5	862.5
1023	.442	エリ	襟	.242	45.9	522.5	1200
1024	.440-	フエル	殖・増	.137	5.39	972.5	870.5
1025	.439	レンチュウ	連中	.130	4.43	1042.5	798.5
1026	.432	モト	下・許	.119	3.29	1147.5	654
1027	.432	トメル	止・停・留・泊	.164	11.1	803	1030
1028	.432	ユエ	故階	.116	3.00	1177	607.5
1029	.430-	カイ	階	.126	4.15-	1075	765
1030	.430-	タノミ.ム		.123	3.79	1096.5	726
1031	.429	ロウジン	老人	.132	4.97	1020	845
1032	.428	シキン	資金	.221	35.2	583.5	1177
1033	.426	コウエスト		.242	50.1	527	1213
1034	.425	アツイ	熱	.119	3.42	1147.5	675.5
1035.5	.425	コウシヨウ	交渉	.144	7.05	934.5	932
シ	.425	トン	ton	.221	35.7	583.5	1178.5
1037	.425-	ハッセン	八千	.203	26.0	636.5	1148
1038	.424	アカ	赤	.164	11.6	803	1038.5
1039	.424	オリ.ル	下・降	.126	4.28	1075	777
1040	.423	ジ	次	.135-	5.58	997.5	878
1041	.423	カチ.ッ	勝	.146	7.52	921	947
1042	.423	コシ	腰	.116	3.15	1177	630.5
1043	.423	コウコウ	高校	.130	4.85	1042.5	836
1044	.423	ハ	派	.157	9.92	846	1007
1045	.420	クセ	癖	.119	3.52	1147.5	693.5
1046	.420	サスガ		.128	4.62	1057	813
1047	.420-	オトウト	弟	.126	4.38	1075	791
1048	.420-	ジョク	条曲	.215-	33.2	606	1171
1049	.419	キョク	模	.137	6.04	972.5	899
1050	.418	モヨウ	模様	.201	25.9	648	1147
1051	.418	テンシチ	.7	.189	20.6	689	1124
1052	.417	テンハチ	.8	.178	16.5-	747	1099
1053	.416	ヨコ	横	.121	3.85	1120	738
1054	.415-	スワリ.ル		.116	3.30	1177	657
1055	.414	トウシュ	投手	.183	18.6	730.5	1114.5
1056	.414	イラッシャリ.ル		.135-	5.89	997.5	893
1057	.413	トモダチ	友達	.132	5.42	1020	873
1058	.413	バイ	倍	.142	7.17	948.5	938.5
1059	.411	コウギョウ	工業	.212	33.0	612	1170
1060	.410-	ギンザ	銀座	.114	3.17	1207	635.5
1061	.403	ヨソウ	予想	.180	18.6	740	1114.5
1062	.403	サクカ	作家	.173	16.0	760	1094
1063	.401	アニ	兄	.132	5.80	1020	889
1064	.399	オコリ.ル	怒	.116	3.59	1177	704
1065	.399	テンサン	.3	.183	20.6	730.5	1124
1066	.397	ゾウカ	増加	.205	31.5	629.5	1166
1067	.395	スソ	裾	.217	39.3	598.5	1185.5
1068	.395	セン	船	.148	9.23	905	990
1069	.395-	シマツ	始末	.121	4.32	1120	785
1070	.394	シュ	手	.160	12.5	831.5	1055
1071	.394	ホテル		.121	4.34	1120	787.5
1072	.394	キョウサン	共産	.155	11.1	864	1030
1073	.393	ブツ	物	.157	11.7	846	1041.5
1074.5	.390-	ジ	寺	.121	4.44	1120	801.5
シ	.390-	ミナミ	南	.121	4.44	1120	801.5
1076	.389	ビョウ	病	.116	3.80	1177	728
1077	.389	ニゲル		.123	4.75	1096.5	827
1078	.388	アン	案	.142	8.20	948.5	971
1079	.388	タマ	玉・球・弾丸	.126	5.22	1075	857.5
1080	.388	ミッカ	三日	.116	3.82	1177	731.5

基 本 度 順位	z	見 出 し	カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
1081.5	.384	シュジュツ	手術	De	.119	4.29	1147.5	779
シ	.384	ヨセル	寄	シ	.119	4.29	1147.5	779
1083	.383	イナ	位置	Ec	.183	22.1	730.5	1129.5
1084	.381	レキシ	歴史	Ed	.142	8.53	948.5	979
1085	.380	スポオツ		De	.130	6.15	1042.5	905.5
1086	.377	ゲンシ	原子	Ed	.176	19.7	753	1118
1087	.375	シ	死	De	.126	5.62	1075	880
1088	.374	シュチョウ	主張	シ	.132	6.73	1020	925
1089	.374	フリル	振	シ	.123	5.15	1096.5	854
1090	.373	チカゴロ		シ	.114	3.88	1207	741
1091	.370	ホウメン	方面	シ	.114	3.94	1207	745.5
1092	.370	マル	丸	シ	.121	4.95	1120	841
1093	.366	C, c		シ	.116	4.30	1177	782
1094	.362	マワリ	週・回	シ	.132	7.20	1020	940
1095	.361	ケンボウ	憲法	Ed	.151	12.0	889.5	1049
1096	.358	ヒョウジヨウ	表情	De	.126	6.15	1075	905.5
1097	.358	ヨテイ	予定	シ	.116	4.50	1177	804.5
1098	.357	ジュクビ	準備	シ	.121	5.33	1120	864
1099	.356	シヨクジ	食事	シ	.119	5.01	1147.5	846
1100	.356	コツ	[指]	シ	.135	8.11	997.5	968
1101	.352	キョジン	巨人	Ed	.155	14.0	864	1074.5
1102	.351	トチュウ	途中	De	.114	4.38	1207	791
1103	.349	タイシヨウ	大正	シ	.114	4.43	1207	798.5
1104	.349	セイサク	政策	Ed	.157	14.9	846	1087
1105	.349	ヒコウ	飛行	シ	.137	8.91	972.5	986
1106	.348	ジョウ	嬢	De	.116	4.76	1177	828
1107	.347	レンアイ	恋愛	Ed	.139	9.52	959.5	997
1108	.346	ケイコウ	傾向	De	.116	4.81	1177	831
1109	.341	スタア		シ	.130	7.60	1042.5	952.5
1110	.339	ガリル	[接尾]	シ	.123	6.24	1096.5	912
1111	.339	チヨクセツ	直接	シ	.119	5.51	1147.5	874
1112	.337	シチセシ	七千	Ec	.185	29.6	718	1161
1113	.332	ヒョウメン	表面	De	.114	4.86	1207	837
1114	.331	トウ	父	シ	.116	5.23	1177	859.5
1115	.330	タヨリ	父便	Ee	.135	9.32	997.5	993
1116	.328	マシス	増	Ed	.169	22.1	784	1129.5
1117	.328	ゼイ	税	Ec	.203	44.3	636.5	1195
1118	.327	キョウジュ	教授	Ee	.132	8.71	1020	982
1119	.327	リョウ	量	Ed	.157	16.8	846	1104
1120	.326	シヨウ	[昭和の略]	シ	.157	16.9	846	1105
1121	.324	セイセキ	成績	シ	.142	11.7	948.5	1041.5
1122	.322	ナシスル	為・成	De	.126	7.51	1075	946
1123	.319	マイリル	参	シ	.116	5.60	1177	879
1124	.307	コウクウ	航空	Ee	.135	10.6	1023	997.5
1125	.306	デンキ	電気	De	.121	7.06	1120	933
1126	.305	サトウ	[人]佐藤	Ee	.130	9.28	1042.5	991.5
1127	.304	ソシキ	組織	Ed	.146	14.5	921	1080
1128	.302	ウスイ	薄・淡	De	.116	6.12	1177	902
1129	.301	ジュウヨウ	重要	Ee	.130	9.48	1042.5	995.5
1130	.300	キンダイ	近代	De	.114	5.80	1207	889
1131	.296	ヒカク	比較	Ed	.137	11.9	972.5	1047
1132	.295	アンナ	[指]	De	.121	7.47	1120	945
1133	.295	ヨウシスル	要	シ	.114	5.98	1207	896
1134	.294	セイヒ	製品	Ed	.167	25.5	793.5	1144.5
1135	.293	アライウ		Ee	.130	9.90	1042.5	1006
1136	.293	ゲイジュツ	芸術	Ed	.173	10.8	760	1026
1137	.291	ジョユクン	女優	De	.114	6.11	1207	900.5
1138	.290	ヘイキョウ	平均	Ed	.148	16.5	905	1100.5
1139	.289	サンシヨウ	参照	シ	.173	29.9	760	1162.5
1140	.288	ヒロイウ	拾	Ee	.132	10.8	1020	1026
1141	.288	サア	[感]	De	.114	6.21	1207	909
1142	.287	ゲンキ	元氣	シ	.114	6.22	1207	911
1143	.283	オンセン	温泉	シ	.116	6.81	1177	927
1144	.279	テキ	敵	Ed	.148	17.5	905	1109.5
1145	.279	ホウシン	方針	シ	.144	15.8	934.5	1091

基 本 度 順位	z	見 出 し		カ テ ゴ リ	変 数 値		変 数 順 位	
					p (%)	sc (%)	p	sc
1146	.274	ケイヤク	契約	Ee	.128	10.4	1057	1020
1147	.271	トノ・ドノ	殿	シ	.121	8.55-	1120	980
1148	.268	カガク	化学	Ed	.151	20.1	889.5	1120
1149	.264	ナンカイ	南海	Ee	.135-	13.4	997.5	1067.5
1150	.263	デザイン		Ec	.185-	44.5	718	1196.5
1151	.260	ハウリツ	法律	Ed	.144	17.5-	934.5	1108
1152	.255-	ケンセツ	建設	シ	.142	17.1	948.5	1106.5
1153	.255-	ホソイ		De	.114	7.46	1207	944
1154	.253	ホウショウ	優勝	Ee	.139	15.9	959.5	1092.5
1155	.245	ヘイ	兵	De	.114	7.86	1207	961
1156	.245-	イトマゴ	糸卵	Ed	.157	26.5-	846	1151
1157	.244	タウゲン	表現	De	.114	7.91	1207	962.5
1158	.242	ヒコイ	恋	Ee	.132	13.9	1020	1072.5
1159	.242	ハリ	針	De	.114	8.01	1207	965
1160	.239	ハリ	針	Ed	.171	37.7	771.5	1183
1161	.239	コクカ	国家	Ee	.119	9.56	1147.5	998.5
1162	.238	セシ	織維	シ	.128	12.7	1057	1056.5
1163	.236	エリグリ	袷割[裁]	Ec	.185-	51.6	718	1218
1164	.236	キョウソウ	競争	Ee	.126	12.1	1075	1050.5
1165	.235	ニョウ	匂	De	.114	8.30	1207	974
1166	.234	キュウセン	九千	Ed	.155	26.7	864	1152
1167	.233	トウシ	投資	シ	.176	43.5-	753	1193
1168	.231	センキョウ	選挙	Ee	.128	13.2	1057	1064.5
1169	.230	アタリ	安定	Ed	.137	17.1	972.5	1106.5
1170	.229	アタリ	当	シ	.148	23.1	905	1137
1171	.225	トモナイ・ウ		Ee	.119	10.3	1147.5	1016
1172	.225	ミ	mm	Ed	.151	25.5	889.5	1144.5
1173	.223	ダンナ	旦那	Ee	.114	8.88	1207	985
1174	.215	カイセイ	改正	Ed	.148	24.9	905	1141
1175	.215-	チュウ	庁	Ee	.114	9.82	1207	1004
1176	.212	ショウショウ	少々	Ee	.132	16.4	1020	1098
1177	.212	ナ	[プラスの記号]	Ed	.148	25.4	905	1144.5
1178	.209	ヒョウ	表	Ee	.114	9.56	1207	998.5
1179	.208	ケイキ	景気	シ	.116	10.3	1177	1016
1180	.200	ベイコク	米国	シ	.128	15.6	1057	1089.5
1181	.199	ホケン	保険	シ	.119	11.9	1147.5	1047
1182	.194	テンレイ	.0	Ed	.157	35.0	846	1176
1183	.187	フク	服	Ee	.116	11.8	1177	1044.5
1184	.186	ウリアゲ	充上	Ed	.163	42.1	809	1190
1185.5	.182	アミ	編	シ	.171	51.6	771.5	1218
シ	.182	ヘラシ・ス		シ	.171	51.6	771.5	1218
1187	.180	ダアツ	[洋裁]	シ	.169	49.9	784	1212
1188	.178	オイ	[感]	Ee	.114	11.4	1207	1033.5
1189	.177	タカ	高	Ed	.160	41.2	831.5	1188
1190	.170-	ガク	額	シ	.142	27.3	948.5	1154
1191	.169	カブシキ	株式	シ	.137	24.0	972.5	1138.5
1192	.163	ジュウ	需要	シ	.160	44.5	831.5	1196.5
1193	.163	セイド	制度	Ee	.116	13.2	1177	1064.5
1194	.162	ケイ	系	シ	.114	12.4	1207	1052.5
1195	.161	カサネル		シ	.119	14.7	1147.5	1083
1196	.159	ポケット		シ	.126	18.5	1075	1113
1197	.157	ヒヒョウ	批評	シ	.114	12.8	1207	1058.5
1198	.155-	ギョウ	業	シ	.121	16.2	1120	1096
1199	.151	カワ	皮・革	シ	.121	16.5	1120	1100.5
1200	.149	チイム	team	シ	.121	16.7	1120	1102.5
1201	.142	ソツギョウ	卒業	Ee	.116	14.8	1177	1085.5
1202	.122	ネンド	年度	シ	.119	18.2	1147.5	1111.5
1203	.122	ハンバイ	販売	シ	.135-	29.4	997.5	1160
1204	.111	ソデグチ	袖口	Ed	.148	44.2	905	1194
1205	.109	サイ	再	Ee	.123	22.2	1096.5	1131.5
1206	.103	ウチアワセ	打合	シ	.135-	32.6	997.5	1168
1207	.078	ヤアル	yard	Ed	.144	47.7	934.5	1204
1208	.074	シオ	塩	Ee	.123	26.9	1096.5	1153
1209	.074	サンギョウ	産業	シ	.114	20.2	1207	1121
1210	.064	ショウヒ	消費	シ	.123	28.4	1096.5	1156

基本度 順位	z	見出し	カテ ゴリ	変数値		変数順位		
				p (%)	sc (%)	p	sc	
1211	.055	コウジョウ	向上	Ee	.116	24.0	1177	1138.5
1212	.006	ゲンリョウ	原料	シ	.121	36.8	1120	1182
1213	-.008	ボタン	button	シ	.116	33.8	1177	1172
1214	-.009	オリル	折	シ	.116	34.0	1177	1173.5
1215	-.012	ブラウザ		Ed	.126	47.2	1075	1203
1216	-.023	マツリル	[裁縫]	Ee	.116	36.7	1177	1181
1217	-.028	メリヤスアミ		シ	.126	51.6	1075	1218
1218	-.030	キリカエ	切替	シ	.121	44.7	1120	1198
1219	-.056	ゴムアミ	ゴム編	シ	.121	51.6	1120	1218
1220	-.059	スンボウ	寸法	シ	.119	49.2	1147.5	1208

1.53 この方法に関する反省

本章に言う「基本度」は操作主義的概念である。従ってあらかじめ「基本的」な語とはどういふものかを内包的に定義しそれに照らして決めたというのではない。なぜ後者のような行き方をしなかったかは、先に注2に掲げた論文に述べてある。この根本態度の可否がまず問われようが、かかる可否の検討自体、操作主義的な実践例について行なわない以上、空論に走りやすい。そこで本章にその実践例を示したわけである。かつここでの実践例に関する限界として予想された点は、既に§1.1に述べておいた。この節ではそういう根本問題は保留する。以下に検討するのは、前述の方式によった場合の問題点である。それを明らかにする事が先の根本問題の検討にも役立つはずである。

さてこの方式をささえる考え方の要点を繰り返して述べよう。それは

- 1° 基本度は、最終的には、言語主体の意識に影響されないという意味での客観的な量にだけよって決まるものではない。しかし言語主体の意識というものは人によってかなりまちまちだから、その裏づけとして客観的な量も使い、両者の総合としての基本度を操作的に構成する道を選ぶ。
- 2° かかる基本度は間隔尺度によって測り、比例尺度によることを予定しない。
- 3° 測られる基本度は、それを決するために使うデータと相対的なものである。

われわれが試みに出した結果を検討するに当たって、少なくとも次の二つの事を区別して掛からなければならぬ：第一は方式自体の形式にかかわる検討、第二は数値解を示したその数値にかかわる検討。第一に対しては、採用した基本度函数の型に改良の余地はないか、また散らばり度の定義式も別の何らかの形による方がよくはないか、更に主観的判定を求める際の仕方および判定結果のまとめ方があれでよいか等々が、考えられる。ところでこれら妥当性に関する検討を更に進めるには、ここで試みた方法の対案が示されなくては、具体的には運ばない。担当者としての反省も細かい点について色々あるが、むしろ担当者以外からの批判に待ちたい。

第二に対して担当者としてまず言いたい事は、延べ四十四万語を踏まえたこのデータもなお小さ過ぎて、様々の点で意に満たない所があるという事である。同時に、判定者数が九名であるという事は、何としても不十分である。今回は方法の試験に主眼を置いたので、国研内の九名を被験者にするとどまったが、被験者の数の少なさがデータの不規則性の大きな原因になったのかも知れない。先にも触れたとおり、図1.1に見るような不規則な点の並び方では、たとい基本度函数として二次曲面が妥当であっても、それを積極的に証拠立てるすべがなく、まして二次曲面のうちどん

な型を想定するかの見当もつきかねる。平面を当てはめた結果としてのパラメタ調整値の精度が表1.5のように余りよくないのも、大きな原因は「力」 g の測定値の不規則さと分散の大きさにあるように思われる。ただし以上の言わば不工合は、ここで使った方式自体を否定する働きはしない。なおパラメタ a の精度が他の二つより特に悪い事も大して問題ではないと言った (§1.44)が、これは次の理由による：われわれの基本度は間隔尺度によっているから、二つの基本度 f_1, f_2 の比を問題にしてはならず、比較の際には差を取るべきである；従って

$$f_1 - f_2 = (a + bx_1 + cy_1) - (a + bx_2 + cy_2) = b(x_1 - x_2) + c(y_1 - y_2)$$

となり、差の式からは a は消えてしまう。

以上に概括した事を、更に基本度測定の精度の観点から見直そう。まず起こり得る誤差(片寄りも含むが、もちろん過誤は含まない)を大別すれば

I データの取り方に起因するもの

- i) 使用率の推定誤差(見出し語内誤差)
- ii) 散らばり度の推定誤差(同上)
- iii) 刺激語の抽出に伴う誤差(見出し語間誤差)
- iv) 判定者の抽出に伴う誤差(判定者間誤差)
- v) 判定者の判定が必ずしも安定でないために起こる誤差(判定者内誤差)

II データのまとめ方に起因するもの

最小二乗法調整の段階での、重みの評価の誤差や計算誤差

III 基本度算定法に起因するもの

- i) 刺激語の組の平均値を使って基本度函数のパラメタを決めるが、これを個々の見出し語に適用するために生ずる誤差
- ii) 純粹の計算誤差

これらの中には、今回よりも一層高い水準で制御できる誤差もある。そうした事に関連して言えば、第一に、散らばり度の推定量に一致推定量を採ったが、この精度は余り思わしくなかった。従ってこの推定法は改良しなければならない。(散らばり度の標本分布論はまだ十分でない。)第二に、何と言っても判定者に関する誤差を更によく分析する必要がある。あるタイプの判定者はあるタイプの見出し語を重視するというような事が、十分に予想される。そしてこの事は、ただに基本度測定値の精度をあげるためだけでなく、それ自体が基本語彙選定問題に対して重要な情報を提供するはずのものである。第三に、25個のカテゴリを定めるに当たって、今回は各カテゴリに属する見出し語の数がほぼ同数になるようにしたが、このためカテゴリ内分散がかなりまちまちになってしまった。この組分け法について、内分散一定とか代表値が等比数列を成すとかいうような方針の方がよくはなかったかを、更に考える必要がある。

最後に、われわれの最終目的は、各語の基本度を算定することにとどまらず、それによって基本語彙を選定する方法を提出することにある。この観点から今回の試みを振り返ってみよう。有用な基本度測定が既に得られているとすれば、この基本度の大きい方から順に基本語彙に入れて行くのは当然の事である。しかるべき理由もなしにこの方針を乱すなら、それは基本度を計算した趣旨を否定するものである。さてこの方針で選定に掛かれる段階まで来たとして、すぐ問題になるのは基

本語彙の大きさを何語にするかである。一万とするか、二千程度にとどめるかというような事は、その基本語彙を何に役立てるためのものかと考えるかによって、様々に決められよう。この問題をわれわれはまだ研究していない。実用段階に持ち込む前提条件として、早急に着手すべきだと考える。今はその大きさが M 語と決まったとしよう。すると上記の方針の下では、基本度が第1位から第 M 位までの見出し語をもって基本語彙と決める事になる。ところでここで再び考えるべき問題が起こる。仮に第 M 位の見出し語と第 $M+1$ 位の見出し語とそれぞれの基本度(測定値)の差が有意的なら、この場合にはほとんど問題がない。統計的誤差^{注20)}に話を限っても、第 M 位付近の見出し語の基本度が有意的に分離できるという状態は、きわめてありにくい。そうなると、この辺の見出し語の取捨選択はまた別に、しっかりした規準を立てて行なわなければなるまい。この研究もわれわれはまだ始めている。もちろん他方では、第 M 位付近でも一語一語の基本度が有意的に分離できる理想状態に少しでも近づける努力を、怠ってはならない。そのためには、従来の規模より延べ語数を少なくとも一桁は上げた、大規模の調査をする必要がある。それは今までの人海戦術的な調査法の限界を越えてしまう。以上のようなわけで、今回の試みは方法論の検討とその実用化の第一歩を印する事とにとどまらざるを得ない。

ただし表1.8を見れば分かる通り、この基本度には次の特色が認められる：計算値だけに着目すれば(順位はこの計算値によってつけるわけであるが)、同順位となることがまれである；一方使用率による順位は、標本使用率が小さくなればなるほど多数の同順位語を生ずる。ゆえに従前暗々裡に考えられていたような使用率中心の基本語彙の選び方に比べれば、基本度による方がはるかに便利である。

1.54 基本度上位七百語の意味分類

この章の最後に、表1.8の上位を占める七百語を取り上げ、この七百語から成る語彙の意味的な面に触れておこうと思う。この事がまた、われわれがここに考えている「基本語彙」というものの性格を、ある程度まで浮き彫りにするであろう。

まずこの七百語を、原則として第一分冊第1表の意味分類番号によって、整理した。この意味分類については別に資料集6として『分類語彙表』が刊行されているので、詳しい事はそちらに譲り、今は本章で最少限必要な事柄を述べるにとどめる。意味分類番号の第一桁(第一分冊ではボールド体によっている)は、どちらかと言えば品詞論的な見地によっている。ここでは品詞の別にかかわらない意味の区分を主としたいから、1ないし3の別はひとまずおいて、おもに次の二桁の番号に着目して整理する。表1.9にゴチックで掲げた「抽象的關係」から「自然物・自然現象」までの五項は、第二桁目の1ないし5にそれぞれ対応する。細分は第三桁に着目して適宜に定めた。ここでは各カテゴリに属する語の数も勘案した。従って上位にはさほど現われない「生産物・用具」や「自然物・自然現象」では、細分を廃した。第1.9表の「その他」は、意味分類番号の第一桁目が4のものである。「符号」には意味分類番号が与えてない。ここではこれを一括した。

次に表1.9および後に示す表1.10を作るに当たっては、一つの見出し語にはただ一つだけの意味分類番号を割り振った。多義的な語の場合、どの意味で代表させそれを番号化するかが問題にな

注20) 基本度の信頼区間を求める方法はあるが、ここではその論を省略。

る。ここでは一往第一分冊で示した番号を尊重しておいたが、若干は改めたものもある。この番号は、現代語としての本義的なものまたはその用例の多いものに与える原則で、定められている。

表 1.9 基本度上位七百語の意味分類による比率（縦に 100%）

意味分類	上位 七百	上位 五百	上位 三百	初 百	次の 二百	更に 二百	末の 二百
抽象的關係	55.0	58.6	62.0	74	56	53.5	46
一般・有無・成立	12.6	12.8	16.0	23	12.5	8	12
様相・構え	3.0	2.8	2.7	3	2.5	3	3.5
力・変化	8.2	8.0	8.0	8	8	8	8.5
時・場合・順序	9.4	9.8	9.0	6	10.5	11	8.5
所・方向	3.8	4.6	3.7	3	4	6	2
数量・程度	18.0	20.6	22.7	31	18.5	17.5	11.5
人間活動の主体	13.1	13.6	13.0	7	16	14.5	12
主体の別	7.4	8.8	8.0	6	9	10	4
人に準ずる主体	5.7	4.8	5.0	1	7	4.5	8
人間活動	21.1	17.6	16.3	15	17	19.5	30
心・表情・感覚・知見	9.1	8.0	7.0	7	7	9.5	12
言動	3.1	2.4	2.3	1	3	2.5	5
その他の行為	8.9	7.2	7.0	7	7	7.5	13
生産物・用具	1.6	1.2	1.0	0	1.5	1.5	2.5
自然物・自然現象	5.0	5.4	4.0	1	5.5	7.5	4
その他	3.6	3.0	3.7	3	4	2	5
符号	0.6	0.6	0	0	0	1.5	0.5

上の表から明らかなように、基本度の上位七百語の範囲では、抽象的關係を表わす語が圧倒的に多い。対照的に、生産物・用具、自然物・自然現象を表わす語が少ない。この結果は、われわれの言う「基本語彙」といわゆる「基礎語彙」との違いを、相当はつきり示すものである。後者は趣旨としては self-contained たらんとし、また類義的な語の間ではどれかを探るにしてもその中の一つに限る原則に立つと言ってよい。しかし前者は、極端に言えば、また少なくとも本章の七百語では、こうした拘束とはかかわらない。基本語彙に、基礎語の立場からしては漏れや むだがあるにしても、両者の性格が異なる以上、その事は一向さしつかえがない。次に、七百語を上位から百、二百、二百、二百と四組に分けてながめると、抽象的關係に属する語は減少の傾向にあり、人間活動、生産物・用具、それに自然物・自然現象に属する語は増大の傾向にある。人間活動の主体に属する語には増大の傾向があるかも知れないが、このデータの範囲でははっきりした事は言えない。また、その他の語は、少なくともこの七百語の範囲では、比率の安定を保っていると言ってよからう。以上の結果は、われわれの予想とほぼ一致する。その理由づけもまた容易であろう。なお抽象的關係は漸減と言ったが、更にその下位区分を見ると傾向は必ずしも一様ではない。はっきり減少を示すのは一般・有無・成立のカテゴリと数量・程度のカテゴリとにおいてである。これらに属する語数が抽象的關係の大半を占めるから、抽象的關係が減少の傾向を示すのだと言えるかも知れない。

以上、総括的な結果を述べたが、七百語の個々の分類結果を示せば表 1.10 の通りである。表中では、表側の同一カテゴリ内でも、意味・品詞を考慮した幾分の細分をした。そこでの排列順は基本度の大きい方からにしてある。また活用語は原則として終止形による。

表 1.10 基本度上位七百語の意味分類

区分	初めの百語	次の二百語	更に二百語	末の二百語
抽象的関係				
.10~ .12 一般・有 無・成 立	コトモノクライ タメ (ラ)レルヨル〔依・ 因・拠〕 トモ〔共〕テキ〔的〕 同ジ ソレコレ何ホ ウ〔方〕 ソのこのソウ ドウコウ ナル〔成〕イル〔居〕 有ルデキル 無イ	ジツ〔実〕ホカ他 関係反対例 対スルツク〔about の意〕違ウ於ク ママ〔儘〕トオリ 本当 ソナアのコンナ 別アル〔或〕ドン ナワが オル〔居〕アラワレル オコル 必要不	事件事実違イ ナゼイッショ如シ ミタイ〔接尾〕 アレイズレ イカ〔如何〕ソレゾレ ドの ナクナル残ル ム〔無〕ムズカシイ	実際代表カワリ 結果条件原因 効果同理由 似ル以ツ含ム 当然正シイアイ 〔相〕チヨウド カク〔各〕 オコス残ス失ウ トテモ決シテ全然 絶対
.13, .18 様相 構え	ヨウ〔様〕ソウ〔相〕 ヨイ〔善・良・好〕	特悪イ危険 線段	性フウ〔風〕 イケない カタカタチ姿	状態フリ性格 簡単普通ダメ リップ
.14, .15 力・変 化	強イ シマウ置ク来ル 行ク出ル出ス ハイル	付クアゲルアウ 〔合・会・逢〕過ギ ル掛カル付ケル タツ〔立・建・発〕 帰ルカワル入レ ル掛ケル続ケル 切ル始メルヒラ クヒク〔引・曳〕	チカラリョク 激シイ 化 カエル〔変・替・代〕 オワル済ム続ク 動クタテルワタ ル アガル乗ルアタル ウツ加エル	ヒドイ 運動自動分の 始マル至ル走ル 通ズル進ムノボ ル落チルアワセ ルアケル集マル 連レル離レルア テル
.16 時・場 合・順 序	トキ場合ヒイマ マエ マタ〔又・亦〕	時間イツコロ時 代現在昔サキ 最後ハジメツギ アトゴ〔後〕今度	マ毎日期昭和 夏秋トシヨル コトシキョウ最 近次第最初ノ チ当時 タツ〔経〕 シバラク既にハジ メテ結局新古 イ	ジュウ〔中〕春ツ キ朝コンニチ 昨年同時前後 戦後以来 急グ ヨク〔oftenの意〕 ダンダンヤガテ イヨイヨツイに 再ビ
.17 所・方 向	トコロナカウチ	ココソコドコ 点アイダミギ ウエカン〔間〕	場所界地方シタ ジョウ〔上〕中心 中央ガワ後ロ ナイ〔内〕オク〔奥〕 アタリ	ヒダリ面ウラ 向カウ
.19 数 量 ・ 程 度	一十三二五 二十六八七 九シ〔四〕三十 五十ツ百ヨ (ン)零四十万 度ニン〔人〕第円 〔金額の〕ネン〔年〕 ガツ〔月〕ニチ〔日〕 アマリタチ〔接尾〕 ホド 大キイ多イ	スウ〔数〕 千.5ヒト〔一〕フ タリ六十七十二 億二百八十二 ツ九十九百 回メ〔接尾〕歳ジ 〔時〕号ホン〔接 尾〕センチラ〔等〕 以上 高イ長イ深イ大	カズ幾ラ 三百五百二三 四百二千 枚パーセントセン チメートルフ〔分・ 歩〕箇月フン 〔分〕割半部分 全部限リ程度 近イ広イ小サイ	八百五千三千 ダイ〔代・合〕番一 般全体一方団 トウ〔例示の〕以外 以下 低イ最高軽イ

区分	初めの百語	次の二百語	更に二百語	末の二百語
		中 少 沢 山 ナイ ヒトリ ミナ 全ク 一番 随分 非常	最 モ ヤ ス イ チョ ッ ト ワ ズ カ ス ベ テ 十 分 ズ ッ ト モ ッ ト ホ ト ン ド 大 体 ナ カ ナ カ 相 当 大 変	一杯 多ク 全 スッカリ 一往 約 カナリ オオイ に、

人間活動の主体

.20~.24	ワタクシ 彼 自分 サン[様] ヒト シャ[者]	ボク 彼女 アナタ ダレ ワタシ 人間 サマ カ[家] ジン[人] チョ [様] 女 男 子供 シ[氏] 母 コ 客 先生	キミ ワレワレ オレ オマエ クン[君] 人々 女性 青年 妻 夫人 父 娘 相手 学生 生 記者 社長 監 督 鈴木	自身 少年 親 夫 主人 国民 選手 員
.25~.28	人に準ずる主体 日本	イエ 市 県 世界 学校 大学 ショ [所] 会社 ヤ[屋] 部 会 東京 アメリカ 大阪	クニ マチ 区 社会 ミセ テン 軍 社 党	ウチ[家] 家庭 外国 ト[都] 村 工場 駅 病院 館 政府 省 局 隊 組 フランス ソ連

人間活動——精神および行為

.30	ワケ カタ[方] 心・表情・感覚・知見 思ウ 考エル 知ル 見ル タイ[願望の]	気 心 気持 声 自由 問題 意味 無理 法 感ズル 分カル 知レ ル 見エル キク [聞・訊]	感ジ 心配 研究 ハ ズ 主義 困ル 笑ウ ットメル 求メル 忘レル 決 マル 決メル 見セ ル 示ス 面白イ ホシイ スキ ウマイ 確カ	精神 夢 笑イ 努力 期待 希望 ツモリ 経験 意見 注意 間違イ 専門 方法 計画 発見 驚ク 認メル 選ブ ナガメル 楽シイ 有リ難イ イ ヤ ニクイ 不思議
.31	言動 言ウ	コトバ 図 話シ 新 聞 呼ブ カク	名 話ス 語ル 答エル タズネル	電話 手紙 説明 発 表 書 本誌 歌ウ 申ス 述ベル 読ム
.32~.38	その他の行為 スル[為] サレル サ セル (サ)セル[令] 持ツ トル ヤル	映画 生活 結婚 行ナウ カネ[金] 得ル 買ウ クレル 受ケル 下サル モ ラウ 仕事 作ル 使ウ	作品 写真 音楽 式 働ク 歩ク 飲ム 役 用 ナサル 待ツ 許ス 与エル イタダク オクル[送・贈]	歌 絵 文化 労働 旅行 食ウ 着ル 食ベル 人気 成功 イタス 国際 相談 戦争 教育 プン[分] 教エル 経済 利益 料 大切 事務 生産 使用 利 用 運ブ

生産物および用具

.40~.47	キ[機・器] シャ[車]	ヒン[品] 材料 サケ
---------	--------------	-------------

区分	初めの百語	次の二百語	更に二百語	末の二百語
		ミチ	身頃(歳) ヘヤ 室	[酒]見返 フネ
自然物および自然現象				
.50~.58	目	色々 白 黒 美シイ ヤマ 花 カラダ 顔 アタマ 手 ウマレル	イロ ハッキリ 明ルイ 赤 イ 自然 キン[金] ミズ チ[地] 身 口 胸 アシ 病気 生キル 死ヌ	カゲ オト 白イ 風 雨 太陽 肩 健康
その他の				
4.1~4.3	シカシ ソシテ オ[御]	シカモ トコロが,で ツマリ 必ズ モチロン ヤハ リ モシ ゴ[御]	アル(い)は タトエバ ナオ トニカク	オヨビ マタは モッ トモ 但シ サテ ア(ア) 恐ラク ムシ ロ 一体 イヤ
符号				
—			シ B, b A, a	●[黒星]

2 語彙の量的な構造

それぞれの語を個々に追う立場ではなく、一定範囲の言語表現に使用されている語の総体である語彙に目を着ける立場から、語彙に認められる構造の、若干の量的側面を扱う。§2.1では、見出し語の使用率の分布を調べる。§2.2と§2.3とでは、見出し語の語種・品詞別を取り上げる。§2.2は、その分布を使用率と関係させて見ている所に特色がある。§2.4では、助動詞を除く活用語の活用形別使用度数の分布を調べる。

2.1 使用率の分布

使用率が一定値 P 以上の見出し語が幾つあり、またその見出し語が延べ語数の何割をおおうか。この事を色々な P の値について調べる事は、語彙の量的な構造を押えるにあたって大事な見方である。ところでこれには計量語彙論特有のむずかしい問題があって注1)、その根本的な解決すなわち理論的分布函数の推定法は、まだ得られていない。ここでは標本における経験的分布を記述するにとどめる。

表2.1がその結果を示したものであるが、一二の注釈をしておこう。この表では使用率の大きい方から値 P までという取り方をしている。分布函数を扱う時には使用率の小さい方から値 P までという取り方をするのが習慣であり、われわれも以前の報告書ではそうしたが、今回は次の理由で改めた。それは、この種の調査結果を利用する側の関心が、使用率の大きい方の語にあるという事である。無論、使用率の小さい方から取って作った調査結果も、多くの場合に1からその値を引くという変換で、大きい方からの調査結果に換算できる。しかし利用の便宜を考えれば、一々この換算をするのは煩わしい。従って上記のように改めた。なお表2.1には経験的分布函数は出していない。と言うのは、標本異なり語数を分母、表の左半の値を分子として割合を算出しても、その算定値には片寄りが大きくはいり込んで、ほとんど意味がないと考えられるからである。従って分布函数値でなく累加異なり語数のままのものをあげた。また表の P の値は、対象全体と各層および各層どうしの比較がしやすいように、切りのいい数値に選んだ。これらの値はすべて、結果として、どの標本使用度数(それは自然数である)から算出される標本使用率とも一致しない。たとえば五層における $P=1.2\%$ を標本度数に換算すると、180.59ほどになる。このため、表2.1は建て前としては「使用率 $\geq P$ 」のように作ったが、実際上はその $=$ をはずし「使用率 $> P$ を満たし、かつ P に最も近い実際の使用率のところまで」と考えてもさしつかえない。

また表頭の排列順を「全体、五層、三層、四層、二層、一層」としたのは、標本延べ語数の大小順によったのである。

表には更に P までの使用率を持つ見出し語で延べ語数の何割がおおわれるかも示した。この場合、相当に小さい標本使用度数に対応する使用率の所まで P を下げて来ると、算定値に片寄りがはい

注1) 国研報告13『総合雑誌の用語』後編(1958), 41~42ページ。

る恐れがある。そこで算定値は、全体またはその層での標本使用度数が6以上でおさまる範囲にとどめた。表中の「…」はこの条件を満たさない箇所である(P の値が.07のところの第一層など)。

表2.1 語の使用率の分布

P (%)	その使用率までの累加異なり語数						左のものが延べ語数をおおう割合(%)					
	全体	五層	三層	四層	二層	一層	全体	五層	三層	四層	二層	一層
30	0	0	1	0	1	1	0	0	3.2	0	3.2	3.5
25	1	1	≠	1	≠	≠	3.0	2.7	≠	2.8	≠	≠
20	≠	≠	≠	2	≠	3	≠	≠	≠	4.7	≠	7.6
15	2	2	2	≠	3	4	4.7	4.6	4.8	≠	7.0	9.2
10	5	3	6	5	4	5	8.4	6.0	9.4	8.5	8.3	10.2
8	7	6	10	11	7	8	10.1	8.8	13.0	13.8	11.0	13.0
6	11	10	19	15	10	14	12.9	11.8	19.1	16.5	13.3	17.1
5	15	17	24	20	14	17	15.2	15.7	21.9	19.2	15.5	18.8
4	20	22	31	28	16	19	17.5	18.0	25.1	22.7	16.4	19.6
3.5	26	27	34	34	22	26	19.7	19.8	26.2	24.9	18.7	22.2
3	31	30	38	41	26	30	21.3	20.8	27.5	27.1	20.0	23.4
2.5	38	35	43	49	34	34	23.1	22.1	28.9	29.3	22.2	24.5
2	50	44	53	59	38	48	25.8	24.1	31.1	31.4	23.1	27.6
1.8	54	49	61	68	49	57	26.6	25.0	32.6	33.1	25.2	29.3
1.6	68	62	68	75	58	65	28.9	27.2	33.8	34.3	26.7	30.7
1.4	75	70	82	92	66	73	30.0	28.4	35.9	36.8	27.9	31.9
1.2	82	92	99	101	77	88	30.8	31.3	38.1	38.0	29.4	33.8
1	98	113	127	125	95	109	32.6	33.6	41.1	40.5	31.4	36.0
0.8	134	145	159	164	132	148	35.8	36.4	44.0	43.9	34.7	39.4
.6	191	189	214	237	201	203	39.8	39.6	47.8	48.8	39.5	43.2
.5	234	239	279	287	241	246	42.1	42.3	51.3	51.5	41.7	45.5
.4	298	302	361	345	294	321	45.0	45.1	54.9	54.0	44.2	48.9
.3	412	398	494	465	444	453	48.8	48.5	59.5	58.1	49.2	53.4
.2	655	635	746	708	693	684	54.6	54.3	65.6	64.0	55.3	59.1
.1	1375	1313	1466	1368	1530	1499	64.6	64.0	75.7	73.4	66.9	70.5
.07	1943	1937	2111	2031	2058	1941	69.3	69.2	79.3	78.8	71.4	...
.05	2799	2635	2514	2391	2518	2720	73.5	73.3

表2.1から次のような事が読み取れる。累加異なり語数にせよ延べ語数をおおう割合にせよ、雑誌の部門別にかかわらずかなりよく似た値の動きを示している。第三、四層は第五層や全体よりも累加語数やおおう割合が早く増大するかに見える事から、延べ語数の小さい標本ではそうした片寄りがあるかとも思われるが、更に延べ語数の小さい第二、一層ではかえってこの伸び方が落ちている。この事からして第三、四層の伸びの早さは、標本延べ語数の大きさ(更に言い替えば小ささ)によるだけでは説明できない。従ってこれは両層の語彙の量的構造が第五層とは違っている事の反映とも解釈できよう。そういう目で見れば、第五層と第二層との類似もかなり著しく、第一層は第五、二層と第三、四層との中間的な動きをしている。すなわち各層語彙の使用率の分布の有様は、(1)庶民〔二〕、娯楽・趣味〔五〕；(2)評論・芸文〔一〕；(3)実用・通俗科学〔三〕、婦人・生活〔四〕の三類に分かたれ、それらを合わせた全体の姿は、(1)の類に近い。

次に各層がなぜかような三類に分かれるかという理由づけは、まだ十分には明らかでない。ただし(3)の類の、一見非常に異なるかのごとき第三層と第四層とは、用語法の点では総体として似てい

とも言えそである：たとえば数を表わす語の使用率が大きいとか、具体的な事物をさす名詞が多いとかいう事があげられる。しかし今の段階では断定をさしひかえない。

2.2 使用率と語種・品詞

現代雑誌九十種の用語を分析する際の課題の一つとして、使用率と語種・品詞の関係、語種・品詞と雑誌の種類、および語種・品詞の内容に関する問題などを取り扱った。

語彙の構造を分析する観点としては種々のものが考えられる。たとえば使用率の高い語はどんな性格を持つか、はその一つである。しかしそれにもさらに種々の観点が考えられる。たとえば使用率の高い語には多義語が多いのではないか、あるいは一般の文献では、使用率の高い語のなかに専門語や隠語などがはいってこないだろう、等等。

使用率の高い語には多義語が多いのではないか。試みにこれを取りあげて簡単な調べをしてみた。語の用法は採集カードによって意味の分割記述をすればよいわけであるが、その手間を省いて、各語について辞典における語の意味の区分を数えることにした。辞典は『三省堂国語辞典』(1960)を用いた。辞典で意味の分割されていないものを単義語とし、二つ以上に分割されているものを多義語とすることにする。現代雑誌九十種の全体についての使用率で最上位10語はすべて多義語であった。次に使用率順で一千位くらいの例として1228.5位の15語から「パリ」を除く14語を取りあげて調べてみると単義語2、多義語12語となる。使用率順で三千位くらいの例として3150.5位の語156語(非ランダム)を取りあげて調べると、うち人名・地名20語、その他の136語中、単義語は69語、多義語は67語となる。使用率順で6843位の語のなかから人名・地名を除きランダム・スタートで6語目ごとに抽出した129語のうち、単義語89語、多義語40語となっている。このような数字から、もっと厳密に調べれば上位語に多義語が多いということが確認されるかもしれない、という予想が立てられる。この調べでは二義でも三義でも多義語と数えたが、あるいは上位語の方が意味の数が多いかも。そこで以上の結果をもう一度計算し直してみる。辞典でみると「一」の意味は名詞のなかで3、数詞のなかで2、あわせて5。「事」は18。そこで「一」+「事」=23。このような方法で計算すると上位10語で71になる。使用率順1228.5位の14語は合計34。使用率順3150.5位の語136語については合計272。使用率順6843位の語の129語については合計195。以上の合計をそれぞれの所属語数で割ると使用率の高いものから順次に、7.1、3.1、2.0、1.5となる(表2.2)。この点からみてもやはり、使用率の高い語には多くの意味をもつ語が集まっているのではないかと予想される。以上は実際の用例を調べずに辞典における意味の分類数を用いているので、実情に合わないところがあるが、少なくとも以上のような予想は立てられよう。また、使用率

表2.2 多義語の語義の合計と平均

	計	1語当たり	単義語	多義語
上位10語	71	7.1	0	10
1228.5位14語	34	3.1	2	12
3150.5位136語	272	2.0	69	67
6843位129語	195	1.5	89	40

順で最上位の10語「する」「居る」「言う」「一」「事」「なる」「れる・られる」「二」「ある」「その」と使用率順で1228.5位の「位」「気分」「共同」「劇」「劇場」「越える」「寒い」「詩」「楽しむ」「近づく」「つい(副詞)」「つまる」「十日」「パリ」「婦」「帽子」を比べてみると、上

位の語には文法的にみて補助用言や形式名詞的な用法をもつ語があるのに対し、下位の語にはそれが少ないように感じられる(§1.54 基本度上位七百語の意味分類p.47 以下参照)。

そのほかいわゆる意味による分類語彙表のなかでの高使用率語の分布(参照§1.54)、複合語をつくる率が多いかどうかの面と使用率の関係(§4.22, 4.28参照)なども考えられる。

まだこのほかいろいろの観点がありうるが、この章の分析では語種と品詞という面を取り上げることにした。それはこの二つが語彙論のなかで基本的な意味をもつものに属していると考えられるからである。

語種・品詞の分け方は次の通りである。まず語種については、和語、漢語、外来語、混種語の四類とした。その細かい内容は§2.3でふれるが、分類の要綱を以下に述べる。^{注2)}

和語——「やま」「らみ」「ひと」「こと」「ある」「ない」などいわゆるやまとことばを中心とする。数はごく少ないが、「絵」「ぜに(銭)」「から(唐)」「てら(寺)」など古い時代に日本語になったもので、漢語や朝鮮語などの意識のなくなったものはここに入れた。

漢語——中国起源の語で、漢音、呉音、唐宋音のもの。日本製の漢字音のことば「返事」「立腹」「心理」「汽車」「団地」などもここに含める。「ぶどう」「せつな(刹那)」「幾何」など他の言語から中国語にはいり、さらに日本語にはいったものも漢語に含める。

外来語——中世末以後西洋語から日本語にはいったものを中心とする。近代中国語や朝鮮語もここに入れる。外来語というよりむしろ外国語に近いものもここに入れてある。またいわゆる和製英語「オールド・ミス」の類や擬似洋語「アルコ」の類もここに入れる。

混種語——上記の異語種どうしの結合したことば。

品詞については1. 2. 3. 4. の4類に分類した。この分類は意味による分類語彙表(報告13の51ページ以下、資料集6など)の大分類に等しい。かっこの中は、分類語彙表での名称である。

1. 名詞などのグループ^{注3)} (体の類) 名詞・数詞・代名詞。名詞的な造語成分(「百円」の「円」など)もここに含める。
2. 動詞などのグループ(用の類) 動詞的な造語成分(「咲きそめる」の「そめる」など)もここに含める。
3. 形容詞などのグループ(相の類) 形容詞、形容動詞、程度の副詞、連体詞など。性状表現的な造語成分(「具体的」の「的」など)もここに含める。
4. 感動詞などのグループ(その他の類) 陳述の副詞、接続詞、感動詞、待遇表現に関する造語成分(「御」「お、おん、ご、み」, 「やがる」など)など。

人名・地名は1.~4.のグループのなかに入れず、別わくで数えることにした。しかし本来品詞的には、1.に属すべき語であるから、必要があるときはこれを加算すれば、人名地名を含んだ名詞類の数が得られる。

この章の分析は語種・品詞を以上のように分けて行なう。品詞の分類を簡単化したのは、β単位

注2) 認定は語の最小単位について行ない、和語と和語の結合は和語とする。異語種の結合したものは混種語とする。また<信ずる>などは、この調査では最小単位であるが、混種語であるとする。

注3) 簡単のために、以後、名詞類 などのように略称する。

が一般の文法で扱う単語よりも長さが短いので、一般の品詞分類基準では処理しにくいものが少なくないからである。

この調査は β 単位による調査であるから、 β 単位の性格による調査結果の特徴をもっていることは考えておかなければならない。もし α 単位なり、または一般の文法書で扱う単語なり β 単位以外の単位なりを用いて調査すれば、以下に述べるような結果と必ずしも一致しないであろう。たとえば α 単位で調べると漢語の異なり語数がふえ、延べ語数がへるという結果にあるいはなるかもしれない。「研究 | する」「運動 | する」などのいわゆる複合サ変動詞は β 単位ではそれぞれ2単位になっているが、これを α 単位におけるように合わせて1単位の動詞(用の類)とすれば、名詞類の数がへって、動詞類の数がふえることになる。したがってここで述べる調査結果を他のそれと比較するばあいには単位語の認定規準による相違があることを考えておくべきである。

参考として、語種・品詞に関する文献のおもなものをあげる。

辞 典

大槻文彦 「言海」 1891

宮島達夫 「近代日本語における単語の問題」(言語生活 79 号) 1958

話 し こ と ば

国立国語研究所 「談話語の実態」 1955

書 き こ と ば

樺島忠夫 「現代文における品詞の比率とその増減の要因について」(国語学 18 輯) 1954

樺島忠夫 「表現論」 1963

朝日新聞社新聞用語改善委員会 「実態はどうなっているか」(新聞用語研究 No. 25) 1949

国立国語研究所 「国立国語研究年報 1」 1951(現代共通語の実態の調査研究)

国立国語研究所 「語彙調査——現代新聞用語の一例——」 1952

国立国語研究所 「総合雑誌の用語 後編」 1958

寿岳章子 「週刊誌グラビアの言葉」(計量国語学 26) 1963

波多野完治 「文章心理学」 1949

早川通介 「日本映画の題名」(計量国語学 19/20) 1962

外 来 語

株垣実 「日本外来語の研究」 1963

国立国語研究所 「国立国語研究所年報 10」 1959(外来語の分析)

古代語・近代語

大野晋 「基本語彙に関する二三の研究——日本の古典文学作品における——」(国語学 24 輯) 1956

竹内美智子 「『和泉式部日記』の語彙に関する一考察」(国語学 53) 1963

森岡健二 「語訳の変遷」(東京女子大学付属 比較文化研究所紀要第一号) 1955

国立国語研究所 「国立国語研究所年報 13」 1962(明治時代語の調査研究)

国立国語研究所 「国立国語研究所年報 14」 1963(明治時代語の調査研究)

2.21 調査対象全体に対する語種・品詞別の分布

標本全体の語について調査した結果について述べる。この集計では § 2.2 で述べた語種 4 類、品詞 4 類の別によって調べた。+〔プラス〕, ○, ××, A, イ(記号)のような符号などで分類語彙表番号のないもの 86 個はあらかじめカウントの対象から除いてある。

異なり語数——についての集計を第 2.3 表に示す。

表 2-3 語種・品詞別の異なり語数表(1)

	名	動	形	感	語種計	人名・地名	総計
和語	6122	3266	1553	193	11134		
漢語	13345	—	1050	12	14407		
外来語	2820	3 ^{注4)}	123	18	2964		
混種語	1496	191	135	4	1826		
品詞計	23783	3460	2861	227	30331	9599	39930

ここでは全体約四万語のうち一万語近くが人名・地名であることがみられる。これを除いた一般の語について語種別にみると漢語が最も多く、和語がこれに次ぎ、外来語、混種語はかなり少ない。品詞の点では名詞類が最も多く、動詞類、形容詞類、感動詞類の順で少なくなっている。語種と品種の関係について語種の面からみると、各語種とも名詞類が最も多いが、特に和語に比して、

表 2-4 人名・地名の度数分布

度数 ^{注5)}	人名・地名 (%)	人名・地名以外の語 (%)
1	5528 30.6	12504 69.3
2	1731 26.3	4851 77.8
3~4	1257 22.2	4395 77.8
5~8	658 17.1	3199 82.9
9~16	275 11.2	2189 88.8
17~32	107 7.9	1420 93.0
33~64	32 3.5	877 96.5
65~	11 1.2	896 98.8
	9599 24.0	30331 76.0

漢語、外来語、混種語では名詞類の占める比率が高くなっている。品詞についてみると、形容詞類のなかでは和語が多く、漢語がこれに次いでいるが、2. の動詞類および4. の感動詞類では和語が大部分を占めている。以上は語の使用度数について考慮に入れていないものである。次に語の使用度数について分けて数えてみる。はじめに人名・地名についてみると第2.4表のよ

うになっている。

人名・地名は全体では約四分の一を占めるが、度数別にみると度数の低い階級に多く、高い階級では著しく少なくなっている。

人名・地名以外の一般の語における品詞別、語種別およびそのくみあわせ、度数別の分布を第2.5表に示す。

各種類とも大体において度数の大きい語は語数が少なく、度数の小さい語は語数が増大している。けれどもその増減のしかたには品詞・語種によつて相違がみられるようである。そこで同じ度数階級に属する語の各語種・各品詞の、その階級に属する語の総数に対する百分比を計算し、これによって比較してみる。

まず語種についてみる。和語は度数65以上の高使用率語のなかでは全体のなかばを占めるが、低い度数階級になるに従って次第に減じ、度数9~16以下はほぼ一定の比率になる。漢語の比率は度数の大きいものと小さいものとでやや減ずるが、他は過半に達している。外来語と混種語は似た

注 4) 外来語の動詞とは次のような例のものなどである。「……ところが『主語+動詞+目的語』型構文 (have 動詞だけは除いて)の練習は、そのあと第15課になってはじめて出る」(週刊朝日8月19日号)

注 5) 語の度数による階級わけは、2のn乗ごとに句切り目をつけた。したがって、1, 2はそのままとし、3と4, 5と6と7と8を合わせ、以下同様に9~16, 17~32, 33~64のようにまとめた。ただし65以上は一括して一つの階級とした。

表2.5 語種・品詞別の異なり語数表(2)

度	和語		漢語		外来語		混種語		品詞		總計													
	名	動	名	形	名	動	名	動	名	動														
1	2757	1123	544	51	4475	5129	303	1	5433	1474	3	78	8	1563	905	59	68	1	1033	10265	1185	998	61	12504
2	1027	439	251	29	1746	2134	181	2	2317	459	—	17	5	481	256	34	17	—	307	3876	473	466	36	4851
3~4	817	486	240	22	1565	2021	183	—	2204	377	—	15	3	395	176	32	22	1	231	3391	518	460	26	4395
5~8	586	405	159	19	1169	1533	130	5	1668	242	—	7	2	251	78	18	13	2	111	2439	423	309	28	3199
9~16	370	290	106	18	784	1052	109	1	1162	164	—	5	—	169	45	25	4	—	74	1631	315	224	19	2189
17~32	244	206	83	17	550	704	62	1	767	65	—	1	—	66	19	12	6	—	37	1032	218	152	18	1420
33~64	134	157	72	12	375	416	42	1	459	25	—	—	—	25	12	5	1	—	18	587	162	115	13	877
65~	187	160	98	25	470	356	40	1	397	14	—	—	—	14	5	6	4	—	15	562	166	142	26	896
計	6122	3266	1553	193	11134	13345	1050	12	14407	2820	3	123	18	2964	1496	191	135	4	1826	23783	3460	2861	227	30331

百分比

1	22.0	8.9	4.3	.4	35.8	41.0	2.4	.0	43.5	11.7	.0	6.2	.1	12.5	7.2	.5	.5	.0	8.3	82.1	9.4	7.9	.5	
2	21.2	9.0	5.2	.6	36.0	44.0	3.7	.0	47.8	9.5	—	.3	.1	9.9	5.3	.7	.4	—	6.3	80.0	9.8	9.6	.7	
3~4	18.6	11.0	5.5	.5	35.6	46.0	4.2	—	50.1	8.6	—	3.4	.1	9.0	4.0	.7	.5	.0	5.3	77.2	11.8	10.5	.6	
5~8	18.3	12.7	5.0	.6	36.5	47.9	4.1	.2	52.1	7.6	—	.2	.1	7.8	2.4	.6	.4	.1	3.5	76.2	13.2	9.7	.9	
9~16	16.9	13.2	4.8	.8	35.8	48.1	5.8	.0	53.0	7.5	—	.2	—	7.7	2.1	1.1	.2	—	3.4	74.5	14.4	10.2	.9	
17~32	17.2	14.5	5.8	1.2	38.7	49.6	4.4	.1	54.0	4.6	—	.1	—	4.6	1.3	.8	.4	—	2.6	72.7	15.3	10.7	1.3	
33~64	15.2	17.9	8.2	1.4	42.8	47.4	4.8	.1	52.3	2.9	—	—	—	2.9	1.4	.6	.1	—	2.0	66.9	18.5	13.1	1.5	
65~	20.9	17.8	10.9	2.8	52.5	39.7	4.5	.1	44.3	1.6	—	—	—	1.6	.6	.7	.4	—	1.7	62.7	18.5	15.8	2.9	
計	20.2	10.8	5.1	6.6	36.7	44.0	3.4	.0	47.5	9.3	.0	.4	.1	9.8	4.9	.6	.4	.0	6.0	78.4	11.4	9.4	.7	

表2.6 語種・品詞別の延べ語数表

度数	和語		漢語		外来語		混種語		品詞		總計													
	名	動	名	形	名	動	名	動	名	動														
1	2757	1123	544	51	4475	5129	303	1	6433	1474	3	78	8	1563	905	59	68	1	1033	10265	1185	933	61	12504
2	2054	878	502	58	3492	4268	362	4	4634	918	—	34	10	962	512	68	34	—	614	7752	946	982	72	9702
3~4	2756	1645	821	71	5293	6862	635	—	7497	1255	—	53	10	1318	592	102	78	3	775	11465	1747	1587	84	14883
5~8	3581	2485	986	122	7174	9413	811	34	10258	1496	—	41	11	1548	486	113	82	15	696	14976	2598	1920	182	19676
9~16	4376	3422	1261	213	9272	12476	1295	12	13783	1927	—	55	—	1982	556	301	48	—	905	19335	3723	2659	225	25942
17~32	5586	4754	1881	427	12648	16262	1419	27	17708	1449	—	22	—	1471	466	277	138	—	881	23763	5031	3460	454	32708
33~64	6248	7154	3398	594	17394	18467	1855	37	20359	1149	—	—	—	1149	513	236	47	—	796	26377	7390	5300	631	39698
65~	56932	73772	26577	5746	162127	81438	8773	150	93361	2041	—	—	—	2041	1050	936	344	—	2330	140561	74708	35694	5896	256359
計	83390	95233	35970	7282	221875	154315	15453	265	170033	11709	3	233	39	12034	5080	2092	839	19	8030	254494	97328	52545	7605	411972

百分比	
1	22.0 9.0 4.4 .4 35.8 41.0 2.4 .0 43.5 11.8 .0 .6 .1 12.5 7.2 .5 .5 .0 8.3 82.1 9.5 7.9 .5
2	21.2 9.0 5.2 .6 36.0 44.0 3.7 .0 47.8 9.5 — .4 .1 9.9 5.3 .7 .4 — 6.3 80.0 9.8 7.6 .7
3~4	18.5 11.1 5.5 .5 35.6 46.1 4.2 — 50.4 8.4 — .4 .1 8.9 3.9 .7 .5 .0 5.2 77.0 11.7 10.7 .6
5~8	18.2 12.6 5.0 .6 36.5 47.8 4.1 .2 52.1 7.6 — .2 .1 7.9 2.5 .6 .4 .1 3.5 76.1 13.2 9.8 .9
9~16	16.9 13.2 4.9 .8 35.7 48.1 5.0 .0 53.1 7.4 — .2 — 7.6 2.1 1.2 .2 — 3.5 74.5 14.4 10.2 .9
17~32	17.1 14.5 5.8 1.3 38.7 49.7 4.3 .1 54.1 4.4 — .1 — 4.5 1.4 .8 .4 — 2.7 72.7 15.4 10.6 1.4
23~64	15.7 18.0 8.6 1.5 43.8 46.5 4.7 .1 51.3 2.9 — — — 2.9 1.3 .6 .1 — 2.0 66.4 18.6 13.3 1.6
65~	21.8 28.7 10.3 2.2 63.1 31.7 3.4 .1 35.2 .8 — — — .8 .4 .4 .1 — .9 54.7 23.0 14.0 2.3
計	20.2 23.1 8.7 1.7 53.9 37.5 3.7 .1 41.3 2.8 .0 .1 .0 2.9 1.2 .5 .2 .0 1.9 61.8 23.6 12.8 1.8

分布を示し、度数の大きい語には著しく少なく、小さい語になるに従って増加してゆく。品詞についてみると、名詞類では常に大きな比率をもっているが、度数の大きい階級ではやや少なく、小さい階級になるに従って増加している。動詞類、形容詞類および感動詞類グループではこれと逆に、度数の大きい語において比率が高く、小さくなるに従って低下する傾向が見られる。^{注6)} 品詞と語種の組み合わせたものについて同じような観点から表の上で読みとることができるが、ここでは省略する。

度数 65 以上のところでは和語は漢語よりも多いが、度数 33~64 のところでは漢語は和語よりも多くなっている。このような違いは更に延べ語数でみたときにどのような形になって現われるだろうか。

延べ語数——異なり語数についてやや詳細にみたので、延べ語数についてはおもな点について延べるにとどめる。表 2.6 参照。(途中で調査を打ち切った語は、そこまでの使用率であとの分を推定しているので、延べ語数においては相対的な比較に重点を置く。)[なお図 2.1 も参照]

語種についてみると和語と漢語の占める率は異なり語のばあいと著しい異なりがある。すなわち、異なり語数では総語数についてみると漢語の方が多いのに、延べ語数では和語の方が多い。これは異なり語数の項でみた度数 65 以上のところで和語が多いということと関連することと思われる。外来語と混種語の占める比率は異なり語のばあいに比べてかなり減じている。品詞の点でみると、1. の名詞類の延べ語数は、他の類のそれよりも少ないが、異なり語のばあいと比べると名詞類の占める比率が低くなり、他の類がふえている。度数の階級に分けてみると、まず和語では度数 65 以上の階級の占める率が著しく高くなり、特にその中の動詞類の占める比率が高くなっている。漢語では度数 65 以上の階級に属する延べ語数が少なくなり、そこに漢語の名詞類の比率の低下がみられる。このようにみてくると度数の大きい語にはある種の性格のあることが予想されてくる。特に和語・漢語と名詞、動詞の各類に目をとめてみることもできる。そこで次にはこのような度数の大きい語についてさらに詳しく観察してみた。そのために度数 50 以上の約千二百語について調べてみる。これを各階級が大体三百語になるように度数について 50~64, 65~94, 95~174, 175 以上の四段階に分けて、異なり語数についての分布をみる(表 2.7)。

表 2.7 上位 1220 語の語種・品詞

度数	和語					漢語					外来語					混種語					品詞					人名・地名
	名	動	形	感	計	名	動	形	感	計	名	動	形	感	計	名	動	形	感	計	名	動	形	感	計	
175以上	75	60	40	5	180	100	—	9	—	109	3	—	—	—	3	2	2	—	—	4	180	62	49	5	296	3
174~95	71	47	28	12	158	113	—	13	1	127	5	—	—	—	5	3	1	—	—	4	192	48	41	13	294	3
94~65	45	53	30	8	136	143	—	18	—	161	6	—	—	—	6	—	3	4	—	7	194	56	52	8	310	5
64~50	51	59	29	7	146	119	—	12	—	131	11	—	—	—	11	3	2	—	—	5	184	61	41	7	293	10

和語と漢語を比較すると、度数 94 と 95 を境にして、それより上では和語が著しく多くなっていることがみられる。

高い使用率をもつ語の性格としては和語が漢語などより多いこと、動詞類が比較的多いこと、人名・

注6) 上位からの累加度数表をつくると、名詞類は上り勾配がいつまでも続くが、動詞類は早く上り勾配がなくなる。参照資料集 2 『語彙調査—現代新聞用語の一例—』

図 2.1 語種・品詞別の異なり語数と延べ語数 (百分比)

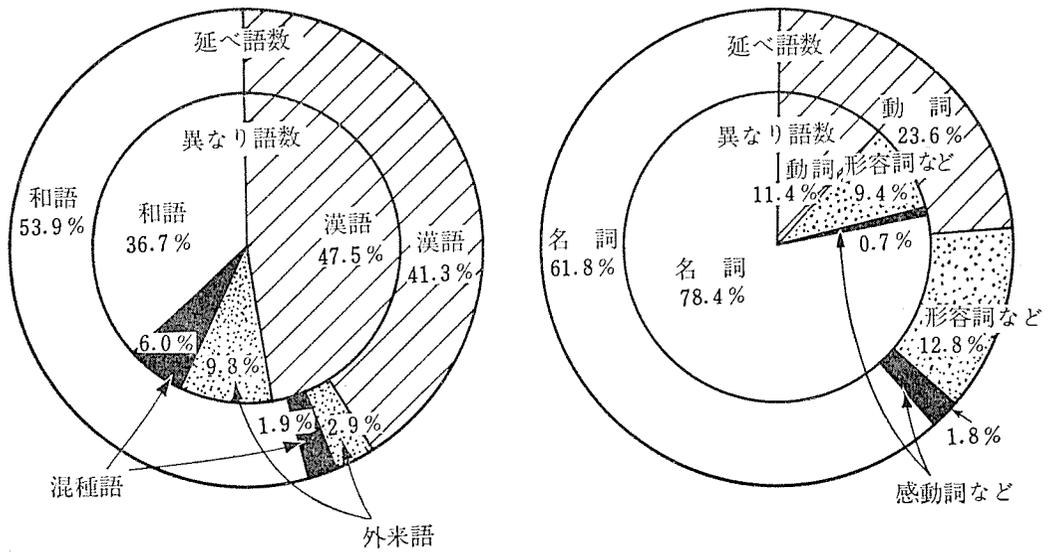


図 2.2 度数別にみた語種・品詞 (異なり語数)

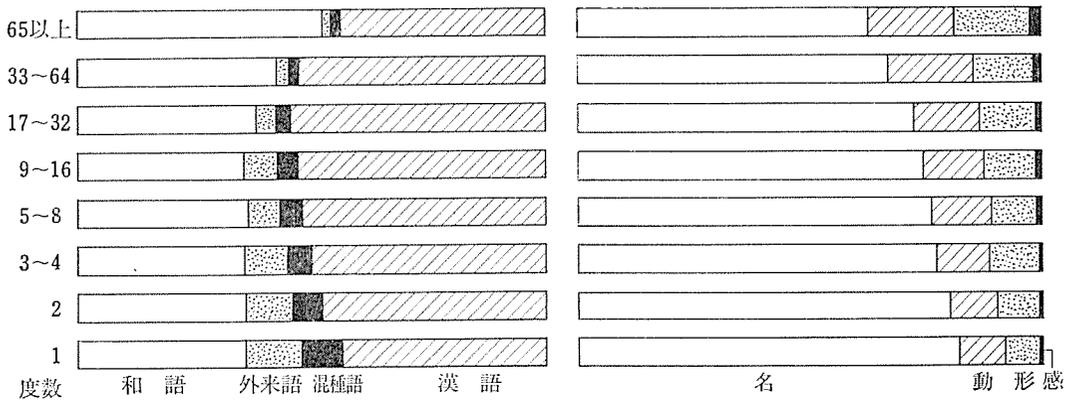
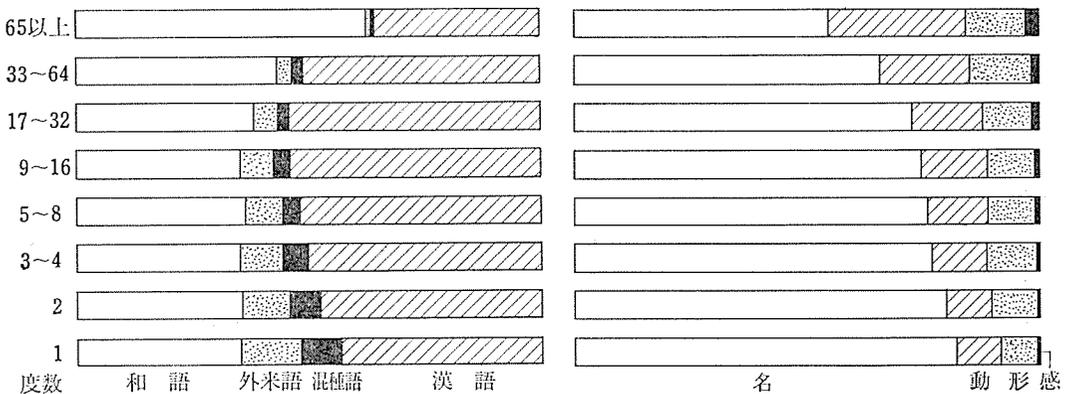


図 2.3 度数別にみた語種・品詞 (延べ語数)



地名が少ないことがあげられる。低い使用率をもつ語の性格としては外来語、混種語の占める率が多いこと、人名・地名が多いことがみられる。その中間の段階では漢語の占める率が大きい。

2.22 雑誌の種類と語種・品詞別

現代雑誌九十種の用字用語の調査では調査対象である雑誌を次の5類に分けている。すなわち一 評論・芸文、二 庶民、三 実用・通俗科学、四 生活・婦人、五 娯楽・趣味。このような

表 2.8 雑誌の種類と語種・品詞(横に100%)
異なり語数

層	語種				品詞			
	和語	漢語	外来語	混種語	名	動	形	感
一	39.9	51.8	5.0	3.3	71.6	15.7	11.8	1.0
二	35.9	54.3	5.7	4.0	75.3	13.4	10.5	.9
三	28.8	60.3	7.0	3.9	79.0	10.9	9.3	.7
四	44.7	39.1	9.9	6.2	73.8	14.4	10.8	.9
五	41.3	45.7	8.3	4.7	73.1	14.1	11.7	1.1

延べ語数

層	語種				品詞			
	和語	漢語	外来語	混種語	名	動	形	感
一	58.9	40.0	1.5	1.6	56.0	27.1	15.1	1.8
二	55.1	41.2	1.9	1.8	59.8	25.3	13.1	1.8
三	36.7	59.3	2.1	1.8	69.9	18.2	10.4	1.3
四	56.3	35.5	5.7	2.5	65.0	22.3	11.1	1.6
五	60.7	34.7	2.7	1.9	57.4	30.0	14.0	2.6

雑誌の種類と語種・品詞の相違に対応した語彙的な相違がみられるだろうか。たとえば服飾、料理、美容などの用語には外来語が多いから、そのような記事を多く含む婦人雑誌には外来語が多いのではないかと、いうようなことが考えられる。そこでこれについて調べることにする。

各層に属する語数は等しくないで、そのままでは比較することができない。比較をするにはそれぞれの層のなかで占める各品詞、各語種の占める比率によらなければならない(表2.8)。

異なり語数の表で、和語と漢語についてみると一般に漢語の方が多い。特に三層の実用・通俗科学の雑誌ではこの傾向

が著しい。ただし娯楽・趣味の雑誌ではこの差が少なくなり、生活・婦人の雑誌では逆転して和語の方が多くなっている。外来語については、生活・婦人の雑誌が最も多い。品詞の点では、実用・通俗科学の雑誌類において名詞類が最も多く、動詞類が最も少なくなっている。

延べ語数の表では、和語と漢語を比べると一般に和語の方が多いが、実用・通俗科学においては和語と漢語の関係が完全に逆転している。外来語は異なり語数のばあいと同様、生活・婦人の雑誌に最も多い。品詞の点でも異なり語数のばあいと同様、実用・通俗科学の雑誌において名詞類が最も多く、動詞類が最も少なくなっている。(語種と品詞とを組み合わせると、実用・通俗科学の雑誌には漢語の名詞類が比較的多く、和語の名詞類が比較的少ないという傾向がみられる。)

2.3 語種・品詞の内容

語種・品詞の内容に関する調査について述べる。調査は標本全体について行なった。

a) 品詞 この調査では品詞を4類に分けた。4類の区分は55ページに述べたとおりである。

β単位は長さの点では一般の文法における単語と同じでないものがあり、そういうものについては一般の考え方が適用できないものもあるが、その一方、一般の文法単位と同じものもあって、それには一般の文法での考え方が適用できる。たとえば「ゴールデン|ウィーク」「なぐり|合い」の「ゴールデン」「なぐり」は一般の品詞の概念をあてはめにくい、「おもしろい|問題」の「おもしろい」は一般の品詞の概念があてられる。以下の記述では、後者の(「おもしろい|問題」)

のように、一般の品詞区分が適用できる語だけを標本の中から取り出して考察の対象とすることにした。調査は標本全体について行ない、異なり語数で数えた。たとえば、形容詞類に属する副詞は933語である、というのはその類に属する 2861 語中 933 語に副詞の用法がある、という意味である。ここでは各語の性格づけは辞典(多くのばあい『三省堂国語辞典』1960)を参照した。したがって、たとえばあることばに「だ」がついて形容動詞になるといっても、この標本のなかにその用法が必ずあるというわけではない。現代語ではそのような用法が可能であるという判定によっている。一語でいくつかの機能をもつものはそれぞれのところで繰り返し数えた。たとえば「相当」には「相当する」「相当な」という用法もあり、「相当」だけで副詞の用法もある。このようなばあいにはそれぞれの品詞のところへ数え入れた。

代名詞——名詞類に属するもの 84 語。「これ」「どっち」「わたくし」など。形容詞類に 1 語「皆」

数詞—— 273 語(名詞類)

形容詞—— 409 語(形容詞類)

連体詞—— 23 語。「この」「あくる」「あらゆる」など(形容詞類)

副詞——合計 1035 語。このうち名詞類に属する語 58 語。これは名詞・副詞両様の働きをもつ。例、「幸い」「ところどころ」「従来」。形容詞類に属するもの 933 語。これは程度の副詞、「とても」「全く」「やや」など。感動詞類に属するもの 44 語。これは「多分」「たとい」「まして」などの陳述の副詞。

接続詞—— 30 語。感動詞類に属するもの 28 語、「ならびに」「もしくは」「そして」など。感動詞類に属するものが多いが名詞類のもの(「乃至」)、形容詞類のもの(「亦」)もある。

感動詞—— 146 語。感動詞類に属するものが多いが(142 語、「ほら」「おはよう」「はい」など)名詞類の「ごめん」、形容詞類の「そう」なども感動詞として使われる。

形容動詞——語によっては「一だ」「一な」などを添えて形容動詞として用いることのできるものがある。これは合計 1163 語あったが、このうち形容詞類に属するものが最も多く 1050 語(「あたりまえ」「独得」「プレーン」など)、名詞類に属する「名誉」「やっかい」「幸運」など、名詞としても使われるもの 113 語。(なお「一と」「一たる」などの語尾を付して形容詞として用いるもの 97 語。)

以上を表示すると、表 2.9 のとおりである。

表 2.9 普通の品詞分類による分布

品 詞 \ 意味分類による品詞	名詞類	動詞類	形容詞類	感動詞類	計
代 名 詞	84	—	1	—	85
数 詞	273	—	—	—	273
形 容 詞	—	—	409	—	409
連 体 詞	—	—	23	—	23
副 詞	58	—	933	44	1035
接 続 詞	1	—	1	28	30
感 動 詞	2	—	2	142	146
形 容 動 詞	113	—	1050	—	1163
動 詞	—	3460	—	—	3460
複合サ変を作る語	3405	—	140	1	3546

動詞の活用——3460語のうち外来語(このばあい外国語)の3語を除いた3457語の動詞についてその活用を調べた。これによると四段活用2174語, 上一段活用66語, 下一段活用1028語,

表2.10 動詞の活用の種類

四 段	2174
上 一 段	66
下 一 段	1028
カ 変	5
サ 変	181
そ の 他	3
合 計	3457

カ変5語, サ変181語, その他3語。カ変は「いで来」のような複合形, サ変は「混ざる」のような種語混を含む。「その他」は「仰す」「往ぬ」「いひいづ」のような古語形である。(表2.10参照)なお「研究|する」のように2 β になるサ変は上の数に含めず, すぐ次の項で扱う。「する」をつけてサ変動詞をつくることば——全体で3546語。このうち名詞類に属するものが3405語。「翻訳」「発達」「コントロール」など。形容詞類に属するもの140語。「のんびり」など。感動詞類に属するもの1語。「うんぬん」。

b. 語種 和語, 漢語, 外来語, 混種語の4種のうち, 和語を除く3種について取り扱う。

漢語——このなかには中国で作られて日本に渡ったもの「天文」「家庭」, 日本でつくったもの「返事」「大根」, 唐宋音のもの「たんす」「うどん」, などを含むことはすでに述べた。漢語のなかにはサンスクリット, パーリ語など古代インド語から伝わったものも含めてある。たとえば「ぼさつ」「うらぼん」「禪」である。この標本のなかではこのようないわゆる梵語系のことば(およびこれらと本来の漢語と結合した β 単位を含め)が87語あった。この種の語には雑誌「大法輪」などでくる特殊な語もある。(65ページ補注1. 参照)

表2.11 原語別にみた外来語(異なり数)

原 語	語 数	%
英 語	2395	80.8
フランス語	166	5.6
ドイツ語	99	3.3
オランダ語	40	1.3
ポルトガル語	21	.7
スペイン語	21	.7
イタリア語	44	1.5
ギリシャ語	2	.1
ラテン語	15	.5
ロシア語	25	.8
中 国 語	22	.7
そ の 他	88	3.0
混 種 語	26	.9
語	2964	99.9

外来語——原語別の内訳を表2.11に示す。この表で「その他」とは朝鮮語, アイヌ語, タガログ語, シャム語, カンボジア語, インドネシア語, チベット語, ヘブライ語, アラビア語, サモエード語(65ページ補注2.), エスペラントなどの言語, あるいは原語不明の語から来たもの, またはそれらが文中に表われたものであり, ほかに洋語風商品名なども含む。もちろんこの類はほとんど度数の低い語ばかりである。この表での混種語とは外来語のなかでの異原語の語の結合したものを指す(例カフス<英語>+ボタン<ポルトガル語>)。

この表では英語の数が圧倒的に多い。

江戸時代以前に国語化した旧外来語と明治以後の新外来語を区別してみると, たとえばポルトガル語のなかにも古いものと新しいものがあるので, これを各原語について調べてみると, 全体2964語の中, 合計55語が旧外来語であった。

雑誌の種類別にみると(第2.12表)英語の占める率は四層, 五層に多く, 一層に少ない。これは四層, 五層に他の外国語を原語とするものが少なく, 一層にはそれが比較的多くあるからであろう。フランス語は一層および四層に多いが, 前者は美術用語が多くこれは「美術手帖」「みづゑ」「芸術新潮」などに現われたものと考えられ, 後者は婦人雑誌の服飾・美容・料理などの用語に

表 2.12 原語別と層別

		一層	二層	三層	四層	五層	計
英	語	325	575	562	923	1215	3600
フ	ラ	50	32	26	73	65	246
ド	イ	15	26	47	18	32	138
オ	ラ	5	17	21	21	20	84
ポ	ル	6	9	5	9	13	42
ス	ペ	2	5	2	5	11	25
イ	タ	9	13	6	8	20	56
ギ	リ	—	—	2	—	1	3
ラ	テ	4	1	5	1	6	17
ロ	シ	13	8	4	2	5	32
中	國	5	4	2	2	14	27
そ	の	8	13	15	14	45	95
混	種	3	4	5	10	6	28
計		445	707	702	1086	1453	4393

多く見られる。三層にはドイツ語，オランダ語が他の層よりも多いが，これは科学用語が多くあらわれるからであろう。

混種語——これには和語と漢語の組み合わせ，和語と外来語の組み合わせ，漢語と外来語の組み合わせがあり，それぞれに二通りのつながり方がある。

表 2.13 混種語の内訳

組み合わせ	語数	内		訳		語	例
和語と漢語	1211	和+漢	481	漢+和	730	あて字，感ずる	
和語と外来語	315	和+外	128	外+和	187	生ゴム，ストバヤリ	
漢語と外来語	300	漢+外	95	外+漢	205	綿ネル，ビル街	
計	1826						

表 2.13 はこの内容を示す。これによれば和語と漢語の組み合わせが最も多く，それだけで全体の半ば以上を占める。

補注——珍しい語の見本。

- 雲門曰く，世界恁麼に広闊たり……。 (大法輪 7月 166)
 - 心に聖礙なきが故に，恐怖なし。一切の顛倒夢想より速く離るれば涅槃を得。という般若心経の垂示が，心の底までひびき徹る思いである。(大法輪 1月 88)
 - 人倫的カルマを核心とする仏教の文化行は……。 (大法輪 1月 17)
 - やがて船の旅が終りに近づくと，比良，比叡の天空が燃えはじめた。言うところの閻浮檀金の炎色なのだろうか。(週刊新潮 9月24日 65)
- そんなことをしているひまに，渋谷の道玄坂裏の露西亞料理店「ブヤシンカ」に行ってみればよかったのだ。私がそこへ偶然立ちよったのはずいぶん後になってからのことである。(偶然！なんという素晴らしい神の引き合わせであることか！)「ブヤシンカってどう云う意味なの——露西亞語かい？」「いいえ，もともとこれはサモエード語なんですがね」年老いた白系露人の店主は巧みにギターを弾き，「黒い瞳」を歌い，そして淀みない日本語で私の問に答えた。なるほどサモエード語か——北露から極地にかけて住んでいるサモエード人の言葉で，ブヤシンカとは「黒い木」 [= 石炭] を意味する土語だ，と云う。(宝石 7月 28) [調査対象直前からの注記的な引用である。]

2.4 活用形の使用度数の分布

用言は活用をもっているが、その活用形のそれぞれは使用度数が同じではなく、そこにかたよりがあることが考えられる。個々の用言についてもそれぞれの語に特殊性のあるものが認められるが、用言全体を通じてみても各活用形の使用度数は均一ではない。ここでは用言全体について調べた活用語の使用度数を記述する。『雑誌九十種の用語用字』の採集カードの中、同じ品詞に属し、かつ同じ活用形をもつものについて集計し、また助詞・助動詞のついたものは助詞・助動詞の接続調査の結果を利用して、活用の使用度数を調べた。

活用形の調査は助詞・助動詞の調査と同様、全標本の三分の一について行なった。

活用についての考え方は一般の考えに従っているので、 β 単位の取り扱いとずれている点がある。たとえば β 単位では「考え方」は「考え」方のように切れ、このばあいの「考え」は動詞に入れることになっている。しかしこの活用形の使用度数の調査ではこれを調査の範囲外のものとして取り扱った。「およみくださった」「行きたまえ」「見やすい」の「よみ」「行き」「見」についても同様に扱った。しかし、「およみくださった」「行きたまえ」「見やすい」の「くださ」「たまえ」「やすい」は、それぞれ連用形、命令形、終止形として調査範囲のなかにある。(「こちらにお住みということを知りたい、…」の「住み」は調査範囲のなかにいれる。)つまり、文節末にある用言の活用形、助詞・助動詞のつく形について調べ、次の自立語や接尾語などと結合して複合語・派生語などを作るものについては調べなかった。

活用形の分け方は、形の相違するものに着目して次のように分けた。

未然形 1 動詞に「ない」「ぬ」「ず」「ざる」など、「せる」「させる」「れる」「られる」などのつく形。
形容詞に「ず」「ざる」などのつく形。

2 「う」「よう」のつく形。

連用形 1 動詞に「たい」「ます」「ながら」「つつ」などのつく形、形容詞に「ない」「て」などのつく形。動詞・形容詞の中止法、形容詞の副詞法の形もここに含める。

2 動詞に「て」「た」「たり」などのつく形、形容詞に「た」「たり」などのつく形。

3 形容詞の「なかりせば」の形。

終止・連体形 「が」「から」「と」「の」などがついたり、終止法、連体法などの用法をもつ形。

假定形 「ば」に続く形。助動詞「り」に続く形(主として「……における」)も便宜上ここに入れておいた。

命令形 いわゆる命令形。形容詞の「よかれあしかれ」の例も便宜上ここへ入れておいた。

各活用形の使用度数を表 2.14 に示す。

この表でみると、動詞では「て」「た」に続く形が最も多く、終止連体形がこれに次いでいる。形容詞では終止連体形が最も多く、連用形 1 がこれに次ぐ。未然形 2、假定形、命令形などは、動詞・形容詞とも使用度数が少ない。

これらの活用形のなかで、未然形 1、連用形 1、終止・連体形、假定形、命令形については用法その他の観点から次のように細かく分ける。すなわち、

表 2.14 活用形別の度数分布

		動 詞						形 容 詞					
		全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
未 然 形	1	3333	438	642	571	472	1210	8	1	3	—	1	3
	2	345	41	74	61	57	112	13	—	4	2	—	7
連 用 形	1	3468	314	564	439	1140	1011	1049	114	181	152	241	361
	2	13638	1621	2578	1759	2205	5475	141	24	28	14	14	61
	3							1	—	1	—	—	—
終止・連体形		9222	1154	1668	1821	1477	3102	2408	276	447	366	412	907
仮 定 形		456	54	84	91	73	154	13	1	3	2	4	3
命 令 形		239	24	37	20	36	122	2	—	2	—	—	—
計		30701	3646	5647	4762	5460	11186	3635	416	669	536	672	1342

- 未 然 形 1 A 動詞に「ない」「ぬ」「ず」「ざる」などのついたばあい。
 シ B 動詞に「せる」「させる」「れる」「られる」などのついたばあい。
- 連 用 形 1 A 動詞に「ます」「ながら」「つつ」などのついたばあい、形容詞に「ない」「て」などのつ
 いたばあい。
 シ B 動詞に「たい」のついたばあい。
 シ C 動詞・形容詞の中止法、形容詞の副詞法。
- 終止・連体形 A 「が」「から」「と」「の」などの助詞のついたばあい。
 シ B 終止法。
 シ C 体言に連なる用法。
- 仮 定 形 A (動詞に)「ば」のついたばあい。
 シ B 助動詞「り」のついたばあい。
- 命 令 形 A 「よ」「ろ」「い」などのついたばあい。(主として動詞一段活用の命令形)
 シ B いわゆる命令形。

これによって表 2.14 のなかの八つの形のうち、五つの形についての内訳を表 2.15 に示す。

表 2.15 活用形の内訳(その一)

			動 詞						形 容 詞					
			全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
未 然 形	1	A	2000	266	398	350	271	715						
		B	1333	172	244	221	201	495						
連 用 形	1	A	1770	164	248	146	667	545	171	16	29	29	29	68
		B	210	21	40	28	43	78						
		C	1488	129	276	265	430	388	878	98	152	123	212	293
終止連体形		A	2815	344	512	525	415	1019	458	59	100	65	70	164
		B	2313	275	398	520	374	746	656	84	127	116	92	237
		C	4094	535	758	776	688	1337	1294	133	220	185	250	506
仮 定 形		A	407	43	70	77	70	147						
		B	49	11	14	14	3	7						
命 令 形		A	66	10	12	6	4	34						
		B	173	14	25	14	32	88						

この表のなかでたとえば終止・連体形のBとCを比べると、Bすなわち終止法よりも、Cすなわち連体法の方が動詞・形容詞とも多いことが注目される。

終助詞や引用の助詞「と」のついたものは、それがつかない形と合わせて計算してある。「動くよ」「動くね」「美しいね」「売上税の創設を考えているといわれる」「川べりの汁粉屋まで来てくれと伝えてもらいてえ」「……にお住みということを」などの「よ」「ね」「と」の前の形はそれぞれ独立して用いられたものと同様に取り扱った。また一般の文法でいう伝聞の「そうだ」、様態の「ようだ」のついたものも独立の用法として取り扱った。これらがどの程度あったか、その内訳を表2.16に示す。

表2.16 活用形の内訳(その二)

	動詞						形容詞					
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
連用形1C												
単独	1486	128	275	265	430	388	876	98	151	123	212	292
-と	2	1	1	—	—	—	2	—	1	—	—	1
終止連体形B												
単独	1731	202	290	424	281	534	372	52	68	84	43	125
-と	368	52	79	71	59	107	213	24	48	29	40	72
-って	5	2	—	—	2	1	8	2	2	—	2	2
-終助詞	197	18	25	25	30	99	61	5	9	3	7	37
-そう	12	1	4	—	2	5	2*	1	—	—	—	1
終止連体形C												
単独	3763	501	706	722	622	1212	1260	131	213	176	241	499
-と							2	1	—	—	—	1
-よう	331	34	52	54	66	125	32	1	7	9	9	6
命令形B												
単独	114	7	16	10	27	54	2	—	2	—	—	—
-と	43	6	7	2	3	25						
-終助詞	16	1	2	2	2	9						

層別にみると、動詞の連用形1Aと1Cにおいて四層が五層よりも多くなっている。これは連用形1Aのばあいは、助動詞「ます」の使用率が四層に多いためである。連用形1Cについては、詳しく調べてみなければわからないが、調査中次の例文のようなものが目立ったことを書きそえておく。

○鎖を五百七十目つくり、輪にして五目の波編にし、少しずつ固く編みながら十センチ編みしたら、ウエストは四目の波編で五センチ編み、また五目に替えて脇丈を編み、ここから二等分して前後別々に平編にします。(主婦と生活 9月付 139)

○水気を切ったものを並べて敷きその上にどじょうを皮を表にして盛り、入方汁を五勺ほど入れ火にかけ、煮立って来たら、玉子を溶いて上から平らにかけ、弱火にして蓋をし、半熟程度でおろします。(婦人生活 2月付 203)

* 形容詞の終止連体形Cの「と」のついた例は次のようなものである。「この合唱隊の宣伝文に『まるで天使の合唱をきくが如き』といったような言葉が出ていたが」(音楽の友 3月 110)

3 助詞・助動詞の用法

3.1 総記

3.11 助詞・助動詞の範囲

今回の調査にあたって助詞・助動詞としたものの範囲は、現行の学校文法におけるそれや、さきに報告3『現代語の助詞・助動詞』(1951)や報告4『婦人雑誌の用語』(1953)で対象としたものと、多少ちがっている点がある。それで、以下にそれらの点について述べる。

(1) つぎにあげるものは、助詞・助動詞と同様のものとして扱った。

a) 外来語の中に用いられた、前置詞・冠詞・接続詞など

ロック・アラウンド・ザ・クロック リズム・アンド・ブルース 討袁的義拳〔格助詞<の>に当たる。〕

b) 助詞・助動詞から転化した接続詞

……。が、…… ……。だ／が……(「だ」「が」の二語とする。以下同じ。) ……。で／は……

c) 用言とされているもののうち、判断をあらわすもの

本である 本ではない 寒くない 本でございます(「本がある(ない、ございます)」などの例は用言とする。)

「いらっしゃる」「ござる」「候」なども、これにならう。

d) いわゆる形容動詞の語尾

静かだ 静かな 静かに

e) 命令形の語尾「ろ」「よ」

見ろ やめろ しろ 見よ せよ

(2) つぎのものは、自立語または接尾語とみなして、助詞・助動詞に入れなかった。

くらい(ぐらい) ずつ ほど

れる(られる) せる(させる) たい たがる

(3) つぎのものは、体言に助詞・助動詞のついたものとして扱った。すなわち - のあとの部分を助詞・助動詞として扱った。

ところ - が ところ - で もの - の

よう - だ そう - だ(様態・伝聞とも) ふう - だ

(4) つぎのものは、自立語の一部とし、助詞・助動詞としては扱わなかった。

a) この調査で1βとしたものの内部にあるもの

床の間 知らん顔

b) 後続の動詞に融合した接続助詞の「て」

書いとく 流れてる 行っちまう(行っちゃう)

c) 前にくることばが、その結合でしか使われないもの

あるいは もしくは ちなみに すでに(ただし、「すんで/の」「すんで/に」)

総じて 大それた

副詞語尾的な「と」について、前につづくか切れるかが問題になるものをあげると、つぎのとおりである。

(つづくもの)			(切れるもの)		
うんと	きっと	ずっと	ぐっ/と	ざっ/と	じっ/と
そっと	ちと	ちょっと	ちゃん/と	ちょい/と	ちょっちょっ/と
ふと	ふっと	もっと	どっ/と	ひょっ/と	
やっと					

d) 全体の意味がひどくずれているもの

しめた! しまった!

または

どうか(お願いします) どうぞ(お願いします) どうも(弱った)(ただし、「どうかならぬか」のように、「どう」に疑問・不定の意味が生きているときは「どう」と助詞とに分ける。)

3.12 単位の認定

原則として、〈複合辞〉を単位としてみとめることはしない。ただし、意味・用法の大きくずれたつぎのものにかぎって、独立の一項目とする。

三角形とは……図形である	ただし：三角形と/は思わない
山とか海とか	ただし：何と/かなるさ
見てもわからない	ただし：見て/もないで
お茶でものもうか	ただし：お茶で/もあるまい
用があるので帰ります	ただし：ここにあるの/で間に合う
用があるのに来てくれない	ただし：ここにあるの/にしよう

なお、

泣いちゃ(いけない) ほくじゃ(ない) わたしゃ(知らない) 悪かあ(ない)
行きゃあ(しない)

のように、「は」が前に音韻的に融合したものについては、それぞれ

泣いては ほくでは わたしは 悪くは 行きは

の形にひきもどして考える。

行きゃあ(いいのに)

も「行けば」にもどして扱う。

3.13 同語別語の判定

ここでは原則だけをあげる。

(1) 語形のわずかなちがいは無視する。

雨が降ったんでね(「ので」と合併)

知らねえよ(「ない」と合併) 知らん(「ぬ」と合併)

見やしない(「は」と合併)

けれども～けれど～けんど～けど(同語とする)

(2) 活用語は各活用形を通じて同語とする。

ませ～ましゅ(う)～まし～ます～まする～ますれ→ます

たろ～たら～たり～たっ(け)～たる～た→た

だろ～だっ～だ～で→だ

なら～なり～なる～なれ～な→な

(3) 文語または方言の助詞・助動詞は、用法や語形の上で特に大きなちがいがなく、これに対応する口語または標準語の助詞・助動詞に合わせる。

なり～なる→な、たり～たる→た

まへ(ん)→ます ただし、「だす～どす」と「です」、「じゃ」と「や」と「だ」はそれぞれ別立。

同語別語の認定にあたって、特に注意すべきものの例をあげると、

◇指定の助動詞で「だ」系と「な」系、否定の助動詞で「ず」系と「ぬ」系とをそれぞれ別語とした。

◇「に」は助詞と助動詞とを分けるのがむずかしいため、一括して扱った。

◇格助詞「と」は引用・副詞的用法などを示すものと、相手・基準などを示すもの とに二分した。(ほかに接続助詞の「と」と並立助詞の「と」を立てる。)

なお、範囲・単位・同語別語の認定の具体的な点については、用法別度数表と同語別語の表とを参照していただきたい。

分析の対象としてどのような項目をとりあげ、どのような方法でこれを分析するかということは、助詞・助動詞の本質をどう見るかということによって大きく左右される。この点、《助詞・助動詞は本質的に他の単語の語尾と同列のものとするべきであり、助詞・助動詞の調査とはつまり自立語の文法形式の調査にはかならない》、というのが担当者の意見である。すなわち、助動詞「た」や「う」は活用語の終止・連体形と、連用修飾語をつくる格助詞は形容詞の連用形や副詞と、あわせて調査すべきである、と考えるわけである。ただし、実際には、調査が自立語をもふくめた語彙調査の一部としてなされ、一方「朝 早く 起きる。」のように助詞・助動詞をとまわらない文法形式が調査対象とされていないので、(語順の調査をのぞいては)このような考えはつらぬかれていない。

第1表 助詞・助動詞の用法別度数表

第1表には助詞・助動詞の意味・用法別の度数を示した。ここで「意味・用法」というのは、常識的・便宜的なものであって、それ以上のものではない。すべての助詞・助動詞を同一の観点から同

程度のこまかさに分析してあるわけでもない。たとえば、係助詞「は」「も」については主格・対格等のばあいを区別したが、これは「は」「も」の意味という観点からは不要であって、同一の意味をもっているものと見るべきであろう。これらの用法を「は」「も」について区別し、「さえ」「でも」などについて区別しなかったのは、まったく、「は」「も」がよく使われる助詞で、実用上大切であるという便宜上の理由によるものである。

意味・用法の分け方は大体『現代語の助詞・助動詞』(国立国語研究所報告3, 1951)にならったが、多少のちがいがあがる。相違点は、『現代語の助詞・助動詞』で二つ以上にわけているもの(たとえば「が」「けれど」の接続助詞的用法と終助詞的用法と)を一つにまとめたために生じたものが多い。

助詞・助動詞の用法別統計の先例としては、婦人雑誌の調査の際のものがある。(国立国語研究所報告4『婦人雑誌の用語』, 1953) 今回の調査は量的にはほぼその十倍に達するだけでなく、各部門の雑誌を含んでいるのが特徴である。しかし、以下の表に出ているのは、なまの度数であって、ここからただちに各層(各部門)間の比較をすることはできない。層ごとに雑誌の種類やページ数がちがいが、したがって助詞・助動詞の総量もまたちがっているからである。たとえば、助動詞「う」の意志をあらわす用法は、一層で30 二層で60 三層で29 四層で49 五層で89である。見かけ上は一・三層が少なく五層が多いのであるが、これについては、助詞・助動詞の総量が一層では少なく五層では一層以外の層の約2倍であることを考慮しなければならない。だから、比較は、つぎに示す各層ごとの標本延べ度数でわった比率によってされるべきである。

	全	一	二	三	四	五
	94660	11314	17887	14717	16117	34625
%	100	12	19	16	17	37

「う」の例については、層ごとの使用率をパーミル(‰)で示すとそれぞれ

	全	一	二	三	四	五
	2.71	2.65	3.35	1.97	3.04	2.57

であって、五層はむしろ他よりも低くなっている。

なお、この報告書『現代雑誌九十種の用語用字』の第一分冊「総記および語彙表」にのせた助詞・助動詞の語彙表の数字は、その後の分析の結果、ごくわずかではあるが修正する必要があることがわかった。第一分冊の表と以下の用法別度数表との数字がちがらばあいは、用法別度数表の方が正しいものと見ていただきたい。

例文の次に示した雑誌の略称は以下のとおりである。(五十音順)

アカ アサヒカメラ 家光 家の光 映フ 映画ファン 映友 映画の友 エコ エコノミスト 面
 俱 面白倶楽部 オ読 オール読物 音友 音楽の友
 科朝 科学朝日 科読 科学読売 キン キング 近映 近代映画 暮手 暮しの手帖 芸新 芸術新
 潮 傑俱 傑作倶楽部 講俱 講談倶楽部 娛よ 娯楽よみり
 サ毎 サンデー毎日 実雑 実話雑誌 実日 実業之日本 ジュ ジュリスト 主生 主婦と生活
 主友 主婦の友 週朝 週刊朝日 週サ 週刊サンケイ 週新 週刊新潮 週東 週刊東京 週読
 週刊読売 小泉 小説の泉 小俱 小説倶楽部 小サ 小説サロン 小春 小説春秋 小新 小説
 新潮 商店 商店界 小説 小説と読物 人手 人生手帖 人物 人物往来 スク スクリーン
 スタ スタイル それ それいゆ
 ダイ ダイヤモンド 大法 大法輪 中公 中央公論 東経 東洋経済新報 時法 時の法令 特文
 春 特集文芸春秋 トル トルーストーリー ドレ ドレスメーカー

日週 日本週報 農朝 農業朝日 農園 農耕と園芸 農世 農業世界
美手 美術手帖 ファ 月刊ファイト 婦朝 婦人朝日 婦画 婦人画報 婦俱 婦人倶楽部 婦公
婦人公論 婦生 婦人生活 婦友 婦人之友 文春 文芸春秋 別新 別冊小説新潮 別文 別冊
文芸春秋 ペマ ベースボールマガジン ポビ ポピュラーサイエンス 保同 保健同人
漫読 文芸春秋漫画読本 みづ みづゑ
野球 野球界 読俱 読切倶楽部 読小 読切小説集
リダ リーダーズダイジェスト
若女 若い女性 笑泉 笑の泉

(主生 十 135)は、「主婦と生活」10月号の135ページ、(週新 三22, 15)は、「週刊新潮」3月22日号の15ページを意味する。また、雑誌略号の次の「増」「付」はそれぞれ、増刊号、付録の略である。

	全	一	二	三	四	五
ある	1409	213	279	361	131	425
1) 断定	1408	213	279	361	131	424
2) 指定	1	-	-	-	-	1
い	33	1	4	-	2	26
1) 働きかけ	33	1	4	-	2	26
いらっしゃる	4	-	2	-	2	-
1) 断定(敬)	4	-	2	-	2	-
う・よう	927	121	185	136	156	329
1) 意志	257	30	60	29	49	89
2) 勧誘	59	6	11	6	15	21
3) 推量	611	85	114	101	92	219
え	5	-	-	-	-	5
1) 念おし・働きかけ	5	-	-	-	-	5
か	1246	155	232	200	174	485
1) 疑問	1246	155	232	200	174	485

- ある
- 1) 相手は何といても子供である(週朝 八12, 81)
若い方の場合には好ましくありません(スタ -228)
面白くもなともありませんよ(キン 九267)
私もそうありたいものです(主友 五80)
映画人に非ざる女性たち(週サ -1, 6)
- 2) あらぬ方を見つめ(小俱 十二418)

- い
- 1) お前さんも無職仲間かい(オ説 二64)
城へ参るよう申し伝えい(オ説 -100)
酒を持って来い(傑俱 十二233)
なに言っやがんだい(小新 五293)
無茶をすらない(婦朝 八47)

- いらっしゃる
- 1) 大人物でいらっしゃるから(文春 三104)

- う・よう
- 1) 出てくる歌を紹介しよう(トル 十144)
一本松を伐ろうとした工夫が(キン 八169)
まあやってみようかな(相撲 五81)
- 2) 皆でお家へ帰ろう(主友 十一103)
主婦の過労を防ぎましょう(家光 四233)
- 3) その場合には売物を浴びよう(実日 九15, 112)
大したことはなからう(フア 二24)
どれ位の時間が経ったろうか(小サ 六148)
選挙はどんな工合だろう(日週 五15, 11)
海底へ巻きこまれようとした(小泉 -208)
(注) p. 161 以下を参照

- え
- 1) 本心でっせ(明星 五99)
ウチ浮気しまっせ(読俱 十152)
(注) 「でっせ」1「まっせ」4

- か (注) p. 143 を参照。
- 1) (並列などをふくむ)
お前さんも無職仲間かい(オ説 二64)
人であるかのごとく(週新 七23, 17)
多少の高低はあるかも知れないが(小説 三132)
歌か踊りかタップダンス(読小 五208)
いつも何か胸につかえていて(実雑 八52)
では、二次会に移りましょうか(文芸 六152)

	全	一	二	三	四	五
が(格)	4901	589	918	884	657	1853
1) 主格	4831	581	898	867	652	1833
2) 連体修飾格	8	2	6	-	-	-
31) 「ところが」	57	6	13	16	5	17
32) 「～が如き」	5	-	1	1	-	3
が(接続)	1150	130	222	218	166	414
1) 接続	1109	123	213	214	162	397
2) 仮定の逆接	5	1	2	-	2	-
3) 接続詞的用法	36	6	7	4	2	17
かしら	23	4	4	1	5	9
1) 疑問	23	4	4	1	5	9
かて(方言)	1	-	-	-	-	1
1) 逆接	1	-	-	-	-	1
かな	10	2	3	-	-	5
1) 詠嘆	10	2	3	-	-	5

- が(格)
- 1) 副長の声が叫ぶ(実雑 四30)
やっぱり重慶が相手だ(人物 二61)
ジャズピアノが弾ける(中公 七266)
征長総督の任命が手間どった(サ毎 十7, 24)
(注) p. 115 以下, p. 123 以下を参照。
- 2) これがためには(中公 五75)
那須野ヶ原を貫う約束(人物 五99)
まず陸軍機勇躍してこれが攻撃に飛び上った(丸増 十二191)
百五十円がトコのえさ(サ毎 三11, 53)
- 31) ところが、この伯父は世間態ばかり気にする人で(婦生 八187)
科学者のレイトン教授も同じような靴の中に水爆設計図をいれて出て来たところが、出口で教授が心臓病の発作に襲われて(映友 二170)
- 32) 外国語を学ぶが如きは易々たるのみ(日週 六25, 32)
翼のためし渡り鳥の暗き海原に消ゆるがごとく愛に傷つきて短き命終えし妹よ、安らかに眠れ(トル 二55)

- が(接続) (注) p. 170 を参照
- 1) 読者には気の毒とも思ふが、どうも止むを得ない(新潮 九147)
そういうものを感じるんですがね(主生 八152)
だが、いくらボリューム・ブームがおとろえつつあるといっても(週新 十22, 28)
- 2) 王様だろりがだれだろりが、坊さんにはみな合掌しますね(文春 十二214)
日が暮れようがどうしようが、一切かまわない(婦生 十二282)
- 3) 一箇の粗末な粘土製の瓶だった。が、それには特徴があった(オ説 -300)

- かしら
- 1) こんどはあの人の番じゃないかしら(映友 -91)
何かしらほのぼのとしたものを(鞆 五108)

- かて
- 1) あとで泣いたかて知らんわよ(読俱 十152)

- かな
- 1) 競泳の体拭かれて勝者かな(俳句 二147)
悲しいかな九回もつという事は難しい(野球 七69)

	全	一	二	三	四	五
かも (文語)	1	-	-	-	-	1
1) 詠嘆	1	-	-	-	-	1
から (格)	1137	109	213	187	219	409
31) 空間的出発点	311	33	49	20	96	113
2) 経由点	15	2	1	-	2	10
3) 出現・消滅の場所	9	1	2	-	-	6
4) 時間的出発点	345	29	69	64	54	129
50) 抽象的基点	204	21	35	46	39	63
51) 「それから」(接続詞)	19	3	4	4	3	5
6) 発端	34	3	10	2	12	7
7) 理由・根拠	84	5	17	31	-	31
8) 材料	4	-	-	1	-	3

かも
1) 咲くかも 溜く人のところに(娛よ 二10, 70)

- から (格) (注) p.126 を参照
- 1) 群馬県からブラジルへ移住する (世界 十一-142)
車から降りた男(別文 53号117)
この舞台から見渡すと(小春 十二172)
天狗平から上は(小新 三63)
後から後からおしかけて行った(文芸 七186)
自分の顔に正面から懐中電燈の光を浴びせた(新潮 三237)
外出から帰ったら(婦生 一325)
それを小切手帳から切り取って(宝石 五39)
女性の脚部から臀部にかけての印象のようにも見える(新潮 八68)
- 2) 戸のすき間から、そっと中をのぞきました(笑泉 十二64)
表玄関の方からお上り下さいませ(講俱 一50)
- 3) 文庫から新選組の「暗殺人別表」を見つけ(映フ 十二175)
萩からはいろいろな人が出ましたね(文春 三104)
急に会社から姿を消したのが(週読 六17, 4)
この中に登場したのが、大阪から唐崎クラウンズ、松戸から大塚アスレチックスの二球団であった(ベマ 一244)
- 4) 十一月から二月末まで(娛よ 九7, 53)
今から思えば(小新 五197)
当のMにもそれからぱったり姿を現わさない(小新 十二108)
主人が亡くなってから四年間(実雑 八52)
- 50) 口から出まかせにしゃべっていると(オ説 四103)
心から詫びて(小泉 十二373)
いろいろな方面から見て批評する(実雑 九305)
陶酔からさめて(笑泉 十二242)
社長から国防相になった(映友 十二129)
- 51) それから一体に祭の写真が多い(アカ 七126)
- 6) 上図の第一例から見てゆく(美手 二83)
自分から降りたいと申出た(週東 十一-10, 49)
参考書を片端から読んでみたい(週新 三25, 57)
- 7) 私自身の気持からすれば(ベマ 四122)
単なる金もうけからやったもの(週東 十20, 21)
生活苦からの一家心中(知性 九192)
占領目的の上からも(ジュ 五15, 44)
新憲法の理念からみて批判がだされている(エコ 十27, 15)
- 8) フィルム一本から12枚とれます(週東 六23, 39)
アルコール分も血液から検出されなかった(小春 八47)
五カ国からなる委員会(東経 九15, 17)

	全	一	二	三	四	五
9) 出発点としての相手	49	5	9	6	6	23
十) 出発点としての主体	15	3	1	6	2	3
十一) 受け身の相手	33	4	11	1	4	13
十二) 概算の基点	14	-	4	6	1	3
十三) 比較の基準	1	-	1	-	-	-
から (接続)	603	69	104	111	106	213
1) 理由・根拠	603	69	104	111	106	213
き	35	14	7	-	4	10
10) 過去	33	14	6	-	4	9
11) (仮定の「ば」と)	1	-	1	-	-	-
12) (既定の「ば」と)	1	-	-	-	-	1
きり	9	1	2	-	-	6
1) 事物・状態の限定	5	-	2	-	-	3

- 9) ジョージから百ポンド貰わなくても(宝石 三104)
親権者から同意書をとる(ベマ 二214)
各チームから万遍なく勝星を挙げ(ベマ 十一-197)
彼等から受けた刺戟(文芸 五32)
当直の看護婦から電話である(リダ 一44)
店の者からその老人の話を聞いたとき(オ説 七32)
お医者さんからの聞きかじりの知識(文春 十二302)
若い刑事からの報告では(実雑 三124)
(注) p.127 を参照。
- 十) お手紙は係からそれぞれの国へ送り(明星 十二230)
日本政府の側からできることは(世界 九101)
外国人から見たチャーチル論(実日 四1, 50)
あの人たちはあの人たちなりに、何かやってたんだろ
うけれども、ぼくら世代のちょっとあとの人間から見ると、
なんだかジャーナリズムの上での新しい衣裳を考案して
るような感じがしてね(文芸 八77)
- 十一) 町の人たちから親しまれている(トル 十一-178)
ファンから期待されても(読小 十二240)
学校から推薦していただいて(婦朝 四87)
(注) p.127 以下を参照。
- 十二) 五回から六回にわたって(小新 六262)
ガルヴェストン市を訪れる百万人からの遊覧客(リダ 三92)
- 十三) このドイツの失望、落胆の気持ちから比べると(日週 一15, 28)
- から (接続) (注) p.170 を参照。
- 1) 学者だから、ぼくは殆ど財産も残せまい(面俱 十309)
その任に耐えなれないと考えたからである(世界 六12)
いったん触れまいと思ったからには、金輪際手を出さぬ
(新潮 九147)
だから利益が表面に出てしまう(東経 十20, 19)
女性だからといって(若女 六130)
- き
- 10) 野菊の如き君なりき(映友 五96)
もうタネも切れたと思いきや(読小 五208)
柚子の影日輪海を出でしなり(俳句 四204)
- 11) この女閨譚なかりせば(特文春 二36)
- 12) 部屋のうち停電すれど七光り、親父の頭電気なりせば(面俱 二464)
- きり
- 1) 店には真平一人きりになった(傑俱 六380)
脊髄カリエスで寝たきりだ(サ毎 九9, 36)
看護のためにつききりだそうですよ(宝石 十一-202)

	全	一	二	三	四	五
2) 状態の発端	4	1	-	-	-	3
け	1	-	-	-	-	1
1) 回想	1	-	-	-	-	1
けり	3	1	1	-	1	-
1) 過去	3	1	1	-	1	-
けれど(も)	143	22	20	11	30	60
1) 接続	130	19	17	11	25	58
2) 接続詞的用法	13	3	3	-	5	2
けん(方言)	3	-	1	-	-	2
1) 理由	3	-	1	-	-	2
ござる	40	7	9	3	4	17
1) 断定	40	7	9	3	4	17
ござんす	2	-	-	-	-	2
1) 断定	2	-	-	-	-	2
こそ	34	3	7	2	7	15
1) 提題・強調	34	3	7	2	7	15
ごわす	4	-	-	-	-	4
1) 断定	4	-	-	-	-	4

2) 夕子も、その場に立ちすくんだきり、たやすく口がひらけなかった(文芸 三90)
それっきり会ひませんわ(オ説 三31)

け

1) あゝ、口が利けないんだっけね(小説 十二398)

けり

1) 稲妻にもものいふ先をとられけり(婦朝 十一152)

けれど(も) (注) p. 170 を参照。

1) 実際疲れたけれど、何一つ不満を抱かなかつた(美手 十二69)

だけどそらいう点からいえば(スク 一79)

ちょっと自信があるんですけどねえ(小春 二217)

2) 冷やかな、けれども、激しい声で(文芸 九123)

不運な巡り合せです。けれど一度び愛し合って夫婦の絆を結んだ以上(婦生 一206)

けん

1) わしは、風呂好きやけん、湯殿を建てたいし(週朝 九2, 58)

ござる

1) いかにも妹の発意でござる(キン 四308)

どうもありがとうございました(相撲 十二102)

ござんす

1) ほかでもござんせんが(小説 十373)

こそ

1) 夫こそ哀れな被害者です(週説 三11, 71)

[佐藤] 垢石あってこそでございました(オ説 九264)

ようこそお越しなされました(サ毎 十二16, 63)

たがいに恥もいとわばこそ(小俱 二392)

きちんとした勤め先こそないが(小説 五257)

すわこそ、外国軍艦(サ毎 三4, 24)

ごわす

1) 寝こんでしもうたのでごわす(小春 六222)

	全	一	二	三	四	五
さ(終・間投)	35	9	1	-	-	25
1) 軽い断定(終)	29	8	1	-	-	20
2) 質問(終)	1	-	-	-	-	1
3) 注意事項(間投)	5	1	-	-	-	4
さ(格)(方言)	4	-	4	-	-	-
1) 方向・対象	4	-	4	-	-	-
さえ	55	9	9	4	5	28
1) 極端なものの例示	35	8	6	2	3	16
2) 十分条件	20	1	3	2	2	12
さかい(方言)	1	-	-	-	-	1
1) 理由	1	-	-	-	-	1
し(接続)	149	19	26	22	24	58
1) ことがらの並列	132	17	24	20	21	50
2) 根拠の例示	17	2	2	2	3	8
し(係)	3	1	-	-	-	2
1) つよめ	3	1	-	-	-	2

さ(終・間投)

1) 中林はしあわせさ(講俱 八193)

いくらでも応援するさ(キン 四199)

実は分らんさ(群像 九196)

それからはじまりましたさ(小春 十一171)

2) お前さん、昨日、湯殿でなにしてたのサッ(小俱 九395)

3) そのサイド・カーで駆け付けちゃってサ…(週東 六2, 42)

さ(格)

1) こっつさと[泊]まれば、あっつさ義理立たないべし(キン 四付124)

さえ

1) 生きて行くことさえできない(婦公 一115)

大リーグにさえ、非常に少ない(ペマ 三193)

汚らはしくさへ思ふ(中公 六344)

2) 「さえ～ば」の形で

それを実行しさえすれば(主生 五207)

行先までの代金さえ払えば(小サ 一214)

暇さえあれば(ペマ 七109)

さかい

1) 五年ごしの恋愛やさかい、いいところも悪いところも、お互ようわかってまっせ(明星 四236)

し(接続) (注) p. 170 を参照。

1) (理由的なニュアンスを伴うものを含む)

タンも出ないし喉だって出ない(保同 三58)

元老もいるし、貴族院もあるし、財界も考慮に入れね

ばならぬ(時法 三13, 67)

七十万円も金があるわけもないし、出す必要もないから(別新 十267)

2) うちの川さんがちょっと率が悪いし、まあ、首位打者は与那嶺さんとみた方が無難じゃないかと思う(ペマ 八87)

人気などというものはヤマが必ずあるものだし、それを恐れて大切な仕事に打ち込めなかつたら俳優としてゼロだ(週サ 一15, 14)

し(係)

1) 全部「いつしか」の「し」

	全	一	二	三	四	五
しか	33	4	10	4	3	12
1) 限定	33	4	10	4	3	12
しき	1	-	-	-	-	1
1) 程度	1	-	-	-	-	1
しも	16	1	2	4	1	8
10) 強調	4	-	-	1	-	3
11) 「だれしも」	2	-	1	-	-	1
12) 「かならずしも」	10	1	1	3	1	4
じゃ	38	6	6	1	1	24
1) 断定	36	6	6	1	1	22
2) (接続詞の一部)	2	-	-	-	-	2
す (方言)	1	-	1	-	-	-
1) 尊敬	1	-	1	-	-	-
ず	233	33	42	33	35	90
1) 否定	233	33	42	33	35	90
すら	12	3	-	4	2	3
1) 強調的な例示	12	3	-	4	2	3

しか
1) アメリカにも七十機しかない (週読 三25, 14)
内職でもして働くしかない (主友 二270)
一つの岩としか見えない (実雑 三23)

しき
1) これしきの位、わたしにとってはもの数でない (中公 七357)

しも
10) 折しも夕日が樹々を染めぬいていた (小サ 十二179)
潜水艦ならまだしも、巡洋艦じゃおだぶつだ (実雑 十104)
11) だれしも憤りを覚えるに相違ない (週読 二12, 81)
12) 長打力必ずしも有利とばかり言えない (野球 十49)

じゃ
1) あれは誰じゃ (オ説 一100)
われも彼も一ぱしの貸元じゃ (キン 二153)
わしの知らぬ間に、腹が大きくなったじゃ (小説 六183)
2) さよう。じゃが伯父甥でもあんなに違うもんかのう (小俱 十一90)

す
1) あっつさと [泊]まれば、こっつさわるいっだす (キン 四付124)

ず
1) 返事もせず、ボートと取組んでいた (婦生 一229)
思わずかっとなって (小説 六183)
誰にも会わずに散歩できる (旅 十一113)
影響をうけざるを得ない (中公 七176)
(注) 「ぬ」は別語とした。

すら
1) 憲法成立の「事実」すら、書くことをゆるされないのか (中公 十二264)
モスクワ一流のホテル・ソヴェツカヤですら洗面所には石ケンがなく (エコ 十一3, 23)
兄弟子の顔すら見えない (面俱 六371)
その姿は亡き父の面貌にすら似ている (小サ 二235)

	全	一	二	三	四	五
ぜ	17	-	5	-	1	11
1) 念おし	17	-	5	-	1	11
ぞ	40	1	7	-	-	32
1) 念おし・強調	40	1	7	-	-	32
ぞい	1	-	-	-	-	1
1) 念おし	1	-	-	-	-	1
そうろう	8	1	7	-	-	-
1) ていねい	8	1	7	-	-	-
た	6703	812	1302	660	887	3042
1) 過去・完了・状態	6703	799	1264	644	824	2949
2) 確認・強調	3	-	-	-	-	3
3) 条件 (「たら」)	220	13	38	16	63	90
だ	4329	575	861	749	476	1668
1) 断定	4329	556	840	724	462	1627
2) 接続詞的用法	116	19	21	25	14	37
3) 間投助詞的用法	4	-	-	-	-	4

ぜ
1) いま暴力を用いちゃ駄目だぜ (週読 三4, 49)
久し振りだ、一杯やろうぜ (週読 七22, 78)

ぞ
1) 隠すためにならぬぞ (傑俱 六261)
どうして戦勝国の指令の許に再興しようぞ (週朝 一8, 17)
よくぞ隠せずま先に槍をつけた (小俱 五90)
何ぞ、ご用はござりませぬかいな (週新 十一26, 42)

ぞい
1) がやがやと、何んぞいね (読小 八236)

そうろう
1) 手に余り候えば、さっそく本陣へ申し出ざるべく候 (人物 八70)

た
1) 荒物屋の二階に泊めてもらった (キン 十63)
飛び出して行った八五郎は (平凡 九176)
浮袋忘れてきたり脱衣場に (婦朝 十一152)
狐犬に似た本能 (宝石 十一112)
そういった場合は (商店 十57)
(注) p.166 以下を参照。
2) 君たちは役者だったな、何という一座なんだ (嬬よ 八10, 20)
3) 風呂へ行ったら驚いた (小サ 六263)
そんなことをしたら、戦死したお兄さんに叱られるわ (オ説 十50)
(注) p.147 以下, p.170 を参照。

だ (「な」「なら」は別立)
1) 今日は四月八日だ (大法 十94)
どこからやってくるのだろうか (華 六129)
本当の碌でなしだったんです (宝石 九288)
合唱団はまだ貧弱である (芸新 三281)
これは気もちの問題で、理くつの問題ではない (世界 二145)
2) だから急いでは駄目よ (家光 二67)
だが、このおれはどうしてくれるんだ (講俱 八193)
3) これこれ、男という者はだね、そう軽る軽るしく、たいへんなんて云うもんじゃない (読俱 二288)

	全	一	二	三	四	五
だけ	327	38	72	47	58	112
1) 限定	235	33	52	25	43	82
2) 程度	92	5	20	22	15	30
だす・どす(方言)	2	1	-	-	-	1
1) ていねいな断定	2	1	-	-	-	1
たって	14	3	1	-	2	8
1) 逆接	14	3	1	-	2	8
だって	46	11	4	2	6	23
1) 提題	28	7	4	2	4	11
2) 全称判断	9	2	-	-	2	5
3) 接續詞的用法	9	2	-	-	-	7
たら	2	-	-	-	-	2
1) 提題	2	-	-	-	-	2
たり(並列)	155	25	24	17	48	41
1) 並列	117	14	18	16	40	29
2) 例示	38	11	6	1	8	12

だけ

- 1) 上半身だけをむりにそらせた(中公 七176)
 ちょっと庭へ出るだけだ(家光 七152)
 それだけが残された道である(実日 十二11, 13)
 華厳なだけで心情の開放感がない(週サ 十14, 106)
- 2) 人員に見合うだけの事件がなく(ジュ 六1, 56)
 それだけの度胸があるものは(東経 十一10, 22)
 利息分だけ借入金が累積して(商店 五37)
 綿をできるだけ固くつめ(若女 八付95)
 どれだけの割合を貯蓄に向けるか(実日 二15, 15)
 熱心なだけあって(スタ 一121)
 問題が問題だけに(週東 五26, 7)

だす・どす

- 1) 関取, おねがいどす(小俱 五302)

たって

- 1) 死んだってかまわない(主生 七225)
 叩き売ったって, 四分にはなる(小俱 七80)

だって

- 1) 森繁さんだって, そですよ(平凡 二258)
 アメリカにだって, 滅多にありゃしない(野球 一55)
- 2) 不定を表わす表現についての
 誰だって過失は犯す(小泉 十二263)
 どんな役だっておできになるわ(明星 五234)
- 3) だってさうじゃないですか(世界 二237)

たら

- 1) 彼の評判の悪さたらなかった(講俱 三222)
 いやな待ったら, 人を睨みつけるんだもの(小説 九249)

たり(並列) (注) p.144 以下を参照。

- 1) 丁寧にお辞儀をしたり, 改札口へ案内したりしていた(文春 十一355)
 鉄屑を捨ったり万引をしなければならない(日週 八20, 15)
- 2) 校訂本を使ったりしている(新潮 七24)
 軍部時代には, 中野正剛の東方会と合同をもくろんだり, 大分右翼がかった(人物 二146)
 人形を戦地へ送ったりするの(知性 六273)

	全	一	二	三	四	五
たり(断定)	21	3	5	3	-	10
1) 断定	21	3	5	3	-	10
つ	3	-	-	-	-	3
1) 完了(並列)	3	-	-	-	-	3
つつ	39	11	3	8	5	12
1) 同時	16	7	1	1	3	4
2) 懸統(「つつある」)	21	3	2	6	2	8
3) 不相応	2	1	-	1	-	-
て(接統)	938	1139	2886			
	7872	1475	1434			
10) 接統	478	585	1373			
	4062	750	873			
11) 補助動詞への接統	459	554	1500			
	3802	725	559			

たり(断定)

- 1) 国家の基本法たる憲法の改正(中公 五75)
 何たることを(読小 九298)
 純爛たる祭良朝文化(音友 一134)

つ

- 1) 山峡の道辿りきつ(小新 一329)
 ためつすかしつ仔細に検討したよ(宝石 十一244)

つつ (注) p.145 以下を参照。

- 1) もすそをはためかせつつ, おなじ道をかえて来ると(新潮 一49)
 おこんをしりぞけつゝ手まり姫を探して(傑俱 二37)
- 2) 時代は移りつゝあった(俳句 三115)
 主食類は年々減りつつある(エコ 九29, 65)
- 3) 争議指導者の反響に遭いつつも, ある小作人たちをして共鳴させた(中公 十一98)

て(接統) (注) p.170 以下を参照。

- 10) 部屋を出て, ドアをしめる(家光 五114)
 支配人を通して話した(週読 十二9, 54)
 国土開発によって得た収入(文春 二256)
 最初の小説として名高い(人物 七89)
 スエズ運河を経由しないですむ(実日 十二1, 41)
 私たちが忘れてはいけないのは(婦公 五162)
- 11) 緑の草で擬装していました(世界 六187)
 後学のために聞いておけ(新潮 十一225)
 一度見に行ってみよう(群像 一34)
 十時を過ぎてしまいました(人生 十二44)
 笠踊りを見せてもらった(文春 七221)

て+補助動詞くちわけ>

	全	一	二	三	四	五
あげる	10	1	-	-	4	5
ある	51	1	8	7	11	24
いる	2204	237	425	364	307	821
いただく	26	1	7	6	6	6
いらっしゃる	12	-	1	-	6	5
おくる	89	7	19	12	25	26
おくる	94	20	15	19	8	32
くたさる	427	51	80	49	48	199
くたさる	57	1	9	3	18	26
くたさる	148	14	32	10	16	76
ござります	1	-	1	-	-	-
まいる	175	16	39	21	31	68
みる	2	-	-	-	-	2
みせる	161	14	32	25	24	66
もらう	11	1	2	-	2	6
もらう	51	4	13	6	7	21
やる	31	1	7	1	5	17
ゆく	244	36	34	28	41	105
計		455	551	15	75	
	3794	724	559			

	全	一	二	三	四	五
12) 依頼	7	1	-	-	1	5
13) 主張	1	-	-	-	1	-
て (引用)	73	11	8	2	20	32
1) 引用	33	6	7	-	8	12
2) 提題	23	3	-	1	9	10
3) 話の紹介	17	2	1	1	3	10
で (格)	2346	238	402	378	477	851
11) 空間的场所	476	57	87	62	103	167
12) 抽象的场所・場面	579	70	90	157	64	198
13) 主体としての組織	20	1	4	5	1	9
2) 主題・条件の提示	73	11	11	10	14	27
3) 時期	66	12	10	16	5	23
4) 期限・値段	51	2	9	14	7	19

- 12) ああ、恐い。助けて (週東 七28, 26)
 集金になら来ないでね (新潮 二138)
 離してよ (トル 二55)
- 13) 何かとても柔軟性があるよ (婦公 八352)
- て (引用)
- 1) 「あ、高石よ」っていわれるんです (週朝 十二23, 25)
 最大の楽しみはって聞いたら (別文 51号, 256)
- 2) 券開いて大切だよ (婦生 五220)
 ボカンとしているって、本当にいいもんですわ (小サ 九258)
 なんだってあんなところで喧嘩してたの (読小 三88)
- 3) もう少し太りたいんですって (小サ 三135)
 やはりそうだってさ (新潮 七24)
 女だから登らせないんですって? (週朝 七15, 80)
 その男は誰だって? (笑泉 五232)
- で (格)
- 11) 寝室で泣き叫ぶ (週新 二26, 59)
 アメリカでその方法を研究し (ダイ 三17, 71)
 ウエストで調節ができるような作り方 (装苑 八208)
 東京では、むしろ、共かせぎということが常態になっている (婦画 一225)
 三宝院で会合があることをもらした (映フ 十二175)
- 12) 貧乏のどん底で病死した (新潮 九31)
 その点ではまちがひを犯しはしなかった (新潮 十二65)
 娘のことでうかがいましたが (婦朝 四87)
 ここで見落してはならないのは (エコ 十一24, 47)
 たまごの料理でいちばんおいしいのは (暮手 37号 68)
- 13) 両代表校で王座を争い (面俱 九293)
 金もうけからやったものと捜査当局ではみている (週東 十20, 21)
 雄と雌とでは声が全く異なる (娛よ 五25, 70)
- 2) 私でさえ男だったら毎晩来てみたくもなるわ (傑俱 三184)
 捕えられたのでははなしにならない (サ毎 七29, 25)
 一度だけでいい (トル 六107)
 お話はこれでおわりでしたが (小春 十一171)
- 3) 今日では外国にも輸出されて (キン 七付94)
 その後で彼は書いた (群像 一203)
 この辺で散会にしましょう (ジュ 九15, 47)
- 4) 十円の損料で借りの (家光 二176)
 結婚後一年で夫と死別し (婦朝 六119)
 五年の辛い勤めをすませ、あと僅かで年があけると云ふ間ぎはのことでした (世界 八213)
 55秒台で泳ぐ (平凡 十一177)

	全	一	二	三	四	五
5) 状態	387	36	62	37	103	149
6) 手段・道具・材料	454	32	80	47	136	159
7) 原因・理由	110	11	23	19	16	41
8) (接続詞の一部)	59	3	14	8	7	27
9) 接続詞の用法	71	3	12	3	21	32
で (接)(方言)	5	1	2	-	-	2
1) 接続(理由)	2	-	1	-	-	1
2) 念おし	3	1	1	-	-	1
です	1314	108	217	133	378	478
1) ていねいな断定	1304	108	216	132	371	477
2) 接続詞の用法	10	-	1	1	7	1
ても	379	48	75	82	60	114
1) 逆接	379	48	75	82	60	114

- 5) 脊椎カリエスで寝たきりだ (サ毎 九9, 36)
 コンロともて五、六千円 (キン 七178)
 二人でゆっくり生活を楽しむ (主生 十一440)
 徹夜で予想回答を作る (娛よ 九21, 17)
 笑われるを覚悟で申し出ている (週新 九10, 42)
 芸で果てる気でした (傑俱 十二348)
 あれで、割合無邪気な悪戯が好きだから (平凡 十167)
 曲もいろいろな意味で制限がある (音友 八206)
- 6) 厚紙で板を作り (家光 一村183)
 俗な言葉でいえば (実日 十一1, 52)
 私一人の進退でケリはつく (葦 十一38)
 手術的な方法で除去する (スタ 一228)
- 7) 置面の疲れて睡気が出てきた (オ説 十150)
 結核で死ぬ (保同 一15)
 おかげで被害が少ないよ (芸新 七195)
 鼻も高いので有名 (サ毎 七8, 53)
 もう一つは多肥栽培になる関係で、早植につきもののモンガレ病が非常に心配されるわけです (農世 五113)
- 8) ところで今度上げるロケットが (キン 四199)
 それで、あたくしを呼び出したのね (読俱 九173)
 云った所で何にもなりはしない (葦 五108)
- 9) で、この岩はどこにある岩でしょう (週サ 四1, 47)
 では、その増資はどのようなものか (ダイ 一5, 110)
 そうね、でもだんだんれるでしょう (読俱 四55)
- で (接)
- 1) 昨夜必配かけたで……お礼云うて来ておくれ (小説 二180)
 2) ええとこある女やったで (日週 十15, 65)
- です (注) p.169 以下を参照。
 1) 十八歳の子高生です (実雑 九305)
 あなたの恋人はがっかりするでしょう (スタ 五130)
 2) (全部「ですから」の形)
 最初から苦心サントンして設計通りにやったんです。
 ですから二、三日ぐらいの違いで出来ました (婦朝 二141)
 (注) 間投助詞的な用法はなかった。「だ」を参照。
- ても (注) p.160, p.170 を参照。
 1) 今思い出しても、背筋に冷たいものがゾーツと通る (保同 七58)
 どうしてもこうなると思う (群像 十224)
 かれこれ来てもよい頃だ (小新 七95)
 浅井家にしても辛い所です (週サ 五27, 82)

	全	一	二	三	四	五
でも	241	27	54	21	44	95
1) 包括	128	15	33	10	26	44
2) 全称判断	73	7	18	6	8	34
3) 例示	40	5	3	5	10	17
と(相手)	552	53	109	103	104	183
1) 相手・仲間	308	28	67	47	51	115
2) 異同・比較の基準	244	25	42	56	53	68
と(並列)	723	101	124	129	171	198
1) 並列	723	101	124	129	171	198
と(接続)	674	70	113	102	109	280
10) 条件	626	66	105	101	104	250
11) 「すると」	32	3	6	1	2	20
12) 接続詞的用法	5	-	1	-	-	4

でも

- 1) 割勘でも、ただの割勘ではない(週東 五5, 4)
漁業権だけでも返してほしい(サ毎 七29, 25)
それでも追いつかないほどに(キン 七付94)
少しでも器量をよく見せることに(婦画 十168)
- 2) (不定詞について)
いつの世でも通用する(短歌 三36)
いくらでも、誰でも[出典略]
- 3) 三つ目小僧でもいたのかい(平凡 一222)
そんな忠告でもする人間があると(中公 八325)
ハイキングにでも行けたらね(傑俱 十一426)
あの連中にたかられてもしたの(読小 三88)

と(相手)

- 1) 団左衛門と度々面会したが(人物 五99)
フィンランドとの貿易協定(東経 四28, 42)
旅館へ男性と泊る(小俱 十一305)
材料とまぜて取り分けます(若女 八110)
- 2) 時平の態度とはだいぶちがう(みづ 八61)
一柳の郷里とも近いし(文芸 六66)
~とともに[同時に、いっしょに]
孔子の学問とは反対で(主生 十一119)
いままでのものとくらべて(科読 十62)
(注) p.132 を参照。

と(並列) (注) p.139 以下を参照。

- 1) 若い者の希望と夢とを象徴する(トル 三201)
地中海と黒海とカスピ海でさえぎられ(世界 十159)

と(接続) (注) p.147 以下, p.170 を参照。

- 10) 老人はそういうと、ふと立上った(オ読 五169)
皆君のようだとか助かるんだが(オ読 一199)
風聞によると、最近、とみに元気がないという(漫説 十160)
そうすると、この宿には、開かずの押入れが多すぎるぞ(笑泉 十二64)
- 11) 労働者たちは、守衛のつくっている列の方に後から後からおしかけて行った。するとその列はすぐにくずれて、もはや労働者の入門をさえぎるものはなかった(文芸 七186)
- 12) どうも魔がついていると、堀は渋々埋立地の方へ渡っていき、真暗い建物の裏へ廻った。と、古びた三階建の横腹の出入口から、荒くれ男達の罵り声が洩れてきた(読小 六289)

	全	一	二	三	四	五
2) 仮定の逆説条件	10	1	1	-	3	5
3) (方言)	1	-	-	-	-	1
と(引用)	494	827	663	1513		
10) 引用	4014	1696	208	361	226	222
11) 「~という~」	946	148	209	173	137	279
12) 「~うとする」	119	20	17	16	21	45
21) 動作のし方	113	11	23	12	9	58
22) 副詞語尾	442	35	75	22	57	253
23) 「なんと」	4	1	2	-	-	1
30) 変化の結果	343	31	53	115	36	108
31) 「として」	288	36	69	88	32	63
40) 断定	24	3	9	-	-	12

- 2) かりして女を宿屋へ連れ込みさへすれば、あとは焼いて食はうと煮て食はうと、こっちの意のままだ(小新 四36)
たとえアルバイトであろうと、舞踏会の席上では楽士は楽士だった(小サ 十二179)
- 3) 遠慮せんと手を出しなさい(明星 十一154)

と(引用)

- 10) 横須賀のなんとか親分(新潮 四143)
「ほんとに深夜ねえ!」と、私は答えた(世界 八182)
十一時頃だったと思います(中公 九331)
禪空と名乗っていた(大法 五70)
どうせ普段着だからと腰の弱い布などでお作りになると(主生 一付62)
(注) p.132 以下を参照。
- 11) (連体 だけ)
「新著月刊」という雑誌(世界 三149)
出発の日が延びのびになるといった有様(スク 四66)
- 12) 他人の疾病を除こうとするよりも(大法 二25)
地藏盆の賑いも、ようやくこれから始まろうとしている(婦俱 三45)
- 21) 4対1と第一戦をかぎった(野球 一159)
右に左にと打球を扱っている(野球 二156)
結婚生活は二年と続かなかった(新潮 二135)
なにやかやとお忙しい(平凡 十一112)
外野手を宮本、岩本、加倉井と並べた場合(野球 十49)
なんとか食ひつないで(別新 七243)
- 22) サッと赤い血がふきだす(週東 九22, 61)
いろいろと治療をしました(主友 十二202)
心がムズムズとしてこまった(中公 九156)
整然と陣を敷いた(オ読 十二103)
- 23) 何と愚かな人間だろう(小泉 十二373)
- 30) 彼は無罪となった(近映 七140)
主演は阪東妻三郎とかわった(近映 十二138)
昭和二十八年末を百とする(週東 六16, 6)
壁の中の柱は別として(芸新 六86)
瓦礫の巷と化した(ベマ 十243)
お松を姉と立てろ(家光 八161)
縮紉操短全廃ときまる(エコ 五19, 11)
不思議とするには当らなかった(新潮 三237)
対米調整に重点が移るとしても(週説 十二30, 15)
(注) p.135 以下を参照。
- 31) 治療費として三千円貰った(知性 五283)
ソ連としては大問題だ(サ毎 十一4, 17)
- 40) 痛くも何ともない(オ読 四103)
なんとなく慕ってみたい(小サ 十181)
きくともなしにきいた(面俱 七160)

	全	一	二	三	四	五
50) 接続詞的用法	39	1	9	11	3	15
ど (方言)	1	1	-	-	-	-
1) 伝聞	1	1	-	-	-	-
とか	98	16	17	22	26	17
1) 並列	98	16	17	22	26	17
とて	7	1	1	-	1	4
1) 包括	1	1	-	-	-	-
2) 逆接	3	-	1	-	-	2
3) 理由	3	-	-	-	1	2
とは	29	2	7	3	2	15
1) 主題	27	1	7	3	2	14
2) 詠嘆	2	1	-	-	-	1
とも(接続)	14	2	2	4	2	4
1) 逆接	14	2	2	4	2	4
とも(終)	3	-	-	-	1	2
1) 確認	3	-	-	-	1	2
ど(も)	14	2	4	-	4	4
1) 逆接	14	2	4	-	4	4

50) とにかくリュウマチほど薬の多彩な病気はない。ということは何れもあまり確実に効かなかったという証拠でもある(キン 五 285)

ど
1) 床下は血だらけじゃつどよ(群像 十一 39)

とか (注) p.143 参照。
1) 環境とか身分とかいふものも(文芸 二 176)
ネギとかニラと一緒に(実日 十 15, 75)

とて
1) これとて、いずれは返さねばならない(世界 十一 142)
2) いくら叫んだとてうめき一つもれるものではなかった(笑泉 五 232)
さりとして変通自在の不思議な力が、そのアイツに備わっているわけでもなさそうである(週朝 五 20, 18)
3) 地方のこととて就職の機会に恵まれず(それ 39号 125)

とは
1) ペーパー・ジュエルとは、紙の宝石という意味です(若女 二 62)
目をつけていたとは、さすがに NHK だ(相撲 五 81)
2) あの苦しい生活に堪へてみた純真な青年が、二十五年後の今日、齢甲斐もなく愚かな情痴にまみれてゐるこの僕だとは(群像 十 157)

とも(接続) (注) p.160以下を参照。
1) おそくとも二十九までには(婦生 二 128)
八頭身でなくともいいから(週新 十 22, 23)
少くとも十一回も報道された(新潮 六 262)

とも(終)
1) ほんとですとも(ドレ 六 209)

ど(も)
1) 追えども払えども戦友のシカパネを越えて突撃を敢行(週説 七 8, 73)
どんなに「具体的な」芸術作品といえども永遠の影以上には出られない(中公 三 90)

	全	一	二	三	四	五
な(感動)	137	16	23	4	9	85
1) 感動・働きかけ	137	16	23	4	9	85
な(禁止)	24	4	5	-	2	13
1) 禁止	24	4	5	-	2	13
な(命令)	6	-	-	-	-	6
1) 命令	6	-	-	-	-	6
な(助動)	1723	261	354	249	289	570
1) 断定	1723	261	354	249	289	570
なあえ	2	-	-	-	-	2
1) 感動	2	-	-	-	-	2
ない(動詞に)	1483	191	297	263	212	520
1) 否定	1483	191	297	263	212	520
ない(形容詞などに)	568	79	101	94	77	217
1) 否定	568	79	101	94	77	217

な(感動)
1) それにしては、ひどい話だなあ(娯よ 八 31, 21)
由美、まだ風がぬけないな(明星 三 145)
だつてな党员が山林は人民のものだと云つたもの(群像 五 138)

な(禁止)
1) 非戦闘員に手を出すな(人物 四 89)
今いうたとおりに、わし一人を殺してすむことと思ひなさんなよ(新潮 四 221)

な(命令)
1) せいぜい稼いでお帰りな(小俱 六 401)

な(助動)
1) これが、恋愛企業の本質なのである(スタ 七 179)
まじめな顔になって(文春 六 268)
神聖なる自然法を(知性 三 209)
この平凡ならざる資質は(俳句 五 96)
戦うなれば対ソである(日週 一 5, 6)
これなら大丈夫(ダイ 十二 4, 18)
公僕は私僕なりや(文春 八 70)
(注)「だ」「で」は別語とした。

なあえ
1) 五月中の申 ナーエ
アレサ御野馬追いナーエ(平凡 八 付 57)

ない(動詞に) (注) p.163 以下を参照。
1) (動詞および動詞型活用の助動詞に)
お前の出世の邪魔はしない(傑俱 十二 348)
リーダーがいなくなる(商店 十一 60)
早く逃げなければいかん(丸 十 102)

ない(形容詞などに)
1) (形容詞、形容詞型活用の助動詞、断定の助動詞に)
何を食べてもおいしくなかった(保同 十二 67)
若干減配するのではないか(エコ 七 21, 69)
何時となく従来の古い型が脱れて(美手 一 95)
さりとして変通自在の不思議な力が、そのアイツに備わっているわけでもなさそうである(週朝 五 20, 18)
その間中、此方がサービス係をやらなきゃいけないだよ(映フ 五 49)

	全	一	二	三	四	五
ながら	194	23	33	9	34	95
1) 同時	161	21	23	2	30	85
2) 不相応	33	2	10	7	4	10
など	341	32	71	66	86	86
1) 例示	312	29	61	64	83	75
2) とりたて	29	3	10	2	3	11
なり(接続)	3	-	-	-	-	3
1) 直前の動作	3	-	-	-	-	3
なり(並列)	14	-	-	4	4	6
1) 並列	14	-	-	4	4	6
なんか	33	4	9	1	7	12
1) 例示	10	-	2	1	4	3
2) とりたて	23	4	7	-	3	9
なんて	42	4	5	-	9	24
1) 引用	15	1	-	-	3	11
2) 同格	4	1	1	-	-	2
3) 提題	23	2	4	-	6	11

ながら (注) p.145 以下を参照

- 泣きながら叫んだ(婦生 七342)
音を立てながらはためいていた(別文 53号117)
- 立派な才能を持っていながら、その才能が片ちんばで(週サ 十一11, 18)
小柄ながら均整のとれた肉体(週新 十22, 28)
自分ながら、妙な気持がするほど(週読 七22, 28)
弱々しい口調ながらもその太い眉の下でいかにも険しい顔付きをして見せて(週東 五12, 42)

など

- 生産、交通、農業などに応用される(エコ 四21, 51)
菜の花などの黄色い花を写すには(キン 九付112)
- ウォルサムなどは会社が何回か破産しましたし(暮手 35号174)
お父上に涙など見せてくれるな(週朝 三18, 45)
反省する機会など殆どなくなった(芸新 五214)

なり(接続)

- 太助は、店を出るなり、足を早めた(読俱 十一132)

なり(並列) (注) p.143 参照。

- その通りのシャツなり、生地なりをお送りします(スタ 八60)
アピールするような演技なり、作品をつくり出していかなければ(娛よ 四20, 26)

なんか

- いろいろなデザインなんかにも使われて(音友 八206)
救世軍なんかが……と言っても(婦朝 三71)
- キャンプなんかできるかいッ(実雑 一207)
体を計ってなんか貰えない(スタ 十198)

なんて

- こんな場所でミルクなんていったら(映友 三125)
わるいなんて、ちっとも思っちゃいない(文芸 十三206)
- 山なんてものは(オ読 十一120)
ミグメオ教なんてのは(娛よ 五18, 42)
- 協会なんてなくてもいいじゃないか(文春 十126)
結婚なんて思いもよらない(小サ 九258)

	全	一	二	三	四	五
なんと	2	-	-	-	1	1
1) 引用	2	-	-	-	1	1
に(格・助動)	1147	1662	3207			
9654	1778	1860				
110)空間的存在場所	558	69	127	63	82	217
111)「において」etc.	26	6	9	7	1	3
120)抽象的存在場所	574	86	125	109	73	181
121)「において」etc.	46	15	6	15	1	9
210)空間的到達点	897	80	132	49	293	343
220)抽象的到達点	820	114	150	186	111	259
221)「について」etc.	216	29	27	91	27	42
30)時・場合	826	88	167	148	172	251
31)「において」etc.	7	1	3	2	-	1

なんと

- 「父なる神よ」ナンと言っている(婦朝 三71)

に(格・助動) (注) p.125 以下を参照。

- 悪いところに育ったために(音友 一40)
衣裳行李を小屋に残し(笑泉 一205)
八百円の旅館に泊る(小新 十一132)
東側の岸に二号宅を建てた(笑泉 一116)
顔に笑いを浮べて(小説 十二80)
潜望鏡に写る五、六隻の船舶(実雑 十318)
右の頬に手が感じられた(オ読 四103)
林園にうたわれた青春の歌(小サ 十一135)
- 111)において、における
朝日会館食堂に於て(野球 一159)
- 120)その人に別の女がある(オ読 三31)
ほかに手だてがなかった(小新 六169)
歴史に名高い(読小 三403)
どの雑誌にもものっている(スク 十二49)
われわれの友人にも、こんな酒豪がいる(講俱 十397)
各大学に原子炉問題が予想される(科朝 三30)
- 121)において、における
空手道に於て(フェ 七59)
- 210)浅草に行ったら(旅 十二106)
髪が頬にへばりつき(小説 二344)
地球軌道に接近していった(宝石 八224)
足が外側に向いしまった(相撲 一72)
ワナにかかって(娛よ 四27, 53)
- 220)県立盲学校に入学した(実雑 七256)
恋に落ち(週新 五29, 11)
頭に浮かんだのが(笑泉 十283)
釣を趣味の第一位にまで引上げました(オ読 九264)
本紙にも「スカウト日誌」を執筆して(ベマ 十二174)
御邪魔するわけには参りません(フェ 九32)
少々気に入った(小説 七360)
これにベテラン藤村を加えて(ベマ 一136)
型紙の矢印を縦地に合せ(婦俱 五付76)
はしかにかからないよう(主生 四421)
それに気づいている(オ読 十一27)
紐をしめなおしにかかった(小説 九249)
校舎の新築に当って(科朝 二7)
- 221)について、に關して、に關する、に際して、にかけて、にわたって、にわたる、にもかかわらず、につけ
30) 秋の収穫時には害鳥であるが(娛よ 五25, 70)
こんなことは以前にはなかった(小春 十二261)
今にも爆發しそうな(映友 九166)
戦に敗れて(ベマ 十243)
- 31) において、における
恋愛においては(明星 九303)

	全	一	二	三	四	五
40) 相手・対象	752	91	160	115	99	287
41) 「に対して」etc.	137	26	38	42	9	22
42) 「それに」	34	1	6	3	7	17
5) 動作・作用の目的	256	29	55	50	38	84
6) よりどころ	253	36	48	101	28	40
7) 状態の内容	13	1	1	4	1	6
8) 測り当ての基礎	29	2	5	3	17	2
91) 比較・異同の基準	159	25	27	38	15	54
920) 評価の基準	148	18	23	20	45	42
921) 「にとって」	35	8	11	7	3	6

- 40) 伴れの女に何か瞬いた (傑俱 三 78)
 家の人たちには内しよで (読俱 五 357)
 仕事に励みます (明星 一 137)
 毎夜の道順に従って (オ説 十一 27)
 永井四段に代る選手として (オ説 九 171)
 私に歌を歌わせた (小新 十二 202)
 お前さんに喜んでもらいたい (週東 八 18, 53)
 孤独に耐えて (婦生 九 257)
 裁定に同意のむね (エコ 五 19, 11)
 「交代菌症」に効く (ダイ 七 28, 40)
 (注) p. 123 以下を参照。
- 41) に対して, に対する, につれて, にとって [出典略]
- 42) それに杉山とは 同時に入社した 間柄だった (平凡 三 224)
- 5) アフリカ探検にも出かけた (スク 十一 47)
 童話みたいな感じを出すためには (アカ 九 136)
 左千子に逢いに来る (週新 十 1, 34)
 見るに見かねて (笑泉 十一 212)
 同意書をとるのにまごついた (ペマ 二 214)
- 6) 打楽器によるリズム (音友 十 210)
 中屋健一氏による書評 (週東 六 30, 66)
 曲解にもとづいて書かれた (週東 六 30, 66)
 作家の執筆になる諸問題の解説集 (俳句 十一 137)
- 7) 伝統に富む中央競馬 (娛よ 二 3, 32)
 恐怖に充ちた顔 (小説 四 341)
 エチケットにはかけるかも知れない (装苑 二 143)
 資源に乏しい日本 (エコ 一 21, 27)
- 8) 一月に一回位どっかへ行きました (婦生 六 129)
 2 段ごとに 1 目 3 回減す (主生 二 付 60)
 十株に一株の株式を交付する (ダイ 二 5, 102)
- 91) 猟犬に似た本能 (宝石 十一 112)
 これら三強にくらべると (ペマ 一 136)
 責任を感じているに違いない (野球 一 55)
 何物にも勝る喜び (ペマ 十 243)
 頂上に近い南向きの斜面 (面俱 十 100)
 捜査は絶望にちかい (オ説 七 314)
 爪は短かいにこしたことはない (オ説 四 203)
 関先生の伯父さんに当る (小俱 十一 90)
 千春君に較べれば (婦俱 四 178)
 (注) p. 132 を参照。
- 920) (能力の持ち主の表現をふくむ)
 だれにでも使いやすい (週東 六 23, 39)
 携帯に便利である (アカ 十一 171)
 われわれには判らない (小新 十 66)
 座ぶとんに合うように (主生 十一 付 143)
 私には理解が出来ない (婦画 九 190)
 妹には大変な珍事だった (婦画 九 190)
 お正月だからというより, 休日が訪れたといった方が
 わたくしには, びったりです (中公 一 137)
- 921) にとって [出典略]

	全	一	二	三	四	五
11) 原因・きっかけ	171	26	35	15	11	84
12) 作用をうける相手	6	1	2	1	-	2
13) 受け身の相手	187	29	30	15	26	87
14) 変化の結果	1372	113	231	221	360	447
15) 「にしては」etc.	48	8	12	9	6	13
16) 認識・言語の内容	83	14	8	12	19	30
17) 資格	49	1	10	7	7	24
18) 副詞的用法	1932	224	332	328	408	650

- 11) 恐怖におののいた女たち (週新 八 20, 78)
 幸福に酔っている (小新 三 153)
 女性の声に, 顔を上げると (傑俱 六 380)
 戦争の為に疎開させられ (装苑 八 163)
 それだけに雰囲気は明るく (小サ 十二 付 35)
- 12) 子供に習った唄 (近映 九 153)
 安売りの攻撃にいちばん 影響を受けるのが (エコ 十一 8, 63)
 御主人におひまをいただいて (新潮 十二 236)
 (注) p. 127 以下を参照。
- 13) 師匠にすすめられて (読小 五 309)
 危機に見舞われながら (ダイ 十二 18, 53)
 成子に見つかってはまずい (面俱 五 260)
 (注) p. 127 以下を参照。
- 14) あたしが 庄ちゃんのお嫁さんになるんだ (小説 十二 80)
 小説家を主人公に選んだ (スク 十一 47)
 よかったらお出でになりませんか (講俱 四 37)
 会社へ行くことに決めて (読俱 一 147)
 手にしていた絹のハンカチ (宝石 十一 293)
 五代竜作を相手に柔術の形を演じ (講俱 三 118)
 体はクタクタに疲れて (面俱 六 371)
 野球に限った事ではない (ペマ 二 214)
 寝巻に着換えていると (婦俱 八 141)
 お嫁にゆく (装苑 四 131)
 泣き寝入りになる (婦朝 二 54)
 (注) p. 135 以下を参照。
- 15) 熊にしては 足跡が 余りに 人間に 近すぎる (文春 九 207)
 それ程ではないにしても (婦俱 十一 137)
 近衛がそれを望んだにせよ, 望まなかったにせよ (知性 十 222)
- 16) あまり利口には見えない (小春 四 223)
 わが身を幸せに思う (実雑 三 231)
 そんなふうに考えている (婦生 九 257)
 このように呼ばれている (ドレ 五 付 46)
 (注) p. 132 以下を参照。
- 17) 治療代に五十両の金を出させたが (近映 二 167)
 ひずかしいことには, 卵巣は 単独に 働いているもので
 なく (農朝 五 89)
 副業に イースト製造をやっている (東経 二 4, 64)
 浪費する彼を恋人に持った (婦俱 三 184)
 九代目団十郎の孫娘に生れ (キン 三 178)
- 18) 一散に走りだした (小泉 九 230)
 夢遊病者のようにうろつく (小泉 十 133)
 誠に申訳ありません (実雑 五 32)
 何も知らずに (小新 十二 202)
 あんなに愛していた (宝石 七 156)
 凝りに凝った方法 (トル 十二 114)
 水を多量に飲んでおくんです (週サ 十二 2, 56)
 あとは勝手にしろ (それ 三 九 125)

	全	一	二	三	四	五
言) 断定	20	6	8	1	1	4
に (接続)	12	2	2	4	-	4
1) 前おき	10	2	2	4	-	2
2) 逆接	2	-	-	-	-	2
に (並列)	10	-	4	-	4	2
1) 列挙・添加	10	-	4	-	4	2
にて	13	1	-	1	6	5
11) 空間的場所	8	1	-	-	5	2
12) 抽象的場所	1	-	-	-	1	-
2) 値段	3	-	-	1	-	2
3) ようす	1	-	-	-	-	1
ぬ (否定)	532	69	93	62	96	212
1) 否定	532	69	93	62	96	212
ぬ (完了) (文語)	8	3	3	-	1	1
1) 完了	8	3	3	-	1	1

言) 人にあらずして(週新 七23, 17)

我にもなく(週東 七28, 26)

結果は自からにしてわかってる(文春 二64)

趣向も亦巧奇にして(群像 一203)

隠居しそうにはない(週説 十14, 76)

一言にしていえば(東経 六30, 41)

冥加な奴にござります(サ毎 二12, 71)

に (接続)

1) 零細企業についてみるに、ここでは貸金統計もなく(エコ 十二29, 101)

要するに、しかるに[出典略]

加うるに、二大リーグ対決と言う、壮快な夢もあれば理想もある(ベマ 一244)

2) 静かな宿でも探したらよかろうに(面俱 十415)

映画人にとってはいい教訓になったろうに(週新 九3, 11)

に (並列)

1) カネの茶碗にカネの箸(サ毎 四1, 10)

白い洋服に黒の下着(装苑 十二144)

(注)「それに」の「に」は格助詞とした。

にて

11) 郷里神戸にての作がある(みづ 七39)

12) 現在中原淳一ファッションルームにて活躍中(それ 42号201)

2) 無代にて進呈致します(漫説 十二166)

3) 木下藤吉郎とか申す者が内々にてそれを打明けられ(小俱 三180)

ぬ (否定)

1) 疲れを知らぬ丹羽新理事長(群像 六93)

生活も楽ではありません(家光 二176)

宝くじも買わねば当らぬ(実日 七1, 55)

土産ばなしせにゃならん(小泉 二249)

待ってたといわんばかりに(トル 六107)

(注1)「せにゃ」は「せ」「ね」「ば」と分析して扱う。

(注2) p. 163 以下を参照。

ぬ (完了)

1) 風邪の子にこんどは汽車を描かされぬ(オ説 三315)

つらなりて男ゆきにけり(短歌 六10)

	全	一	二	三	四	五
ね	430	61	73	39	61	196
1) 詠嘆を含む判断	25	3	1	-	4	17
2) はたらきかけ	405	58	72	39	57	179
の (格)	1457	2016	4200			
	12121	2309	2139			
1) 連体修飾格	1382	1934	3998			
2) 主格	11527	2179	2034			
3) 「の如き」、「の曰く」	566	73	121	76	105	191
	28	2	9	6	-	11
の (準体)	2164	291	426	240	322	885
1) 体言の資格付与	668	84	134	101	96	253
2) 「~のもの」の意	15	1	3	3	3	5
3) 「のだ」、強調など	1385	193	285	136	204	567
4) 表現のやわらけ	96	13	4	-	19	60
の (並列)	7	3	1	-	1	2
1) 並列	7	3	1	-	1	2

ね

1) (女性専用)

モッさんも偏屈ねえ(傑俱 一242)

そうね、でもだんだんなれるでしょう(読俱 四55)

千代でなくちゃ駄目なのね(小サ 八134)

2) 僕もそれで解決したいですね(別文 54号259)

真剣な気持になるわね(婦俱 三310)

これがワジかね(週新 三11, 15)

香港でね、パーティーに招かれてね(映フ 五49)

の (格)

1) まさ子の服(スタ 十201)

新潟県のある村(中公 九240)

ルネサンス初期の画家(美手 二83)

娘の多津子(新潮 三237)

五百枚の原稿(サ毎 二5, 53)

楽団の演奏を中止し(リダ 十69)

おし進めるはずのもの(農朝 四31)

外からの熱、三分の一[出典略]

女優さんとしてのあなたが(週朝 十二23, 25)

2) 若い女のゐるところ(世界 四250)

気性の激しい由以子(文芸 四35)

席のとれなかった人(トル 二付42)

(注) p. 115 以下, p. 123 以下を参照。

3) 疾風の如き(丸 十二増106)

彼の曰く(別文 51号256)

の (準体)

1) (用言などに)

機会の来るのを待っていた(丸増 十二191)

あんなのはズルイ(ベマ 六268)

2) (体言に)

万葉初期のとはちがった(葦 九77)

父親の眼の色が黒色で母親のは茶色(明星 六151)

3) (判断辞とともに)

それすら不合格なのだ(中公 十二264)

貴公方は越前から来たのか(週サ 三11, 83)

4) 無傷だと分るとホッとするの(婦俱 三310)

お父さんはどうなさるの(婦生 七113)

の (並列) (注) p. 143 参照。

1) 掻きの口説きのでも、鼻もひっかけねえから(読俱 六309)

病だの雷神だの痘瘡だのとわけの分らぬものには(みづ 八61)

	全	一	二	三	四	五
の(終)	10	1	2	-	-	7
1) 詠嘆	10	1	2	-	-	7
ので	217	31	42	28	43	73
1) 理由	217	31	42	28	43	73
のに	52	4	6	5	15	22
1) 逆接	52	4	6	5	15	22
のみ	27	7	5	10	1	4
1) 限定	27	7	5	10	1	4
は	928	1405	2909			
	7979	1536	1201			
11) 主題・主格	4882	588	803	1911		
12) 主題・対格	379	33	58	56	118	114
13) 主題・その他の格	365	33	65	59	100	108
21) 条件・「～て」＋は	218	25	38	65	23	67
22) 条件・格助詞＋は	1165	131	229	262	174	369

の(終)

- 1) 目黒のサンマはうまい喃(近映 三146)
南が脆いの(週東 十一24, 27)

ので (注) p. 170を参照。

- 1) ジープを出してくれたので助った(中公 四244)
はかったことがないのでわからない(小サ 五137)

のに (注) p. 170を参照。

- 1) 医師でないのに医業をなした(暮手 34号162)
死んでくれりゃいいのに…(実雑 十二281)
それなのに不二子は眼を輝かし(講俱 二34)
だのに私はここで朝寝坊の友達に会いました(婦友 十二149)

のみ

- 1) 経験者のみが知る世界(日週 二25, 32)
泣き叫ぶのみである(週新 二26, 59)
そののみか(小俱 十二95)

は

- 11) 私はもう一度丁寧な礼をした(新潮 二138)
私はサラリーマンがいいわ(婦生 二128)
詩は至高の、そして深い現実です(婦公 五74)
確証は得られなかった(映フ 十二175)
(注) p. 115以下を参照。
- 12) 村の状態の悪いことは知っていた(リダ 十172)
言葉の問題は別にしても(若女 三196)
何人にもおくれはとらぬ(読俱 十一445)
- 13) 私たちの職場は立って作業をするので、とても疲れます(婦公 六131)
音楽の方は素人だから(音友 二93)
4月の南座は出演する(週新 四8, 12)
ナスは揚げたての熱いうちにして下さい(暮手 35号 73)
- 21) 小学校出としては前例のない昇進(文春 二344)
何よりも大衆にとっては魅力だ(キン 七付94)
消極的なことを言っていては困る(東経 七21, 26)
柳ビをさかだてちゃあいけません(婦朝 十二157)
会社で暇をみては勉強している(小俱 十188)
- 22) 床の上には至るところに水たまりがあった(芸新 七195)
時平の態度とはだいぶちがう(みづ 八61)
パリでは絹が流行(サ毎 四29, 56)
これからは一所にやれる(人物 二61)
では、家宅捜査をしてみよう(婦朝 三159)

	全	一	二	三	四	五
23) 条件・副詞的修飾に	498	46	99	99	97	157
5) 叙述語の提示	472	72	83	61	73	183
ば(接続)	662	84	121	148	103	206
10) 条件	460	50	80	93	74	163
11) 「なければならぬ」	140	22	27	42	25	24
12) 「ならば」	30	8	4	10	3	5
2) 列挙	13	1	6	-	1	5
3) 理由	8	2	1	-	-	5
40) 假定(未然形接続)	5	1	1	2	-	1
41) 「しからば」	1	-	-	1	-	-

- 23) 結局は取り合いになっているだけで(中公 六75)

今日は何の映画を観てきたの(群像 五53)

心の静かなときは、以前の生活を思い浮かべるのだ(文春 五298)

電池をいれてから1000時間はもつ(科読 六81)

肉体的には限度がある(実日 七15, 93)

そうはいかないよ(野球 九69)

本当は善い人なんだろう(近映 五160)

実は私たちも心配している(主友 二270)

やはり軽く云えば、そういうのだって汚くは聞かえないでね、あくどくない(笑泉 三157)

年と共に腐蝕し、又は崩れ去ったのだと考えられる(芸新 九209)

- 3) 別に秘密会議ではないから(別文 53号33)

手も決して白くはなく(婦画 九53)

口に出しはしなかったが(群像 九31)

伊藤も理解してはいなかった(中公 一312)

いま錨を入れてはいたが(実雑 三23)

感慨を催さずにはられないのであった(面俱 四147)

他で考えるほど憧れたりほしくないようです(小サ 九258)

ば(接続) (注) p. 147以下, p. 170を参照。

- 10) 募集要項を見てもらえばわかる(アカ 七126)

一例を上げれば駅の切符売だ(婦公 七290)

健康であればあるだけ(週読 八19, 5)

どんなカメラを選べばいいか(週東 六23, 39)

同じ阿呆なら踊らにゃ損だ(文春 十一158)

ひょいとほろり込みやアすうっと洗濯出来る電気洗濯機の一つも(週東 八18, 53)

- 11) ～なければならぬ、～ねばならぬ、～なければいけない、～ねばいかん[出典略]

- 12) 好球ならば積極的に打って出る(ベマ 十二65)

帰るならば後戻りしなければならぬ(別文 53号117)

(注) p. 149, p. 159以下を参照。

- 2) 戦術もなければ戦略もかえりみない(丸五 68)

家も建たねば掛金も持逃げされた(キン 三付106)

ニューヨークでは月の世界の土地分譲の予約受付けをやれば、イリノイ州エヴァンストン市ジェームズマンガンという人は宇宙は俺のものだと主張しています(小俱 二383)

- 3) 母が飼ひし牛なればまた愛しきと水やりに立つ身の置き処なく(短歌 七20)

「ご縁があったればこそ」と思うて(明星 五99)

愛人紀康を想えばの行為(小説 二5)

- 40) 人員も新たに採用するせば、年周四千万円以上の赤字となること間違いない(ダイ 九25, 76)

夫を選ばば(サ毎 五27, 26)

- 41) しからば如何にして右のような考え方を実現することが出来るか(東経 十13, 58)

	全	一	二	三	四	五
42) 「なれば」(仮定)	2	-	1	-	-	1
43) 「せば」	2	-	1	-	-	1
5) 「てば」	1	-	-	-	-	1
ばい (方言)	2	-	-	-	-	2
1) 詠嘆	2	-	-	-	-	2
ばかり	113	11	26	7	18	51
11) 程度	13	-	4	-	1	8
12) 程度	2	-	-	-	-	2
13) 範囲の限定	85	10	20	6	17	32
21) ようす	3	-	-	-	-	3
22) 直前の状態	3	-	1	-	-	2
3) 直後の状態	7	1	1	1	-	4
ばや (文語)	1	-	-	-	1	-
1) 願望	1	-	-	-	1	-
へ	486	58	89	42	61	236
11) 空間的到達点	363	41	54	16	52	200
12) 抽象的到達点	64	10	16	20	6	12
2) 相手・対象	57	7	19	5	3	23
3) 変化の結果	2	-	-	1	-	1

- 42) 戦うなれば対ソである (日週 一5, 6)
(注) p.160を参照。
43) 此の女間諜なかりせば日本の歴史は大きく書き変えられていたであろう (特文春 二36)
5) さあ、早くてば (読俱 十二104)

ばい

- 1) これじゃ、東京見物にならなすばい (小新 二289)

ばかり

- 11) 十日ばかりしているうちに (小泉 二364)
12) クリーム・イエローの見上げるばかりの背景に (映友 八71)
13) 女囚ばかりを収容しており (キン 九40)
わが身を幸せに思うばかりである (実雑 三231)
よい学校に入学させたいばかりに寄留届を出す手だ (ベマ 二214)
21) ローズマリイはこのときとばかりハルの非を鳴らした (トル 三108)
22) お互に焼き尽さんばかりの抱擁だった (小説 入442)
3) いま洗ったばかりらしいオムツの列 (別文 53号117)

ばや

- 1) 誘蛾灯に闇濃くなりぬ眠らばや (婦朝 十一152)

へ (注) p.125 以下を参照。

- 11) 病室へ行こうと思って (丸 十102)
西へ強引に寄りたてるのを (相撲 四128)
岩の上へどっかりと坐りこんで (講俱 十一376)
長脇差へ手をかけた (小説 十266)
12) 世界は平和へ前進した (キン 一104)
新東宝へ初めて入社 (野球 四183)
この写真を雑誌へのせるんですの (笑泉 八28)
販売中心時代へ移った (ダイ 八4, 35)
それからそれへと考え出して (週読 二5, 61)
2) それを出入りの植木屋へやった (週サ 四1, 47)
保険会社へ挑戦した (エコ 二4, 59)
行次へ当てつけるだろう (読俱 一147)
共同闘争への恐れ (知性 六98)
(注) p.126 以下を参照。
3) 暖かい状態へ徐々に変わった (科朝 十二110)
“関西にも人気のある”司会者へ切り替える (週東 十一10, 49)

	全	一	二	三	四	五
べえ (方言)	4	2	2	-	-	-
1) 意志・勧誘	2	1	1	-	-	-
2) 推量	2	1	1	-	-	-
べし	113	9	23	40	6	35
1) 当然	99	6	19	38	6	30
2) 推量	10	3	2	2	-	3
3) 可能	3	-	1	-	-	2
4) 目的	1	-	1	-	-	-
まい	49	7	13	13	1	15
1) 意志	9	3	3	-	-	3
2) 推量	40	4	10	13	1	12
ます	1544	121	212	138	641	432
1) ていねい	1544	121	212	138	641	431
まで	437	51	77	72	81	156
11) 空間的限界	67	7	11	1	18	30
12) 時間的限界	217	21	36	48	42	70

べえ

- 1) やすむべ (週読 一1, 70)
2) うらあ人民だんべえ (群像 五138)
こつつさと [泊] まれば、あつつき義理立たないべし (キン 四付124)

べし (注) p.168 以下を参照。

- 1) この白人に贈物をすべきた (実雑 三231)
愛すべき男性 (近映 六141)
一銭の浪費も戒むべし (週朝 一8, 17)
従来規制すべくして行われなかった (時法 七23, 7)
2) 平均に享受し得べき生活 (東経 九8, 52)
彼女にとって最も得意でもあり、華やかでもあるべきこの時期が (小新 十66)
普及には一工夫要すべしとしている (囲碁 一付38)
3) 敵の攻撃は避けるべくもない (映友 二61)
当るべからざるものです (キン 五78)
4) 「日本のうたごえ」を出すべく頑張っています (知性 四290)

まい (注) p.168 以下を参照。

- 1) 連れて行くまいと決心する (週サ 九9, 68)
いったん触れまいと思ったからには (新潮 九147)
2) 見のがすわけにはありませんまい (小新 十一54)
決して悪いことではあるまい (芸新 三168)
(注) p.161 以下を参照。

ます (注) p.169 以下を参照。

- 1) この紙はお返しします (キン 八70)
レベルの問題ではありませんか (文春 一117)
言いたいことも言いました (婦画 八100)
計り方を覚えましょう (婦生 二付99)

まで

- 11) この島が見えなくなる所まで行くだ (群像 二31)
石の壁が上まであったとすれば (芸新 九209)
香港からロンドンまでのパスポート (日週 十一5, 24)
メリヤス編で肩まで編み上げます (主生 十付92)
12) 前日まで一生懸命練習している (俳句 九94)
これまで全く収入のないところへ (文春 四336)
経費増が何時までも続き (ダイ 四21, 78)
満三才から六才までの子供たちの集り (婦友 二50)
滑らかになるまでよくつき漬します (婦生 二付434)

	全	一	二	三	四	五
13) 抽象的限界	93	13	12	17	12	39
2) 強調	60	10	18	6	9	17
み	2	-	-	-	-	2
1) 並列	2	-	-	-	-	2
も(係)	2527	309	506	358	380	974
11) 主題・主格	1044	131	212	163	135	403
12) 主題・対格	159	11	29	17	37	65
13) 主題・その他の格	74	4	26	13	12	19
14) 「かもしれない」	84	9	16	12	11	36
21) 条件・「〜て」+も	39	10	6	10	3	10
220) 条件・格助詞+も	449	70	84	65	70	160

- 13) どこまでも貧しい人たちの味方として(週朝 四29, 47)
就職難の波が土工の世界まで流れこみ(キン 二256)
フランスを土台骨までゆすぶった疑獄事件(リダ 一135)
違う先生に参考までで診てもらったら(保同 四38)
融資が激増したことはないまでもない(知性 十一245)
歴史からひき放さないまでも、彼女のために歴史は単に背景となってしまう(婦公 十194)
- 2) 中学校の生徒までそれをかぎつけ(芸新 八263)
そなた逆を、不幸にはしたくない(週朝 三18, 45)
家の私道にまで入ってきて(リダ 二68)
私や子供をすててまで、夢中になる(サ毎 一22, 8)
惨虐なまでの写真主義の精神(みづ 一28)

- み
1) 降りみ降らずみの天気が(小春 十二172)

- も(係)
- 11) 僕も黙ってはいられない(野球 二156)
われら夫婦にはクリスマスも元日もない(週朝 一8, 17)
それから、食べ方も問題です(サ毎 十14, 54)
生後間もない子(ジュ 六15, 44)
- 12) 本物の岩も拝見したいものだ(週サ 四1, 47)
渋茶も啜らぬうちに(別新 一196)
物も言わずに(人物 一167)
- 13) 腹を立てるのも、むりではない(小新 十一45)
生花も茶道も相当な腕前(明星 四236)
私の着物姿もちょっと自信があるんですけどねえ(小春 二217)
トンネル栽培も非常に小型物が多く(農園 十一33)
見るも哀れな落ちぶれ方(文春 一311)
- 14) これには理由があるのかもしれない(中公 十156)
形はいく分悪いかもしれませんが(若女 十二157)
- 21) ソヴェトに対しても申し訳ないわけだ(群像 二199)
その作品は諸外国に於ても演奏され(芸新 四122)
その後、芸術家としても成功している(アカ 八121)
- 220) この卵は鮎の隠箱にも附着した(別文 52号63)
房州の中でも最も温暖な所であるが(農園 二79)
秋になれば一位になる自信があるともいう(小新 十161)
誰からもお年玉を貰うあてのない弟妹(読俱 一383)
退院した立花は、学校へも姿をあらわさず(講俱 六144)
ごくふさわしい男の友だちがいるにもかかわらず(明星 八111)
(注)「〜よりも」は強調にいった。

	全	一	二	三	四	五
221) 「でも」(接続詞)	41	2	6	-	14	19
23) 条件・副詞的修飾に	79	7	13	13	9	37
3) 叙述語の提示	82	10	19	13	8	32
40) 全称判断	240	37	47	22	42	92
41) 「いかにも」	15	1	2	2	4	6
5) 強調	212	16	43	28	32	93
6) おおよその例示	9	1	3	-	3	2
も(終)(文語)	2	-	-	-	1	1
1) 詠嘆	2	-	-	-	1	1

- 221) 御迷惑かけたわね。でも、あたし、目を廻したなんて、生まれてはじめてよ(婦公 五352)
- 23) 堺利彦氏が立候補した時もこれと同じ干渉をうけている(文春 七139)
恋愛は企業である以上は、精神的にも物質的にも「黒字」でなければならぬ(スタ 七179)
彼女は今も舞台が大好きで(映友 十一167)
気に入らない女だとは思いつつも、君はそのままではやめられず(週読 四8, 65)
- 3) これが私達生徒全員の希望でもあり、又目標でもあるのだ(葦 一25)
死にたくもないのに死ななければならない(婦公 四198)
小商いの店の1軒ぐらいいは持てる(講俱 五304)
利益保留をなし得る余地を残してもいる(ダイ 九18, 84)
相も変わらずお下げの髪がいてもよくはないか(それ 42号31)
きくともなしにきいた、いまの話(面俱 七160)
- 40) (不定詞、「一つ」とともに)
行次はいつも台所で顔を洗うのだが(読俱 一147)
家の中へはだれもはいりません(婦朝 三159)
どうにも我慢ができなくなってしまった(文春 八267)
統計をとっても何の価値もあるまいよ(エコ 九15, 49)
これはなにも珍しいことではなかった(東経 十二24, 32)
誰れよりも意外なおどろきに打ちのめされたのは(婦公 十一122)
沖繩島には高山は一つもない(婦俱 六90)
- 41) 若林先生は、いかにも嬉しそうにいった(スタ 三17, 8)
- 5) その利用者がこの一年間に百五十万もあって(娛よ 十一30, 36)
洋服よりも着物の方がもっと美しいように思う(ドレ 六209)
同じ市内でいくつもの分店をもち(実日 三15, 67)
テレビブームで早くも設備過少となり(東経 四7, 72)
もしも良人を裏切る妻になったら(小俱 十二310)
双方が賢明にも妥協した(リダ 七31)
感激があまりにも大きかったからだ(小サ 六148)
旦那さまは、どうして、こんなにも急に、あわただしく、遠いお国へ、ひとり旅立たれてしまわれたのでございましょう(主生 六314)
- 6) あと三分もしたら、恐らく、ぶっ壊れてしまうだろう(文春 十323)
電車の二停留所もあろうものなら、まず「お車」(婦朝 十二157)

- も(終)
- 1) 古りし財布に貯ふらしも(小新 四313)

	全	一	二	三	四	五
や(並列)	338	55	66	50	88	79
1) 列挙	338	55	66	50	88	79
や(接続)	4	-	-	-	1	3
1) 直前の動作	4	-	-	-	1	3
や(詠嘆)	42	6	10	4	4	18
1) 詠嘆(1)(終助詞)	8	1	2	1	-	4
2) はたらしかけ	1	-	-	-	-	1
3) 詠嘆(2)(間投助詞)	10	4	1	-	3	2
4) 副詞の強調	23	1	7	3	1	11
や(疑問)	4	1	2	-	-	1
1) 疑問	4	1	2	-	-	1
や(助動)(方言)	32	-	11	-	6	15
1) 断定	32	-	11	-	6	15
やら(副)	19	-	3	2	-	14
1) 不たしか	19	-	3	2	-	14
やら(並列)	8	1	-	1	-	6
1) 列挙	8	1	-	1	-	6

や(並列) (注) p.143 参照。

- 1) 3や6や5や8やの数字が(新潮 二219)
何やかやと御恩のあるお方(文芸 八168)
技術や表現がまず大問題であった(中公 十156)

や(接続)

- 1) かの女が、ジーノの子をかかえて、行方をくらましたと知るや、血まなこになってさがしまわり(婦公 二183)
撮影が終るやいなや(映友 九36)
(注)「いなや」の「や」は<疑問>に。

や(詠嘆)

- 1) 電気洗濯機の一つも買いたいやね(週東 八18, 53)
こいつはえらいや(芸新 一122)
2) まあ、聞けや(読小 八336)
3) (俳句の切字)
秋風やかかと大きく戦後の主婦(俳句 四70)
陶窯の火色のぞくや雪の夜(オ説 三315)
4) いまや、父はないのだ(読小 二420)
もしやあなたにあえやしないか(新潮 一49)
よもやと思う、怖しい出来ごとが(読小 二420)

や(疑問)

- 1) 公僕は私僕なりや(文春 八70)
タネも切れたと思いきや(読小 五208)
父親に会わせましょうや(サ毎 二12, 71)
意見もあるやにきいている(中公 十一-355)

や(助動)

- 1) 僕は獣医や(明星 十一-154)
何云うんや、いまさら(小春 十一-161)

やら(副)

- 1) 何やら手に持った若い男(近映 九153)
水木辰之助とやらのやり踊り(笑泉 三247)
西方側の面子はどうやら立った(東経 九15, 17)
(注)終助詞的な用法の例はなかった。

やら(並列) (注) p.143 参照。

- 1) 東宝やら何やらが金を出したから(野球 二49)
苦言やら直言を頂いた(傑俱 八115)

	全	一	二	三	四	五
よ	330	42	56	15	49	168
1) 強調	303	37	51	10	46	159
2) よびかけ	12	2	-	1	2	7
3) 命令	15	3	5	4	1	2
より	187	24	41	26	39	57
11) 比較の基準	139	15	33	25	25	41
12) 範囲の限定	8	-	1	1	2	4
21) 空間的出发点	21	3	3	-	9	6
22) 時間的出发点	9	3	1	-	2	3
23) 抽象的基点	10	3	3	-	1	3
よりか	1	-	-	-	-	1
1) 比較の基準	1	-	-	-	-	1

よ

- 1) ぼくはアンパイヤですよ(週朝 八26, 25)
とても柔軟性があるよ(婦公 八352)
手相をみて貰ったのよ(婦生 二128)
離してよ(トル 二55)
そんなのお止しなさいよ(週朝 八5, 57)
2) 自民党よ思い知れ(エコ 三3, 23)
街のあかりよなげらるむ(平凡 一付13)
3) 抵抗は止めよ(週サ 七8, 25)
いかなる表現がとられるにせよ(中公 一46)
(注) p.160 以下を参照。

より(注) p.126 を参照。

- 11) 君は資本家の代表より悪いじゃないか(人物 十201)
石田君は思ったより元気だった(オ説 五261)
僕は今は植木屋より三倍くらい働く(実日 七15, 93)
社長稼業より文化趣味、ことに名隨筆で有名で(漫説 十160)
今期はこれよりも一億円へる見込みだ(東経 三10, 66)
それが何よりの事実だ(小春 九56)
読書が何よりも好きなので(週説 九2, 59)
12) 手術をお受けになるより他はないでしょう(主友 九112)
番茶の接待より外に食堂などはなかったの(週新 二19, 37)
それが不満な妻君には出て行ってもらうより仕方がありません(婦俱 一265)
21) 寒き体操教師胸より銭こぼす(オ説 三315)
今の西ドイツ首都ボンより、河をさかのぼって、五マイル(特文春 八101)
この点より直角線を引いて第一線とします(婦画 二287)
左より、ムッソリーニ、ヒットラー、ドラジエ、チェンバレン(特文春 八101)
22) 朝よりの怒り漸く和む(短歌 七104)
九月十七日六時より婦人会館に藤島宇内先生、編集部岩淵氏を迎えて(婦公 十一-345)
小学生頃より音楽教育を受けただけあって(音友 十二198)
23) 一切の顛倒夢想より遠く離るれば涅槃を得(大法 一88)
予は衷心より敬意を表するものなり(日週 六15, 11)
『恋愛から婚約まで』より(婦公 八258)

よりか

- 1) それよりか本人はキンちゃんと呼ばれることの方が(錦之助)イヤだといっている(ペマ 二214)

	全	一	二	三	四	五
らい(方言)	1	-	1	-	-	-
1) 念おし	1	-	1	-	-	-
らしい	90	12	22	6	11	39
1) 推定	90	12	22	6	11	39
らむ(文語)	1	1	-	-	-	-
1) 推量	1	1	-	-	-	-
り	48	11	14	14	3	6
1) 完了	48	11	14	14	3	6
ろ	45	6	6	2	3	28
1) 命令	45	6	6	2	3	28
わ	96	6	4	-	26	60
1) かるい詠嘆(女性)	84	5	1	-	25	53
2) 尊大な詠嘆(男性)	8	1	1	-	1	5
3) おどろき	4	-	2	-	-	2
わい	5	1	1	-	-	3
1) 尊大な詠嘆	5	1	1	-	-	3

- らい
1) 何とか、やってみますらい(週朝 六10, 56)
- らしい
1) 純潔にあこがれていたらしい(別文 五十27)
矢倉氏が最も熱心らしく(棋道 十二139)
平気を装っているらしかった(小説 三340)
この道の右手は築地塀でその中が庭らしい(講俱 一50)
(注)「～にふさわしい」という意味の「春らしい」などは接尾語とした。
- らむ
1) はてしなく行くらむ道の寂しさよ(短歌 十二87)
- り
1) 誤れる日本観(文春 四148)
労働党の中における左派(東経 九8, 52)
兵力二千を配置せり、抵抗は止めよ(週サ 七8, 25)
(注) 終止2, 連体46(うち「おける」31)
- ろ (注) p.160 以下を参照。
1) あとは勝手にしろ(それ 三九125)
さっさと消えうせろ(読小 二206)
小型にもしろ自動車と名のつくものの 価格が(サ毎 十二2, 8)
- わ
1) 全然チンプだわ(週新 三18, 36)
あたし、帰るわ(婦公 五352)
余計なお喋りをすると、私が五代さんに叱られますわ(小説 二237)
2) ワシも生存記録をつくらうとこの通りですわ(婦生 一79)
子どもばかりでは留守にもならぬわ(別文 55号50)
それくらいの手支度は日ごろからしてあるわさ(新潮 四221)
3) 売れるわ、売れるわ、製作が間に合わないほど売れ出した(キン 七付94)
- わい
1) こりゃイカンわい(野球 八177)
泣かんでもよいわい(別文 55号56)

	全	一	二	三	四	五
を	753	1161	2454			
10) 対象	7270	1356	1546			
	6952	1293	1501			
11) 接續	6	1	2	-	1	2
211) 空間的径路	105	13	21	9	19	43
212) 抽象的径路	26	6	5	9	3	3
221) 空間的起点	49	8	8	1	5	27
222) 抽象的起点	27	1	8	3	5	10
231) 空間的基準点	27	2	6	2	3	14
232) 抽象的基準点	40	4	6	12	2	16
24) 方向	9	-	3	-	1	5
25) 状況	6	-	2	-	1	3
26) 空間・時間の幅	23	3	2	4	5	9
まば	3	-	-	1	-	2
1) 対象	3	-	-	1	-	2
アラウンド	1	-	1	-	-	-
1) 周囲	1	-	1	-	-	-

- を
10) 一同を玄関に見送りながら(旅 六79)
警告を発したいのなら(東経 七21, 26)
主君をして詠はしめた(人物 七174)
調えることを以て第一義とする(大法 二25)
(注) p.123 以下を参照。
- 11) 磔刑にしてもしかるべきを、殿の仰せ出されだな、
切腹とは(サ毎 二12, 71)
私は芸者で果てる気でいたものを(傑俱 十二348)
それを旦那は、わたしの申す事はちっともお聞入れなく(小俱 二68)
- 211) 艦橋をとおるときは(特文春 六48)
西歐を回って感じたこと(週読 四22, 8)
電車道を歩いて来る(文芸 三176)
- 212) 支配人を通して話した(週読 十二9, 54)
このような推移をたどれば(東経 七14, 66)
- 221) 島を追い出され(面俱 五31)
- 222) 東大仏文科を出て(主生 六209)
いろいろな事が頭を去らなかつた(葦 八26)
首相を辞める以前に(新潮 六262)
災禍を免れた智徳寮(ペマ 十248)
- 231) 丘を越えてゆく(面俱 一付93)
吉野川を渡りますと(美手増 十69)
山荘をめぐる林(小サ 十一135)
- 232) 一般水準を抜くという(世界 五273)
八月には千億円をこえる(東経 七14, 66)
- 24) 彼の顔がわたしの方を向く(キン 九155)
そう思って横を向いていると(読小 八238)
- 25) 火焰の中を人影が右往左往している(実雑 四30)
闇を走り行く(葦 八116)
- 26) 一日に四十里を駆ける忍者の走力(週東 十二22, 37)
寝苦しい夜を明かしている(傑俱 七187)
一年を通じて患者の発生がありますが(主生 八付164)
- まば
1) 産業経済の発展をば、民間あるいは国家資本主義のいづれかによって援助することが(東経 二25, 48)
- アラウンド
1) ロック・アラウンド・ザ・クロック(週サ 一29, 70)

	全	一	二	三	四	五
アンド	1	-	1	-	-	-
1) 並列	1	-	1	-	-	-
オブ	2	-	-	1	-	1
1) 所属	2	-	-	1	-	1
ザ	1	-	1	-	-	-
1) 指定	1	-	1	-	-	-
デル	1	1	-	-	-	-
1) 指定	1	1	-	-	-	-
ド	5	1	1	1	-	2
1) 所属	5	1	1	1	-	2
フォン	3	2	-	-	-	1
1) 所属	3	2	-	-	-	1
的(中国語)	1	-	1	-	-	-
1) 限定	1	-	1	-	-	-

アンド

1)リズムアンドブルース (週サ 一29, 70)

オブ

1)オール・スターズ・オヴ・ワゴン (小サ 五242)

ザ

1)ロック・アラウンド・ザ・クロック (週サ 一29, 70)

デル

1)ミス・ファン・デア・ローエ (芸新 四227)

ド

1)ソワルド・パリ (明星 三229)

フォン

1)ミス・ファン・デア・ローエ (芸新 四227)

ヴァン・ゴッホ (美手 十19)

的(中国語)

1)討袁的義挙 (人物 九135)

第2表 文節形度数表

ここでは、助詞・助動詞がどのようにあいつらなって、全体として一つの文法形式を形づくっているかについての調査結果をのべる。「書いたでしょう」という文節は「書く」という動詞に「た」「です」「う」という助動詞がついてできたものであり、「書きません」や「書こう」その他多くの形とならんで、動詞「書く」の文法形式をつくっている。これらの、助詞・助動詞をふくんだ全体の形を「文節形」とよぶことにする。(文節形という概念には当然助詞・助動詞のつかないものも含まれるが、その数は今回の調査ではあきらかでないので、以下にあげるのは<助詞・助動詞のついた>文節形の数である。)

以下の表はこの調査の標本に出てきた文節形の度数を示したものである。まとめるにあたっては、つぎのような扱いをした。

- ◇文節形の認定はこの調査で助詞・助動詞とみとめたものを基準とし、助詞・助動詞がつづいているかぎり、一つの文節形とする。たとえば、「山である」はふつう2文節とされるが、ここでは「ある」を助動詞としたため、「山である」全体を一つの文節形とする。同じ種類の文節形に属するかどうかも、やはりこの調査における助詞・助動詞の認定を基準とする。たとえば「れる」を助動詞としなかったので、「書かれた」は「書いた」と同様、<動詞+た>という文節形に属する。
- ◇終助詞・間投助詞は結びつきがゆるく、文節形の構成にあたって重要な役割をはたしていないと思われるので、無視する(「ね」など)。ただし、疑問・並列などの「か」、禁止の「な」、命令の「な」およびこの調査で終助詞なみに扱った命令形語尾の「い」「よ」「ろ」は対象とする。また、
- ◇引用の「と」(動作のし方や結果をあらわすばあいも含む)も無視する。ただし直後に「は」「さえ」など、ほかの(終助詞・間投助詞以外の)助詞がつづいているものは対象とする。
- ◇自立語は品詞ごとにまとめる。ただし、代名詞・形容動詞語幹は名詞にあわせた。
- ◇ある文節形が標本の採集範囲に属するかどうかの認定は、その文節形の最後にある助詞・助動詞を基準にする。たとえば「書いた：でしょう」の：の位置に採集範囲の限界があったとして、「書いた」が範囲内、「でしょう」が範囲外にあるばあいはこれをとらない。逆に「書いた」が範囲外で「でしょう」の方が範囲内にあるときは、この文節形を採集範囲内のものとみとめる。したがって、個々の助詞・助動詞を基準にすれば、標本の採集範囲内にありながらすてられるものと、範囲外にあるにもかかわらずひろわれるもののができた。なお、この調査において、標本は雑誌1ページの八分の一大の本文を単位として抽出されたが、その際の範囲の決定はつぎのようになされた。すなわち、行の切れ目が β 単位の切れ目と一致するときはそこで切り、行の切れ目が β 単位の途中にきたときは、その β 単位の終わりを境目とする。だから、一つの文節形のうち、一部分だけが採集範囲内にある、というばあいも、しばしばおこったのである。

文節形は、まず最後の助詞・助動詞の五十音順に並べ、つぎに終わりから2番目、3番目……の助詞・助動詞によって順に並べる。一種の逆びき五十音順である。逆びきにしたのには格別の理由

はない。助動詞で終わる文節形は、連用・終止・連体・命令の順に並べた。句点(例「名である。」)は終止、(体)(例「名である(体)」)は連体を示す。名、動、形、などは、それぞれ名詞、動詞、形容詞などの略である。

この表についても、「用法別度数表」のばあいと同様、各層(部門)間の比較をするには、なまの度数を使わないように注意されたい。たとえば、名詞に「です」(終止)のついた形は、一層/17、二層/61、三層/36、四層/118、五層/150 であって、五層の方が四層よりも多くなっているが、p.114 にあげるとおり、名詞に助動詞のついた文節形の総量も五層が多いのであるから、相対的には四層の方でよけいに使われているとみるべきである。

この表を利用してわかることの例を二、三あげよう。

(1) 「名詞+だ(である)」の否定形の「名詞+でない」と「名詞+ではない」とを比較してみると、連

	で	では	体法では同数であるが、終止法では「では」が圧倒的に多い。この
なく	12	24	点からいうと、「～でない」よりも「～ではない」の方を代表的な否
ない(終止法)	8	63	定形とみるべきであろう。形容詞の否定形では「～くない」の方が
ない(連体法)	9	9	「～くはない」より多い。(p.104 参照)

(2) 「動詞+た」は、終止 1881、連体 2327 で、連体が多い。しかし、「動詞+ました」は、終止 207 連体 10 で、終止が圧倒的である。「です・ます」体の文章でも、連体的用法では「ました」の使われ方が少ないことを示している。(p.100参照)「動詞+ます」の数を動詞だけの形の数(p.67参照)とくらべれば、このことは一層はっきりする。

(3) 格助詞と副助詞との前後関係は、ばあいによってちがう。

{名だけで	14	{名などに	20	{名ばかりに	1
{名でだけ	0	{名になど	0	{名にばかり	3

文 節 形 度 数 表

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
ある							名でもある(体)	1	-	-	1	-	-
副あり	1 ¹⁾	-	-	-	1	-	い						
名であり	61	10	14	19	5	13	動(命)い	5 ³⁾	-	1	-	-	4
動からであり	1	1	-	-	-	-	う, よう						
名だけであり	1	-	-	1	-	-	(「ん」を含む)						
動たのであり	1	1	-	-	-	-	動う。	309	37	68	59	48	97
動べきであり	1	1	-	-	-	-	形(かろ)う。	11	-	4	2	-	5
名でもあり	5	-	1	1	-	3	名であろう。	27	8	3	6	1	9
名である。	468	62	95	154	37	120	動であろう。	15	3	2	7	-	3
動である。	1	-	-	-	-	1	形であろう。	3	1	1	1	-	-
副である。	1	-	-	1	-	-	動からであろ	1	-	-	-	1	-
名かである。	1	-	-	1	-	-	う。	4	1	1	-	1	1
副かである。	2	1	-	1	-	-	動たであろう。	1	-	1	-	-	-
名がである。	2	-	1	-	-	1	動なかつたであ	1	-	1	-	-	-
動からである。	9	-	-	7	2	-	ろう。	6	1	1	2	1	1
形からである。	1	-	-	1	-	-	動ないであろ	1	-	1	-	-	-
動たからであ	7	1	2	1	-	3	う。	5	2	1	-	-	2
る。							動たのでであろ	2	-	-	-	-	2
名だからであ	3	-	1	1	1	-	う。	2	1	1	-	-	-
る。							名なのでであろ	1	-	-	1	-	-
動てからであ	1	-	-	1	-	-	う。	2	1	1	-	-	-
る。							動べきであろ	1	-	-	1	-	-
動ないからであ	3	-	1	-	-	2	う。	1 ⁴⁾	-	-	-	-	1
る。							副もあろう。	1	-	1	-	-	-
名だけである。	2	-	-	-	-	2	名でござろう。	1	-	-	-	-	-
動てである。	4	3	-	1	-	-	副でござろう。	1	-	-	-	-	1
動なのである。	53	5	8	13	8	19	動たろう。	2	1	1	-	-	-
形なのである。	9	2	2	2	1	2	形(か)たろう。	1	-	1	-	-	-
動たのである。	46	5	12	6	5	18	名であつたろ	2	2	-	-	-	-
形たのである。	3	2	-	-	1	-	う。	1	-	-	-	-	-
名だつたのであ	5	-	-	-	1	4	名でもあつたろ	1	-	-	-	1	-
る。							う。	3	-	1	-	-	2
動なかつたので	4	1	-	1	-	2	名だつたろう。	1	-	-	-	-	1
ある。							「」だろ	46	7	10	5	7	17
名なのである。	13	2	4	4	3	-	名だろ	48	5	11	11	5	16
動ないのであ	7	1	3	2	-	1	動だろ	15	2	4	3	3	3
る。							形だろ	1	-	-	-	1	-
名らしいのであ	1	-	-	-	-	1	副だろ	1	-	-	-	-	1
る。							名かだろ	1	-	-	-	-	-
形らしいのであ	1	-	-	1	-	-	動たからだろ	1	-	1	-	-	-
る。							う。	1	-	-	-	-	-
動のみである。	1	-	-	-	-	1	動ただろ	1	-	-	-	-	1
動のみである。	1 ²⁾	-	1	-	-	-	動だけだろ	1	-	-	-	-	1
名は、である。							動ないだろ	12	2	1	2	1	6
名ばかりであ	1	-	-	-	-	1	名ではないだろ	1	-	-	-	-	1
る。							う。						
動ばかりであ	1	-	-	-	-	1	動べきではない	1	-	-	1	-	-
る。							だろ						
動べきである。	8	-	1	6	-	1	名でもないだろ	1	-	-	-	-	1
動べきである。	1	1	-	-	-	-	う。						
名ではある。							動のだろ	10	-	1	-	1	8
名でもある。	10	1	2	3	-	4							
名でもある。	1	-	-	1	-	-							
動からでもあ	1	-	-	1	-	-							
る。													
名である(体)	82	13	11	23	9	26							

1) そうありたい 2) ただし…ないかぎりは、である 3) こい 4, 伝えい 1 4) さもあらん

	全	一	二	三	四	五
形のだろろ。	1	-	-	-	-	1
動たのだろろ。	8	1	2	-	-	5
動ないのだろろ。	1	-	-	-	-	1
名なのだろろ。	4	-	2	-	-	2
名でしよろ。	45	5	10	2	9	19
動でしよろ。	27	3	2	3	11	8
形でしよろ。	20	1	2	2	9	6
副でしよろ。	7	1	-	1	1	4
動からでしよろ。	1	-	-	-	-	1
動たからでしよろ。	1	-	-	-	1	-
動たでしよろ。	5	1	1	1	-	2
形たでしよろ。	2	-	1	-	-	1
名だったでしよろ。	1	-	-	-	-	1
動ましたでしよろ。	1	-	-	-	1	-
形(く)ございましたでしよろ。	1	-	-	-	-	1
動ないでしよろ。	8	1	2	1	1	3
形(く)はないでしよろ。	1	-	-	-	1	-
名ではないでしよろ。	1	-	-	1	-	-
動のでしよろ。	1	-	1	-	-	-
動たのでしよろ。	9	2	1	-	3	3
名なのでしよろ。	5	-	1	1	1	2
動ないのでしよろ。	1	-	-	-	1	-
名ではないのでしよろ。	1	-	-	-	-	1
動べきでしよろ。	1	-	-	-	-	1
動ますでしよろ。	1	-	-	-	1	-
動ましよろ。	50	5	9	3	19	14
名でありましよろ。	1	-	-	-	-	1
動でありましよろ。	1	1	-	-	-	-
動たのでございましよろ。	2	1	-	-	1	-
動やろろ。	1	-	-	-	-	1
動ろ(体)	1	-	-	-	1	-
動であろろ(体)	3	1	-	2	-	-
形(く)なかろろ(体)	1	-	1	-	-	-
か						
。か	3 ¹⁾	1	1	-	-	1
名か	273	31	47	36	47	112
動か	120	20	19	29	18	34
形か	22	2	4	4	4	8
副か	47	3	9	16	3	16
感か	1	-	1	-	-	-

	全	一	二	三	四	五
名であるか	6	2	2	1	-	1
動ろか	8	-	2	-	1	5
名であろろか	9	1	3	1	3	1
動であろろか	2	1	-	1	-	-
動のであろろか	1	-	-	1	-	-
形のであろろか	1	-	1	-	-	-
動たのであろろか	1	-	-	-	-	1
形(かっ)たのであろろか	1	1	-	-	-	-
動なかつたのであろろか	1	1	-	-	-	-
名なのであろろか	1	-	1	-	-	-
動べきであろろか	1	-	-	1	-	-
動ぬじゃろろか	1 ²⁾	-	1	-	-	-
動たろろか	1	-	-	-	-	1
名だろろか	7	-	1	1	-	5
動だろろか	8	1	2	2	-	3
形だろろか	2	-	-	1	-	1
副だろろか	1	-	1	-	-	-
動ただろろか	3	1	1	-	-	1
動ないだろろか	2	1	-	-	-	1
動のではないだろろか	1	-	-	-	1	-
名だつたのではないだろろか	1	-	-	-	-	1
動のだろろか	5	-	1	-	-	4
形のだろろか	1	-	-	-	-	1
動たのだろろか	2	1	-	-	-	1
名ばかりなのであつたのだろろか	1	1	-	-	-	-
名だつたのだろろか	1	-	1	-	-	-
名ではないのだろろか	1	-	-	-	-	1
名なのでろろか	1	1	-	-	-	-
名でしよろか	5	1	-	-	3	1
動でしよろか	6	1	1	1	-	3
形でしよろか	5	-	1	1	1	2
副でしよろか	1	-	-	-	1	-
形たでしよろか	1	-	1	-	-	-
動なかつたでしよろか	1	-	-	-	-	1
動ないでしよろか	1	-	-	-	-	1
形のでないでしよろか	1	-	-	1	-	-
名ではないでしよろか	2	-	1	-	-	1
動のではないでしよろか	1	-	-	-	1	-
形のではないでしよろか	1	-	-	-	-	1

1) かと思うと、かといって 2) くれんじゃろろか

	全	一	二	三	四	五
動たのではない でしょうか	2	-	-	-	-	2
動なかったの ではないでしょ うか	1	-	-	-	1	-
動のでしょ うか	1	-	-	-	-	1
名なでしょ うか	1	-	1	-	-	-
動ま せんでしょ うか	2	1	-	-	1	-
形からではな か ろうか	1	1	-	-	-	-
動のではな か ろうか	2	-	1	-	-	1
形のではな か ろうか	1	1	-	-	-	-
動べきではな か ろうか	2	-	1	1	-	-
動ま しょうか	3	1	1	-	-	1
動ま せんです や ろうか	1 ¹⁾	-	-	-	1	-
名からか	1	-	1	-	-	-
名かからか	1	-	-	1	-	-
名しか	3 ²⁾	1	-	-	-	2
動たか	28	3	6	3	1	15
名であったか	4	1	1	1	-	1
副であったか	1	-	-	-	-	1
名だったか	8	-	-	1	-	7
副だったか	1	-	-	-	-	1
名でしたか	5	1	-	1	1	2
名ではな か ったか	1	-	-	1	-	-
動ましたか	4	-	-	-	3	1
名だか	8	3	2	-	-	3
動ただか	1	-	-	-	-	1
動のだか	1	1	-	-	-	-
動てか	4	1	1	1	-	1
名ですか	21	4	5	3	3	6
形ですか	1	-	-	-	1	-
副ですか	7	1	2	-	3	1
動たですか	1	-	-	-	-	1
動な か った です か	1	-	-	1	-	-
動て です か	1	-	-	-	-	1
動ど です か	1 ³⁾	-	-	-	1	-
動ない です か	1	-	-	1	-	-
名では ない です か	5	2	-	1	1	1
副では ない です か	1	1	-	-	-	-
動の では ない です か	4	1	1	-	2	-
形の では ない です か	1	1	1	-	-	-
動たの では ない です か	1	-	-	-	-	1
動な か った の では ない です か	1	-	1	-	-	-

	全	一	二	三	四	五
名な の では ない です か	1	-	-	-	-	1
動ない の では ない です か	1	-	-	-	-	1
動の です か	10	2	-	-	3	5
形の です か	2	-	1	-	-	1
動たの です か	5	1	1	1	1	1
動な か った の です か	2	-	1	-	-	1
動ない の です か	2	1	1	-	-	-
動た と か	1	-	-	-	-	1
動ない か	16	2	4	2	4	4
動の で ない か	1	-	-	1	-	-
形(く) は ない か	3	-	-	3	-	-
名では ない か	1	-	-	-	-	1
動では ない か	4	-	-	-	-	4
形では ない か	5	1	4	-	-	-
副では ない か	1	-	-	-	-	1
動う では ない か	2	-	1	-	-	1
動た では ない か	2	-	-	-	-	2
名だ った では ない か	1	-	-	-	-	1
動ない では ない か	1	-	-	-	-	1
動の では ない か	14	1	1	5	1	6
形の では ない か	6	-	2	1	2	1
動た の では ない か	3	-	1	-	-	2
形(か っ) た の では ない か	2	-	-	1	-	1
名な の では ない か	2	-	-	1	-	1
動ない の では ない か	7	2	-	3	-	2
動ろ では ない か	1	-	-	-	-	1
形や ない か	2	-	1	-	-	1
動う や ない か	1	-	1	-	-	-
名なる か	1	1	-	-	-	-
名にか	5	-	1	-	2	2
副にか	5	-	-	1	3	1
連体 にか	1 ⁴⁾	-	-	1	-	-
動の か	29	4	11	2	2	10
形の か	8	-	2	-	1	5
動た の か	23	3	3	2	3	12
名であ った の か	1	-	1	-	-	-
名だ った の か	2	-	-	-	-	2
副だ った の か	2	-	-	-	-	2
動な か った の か	1	-	-	-	-	1
名でも な か った の か	1	-	-	-	-	1
名な の か	12	3	4	-	1	4
副な の か	1	1	-	-	-	-
動ない の か	6	2	-	-	1	3
名では ない の か	2	-	-	1	-	1

1) まへんでっしゃるか 2) いつしか 3) 働けど働けどですか 4) どんなにか

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
動のではないのか	1	-	1	-	-	-	名のが	2	-	-	1	1	-
動ぬのか	4	-	1	1	-	2	動のが	104	10	26	24	12	32
名のみか	1	-	-	-	-	1	形のが	8	3	-	-	2	3
名ばかりか	1	-	-	-	1	-	動たのが	29	-	9	1	-	19
動ばかりか	1	-	1	-	-	-	名だったのが	3	-	-	2	-	1
形ばかりか	1	-	-	-	1	-	動なかったのが	1	-	-	-	-	1
動ないばかりか	1	-	-	-	-	1	動ましたのが	1	-	-	1	-	-
動べきか	7	2	3	2	-	-	動ないのが	1	-	-	-	1	-
名ではあるまいか	2	-	-	2	-	-	動ますのが	1	-	-	-	-	1
動のではあるまいか	4	-	3	-	1	-	名のみが	1	-	1	-	-	-
形ではあるまいか	2	-	-	2	-	-	名ばかりが	1	-	-	-	-	1
動なかったのではあるまいか	1	-	1	-	-	-	名までが	3	1	2	-	-	-
動ますか	13	3	2	1	2	5	動たのまでが	1	-	-	-	1	-
動ますのでござりますか	1	-	-	-	-	1	名もが	2	-	-	1	-	1
名もか	1	-	-	-	-	1	名やらが	1	-	-	-	-	1
名でもか	2 ¹⁾	-	2	-	-	-	名よりが	1 ²⁾	-	1	-	-	-
動ぬか	9	-	2	-	2	5	が〔接続〕						
動ませんか	14	1	-	1	2	10	。が	36	6	7	4	2	17
名ではありませんか	1	-	-	-	-	1	動が	155	10	31	57	9	48
動うではありませんか	3	-	-	-	1	2	形が	52	3	15	10	3	21
動たではありませんか	3	-	-	-	1	2	名であるが	40	4	5	16	5	10
名ではないではありませんか	1	-	-	-	-	1	副であるが	2	-	-	1	-	1
動ないのではありませんか	1	1	-	-	-	-	動のであるが	5	1	1	1	2	-
が〔格〕							動たのであるが	5	-	-	1	-	4
「」が	1	-	-	-	1	-	名ではあるが	2	1	-	-	1	-
名が	4632	559	861	834	626	1752	動たばかりであるが	1	-	-	1	-	-
動が	11	-	2	3	2	4	名でもあるが	1	-	-	1	-	-
形が	1	1	-	-	-	-	動うが	4	1	-	1	2	-
副が	3	1	-	-	-	2	形(かろ)うが	1	-	-	-	-	1
名かが	8	2	-	-	2	4	名であろが	1	-	-	-	-	1
動かが	4	-	1	2	-	1	動であろが	1	-	1	-	-	-
副かが	1	-	1	-	-	-	動のであろが	2	2	-	-	-	-
名であるかが	1	-	-	1	-	-	動たろが	1	-	-	-	-	1
名からが	1	-	-	-	-	1	名だろが	1	1	-	-	-	-
名こそが	1	-	-	-	-	1	名だろが	3	-	3	-	-	-
名だけが	24	3	6	3	2	10	動だろが	2	-	-	2	-	-
動だけが	1	-	-	-	-	1	形だろが	1	-	-	-	-	1
名でもが	3	1	1	-	-	1	動たのだろが	1	1	-	-	-	-
名と(並列)が	15	6	2	4	1	2	名でしょうが	1	-	-	-	-	1
名などが	27	2	3	7	5	10	動でしょうが	2	-	1	-	-	1
動などが	2	-	1	-	-	1	形でしょうが	1	-	-	-	1	-
名なんか	1	-	-	-	1	-	動のでしょうが	1	1	-	-	-	-
動ぬが	1	-	-	-	-	1	名なのでしょうが	1	-	-	-	-	1
							動ましょうが	3	-	-	1	-	2
							動たのでござ	1	-	-	-	-	1
							動んじ	1	-	-	-	-	1
							動たのでござ	1	-	-	-	-	1
							動んじ	1	-	-	-	-	1
							動たのでござ	1	-	-	-	-	1

1) これでもかこれでもかと……

2) 妻の側からは三〇六、夫よりが一一八

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
動し(「き」の連 体形)が	2	2	-	-	-	-	名ではないが	4	-	1	1	-	2
。じゃが	2	-	-	-	-	2	名では(副)ない が	1 ²⁾	1	-	-	-	-
名じゃが	1	-	-	-	-	1	動ないではない が	1	-	-	-	-	1
動のじゃが	1	1	-	-	-	-	動のではないが	2	-	1	-	1	-
動たが	215	30	46	20	23	96	動ばかりではな いが	1	-	-	1	-	-
形(かっ)たが	10	-	3	1	-	6	副でもないが	1	-	-	1	-	-
名であったが	15	4	3	2	-	6	名なるが	1	-	1	-	-	-
動たのであった が	1	-	-	1	-	-	動ぬが	8	2	1	1	1	3
名ではあったが	4	-	1	-	1	2	動ませんが	18	3	3	2	9	1
名でもあったが	1	1	-	-	-	-	名でもござんせ んが	1	-	-	-	-	1
名だったか	17	1	3	1	-	12	形(く)ありませ んが	1	-	-	-	-	1
副だったか	1	-	-	-	-	1	名ではありませ んが	2	-	-	1	1	-
名でしたか	5	1	1	-	3	-	名でもありませ んが	1	-	1	-	-	-
動ませんでした が	1	-	-	-	-	1	動まいが	1	1	-	-	-	-
動なかったか	10	3	2	1	1	3	動ますが	86	9	11	15	36	15
形(く)はなかつ たが	1	1	-	-	-	-	名なのでありま すが	1	-	-	-	-	1
名ではなかつた が	2	1	1	-	-	-	副なのでござい ますが	1	-	-	-	-	1
動ましたが	29	1	4	3	11	10	名らしいが	1	-	-	1	-	-
名でありました が	1	-	-	-	1	-	動らしいが	1	-	-	-	-	1
名ではありまし たが	1	-	-	-	-	1	動たらしいが	1	1	-	-	-	-
動らしかつたが	2	1	-	-	-	1	形たらしいが	1	-	1	-	-	-
名ばかりらしか つたが	1	-	-	-	-	1	かて(方言)						
。だが	57	5	13	15	2	22	動たかて	1	-	-	-	-	1
名だが	102	10	27	19	8	38	から[格]						
動のだが	17	3	2	2	1	9	名から	941	97	160	148	193	343
形のだが	2	-	-	1	-	1	副から	5	-	1	-	-	4
動たのだが	9	-	1	2	-	6	動てから	66	4	15	9	12	26
形たのだが	1	1	-	-	-	-	名などから	4	-	1	2	1	-
形(く)なかつた のだが	1	-	1	-	-	-	から[接続]						
名ってだが	1 ¹⁾	-	-	-	-	1	動から	87	9	14	17	10	37
名なのだが	4	1	2	1	-	-	形から	27	2	3	6	-	16
動ないのだが	6	-	1	1	-	4	名であるから	15	1	2	8	1	3
名ばかりだが	1	-	-	-	1	-	副であるから	1	1	-	-	-	-
名ですが	47	3	9	6	14	15	動てであるから	1	-	-	1	-	-
形ですが	1	-	-	-	-	1	動のであるから	3	1	-	2	-	-
副ですが	3	-	1	-	2	-	名でいらっしや るから	1	-	1	-	-	-
動ただけですが	1	-	1	-	-	-	動うから	1	-	-	1	-	-
動のですが	27	3	2	7	10	5	名でしょうから	1	-	-	1	-	-
形のですが	14	2	4	1	4	3	動でしょうから	3	2	-	-	-	1
動たのですが	14	-	2	1	7	4	名じゃから	1	-	-	1	-	-
名なのですが	6	-	2	2	-	2	動のじゃから	1	-	-	-	-	1
動ないのですが	2	-	-	-	1	1	動たから	21	3	7	1	2	8
動ないが	44	7	6	9	3	19	形(かっ)たから	2	-	-	-	-	2
形(く)ないが	3	-	-	2	-	1	名であったから	1	-	-	-	-	1
形(く)はないが	1	-	-	1	-	-	名だったから	1	1	-	-	-	-

1) 何んてお察しの悪いブラシ野郎……ってだがね 2) ……わけでは勿論ないが

	全	一	二	三	四	五
名でしたから	2	-	-	1	-	1
動なかったから	3	-	-	1	-	2
動ましたから	6	-	1	1	2	2
。だから	52	13	8	10	10	11
名だから	93	7	18	16	14	38
副だから	1	-	-	-	-	1
動てからだから	1	-	1	-	-	-
動のだから	23	1	5	3	6	8
形のだから	1	-	-	-	1	-
動たのだから	15	1	7	1	1	5
動なかったのだから	1	-	1	-	-	-
「」なのだから	1	-	1	-	-	-
名なのだから	6	2	1	-	-	3
動ないのだから	5	1	2	1	-	1
名でないのだから	1	-	-	1	-	-
名ばかりだから	1	-	-	-	-	1
。ですから	10	-	1	1	7	1
名ですから	42	3	5	8	11	15
動ですから	1	-	-	-	-	1
形ですから	1	-	-	1	-	-
形(かっ)たです	1	-	-	-	-	1
名だけですから	1	-	-	-	1	-
動だけですから	1	-	-	-	1	-
動のですから	8	3	-	-	2	3
動たのですから	2	-	-	-	-	2
名なのですから	3	1	-	-	1	1
名ではないのです	1	-	-	1	-	-
すから						
動ないから	16	1	2	6	3	4
形(く)ないから	2	-	1	-	1	-
名でないから	1	-	-	-	-	1
名ではないから	8	2	-	2	-	4
名でもないから	1	1	-	-	-	-
動ぬから	1	1	-	-	-	-
動ませんから	11	1	4	1	4	1
名ではありませ	1	-	-	-	-	1
んから						
動ますから	36	2	3	7	13	11
き(文語)						
動き。	1	-	-	-	-	1
名なりき。	1	-	-	-	-	1
動し。	2	1	1	-	-	-
動し(体)	24	9	4	-	4	7
動しか	1	1	-	-	-	-
きり						
名きり	2	-	-	-	-	2
動たきり	2	1	-	-	-	1
け						
動ないのだけ	1	-	-	-	-	1

	全	一	二	三	四	五
けり						
動けり	1	-	-	-	1	-
動にけり	2	1	1	-	-	-
けれど(も)						
。けれど(も)	13	3	-	3	5	2
動けれど(も)	21	3	3	1	5	9
形けれど(も)	6	1	2	-	-	3
名であるけれど	2	-	-	2	-	-
(も)						
名だろうけれど	2	-	-	-	-	2
(も)						
動だろうけれど	1	-	-	-	-	1
(も)						
動のだろうけれ	2	-	-	-	2	-
ど(も)						
動たけれど(も)	14	2	1	2	3	6
形たけれど(も)	2	1	1	-	-	-
名であったけれ	1	-	-	-	-	1
ど(も)						
動なかったけれ	1	-	-	-	-	1
ど(も)						
動ませんでした	2	-	-	-	-	2
けれど(も)						
動ましたけれど	5	-	-	-	3	2
(も)						
。だけれど(も)	5	1	-	-	1	3
名だけれど(も)	13	2	1	1	2	7
動のだけれど	3	2	-	-	-	1
(も)						
形のだけれど	1	-	-	-	-	1
(も)						
動たのだけれど	4	-	1	1	-	2
(も)						
名なのだけれど	3	1	2	-	-	-
(も)						
動ないのけれ	2	1	-	-	-	1
ど(も)						
動らしいのだけ	1	-	-	-	-	1
れど(も)						
動たらしいのだ	1	-	1	-	-	-
けれど(も)						
名ですけれど	1	-	-	-	1	-
(も)						
動ぬですけれど	1	1	-	-	-	-
(も)						
動のですけれど	5	-	-	-	3	2
(も)						
形のですけれど	3	1	1	1	-	-
(も)						
動たのですけれ	3	-	1	-	1	1
ど(も)						
名なのですけれ	2	-	-	-	-	2
ど(も)						
動ぬのですけれ	1	-	-	-	-	1
ど(も)						
動らしいのです	2	1	-	-	1	-
けれど(も)						
動ないけれど	7	-	2	-	1	4
(も)						
名ではないけれ	1	-	1	-	-	-
ど(も)						
動ぬけれど(も)	3	1	1	-	-	1

	全	一	二	三	四	五
動ませんけれど (も)	3	-	1	-	1	1
動ますけれど (も)	6	1	1	-	2	2
名でございます けれど(も)	1	-	-	-	-	1
け(ん)(方言)						
動けん	1	-	-	-	-	1
名じゃけん	1	-	-	-	-	1
名やけん	1	-	1	-	-	-
ござる						
名でござる	1	-	1	-	-	-
こそ						
名こそ	20	2	4	2	5	7
形(く)こそ	1	-	1	-	-	-
感こそ	1 ¹⁾	-	1	-	-	-
名だからこそ	1	-	-	-	-	1
動てこそ	2	-	-	-	1	1
名にこそ	1	1	-	-	-	-
動ば(未然)こそ	1	-	-	-	-	1
動ば(已然)こそ	1	-	-	-	-	1
動たればこそ	1	-	-	-	-	1
名なればこそ	1	-	-	-	-	1
ごわす						
動たのでごわす さ[格]	2	-	-	-	-	2
名さ	4	-	4	-	-	-
さえ						
名さえ	34	4	5	4	4	17
動さえ	6	-	2	-	1	3
形(く)さえ	1	1	-	-	-	-
動てさえ	2	1	-	-	-	1
名でさえ	3	-	1	-	-	2
形とさえ	1	-	-	-	-	1
動たらとさえ	1	-	1	-	-	-
名にさえ	3	1	-	-	-	2
さかい						
名やさかい	1	-	-	-	-	1
し[接続]						
動し	38	5	6	11	5	11
形し	28	3	3	3	4	15
名であるし	1	-	-	-	-	1
名でもあるし	1	-	-	-	-	1
動うし	1	-	1	-	-	-
動であらうし	1	-	1	-	-	-
動てであらうし	1	-	1	-	-	-
形(く)ないので あらうし	1	1	-	-	-	-
動だらうし	2	-	-	-	-	2
形だらうし	2	-	-	-	-	2

	全	一	二	三	四	五
形(く)ないだろ うし	1	-	-	-	-	1
形でしょうし	1	-	-	-	1	-
動たし	10	1	3	-	1	5
形(か)つたし	3	2	-	-	1	-
名であったし	1	-	1	-	-	-
名だったし	3	1	-	-	1	1
名でしたし	1	-	-	-	-	1
動ませんでした し	1	-	-	-	-	1
動なかったし	4	1	1	-	-	2
動ましたし	1	-	-	-	1	-
名だし	16	1	5	2	3	5
副だし	1	-	-	-	-	1
動のだし	1	1	-	-	-	-
動たのだし	1	-	-	-	-	1
名ですし	4	-	-	1	2	1
動たのですし	1	-	-	-	1	-
動ないし	10	-	2	4	2	2
形(く)ないし	3	2	-	-	-	1
動ませんし	2	-	-	-	1	1
動ないべし	1	-	1	-	-	-
名ではあるまい し	1	-	-	-	-	1
動ますし	5	1	1	1	1	1
名でございます し	1	-	-	-	-	1
しか						
名しか	19	2	6	4	-	7
動しか	1	-	-	-	1	-
名だけしか	3	-	2	-	1	-
名としか	4	-	1	-	1	2
動としか	3	-	1	-	-	2
名にしか	2	2	-	-	-	-
しも						
名しも	3	-	1	-	-	2
副しも	13	1	1	4	1	6
じゃ						
名じゃ	15	2	2	-	-	11
副じゃ	2	-	1	-	-	1
感じゃ	1	1	-	-	-	-
動たじゃ	1	-	-	-	-	1
形と(引用)じゃ	1	-	-	-	-	1
動のじゃ	3	1	1	-	-	1
形のじゃ	2	-	1	-	-	1
動たのじゃ	2	-	-	-	-	2
動たまでじゃ	1	-	1	-	-	-
す(方言)						
形だす	1	-	1	-	-	-

1) すわこそ

	全	一	二	三	四	五
ず						
動ず(連用)	140	15	20	19	23	63
形(から)ず(連用)	2	-	-	-	1	1
のみならず(連用)	2	1	-	1	-	-
名のみならず(連用)	1	-	-	1	-	-
動たのみならず(連用)	1	1	-	-	-	-
名なるのみならず(連用)	1	1	-	-	-	-
動ず。	9	1	3	3	2	-
動べからず。	2	-	-	-	-	2
形(かる)べからず。	1	-	-	1	-	-
動ざる	4	3	1	-	-	-
形(から)ざる	2	-	1	-	-	1
名ならざる	2	1	1	-	-	-
動べからざる	3	-	2	-	-	1
すら						
名すら	7	2	-	3	-	2
名ですら	2	1	-	1	-	-
名にすら	1	-	-	-	-	1
そうろう						
動候。	1	-	1	-	-	-
名に候。	1	1	-	-	-	-
動べく候。	2	-	2	-	-	-
動候(体)	1	-	1	-	-	-
た						
……た	1 ¹⁾	-	-	-	-	1
動た。	1881	248	368	163	155	947
形(かった)た。	65	8	13	8	4	32
名であった。	126	20	36	10	7	53
名などであった。	1	-	1	-	-	-
動のであった。	12	1	1	1	-	9
形のであった。	1	-	-	-	-	1
動たのであった。	10	1	3	-	-	6
名なのであった。	4	-	3	-	-	1
動ないのであった。	2	-	-	-	-	2
動ばかりであった。	1	-	-	-	-	1
動べきであった。	2	-	-	-	-	2
動のでもあった。	1	-	-	-	1	-
形(く)もあった。	1	1	-	-	-	-
「」だった。	1	-	-	-	1	-
名だった。	131	12	26	12	15	66
副だった。	2	-	-	-	1	1
動からだった。	1	-	-	-	-	1

	全	一	二	三	四	五
名だけだった。	1	-	-	-	-	1
動のだった。	13	-	2	-	1	10
動たのだった。	13	2	3	1	2	5
形(かった)たのだった。	1	1	-	-	-	-
名なのだった。	1	1	-	-	-	-
動ないのだった。	3	1	1	-	-	1
名でないのばかりだった。	1	-	-	-	-	1
動べきだった。	1	-	1	-	-	-
名でした。	30	2	8	4	8	8
動からでした。	2	-	-	2	-	-
動のでした。	2	1	-	-	-	1
動たのでした。	1	-	-	-	1	-
動ませんでした。	5	-	1	-	-	4
名ではありませんでした。	1	-	-	-	1	-
名ばかりでした。	1	-	1	-	-	-
動まへんどした。	1	1	-	-	-	-
名ではなかった。	17	-	4	3	1	9
動なかった。	123	19	35	9	7	53
形(く)なかった。	4	1	1	1	-	1
名でなかった。	1	-	-	-	-	1
名では(副)なかった。	1 ²⁾	-	-	-	-	1
名ばかりではなかった。	1	-	1	-	-	-
動くはなかった。	1	-	1	-	-	-
名でもなかった。	1	-	-	-	-	1
動ました。	207	26	41	10	63	67
形(く)ございました。	3	-	-	1	-	2
動てこそございました。	1	-	-	-	-	1
名らしかった。	3	1	-	-	-	2
動らしかった。	1	-	-	-	-	1
動た(体)	2327	260	419	292	382	974
形(かった)た(体)	14	2	1	2	3	6
名であった(体)	19	3	5	4	2	5
名でもあった(体)	1	-	1	-	-	-
名だった(体)	13	5	3	-	-	5
動なかった(体)	23	4	2	8	4	5
名でなかった(体)	1	-	-	-	-	1
形(く)はなかった(体)	1	-	1	-	-	-
動ました(体)	10	-	-	-	1	9
動たら	171	12	29	12	44	74

1) 聞きとれない会話をうつしたもの

2) 洋々たる将来では決してなかった

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
形(かっ)たら	5	-	-	-	2	3	動たからだ	5	-	-	1	-	4
名であつたら	1	-	1	-	-	-	形(かっ)たから	1	-	-	-	-	1
名のみであつたら	1	-	1	-	-	-	だ						
名だつたら	16	1	3	-	6	6	名だつたからだ	1	-	1	-	-	-
動のだつたら	1	-	1	-	-	-	動なかつたから	1	1	-	-	-	-
動ないのだつたら	1	-	-	-	-	1	だ						
副もだつたら	1	-	-	-	1	-	名だからだ	2	-	1	-	-	1
名でしたら	5	-	-	-	4	1	動ないからだ	1	-	-	-	-	1
動でしたら	1	-	-	-	-	1	動きりだ	1	-	-	-	-	1
動なかつたら	6	-	2	1	2	1	動たきりだ	1	-	1	-	-	-
副でなかつたら	1	-	-	-	-	1	動ずだ	1	-	-	-	-	1
動ましたら	7	-	-	-	7	-	名だけだ	1	1	-	-	-	-
名やつたら	1	-	-	-	-	1	動だけだ	4	-	2	-	-	2
だ							動ただけだ	1	-	1	-	-	-
名で	516	41	83	97	84	211	名と(格)だ	1	-	-	1	-	-
名からで	2	-	1	-	1	-	名とはだ	¹²⁾	-	-	-	-	1
動たからで	2	-	-	-	-	2	動ないだ	¹³⁾	-	1	-	-	-
名だからで	1	1	-	-	-	-	動にだ	¹⁴⁾	-	-	-	-	1
名きりで	1	-	-	-	-	1	「」のだ	1	-	-	-	1	-
動ずで	¹¹⁾	1	-	-	-	-	動のだ	104	24	13	7	10	50
名だけで	3	-	1	-	-	2	形のだ	23	5	7	1	1	9
動だけで	6	-	1	-	-	5	名でもあるのだ	1	-	1	-	-	-
名からだけで	1	-	1	-	-	-	動たのだ	75	8	15	3	5	44
動ただけで	5	-	1	-	-	4	形(かっ)たのだ	2	1	-	-	-	1
名なだけで	1	-	1	-	-	-	名であつたのだ	3	1	-	-	-	2
動とかで	1	1	-	-	-	-	名だつたのだ	5	2	1	-	-	2
名などで	1	-	-	1	-	-	動なかつたのだ	1	-	-	-	-	1
動ぬで	1	-	1	-	-	-	形(く)なかつた	1	-	-	-	-	1
動ので	4	-	1	1	-	2	のだ						
動たので	1	-	1	-	-	-	名なのだ	37	6	7	5	2	17
名なので	2	1	-	-	-	1	副なのだ	2	-	-	-	-	2
動ないので	1	-	-	-	-	1	名からなのだ	1	-	1	-	-	-
名ではないので	1	-	-	-	1	-	名であるだけな	1	-	-	-	-	1
名らしいので	1	-	-	-	-	1	のだ						
名のみで	1	-	-	1	-	-	動ないのだ	22	2	10	1	1	8
名ばかりで	3	1	2	-	-	-	形(く)ないの	1	1	-	-	-	-
動ばかりで	1	-	1	-	-	-	だ						
形ばかりで	1	1	-	-	-	-	名ではないのだ	2	1	1	-	-	-
動べきで	2	-	1	-	1	-	動ぬのだ	1	1	-	-	-	-
。だ	1	-	-	-	-	1	動らしいのだ	1	-	1	-	-	-
名だ	511	56	119	60	50	226	名はだ	2	-	-	-	-	2
動だ	2	-	-	-	-	2	名ばかりだ	3	1	-	1	-	1
副だ	22	3	6	1	3	9	動ばかりだ	1	1	-	-	-	-
名からだ	2	-	-	-	-	2	動べきだ	11	-	4	3	-	4
動からだ	9	1	1	5	2	-	名であるべきだ	1	-	-	-	-	1
形からだ	5	-	4	-	-	1	動たまでだ	1	-	-	1	-	-
動だろりからだ	1	-	-	1	-	-	だけ						
							名だけ	55	2	13	8	22	10
							動だけ	15	-	5	2	4	4
							動ただけ	1	-	-	-	-	1
							形(かっ)ただけ	1	-	-	-	-	1

1) あいかわらずで 2) そもそもたいへんとはだ 3) とまらんねっだなあ 4) 思うにだな

	全	一	二	三	四	五
感とだけ	1	-	-	-	-	1
名なだけ	1	-	-	-	1	-
名にだけ	1	-	-	-	-	1
動ぬだけ	1	-	-	-	-	1
だす(方言)						
名だす	1	-	-	-	-	1
だって						
動たって	14	3	1	-	2	8
だって						
。だって	9	2	-	-	-	7
名だって	31	8	4	2	6	11
名からだって	1	-	-	-	-	1
名にだって	3	-	-	-	-	3
動のだって	1	-	-	-	-	1
たら						
名たら	2	-	-	-	-	2
たり[並列]						
動たり	144	25	22	17	46	34
形(かっ)たり	2	-	1	-	1	-
名であったり	2	-	-	-	-	2
名だったり	1	-	-	-	-	1
動なかつたり	1	-	-	-	-	1
たり[断定]						
名たり	1	1	-	-	-	-
名たる	19	2	4	3	-	10
っ						
動っ	3	-	-	-	-	3
つつ						
動つつ	37	10	3	7	5	12
て						
動て	7275	852	1367	1010	1351	2695
形(く)て	43	3	6	5	13	16
副て	1 ¹⁾	-	-	-	-	1
名であって	21	7	2	5	2	5
副であって	1	-	-	-	-	1
形のであって	1	1	-	-	-	-
動ないのであつて	1	-	-	1	-	-
名でして	2	-	-	-	2	-
動ないで	38	6	9	5	7	11
動なくて	6	2	1	1	1	1
形(く)なくて	1	-	-	-	-	1
名でなくて	4	1	1	-	-	2
副でなくて	1	-	-	-	1	-
名ではなくて	6	2	1	-	1	2
動ではなくて	1	-	-	-	-	1
名かではなくて	1	-	-	-	-	1
動のではなくて	1	-	-	-	1	-

	全	一	二	三	四	五
動ぬで	2	-	-	-	-	2
動ませんで	1	-	-	1	-	-
動まして	16	2	4	2	3	5
で[格]						
……で	1 ²⁾	-	-	-	-	1
。で	3	-	1	-	1	1
「」で	4	-	-	-	1	3
名で	1710	163	283	235	373	656
名かで	5	-	2	1	1	1
動かで	1	-	-	-	1	-
形かで	1	-	-	1	-	-
動ぬかで	1	-	-	-	1	-
動ないからで	1	-	-	-	1	-
名きりで	1	-	-	-	-	1
名だけで	14	6	3	1	-	4
動ただけで	8	1	3	-	2	2
名とで	2	1	-	-	-	1
名とかで	1	1	-	-	-	-
名などで	10	-	3	3	3	1
名やなんかで	1	-	-	1	-	-
形ので	2	-	1	-	-	1
名のみで	1	-	-	1	-	-
で[接続]						
動たて	3	1	-	-	-	2
名やつたて	1	-	1	-	-	-
です						
名です	382	17	61	36	118	150
形です	19	3	1	2	6	7
副です	27	2	5	1	5	14
動からです	3	-	-	-	3	-
名であるからです	1	-	-	-	1	-
動たからです	1	-	-	-	-	1
名だからです	2	-	1	-	-	1
動たです	2	-	-	-	-	2
形(かっ)たです	3	-	-	-	-	3
名だけです	1	-	-	-	-	1
動だけです	2	-	-	-	1	1
動ただけです	1	-	-	-	-	1
形(く)ないです	1	-	-	-	-	1
副ではないです	1	-	-	-	-	1
名などです	2	-	-	-	1	1
名にてです	1	-	-	-	-	1
動ぬです	3	-	-	-	-	3
名のです	1	-	1	-	-	-
動のです	122	12	24	14	35	37
形のです	43	4	8	6	12	13
名でもあるのです	1	-	-	1	-	-

1) かくて 2) 聞きとれない会話をうつしたもの

	全	一	二	三	四	五
動たのです	54	5	14	6	6	23
形たのです	1	-	-	-	-	1
名であったのです	1	-	-	-	1	-
名だったのです	9	-	2	-	1	6
動なかったのです	6	1	1	1	-	3
形(く)なかったのです	1	-	-	1	-	-
名ではなかったのです	3	1	-	1	-	1
名なのです	31	2	7	1	13	8
副なのです	3	-	-	-	1	2
名だけなのです	1	-	-	-	1	-
動ないのです	25	2	7	1	9	6
形(く)ないのです	2	-	-	-	-	2
名ではないのです	5	1	2	-	-	2
動ぬのです	2	-	-	-	-	2
動たらしいのです	2	-	1	-	1	-
名であつたらしいのです	1	-	-	-	-	1
名ばかりです	3	-	1	-	1	1
動たばかりです	1	-	-	-	-	1
動べきです	5	-	-	1	2	2
動までです	1	-	-	-	1	-
名らしいです	2	-	-	-	-	2
名だつたらしいです	1	1	-	-	-	-
ても						
動ても	345	40	62	75	57	111
形(く)ても	10	1	2	3	1	3
名であつても	7	3	1	1	-	2
名ではあつても	1	-	1	-	-	-
動ないでも	2	1	-	-	1	-
動なくても	9	1	3	1	1	3
名でなくても	1	-	-	1	-	-
名ではなくても	1	1	-	-	-	-
動ぬでも	2	1	-	-	-	1
動ましても	1	-	1	-	-	-
でも						
名でも	204	22	47	20	36	79
動(用)でも	1 ¹⁾	-	-	-	-	1
副でも	1	-	1	-	-	-
名だけでも	8	-	2	-	1	5
動てでも	2	1	-	-	1	-
名と(格)でも	1	1	-	-	-	-
名と(引用)でも	5	2	1	-	2	-
名なんかでも	1	-	-	-	-	1
名にでも	11	-	2	1	4	4
副にでも	2	-	1	-	-	1

	全	一	二	三	四	五
動のでも	1	-	-	-	-	1
名まででも	1	-	-	-	-	1
と〔格〕						
。と	1 ²⁾	-	-	-	-	1
名と	405	32	77	65	91	140
動と	16	-	3	7	1	5
名であると	3	-	-	1	-	2
動たと	6	1	2	-	1	2
名などと	4	2	1	-	-	1
名なりと	1	-	-	-	1	-
動のと	3	-	-	2	-	1
動たのと	1	1	-	-	-	-
動ないのと	1	1	-	-	-	-
と〔接続〕						
。と	5	-	1	-	-	4
動と	571	60	101	79	85	246
形と	3	1	1	-	-	1
名であると	1	-	-	1	-	-
動うと	6	1	1	-	2	2
名であらうと	4	-	-	-	1	3
名だと	8	1	1	2	1	3
動てからだ	1	-	-	-	1	-
名ですと	2	1	-	-	1	-
動ないと	21	-	4	6	5	6
名でないと	8	-	-	4	2	2
副でないと	1	-	-	1	-	-
動てからでない	2	-	-	1	1	-
と						
動ながらでない	1	-	-	-	1	-
と						
動ぬと	3	1	-	-	-	2
動ますと	33	4	4	8	9	8
と〔並列〕						
名と	627	71	105	110	160	181
動のと	1	1	-	-	-	-
形のと	1	-	1	-	-	-
動たのと	1	-	-	-	-	1
とか						
「 」とか	3	-	1	-	1	1
名とか	51	9	8	14	12	8
動とか	11	-	1	4	5	1
形とか	1	-	-	-	1	-
名であるとか	2	1	-	-	1	-
名かとか	1	-	1	-	-	-
動たとか	8	1	2	1	4	-
名だとか	8	1	2	1	1	3
動ないとか	2	1	1	-	-	-
名ではとか	1	-	-	-	-	1
動たらしいとか	1	-	-	-	-	1

1) たかられでもしたの 2) と同時に

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
とて							動のなら	3	1	1	-	1	-
名とて	4	1	-	-	1	2	形のなら	1	-	-	1	-	-
動とて	1	-	1	-	-	-	動たのなら	1	-	-	-	-	1
動たとて	2	-	-	-	-	2	名までなら	1	-	1	-	-	-
とは							名もなら	1 ³⁾	-	1	-	-	-
「 」とは	1	-	-	-	1	-	ない〔動詞に〕						
名とは	22	1	7	3	1	10	動なく	36	5	8	9	1	13
動とは	1	-	-	-	-	1	動ない。	423	54	86	98	49	136
動(命)とは	1	-	-	-	-	1	動ない(体)	307	32	47	47	65	116
形とは	1	-	-	-	-	1	ない〔形容詞など						
動たとは	1	-	-	-	-	1	に〕						
名だとは	1	1	-	-	-	-	形(く)なく	5	-	-	1	1	3
とも							名となく	18	3	6	-	-	9
形(く)とも	8	1	1	3	1	2	名でなく	12	1	1	5	4	1
動なくとも	3	-	1	-	1	1	副でなく	2	2	-	-	-	-
名でなくとも	2	1	-	-	-	1	名だけでなく	4	1	-	2	1	-
名ならずとも	1	-	-	1	-	-	動だけでなく	2	1	-	-	-	1
ど(も)							動ないだけでな	2	-	-	-	1	1
動ども	11	1	4	-	4	2	く						
副はあれども	1 ¹⁾	1	-	-	-	-	名とでなく	1	-	-	1	-	-
名じゃっど	1 ²⁾	1	-	-	-	-	動のでなく	2	-	2	-	-	-
形(く)なかった	1	-	-	-	-	1	名のみでなく	1	-	-	1	-	-
のだども	1	-	-	-	-	1	名ばかりでなく	9	1	4	-	1	3
動ねど	1	-	-	-	-	1	形(く)はなく	1	-	-	-	1	-
な〔禁止〕							名ではなく	24	5	3	2	5	9
動(終)な	23	4	5	-	2	12	名だけではな	5	2	1	1	-	1
な〔命令〕							動てではな	2	2	-	-	-	-
動(用)な	5	-	-	-	-	5	動のではな	3	-	-	1	2	-
な〔助動〕							動たのではな	1	-	1	-	-	-
名な	1306	192	260	197	232	425	名ばかりではな	1	-	-	-	-	1
名なまでな	1	1	-	-	-	-	く						
名なり	5	1	2	-	-	2	動たばかりでは	1	-	1	-	-	-
動しなり	1	1	-	-	-	-	なく						
動候なり	1	-	1	-	-	-	名もなく	1 ⁴⁾	-	-	-	-	1
動ばかりなり	1	-	1	-	-	-	名でもなく	1	1	-	-	-	-
名なる	24	3	7	3	5	6	動ともなく	1	-	-	-	-	1
名なら	62	4	17	7	8	26	名にもなく	1 ⁵⁾	-	-	-	-	1
動なら	20	2	3	3	-	12	形(く)ない。	14	1	1	3	-	9
副なら	9	2	1	2	2	2	名でしかない。	1	-	-	-	-	1
名であるなら	1	-	-	1	-	-	名でない。	8	3	1	4	-	-
動たなら	2	-	-	1	-	1	動でない。	1 ⁶⁾	-	-	-	-	1
名ばかりだった	1	-	-	-	1	-	名はない。	1 ⁷⁾	-	-	1	-	-
なら	1	-	-	-	-	1	名ではない。	63	9	10	8	12	24
名だけなら	1	-	-	-	-	1	動ではない。	1	-	-	-	-	1
名で(格)なら	2	2	-	-	-	-	形からではな	1	1	-	-	-	-
名と(格)なら	1	-	-	-	-	1	い。						
動ないなら	1	1	-	-	-	-	名だけではな	4	-	1	1	-	2
名になら	3	1	-	-	1	1	い。						
							動だけではな	1	1	-	-	-	-
							形からだけでは	1	-	1	-	-	-
							ない。						

1) しかはあれども 2) 床下は血だらけじゃっどよ 3) いつもなら 4) いられそうもなく
5) 我にもなく 6) 察じるでないぞ 7) 狂いそうはない

	全	一	二	三	四	五
動のではない。	8	1	1	-	2	4
動の(副)ない。	1 ¹⁾	1	-	-	-	-
動たのではない。	2	-	1	-	-	1
名のみではない。	2	1	-	-	1	-
名ばかりではない。	1	-	-	1	-	-
動べきではない。	1	-	-	1	-	-
名にはない。	1 ²⁾	-	1	-	-	-
名でもない。	10	-	4	1	1	4
名ともない。	1 ³⁾	-	-	-	-	1
名らしくない。	1	-	1	-	-	-
名ではなさ(そう)	1	-	-	-	-	1
名でもなさ(そう)	1	-	1	-	-	-
形(く)ない(体)	10	-	2	1	1	6
名でない(体)	9	1	4	-	2	2
副でない(体)	2	-	1	1	-	-
形(く)はない(体)	1	-	-	-	-	1
名ではない(体)	9	1	1	1	2	4
動ないではない(体)	1	1	-	-	-	-
形(く)もない(体)	1	-	1	-	-	-
名でもない(体)	7	1	2	-	1	3
副でもない(体)	2	1	1	-	-	-
動べくもない(体)	1	-	-	-	-	1
名らしくない(体)	1	-	-	-	-	1
ながら						
名ながら	16	1	5	3	2	5
動ながら	159	18	26	5	30	80
副ながら	1	-	-	-	-	1
名でありながら	2	-	-	-	1	1
名ではありながら	1	-	1	-	-	-
など						
「」など	41	4	12	3	8	14
名など	107	13	21	16	32	25
動など	2	-	1	1	-	-
なり[並列]						
名なり	7	-	-	2	2	3
動なり	4	-	-	2	-	2
なり[接続]						
動なり	3	-	-	-	-	3
なんか						
名なんか	19	3	4	-	4	8
動てなんか	1	-	-	-	1	-
名でなんか	1	-	1	-	-	-

	全	一	二	三	四	五
なんて						
「」なんて	1	-	-	-	-	1
名なんて	18	2	1	-	3	12
動なんて	10	1	2	-	2	5
形なんて	1	1	-	-	-	-
名だからなんて	1	-	-	-	-	1
動たなんて	3	-	-	-	1	2
名だなんて	3	-	-	-	3	-
動のだなんて	1	-	-	-	-	1
動ないなんて	1	-	1	-	-	-
名はなんて	1	-	1	-	-	-
名ではなんて	1	-	-	-	-	1
なんと						
「」なんと	1	-	-	-	1	-
動なんと	1	-	-	-	-	1
に						
「」に	2	-	-	-	1	1
名に	8318	967	1506	1438	1652	2755
動(体)に	66	10	16	15	9	16
動(用)に	40	6	7	-	6	21
形(体)に	7	2	2	-	-	3
副に	2	-	1	1	-	-
名であるに	3	-	-	3	-	-
名かに	12	1	3	1	2	5
動かに	4	-	1	1	1	1
形かに	1	-	-	1	-	-
副かに	1 ⁴⁾	-	-	1	-	-
動たかに	2	-	-	1	-	1
動ないかに	1	-	-	-	-	1
名かしらに	1	1	-	-	-	-
名からに	1	-	-	1	-	-
動から(接)に	2	-	1	-	1	-
動たからに	1	-	-	-	-	1
名きりに	1	-	-	-	-	1
動ずに	42	5	10	4	8	15
動候に	1	-	1	-	-	-
動たに	5	-	4	-	-	1
形(かっ)たに	1	-	-	1	-	-
名であったに	2	1	-	-	-	1
名だったに	1	-	-	-	1	-
動なかったに	2	-	1	-	-	1
名だけに	23	2	5	6	2	8
動だけに	7	-	2	2	-	3
形だけに	2	1	-	-	-	1
名であるだけに	6	-	3	3	-	-
動ただけに	3	-	2	-	-	1
形ただけに	1	1	-	-	-	-
動ますだけに	1	-	1	-	-	-

1) というのでは毛頭ない 2) 隠居しそうにはない 3) 何ともない 4) かどうかにかかっている

	全	一	二	三	四	五
名と(並)に	8	3	4	-	1	-
名ではないに	1	-	-	-	1	-
動ともなしに	1	-	-	-	-	1
動ながらに	1	-	-	-	-	1
名などに	20	1	4	4	4	7
名なんかに	1	-	-	-	-	1
動のに	29	2	6	5	4	12
形のに	2	-	1	-	-	1
動たのに	8	1	1	1	2	3
名なのに	3	-	1	-	-	2
名のみに	1	-	-	1	-	-
名ばかりに	1	-	-	-	-	1
形ばかりに	1	-	-	-	-	1
動たばかりに	1	-	-	-	-	1
副とばかりに	1	-	-	-	-	1
名ぞとばかりに	1	-	-	-	-	1
動ぬばかりに	1	-	-	-	-	1
名までに	15	2	4	4	1	4
動までに	4	-	-	1	-	3
動やに	1	1	-	-	-	-
に〔並列〕						
名に	10	-	4	-	4	2
に〔接続〕						
動に	10	2	2	4	-	2
形(かろ)うに	1	-	-	-	-	1
動たろうに	1	-	-	-	-	1
にて						
名にて	11	-	-	1	6	4
ぬ〔否定〕→ん						
ぬ〔完了〕(文語)						
動(用)ぬ	6	2	2	-	1	1
の〔格〕						
「 」の	9	-	2	1	2	4
名の	11555	1404	2179	1896	2069	4007
動の	3 ¹⁾	-	1	1	-	1
動(用)の	12 ²⁾	-	-	-	-	1
形の	1	-	-	-	-	1
形(用)の	1	-	-	-	-	1
副の	59	4	11	10	11	23
名かの	19	2	2	2	-	13
動かの	8	-	-	3	1	4
名であるかの	1	-	-	-	-	1
動たかの	1	-	1	-	-	-
動ないかの	1	-	1	-	-	-
名からの	49	5	15	15	2	12
動てからの	2	-	1	-	1	-

	全	一	二	三	四	五
動ずの	2	-	-	1	-	1
動たの	1 ³⁾	1	-	-	-	-
名だけの	22	1	3	6	2	10
動だけの	8	1	2	2	3	-
動ただけの	5	1	1	-	-	3
動たりの	1	-	-	-	-	1
動ての	52	5	11	16	3	17
名での	28	5	2	6	7	8
「 」との	6	-	2	1	1	2
名と(格)の	52	7	16	12	4	13
名と(並)の	34	6	5	12	5	6
名と(用)の	1	-	1	-	-	-
動と(用)の	3	1	1	-	-	1
形と(用)の	1	-	1	-	-	-
名であるとの	1	1	-	-	-	-
動うとの	1	1	-	-	-	-
動だろうとの	1	-	-	-	-	1
動ないだろうとの	1	-	-	-	-	1
動からとの	1	-	-	-	-	1
動たととの	2	-	2	-	-	-
名だとの	1	1	-	-	-	-
名などとの	1	-	-	1	-	-
名とかの	2	1	-	-	1	-
動たとかの	1	-	-	-	-	1
名などの	36	4	8	6	11	7
動だろうかなどの	1	-	-	1	-	-
名にての	1	1	-	-	-	-
名のみの	1	1	-	-	-	-
名ばかりの	8	-	3	-	1	4
動たばかりの	4	-	1	-	-	3
動ばかりの	1	-	-	-	-	1
動ぬばかりの	2	-	1	-	-	1
動ばの	1	-	-	-	-	1
名への	57	9	22	8	2	16
名までの	42	3	12	11	6	10
動までの	9	1	-	2	4	2
動たまでの	1	-	-	-	-	1
動ずみの	14 ⁴⁾	-	-	-	-	1
名もの	12	-	1	3	3	5
副もの	1	-	-	-	-	1
名やの	1	1	-	-	-	-
名とやらの	1	-	-	-	-	1
名よりの	5	1	1	-	-	3
の〔準体〕						
名の	1	1	-	-	-	-
動の	32	3	2	-	7	20

1) 「～するの光栄」など 2) 遠慮しいしいの仰言りかた 3) …とだけは知ってゐたの「知ってゐた」を疑ふ 4) 降りみ降らずみの

	全	一	二	三	四	五
形の	9	3	-	-	1	5
連体の	1	-	1	-	-	-
動たの	28	1	2	-	5	20
形(かっ)たの	3	3	-	-	-	-
動なかったの	1	-	-	-	-	1
動ましたの	2	-	-	-	2	-
動のですの	1	-	-	-	-	1
動ないのですの	1	-	-	-	1	-
動らしいのですの	1	-	1	-	-	-
名なの	12	1	2	-	1	8
副なの	2	1	-	-	-	1
動ないの	7	1	-	-	-	6
。ではないの	1	-	-	-	-	1
名ではないの	6	-	-	-	1	5
形ではないの	1	1	-	-	-	-
名でもないの	1	-	1	-	-	-
動ぬの	1	1	-	-	-	-
名でもありませんの	1	-	-	-	-	1
動ますの	2	-	-	-	1	1
の〔並列〕						
名の	1	-	-	-	-	1
動たの	1	-	1	-	-	-
名だの	3	3	-	-	-	-
名ですの	1	-	-	-	1	-
ので						
動ので	73	12	17	15	12	17
形ので	18	1	5	3	5	4
名であるので	3	-	-	3	-	-
動たので	56	7	10	2	9	28
形(かっ)たので	5	-	3	-	1	1
名であったので	1	-	-	-	-	1
名だったので	7	3	-	-	-	4
名でしたので	1	-	-	-	1	-
動なかったので	5	1	1	-	-	3
動ましたので	3	1	-	1	-	1
名ですので	3	-	-	-	2	1
名なので	19	2	5	3	4	5
動たからなので	1	1	-	-	-	-
動ないので	15	2	1	1	4	7
名ではないので	1	-	-	-	-	1
動ませぬので	1	-	-	-	1	-
動ますので	5	-	-	-	4	1
名でございますので	1	1	-	-	-	-
のに						
動のに	21	1	5	3	5	7
形のに	2	-	-	1	-	1
動たのに	5	1	-	-	-	4
名だったのに	1	-	-	-	-	1
動なかったのに	1	-	-	-	-	1

	全	一	二	三	四	五
動ましたのに	1	-	-	-	1	-
。だのに	1	-	-	-	1	-
名なのに	11	2	-	-	3	6
動ないのに	5	-	1	1	1	2
名でないのに	1	-	-	-	1	-
形(く)もないのに	2	-	-	-	2	-
に	1	-	-	-	1	-
動ますのに	1	-	-	-	1	-
のみ						
名のみ	2	-	1	-	-	1
名たるのみ	1	-	1	-	-	-
動てのみ	1	1	-	-	-	-
名にのみ	1	-	-	1	-	-
は						
「」は	3	-	-	-	-	3
名は	5623	629	1093	936	850	2115
動(用)は	25	7	4	1	2	11
動(体)は	1	-	-	1	-	-
形(く)は	2	-	1	-	-	1
形(体)は	4	-	2	2	-	-
副は	56	7	11	11	9	18
名かは	1	-	-	-	-	1
動かは	7	1	2	3	1	-
副かは	6	1	1	1	1	2
感かは	1	-	-	1	-	-
名であるかは	1	-	1	-	-	-
動たかは	2	1	-	-	-	1
名とかは	2	-	-	1	-	1
名からは	22	1	8	3	3	7
動からは	1	-	-	-	-	1
動てからは	5	-	3	-	-	2
名こそは	2	-	1	-	1	-
動たは	2	-	1	-	-	1
名だけは	14	1	2	2	5	4
名と(並)だけは	2	2	-	-	-	-
名にだけは	1	-	1	-	-	-
動たりは	3	-	1	-	-	2
動ては	226	30	43	65	23	65
形(く)ては	4	-	-	1	-	3
名であっては	1	-	-	-	1	-
動なくては	12	1	1	3	2	5
動ないでは	1	1	-	-	-	-
名でなくては	2	-	-	-	-	2
。では	27	1	5	3	6	12
名で(助詞)は	337	32	64	91	49	101
名からで(助詞)は	1	1	-	-	-	-
名だけで(助詞)は	7	2	-	1	1	3
動だけで(助詞)は	2	1	-	-	1	-

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
名からだけで(助詞)は	1	1	-	-	-	-	動ないのは	4	-	-	1	1	2
名と(並)で(助詞)は	1	-	-	-	-	1	名だけでないのは	1	-	-	-	-	1
名などでは	2	-	-	2	-	-	名なんてのは	1	-	-	-	-	1
動のでは(助詞)は	4	1	-	1	2	-	動ぬのは	2	-	1	-	-	1
動たので(助詞)は	9	-	4	1	2	2	名のみは	1	-	-	-	-	1
名ばかりで(助詞)は	2	1	-	-	-	1	動ますのは	1	-	1	-	-	-
。(同用)は	4	-	-	-	1	3	名ばかりは	1	-	-	-	-	1
名と(同用)は	21	2	3	5	4	7	名へは	10	-	2	3	2	3
名と(格)は	48	7	9	8	4	20	名までは	23	3	2	9	6	3
名と(並)は	8	2	-	1	1	4	動までは	3	-	-	1	-	2
動(命)と(同用)は	1	-	-	-	-	1	名もは	1 ¹⁾	-	-	-	-	1
動と(同用)は	10	1	2	1	-	6	名よりは	5	-	3	-	1	1
形と(同用)は	5	-	5	-	-	-	動よりは	4	1	-	1	-	2
副と(同用)は	1	-	-	-	-	1	名であるよりは	1	1	-	-	-	-
名であるとは	1	-	-	1	-	-	名もよりは	1 ²⁾	-	-	-	-	1
動うとは	5	1	-	-	2	2	ば						
名だとは	4	-	2	1	-	1	動(未)ば	5	1	1	3	-	-
名のと(格)は	2	-	1	1	-	-	動(仮)ば	393	42	66	77	65	143
動のと(並)は	1	-	-	1	-	-	形(仮)ば	13	1	3	2	4	3
名などと(同用)は	1	1	-	-	-	-	名であれば	2	-	1	-	1	-
形などと(同用)は	1	-	1	-	-	-	なかりせば	1	-	1	-	-	-
名ばかりとは	1	-	-	1	-	-	名なりせば	1	-	-	-	-	1
名などは	36	2	7	7	10	10	動候えば	1	-	1	-	-	-
名なんかは	3	1	2	-	-	-	形(く)ってば	1	-	-	-	-	1
名には	574	73	110	121	89	181	動なければ	125	18	25	30	20	32
動(用)には	1	-	-	-	-	1	名でなければ	14	3	3	4	3	1
動には	29	2	7	11	4	5	動たのでなければ	1	-	-	-	-	1
形には	1	-	-	-	-	1	名でもなければ	2	1	1	-	-	-
動たからには	1	1	-	-	-	-	名ならば	11	6	3	-	1	1
動ずには	6	2	-	-	1	3	動ならば	7	2	-	4	1	-
名などには	1	-	-	-	-	1	副ならば	3	-	-	1	-	2
名なんかには	1	-	1	-	-	-	動うならば	1	-	-	-	-	1
動のには	2	-	1	-	1	-	名からならば	1	-	1	-	-	-
動たのには	1	-	1	-	-	-	動たならば	7	-	-	5	1	1
動なかったのには	1	-	1	-	-	-	名なれば	2	1	1	-	-	-
名までには	1	-	-	-	1	-	動なれば	2	-	1	-	-	1
動までには	1	1	-	-	-	-	動ぬば	63	8	14	22	6	13
名のは	7	-	2	1	1	3	ばかり						
動のは	185	31	34	34	31	55	名ばかり	26	1	5	1	9	10
形のは	18	3	3	2	3	7	動ばかり	1	-	-	-	-	1
連体のは	2	-	-	1	-	1	形ばかり	2	-	-	-	1	1
名であるのは	2	-	-	-	-	2	副ばかり	3	-	1	-	-	2
動たのは	81	13	16	3	10	39	動てばかり	3	1	-	-	1	1
形(かっ)たのは	2	-	-	-	1	1	名とばかり	3	-	-	-	-	3
動なかったのは	4	1	1	1	-	1	感とばかり	1	-	-	-	-	1
名なのは	12	1	1	3	2	5	動たとばかり	1	-	-	-	1	-
							名にばかり	3	1	1	-	-	1

1) いつもは 2) いつもよりは

	全	一	二	三	四	五
ばや						
動ばや	1	-	-	-	1	-
へ						
名へ	410	48	65	30	54	213
名かへ	4	-	-	-	2	2
べえ (方言)						
動べえ	2	1	1	-	-	-
名だんべえ	1	1	-	-	-	-
べし						
動べく	2	-	1	1	-	-
動べし	6	-	2	-	1	3
動べき	46	6	4	20	2	14
名であるべき	1	-	-	1	-	-
名でもあるべき	1	-	-	-	-	1
まい						
動(未)まい。	5	1	2	-	-	2
動(終)まい。	25	2	7	8	-	8
名ではあるまい。	4	1	-	-	-	3
名ばかりではあるまい。	1	-	-	-	-	1
動ますまい。	2	2	-	-	-	-
ます						
動ます。	698 ¹⁾	29	78	64	375	152
名であります。	12	3	3	-	1	5
副であります。	1	-	-	-	-	1
動のであります。	5	2	2	-	-	1
動たのであります。	1	1	-	-	-	-
名だったのであります。	1	-	-	-	1	-
名でいらっしゃいます。	2	-	-	-	2	-
形(く)ございます。	7	-	3	2	1	1
名でございます。	7	2	1	-	1	3
副でございます。	1	-	1	-	-	-
名にございます。	2	-	1	-	-	1
動のでございます。	2	2	-	-	-	-
形のでございます。	1	-	1	-	-	-
動なかったのでございます。	1	1	-	-	-	-
副なのでござります。	1	-	-	-	-	1
動ないのでございます。	1	-	-	-	-	1
動ます(体)	3	1	-	-	-	2
動ませ	6 ²⁾	-	3	1	-	2
まで						
名まで	237	23	38	35	48	93

	全	一	二	三	四	五
動まで	30	4	3	3	6	14
形まで	2	1	-	-	-	1
動たまで	1	1	-	-	-	-
動てまで	2	-	1	-	-	1
「 」とまで	1	-	-	-	-	1
名と(引用)まで	1	-	-	-	-	1
動とまで	1	-	-	-	-	1
名にまで	17	4	5	3	2	3
み						
動み	1 ³⁾	-	-	-	-	1
も						
名も	1527	178	314	222	219	594
動(用)も	6	1	-	1	-	4
動(体)も	2	-	2	-	-	-
形(く)も	16	2	5	3	-	6
形も	1 ⁴⁾	-	1	-	-	-
副も	37	2	3	1	5	26
名かも	11	1	2	1	-	7
動かも	37	1	8	7	6	15
形かも	3	-	-	1	1	1
副かも	2	-	-	1	-	1
名であるかも	1	-	1	-	-	-
動べきであるかも	1	-	-	-	-	1
動たからかも	1	-	-	-	1	-
名だったからかも	1	1	-	-	-	-
動たかも	8	-	1	2	1	4
形(か)たかも	2	1	1	-	-	-
名であったかも	2	-	-	-	1	1
動なかったかも	1	-	-	-	-	1
名だけかも	2	1	-	-	-	1
動ないかも	2	-	1	-	1	-
名ではないかも	1	-	-	1	-	-
動のかも	3	1	1	-	-	1
動たのかも	5	2	-	-	-	3
形(か)たのかも	1	-	1	-	-	-
名なのかも	2	1	1	-	-	-
名からも	19	-	2	6	2	9
動てからも	3	-	-	-	2	1
名さえも	2	1	-	-	-	1
名にさえも	2	1	-	-	-	1
名すらも	2	-	-	-	2	-
動ずも	1 ⁵⁾	-	-	-	-	1
動ないだっても	1	1	-	-	-	-
動たりも	1	-	-	-	1	-
動つつも	1	-	-	1	-	-
動ても	39	9	6	11	3	10
。(助詞)も	41	2	6	-	14	19

1) 「まする」を含む 2) 「まし」を含む 3) 降りみ降らずみの 4) うまいも下手もない 5) 思わずも

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
名で(助動詞)も	1	-	-	-	-	1	名へも	6	1	-	-	2	3
名で(助詞)も	92	14	18	26	10	24	名までも	16	2	3	2	1	8
名だけでも	3	-	-	1	1	1	動までも	12	3	2	1	1	5
動だけでも	2	-	-	-	1	1	形までも	1	-	1	-	-	-
動ただけでも	2	-	1	1	-	-	動ないまでも	1	-	-	-	1	-
名などでも	1	-	-	-	1	-	名よりも	50	5	17	6	12	10
「」とも	4	3	1	-	-	-	動よりも	10	2	3	1	2	2
名と(格)も	6	2	-	2	2	-	名をも	10	-	2	3	4	1
名と(引用)も	25	5	3	2	3	12	動かをも	1	-	1	-	-	-
動と(引用)も	7	1	4	-	-	2	や[並列]						
形とも	4	-	-	1	1	2	名や	334	54	64	49	88	79
副とも	1	-	-	1	-	-	副や	2	-	2	-	-	-
動らと(引用)も	1	-	-	-	-	1	や[接続]						
動ないのではな	1	-	-	-	-	1	動や	4	-	-	-	1	3
いかと(引用)も	1	-	-	-	-	1	や[断定]						
動たと(引用)も	1	-	-	-	-	1	名や	17	-	4	-	5	8
動なかつたと	1	-	-	-	-	1	副や	1	-	1	-	-	-
(引用)も	1	-	-	-	-	1	動のや	2	-	1	-	-	1
名だと(引用)も	1	-	-	-	-	1	動たのや	1	-	-	-	-	1
動のだと(引用)も	1	-	-	-	1	-	動ないのや	1	-	-	-	-	1
動てと(引用)も	1	1	-	-	-	-	動ぬのや	1	-	1	-	-	-
動なと(引用)も	1	-	-	-	-	1	やら[疑問]						
動ないと(引用)も	1	-	-	-	-	1	名やら	6	-	3	-	-	3
動ぬと(引用)も	1	-	1	-	-	-	副やら	12	-	-	2	-	10
動ろと(引用)も	1	-	-	-	-	1	名とやら	1	-	-	-	-	1
動とかも	1 ¹⁾	-	-	1	-	-	やら[並列]						
動ないも	1	-	-	1	-	-	名やら	7	1	-	1	-	5
名ながらも	1	-	-	-	-	1	よ						
動ながらも	12	4	1	1	-	6	動(命)よ	15 ²⁾	3	5	4	1	2
名なども	12	2	3	1	2	4	より						
動なども	1	-	-	1	-	-	「」より	1	-	-	-	1	-
名なんかも	3	-	1	-	1	1	名より	89	11	12	13	20	33
。にも	1	-	-	-	-	1	動より	16	3	4	4	3	2
名にも	252	42	53	22	46	89	動たより	1	-	-	-	-	1
動にも	4	1	1	1	-	1	名のより	1	-	-	-	-	1
副にも	33	3	2	6	8	14	名もより	2 ³⁾	-	-	-	-	2
連体にも	2	-	-	-	1	1	よりか						
名であるにも	1	-	1	-	-	-	名よりか	1	-	-	-	-	1
動うにも	1	-	-	-	-	1	らしい						
名であったにも	1	1	-	-	-	-	名らしく	1	-	-	-	-	1
名などにも	2	-	-	-	1	1	動らしく	1	-	-	-	1	-
名なんかにも	1	-	-	-	-	1	形らしく	1	-	1	-	-	-
動たのにも	2	-	1	-	-	1	動たらしく	6	-	2	-	2	2
名までも	1	-	-	-	1	-	名だたらしく	1	-	-	-	1	-
名のも	1	-	-	-	1	-	名らしい。	15	3	4	-	-	8
動のも	42	3	6	4	7	22	動らしい。	8	1	2	-	3	2
形のも	2	1	-	-	-	1	形らしい。	2	1	-	-	1	-
動たのも	12	1	2	3	1	5							
名なのも	1	-	1	-	-	-							

1) そのほかに養生とか過度の房事を慎しむとかもある 2) 「せよ」「出でよ」など 3) いつもより

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
名であるらしい。	3	-	1	-	1	1	名なりを	2	-	1	1	-	-
動たらしい。	11	1	4	3	-	3	名なり(並)を	2	-	-	-	1	1
形(かっ)たらしい。	1	-	-	1	-	-	「」のを	1	1	-	-	-	-
名だったらしい。	2	-	1	-	-	1	名のを	1	-	-	-	-	1
副でもないらしい。	1	-	1	-	-	-	動のを	49	7	10	6	8	18
名らしい(体)	9	-	2	1	-	6	形のを	3	-	-	2	-	1
動たらしい(体)	1	-	-	-	-	1	動たのを	15	1	3	1	3	7
動たばかりらしい(体)	1	1	-	-	-	-	名なのを	2	1	-	-	1	-
らむ(文語)							動ないのを	3	-	2	-	-	1
動らむ(体)	1	1	-	-	-	-	動ぬのを	1	-	-	-	-	1
り							名のみを	4	1	1	2	-	-
動り	2	-	2	-	-	-	名ばかりを	3	1	1	1	-	-
動る	47	11	12	14	3	7	動べきを	1	-	1	-	-	-
ろ							名までを	3	-	1	-	1	1
動(命)ろ	44 ¹⁾	7	6	2	3	26	まば						
を							名をば	3	-	-	1	-	2
「」を	5	1	1	-	-	3	ん(否定)「ぬ」を 含む)						
名を	7052	723	1304	1120	1514	2391	動ん。	81	9	21	12	5	34
動を	8	1	2	2	-	3	動ません。	122	8	20	6	37	51
形を	4 ²⁾	1	1	1	1	-	形(く)ありませ ん。	4	-	-	1	2	1
感を	2 ³⁾	-	1	1	-	-	形(く)はありま せん。	1	-	-	-	1	-
名かを	10	1	1	-	1	7	名ではありませ ん。	16	2	3	2	6	3
動かを	6	-	-	3	1	2	形のではありま せん。	1	-	-	1	-	-
形かを	2	-	1	-	-	1	名などではあり ません。	1	-	-	-	1	-
副かを	1	1	-	-	-	-	動たのではあり ません。	1	-	-	-	-	1
名であるかを	1	-	-	1	-	-	名でもありませ ん。	1	1	-	-	-	-
動たかを	4	1	1	1	-	1	動べくもありま せん。	1	-	-	-	-	1
動べきかを	1	-	1	-	-	-	形(く)ございま せん。	1	-	-	-	-	1
動ざるを	8	1	4	2	-	1	接ではございま せん。	1 ⁴⁾	-	-	-	-	1
動しを	1	-	1	-	-	-	あらん(体)	1 ⁵⁾	-	-	-	-	1
名だけを	16	2	3	3	2	6	動ん(体)	88	17	16	9	10	36
動のだけを	1	1	-	-	-	-	形(から)ん(体)	4	1	2	-	-	1
名でもを	1	-	-	-	-	1	名ならん(体)	5	1	-	1	-	3
名と(並)を	17	6	6	1	3	1							
名とかを	2	1	-	-	-	1							
名だとかを	1	-	1	-	-	-							
名などを	25	-	5	10	6	4							

1) 「しろ」「見ろ」など 2) 歩みいし心恋しきを夢にみており など 3) 形代にさらばさらばをする見かな など 4) しかしではございません 5) あらぬ方をみづめ

以上は文節形をうしろの方から見たものであるが、逆に前から見て、動詞・形容詞・名詞・副詞の直後にどのような助詞・助動詞がついているかをまとめると、次のような表になる。(終助詞などはふいた点は、P.91に同じ)

表 3.1 自立語から助詞・助動詞への接続

	全	一	二	三	四	五		全	一	二	三	四	五
動詞	20970	2480	3887	2909	3674	8020	だけ	52	4	12	6	11	19
未然形(1)	2000	266	398	350	271	715	です	39	6	4	4	11	14
ず、ざる	215	28	38	29	34	86	と(格)	16	-	3	7	1	5
ない	1480	191	294	264	209	522	と(接)	571	60	101	79	85	246
ぬ(否定)	294	45	63	55	27	104	とか	12	-	1	5	5	1
ば	5	1	1	2	-	1	とて	1	-	1	-	-	-
ばや	1	-	-	-	1	-	とは	1	-	-	-	-	1
まい	5	1	2	-	-	2	な(助動)	29	4	4	7	1	13
未然形(2)	245	41	74	61	57	112	な(禁止)	24	4	5	-	2	13
う	245	41	74	61	57	112	など	5	-	2	2	-	1
連用形(1)	1777	164	248	146	667	545	なり(接)	3	-	-	-	-	3
き	32	14	6	-	4	8	なり(並)	4	-	-	2	-	2
きり	1	-	-	-	-	1	なんて	10	1	2	-	2	5
けり	1	-	-	-	1	-	なんと	1	-	-	-	-	1
そうろう	5	-	5	-	-	-	に(格)	99	13	24	27	13	22
つ	3	-	-	-	-	3	に(接)	11	2	2	4	-	3
つつ	38	10	3	8	5	12	の	999	141	178	139	173	368
でも	1	-	-	-	-	1	ので	73	12	17	15	12	17
な(命令)	5	-	-	-	-	5	のに	21	1	5	3	5	7
ながら	173	22	27	6	31	87	のみ	3	1	-	1	-	1
に	41	6	7	-	6	22	は	1	-	-	1	-	-
ぬ(完了)	2	1	1	-	-	-	ばかり	9	1	3	1	-	4
の(格)	1	-	-	-	-	1	べえ	2	1	1	-	-	-
は	25	7	4	1	2	11	べし	110	9	24	38	6	33
ます	1435	103	195	130	618	389	まい	26	3	7	8	-	8
み	1	-	-	-	-	1	まで	60	9	5	8	12	26
も	6	1	-	1	-	4	も	2	-	2	-	-	-
連用形(2)	13638	1621	2578	1759	2205	5475	や(方言)	1	-	-	-	-	1
た	5434	642	1043	551	699	2499	や(接)	4	-	-	-	1	3
たって	14	3	1	-	2	8	より	30	6	7	6	5	6
たり(列並)	144	25	22	17	46	34	らしい	18	3	4	-	5	6
て	7701	911	1450	1116	1401	2823	らむ	1	1	-	-	-	-
ても	345	40	62	75	57	111	を	8	1	2	2	-	3
終止連体形	2815	344	512	525	415	1019	假定形(1)	407	43	70	77	70	147
か	120	20	19	29	18	34	ど	12	1	4	-	5	2
が(格)	11	-	2	3	2	4	ば	395	42	66	77	65	145
が(接)	155	10	31	57	9	48	假定形(2)	49	11	14	14	3	7
から(接)	119	11	16	32	19	41	り	49	11	14	14	3	7
けれど	21	3	3	1	5	9	命令形	66	10	12	6	4	34
けん(方言)	1	-	-	-	-	1	い	5	-	1	-	-	4
さえ	6	-	2	-	1	3	よ	15	3	5	4	1	2
し(接)	38	5	6	11	5	11	ろ	46	7	6	2	3	28
しか	1	-	-	-	1	-	形容詞	785	100	164	109	114	298
だ	97	12	17	27	5	36	未然形(1)	8	1	3	-	1	3

	全	一	二	三	四	五
ず, ざる	4	-	1	-	1	2
ぬ	4	1	2	-	-	1
未然形(2)	13	-	4	2	-	7
う	13	-	4	2	-	7
連用形(1)	171	16	29	29	29	68
ある	5	-	-	1	2	2
ござる	12	-	3	3	1	5
こそ	1	-	1	-	-	-
さえ	1	1	-	-	-	-
て	48	3	6	6	13	20
ても	10	1	2	3	1	3
とも	8	1	1	3	1	2
ない	53	6	8	9	3	27
の(格)	1	-	-	-	-	1
は	12	1	2	1	6	2
も	20	3	6	3	2	6
連用形(2)	141	24	28	14	14	61
た	139	24	27	14	13	61
たり	2	-	1	-	1	-
連用形(3)	1	-	1	-	-	-
せ(ば)	1	-	1	-	-	-
終止連体形	458	59	100	65	70	164
か	22	2	4	4	4	8
が(格)	1	1	-	-	-	-
から(接)	88	7	23	17	3	38
けれど	6	1	2	-	-	3
し	28	3	3	3	4	15
だ	29	5	9	5	3	7
だけ	2	1	-	-	-	1
だす	1	-	1	-	-	-
です	49	4	4	6	19	16
と(接)	3	1	1	-	-	1
とか	1	-	-	-	1	-
とは	1	-	-	-	-	1
など	1	-	1	-	-	-
なんて	1	1	-	-	-	-
に(格)	8	2	2	-	-	4
の(格)	1	-	-	-	-	1
の(準体)	174	26	38	22	28	60
ので	18	1	5	3	5	4
のに	2	-	-	1	-	1
は	4	-	2	2	-	-
ばかり	4	1	-	-	1	2
まで	3	1	1	-	-	1
も	1	-	1	-	-	-
や(方言)	2	-	1	-	-	1
らしい	4	1	1	1	1	-
を	4	1	1	1	1	-
連体形	1	-	-	1	-	-
べし	1	-	-	1	-	-

	全	一	二	三	四	五
仮定形	13	1	3	2	4	3
ば	13	1	3	2	4	3
名詞	52037	6029	9769	8571	9319	18349
格助詞	36847	4227	6816	6122	6850	12832
が	4634	559	862	834	626	1753
から	1044	105	190	173	201	375
さ	4	-	4	-	-	-
で	2176	217	368	359	439	793
と	519	49	103	89	102	176
に	9202	1094	1681	1586	1796	3045
にて	14	1	-	1	6	6
の	11555	1404	2179	1896	2069	4007
へ	483	58	89	41	60	235
より	150	17	34	19	33	47
よりか	1	-	-	-	-	1
を	7062	723	1306	1123	1518	2392
をば	3	-	-	1	-	2
準体助詞	16	1	4	3	3	5
の	16	1	4	3	3	5
並列助詞	1135	165	198	195	280	297
と	714	97	122	128	171	196
とか	56	12	8	14	13	9
なり	10	-	-	2	4	4
に	10	-	4	-	4	2
の	1	-	-	-	-	1
や	336	55	64	50	88	79
やら	8	1	-	1	-	6
副助詞	1251	129	239	204	254	425
か	273	31	47	36	47	112
きり	5	-	-	-	-	5
だけ	217	24	42	36	42	73
など	294	27	57	60	78	72
なんか	30	4	8	-	6	12
のみ	16	2	4	6	1	3
ばかり	73	7	18	5	15	28
まで	343	34	63	61	65	120
係助詞	7558	854	1488	1201	1132	2883
こそ	23	2	5	2	6	8
さえ	36	5	5	4	4	18
し	3	1	-	-	-	2
しか	19	2	6	4	-	7
しも	3	-	1	-	-	2
すら	9	2	-	3	2	2
だって	31	8	4	2	6	11
たら	2	-	-	-	-	2
って	1	-	-	-	-	1
でも	208	23	48	20	36	81
とて	4	1	-	-	1	2
とは	23	1	7	3	1	11
なんて	19	2	1	-	3	13

	全	一	二	三	四	五
は	5628	629	1095	937	850	2117
も	1549	178	316	226	223	606
接続助詞	17	1	5	3	2	6
ながら	17	1	5	3	2	6
助動詞	5213	652	1019	843	798	1901
じゃ	19	3	2	1	-	13
だ	2970	372	584	553	343	1118
たり	21	3	5	3	-	10
です	605	38	98	63	184	222
どす	1	-	-	-	-	1
な	1541	232	317	221	266	505
や	21	-	6	-	5	10
らしい	35	4	7	2	-	22
副詞	368	36	57	49	58	168
格助詞	110	8	15	18	22	47
が	3	1	-	-	-	2
から	5	-	1	-	-	4
と	3	-	-	1	-	2
に	40	3	3	7	11	16
の	95	4	11	10	11	23
並列助詞	2	-	2	-	-	-

	全	一	二	三	四	五
や	2	-	2	-	-	-
副助詞	28	3	3	6	1	15
か	13	3	2	4	1	3
ばかり	3	-	1	-	-	2
やら	12	-	-	2	-	10
係助詞	109	11	16	16	15	51
しも	13	1	1	4	1	6
でも	1	-	1	-	-	-
は	57	8	11	11	9	18
も	38	2	3	1	5	27
接続助詞	2	-	-	-	-	2
て	1	-	-	-	-	1
ながら	1	-	-	-	-	1
助動詞	117	14	21	9	20	53
ある	1	-	-	-	1	-
じゃ	2	-	1	-	-	1
だ	55	8	11	6	6	24
です	45	4	8	2	12	19
な	13	2	-	1	1	9
や	1	-	1	-	-	-

3.2 助詞・助動詞における類義表現の分析

助詞・助動詞に関しては、分析の重点を類義・同義表現(以下両者を区別せず「類義表現」とよぶ)におくことにした。その理由は、類義表現の差がしばしば「これこれの条件のもとではAがBよりも多く使われる」といった、使用度数の違いを問題とする形であられるので、有意差の検定など、統計的に処理することが可能な今回の調査の際に調べるのが有利だからである。

分析にあたっては、個人差をとめないやすい、語感のこまかいちがいをはさけて、なるべく客観的な条件のちがいをあきらかにするようにつとめた。

なお、差がみとめられるとか、AよりもBの方が多いかという表現は、すべて調査対象である昭和31年の雑誌90種の本文全体の用語法に関するものである。ここから「すべて書きことばでは」とか「およそ現代日本語では」とか拡張することは必ずしも妥当でない。

以下の記述で χ^2 の値に*,**などがついているものがあるが、*は5%、**は1%、***は0.1%の危険率でそれぞれ有意差があることを示すものである。なお、 ν (自由度)は特にことわらないかぎりいずれも1である。

(1) 主格の表現……「が」「の」「は」

格助詞「が」「の」、係助詞「は」は、どれもいわゆる主語についてもちいられる。ここではその使われ方を形式的、客観的におさえられる面からしらべることにする。ここにいう「主語」には、いわゆる「対象語」をふくむ。数が多いので、大体三分の一の量にあたる分についてしらべた。

このうち、主語をうけることばが略されているもの、および文脈がもつれたものははぶく。

〔下略の例〕

○パチパチやっている檀氏に、木村氏が、「よく撮りますね。何枚目？」

「いま五十八枚ですよ」(文芸春秋 7月 221)

○籠中に殖えて落穂のいきいきと(主婦と生活 12月 378, 俳句)

○大宅 学習院の金銭関係は？

藤島 最近ハッキリしてきました(週刊東京 5月5日 4)

〔文脈のもつれた例〕

○時代劇だとたいてい男が主役で女の役はおつきあいみたいになっちゃうでしょう。

それが、現代劇では、女が主役の場合がずいぶんあるでしょう(明星 5月 284)

○私は新興宗教は大衆がやはり信仰を求めている証拠であり、指導の如何によって着々立派な教団に発展変化するものと思われる(大法輪 3月 46)

「が」「の」については、主格かどうか迷うものはすくないが、「は」の方には大分問題がある。特に「AはBが～」という型の文のAを主語とするかどうかむずかしい。これはつまり「Bが～」という部分が全体としてAの動作なり属性なりと見られるかどうかによるわけである。たびたび議論のまよになるところであるから、ここですこし多くの例をあげておく。

主格としたものの例(〔 〕の中は、BがAの何にあたるかを示す。)

〔感情・能力の対象〕

○私は以来ジェイムス・スチュワートが好きです(スタイル 4月 100)

- 日田市は血山の小鹿田焼が自慢である(旅 10月 90)
- 私は早く男の子がほしいんですが(娯楽よみり 1月6日 35)
- 僕はお世辞が下手なんで(別冊小説新潮 4月 31)
- ある卒業生はきわめて英語が堪能で(キング 11月 68)
- 街の真黄色くなった安天ぷらなどは、天ぷらの仲間入りができない(キング 10月付録 103)

〔部 分〕

- 一瞬、おとせは足がすくんでしまった(面白倶楽部 8月 382)
- 今までの日本の文学者は、それだけで頭がいっぱいになり(群像 7月 222)
- 秋水はからだ弱くて(新潮 8月 91)
- 装苑は広告が多い(装苑 10月 226)
- その内容は、西洋医学的な分析が全然ないが(大法輪 9月 89)

〔もちもの〕

- お勤めしている方は一カ月の間に三日か四日の休暇があるでしょう(婦人倶楽部 11月 406)

〔経験など〕

- 湯ぶねにつかって私は、あゝいまが私の時間だとつくづく思うことがあります(キング 12月 236)
- 彼は小学校だけの学歴しかなかったが(傑作倶楽部 8月 216)
- 一年一っぱいのうち秋となっても金ごころの湧かない人は金の方に心や気持を向けるときがないわけで(小説倶楽部 10月 296)
- こういう仕事を習い覚えたいと、ハッキリしている人は就職の機会が多い(人生手帖 7月 109)

〔動 作〕

- 羊助は、朝のうちに〔絵の〕最後の仕上がすんで(小説倶楽部 2月 178)

〔心的状態〕

- うつしてきた記者は「大丈夫」と大いに自信がある(娯楽よみり 9月21日 17)
- わたしはこれでもね、芸術にはとても理解があるんでね(小説春秋 12月 82)
- ヴェルデは、それと同じものを、ここから百五十マイル離れたパレンケーの遺跡で見た覚えがあった(オール読物 1月 300)

〔性 質〕

- そういう双子は性格もピタッと同じです(週刊読売 1月29日 35)
- 一般に用いられている殺菌剤はいずれもほとんど浸透性がない(農耕と園芸 5月 58)
- 第一次から第三次までの近衛内閣は、東条内閣をのぞいて、最もファッション的な色彩が強かった(知性 10月 222)
- 増淵五段なんかは、そういう力戦型の傾向はありませんからね(週刊サンケイ 9月2日 61)
- 無双窓は開閉出来る利点があります(婦人生活 11月 105)
- 工作機械は従来需要が少なかった(東洋経済新報 3月31日 116)
- 警察法は警察の民主化と地方分権を実行したことに画期的意味がある(ジュリスト 2月15日 48)

〔Aに対する作用〕

- 新型製品は、四月末から、生産が軌道に乗る(ダイヤモンド 4月14日 86)
- 汗ばむ季節に着る物は一週一回の手入が必要です(主婦と生活 10月付録 68)

〔関 係〕

- 前期、前々期の赤字はこの辺に原因があったのである(東洋経済新報 3月31日 116)
- 四十代は特に、健康に気をつける必要がある(実業の日本 7月1日 55)

〔同種のもの〕

- マリモの海外進出はこれがはじめて(週刊読究 3月25日 14)
- 色は白, ピンク, サックスブルー, パープル, クリーム, 黒があります(スタイル 7月 43)
- 町づくりのウマさは他に類がない(東洋経済新報 11月17日 73)

1. 主語の種類

疑問をあらわすことばの下には「が」「の」だけがあらわれ、「は」は使われない。(「の」の例は標本に出てこなかった。)

○誰が踊ってもよく引きたち, ご招待したお見合先の採点がうんと上るらしい(婦人画報 10月 168)
○どっちが, どっちをいったかというので話題になっているが(サンデー毎日 7月8日 53)
これは, 疑問をあらわすことばが助詞の直前にこずくに連体修飾語の中に含まれているばあいも同様である。

○いまにどんなことが起るか, 私にはよく判ってるの(中央公論 10月 339)
○どんな機会があって, お知り合いになったんでしょ(若い女性 11月 175)
ただし, 「だれ」「なに」などが「ある人」「あるもの」の意味でもちいられ, 疑問をあらわしていいときには, 「は」もつくことができる。つぎにあげるのは「だれそれ」だから, 適当な例ではないが, これを「だれ」とおきかえてもいいはずである。

○昔から歌人といふものは無類のゴシップ好きであるらしく, 誰それは何処の会社のどういふポストにあるとか, 誰その先祖はもう一人の違ふ誰その先祖と同一人であるから両者は一種の遠縁に当るわけだとか, はては誰それは仲間はずれにされるのが恐ろしさに結社の基金として月々何万円を供出する約束を皆の前でしたとかしないとか——全くはてしない楽屋囃の展示会ぶりなのである(短歌 3月 140)

また, 「～はいい(さしつかえない, かまわない, 飲める……)」のように, 「～なら許されている」という意味のばあいにも, 疑問詞に「は」がつく。(実例はなかった。)
疑問詞(をふくむことば)に「が」がついた14例は, 以下の分析からはぶく。

2. 述語の用法(その1)

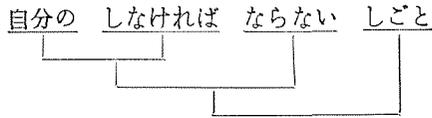
雨の降る日
とはいえるが
雨の降る。

と言い切りにすることはできない。つまり, 「～の」という形が主語をあらわせるかどうかは, これをうけることば(以下便宜上<述語>とよぶ)の性質でまざる。

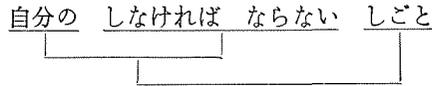
上にのべたことをもっと精密にし, うけることができるものの範囲を限定するためには, 述語の単位を考える必要がある。たとえば「～ば」は「～の」をうけることができないが,

自分のしなければならぬしごと
とはいえる。そして,

自分のしなければならぬ。
とはいえない。したがって, ここでは「しなければならぬ」という2文節をいわば一つの複合述語とみて, 全体で「自分の」をうけるものとすべきである。図で示すと,



ではなくて、



である。また

雨は 降った はずだ。

といえても

雨の 降った はずだ。

とはいえない。だから、「降ったはず」を「降った日」と同様に考えることはできない。「降ったらしい」などと同じに「降ったはずだ」全体を一つの述語とした方がよい。

今、「は」や「の」の用法を問題にしようとしているときに、その「は」や「の」自身を複合述語認定の基準に使うのは循環論法であるが、ほかに適当な基準がないのでやむをえない。

複合述語にはつぎのようなものがある。

～ている(ある, いく, くる, しまる, やる……) ～うとする

お～になる

～である ～かもしれない ～にちがいない ～にすぎない ～はずだ ～わけだ ～のだ
～ものだ(過去の習慣)

～てよい ～なければならぬ ～なくてははいけない

(参照, 国研報告 23『話しことばの文型(2)』1963, p. 72)

なお、「～ようだ」は推量の意味のときは複合述語であり, 比況・例示の意味のときはそうでない。標本の範囲で, 前者はほとんどが終止, 後者はほとんどが連用または連体である。

○女房は女を望んでいるようです(娯楽よみりり 1月6日 35)

○御自分でも気のつかれているように, あなたは仕事をして働きたくて働きたくてしかたのない方です(面白倶楽部 11月 430)

一つの主語が意味的に見て二つ以上の述語に同時にかかっているように見えるばあいは, もっとも近い述語だけにかかるものと考えた。(p. 174 参照)

述語の用法別にみた「が」「の」「は」の使用度数は, [1.1]のとおりである。

[1.1]			が	の	は
終	止	法	728	1	1055
条	件	法	230	1	219
中	止	法	255	-	315
連	体	法	293	180	22
体	言	的用法	25	1	3
計			1531	183	1614

〔終止法〕 ここには終止形, 命令形でおわっているもの, これに終助詞のついたものを含める。なお, 体言どめのものも(中止的に見えるばあいにも)ここへ入れる。

○内沼君の家は農業, 彼は父母と三人暮らし(週刊読売 5月20日 7)

○数千のペンギン鳥がイギリス南極探検隊の設営した基地に反攻を開始, 非武装の設営隊員に対して肉迫攻撃を加え(週刊読売 7月8日 73)

「の」の1例は俳句の中のものである。

○家売れぬまま青梅の落ちつづく(俳句 9月 179)

なお、引用の「と」はすべて文をうけるものと見なしたが、標本の範囲外で次のような例があったことからみて、形式化した「という」までがつねに完結した文をうけると考えることには問題がありそうである。

○愛染かつらの樹のあるという愛染堂を探してスタッフの行脚が続いた(娯楽よみうり 11月16日 70)
 [条件法] ここには「て」以外の接続助詞のついた形そのほか、二、三これに準ずるばあいを入れた。「～ては」「～ても」をふくむ。「が」「けれど」などの終助詞化したものも特に区別しない。接続助詞別に見た内わけは〔1.2〕のとおりである。

[1.2]	が	の	は	「の」の1例は短歌の中に出て来たものである。
が	49	-	131	ある。
か	29	-	30	○たまさかに吾の笑へば嬉しげにみとれる母も寄り来て笑ふ(婦人公論 12月 280)
け	2	-	14	
れ	-	-	2	
ども	11	-	12	「が」と「は」をくらべると、「たら」「と」「なら」「ば」などのばあいに「が」が、「が」「けれども」のばあいに「は」が多い。前者についてはむしろ原則的に「は」は使われない
し	2	-	1	といいていいかもしれない。「は」のばあいの「ば」の例は次の二つである。
だ	1	-	-	○やはりはじめての旅行は立派なものでなければ
た	23	-	-	などという言葉に(婦人生活 10月 402)
た	1	-	-	○新しいカブキは、やはり現代の若い観客層にも
た	2	-	-	アピールするような演技なり、作品をつくり
て	13	-	4	出していかなければ、と思うのです(娯楽よみうり 4月20日 26)
て	29	-	3	
と	1	-	-	
と	11	-	-	
な	29	-	16	
の	4	-	3	
の	23	1	2	
ば	-	-	1	
も				
の				
を				
計	230	1	219	

これらは、「～なければならぬ」という

複合述語の省略形とみれば、ほかの条件形とちがう。また、「と」の例は次の三つである。

○先生は柳さんをいきなり驚かしたことを後悔しながら、岡さんのフレームまでゆくと、フリージャは、岡さん御自慢だけあって…(明星 6月 258)

○パッと家光は起つと、あとも振り向かず奥へ駆け込んだ(週刊新潮 9月10日 42)

○やはり社長たるものは…ような人物でないとながついてはこない(実業の日本 11月1日 52)

上の第1例は「が」の方が自然であろう。(なお「～が」「～と」にかかるとき、「と」以下ではかならず主体がかわる。)

[中止法] ここには連用形の中止法と、接続助詞「～て」のついた形を入れた。中止法自身は「が」「の」「は」の選択についていわば中性的であって、あとにくる述語が終止・条件・連体などのどれであるかが決定権をもつ。

○声が顎えて中途から覆れてしまった。(小説と読物 3月 340)

の「が」「は」で置きかえることができるが、

○十も違う叔父さんが十四か五の甥のところへ来て「ひとつ頼む」などと片手を出す風景はみものである
(小説の泉 1月 104)

の「が」は「は」にならない。「嘎れてしまった」が終止なのに対して「出す」が連体だからである。

今、中止法のあとにくる述語の用法によって、中止法の中をわけると、[1.3] のとおりである。[1.3]のなかの、条件法の内わけは[1.4]のとおり。

[1.3]	が	は	[1.4]	が	は
終止法	169	271	が	10	22
条件法	25	36	から	2	3
連体法	56	3	けれど	1	-
体言的用法	1	-	し	3	4
(中止どめ)	4	5	たって	1	-
計	255	315	たら	2	-
			と	1	2
			なら	1	-
			ので	2	5
			ば	2	-

〔連体法〕 「は」の例にはつぎのようなものがある。

○この小さな村は昔から子供の教育に大きな
関心をよせていたことが解る(科学朝日 2月 7)

○工場で私の扱っている機械は操作が複雑なため工作中誤って右人差指を切断してしまい(知性 5月 283)

〔体言的用法〕 述語のつぎに格助詞などのついたつぎのような例である。

○対局は七月下旬の予定(面白倶楽部 9月 293)

○勤続年数がふえるにつれて(文芸春秋 10月 98)

○今後の動きが注目されているにも拘らず(科学朝日 3月 30)

○戦争が終ってから(主婦と生活 8月 270)

○彼らがいま何を考えているかはおよそ見当がつく(科学読売 11月 77)

○今度の労働攻勢は、その点でどの位、この大衆の「感じ」を利用しているかが問題だと思う(知性 4月 28)

なお、つぎのような挿入は終止法と見た。

○栄養素がどの位含まれているか、病人食、乳児食などは正確に計るため計量が絶対に必要です(婦人生活 2月付録 101)

3. 述語の品詞

ここでは品詞を動詞・形容詞・形容動詞・名詞・雑にわけると。

雑というのは「どうだい」「……についてである」「…してからである」など、臨時に体言的に使われたものである。動詞については、「書く」「書いた」「書くだろう」などのほかに、これらに「のだ」「にちがいない」などのついた形(「書くのだ」「書くようだ」「書くはずだ」「書くにちがいない」「書いてよい」など)もこれに準ずるものとする。名詞や形容詞などにしても同様である。

下の[1.5]の中で()の外の数字はそれらの準動詞などを加えないもの、()の内のはこれを合計したものである。

「が」のばあいを基準にしていうと、「の」では形容詞が多く名詞が少ないこと、「は」では名詞

[1.5]

		動	形	が 形動	名	雑	動	形	の 形動	名	雑
終	止	429 (520)	73 (87)	36 (38)	77 (80)	2 (3)	1 (1)	-	-	-	-
条	件	173 (184)	23 (25)	6 (6)	13 (14)	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-
中	止	208 (209)	19 (20)	10 (11)	14 (15)	-	-	-	-	-	-
連	体	254 (265)	17 (18)	4 (4)	6 (6)	-	119 (119)	54 (55)	6 (6)	-	-
体言的用法		21 (21)	-	-	4 (4)	-	1 (1)	-	-	-	-
計		1085 (1199)	132 (150)	56 (59)	114 (119)	3 (4)	122 (122)	54 (55)	6 (6)	-	-

		動	形	は 形動	名	雑
終	止	504 (596)	78 (88)	44 (49)	286 (308)	14 (14)
条	件	106 (124)	21 (26)	18 (19)	45 (50)	-
中	止	210 (215)	12 (15)	8 (9)	74 (74)	2 (2)
連	体	15 (16)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	-
体言的用法		1 (1)	-	-	2 (2)	-
計		836 (952)	113 (131)	72 (79)	409 (436)	16 (16)

が多いことがきわだっている。逆にみれば、名詞文の主語は「は」で表わされることが多いといえる。動詞文の主語に「が」がやや多いのは、連体法に動詞が多く名詞が少ないためである。今、「が」と「は」の条件をそろえるために、終止法・条件法の一部(「は」のつきにくい「たら」「たり」「と」「なら」「ば」のばあいを

のぞく)・中止法の一部(つきにくる述語が連体法や「～たら」などの形のばあいをのぞく)だけについてみると、[1.6]のとおりである。

[1.6]

		動	形	が 形動	名	雑	動	形	は 形動	名	雑
終	止	429 (520)	73 (87)	36 (38)	77 (80)	2 (3)	504 (596)	78 (88)	44 (49)	286 (308)	14 (14)
条	件	95 (107)	19 (20)	6 (6)	7 (8)	1 (11)	103 (121)	21 (26)	18 (19)	43 (48)	-
中	止	151 (152)	15 (16)	8 (9)	14 (15)	-	205 (210)	12 (15)	8 (9)	74 (74)	2 (2)
計		675 (779)	107 (123)	50 (53)	98 (103)	3 (4)	812 (927)	111 (129)	70 (77)	403 (430)	16 (16)

すなわち、ほかの条件がひとしければ、動詞文でも主語には「は」が多くついているのである。「が」779「は」927について検定すると、 $\chi^2 = 12.84^{***}$, ν (自由度) = 1 で、危険率 0.1% で有意差がみとめられる。

4. 述語の用法(その2)

述語を肯定形と否定形とにわけてしらべてみると、[1.7]のとおりである。ただし、否定形には助動詞「ず」「ぬ(ん)」「ない」のついたものおよび形容詞「ない」を、肯定形にはそれ以外のものを入れた。なお、「書かなければならない(いけない)」は肯定形に、「書いてはならない(いけ

ない)は否定形にかぞえた。

[1.7]	が		の		は	
	肯	否	肯	否	肯	否
動 詞	1011 (1118)	74 (81)	111 (111)	11 (11)	730 (829)	106 (123)
形 容 詞	91 (106)	41 (44)	39 (40)	15 (15)	55 (65)	58 (66)
形 容 動 詞	55 (58)	1 (1)	6 (6)	-	67 (73)	5 (6)
名 詞	110 (113)	4 (6)	-	-	386 (412)	23 (24)
雑	3 (4)	-	-	-	16 (16)	-
計	1270 (1399)	120 (132)	156 (157)	26 (26)	1254 (1395)	192 (219)

以下()内の数について検定をおこなう。全体として、「が」を基準にすると「の」「は」とも否定の割合が高く、「が」と「の」の間で $\chi^2 = 6.09^*$ 、「が」と「は」の間で $\chi^2 = 19.393^{***}$ である。「の」で否定が多いのは、「の」に形容詞が多いためであろう。上にも述べたように、形容詞の「ない」を否定形としたので、形容詞では他の品詞にくらべて否定のしめる割合が当然高くなるからである。「が」と「の」を品詞別に比較すると、動詞について $\chi^2 = 0.873$ 、形容詞について $\chi^2 = 0.083$ 、形容動詞について危険率 $P = 0.908$ (直接確率法による)で、いずれも有意差がみとめられない。

「が」と「は」のあいだではやや事情がことなる。すなわち、名詞のばあいは $\chi^2 = 0.039$ 、形容動詞では危険率 $P = 0.119$ (直接確率法による)であって、有意差がみとめられないのに対し、動詞では $\chi^2 = 23.491^{***}$ 、形容詞では $\chi^2 = 13.005^{***}$ で、有意差がみとめられる(つまり、「は」の方が否定の割合が高い。)また、動詞と名詞とで否定の出方がちがうかどうかを見ると、「が」では $\chi^2 = 0.516$ で、有意差がないのに対して、「は」では $\chi^2 = 17.367^{***}$ で、動詞の方に否定が多い。以上のことから見て、肯定否定の別は、名詞文では「は」「が」の選択にあまり関係しないが、動詞文ではこれと関係があり、肯定—「が」、否定—「は」という傾向にあることがみとめられる。

5. 他のかかりとの共存度

「が」「の」「は」が単独で述語にかかっているか、それとも同じ述語にかかる他の連用修飾語などと共存しているかを表にすると[1.8]のとおりである。上の数字は他のかかりと共存してい

[1.8]		が					の				
		動	形	形動	名	雑	動	形	形動	名	雑
終 止		74 (385)	56 (49)	47 (18)	24 (19)	67 (2)	0 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
条 件		65 (120)	48 (12)	67 (4)	14 (2)	100 (1)	100 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
中 止		76 (158)	50 (10)	64 (7)	13 (2)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
連 体		68 (179)	28 (5)	75 (3)	0 (-)	- (-)	19 (23)	75 (14)	17 (1)	- (-)	- (-)
体言的用法		57 (12)	- (-)	- (-)	25 (1)	- (-)	0 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
計		71 (854)	51 (76)	54 (32)	20 (24)	75 (3)	20 (24)	25 (14)	17 (1)	- (-)	- (-)

	動	形	は形動	名	雑
終 止	89 (530)	59 (52)	45 (22)	15 (46)	0 (-)
条 件	88 (109)	62 (16)	28 (5)	32 (16)	- (-)
中 止	94 (201)	87 (13)	67 (6)	7 (5)	100 (2)
連 体	100 (16)	50 (1)	100 (2)	50 (1)	- (-)
体言的用法	100 (1)	- (-)	- (-)	50 (1)	- (-)
計	90 (857)	63 (82)	49 (35)	16 (69)	13 (2)

るものの%。下(カッコ内)の値はその実数である。

この表によれば、「の」は「が」「は」よりも共存度が目立って低い。これは、「~の」と述語との結びつきがかたくて、主語的というよりも主格補語的であることのあるらわれであると思われる。(なお、当然予想されることであるが、一般に動詞が述語のときに共存度が

もっとも高く、つぎに形容詞、名詞の順になる。)

(2) 「対象語」など……「が」「の」「を」

いわゆる対象語をあらわすためには、「が」「の」「を」がもちいられる。

○私は山登りが好きだ(婦人公論 9月 227)

○狐の好きな一人の船長が禁猟地区で猟銃をブツ放した(小説新潮 4月 127)

○木曾としても、別に浜子を好きだとか、愛しているとか云うのではないが(週刊読売 6月17日 4)

○三四郎腹心の卯蔵が勝てば、三四郎は柳沢邸に仕官でき、悲願達成の絶好の手がかりが得られるのだ(平凡 10月 233)

○買物客というものは、買物することによって、何かプラスの多く得られる店を探し求めている(商店界 6月 37)

○僕が死んだあと、お千鶴さんと結婚することは君の当然の権利だし、お千鶴さんも亦、それ以外に幸福を得られようとは考えられない(傑作倶楽部 4月 110)

ただし、「の」はふつうの主格のばあいと同様、従属句の中でだけでもちいられる。

対象語には、「好きだ」のような感情表現の対象と、「得られる」のような可能表現の対象とがある。なお、「必要だ」「見える」「聞こえる」などは、「を」をとることがほとんどないと思われるし、事実標本の範囲内ではとっていないので、以下の調査では問題にしない。

(4) 感情表現のばあい

[2.1]

	が	の	を
すき, 大きい	17	2	1
その他の形・形動・動	28 ^①	-	-
~たい	-	-	73
~てほしい	-	-	5

① うちわけはつぎのとおり

ほしい 6, こわい 5, いや 3, きらい・大きらい 2, 恋しい 2, おもしろい・にくい・のぞましい・はずかしい・かわいそう・気の毒・自慢・不満・おそろしさに・気に入る 各1

このように、同じ感情表現の対象語でも、形容詞・形容動詞については「が」が、「~たい」については「を」が、それぞれ圧倒的に多く用いられている。(「~を好きだ」の1例は、前にあげた週刊読売のものであるが、これはつぎに「愛している」がきていることに関係があるだろう。)
「水がのみたい」の方が「水をのみたい」よりも普通だとする考えは、少なくとも雑誌のこぼれについてはあてまらない。

助詞・助動詞の調査は、自立語のばあいの約三分の一にあたる前段だけしかやっていないのであるが、「~が~たい」と「~を~たい」との比較を

後段までやってみると、結果は〔2.2〕のとおりである。中段や後段には「が」をとるものもあらわれるが、「を」が圧倒的に多いことにはかわりない。ここから推定すると、「～たい」の対象語が「～が」の形であるのは、全体の8.2%をこえない。(危険率1%)

実際には「～たい」にも段階があって、次の例では「を」をとっているが、

[2.2]	が	の	を
前 段	-	-	73
中 段	3	-	68
後 段	5	-	66
計	8	-	207

○私は、ほんとうはたくさん貯金をして、早く家を建てたいのです
(婦人公論 6月 131)

のように対象語が「たい」をふくむ文節のすぐ前にある場合は、
まだしも「が」になりやすく、逆に

○私は仕事以外の時間を出来るだけ多く将来のための勉強にあてたい
のです(人生手帖 12月 129)

○肉豚の上手な飼育法を教えていただきたい(農業世界 3月 155)

のように、あいだに他の文節をはさんでいるばあいには「が」になりにくい、というようなことがあるだろうと思われる。「が」をとったもの8例は、どれも対象語が「家が建てたい」のように「～たい」の直前にあるものである。一方、「を」をとった対象語が「～たい」の直前にある例は、前段36, 中段29, 後段31, 計96例である。(〔2.3〕参照)。(ここで「勉強する」などは、β単位の規定にかかわらず一語とみなした。したがって「英語を勉強したい」は対象語が直前にある例になる。)

[2.3]	が	を
直 接	8	96
間 接	0	111
計	8	207

これが偶然に得られた値である確率は

$$P = 0.00256$$

ゆえに「が」が使われるのは、対象語が「～たい」の直前にあってあいだに他の文節をはさまないものに多い、ということはほぼまちがいない。

(四) 可能表現のばあい

[2.4]	が	の	を
可 能 動 詞 ¹⁾	38	7	16
動詞+れる・られる	17	3	13
動詞+がたい, にくい で き る ²⁾	1	-	2
わ か る	85	12	-
可 能	30	6	-
	2	-	-

[2.5]	が	の	を
派 生	36	7	7
複 合	2	-	9

1) 「理解できる」「見出し得る」などの複合動詞もここに入れた。

2) 「家ができる」のように「つくられる」意味のものはふくまない。「泳ぐことができる」のような、可能の意味のものだけ。

「できる」「わかる」については「が」「の」が「を」よりも圧倒的に多く、可能動詞についても「が」の方が多し。なお、可能動詞の中を「読める」「言える」のような派生による可能表現と、「～できる」「～うる」のついた複合による可能表現とにわけると、〔2.5〕のとおりで、「が」「の」は大体派生動詞についてもちいられている。直接確率計算法で算出した危険率は、「が」と「を」については高々0.01%、「の」と「を」については1.4%であった。

対象語が動詞の直前にあるか、他の文節をへだてて間接的につづいているかは、あまり関係がなさそうである。(〔2.6〕,〔2.7〕参照)

[2.6]

(可能動詞)

		が	の	を
直	接	32	6	14
間	接	6	1	2

[2.7]

(動詞+れる・られる)

		が	の	
直	接	11	2	10
間	接	6	1	3

以下可能動詞および「～(ら)れる」の形のものにかぎって記述を進める。「できる」や「わかる」は含まない。

[2.8]

		が	を
終	止 法	30	13
連	体 法	10	11
中	止 法	7	2
条	件 法	7	3
そ	の 他	1	-
計		55	29

対象語をうける可能表現を、用法によって分類すると、[2.8]のようになる。「～のは」などは連体に、「～のだ」は終止にふくめる。ここで「が」と「を」との差を終止と連体について比較すると、 $\chi^2=5.488^*$ で、「が」は終止的用法のばあい、より多く用いられているといえる。

える。

能力のもちぬしは、「は」「も」「が」で示されるばあいと「に」で示されるばあいとがある。

○陽子は自分のしていることが全く理解出来なかった(小説サロン 12月 179)

○彼の心の中には写真の先生などにカメラが作れるだろうかという危惧の念が残っていたからだろう(アサヒカメラ 1月 158)

この二つのばあいと、「が」・「を」との組み合わせは、[2.9]のとおりである。

[2.9]

		が	を
は	(も, が)	5	5
に		4	-
計		9	5

対象が「が」で示されているとき、可能表現はその対象の属性的なニュアンスをおび、したがって能力の主体は「に」で示され、対象が「を」で示されるとき、可能表現は主体の属性の表現

というニュアンスをおび、能力の主体は「は(も, が)」で示されているという傾向は、当然考えられることである。しかし、今度の調査では、偶然によってこの結果がえられる確率が13%弱あるので、そう断言はできない。

対象語と同様、「が」「を」の両方がつかわれるものに、「～である」という表現の対象がある。

○夕食後のひと時で、まだ、卓の上にウイスキーの角瓶がおいてあった(婦人生活 3月 151)

○ドラマとして潤色をほどこしてあるので、史家の伝えるマリイ・アントワネットとはいささかの相違がある(スタイル 10月 102)

この表現については、

[2.10]

が	を
2	15

[2.10]のように、やはり「を」の方がよくもちいられている。

(3) 到達点・方向の表現……「に」「へ」

空間的な到達点・方向をあらわすには、「に」と「へ」がもちいられる。この両者は、慣用句的な

[3.1]

順位	に	へ
1	はいる(39)	行く (44)
2	行く (38)	くる (22)
3	入れる(36)	帰る (21)
4	付ける(26)	はいる (17)
5	着く (19)	出る (7)
6	くる (18)	着く (6)
7	帰る (17)	上がる (5)
8	掛ける(16)	歩く (5)
9	向かう(16)	出す (5)
10	出る (15)	出かける(5)

表現(たとえば「身につける」)をのぞいて一般におきかえ可能であり、意味の差はみとめられない。ただし、おきかえたことによって、人によってはそこにニュアンスの差が生じたとうけとるかも知れない。これらと結合する動詞の種類にも、きわだちがいはない。よく出てきた上位10語ずつをあげる。と左のとおりである。かっこ内の数字は使用度数。結果に重きをおく動詞「はいる」「入れる」「付ける」「着く」などは「に」をとり、経過に重きをおく動詞「行く」「くる」「帰る」「歩く」などは「へ」をとる、とい

う傾向があるかもしれないが、この二つの型に動詞をわけるのがむずかしいので、調べなかった。

(4) 出発点の表現……「から」「より」

出発点を表す格助詞には「から」のほかにも文語的な「より」がある。

「より」のうちわけ

層	から	より	文語中で	見出し(見写真説明)中で	その他の口語中で
一	109	9	8	-	1
二	213	7	2	1	4
三	187	-	-	-	-
四	219	12	-	1	11
五	409	12	3	3	6
全	1137	40	13	5	22

ここで目につくことは、四層(婦人雑誌)の口語文中に「より」が多く使われていることである。この大部分は次の例のように裁縫の記事に出てくるもので、一種の紋切り型に近い感じを与える。

○後同様各々の線を引き④よりA線の上に二二糎標し、この点より直角線を引いて第一線とします(婦人画報 2月 287)

○前中心よりW[ウエスト]線の上に7センチ入り5センチのダーツをとりまます(それいゆ 39号 267)

○つけ方は普通の釘づけのように釘つけ位置の表面より裏まで通して挿し(婦人生活 10月 485)

(5) 相手の表現「一」……「に」「へ」

帰着点としての相手をあらわす「に」と「へ」は多くのばあいにおきかえることができる。

- 訴人の恩賞に、半分お前にやるから(オール読物 8月 95)
- 返事は先方から直接あなたに送られます(明星 12月 230)
- 受付係に、人事課長への面会を申込むと(婦人朝日 4月 87)
- 信用のできる産婦人科の医師に御相談ください(主婦の友 9月 112)

- 彼はそれを出入の植木屋へやった(週刊サンケイ 4月1日 47)
- 彼は恩給で食って、ここの収入は家族の方へ送っています(文芸 10月 168)
- 希望者は70円切手同封の上左記へ申込むこと(アサヒカメラ 3月 171)
- 返事の読めない方は係へ御相談ください(明星 12月 230)

「へ」には以上のような連用的用法のほかに、「への」の形の連体法もある。

○とくに、あのサラサラという絹ずれの音へのあこがれは強い(サンデー毎日 4月29日 56)

したがって、用法としては「へ」の方が「に」よりも広いわけであるが、使用度数という点になると、「に」の方が圧倒的に多い。

[5.1] 層	に	へ	への
一	91	2	5
二	160	7	12
三	115	4	1
四	99	2	1
五	287	16	7
全	752	31	26

これ以上意味を分析して、どのような意味用法のばあいには「に」または「へ」が他方に比較してよく使われるかをしらべるとは、「へ」の度数が少ないためにむずかしい。しかし、標本の量が多ければ何かははっきりしたかたよりが見つかるのではないと思われる。

「相手」として一括したものの中から、

「～に行かせる」のような使役の相手

「～に行ってもらう」のような受益の相手

「～に話しかける、相談する」のような話し相手

「～に金をやる」のような渡す相手(「影響を与える」のように抽象化したばあいも含む)

をひろい出すと、[5.2]のようになる。(この四つをひろったのは、比較的とりだしやすいからである。相手の「に」「へ」の中にはかなり雑多なものが含まれており、これを完全に再分類することはむずかしい。)

[5.2]	に	へ
使役	42	-
受益	26	-
話し	131	6
渡し	78	7

ここから、「へ」は使役や受益の相手よりも、話しや渡しの相手について使われることが多いのではないか、という仮説をたてることができる。この仮説は、下のように、危険率がいずれも5%をこえるため、統計的にはみとめられないが、標本の大きさをませば、有意の差がみとめられるかもしれない。標本の大きさをましても、使役や受益の相手のばあいには、「へ」が出てくることはほとんどないであろう。

[5.3]	危険率	P
使役と渡し		P=0.055
使役と話し		P=0.196
受益と渡し		P=0.145
受益と話し		P=0.346

(6) 相手の表現[二]……「から」「に」

相手をあらわす「から」と「に」とは、ほとんど同義的につかわれることがある。

○あの先生から楽譜をもらってよかった(週刊朝日 9月23日 26)

○親切な謝伯誠にもらった黒竜飯店宛の紹介状だけが、彼女たちの唯一の心のよりどころだった(面白倶楽部 12月 144)

つぎのような例も、実例はそれぞれ一方しかなかったが、もう一方の言い方をとることもできるだろう。

○いや、僕の方こそいろいろあなた方から教はることが多いんですよ(婦人公論 8月 352)

○店の者からその老人の話聞いたとき(オール読物 7月 32)

○土地の子供に習った唄をくちずさみ乍ら(近代映画 9月 153)

大体おきかえられるとおもわれるものの数は[6.1]のとおりである。

[6.1]	から	に	ただし、
もらう・いただく	6	2	○会社から治療費として三千
かりる	3	-	円貰っただけですが(知性
きく	3	-	5月 283)
おそわる	1	-	○貸衣裳屋から借りて来たレ
ならう	-	2	ビュー-まがいのくたびれ
非難をあびる	1	-	きったものを着せられるの
うける	2(援助を)	2(教えを)	である(スタイル 10月
みえる	1	-	201)

などは空間的な出発点というニュアンスがあり、完全に人格的な相手として空間的ニュアンスをとまわらない「に」におきかえると、多少意味がかわるかもしれない。(後者は「～から」が「借りる」にではなく「来る」にかかっているとみられるが、一応ここに入れた)

「から」には

○これはお医者さんからの聞きかじりの知識だが(文芸春秋 12月 302)

のように「の」をとまなり連体修飾のはたらきがある。この用法は「に」にはない。

なお、格助詞「へ」はほとんど「に」と同様の意味もっているが、ここでとりあげたような、出発点としての相手を示す用法はもっていない。

「に」「へ」「から」の相手を示す用法間の関係を図示すると、下のとおりである。

	帰着点としての相手	出発点としての相手	
連 用	に	に	受け身の相手をあらわすには、つぎのように「に」「から」がともにもち
	へ	から	
連 体	への	からの	いられる。

○とびきり美人でなくても人に好かれるタイプであること(平凡 9月 298)

○みんなに親しまれ、なつかしがられている銘仙が(婦人画報 11月 119)

○追いたてるように琴路にいわれて、十兵衛は、おずおずと石段をあがっていった(娯楽よみうり 9月 28日 49)

○私の働いているのは表札の所為ではなく、親父に頼まれたからなので(別冊文芸春秋 50号 282)

○長年の修業と、だれからも好かれ、だれにも腰の低いことが人気の根本(娯楽よみうり 12月 28日 64)

○明かるい気楽な雰囲気で町の人から親しまれている店だった(トルーストリー 11月 178)

○工場長から「お前の操作が下手だったからだ」といわれ、会社から治療費として三千円貰っただけですが(知性 5月 283)

○医師の指示なしに、隣りの人から頼まれるままに注射をうったりすると(暮しの手帖 34号 162)

ただし、「から」がうけることのできるの、人間をあらわす名詞・代名詞や、「学校」「事務局」「世間」「黒(囲碁の)」など、これに準じて人格をもつとみとめられるものに限られ、つぎのように非人格的な相手についてはもちいられない。

○神経痛に悩まされ出したのは(主婦の友 12月 202)

○わるびれず堂々と名乗る気魄に圧倒されて(読切小説集 10月 181)

○天然繊維製品が値下り気味なのは、化学繊維に押されているからでもある(実業の日本 5月1日 35)

○白浜、長尾方面は、最低平均三度の等温線に囲まれ(農耕と園芸 2月 79)

なお、動物をあらわす語は、人格、非人格の境にあるものとおもわれるが、実例としては「に」の方に「犬」「魚」「ヒル」各1例があるだけなので、はっきりした傾向がつかめない。(以下の集計では一応人格側に入れた。)

「に」と「から」の使用度数は[6.2]のとおりである。

[6.2]

層	から	に	
		人格	非人格
一	4	13	15
二	10	18	12
三	1	5	10
四	3	17	9
五	13	54	31
全	31	107	77

なお、「みつかる」などは受け身に近い用法をもっているが、ここでははぶいてかぞえた。

[6.2] にみるように、おきかえ可能な、人格的な相手につくばあいにも、「に」の方が「から」よりも多い。

つぎに、人格的な相手につくばあいを、動詞の種類によって分類する。「(ら)れる」ととりさったもとの動詞を、そのとりうる、相手

をあらわす目的語によって、つぎの四つにわけると。

(1) 目的語をとらないもの

例) しぬ にげる

(2) 間接目的語(「～に」「～と」)だけをとるもの

例) したしむ くいさがる 求婚する 絶交する

(3) 直接目的語(「～を」)だけをとるもの

例) ころす たたく とる みつける 案内する 利用する

(4) 間接目的語と直接目的語をとるもの

例) たのむ いう 期待する 贈る

(1)に属する動詞が受け身になると、いわゆる迷惑の受け身になる。この例はつぎの三つである。

○村瀬は二年前に妻に死なれて、電機器具会社の販売課長をしているのだという(講談倶楽部 2月 286)

○二枚目のくせに奥さんに逃げられているんですね(週刊読売 12月2日 30)

○その代りに黒から中にどこにも入れ易く一利一害はまぬがれません(囲碁 6月 42)

ただし、この最後の例は、出発点としての「から」と意味的にとけあっているような感じで、迷惑のニュアンスはうすいかもしれない。

動詞の種類と、「に」「から」の数は[6.3]のとおりである。

[6.3]

用法の区分	から	に
(1)	1	2
(2)	3	8
(3)	10	78
(4)	17	19

すなわち、動詞の種類によって「に」と「から」の出方がちがう。

今、(1)を別として、(2)と(4)と合併して(3)と対立させると、間接目的語をとるかとりな

いかで「に」と「から」の出方がちがうことになる(表[6.4])。

[6.4]

	から	に	計
(2)(4) 間接目的語をとるもの	20	27	47
(3) これをとらないもの	10	78	88
	30	105	135

このように、間接目的語をとる動詞について「に」の出方が少ないのは、意味の混同をさけるためとおもわれる。たとえば、つぎの文中の「から」を「に」にすると、前後の文脈のたすけなしには誤解の可能性が生じる。

○ジュディ・ホリディとポール・ダグラスが株主一同から感謝のしるしに贈られた純金のキャディラックでニュー・ヨークの街を走るラスト・シーンだけがテクニカラーで撮影されている(映画の友 12月 129)

ただし、実際問題として、二とおりに解釈できそうな例は、この調査の標本にはあらわれなかった。

なお、ここで間接目的語をとる可能性だけを問題にしたのは、実際に間接目的語をとっている例、たとえば

Aに〔から〕(=Aによって)Bに紹介された。

のようなものが「に」の方にも「から」の方にも、一つも出ていなかったからである。

近くに同じ形の助詞があるかどうかということは、多少関係はあるかもしれないが、あまり大きくひびいていないようである。「すでに」「そのうちに」「どんなに」「まともに」などが受け身の動詞にかかっているものについていうと、[6.5]のとおりである。(「すでに」の「に」は今回の調査で助詞とせず、副詞語尾としたが、ここでは問題の性質上助詞「に」と同一視した。)

[6.5]

	から	に	計
「すでに」などがあるもの	6	11	17
〃 ないもの	25	95	120
	31	106	137

(7) 使役の相手の表現……「を」「に」

使役の相手方を表わすには、「～を」と「～に」とが使われる。

○川崎大師からもらってきた四十個の大ダルマを、一番成績の悪い職場に一年間すわりこませる(週刊朝日 7月29日 21)[←大ダルマがすわりこむ]

○ユキは寝台に横になっている銀に、鉛筆を持たせた(小説と読物 12月 398)[←銀が鉛筆を持つ]

ここで、使役の中には、「～せる(させる)」のほかにも、「おどろかせる～おどろかす」「降らせる～降らす」のように、「～せる(させる)」と交替する「～す」の形のもの、および「～しめる」の形のものを含む。(なお、「知らせる・知らす」は全体として一つの他動詞とみとめ、使役とは見なかった。)

「～を」をとるか「～に」をとるかは、大体動詞の自他の別によるといっておよいである。すなわち、自動詞(対象をあらわす「～を」をとることがないもの)のばあいは「～を」に、他動詞(これを取りうるもの)のばあいは「～に」になる。自他の別を考えると、「勉強する」などのものは全

[7.1]

	自動詞	他動詞
～を	111 ¹⁾	-
～に	4 ²⁾	38 ³⁾

体で複合動詞と考える。「わかる」のようにいわゆる対象語をとるものは他動詞とする。

1) ○そんな国許へ、妹の百合姫を男装までさせて、乗りこませようとする藩主の目的も(面白倶楽部 11月 114)

という1例をふくむ。この例は、「百合姫を」が「乗りこませよう」にではなくて「男装までさせて」にかかり、かつ「男装までさせて」を二語とみるならば、他動詞の例になる。

2) 実例はつぎのとおり。

○あまりに、相手にやすやすと自分のうぬぼれに乘じさせてはなりません(明星 9月 303)

○捕手には打撃を買って石垣に多く出場させ(野球界 4月 183)

○かわいい娘に苦勞さしとらないから(主婦と生活 9月 215)

○一人息子に足入れさせたので(娯楽よみり 11月2日 12)

なお、

○皮膚の色ばかり問題にしていたことが、私に男を選ぶ眼を狂わせていたのだ(トルーストーリー 8月 60)

という例があるが、これについては使役の相手として「眼を」だけをかぞえ、「私に」はそうしなかった。

3) ○講道館の畳に、地響き打たせていた(面白倶楽部 4月 17)

○顔にも一芝居うたせなければね(アサヒカメラ 10月 162)

などの例は、見方によれば「地響き打つ」「一芝居うつ」という複合動詞、したがって自動詞とみられるかもしれない。

他動詞のばあい、実際に「～を」または(「地響き打たせる」の「地響き」のように)これに相当する目的語をとっているものは、38例中26例である。すなわち、使役の相手についての「～を」「～に」の選択は、その動詞が現にどんな目的語をとっているかよりも、どんな目的語をとりうるかという潜在的な能力によるものである。

なお他動詞が「～に」をえらんだ度合い(38例全部)は、自動詞が「～を」をえらんだ度合い(115例中111)よりも大きいように見えるが統計的には有意差はない(危険率31.5%)。

自動詞115例のうち、「～を」をえらんだものと「～に」をえらんだものとのあいだにも、ある種のちがいがみられる。すなわち、第一に、「～に」をえらんだ4例は、いずれも使役の相手が人間のばあいである(「相手」「石垣」(人名)「娘」「一人息子」)。人間およびこれに準ずるもの(「馬」「銀行」など)を<人>、それ以外(「眼」「旅順」「法案」「解決」など)を<物>と称することになると、「～を」をえらんだ111例中、<人>40<物>71である。この分布が偶然におこる確率は0.0196であって、このことから

[7.2]

	人	物	計
を	40	71	111
に	4	-	4
	44	71	115

人・物による使い分けは有意的とみとめられ、<人>の方

が「～に」をえらびやすい、といえる。なお、他動詞のばあいは、<人>31、<物>7で、大部分が<人>である。

第二に、自動詞で「～に」をえらんだ4例中3例(「乗ずる」「出場する」「足入れする」)までが、意志的な動作をあらわすものであって、無意志的な動作は1例(「苦勞する」)だけである。これを「～を」をえらんだ111例についてみると、<意志>14<無意志>97で、<無意志>が圧倒的に

[7.3]	意 志	無意志	計
を	14	97	111
に	3	1	4
	17	98	115

多い。危険率 $P = 0.00998 < 0.01$ で有意差がみとめられ、意志的な動作の方が「～に」をとりやすい、といえる（[7.3]参照）。なお、他動詞のばあいには、〈意志〉24、〈無意志〉14である。

以上のことから見て、「～に」をとった4例は自動詞中にあっても他動詞に通じる条件をそなえていたといえよう。

このほか、「～をして」の形のものが2例ある。

○望月のひかりは空に……と我主君をして詠はしめた、僧き幕府（人物往来 7月 174）

○ステッセルをして守り得る旅順の城を捨てさせたものはなんであったか（特集文芸春秋 2月 36）

「詠ふ」も「捨てる」も他動詞であって、単なる「～を」のばあいとちがっていることが注目される。

(8) 基準の表現……「に」「と」

異同・類似・比較などの基準をあらわすには、格助詞「と」と「に」とがもちいられる。そのどちらがつかわれるかは、下にくる動詞などの一語一語の性格によるところが大きいらしく、標本の

(異 同)	に	と
同じ、同じく	1	65
ひとしい	5	-
同 一	-	2
一致しない	-	1
共通な	-	1
かわる	1	-
かわらない	-	1
異なる	-	8

範囲ではっきりものをいうことはできない。大体の傾向として、異同には「と」、類似には「に」がつかわれることが多く、比較には両方がならんでもちいられている。

「～に同じ」はつぎの1例だけ。文語的なニュアンスがある。

○命令に従わなかったり、断ればもちろん一回でクビが切られ、仲間や上役の悪口をいっても右に同じということになっている（週刊東京 9月15日 16）

(類 似)	に	と	(比 較)	に	と
似(ている)	16	-	くらべる	17	7
似かよう	1	-	比較する	1	4
類する	1	-	比する	3	-
類似の	-	1	てらす	1	-
トントンぐらいの	-	1			
近い(距離・関係とも)	10	2			
あまり差はない	-	1			
相当の距離にある	1	-			

(9) 思考内容の表現……「に」「と」

思考・感情の内容をあらわす用法には、つぎの例のように、「に」と「と」と共通のものがある。

○そんなわけで邦訳出版元でも気の毒に思ったのだろう（週刊新潮 6月26日 14）

○読者には気の毒とも思ふが、どうも止むを得ない（新潮 9月 147）

しかし、このように両者の用法が接触するのは、一部の領域でしかない。すなわち「～と思う」は原則として文をうけるのであって「～という」などととともに引用を示す「と」として一括できる。

そのうちの特種なばあい、つまり体言をうけるものが、たまたま「～に思う」などとほりあうのである。ただし、体言をうけるといっても、つぎのような体言どめの文をうける用法は「に」にはない。

- これがためには何としても国家の基本法たる憲法の改正が要諦と考える(中央公論 5月 75)
- 私はその時“きれいな人”とってしまいました(人生手帖 12月 44)
- まあ、首位打者は与那嶺さんとみたほうが無難じゃないかと思う(ベースボールマガジン 8月 87)

また、「よう」「みたい」「ふう」などの形式名詞について全体が助動詞化する、以下のような用法は「と」にはない。

- まだ自分の才能の最も適した分野をきめかねているように見えます(アサヒカメラ 4月 197)
- それは君が詩とイリュージョンとをおなじものみたいに考えているからです(婦人公論 5月 74)
- 国民の利益に奉仕する教育というふうには考えられないのですね(群像 8月 151)
- 我が国で所謂掘立柱と関係がありさうに思はれるし(芸術新潮 6月 86)

実質的な意味をうしななって形式名詞化した「もの」「こと」について、一種の慣用句的表現をつくる用法は「と」に特有のものである。

- 全ては再軍備の成否如何にかかっているものと私は考えるのです(人生手帖 1月 40)
- あのままずっと、輝虎にひきとめられているものとみえる(週刊読売 12月 16日 76)
- この問題は、恐らく、時日が解決してくれることと思う(ダイヤモンド 6月 9日 91)
- このように荒される手段があることを思えば「黒の方が打易い」という貴方のお考えに多少疑点が生じたことゝ思います(囲碁 3月 103)

これらの「もの」「こと」は何か指すものがあるわけではない。つぎの文中の「もの」が「食糧管理制度」=「無用なもの」と、「制度」の代理として実質的な意味をもっているのと比較していただきたい。

- 食糧管理制度がだんだん無用なものに感じられてきたこと(農業朝日 8月 32)

以上をのぞいて、思考・感情をあらわす「に」「と」を、つぎにくる語によって分けると、[9.1]、[9.2]のとおりである。

[9.1]			[9.2]		
(他動詞系)	に	と	(自動詞系)	に	と
おもう	5	7	おもわれる・おもえる	2	5
考える	2	4	考えられる	1	2
みる	-	10	みられる	-	1
みせる・みせかける	2	1	みえる	10	4
その他(ふむ、誤診する、見立てる)	1	2	みなされる	-	1
			感じられる	1	1
			その他(映じる、ひびく)	2	1

「に」と「と」の使いわけは、これらつぎにくる語の性質によってちがうので、以下いくつかのばあいについて別々に考えることにする。ただし、例が少ないので、断定的にいうのはむずかしい。

(おもう)

「におもう」の前にくる語は、つぎの1例をのぞき、「気の毒」「残念」「幸せ」「意外」と、主観的な感情をあらわす語(いわゆる形容動詞語幹)にかぎられている。

- 先シーズンのタイガースと巨人の力といえば正直のところ私は巨人一〇、タイガース七ぐらいに思いま

すな(ベースボールマガジン 4月 122)

これに対して「とおもう」の方は「気の毒」のほか「日頃の鬱憤」「他殺」「一策」「一段」「男」「失礼」といろいろな名詞がくる。

○男とばかり思った虚無僧の、天蓋をぬいだのがうら若い女性であることも(週刊新潮 11月26日 42) といった例は「に」ではおきかえられない。

なお、感情をあらわす語をうけるときでも、「におもう」と「とおもう」のあいだにはちがいがみられる。すなわち、「におもう」は感情の主体とおもう主体とが一致しているときにだけ用いられるが、「とおもう」にはそのような制限がない。「残念におもう」といえば残念がっているのはおもう手であるが、「残念とおもう」のばあいには、おもう手でも、他の人でもかまわない。「かれはさぞかし残念と(わたしは)おもう」とはいえるが、「かれはさぞかし残念に(わたしは)おもう」とはいえない。このばあい、残念がっているのは「かれ」、そうおもって(判断して)いるのは、「わたし」と、感情の主体とおもう主体とが分裂しているからである。前の例の「おもう」は「かれはさぞかし残念」という体言どめの文をうけているのである。このような点から一般化して考えると、「～におもう」はつねに体言(形容動詞語幹)を、「～とおもう」はつねに文(ときに体言一つだけの文)をうけるといっていいかもしれない。

(考える)

「に考える」の前にくるのは主観的・評価的な語とはいえない。

○もちろん、神代さんは銀幕に登場する雪子さんはよく知っていたわけだが、そんな雪子さんを結婚の対象に考えたことは夢にもなかったし(スタイル 2月 144)

の中の「に」と

○第二の誤りは、スターリン批判および個人崇拜非難の問題を、…(中略)…権力のための闘争のエピソードと考えることである(中央公論増刊 53)

の中の「と」とはどちらがうか、あきらかでない。

(みる)

○蔵人を油断のならぬ相手と見てか、蓮は竜尾に構えた(読切小説集 7月 272)

○仮りに五億円とみても利益率は五割である(東洋経済新報 3月10日 66)

○男とみれば誰でもよいのだと評する人もあった(週刊読売 6月17日 4)

○予算編成事務を各省大臣の分担管理にふさわしい縦割りの事務と見るか、内閣または内閣総理大臣の総合調整機能としての横割りの事務と見るかが、一つの見方であるように思われる(時の法令 2月3日 6)

これらの「と」の中には、「に」にでもおきかえられそうなもの、おきかえることが不可能とおもわれるもの(「男とみれば」は「男にみれば」にならないであろう)がまじっているが、とにかく標本の中には「にみる」は出てこなかった。

(おもわれる・おもえる)

「に」とともに、前にくる名詞に「おもう」のときのような制限がなさそうであり、どこにちがいがあのかははっきりしない。

○女がいつの間にか小百合に思われ、と同時に自分が女の肌の上に倒れかかりたい欲望に囚われていたのに気づいたのだ(読切小説集 12月 441)

○一般の住宅では何か非常に費用がかかり臆劫に思われています(週刊サンケイ 1月22日 47)

○新興宗教が勃興するのは戦後の秩序の諸混乱による国民生活の不安定による結果と思われる(大法輪 3月

46)

○一見有利と思われるこの振替が(棋道 5月 70)

○とても六十歳を越した老人とは思えないくらいですよ(平凡 8月 221)

(みえる)

つぎのような例では、「に」と「と」でほとんどちがわないと思われる。

○あなた見てると、鯉節屋さんには見えないわ(読切倶楽部 7月 97)

○一見武骨に見える金巻半九郎の怒った両肩が(小説の泉 9月 230)

○[伊十七潜水艦は]遠くからは一つの岩としか見えないはずであった(実話雑誌 3月 23)

○一見して剣士とみえる巖男が(読切小説集 7月 367)

しかし、つぎの例の「に」を「と」にかえると、意味がかわってしまうであろう。

○今日は何人ここにお集まりになっていらっしゃるのですか。七百人、いつもの学校の生徒よりは多勢にみえますね(婦人之友 6月 15)

すなわち、「多勢にみえる」は、実際に集まった人たちを目の前にして見た感じをいったものであり、「多勢とみえる」は何かほかの根拠(たとえば、さわがしさ)から間接的に推定したものである。また、「多勢にみえる」は参集者がそういう状態にあるという客観的な属性をいったものであり、「多勢とみえる」はむしろ参集者の状態をそう推定するという話し手の判断の表現にかたむいているともいえる。

○田園はおぼろげに展き、刈田は青微の色に見えた(新潮 7月 264)

という例についても、同様のことがいえるであろう。「にみえる」の「みえる」は視覚活動のとらえた客観を表現し、「とみえる」の「みえる」は「おもわれる」という主観の表現にちかい。

このような差は多くの例について多少ともニュアンスとしてつきまとっているようである。そしてこのことは「と」が文をうけて引用するのに用いられることと無関係ではないと思われる。文がくるということは、「と」の前に判断があるということである。そして、「と」が体言をうけているものについても、「一つの岩だとしか見えない」「一見して剣士だとみえる」のように、そこに「だ」をおぎなって文にすることができる。逆にいえば、「一つの岩」や「剣士」は、体言どめの一語文であるともみられないことはない。とすれば、「と」の前にはつねに判断があるともいえよう。これに対して「に」のうけるものは体言そのものであって体言どめの文ではありえない。その差が「とみえる」をより主観的たらしめているのではないだろうか。

なお、ここで助詞の「に」としたものの中には、普通形容動詞連用形の語尾とされているものが多く含まれている。実は形容詞の連用形にもこれと同様の用法があるのであって、次の課題としてはそれもあわせて調査する必要があるであろう。

(10) 結果の表現……「に」「と」

格助詞の「に」と「と」にはともに変化の結果をあらわす用法がある。この意味に用いられたとみとめた「に」と「と」の数は[10.1]のとおりで、各層とも「に」の方が圧倒的に多い。

これらの例は、こまかくみると、さらにいくつかの用法にわかれる。そしてその中には「に」「と」の一方を他方でおきかえられないものもある。以下にあげるのはそういう例である。

[10.1]		〔「に」だけにあるもの〕	
層	に	と	
			<お(ご)～になる> 43例
一	113	31	○会社をおやめになるときに(主婦と生活 11月 440)
二	231	53	○二十年も御厄介になって、有難く御礼を申します(笑の泉 2月 232)
三	221	115	
四	360	36	<～を～に> 39例
五	447	108	○こんな男を相手に戦う気はなかった(読切倶楽部 11月 132)
全	1872	343	○財政難を理由に無試験制という子供の天国を奪いとろうとした(週刊読売 10月28日 17)

○女学生相手に「枕の草紙」や「奥の細道」を読んで過して来た(小説倶楽部 7月 292)

これらは「～を～にして」と同じものとみて変化の結果という項の下に入れたのであるが、この「に」はそれ以下に対しては、動作・作用のあり方を示す副詞的な修飾句をつくるものとしてはたらいている。その点で「～を相手にして」の「に」とは異質のものである。「と」にはこのような用法はない。

<場所+にする> 25例

- ロープを背にしながら転倒した(実話雑誌 7月 43)
- 人差し指と中指ではさんでタネを下にして口に入れる(面白倶楽部 6月 62)
- 夫婦をそれぞれ別室にしたことが御両人のカンにさわり(実話雑誌 5月 32)
- 目下恋愛中のお二組を前にして(若い女性 11月 175)
- やがて馬をおりと、めいめいの鷹匠の差し出す鷹を手にした(サンデー毎日 11月18日 70)

これらの「に」は、「する」を、「おく」「いれる」「のせる」などに対する代動詞的なものとみるならば、在存の位置や到達点をあらわすとも考えられる。しかし、「～を～にする」という型に共通性があること、「下」「前」などが物の属性とも考えられること、などから、一応ここにまとめた。なお、

- そして丑之助は、まだまだ、彼女を喜ばすことを、口にするのである(週刊朝日 9月2日 58)
- その母が参議員宿舎で住込みで働いているということを耳にしていた(笑の泉 10月 283)
- むしろに伝わる女のからだのふくらみを眼にしたとき(新潮 3月 147)

などの慣用句的用法も、ここから転化したものであろう。

この意味の「に」の中にも、「～を～に」の形で下に対する修飾句をつくるものがある(25例中4例)

- 毛利監督を中に打合せ中の「新己が罪」出演者(近代映画 11月 142)
- 旌旗馬印を陣頭に三峯川の流りにのぞんで、整然と陣を敷いた(オール読物 12月 103)

<付属語+に> 97例

- 何等心配がないというようになった時(実業の日本 5月15日 109)
- 女の役はおつきあいみたいになっちゃうでしょう(明星 5月 234)
- 腕はだんだん締めあげられて、本当に折れそうになった(小説倶楽部 5月 200)
- 秋川の助七のむこうをはるまでにのしあがってきた(読切小説集 11月 172)

<連体詞+に> 1例

「こんな(そんな、あんな、どんな)になる(する)」の「に」も「と」でおきかえられない。

- 映画の流れがどんなになるのか皆目見当がつかない(音楽の友 5月 99)

<その他の慣用句的用法> 23 例

- この伯父は世間態ばかり気にする人で(婦人生活 8月 187)
 - 井上梅次の演出は、所々に手ぬかりもありますが、それがあまり気にならぬのは、軽快なテンポでスムーズに筋を運んだからで(映画ファン 6月 132)〔～する気になる〕は別
 - 寝台に横になった清水の頭の辺りの天井には(小説新潮 8月 213)
 - 悪かれたようにピアノを弾きまくっていた利根氏が、ホッと吾にかえった(小説サロン 6月 148)
 - 今までのバラ展と行き方を異にした狙い(農耕と園芸 2月 93)
- その他「あてにする(なる)」「ばかにする(なる)」「ものにする(なる)」など。
(「と」だけにあるもの)

<副詞語尾> 9 例

擬声・擬態語の一部や、「～然」という副詞についた「と」は「に」でおきかえられない。

- 穴の中の卯吉がギョッとなっておころの顔を見た(傑作倶楽部 5月 226)
 - ボフルトン氏は、ブリッグス船長の手帳をしっかりと握りしめ、呆然となった(実話雑誌 10月 213)
- なお、擬声・擬態語でも、「と」なしでも連用修飾語となりうるもののはあいは、「～となる」「～になる」両方がありうる(ただし「と」の方は、このたびの調査では実例なし)。

- 一味がばらばらになったのも(娯楽よみうり 7月27日 48)

<仮定をあらわす「～とする」> 46 例

「～とする」は文をうけて仮定をあらわす。

- 西鉄が勝つとすれば、巨人投手団の調子が揃って思わしくない場合である(野球界 10月 49)
 - もし、二人の間に友情があったとしたら、それはさらに泥まみれになるのに役立つだけだ(週刊読売 6月24日 27)
 - 設備費は容器(四五〇〇円位)は保証金を入れて借りるとして調節器(一五〇〇円)コンロともで五六千円で(キング 7月 178)
- 体言をうけている次のような例も、正しくは体言どめの文をうけていると見なすべきである。
- たとえば父親の眼の色が黒色で母親のは茶色としますと(明星 6月 151)
- 「～にする」の方でも、一見仮定をあらわすようにみえるものがある。
- この『基準』をそのままのみにすれば……と判定してしまっついでいっついでに差支えないことになるのである(自然 2月 11)

しかし、この仮定の意味は「～ば」という形式からうまれるのであって「～にする」という形式自体のもっているものではなく、この点「～とする」の方がつぎのような言い切りの形でも仮定の意味を持ちうるのとくらべればあきらかにちがう。

- たとえば瘠せぐすりが載ったとします(装苑 10月 226)

<「考える」「言う」意味の「～とする」> 23 例

- 馬酔木は新興俳句でないとする考へ方(俳句 11月 137)
- 本年度の「装苑」三月号の付録六六頁を見ますと、前肩に切込みを入れて一センチ五ミリ～二センチひらくとしてあります(装苑 7月 216)
- 今まで輪作が必要で忌地とされたものの、主な原因は(農業世界 2月 49)

ただし、客観的な変化と意識の中での思いなしとのあいだには、はっきりした線がひけるわけではない。「目的とする」「理由とする」などは、「目的にする」「理由にする」ともいえることを考慮して<考える>意味にとらなかつたが、あるいは人によってうけとり方がちがうかもしれない。

<文をうける「～となると」> 4例

- 全巻そろえとなると九千二百円いる(週刊新潮 6月26日 14)
- さて生れたとなると、どんな名前をつけようかと、夢にも見る位です(映画ファン 4月 60)
なお、体言をうけて題目を示す「なると」は、「～に」「～と」両方につく。
- これは地方にできた、にわか後援会に限られており、東京や大阪の後援会になると、絶対といっていほど、そんなことは聞かない(娯楽よみり 5月11日 15)
- 百数十種もあるカメラのどれを選ぶかという問題となると、容易なことではありません(週刊東京 6月23日 39)

<その他の慣用句的用法> 20例

- 琴ヶ浜の左内掛をものともせず(相撲 11月 21)
- 昆布巻蒲鉾の絶味を初めとして(婦人倶楽部 1月 444)
- 極めて高い精度を必要とする(東洋経済新報 4月7日 56)

ほかに「それはそれとして」「こととする」「いざとなると」など。

以上をのぞいたものについて、「～に」「～と」をうけることばの分布をみると、どちらのばあいも「なる」「する」が大部分をしめている。

[10.2]	に	と
なる ¹⁾	654	152
する ²⁾	247	70
その他	243	19
計	1144	241

1) 「なりがち」「なりきる」「あいなる」などをふくむ。

2) 「される」をふくむ。

しかし、「～に」の方では「なる」「する」以外の動詞もかなり用いられ、それらの多くは「～と」でおきかえられない。

○手持の中波ラジオ受信機を短波受信用に改造するのに(娯楽よみり 11月30日 36)

○五十搦みの乗客が白い毛布を紅に染めて虫の息である(特集文芸春秋 2月 121)

- 教頭はその紙をすぐ二つに裂いて屑箱にほうりこんだ(キング 8月 70)
- カフスを筒型に縫う(装苑 5月付録 70)
- ここでヴァイオリン独奏曲に編曲されて有名な「タイスの瞑奏曲」が演奏される(音楽の友 4月 113)
- 2段目は2目ずつ入れて16目に増す(婦人生活 2月 455)
- この手術で人間が猿に転化するわけではないから(読切倶楽部 3月 381)

一方、「～と」の方について「なる」「する」以外につづくものをみると、

○京王線に乗り郊外に出ますと仕事の事でいら立っている神経がぐっと柔らげられ柔軟性の有る私と変わります(映画ファン 11月 63)

のように「～に」でおかしくないものもあれば、

- 手段がいつしか目的と化したのでせう(新潮 10月 43)
- いわゆる法は政府の専定する所となし、国事犯を取扱うには野蛮の法を以てす(人生手帖 2月 84)

のように、「～に」にはおきかえにくいものがある。その条件のちがいは明らかでない。「～と」の方が文体的に古い表現で用いられる、ということがあるかもしれない。

とにかく、「～に」の方が「なる」「する」以外の動詞と広く結びつくことはたしかである。

次に「に」「と」のついていることばの面からしらべてみる。「なる」「する」につづく「に」「と」のついていることばを次の三種類にわけると、

- a) 名詞(「が」をともなって主語となるもの)。準体助詞の「の」をふくむ。

b) 形容動詞語幹(「な」をともなって連体修飾語となるもの)。a, b 両方に考えられるものは b とする。

c) その他(体言だが、主語としても、「な」をともなり連体修飾語としても、ふつう用いられないもの)。「のびのび」「一文なし」「見ごろし」「みじん切り」「裏向け」「不淨扱い」「百倍」など、状態・動作をあらわすことば。

[10.3]	に			と		
	なる	する	計	なる	する	計
a	513	153	666	130	66	196
b	90	40	130	12	4	16
c	51	54	105	10	-	10
計	654	247	901	152	70	222

ここで b, c を合併すると $\chi^2 = 20.6^{***}$, $\nu = 1$. で、「～と」の方が名詞につく率が高いといえる。

しかし、これはあくまで傾向であって、形容動詞語幹にも「と」がつかないわけではない。極端なばあい、次の例のように、同じ文の中で「～に」「～と」両方が用いられていることもある。

[10.4]	に	と	計
a	666	196	862
b, c	235	26	261
	901	222	1123

○急バンク十二車レース(後樂園)などは、先行有利となり、比較的平坦なバンクで長走路(大宮・千葉・大阪中央など)なら追込み選手が有利になるのはいうまでもない(娯楽よみうり 2月24日 33)

なお、「～に」「～と」の区別については、「～に」は内的・絶対的、「～と」は外的・相対的(山田孝雄『日本文法論』p. 569~570)、「～に」は自然的・永久的、「～と」は作為的・一時的(松尾捨次郎『国語法論攷』p. 198~199)などの説があるが、少なくとも現代語については、そのような傾向をみとめることは困難である。

(11) 並列の表現[一]……「と」

本とえんぴつとを買う

本とえんぴつを買う

という二とおりの表現は同じことを表わす。体言(または体言的な資格をもった他の品詞)が並べられるとき、その最後に並列助詞の「と」がつくかどうかは意味のちがいに対応しない。ここでは、この二つの表現が使い分けられる条件があるかどうかについて見ることにする。

ここで対象にするのは、「AとBとC(と)……」のように体言が二つ以上並列させられるとき、その最初の体言Aについて使われた「と」が調査の範囲にあるときのものである。このようなばあいは全部で598例ある。ただし、この中には、以下のように文脈がもつれたと思われるものはふくめていない。

○つまり地方そだちのヒケめと、くわえて、金まわりがわるかっただけに、いっそう現実主義にかたむいたということであろうか(群像 3月 76)

「ヒケめと……わるさのため」および、「ヒケめがあり……わるかっただけに」といった文脈の

もつれと思われる。』

このようばあいには「ヒケめと」に並べられるべきことばがないので、「と」のありなしが問題にならないからである。また

○それともう一ついいたいことは、そうした見通し違いの場合の学者や評論家の責任ということである（エコノミスト 10月20日 7）

の「それと」も「いいたいこと」と並んでいるようでもあるが、接続詞化したものとみて除いた。

[11.1] 層	AとBと	AとB	
一	28	41	層ごとにみると左のとおりで、一層以外は
二	19	82	「AとB」の方が多い。一層については統計的に
三	21	84	有意の差はみとめられない。また、検定の結果、
四	13	140	一層と他の層それぞれとのあいだ、二層と四層、
五	19	151	三層と四層とのあいだに差がみられる。その他
全	100	498	の層のあいだには、有意差はない。したがって、

「AとBと」は一層に比較的多く、四層に比較的小さい、といえる。

つぎに、「AとB(と)」につづく助詞・助動詞および「AとB(と)」全体としての用法という観点から、以下の五つに分類する。

例

- | | | |
|-------------|--------------|----------------------|
| (1) 格助詞 | AとB(と)が | AとB(と)の |
| (2) 係・副助詞 | AとB(と)は | AとB(と)だけの |
| (3) 助動詞 | AとB(と)だ | AとB(と)である |
| (4) ゼロ(つづく) | AとBとある | AとB(と)ふたりで |
| (5) ゼロ(きれる) | ほしいのはAとB(と)。 | ほしいAとB(と)。「書名などもふくむ」 |

(4)の実例をすこしあげる。

○相場のアナを狙って行く産地と真面目に市場の注文通り計画出荷される産地とあると思いますが（農耕と園芸 6月 51）

○日高孝次博士と筆者とソ連側2代表と協議を重ね（科学朝日 7月 80）

○ルザッフルと谷洋子さんのお父さんと感激の抱擁（映画の友 9月 36）

○私と城戸と同時にハッと顔を見合わせて（小説春秋 6月 130）

○処刑された父と、そのあとを追ったに違いない母と、実の親ふたりのことが（サンデー毎日 6月10日 71）

○若い人に人気のあるのは、黄と黒、赤と青などの対照色（主婦之友 6月付録 37）

○「阪急と阪神、どっちがいいだろう」（ベースボールマガジン 2月 100）

○外の金属の鉢と内側のナベと両方に水を入れなければなりません（暮らしの手帖 36号 167）

○コンクールは、婦人倶楽部と日向日日新聞共催、味の素協賛の下に（婦人倶楽部 12月 42）

[11.2]	AとBと	AとB	計	検定の結果、(4)のばあいをのぞき、
(1) 格助詞	76	333	409	一般に「AとB」の方が多いといえる
(2) 係・副助詞	11	40	51	ことがわかった。また、「AとBと」
(3) 助動詞	1	17	18	の出方は、(4)>(1), (2)>(3), (5)である。
(4) ゼロ(つづく)	12	16	28	
(5) ゼロ(きれる)	—	92	92	
計	100	498	598	

[11.3]	AとBと	AとB	計	格助詞のついたものの内わけは
の	34	99	133	[11.3]のとおりである。「の」「が」「を」「に」「で」いずれのばあいにも「AとB」の方が多い。
が	14	53	67	
を	17	103	120	
に	8	45	53	
で	3	29	32	
その他	-	4	4	ここで、「の」には主格のもの2例がふくまれている。これとほかの助詞がついたものをあわせて「連用」
計	76	333	409	

とよぶと、[11.4]のように、連体と連用とでは差があり、「AとBと」の出方は連体の方が大きい。 $\chi^2=6.924^{**}$, $\nu=1$.

[11.4]	AとBと	AとB	計	[11.5]	AとBと	AとB	計
連体	34	97	131	は	9	30	39
連用	42	236	278	その他	2	10	12
計	76	333	409	計	11	40	51

係助詞のついたものの内わけは[11.5]のとおりである。

ゼロ(つづく)のりわけは[11.6]のとおりで、連体・提示の方に「AとBと」の出る割合が高いことがみとめられる(危険率4.48%)。

[11.6]	AとBと	AとB	計	連用の例：AとB(と)ある；AとB(と)共催
連用	7	2	9	連体・提示の例：AとB(と)ふたりが；AとB(と)，CとD(と)，そ
連体・提示	5	14	19	
計	12	16	28	

ういろいろの……

連体と提示とを合わせたのは、連体的な「AとBとふたりが」といった例が、元來提示的であってつぎの体言と結びついてできたもの、とみられ、そのあいだにはっきりした線をひくのがむずかしいからである。

連用の「AとB」2例はつぎのとおりである。

○石川県金沢市・富山県富山市で中原淳一先生のファッションショウと、先生を囲む会開催(それいゆ 38号 200)

○コンクールは、婦人倶楽部と日向日日新聞共催、味の素協賛の下に(婦人倶楽部 12月 42) これらを連用にかぞえたのは、一方に

○ルザッフルと谷洋子さんのお父さんと感激の抱擁(映画の友 9月 36)

のような例があり、「先生を囲む会を開催」ともいえることを考慮したためである。しかし、これを連用に入れることに問題があるのはもちろんであり、これらをのぞいた純粋の連用には「AとB」の形が出てこなかった。用例をふやしても、「AとBとある」のような典型的な連用に「AとB」が出てくることは、少ないであろう。

並列されたもののまとめり方もこの二つの表現の選択に影響する。

「AとB(と)が帰った」というと、AとBとはいっしょに帰ったのかも知れないが、まったく別々に帰ったかも知れない。これに対して、「AとB(と)がけんかをした」というときには、かな

らずこの二つの主体がいわば共同でことにあたらなければならない。また、「AとB(と)の本」というと「Aの本とBの本」であってもかまわないが、「AとB(と)の関係」では「AとB」が一まとまりになって「関係」につながる、ということではしかありえない。今かりに「けんかをする」「関係」のように、「AとB(と)」が必然的に一体となっている、または二つ以上あることを示す語が下につづくばあいをⅠ、それ以外をⅡとすれば、ⅠとⅡとのあいだにはちがいはある。(書名、写真の説明などの「AとB」「AとBだ」のように、下にきめ手となる語がつづかないものははぶいて考える。)

Ⅰの例にはつぎのようなものがある。

- その男と、太宰巡査との距離は(娯楽よみり 7月 20日 21)
- 三原の娘と中西の結婚に(ベースボールマガジン 12月 174)
- 信男と自分の組合せが(小説サロン 12月 179)
- 種類が関東と関西で違います(小説倶楽部 7月 408)
- 人差指と中指ではさんで(面白倶楽部 6月 62)
- 巨人のベテランと阪神のベテランを比べると(ベースボールマガジン 4月 122)
- 君とおれとが親友ということは(別冊小説新潮 10月 267)
- 悲劇と喜劇とは紙一重の隣なのか(小説の泉 4月 374)

[11.7] AとBと	AとB	計
Ⅰ	62	89
Ⅱ	37	292
計	99	381

○早田の釣竿は長短三本、ケンちゃんも三本ですが、僕とベニコは一本づつです(オール読物 2月 264)

Ⅰ、Ⅱとも「AとB」の方が多いが、ⅠのばあいはⅡにくらべて「AとBと」のしめる割合が大きい。

「AとB(と)」で前後二つの「と」の位置がはなれていること、つまりBの長さが長いことが、あとの「と」のありなしに影響するとすれば、二とおりの可能性が考えられる。第一は、その結果としてAとBとが並べられているという意識がうすくなり、Bだけに注意が向くためにあとの方の「と」がはぶかれる、ということである。その度合いがつよくなると、文脈のねじれが生まれる。第二は、逆に、並列されていることをはっきりさせるために、「と」を入れることである。そのどちらかにかたむく傾向があるかどうかをしらべることにする。

- 結局シュートとカーブと、落ちる球で(野球 11月 218)

のように三つ以上が並んでいる時は、最後の「落ちる球」の部分の長さをはかる。(こういう例は全体で数例にすぎない。大部分は2要素の並列である。)なお

- ←と→はいずれも大映スタジオにて(映画の友 4月 107)

の「→」は「矢印」とよむことにする。

- 東もベンのカラテとニー・克蘭チ(膝蹴り)には苦戦(ファイト 6月 18)

のようなばあい、()の中は計算に入れない。

Bの長さのもっとも長い方の例としては、次のようなものがある。

- ただ問題なのは、一人の特異な青年の話ならいいのだけれど、早稲田か慶応の学生らしい。現代の学生を代表しているようにみえることと、暗示でみせるべきところ、例えば眠り薬をいれたビールを飲ますとこ

[11.8]

Bの文節数	AとBと	AとB
1	68	376
2	12	75
3	8	15
4	2	10
5	3	12
6	1	5
7	1	—
8	1	1
9	—	1
10	3	—
13	1	—
14	—	1
15	—	1
17	—	1
計	100	498
平均文節数	2.030	1.534
分散	5.099	2.278

ろとか、女学生をアパートに連れ込むところなどを、はっきり描きすぎていることだ(週刊東京 7月14日 48)[17文節、これは座談会の筆記である。「学生らしい」の次の句点は原文のまま。]

検定の結果は危険率5%で有意差がみとめられる。すなわち、Bの部分が長い方が「AとBと」の形をとりやすい。(標本が大きいのので正規分布検定による。 $0.03 < P < 0.04$)

(12) 並列の表現〔二〕……「か」¹⁾「とか」「なり」「の」「や」「やら」

「と」のばあいと同様にほかの並列助詞について調べると、つぎのとおりである。

層	Aか Bか	Aか B	Aとか Bとか	Aとか B	Aなり Bなり	Aなり B	Aの Bの	Aの B	Aや Bや	Aや B	Aやら Bやら	Aやら B
一	—	1	5	3	—	—	1	—	3	44	1	—
二	—	4	7	3	—	—	—	—	—	64	—	—
三	1	4	5	10	1	2	—	—	—	50	—	1
四	1	10	8	7	2	—	—	1	—	83	—	—
五	1	10	4	8	2	2	1	—	2	72	2	2
全	3 ²⁾	29	29	31	5	4	2	1 ³⁾	5 ⁴⁾	313	3	3

1) 「か」については、つぎの三つのばあいをのぞく。これらはいずれも「か」が省略されえないものだからである。

a) 体言以外についたばあい

○国民の要望に答えるだけの力をもっているかどうかを私が危惧するのは、この点についてである(中央公論 5月 171)

b) 体言が述語的で、これに疑問の「か」がついたばあい

○それが母のいう女らしくなるためのものか、人間としての自覚をもつためのものか、いまだにはっきりわかりません(人生手帖 12月 129)

c) 「～かなにか」「～かだれか」のように一方が疑問詞のばあい

○メスが、水中に沈めた杉の葉っぱかなんかへ、何万という卵を出すと(主婦の友 10月 166)

2) つぎの「～か～とか」は、「AかBか」の方にも「AとかBとか」の方にもかぞえた。

○これからは、竹あんさんか、竹兄哥とかいわねえと承知しねえぞ(読切小説集 9月 96) つぎの「～や～やら」についても同様にあった。

○いろいろドライブや何やらして(文芸 8月 162)

3) 「AのB」の例は、つぎの一つで、やや文脈不整の感じがするものである。

○帽子屋でうっかりよくお似合ひですの、オスマートでいらっしゃいますなどと言はれて買ひ込んで(装苑 2月 143)

4) 「AやBや」5例のうち、1例は上記の「ドライブや何やら」、あとは「何やかや」2例、「あれや

これや」1例で、残りの1例はつぎの例である。

○3や6や5や8やの数字が陽炎になって小さく躍りながら燃えてみた(新潮 2月 219)

(13) 並列の表現〔三〕……「たり」

「たり」をふくむ表現の型にはつぎの五つがある。

a) 「～たり～たりする」

○小宮山や竹村の個人的な干渉だったら、青木書店が出版をみあはせたり、光文社がうるさがったりするわけがない(群像 6月 177)

b) 「～たり～する」(この「する」はいろんな動詞の代表という意味である。)

○今までのように右向け右ではおれないので、新聞をよんだりラジオをききました(婦人公論 9月 123)

○進化の必要上捨てたり、おき忘れて来た原始的なものに復讐されているようなものであります(サンデー毎日 1月29日 24)

○食べるためには鉄屑を拾ったり、万引をしなければならないということを身をもって知った(日本週報 8月22日 15)

○ドレスメーカーや呉服屋のすすめで流行だからと言われたり、やはりはじめての旅行は立派なものなければなどという言葉にまどわされることが必要です(婦人生活 10月 402)

○いつも、あせっていらいらした生活をしていると、息苦しくなったり、疲れやすかったり、目まいや脈がおかしくなってきます(婦人画報 12月 203)

c) 「～たりする」

○日本では子供は赤いセーターを着たりしていますが、ヨーロッパの子供は派手じゃないですね(婦人倶楽部 5月 151)

d) a 以外の「～たり～たり」

○そのくせポートこいだり、ヨットにのったり(主婦と生活 12月 153)

○なかには作ったり、こわしたり、幾度も気に入るまでやり直していることがあります(ポピュラーサイエンス 10月 72)

○腰高で時に叩かれたり、いなされたり(相撲 9月 67)

○時には、客が合唱をしたり輪をつくって踊り始めたり、明かるい気楽な雰囲気(町の人たちから親しまれている店だった(トルストーリー 11月 178)

e) b, c 以外の「～たり」

○後輩ボクサーのコーチをしたり、なにやかやとお忙しいのですって(平凡 11月 112)

○かと思うと、軍部時代には、中野正剛の東方会と合同をもくろんだり、大分右翼がかった(人物往来 2月 146)

○ただ一人、斎藤氏は、在隊中から一種のノイローゼにかかり、日航の入社試験にも白紙を出したり、現在は千葉県(の郷里)にひっ込んでいるという(週刊サンケイ 1月8日 32)

○折ある毎に物や金の価値などについてお話ししたり、地味な目だたない努力が、やがて彼の浪費をなおす事だろうと思います(婦人倶楽部 3月 184)

各層ごとの度数はつぎのとおりである。

ここで注目されるのは、aとbとがほぼ同数あることである。aとbとは同じ意味をあらわすが、bの表現はふつうまちがいとされているものである。しかしそれが<正しい>用例と同じく

層	a	b	c	d	e	計
一	6	3	11	-	-	20
二	5	5	4	1	2	17
三	4	4	1	1	-	10
四	11	9	6	2	2	30
五	6	10	11	3	1	31
計	32	31	33	7	5	108

らい使われているということは、この点についての規範意識がゆるくなってきていることを示すものではなからうか。上にあげたbの用例についても(特に『日本週報』のものなど)人によってはそれほど不自然には感じないかもしれない。

(14) 同時性の表現……「ながら」「つつ」

接続助詞の「ながら」と「つつ」とは大体同じ意味をあらわすが、おのおの他方にないつぎのような用法をもっている。

(1) 「ながら」は形容詞・名詞・副詞などにもつく。(意味は、不相応)「自分ながら」「小柄ながら」「若干ながら」など。

「せまいながらも」「しかしながら」のように形容詞や接続詞についた実例は出てこなかった。

(2) 「つつ」は「つつある」で継続中の意味をあらわす。

層別にみると[14.1]のとおりであり、「その他」の部分、つまり「ながら」と「つつ」とが同義的に使われる部分については、「ながら」の方が「つつ」よりも多い。

層	な が ら			つ つ		
	名・形 などに	その他	計	つつあ る	その他	計
一	1	22	23	3	8	11
二	5	28	33	2	1	3
三	3	6	9	6	2	8
四	2	32	34	2	3	5
五	7	88	95	8	4	12
計	18	176	194	21	18	39

また、比較的硬い一、三層と、軟かい二、四、五層とにわけると、

[14.2]のように、「つつ」は硬い層に出やすいことがわかる。

$\chi^2=16.296^{***}$, $\nu=1$.

つぎに口語と文語とにわけて出方をしらべる。

文語はほとんど短歌・俳句である。

	ながら	つつ	計
硬	28	10	38
軟	148	8	156
計	176	18	194

	な が ら			つ つ		
	名・形 などに	その他	計	つつあ る	その他	計
口語	18	176	194	20	11	31
文語	-	-	0	1	7	8
計	18	176	194	21	18	39

[14.3]表から次のことがいえる。

(1) 「ながら」「つつ」全体でも、両者の同義的な用法についても、文語と口語とでは出方に差があり、「つつ」の方が文語の中に出やすい。

(2) 「つつ」の中では、「つつある」よりもそれ以外の用法の方が文語の中に出やすい。(危険率1.15%)

以上の結果からみると、「つつ」は「ながら」に比べてはるかに使われ方が少ないが「つつある」

だけは口語文中でも力が弱くなっていないのではないかと思われる。同時性を意味するようばあいの「つつ」が、文体上のニュアンスをのぞけばほぼ完全に「ながら」でおきかえられるのに対して、「つつある」はこれと同義的な「ている」よりも表現が厳密だという特色がある。というのは、「ている」だと進行のほかに結果も表わすからである。こころみに口語の「つつある」の用例 20 例について「ている」でおきかえてみると、「ますます」「年々」「漸次」「だんだん」などの副詞、および「つづける」のような動詞自身の意味からみて、あきらかに進行とわかるのは 7 例だけである。あとの 13 例は結果にもとれる、または結果にとるのが自然なものになってしまう。一、二の例をあげればつぎのようなものである。

○作曲、演奏、音楽学、どの面を見ても、オンチどころではなくなりつつあります(音楽の友 1月 40)

○この方針は県教組、労組、婦人、青年団体はじめ高知市会、同市教委などの猛反対によって現在高校新設の方向に変わりつつあるが(週刊読売 10月 28日 17)

「ながら」の意味には「並行」と「不相応」とがある。並行のばあいは「歌いながら行く」「泣きながら叫ぶ」のように「ながら」のつづく部分(「歌う」「泣く」)も、これを受ける部分(「行く」「叫ぶ」)も動作であるのが大部分である。しかし、

○山北は染太郎に腕をとられながら、タクシイのうごめいている通へ出た(講談倶楽部 5月 206)
のような例では「とられ」を状態としか解釈できない。不相応のばあいは両方とも動作でも状態でもいいはずだが、原則として状態がくる。

以下に並行と不相応とのまぎらわしいものをあげる。これらもかりに並行に分類しておいた。

○過去、何回か、危機に見舞われながら、今日まで、切り抜けてきた会社である(ダイヤモンド 12月 18日 53)

○女は小さな体内に大男のたまごを十カ月も抱え乍ら、自分の血肉で養うばかりか、時には双生児や三つ児を抱え込んでも平気で喜んで生きて居ります(文芸春秋 11月 265)

○何か言葉をかけようとあせりながら、汗ばかり流れる(知性 11月 154)

○子供時分のお友達のあなたと、お互いに生活を持ちながら一日ぶらぶら好きに遊んだことは、とても嬉しかったわ(別冊小説新潮 7月 63)

○早苗は息を呑んで泣きながら、まだ自分の眼が信じられなかった(小説サロン 8月 273)

○ベンは力道のカラテでこっぴどく痛められながらもこのカラテの本家にカラテで反撃する始末(ファイト 6月 18)

○家のしきいをまたげば、常に、死の危険にさらされているながらも、自分だけは例外だと考えているためであろうか(ダイヤモンド 2月 1日 22)

これと同様の 2 種類の用法は「つつ」にも見出される。ただし、今回の資料のなかには、不相応の「つつ」が 2 例あるが、どちらも、もしこの不相応の意味が「つぎの「も」からきたものと考えれば、並行とも解釈できるものである。その 2 例とは、

○各自の修養と愛による勤労を強調する修養団は、…(中略)…争議指導者の反撃に遭いつつも、ある小作人たちをして共鳴させた記事がのっている(中央公論 9月 240)

○裁判所は…(中略)…多少好ましくない影響を及ぼすことになるであろうことは認めつつも、原告らが、単に中共の國慶節祝典に参加することが、「著しくかつ直接に日本国の利益を害する」ことになるとは、どうしても考えられないとする(時の法令 8月 13日 45)

用法による両者の出方の差はみとめられなかった。

文体の面から比較すると [14.5] のとおりである。より話しことば的な文体ということで「だ」

体・「です」体を一括して、「である」体に対立させると、「つつ」は「である」体の方により多く出ているといえる(危険率0.93%)。

[14.4]			
	ながら	つつ	計
並行	161	16	177
不相应	15	2	17
計	176	18	194

[14.5]			
	ながら	つつ	計
デアル体	30	6	36
ダ体	33	-	33
デス体	28	1	29
(小計)	(91)	(7)	(98)
不明	85	4	89
文語	-	7	7
計	176	18	194

(15) 条件の表現「～」……「と」「ば」「たら」「なら」

あした雨が降ると学校は休みになります。

あした雨が降れば学校は休みになります。

あした雨が降ったら学校は休みになります。

これら三つの文は大体おなじことをいっている。すなわち、上の文の「～と」「～ば」「～たら」は、どれも未来におこる事実を仮定したいい方である。

以下に「～と」「～ば」「～たら」のあいだにどのようなちがいがみられるかを調べる。上の例文では三者のおきかえがきくが、ある文脈・環境のもとではたがいにおきかえられないばあいがある。そのような、おきかえのきかない場合をつぎつぎにのぞいていって、共通の用法をしぼりだしていく、というやり方をとる。

(接続詞的用法など)

用法別度数表に示したように、つぎにあげる用法は他の表現にかけている。

「と」

[すると]…32例

○幸吉は、毎夜の道順に従って、明るい商店や飲食店の並んだ表通りとは反対の、左手の暗い横町の多い方角へと進んで行った。すると、いつも通る狭い抜け露地の手前まで来た(オール読物 11月 27)

[接続詞的用法]…5例

○一間余も飛び退いて、三度星眼。と、余勢を駆った大学が、真向に振り下した太刀は、身体諸共投出すように、横に倒れながら、文五郎の足を薙いだ(読切小説集 8月 440)

[仮定の逆接条件]…10例

○なるほど人間の老衰現象は、主として心臓障害によるものなのだから、猿の心臓であろうと何であろうと、常に若々しい心臓を持ちうれば元気でいられるわけである(読切倶楽部 3月 381)

[方言]…1例

○遠慮せんと手を出しなさい(明星 11月 154)

「ば」

[列挙]…13例

○表面は浮き浮きしているが、芯は固いと云う人もあれば、男とみれば誰でもよいのだと評する人もあった(週刊読売 6月17日 4)

〔理由〕… 8 例

○大目付と老中の確執が公けになってはならぬと思えばこそ乱心者と笑われるを覚悟で申し出ている
(週刊新潮 9月10日 42)

〔假定〕… 5 例

○若しそれ平時の条規に膠柱して活用することを悟らず、緩急その宜しきを失して前後を誤り、或は個人若しくは一会社の利益保障の爲めに、多衆災民の安固を脅かすが如きあらば人心動揺して底止する所を知らず(エコノミスト 2月4日 59)

その他、「しからば」1例、「いかなれば」など2例、「～せば」2例、「～てば」1例

(文体)

「～と」「～たら」という形は口語にしかないが、「～ば」は文語にもある。上にあげた未然形につづく假定条件もそうであるが、已然形について口語と同様の意味をもっているばあいもある。…13 例

○一人づつ荷櫓ひききぬ近よれば老いて大方は表情のなし(短歌 6月 10)

○心に望^{ひげ}疑なきが故に恐^{おそれ}怖なし、一切の顛倒夢想より遠く離るれば涅槃を得。という般若心経の垂示が、心の底までひびき徹る思いである(大法輪 1月 88)

(慣用的な用法)

「ば」

〔なければならぬ、ねばならぬ etc.〕…140 例

○この点は明治憲法と根本的に事情がちがっているといわなければならぬ(中央公論 12月 264)

○それから鎖骨の上のところ、ここに固い腫れものができていれはすでに遅いといわねばなりません(婦人倶楽部 9月 403)

〔ともすれば〕… 1 例

○女の職場がともすれば狭くならうとするとき彼女たちは“女の悩み”と“重い責任”を背負いながら笑顔を忘れず、着実に歩みつつけている(サンデー毎日 4月1日 10)

〔そういえば〕… 5 例

○寝台に横になった清水の頭の辺りの天井には、二匹の屋守がいた。そういえば昼間この部屋にいた時も二匹の屋守がいて夫婦ではないかしらん、と思った記憶がある(小説新潮 8月 213)

〔～ば～ほど、だけ〕… 6 例

○店の規模が大きくなればなるほど、値引きは危険きわまりない商策となる(商店界 8月 45)

「たら」

〔そしたら〕… 4 例

○僕は「月給はいくらでもいいから、一万円出す用意があるなら入っていい」と言った。そしたら「考えてみる」と言って帰っちゃった(ベースボールマガジン 2月 100)

〔～ときたら〕… 2 例

○お母さんは、熱心なだけあって、確かにうまい。

それに歌詞を覚えてることときたら、全く三つの歌に出場しないのが、もったいないみたいなの
で(スタイル 1月 121)

以上にあげた、おたがいに共通しない用法は、多かれ少なかれ慣用句的な性格をもつ、「～と」「～ば」「～たら」とっていわば周辺の用法である。これからとりあげる用法の方が度数から

いっても結びつきの自由さからいっても、より中心的な用法である。

度数を比較するにあたっては、助動詞「だ」「です」につづくばあいは、他のものと区別して考えなければならぬ。というのは、「ば」は「だ」につづかないからである。動詞にあわせて考えると、

みたら	山だったら
みると	山だと
みれば	山ならば

という関係がなりたちそうに見える。しかし、「山ならば」をこの位置におくのは正しくない。「～ならば」は「～なら」とほとんど完全におきかえることができ、両者のあいだにはニュアンスの差があるにすぎない。「みたら」「みると」「みれば」がそれぞれ独立の、別々の文法形式であるのに対して、「山なら」と「山ならば」とは同一の文法形式の変種である。「みれば」に対して「みりゃあ」が文体論的な変種であるのと近い。そして、一方、「なら」は用言にもつづくのだから、「山なら(ば)」は「みれば」よりも、「みるなら」の方に対応する。したがって、以下のようにまとめるべきである。

みたら	山だったら
みると	山だと
みれば	—
みるなら(ば)	山なら(ば)
みたなら(ば)	山だったなら(ば)

「ば」はまた「です」にもつづかない。「ます」につづく「ますれば」の形もあまり使われない。それで以下「～たら」「～と」「～ば」の数を比較するにあたっては、「たら」「と」が「だ」「です」「ます」につづくばあいは、他のものと別に集計することにする。

上にあげてきた用法をのぞくと、条件句の用法としては、つぎの三つに大別することができる。

- (1) 陳述的条件
- (2) 前おき
- (3) 客観的条件

このうち、(3)は、条件とよぶのがもっともふさわしい、きっかけ・因果関係・前提などである。

(1)、(2)としたのはつぎのような例である。

(1) 陳述的条件

直後に「いい」「いけない」「だめだ」など評価をあらわす語がつづいて、全体として一つの述語に近い表現をつくっているもの（「～なければならぬ」もこの群に属するが、これは「ば」だけにみられる表現であるので前もってはねておいた。このほか、「たら」特有の表現で「～たらどうだ(どうか)」というようなものもここにはいるが、実例なし。)

○父為時はこれが男であったらよかろうと恨んだ位であった(人物往来 7月 89)

○そこでどんなカメラを選ばいいかを簡単に述べてみましょう(週刊東京 6月23日 39)

○伐木してすぐ運搬すると重いから、山林で種菌の接種を行ない、二年目になってから適当な所に運搬するとよい(農耕と園芸 1月 47)

○ここではむしろ大時代のロマンティックな芝居をさせなければいけないんですよ(アサヒカメラ 10月 162)

○俗な言葉でいえば、親分気分のある人でないといけない(実業の日本 11月1日 52)

○鬼房・六林男・兜太・公平らの踏みこんで行きつつある作品活動に対する評価も、卒直にいったもっと僕は激しい否定とならねば駄目だと思う(俳句 8月 120)

○やはりみんなに祝福されて送り出されるような結婚でないと駄目ですね(婦人公論 11月 219)

このグループのうちわけは[15.1]のとおりである。

[15.1]

(つぎの語)	ば	と	たら
よい(よろしい)	37	11	14
いけない	15	5	-
だめ	5	2	-

このうち、「いけない」「だめ」という否定的な評価をあらわす語が次につづくものは、全部「～ないと」「～なければ」のような否定条件であり、全体としては「～ないといけない」のように二重否定の形で積極

的にすすめる意味をあらわすものばかりである。「～といけない(だめ)」のばあいには、前に肯定の表現も来るはずであるが、実際には7例とも否定が先行していた。これに対して、次に「いい」がくるものは、「ば」に「施術を誤らなければいいが」というのが1例あるほかは、全部肯定的な条件である。(なお、類似の表現として「～ては(いけない etc.)」のばあいをしらべると、「いけない」17「だめ」5「ならない」15である。)

「～(なけれ)ばいけない(だめ)」と「～(ない)といけない(だめ)」とのあいだにはほとんど差がないように思われる。

「～たらよい」「～ばよい」「～とよい」の三つをくらべると、「～たら」がほとんど完全に「～ば」におきかえられるのに対して、「～と」と「～ば」とのあいだには多少の差がある。それは、「～とよい」がやや積極的に聞き手にある行動をすすめており、「～方がよい」「～なさい」に近づくのに対して、「～ばよい」は時に「～ばそれですむ」という、消極的なニュアンスをとまなうことである。

つぎの例を比較されたい。

○お兄さんから「朝日新聞のおじさんに、お礼じょうを出すといいよ」といわれたので、さっそく書きました(週刊朝日 9月9日 84)

○学徒動員が始まってどの学校でも授業を止めて工場へ行くようになった時に、一番最後まで行かずに残っていたのも彼女の学校であった。

「勉強しとりゃあ良えんじゃ」

そう校長は云うだけで、対外的な思惑は気にしていなかった(知性 6月 273)

「～さえ～ばよい」という表現の中の「～ば」が「～と」におきかえられないことも、このことに関係があるのであろう。

○A工場からB工場にかわっても、賃金が同じです。社宅さえあればいい(ダイヤモンド 1月21日 30)ただし、このようなニュアンスが、すべての「～ばよい」「～とよい」に一樣につきまわっているわけではない。特に、つぎに「よいが」がきて、話し手の希望をあらわすばあいには、「～ば」でも「～と」でもちがいは見られない。

○これがうまく行くとよいが、そうでないと経費増が何時までも続き、当社の収益面を圧迫することになる(ダイヤモンド 4月21日 78)

○これから、会社がミュージカルズに本腰を入れて考えてくれるキッカケになればいいかと、真剣に思います(婦人画報 8月 100)

「～ばよい」「～とよい」のちがいについてこれ以上調べるには、資料をもっとふやさなければならぬ。

(2) 前 お き

a) 題目の提示

- 合作映画といえれば必ず思わしからざる結果を招くものとの定説を、かぼそい八千草が健気にも、うち破ってくれたのだから(サンデー毎日 4月15日 10)
- 漂白というとおっくうがる方もありますが、次亜塩素酸ソーダ(商品名オーヤラックス、小瓶一五〇円)を使うと簡単に漂白できます(主婦と生活 6月 72)
- 東京や大阪の後援会になると、絶対といっているほど、そんなことは聞かない(娯楽よみうり 5月11日 15)
- アメリカ人のデブちゃんだと体重200ポンド以上というのはザラにいるから(ポピュラーサイエンス 12月 12)

b) 発言内容についての注釈

- このほかに目ぼしい作品をあげれば、トルストイの「復活」を日本流に翻案映画化した山本薩夫監督の「雪崩」…(中略)…などがありました(映画ファン 6月 132)
- いま、東日本の各地について植え付け期をみたとき、いつごろまでならさしつかえないのか、その限界を示すと、つぎのとおりです(家の光 11月 188)

c) 表現形式についての注釈

- 換言すれば七月三十一日までは自然休会となっているロンドンの話を、日本がやってみたらいい(東洋経済新報 6月9日 54)
- 法政大学院ビルは夜になると、ちょうど人間でいうと頭にあたるところに、鉢巻のように細く長く HO SEI UNIVERCITY GRADUATE SCHOOL という青い色のネオンがつく(知性 3月 34)

d) 根 拠

- まず清水幾太郎氏の論文によれば、革新政党が議席の三分の一をとったといっても、けっして安心ということはできない(知性 11月 42)
 - ルイスとは何度もやってるが、今迄の経験から考えると大したことはなかり(ファイト 2月 24)
- このほか、比較の基準(「～にくらべれば(くらべると)」)、話し手の判断であるむねの注釈(「思えば」「考えてみると)」などいくつかの小分けを立てることもできると思われるが、これらのあらかず意味は微妙できちんと分類しきれない。

この「前おき」をふつうの「客観的条件」から区別する特徴は、それが次元のちがうものをつないでいるということである。すなわち、つぎにのべる客観的条件では、「ば」「と」などのついた従属句も、これにつづく主文も、ともに話し手をはなれた客観的なできごとであるのに対して、前おきのばあいは、主文のあらかずのは客観的なできごとであるが、従属句の方は題目の提示にせよ主文への注釈にせよ、話し手のはたらきを示している。

「ば」「と」などのついている語は、元來は動詞ないし助動詞であるが、ここではすでにその本来のはたらきを失って、後置詞的なものになっている。

- しかしこの頃の娘は我が子でも親の意志のままにはゆかん。もしあれがどうしてもイヤだと云えば諦めて下さるのじゃぞ(小説と読物 9月 360)
- のばあい、「云えば」は話し手をはなれた客観的なできごとであり、このことは、その動作の主体「あれ」があきらかにされていることで示される。これに対して上にひいた例の「合作映画といえば」や「人間でいうと」では、「いう」の主体はあきらかでない。このことは「前おき」の特徴の一つである。(ただし、客観的条件でも、一般的な条件で主語のない方が自然なものが少なくないから、これはそれほどきわだった特徴とはいえない。)

「前おき」と「客観的条件」とのあいだには、はっきりした線はひきにくい。かぞえ方によって多

[15.2]

	ば	と	たら
「だ」「です」「ます」に	-	16	12
それ以外に	86	110	2

少うごくはずだが、一応「前おき」に属するとおもわれるものの数をかぞえてみると、[15.2]のようになる。「～ば」と「～と」が大差ない

のに対して、「～たら」が少ないのが目立っている。

(3) 客観的条件

ここには、[15.3]のように、大多数の用例が属している。

[15.3]

ば	と	たら
292	482	186

このうち、おきかえられないものとして、まず主文に命令・すすめ・許可・希望・意志などの表現(命令形・意志形とはかぎらない)がきたときの「～

たら」「～ば」がある。これは「～と」ではいえない。

- これは、お作りになったらすぐ召上って下さい(小説倶楽部 8月 79)
- 炒められましたら別の器にとって、葱と生姜を取りのけます(若い女性 1月 198)
- 出来ればそれはさけた方がよい(それいゆ 40号 159)
- よかったらお出でになりませんか(講談倶楽部 4月 37)
- 軍備に使う金があったら、教育や文化、生活の方に回すべきだと思ふようになってきた(文芸春秋 9月 98)
- 私と女房の名から一字ずつ取って洋樹(ひろき)としたら、という案も出ましたが(娯楽よみうり 1月6日 35)
- 洪積土壌に限り播種後の覆土、鎮圧に注意すれば使ってさしつかえない(農業世界 3月 155)
- 真違っていたら其の時は其の時で頭を下げればいい(葦 11月 38)
- 震えのとまらぬ薬があったら飲みたいね(笑の泉 2月 57)
- まだ中等科だったころ、例のアメリカの女教師が「卒業したら何をするつもりか」というテストを皇太子グループの全員に書かせたことがあった(キング 6月 70)
- いつか、私にふさわしい人にめぐり会ったら、結婚はするわ(主婦と生活 1月 206)

このような表現のもの数は[15.4]のとおりである。

[15.4]

	ば	と	たら
「だ」「です」「ます」に	-	-	12
その他に	6	(2)	36

「と」にこのような用法がないのは、「と」が前件と後件とのあいだの自然・当然な結びつきをあらわしているためであろう。つまり後

件が前件の当然の結果として展開されるために、意志によって左右されることが後件たりえないのだと思われる。

なお、上にあげた例のうち、最初の「お作りになったらすぐ召上って下さい」は、「ば」ではおきかえられない。例が少ないのでこれについて分析することができないが、つぎの条件がみられたばあいは、「たら」以外は使えないようである。

- 1) 後件が命令であること
- 2) 前件が動作性の表現であること
- 3) 前件と後件の主体が同じであること

上で「と」とのところにかっこをつけてあげた2例は、つぎの二つである。このように後件が意志であるとき、前件の主体が後件の主体と一致しなければ（つまり二人称、三人称であれば）「と」が使えるようであるが、くわしい条件はわからない。（「受けない」は意志ではないともみられる。）

○これからは、竹あんさんか、竹兄哥とかいわねえと承知しねえぞッ(読切小説集 9月 96)

○このニュージョージア州では、この手続をする前、必ずバリアデス公園にある「愛のトンネル」を、その妻君と腕を組んで連続六十六回通らなければならないことになっているそうです。そうしないと手続を受けないというわけです(婦人画報 7月 246)

つぎに、やはり「～と」でおきかえにくいものに、「～さえ～ば」という十分条件の表現がある。これには

一般的な条件(超時)

○女という奴は、肉体を奪いとりさえすれば、必ず寄りかかってくるものなんだ(週刊読売 3月4日 49)

一般的な条件(過去)

○嫁をもらったときにジャズマンで/人に会いさえすりゃいったもんだ/「今度のあ ええぞな/なんしろおみゃーさん/いくずりもって来たと思やーす/牛車に三杯だぞな」(人生手帖 5月 122)

未来の仮定条件

○つまり、この娘さんは切符を失くしたのだから、行先までの代金さえ払えば、このまま網走まで行ってもいいわけなんでしょうね(小説サロン 1月 215)

などがあるが、どれも「～と」でいうのはむずかしいようである。「～さえ～たら」という言い方はありうるはずだが、標本には現われなかった。

「～さえ～ば」の形の用例は15例あった。

動作がひきつづいておこったことを示す用法が「と」にはある。43例。これは「たら」でも「ば」でもおきかえられない。

○久栄は、岸田のそばに寄り添って坐ると彼のひざに手をおいた(キング 7月 77)

○駈者村越欣弥は氣を揉む白糸を馬に乗せると、金沢までつっ走った(映画ファン 8月 169)

○仲間風の男が素早く書状を門内に押しこむとさっと走り去った(映画ファン 12月 175)

などのように、主語が前件よりも前にあるばあいにくらべて、

○奥まった椅子に腰をおろすと、また、平助は懐中から手紙を出した(小説の泉 4月 259)

○映画館を出ると、英一はすぐ不三子に別れを告げた(講談倶楽部 2月 34)

○焼場から帰るとかめは酒を飲み始め、仲間が止めるのもきこうとしなかった(小説春秋 10月 161)

のように、主語が前件と後件とのあいだにあるときは、まだしも「たら」にしたばあいの不自然さがすくないかもしれない。

一般に、条件表現とは、前件と後件とが独立した現象である場合のものであるが、この「と」によってつながれる二つの動作は、むしろ両者を通じて一貫した全体をなすものであり、動作の主体も前件のはじまる以前にすでに後件の実行を予定しているようなものであることが多い。それで厳密には、これを条件表現というのは適当でなく、時間的な継起の表現というべきであろう。主語が前件の前にあるとき、この「と」は「たら」でなくて「て」でおきかえることができる。

この用法の「と」があらわれるのは、つぎの条件がみたされたばあいのようにである。

- (1) 過去のできごとであること(すなわち既定条件)
- (2) 前件・後件とも、意志的な動作であること
- (3) 前件と後件の主体が同じであること

ここで意志的な動作というものは、受け身・「～ている」などの状態性表現・「気がつく」「おどろく」などの精神活動をのぞいた、客観的に感覚でとらえられる動作で、しかも人間などが意志的に行なった動作である。

(1)および(3)の条件がみたされていても、以下の例のように、(2)の条件がみたされないものは、この類に属さず、「たら」でおきかえうるものが多い。

○宿泊料千五百円を請求されると、横浜へ帰ってから県庁へ払いこめば同じことだろうとそぶく始末(週刊東京 8月11日 8)[前件が意志的な動作ではない]

○兎を打ったと思って歩いて行くと、死体につき当たった(小説新潮 4月 127)[後件が意志的な動作ではない]

ただし、客観的・具体的な動作であれば、かならずしも意志的でなくとも、この継起の類に属することがある。

○ものの小半丁と走らぬうちに、何かに躓くと、もんどり打って倒れた(小説の泉 1月 437)

一方、上の三条件をみたす位置には「たら」はほとんど現われない。既定条件に用いられた「たら」36例中、三条件を不満足ながら(後件が省略されている)みたしたものは、つぎの1例にすぎない。

○家へ帰ったら一人は「おい、○○というスポンサーがついたから、もう○○は買わなくてもいい、キットたくさんくれるだろう!」もう一人は「スポンサーに○○がついて下さった、きょうから家でも○○だけを買うんだぞ」(サンデー毎日 7月8日 53)

残りの標本(みな「客観的条件」に属するものであるが)を、つぎの三つの観点から分類する。

- (1) 結びつき的一般・個別のちがい
- (2) 既定か仮定かのちがい
- (3) 前件のおこる「時」のちがい

一般的な結びつきというのは、「ちりもつもれば山となる」のように、前件のもとではいつでも後件がおこることを示したものである。これに対して、個別的な結びつきとは、「(ある特定のときに)ちりがつもったら、(たまたま)山となった[なるだろう]」のように、前件のもとで後件のおこることが偶然的、そのほかぎりのものである。

既定条件は、前件が発話のとき以前に成立していたもの、仮定条件は未成立のものである。この区別はおもに個別的な条件についてなりたつものである。「ちりもつもれば山となる」のように一般的な真理・判断を示すものは、「これまでも山となってきたし、これからも山となるであろう」というように、発話のとき以前のも以後のもひっくるめた、ないしはこの区別に無関心な表現であって、既定・仮定の区別はたてられない。

時のちがいとしては、過去・現在・未来のほかはこれらの区別に関心のない、超時間的なものがある。既定・仮定の別のない一般的な結びつきがそうである。

以上が区別の原則論であるが、これを実際に適用してみるとまよらばあいが少ない。その第一は、

○チョコレート・グレイのような色調のジャージなどで作れば外出着にもなります(ドレスメーカー 11月 153)

のような例を超時間的な、一般的な結びつきとみとめるか、それとも、未来の仮定条件をあらわす個別的な結びつきとみるかということである。(この例は前者にかぞえた)

第二に

○宮様は、例の「古代オリエント史」の講述を放送されたのだが、相手がいないとどうも声が出ない。そこで放送局の女性二人が聞き役になって始められた(週刊新潮 7月23日 17)

の「いないと」のような例を、超時間的な、一般的な結びつきとみるか、それとも「声が出ない」をいわゆる歴史的現在の表現として、過去の既定条件にかぞえるか、ということである。(この

[15.4]		ば	と	たら	例は、後者に入れた。)	
一般	……超時 ①	155	176(18)	18(1)	このように見方によつてどこに分類されるかがってくる例もあるので、[15.4]にあげる数字も絶対にうごかないものではない。	
	……過去 ②	2	9	-		
個別	既定…	過去 ③	9	187(9)	38(1)	以下、一つ一つの例をあげて説明する。
		現在 ④	8	3	-(1)	
	仮定…	過去 ⑤	14	-	13(2)	
		現在 ⑥	8	5(1)	7(3)	
		未来 ⑦	74	28(1)	53	

上の表でカッコの中の数字は「だ」「です」「ます」についているもの(つまり「ば」が現われない位置のもの)の数である。この数はカッコの外の数にふくめていない。

① 一般・超時

○消化のよい食べ物をそろえ、食後の甘いものをきらさなければ、だいたい文句はいりませんね(週刊読売 9月2日 59)

○「羽衣」娘道成寺を踊れば不思議によく縁がまとまるという“信仰”があり(婦人画報 10月 168)

○註文主が入頭身の美人であったりすると、ほくは情熱をこめて、仕事に励みます(明星 1月 137)

○表[ひょう]をよく見て水を入れないと、失敗をやります(暮らしの手帖 56号 167)

○あとは順次満期になるまで毎月貯金し、満期になったら勧銀はメーカーに金額を支払う(週刊東京 6月16日 6)

○もしだれかが一階の食堂にいたら、この寝室での会話は、筒抜けに聞えるに違いない(婦人朝日 3月159)

一般・超時では「たら」の少ないのが目だつ。「ば」「と」の中には「たら」におきかえやすいものと置きかえにくいものがあるようだが、そのちがいはあきらかでない。

② 一般・過去

○肉を斬らせて骨を斬る白兵近接戦法でなければ、日本の航空兵器はモノの用に立たなかった(丸 8月37)

○そんな忠告でもする人間があると、彼は憎しみの籠った目で相手を見詰めた(中央公論 8月 325)

○はじめ左喬とっていた時代は、本格的な落語をやっていたが、さっぱり人気が出ない。そのうち、いかなる動機からか、ヘンな英語をいれて、「われわれサード・クラスのは」なんてことをいうと、うけ

るようになりましね(週刊朝日 2月12日 26)

「たら」がここにはないのは偶然であって、この種の条件が「たら」であらわせない、ということはないであろう。しかしいずれにしても、「と」が「たら」に比べて多い(おそらく「ば」よりも多い)ことはたしかだと思われる。

上の「～ことをいうと、うけるようになりましね」という例で、「いうと」は意味的に「うける」にかかっており、「いうとうける」という状態が過去に何度もくり返されたことを示している。これを「いったら」にかえると、「いったら」は「なりましね」の方にかかり、「(あるときたまたま)いったら(それ以後)うけるようになった」という意味になるであろう。このことは、「と」の方に一般的な、くり返される結びつきを示す傾向があるのに対して、「たら」の方がその都度その都度の結びつきを示す傾向をもっていることのあらわれである。

③ 個別・既定・過去

○ころまで言われれば、田川も恒子の愛情の方向に気がついて、がっかりし、おこわをさっさと口へ運びはじめた(講談倶楽部 12月 38)

○その連絡船の甲板から、じっと暗い海をみつめれば、今更のように、この数カ月、めまぐるしく変わった自分の運命が思われた(明星 4月 115)

○④だが若ノ花の腰の構えは充分/⑤成山を土俵際に圧迫すれば/⑥成山右足を俵にかけて残したが/⑦若ノ花の激しい上突張りの連発に/⑧遂にこらえきれず土俵を割る(相撲 11月 21, 写真の説明)

○湿った床が心地よくきしむテラスに出ると、折しも夕日が樹々を染めぬいていた(小説サロン 12月 179)

○田原に着くとさすがに耐えがたく睡たくなった(新潮 5月 119)

○金屏風を運んでいたら、消防署の人が入ってきた(別冊小説新潮 1月 77)

個別・既定・過去では「と」が圧倒的に多いが、「たら」とのあいだに意味のちがいはなさそうである。「ば」はあまり使われず、ややかたい、ないしは古い文体的なニュアンスがつきまとう。写真の説明は現在とみるべきかもしれない。

④ 個別・既定・現在

○ふりかえれば西の山里も朝日をうけて/その上に菊日和の今日の空が真青だ(婦人之友 11月 27)

○そんなことに対する敏感さが、又、よく考えれば、はっきりわかってくる気がします(婦人画報 7月 155)

○装苑は広告が多いという人がおります。あんなに多ければもうかるだろうという人もいます(装苑 10月 226)

○この舞台から見渡すと、向いの山も、谷の木々の一葉一葉も、そこかしこに甲高い声をあげて子供のようにならげに遊びたわわっている女達の華やかな着物や帯の色彩も、一つ一つ研ぎ出したようにはっきりと見える(小説春秋 12月 172)

○妊娠していればメンゼスは必ずとまりますから、あなたのように六月からあるのであれば、その心配はいらないでしょう(明星 11月付録 108)

ここに属するものは数も少なく、それ程問題が見つからない。

⑤ 個別・仮定・過去

○彼女はナポレオンに従ってエルバ島に渡ろうと思えば渡れたであろう(婦人倶楽部 2月 240)

○あの貼紙がなければ、とても女と一緒にいったなど、疑える態度ではなかった(講談倶楽部 3月 222)

○これで目が大きかったら、役者になっていたかもしれん(小説新潮 7月 52)

標本には「と」の例がなかったが、「と」による表現もありうると思われる。ただし、動作性の表現については「と」であらわしにくいかもしれない。上の「思えば」や、下の「とっとけば」「つづけておったら」を参照。

○われわれ、少年時代から牛乳だとかカルシウムのたくさん入ったものをとっとけば、まだいい身体になっとったと思うんですがね(ベースボールマガジン 8月 196)

○もしあのままつづけておったら私はとっくの昔に死んでいたでしょう(保健同人 7月 58)

⑥個別・仮定・現在

○増資後配当は一分六厘とみればかたい(東洋経済新報 3月17日 74)

○もし抵抗が必要だとすれば、それはいったい何であろうか(知性 11月 66)

○皆、君のようだと助かるんだが(オール読物 1月 199)

○あれが太陽族というものだとしたら、何と、太陽族の人々は可哀そうな人々だろう(近代映画 10月 138)

○敵弾を喰わなかったのは自分の技倆が上手であったからだ——などという人があつたら、それは大嘘である(丸 8月 37)

この辺も一般的な結びつきとの区別がややあいまいである。

⑦個別・仮定・未来

○結婚していれば、君は若くして未亡人になるだろう(面白倶楽部 10月 309)

○よくはたらいたり闘ったりすることは、その時代がくればできるのだから(群像 8月 67)

○子供が生れると、女房の愛情が子供に一辺倒になる可能性があり、ヒヤヒヤしている次第です(娯楽よみり 1月6日 35)

○悪くすると、藤兵衛の罪の一端を背負って重い刑になるかも知れない(小説の泉 2月 364)

○あと三分もしたら、恐らく、ぶつたおれてしまうだろう(文芸春秋 10月 323)

○今度の芥川全集を繰ってみたら、もしちゃんとしたことが分るかも知れないが、いまはその余裕がない(旅 9月 18)

ここでは「ば」「と」「たら」に差が感じられない。

以上をまとめて「ば」「と」「たら」のおもな特徴をくり返すと、

「ば」

◇文語でも使われる

◇「～さえ～ば」という表現がある

◇過去の既定条件にあまり使われない

「と」

◇命令などの前にこない

◇継起の表現がある

「たら」

◇前おきに少ない

◇命令などの前によくくる

◇一般的な結びつきに少ない

一方、これら三者に共通ないし二者に共通の性質もかなりあり、これらをかたんに規定しわけるとはむずかしい。またあまり単純化することは無意味でもあるだろう。しいていえば、つぎのような傾向があるといえるかもしれない。

「ば」は条件を示す(すなわち、そのうらに「～でなければ後件はおこらない」ことをふくむ)。

「と」は客観的な継起を示す。

「たら」は個別的・その都度的な状況を示す。

「なら(ば)」が活用語について仮定条件をあらわすことがある。これは、つぎの三つにわかれる。

1) 現在形につくもの—27例(以下「～るなら」で表わす)

2) 過去形につくもの—10例(以下「～たなら」で表わす)

3) 「～う」につくもの—1例

3)の例はつぎの一つで、やや古い文体に属するものである。

○ここが見世場の、春水えがく原文を、ありのまま読者にお伝えしようならば(小説倶楽部 2月 392)

1)と2)とはともに過去・現在・未来の仮定をあらわすものにもちいられる。ただし、標本の中には、「～るなら」で過去の仮定をあらわすものはなかった。また、「～るなら」が過去のことにもちいられるについては何らかの制約があるであろう。しかし今回はそこまで立ち入った分析はできなかった。

「～るなら」

(現在)

○そういう不満があるなら、党を離れるべきだ(東洋経済新報 11月10日 22)

(未来)

○もし、政府与党が自分勝手な案を押し通そうとするなら、われわれ選挙民は投票によって自分たちの意思を明示し、彼等にその非を悟らせたい(週刊サンケイ 4月22日 84)

「～たなら」

(過去)

○その頃から何か一つ身につける努力をしていたなら現在無形の財宝を積んでいたかも知れない(保健同人増刊 56)

(現在)

○あんな大人の人ばかりだったなら、何んて素晴らしいだろうと思っちゃうのです(スタイル 4月 100)

(未来)

○六〇〇トンの石炭を荷揚げしたのち、貴重な異国の香料、宝石、絹、更紗のたぐいを満載して立ち帰ったなら、チームズのマドロス、仲仕の野郎どもは、あっとばかりにドギモをぬかれ、〃お見それ申し上げましたと頭を掻くにちがいない(小説倶楽部 6月 290)

「～るなら」と「～たなら」は、おきかえられるばあいも少なくないが、つぎのようなちがいもある。すなわち、「～たなら」が前件の完了を条件とし、後件は前件よりも時間的にあとのばあいにもちいられるのに対して、「～るなら」はかならずしもそうでない、ということである。逆に、前件の方が後件よりもあとにおこるばあいもあるのである。

○彼は思わず立止って、帰るならば後戻りしなければならぬと考えた(別冊文芸春秋 53号 117)

この例で前件「帰る」は後件「後戻りする」よりも時間的にあとである。あるいは、「後戻り」を「帰る」ことの一部分と考えるにしても、「後戻り」の方が先におわる行動である。すなわち、後

件は前件の完了を条件にしてはいない。後件の前提条件は、前件の実現が予定されていることである。上の「帰る」やつぎの「殺す」のような意志的な動作のばあいには、前件実現の意志を条件としている、ともいえる。「帰る(殺す)つもりなら」といいかえることができるであろう。

○新助どん、わしを殺すなら、殺しなさい(小説新潮 4月 221)

このように「～るなら」と「～たなら」のあいだに、予定ないし意志を前提にすると、完了を前提にするのとの対立がみられるのは、「なら」のつかない現在形「～る」と過去形「～た」とのあいだにある、アスペクト的、ないしはムード的なちがいが、そのままもちこまれているわけである。

実例がなかったのでふれなかったけれども、予定・意志を前提とする用法は「～ば」にもあるはずである。「きみがあした行ってくれれば、ぼくがきょう行かなくてもすむ」のように。「～たら」にもあるかもしれない。いずれにしても、「～ば」と「～たら」とのあいだには、現在形と過去形とのちがいに平行するちがいは、「～るなら」と「～たなら」ほどにはつよく出ていない。

なお、「～たなら」は、「～ば」「～たら」「～るなら」などよりも、仮定的なニュアンス、現実の事態に反する、というニュアンスがつよい。

○僕は「月給はいくらでもいいから、一万円出す用意があるなら入っていい」と言った(ベースボールマガジン 2月 100)

の「あるなら」は「あったら」や「あれば」にはおきかえることができる。しかし「あったなら」にはならない。これは、用意があるかどうかはすでに確定していることであり、それに対して「あったなら」というのは現在までに用意がないときの表現だからであろう。(この例が「あると」ではいけないのは、つぎに「入っていい」という意志の表現があるためである)

(16) 条件の表現〔二〕……「なら」「ならば」

仮定をあらわす「なら」は、このままの形で使われるときと「ならば」の形のときとある。この両者を比較する。

[16.1]

層	なら	ならば	計
一	13	8	21
二	24	4	28
三	15	9	24
四	13	3	16
五	45	5	50
全	110	29	139

[16.2]

	なら	ならば	計
硬	28	17	45
軟	82	12	94
計	110	29	139

層別にみると[16.1]のとおりで、二層、四層、五層および全体について、「なら」は

「ならば」より多いといえる。また、比較的<かたい>一・三層と、<やわらかい>二・四・五層と

[16.3]

	なら	ならば	計
地の文	68	22	90
会話文	42	7	49
計	110	29	139

にわけると、[16.2]のようになり、「ならば」はかたい層に出やすい。 $\chi^2=11.531^{***}$, $\nu=1$. [16.3]のように、地の文と会話文とに分けると、「ならば」は地の文に多いようである

[16.4]	なら	ならば	計
名 詞	48	10	58
形容動詞語幹	6	-	6
代 名 詞	11	1	12
副 詞	10	3	13
活用語+の	5	-	5
名詞+格助詞	6	1	7
動詞連体形	19	6	25
である	1	-	1
活用語+た	3	7	10
活用語+ない	1	-	1
動詞+う	-	1	1
計	110	29	139

が、統計的に有意差はない。 $\chi^2=1.983$, $\nu=1$.

接続から分類すると[16.4]のようになり、助動詞「た」につづくばあい他のはばあいに比べて「ならば」の出る率がたかい。これは「なら」がより提題的であるのに対して、「ならば」の方がより仮定的であることを示すものと思われる。

参考:(1) 「なれば」で仮定を表わすものとして次の2例がある。

○いくなればチャールズの“太平洋戦争回顧録”である(週刊新潮 6月26日 14)

○そして戦うなれば対ソであると述べている(日本週報 1月5日 6)

参考:(2) 「～たら」は215例あるが、「～たらば」は0である。

(17) 条件の表現[三]……「ても」「とも」

接続助詞の「ても」と「とも」は形容詞や形容詞型の助動詞につくばあい同義的である。「ても」と「とも」との接続上の分類で、つぎの(1)～(4)までは共通する。

	例	ても	とも	計
(1) 形容詞に	せまくても(とも)	9	3	12
(2) 助動詞「たい」に	いきたくても(とも)	1	-	1
(3) ～くなく ～でなく	伝統ではなくても(とも)	2	2	4
(4) 動詞+なく	見なくても(とも)	9	3	12
	(小 計)	(21)	(8)	(29)
(5) 動詞連用形に	行っても	346	-	346
(6) 助動詞「である」に	人であっても	8	-	8
(7) 助動詞「ます」に	行きましても	1	-	1
(8) 助動詞「ない」に	見ないでも	1	-	1
(9) 助動詞「ん」に	行かんでも	2	-	2
(10) 助動詞「ず」に	言わずとも	-	1	1
(11) 「少なくとも」注		-	5	5
	(小 計)	(358)	(6)	(364)
	計	379	14	393

注) 「少なくとも」と同義のものはふくまない。

(1)～(4)の用法についても、「ても」の方が「とも」より多く使われているといえる。 $\chi^2=5.825^*$, $\nu=1$. なお、「とも」は「ても」よりも文語的な語感をともなるが、標本に出てきた「とも」はすべて口語文中のものである。

(18) 命令の表現……「ろ」「よ」

「見ろ」「せよ」のように、普通の文法で一段活用・サ変の動詞の命令形語尾とされている「ろ」

ろ		よ	
命令	26	命令	8
～にしろ	3	～にせよ	8
何しろ	17		
計	46	計	16

「よ」は、今回の調査では、助詞としてあつかっている。そのうちわけは、つぎのとおりである。

「よ」が命令につかわれた例は、俳句1, スローガン1, 電報1, 文語口語の入りまじった布告文1, 文章の標題2, 時代物小説の殿様のことば1で、他の1例

は「～あらしめよ」という文語的な言いまわしのものである。これに対して命令の「ろ」の方はほとんど全部が話しことばをうつしたものの中に出ている。

(19) 推量の表現……「う」「だろう」「まい」

助動詞「う(よう)」は、活用語について推量の意味をあらわすのに用いられることがある。

○マス・コミの反共産主張の力点のおきかたの強弱をかなり忠実に反映しているといえる(知性 6月 98)

しかし、現代語では、同じ意味をあらわすのに、むしろ「活用語+だろう(でしょう, であろう)」の形を用いる方が多い。^{注1)}

○改宗する者たちに、新政権は、そう命ずることができるだろう(週刊朝日 3月25日 30)

両者のあいだに意味のちがいはみとめられず、前者の方が文章語的であるという文体上の差があるだけである。以下、前者を「～う」の形、後者を「～だろう」の形とよぶことにする。

両者の使用度数を比較するにあたって、まず「用法別度数表」に〈推量〉の用法としてあげたもののうち、つぎの二つの用法に属するものは除いておく。いずれも「(活用語)+だろう」の形では用いられないものである。

(1) 「～う」と「～うが」「～うものなら」の形で仮定を表わす用法。

[19.1]		
層	(1)	(2)
一	2	2
二	3	2
三	-	5
四	6	2
五	6	3
全	17	14

○あとは焼いて食はうと煮て食はうと、こっちの意のままだ(小説新潮 4月 36)

○日が暮れようがどうしようが、一切かまわない(婦人生活 12月 282)

○たとえアルバイトであろうと、舞踏会の席上では楽士は楽士だった(小説サロン 12月 179)

○電車の二停留所もあろうものなら、まず「お車」(婦人朝日 12月 157)

(2) 「～うとする」「～うという」の形で直前の状態を表わす用法。

○ボートは幾度も、波をかぶって海底へ巻きこまれようとした(小説の泉 1月 208)

○アメリカの景気は今秋からよくなることは間違いない。世界的に盛りかえそうという時に、日銀が消極的なことを言っているのは困る(東洋経済新報 7月21日 26)

「だろう」「でしょう」などを、無活用語(名詞・副詞・準体助詞「の」など)についたものと、活用語(用言・助動詞)についたものとにわけると、[19.2]のようになる。(文頭にあるものは無活用語についたものとみなす。)

注1) 「だろう」は「だろ+う」と分析されるのが普通であるが、断定の助動詞「だ」は活用語に直接はつかない。それで、「だ」や「う」と別に、「だろう」全体で一つの推量の助動詞であるとする説(木枝増一・時枝誠記など)もある。

[19.2]

	だろう	であろう	でしょう	であり ましょう	でござい ましょう	でござろう	やろう(方言)
無活用語に	102	59	84	-	2	2	-
活用語に	104	36	99	1	-	-	2

以下、「～う」の形の方では文語の形「む」, 「～だろろう」の形の方では関西方言の「～やろう」各2例を対象から除く。

まず、「～う」「～だろろう」を, そのついでに品詞(および語)ごとにみると, つぎのとおりである。×はそこにあたる形がないもの, ?はありうるかどうか疑問のものである。

[19.3]

	～う	～だろろう	(うち わけ)	だろう	であろう	でしょう	でありましょう
動詞	43	122		62	21	38	1
形容詞	12	51		20	3	28	-
助動詞	13	21		4	5	12	-
た	7	43		18	7	18	-
ない	12	1		×	×	1	?
ます	×	2		×	×	2	?
(ませ)ん							
計	87	240					

このように, 「～う」と「～だろろう」の比は大体 1:3 であり, 「～だろろう」の方がずっと多い。

つぎに, 「～だろろう」のうちわけを無視して, 品詞別・カテゴリー別にみると, [19.4] のようになる(助動詞の「れる(られる)」「せる(させる)」は動詞の一部としてあつかった。)

[19.4]

		～うの部				～だろろうの部				
		動詞	形容詞	だ・である	動詞	形容詞	だ・である			
肯定	普通	現在	～う	43	12	△注)	～だろろう	83	23	△注)
		過去	～たろろう	5	1	7	～ただろろう	8	-	-
	ていねい	現在	～ましょう	11	-	1	～でしょう	40	28	-
		過去	{～ましたろ う}	-	-	-	{～たでしよ う}	6	4	1
否定	普通	現在	～なかろろう	-	1	6	{～ないだろ う}	19	1	5
		過去	{～なかつた ろろう}	-	-	-	{～なかつた だろろう}	1	-	-
	ていねい	現在	—	-	-	-	{～ないでし ょう}	11	1	8
		過去	{(～ませ)な らろろう}	-	-	-	{～なかつた でしよ う}	1	-	-

注) △をつけたところは, 両形の対立がないので集計からはふいたところである。「(であろう)」に対して「であるだろろう」という形はありうるはずであるが, 実例は出てこなかった。

[19.5]

	～う	～だろろう	計
肯定	80	193	273
否定	7	47	54
普通	75	140	215
ていねい	12	100	112
現在	74	219	293
過去	13	21	34
計	87	240	327

カテゴリーごとに分けると[19.5]のようになる。ここから, 「～う」の形は

肯定と否定ではどちらが多いともいえない
 $\chi^2=3.746, \nu=1.$

普通とていねいでは普通の方に多い
 $\chi^2=22.030^{***}, \nu=1.$

現在と過去ではどちらが多いともいえない
 $\chi^2=2.628, \nu=1.$

「～う」の形がていねい体よりも普通体の方に比較的多いのは、「～う」が否定のていねい体にはないことが、ある程度ひびいているのであろうが、肯定のばあいだけをとっても、このような傾向はみられる。 $\chi^2=17.116^{***}$, $\nu=1$ 。これは、ていねい体の方が話しことば的であるのと関係があるであろう。

[19.6]

	～う	～だろう	計
動 詞	59	169	228
形 容 詞	14	57	71
だ・である	14	14	28
計	87	240	327

品詞別にみたばあい[19.6]のとおりで、分布に差がみとめられる($\chi^2=9.638^{**}$, $\nu=2$.)が、動詞と形容詞とのあいだには差がない($\chi^2=1.113$, $\nu=1$.)。

[19.7]

	～う	～だろう	計
動 作	23	86	109
状 態	31	37	68
計	54	123	177

つぎに、動詞の意味的な性格との関係をしらべる。ここでは動詞を、動作をあらわすものと状態をあらわすものとにわけた。後者は「ある」「いる」および可能動詞(「できる」「みえる」「わかる」など、意味的にみて可能をあらわすものもふくむ)

であり、前者はそれ以外である。ただし、「～ている」の形のもの、前者に入れた。また、助動詞「た」「ない」は、ここで問題にするような動詞のアスペクト的性格にある程度影響をあたえることが予想されるので、それらのついたものは除いた。したがって、前にあげたカテゴリーごとの度数表で、肯定の現在に属するものだけを問題にするわけである。集計の結果、「～う」は状態性の動詞に比較的多いことがわかった。 $\chi^2=11.844^{***}$, $\nu=1$ 。

[19.8]

	動 詞	形容詞	だ・である
普 通「～まい」	23	-	15
ていねい「～ますまい」	2	-	-

否定の推量には、このほかに「～まい」という形がある。これには現在形しかない。うちわけは[19.8]のとおり。

否定の現在だけをくらべると、[19.9]のよう

[19.9]

	～なかろう	～ないだろう	～まい
動 詞	-	30	25
形 容 詞	1	2	-
だ・である	6	13	15
計	7	45	40
普 通	7	25	38
ていねい	-	20	2
計	7	45	40

に、「～まい」は「～ないだろう」にくらべてていねい体が少ない。なお、「～まい」40例のうちには、動詞の「ある」についた「あるまい」9例、「ありますまい」1例計10例があるが、これには形態的に対応する「～なかろう」系、「～ないだろう」系の表現がないから比較するにはその点を考慮する必要がある。

(20) 否定の表現[一]……「ない」「ぬ」

動詞などにつく否定の助動詞「ない」と「ぬ」(「ん」をふくむ、以下同じ)には、意味のちがいはないが、接続などの文法的性質や文体上のニュアンスにちがいがあ

る。「ない」の総数が1483なのに対して「ぬ」は532であり、「ない」の方が約3倍である。しかも、「ぬ」のうち234回をしめる「～ません」のばあいはほかの「ぬ」とつながりがうすく文体的にもち

がっているのです、これを除いて考えると差はさらに大きくなる。

「ない」および「ぬ」には、それぞれ他方にないつぎのような用法がある。(「なかろう」も「ぬ」にない用法であるが、これは実例なし。)

なく(て、とも、なる)	67	ません	234
なかった(たら、たり)	209	(形容詞)からぬ	4
(ものたり)なさ	1	あらぬ(方)	1
計	277	計	239

このうち、「なく」「なかった」に対する「ぬ」系の表現としては「ず」「なんだ」があるが、この調査で「ず」は「ぬ」と別語とし、「なんだ」は全然出てこなかった。また、「(形容詞)からぬ」に対する「～くない」の「ない」も、動詞につく「ない」とは別語にしてある。

以上をのぞいた「ない」および「ぬ」は、一応入れかえることができる。(ただし、「いない」:「おらぬ」、「～てはいけない」:「～てはいかん」のように語彙的に制約されているもの、「知らぬが仏」のように慣用としてきまっているものがあるが。)しかし、用法上全然かたよがないわけではない。ここでは「ない」「ぬ」の用法をつぎの六つに分類してその数をしらべてみた([20.1]参照)。

- ① 終止法 終止形に「か」「よ」「ぞ」などの終助詞および引用の「と」のついたものもふくむ。
- ② 連体法 「どころか」「ように」「のは」「のだ」などにつづくものもふくむ。
- ③ 接続法[1] 接続助詞(「が」「と」「で」「ので」「のに」「から」「し」「けれど」など)につづくもの。
- ④ 述語法 「だろう」「であろう」「でしょう」「です」などにつづくもの。
- ⑤ その他の「ない」「ぬ」 「～ないも同然」「～ないべ」など。
- ⑥ 接続法[2] 「～なければ」「～ねば」

	ない	ぬ
(1) 終止法	452	89
(2) 連体法	431	110
(3) 接続法[1]	163	21
(4) 述語法	32	6
(5) その他	4	1
(6) 接続法[2]	124	66
計	1206	293

	ない	ぬ	
地の文	854	185	1039
会話文	352	108	460
計	1206	293	1499

「ぬ」系の中では假定形の「ね」が、「ない」系の「なけれ」に比べてよく使われており、また、(6)をのぞいて連体法とそれ以外とを比べると、「ぬ」は連体法のばあいによく使われている。これは「ぬ」の方が非口語的であり、そのような文章語的特徴は、陳述度の低い部分(つまり連体的な部分)によりよく現われる、ということの結果であろう。

地の文と会話文とを比較すると、[20.2]のとおりで、「ぬ」は会話文の中の方が多く使われる。 $\chi^2=6.524^*$, $\nu=1$.

つぎに、会話文中のものから、方言および時代ものの会話をひろってみる。

時代物の中に方言が出てきたばあいは方言の方を優先させる。方言は東部(関東・東北)系のものとして西部(関西・九州)系のものにわけると、「～てエ野郎ア…」のような俗語的表現だけでは方言とみとめない。結果は[20.3]のとおりで、「ぬ」は西部方言および時代物の会話の中でよく使われている。

[20.3]

	ない	ぬ
東 部 方 言	5	1
西 部 方 言	2	16
(不明) 方 言	1	5
時 代 物	3	21
そ の 他	341	65
計	352	108

[20.4]

	ない	ぬ
(1) 終止法	319	36
(2) 連体法	316	85
(3) 接続法[1]	104	9
(4) 述語法	20	-
(5) その他	-	-
(6) 接続法[2]	95	55
	854	185

地の文だけをとって「ない」と「ぬ」との用法をしらべると[20.4]のとおりで、「ない」の方では、さきに全体にわたって用法を分類した結果と大差ないが、「ぬ」の方では、(6)接続法[2]および(2)連体法のばあいに比較的よく使われるという性質が一層よく現われる。これは会話文までふくめると、西部方言や時代物の会話に使われるという理由がかさなるので、それだけ条件がぼけるためと思われる。

「～なければならぬ」の類の表現を分類すると[20.5]のようになる。(ただし、「ならぬ」「い

[20.5]

層	なければならぬ	ねばならぬ	ねばならぬ	ねばならぬ	ねばならぬ	ねばならぬ(中止)	ねばいかぬ	ぬといかぬ										
一	13	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	3	3	2	-	-	-	-
二	14	2	-	1	1	1	-	-	-	1	-	3	7	-	-	1	-	-
三	13	6	-	5	-	-	2	1	-	1	1	10	5	2	-	1	-	-
四	13	1	4	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-
五	8	1	4	-	7	1	1	1	1	1	-	6	4	-	1	-	1	1
全	61	11	8	6	10	2	4	3	1	3	1	22	21	8	1	2	1	1

かぬ」は、実例としては「ならん」「いかん」の形のものが多い。)これらの形のうち、「なくては」は「ぬ」系の表現におきかえられず、「なりません」は「ない」系の表現にならない。また、「なるまい」「ならず」は「ない」系「ぬ」系のどちらにも属さない。これらを除いて、「ない」系と「ぬ」系とがたがいに交換できる表現だけについて、「なければ」のような前部分と、「ならない」のような後部分と

[20.6]

	前部分			
	ない	ぬ	計	
後部分	ない	74	22	96
	ぬ	14	23	37
計		88	45	133

に、それぞれ「ない」系「ぬ」系の表現がどのくらいあるかをまとめると、[20.6]のようになる。

ここから、一般に「ない」系の方が多く、「ない」系どうし、「ぬ」系どうしが結びつく傾向が強い、といえる。
 $\chi^2 = 18.374^{***}$, $\nu = 1$.

(21) 否定の表現[二]…「ぬ」「ん」

否定の「ぬ」と「ん」とはもともと発音上のゆれにすぎないものであるが、用法の面からみてもいくつかがたよりがある。(「ぬ」と「ん」の比較にあたっては、仮定形の「ね」を除いた。)

まず、「ます」につくときはほとんどが「ん」である([21.1])。

[21.1]

	ぬ	ん	計
ま せ	ぬん 10	224	234
そ の 他	166	66	232
計	176	290	466

つぎに、左で「その他」としたものの用法を、「ない」との比較のときと同様に分類すると、[21.2]のようになり、連体法では、(1), (3), (4), (5)を一括したものに比べて「ぬ」の出方が高い。 $\chi^2 = 23.668^{***}$, $\nu = 1$.

[21.2]

	ぬ	ん
(1) 終 止 法	58	31
(2) 連 体 法	99	16
(3) 接 続 法	7	12
(4) 述 語 法	1	7
(5) そ の 他	1	-
計	166	66

[21.3]

	ぬ	ん	計
地 の 文	128	7	135
会 話	38	59	97
計	166	66	232

会話と他の文とにわけると、[21.3]のとおりであり、「ぬ」はおもに地の文で、「ん」はおもに会話文で使われて

いる。

つぎに会話文中の「ぬ」と「ん」を比較すると、「ぬ」は時代物、「ん」は方言の中でよく使われている。

[21.4]

	ぬ	ん	計
方 言 ^{注)}	-	19	19
時 代 物	21	-	21
そ の 他	17	40	57
計	38	59	97

注) 西部方言 14 不明 5

(22) 状態の表現……「た」「ている」

動詞による状態の表現にはつぎの三つの形式がある。(1)動詞が、本来、状態をあらわすもの(2)「動詞+た」(3)「動詞+ている」 ときには、つぎにあげる「ちがう」のように、一つの動詞でこれら三つの形をもっているものがある。

○私の意見は日本の医者の方考え方と多少違うところがある(文芸春秋 6月 160)

○万葉初期のとはちがった暗い低迷した趣き(葦 9月 77)

○これは、帝国憲法とまったくちがっている点である(中央公論 12月 264)

ただし、「動詞+た」の形式は、連体法のばあいにかぎられるので、以下の比較でも連体法のばあいだけを問題にする。また、連体法の中でも「帝国憲法とちがっていることは(～のは、～はずは……)」などのように形式名詞につづいて全体を体言化するようなものは、「動詞+た」ではおきかえられないので問題にしない。

動詞を動作性のものと状態性のものとおけて、別々にあげることにする。ここで動作性動詞とよぶのは、せまい意味での動作ではなく、変化・作用などもひっくるめた広い範囲のもので、要するに状態をあらわすもの以外の全部である。

(イ) 動作性動詞のばあい

さっき帽子をかぶった人

という、「かぶった」はかぶるという動作がある時点以前に行なわれたことを示す。ここで「かぶった」を「かぶっている」にすると、その動作の結果が問題の時点までつづいている、という現在完了的なニュアンスがつけ加わる。しかし、いずれにしても、「かぶる」という動作についての表現である。ところが、

さっき、帽子をかぶった人がきました。

という、「かぶった」はその人がきた際の状態を表現している。事実としては、そのとき以前にかぶる動作がなされていなければならないのはもちろんであるが、この表現が直接あらわしているものは状態である。このばあいには「かぶっている」でおきかえても意味はかわらない。つぎの「乗った」などはこのような例である。

- 佐々木巡査の自転車に乗った姿があらわれた(娯楽よみり 7月 20日 21)
- 石炭を積んだ馬櫓が幾台もつづいてきて(傑作倶楽部 1月 242)
- 何百年の伝統のしみついている街の部分が(旅 2月 32)
- 撮影機を眼にあてている一益の姿を発見した(講談倶楽部 2月 393)

さらにつぎのような例になると、事実としても以前に「離れる」などの動作は行なわれておらず、完全に状態の表現になりきっている。

- ここから百五十マイル離れたバレンケーの遺跡で(オール読物 1月 300)
- 山また山にかこまれた広くもない沼が(新潮 5月 155)
- おいべっさんの川流れみたいに下にさがっている眉毛が(婦人朝日 6月 19)
- 部屋の四方をぐるっと取りまいてる歴大な鏡(オール読物 12月 202)

したがって、次に取りあげる状態性動詞のばあいにきわめて近いものである。ただ、「離れる」「さがる」などが動作の表現である点を考慮してここに入れた。

ここに属する用例の数は次のとおりである。ただし、動作の表現か状態の表現かは、まぎらわしいものがある。たとえば、上の「講談倶楽部」の例は、「撮影機を眼にあてつつある」という動作の進行の意味をあらわすともとれないことはない。それで、数え方によってはちがった数字が出るであろう。

[22.1]

層	た	ている
一	36	15
二	16	17
三	8	10
四	25	7
五	61	36
全	146	85

なお、「～ている」の形が状態をあらわすのは、動作性の動詞のうち、いわゆる瞬間動詞である。いわゆる継続動詞のばあいは、「～ている」は動作が進行中であることをあらわし、連体法では「～た」ではなくて動詞の連体形(これを「～る」で示すことにする)でおきかえることができる。

(ロ) 状態性動詞のばあい

「～た」の形の連体法で状態をあらわす状態性動詞は、ほぼ同じ意味を表わす用法として「～る」の形、「～ている」の形が別にあるかどうかで、つぎの四つに分けることができる。

	～ている		A群の例	
	あり	なし	異った味	ちがった感じ
～る	あり	A	C	た分野 動機を持った人間 川に沿った道
	なし	B	D	B群の例

しっかりした人物 獵犬に似た本能 馬鹿げた真似 ハムレットじみた心境 素人放れのした芸 婦人を連れたインド人 すぐれた映画 角ばった顔 見えすいた妨害 浮き浮きした表情 しゃれたアンサンブル きわだった転換 ふっくらとしたポケット まちがっ

た心得 下卑た言葉 気の利いたこと 才たけた女 手のこんだデッサン

C群の例

そういった場合は 日本の神経中枢といった感じ それに因んだ昔話

D群の例

大ソレた考え 表だった動き ちょっとした思いつき ふとした機会 こうした人々 ざっとしたいでたち ほのぼのとした愛情 主だったバラ団体 レッキとした右翼の闘士

[22.2]

層	A	B	C	D
一	7	13	10	8
二	4	18	9	13
三	3	5	8	13
四	8	23	5	13
五	13	40	14	31
全	35	99	46	78
異なり語数	18	64	5	20

([22.2]の異なり語数の計算では、「こういった」「…といった」や「ちょっとした」「ほのぼのとした」などをそれぞれ別語とした。)

「～ている」の形をもっているA群、B群についても、実際の文例では、おきかえ可能なものが少ない。これは、これら(特にB群)に属する語が、上にあげた例からもわかるように、連体法で「～た」、終止法で「～ている」という使いわけをされることが多いからである。

(23) 接続のちがいがい……「まい」「べし」の接続

助動詞「まい」は一段活用型の活用語につくとき、未然形・終止形の両方につくことができる。たとえば、「見まい～見るまい」「なぐられまい～なぐられるまい」。標本にあらわれたところでは、5例とも未然形接続であった。(うち3例は意志、2例は推量) また、サ変の動詞につくときには、「すまい」「するまい」「しまい」の三つの形がありうる。標本では3例とも「すまい」であった。(いずれも意志) カ変についた例はない。

助動詞「べし(べき)」は、文語において終止形と連体形とが別々の形をとっていたカ変・サ変・ナ変の動詞や二段活用型の活用語につくばあい、終止形接続のものと連体形接続のものとがありうる。標本の範囲ではつぎのとおりであった。なお、「見べき」「受けべき」のように連用形についたものは出てこなかった。

	文語の終止形に (例)⇒「流るべき」	文語の連体形に 「流るべき」	口語の終止連体形に 「流れるべき」	たものは出てこなかった。 二段活用につくばあい、文語終止形接続を残していることは、「べし」の口語文中での位置、その文体的な古さをもものが
二段活用		5	-	13
カ 変		1	-	-
サ 変		34	-	-

たっている。(上の数字はみな口語文脈の中に出てきたものの数である。純粹の文語文中に出てきたものは除外した。)

○毛物を洗ったときのすすぎは、温度を変えず、三・四十度の温水を用うべきで、オーバーフロー式だからといって、水道の冷水を使うことは禁物である(婦人公論 6月 320)

○但しそれは、単に「一般的」に行われているというものに過ぎないのであって、それが、この種の解雇処分には本質的必然的に附帯するものと考えべきではない(ジュリスト 9月1日 43)

一方、サ変のばあいに「するべき」という形がなかったことには、むしろこれとはちがった解釈

をすることができる。つまり、サ変に関するかぎり、文語の終止形「す」が、文語の連体形の後身である口語の終止連体形「する」とはちがった機能をもつものとして——いわば「連べき形」として口語文法の体系の中に生きているといえるのではないかとおもわれる。

(24) 文体のちがい……接続助詞の前の「です・ます」体

「です・ます」体でおわる文の中に接続助詞がつかわれるとき、その接続助詞の前には「です・ます」体がかかる場合と「だ・である」体がかかる場合とがある。

○姉の女学校時代のクラスメートで特にお親しくしていますのでよく姉と一緒にコンサートにお招かれして
いましたけれど、昨日姉から今度の切符を二枚送ってよこしましたの(スタイル 4月 208)

○それでレコードかけてたんだけど、向うは見えないんですよ(人生手帖 10月 44)

つぎの例では、一つの文中にその両方が見られる。

○戦後建てたバラックですので、一〇年経ったので、いまにもつぶれそうなのです(婦人公論 6月 131)

この「です・ます」体になる度合は、助詞によってちがう。すなわち、「ながら」「つつ」などは「です・ます」体につくことがなく、「ば」もほとんどない(特に、「ですれば」という形はない)のに対して、「が」「けれど」などではその度合が高い。標本に現れたところでは、[24.1]のとおりである。^{注2)}「であります」体も「です・ます」体にくわえる)なお、助動詞「た」の仮定形「たら」も、接続助詞と同様のはたらきをもっているの、ここにくわえた。また、「だが」「ですけれども」などが接続詞として使われているものについては集計の対象としなかった。

前にくる語は、次のように分類した。

名詞(代名詞, 形容動詞語幹をふくむ): 「山だ」「山でした」「山であらう」「山ではない」など

準体助詞「の」: 「行くのだ」「寒いのでしょ」「静かなのでした」など

動詞: 「行った」「行かない」「行きません」「行ったでしょう」など

形容詞: 「寒かろう」「寒くありません」「寒いです」など

注2) これと同じ調査をした先例には、三尾砂『話しことばの文法』(1942)「十五 接続部における「です体」形」がある。

[24.1]

前の語 \ 助詞		が		から		けれど		し		て			
		だ 体	です 体										
会 話	名詞	4	13	7	9	2	1	-	3	33	-		
	「の」	-	20	5	3	3	8	-	1	-	-		
	動詞	5	31	11	11	5	12	4	1	112	7		
	形容詞	-	-	1	-	2	-	3	-	2	-		
	計	9	64	24	23	12	21	7	5	147	7		
	「です」体の%	87.7		48.9		63.6		41.7		4.5			
地 の 文	名詞	1	36	-	19	-	1	-	3	56	-		
	「の」	-	26	-	3	-	1	-	-	1	-		
	動詞	1	96	-	26	2	2	3	7	449	1		
	形容詞	1	2	-	-	1	-	4	1	5	-		
	計	3	160	-	48	3	4	7	11	511	1		
	「です」体の%	98.2		100.0		57.1		61.1		0.2			
全 体	名詞	5	49	7	28	2	2	-	6	89	-		
	「の」	-	46	5	6	3	9	-	1	1	-		
	動詞	6	127	11	37	7	14	7	8	561	8		
	形容詞	1	2	1	-	3	-	7	1	7	-		
	計	12	224	24	71	15	25	14	16	658	8		
	「です」体の%	94.9		74.7		62.5		53.3		1.2			
前の語 \ 助詞		ても		と		ので		のに		ば		たら	
		だ 体	です 体										
会 話	名詞	1	-	6	1	3	2	-	-	-	-	4	-
	「の」	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	動詞	20	1	45	13	8	-	2	1	17	-	21	-
	形容詞	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	2	-
	計	21	1	51	14	13	2	2	1	18	-	27	-
	「です」体の%	4.5		21.5		13.3		33.3		0.0		0.0	
地 の 文	名詞	1	-	1	2	4	3	1	-	-	-	1	4
	「の」	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	動詞	36	-	63	20	29	9	5	1	54	-	21	7
	形容詞	-	-	1	-	4	-	-	-	1	-	-	-
	計	37	-	65	22	37	12	6	1	56	-	22	12
	「です」体の%	0.0		25.3		24.5		14.3		0.0		35.3	
全 体	名詞	2	-	7	3	7	5	1	-	-	-	5	4
	「の」	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	動詞	56	1	108	33	37	9	7	2	71	-	42	7
	形容詞	-	-	1	-	6	-	-	-	2	-	2	-
	計	58	1	116	36	50	14	8	2	74	-	49	12
	「です」体の%	1.7		23.7		21.9		20.0		0.0		19.7	

(25) 語順のちがいは

日本語では、主語・修飾語などの〈かかり〉が同じく〈うけ〉にかかっているとき、〈かかり〉ど
ろしのあいだで絶対に守らなければならない順序というものはない。たとえば、

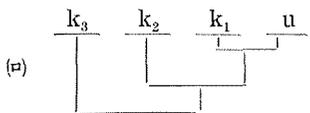
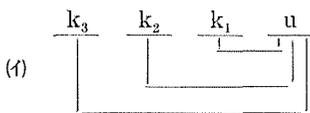
自転車で 学校に かよった。

といっても、「～で」と「～に」の順序を入れかえて、

学校に 自転車で かよった。

といってもさしつかえない。そしてこの二つの表現のあいだに意味のちがひ(少なくとも知的な
意味のちがひ)はまったくない。

しかし、これは原則としてそのような自由がゆるされている、ということであって、実際には
このような同義的な表現の一方が他方よりも多く用いられる、というばあひが多いであろう。以
下には、その使用度数をしらべた結果をのべる。これは、「に」「で」などの助詞の問題であるより
も、そうした助詞をともなった成分の問題であり、構文論(syntax)の問題である。しかし、こ
れは助詞の調査とあわせておこなうのが便利である。というのは、調査にあたっては成分の機能
を分析しておく必要があるが、〈かかり〉の機能の分析とは、事実上その〈かかり〉について
「に」「で」などの助詞の多義性の分析にほかならないことが多いからである。(ただし、語順の調
査は助詞の意味だけにたよるのではなく、もっと別の構文論的観点から成分を分類した上でしな
ければ不十分であることもあきらかである。たとえば、ここで目的の「に」として一括したもの
も、「～ために」のばあひは他のかかりよりも前に、「見に行く」のようなばあひは他よりあとにく
るといのように傾向がわかる。)



さて、いくつかの〈かかり〉 k_1, k_2, k_3, \dots が同じく〈うけ〉 u に
かかっている、ということは、図示するならば、(イ)のような説
明をすることである。しかし、また(ロ)のように説明する立場も
ありうる。後者の立場に立つならば、これらの〈かかり〉は同じ
く〈うけ〉にかかっているとはいえない。 k_1 と u との結びつきが
よければあひなどには、後者のような説明の方が適当だと思われ

ることが多いが、事実の記述はどちらでもできるので、前者の立場の表現をとることとする。

ここで取りあげたのは、〈うけ〉が用言または述語であるばあひについてであるが、

書いている(おく、やる……) お書きになる 書こうとする 筆記する

本である 本(書いた)にすぎない 本(書いた)にちがひない

などは、全体で複合的な〈うけ〉とみとめた。

また、この調査では、採集箇所を、行を単位として切ったので、〈かかり〉と〈うけ〉とが採集範
囲の内と外とに分かれてしまうことがあるが、ここでは、〈うけ〉が標本の範囲内にあるものにつ
いてしらべた。したがって、

- (1) ある助詞(のついている〈かかり〉)が標本の中にあっても、〈うけ〉が範囲外にあるときは問
題にしなかった。たとえば、

○刑事はそう云いながら、喜村の頭をなぐった。倒れると靴で頭を~~を~~蹴とばした(新潮 10月 188)(「蹴
とばした」が標本外)

では、「靴で」「頭を」という<かかり>についてはしらべなかった。

(2) 逆に、<うけ>が標本の中にはいってれば、かかりは標本の外にあって調査した。

○これを専門用語³でスカートと申します(中央公論 9月 156)(「これを専門用語」が標本外)
では「これを」「専門用語で」を、また、

○沖繩問題は、そういうところで表面に³出てきたのである(世界 9月 101)(「表面に」までが標本外)
では「沖繩問題は」「そういうところで」「表面に」という<かかり>の前後関係を、調査の対象とした。このばあい、前記の複合的なくれについて、その中心的な部分である「書く」「筆記」「本」などにあたる部分が標本の中に含まれているかどうかを基準にした。

○終始真摯に時代や社会に直面³している貴方を批判するためには(短歌 10月 110)(「直面」以前が標本外)

では、「社会に」などの<かかり>を対象としなかった。

なお、<うけ>が省略されているものも除外しなかった。たとえば、

○パチパチやっている檀氏に、木村氏が、「よく撮りますね。何枚目?」「いま五十八枚ですよ」(文芸春秋 7月 221)

の「檀氏に」「木村氏が」のようなものである。

〔かかりの種類〕

<かかり>は、形の上からつぎの四つにわかれる。

格助詞をともなるもの

格助詞と交替する係助詞をともなるもの

一部の接続助詞をともなるもの

これらをともなわないもの

a) 格助詞をともなるもの

これはさらに用法別度数表に示した用法ごとにおける。ただし、接続詞的なものや、後置詞(「～について」など)をつくるものはのぞく。したがって、以下の各用法が対象となる。なお、「まで」は強調の用法以外、格助詞とする。

「が」 主格

「から」 空間的出发点 経由点 出現の場所 時間的出发点 抽象的基点 発端 理由 材料 (出发点としての) 相手 (出发点としての) 主体 受け身の相手 概算の基点 比較の基準

「で」 空間的場所 抽象的場所 主体としての組織 主題・条件の提示 時 期限・値段 状態 手段・方法 原因

「と」 相手 比較の基準 ; 引用 動作のし方 副詞語尾 結果

「に」 空間的存在場所 抽象的存在場所 空間的到達点 抽象的到達点 時 結果 認識内容 資格 相手・対象 目的 よりどころ 状態の内容 割り当ての基礎 比較の基準 評価の基準 作用をうける相手 受け身の相手 原因 副詞的用法〔これはさらに 時(「すぐに」「ついに」など) 評価(「ふしぎに」「たしかに」「特に」など) 程度(「完全に」「どんなに」「非常に」など) ようす(「しずかに」「……とともに」など)の四つ

「～に」「～と」などをうけるものとはみない。また、つぎにくる動詞などにかかるものともみなさない。(これはおもに「用言+て」とのあいだにはっきりした線がひけないためである。)

◇同格的に並べられたものは、あとの方だけをかかりとする。

○夕食もすんで、校庭も廊下も、うすぐらい(別冊文芸春秋 53号 33)

○目に見えない大きな力が新しい生命力が、この村を根底からゆりうごかして(傑作倶楽部 3月 298)

ただし、同じ性質のかかりが並んでいても、同格的でないものは両方とも対象とする。

○ワイド・スクリーン時代のトップを切ったのが、昭和三〇年一月五日から日本でも東京と大阪で公開を続けたシネラマである(知性 2月 42)

この例では「から(時間的出発点)」～「で(空間的場所)」という対と「で(空間的場所)」～「を(対象)」という対とがそれぞれ二組ずつあるものとみなす。

◇一つの<かかり>が二つ以上の<うけ>にかかっているように解釈できるばあいは、もっとも近いものだけにかかっているものとみなす。これは

車が 近よって とまった。 車は、一度とまったが、また走りさった。

車へ 近づいて とびのった。

などについて統一的に解釈できるからである。

◇接続助詞「ば」「と」でおわる句は、原則として、主語「～は」をうけないものとする。

[集計のし方]

ここでは、かかりの構文論的なはたらきによる語順の差をしらべることを目的とする。そこで、ほかに語順に影響する条件としてどんなものがあるかを考え、それらの諸条件があるままでの数と、それらをとりぞいたばあいの数と、二とおりの集計をした。それぞれ「総計」および「純計」とよぶことにする。

構文論的なはたらき以外に語順に影響する条件、当面の目的にとっていわば不純な条件としては、つぎの三つをみとめた。^{注3)}

- 1) かかりの長さがちがうこと。(長いものほど前になりがち)長さの計算は文節の数による。
- 2) 前をうける指示語をふくむこと。(これをふくむものほど前になりがち) 場面に関係する指示語は別。
- 3) 係助詞をふくむこと。(これをふくむものほど前になりがち)

これらの条件は、語順が構文論的な条件によって規定される度合いが少ないばあいほど、つよくはたらくものと思われる。かかりの長さがひびいている例として、「を(対象)」と「へ(空間的到達点)」とのばあいをあげよう。総計では、「を」が前のもの 25、「へ」が前のもの 23 であるが、この

	「を」が前	「へ」が前	計	
「を」が長い	9	-	9	中から長さのちがうものだけをえらんでしらべると、[25.1]のようになる。ここから、危険率0.1%以下で、長いものが前にくる傾向がある、といえる。
「へ」が長い	4	10	14	
計	13	10	23	

注3) 佐伯哲夫「現代文における語順の傾向」(『言語生活』 1960年12月号)による。

表 3.2 の中で $A \rightarrow B$ は、かかり A がかかり B よりも前であることを示す。また、 p は、 $A \rightarrow B$ の数を m 、 $B \rightarrow A$ の数を n 、かつ $m \geq n$ とするときの百分率 $\frac{n}{m+n}$ であり、表には母集団における p の値の 99% 信頼区間を示した。(F 分布表を使って推定した) 表 3.2 の最初に出てくる例について説明すると、 $.026 \geq p \geq .00004$ とあるのは、「を(対象)」と「に(結果)」とが相ともなっ
てあらわれる例を、もし調査対象(31 年度の雑誌 90 種)全体にわたってしらべつくしたばあい、「商人にむすこをした」のように「に」が前にあるものの割合は、そのうちの 2.6% から 0.004% のあいだだろう、ということを示す。なお、F の表にない数については、上限は大き目に、下限は小さ目になるように、となりの数で代用した。なお、 p は「総計」についてだけで、「純計」については計算してない。

表 3.2 には、 $A \rightarrow B$ 、 $B \rightarrow A$ 両方ふくめて 5 回以上出てきたものだけ (602 項目) をのせた。これは 5:0 であれば、A (または B) が前にくる方が多いということが、5% の危険率でいえるからである。(次の計算を参照。 $(\frac{1}{2})^5 = \frac{1}{32} \doteq 0.031 < 0.05$)

表は、 p の上限の小さいものから順に並べた。しかし、それでは、特定のかかり A、B のくみあわせについて知りたいというとき、さがすのに不便なので、索引をつけた。索引は、かかりを、よく出てくるもの(上位群)とあまり出てこないもの(下位群)とにわけ、上位群×上位群、下位群×下位群、上位群×下位群の三とおりにした。これは印刷面積の節約のためであって、ほかに意味はない。

表 3.2 の索引(1) 上位群×上位群

	副詞			名詞		を・対象	も・主格	は・主格	に					と		で		から・時間の出発点	が		
	ようす	程度	評価	時	量	時			副・ようす	相手	結果	時	抽象的到達点	空間的到達点	抽象的存在場所	副詞語尾	引用	手段	空間的場所		
が	171	402	149	180	131	67	11	261	3	182	192	6	112	85	102	80	222	339	455	189	174
から・時	360			270	60	523	69	539	333	178	284	119		91	320	534	359	358	356	513	
で(空場)	321	469	585	547	116	76	44		226	259	340	120	525			247	224	364			
で(手段)	466		409	392	129	86	193		41	335	598	140	420		507	366	509				
と(引用)	399	590	260	136	471	35	232	412	175	497	463	200	114		485	591	249				
と(副尾)			170	393	582	47	238	350	30	338				234	295	228	599				
に(抽存)	439	147	416	273	493	282	79	274	190	600				500							
に(空到)	324	550	323	137	128	9	242	256	23	211				74							
に(抽到)	158	139	115	138	576	34	272	124	8	444				45							
に(時)	264	348	441	443	37	160	17	510	262	181	107	40					291	583			
に(結果)	68	63	21	32	257	13	1	42	2	84								199			
に(相手)	405	512	414	332	456	148	87	520	26	526											
に(副様)	529	528	410	188	435	28	241	236	25							536					
は・主格	18	33	184	185	27	337	5	126													
も・主格	133	90	275	431	125	344	10														
を・対象	237	152	56	48	223	12									376		586				
名(時)	62	36	98	173	22												248				
名(量)	546		506	77										486							
副(時)	398	179	561							496					303						302
副(評価)	319	218								305					304						雑格)
副(様子)															575						118
																					198
																					195
																					361
																					主格)
																					569
																					対象)
																					110
																					424
																					511
																					374
																					370
																					579
																					の
																					副・程度
																					副・評価
																					原因
																					評価の基準
																					目的
																					空間的存在場所
																					結果
																					相手
																					と
																					状態
																					抽象的場所
																					抽象的基点
																					空間的出发点
																					から
																					空出)
																					抽基)
																					抽場)
																					状態)
																					相手)
																					結果)
																					空存)
																					目的)
																					評基)
																					原因)
																					副評)
																					副程)
																					の
																					対象)
																					雑格)
																					空到)
																					抽到)
																					空限)
																					抽限)
																					主格)
																					対象)
																					様子)
																					量)

表 3.2 の索引(2) 下位群×下位群

表3.2の索引(3)
上位群×下位群

	副		名	を	も	は	に				と	で	から	が				
	様	程					時	量	時	副					相	結	時	抽
	子	度	時	時	対	主	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格
から	空間的出発点 経由点 抽象的基 論的端 理相由 主手 受身の相		490 558	66 122	239		88	406			176	553	568 418	334				
			535 541		426	436 204	78	584 197 297 156						533				
					468 212 227	524									243			
					362 244	537							515		285			
つつ	抽象的場所 主主題 期限・値 状態 原因		265 177 411 559	92 331	53 263 407	325 161	59 403 82	287			452 589		145					
			239 365		213 448	277	288						187					
			470 516 351	484 146	127 55	306 413	151 562 572 162 487 292 346	106 367		495	246		159					
			491 313	117 49	75 99	581	294 421	293				446 357 280	417					
と	比較の基 動作の結 果		93		563 7	326 14	587 375		371				38					
			396 209 208	39	19	172 233 250			296		266		566					
			369	368														
			408 499 497 429	150 101	111 555 73 494	298			267 347 548 286				103					
ながら	空間的存在場所 内資目潮比較評 受副副 身の・評 程		397		480 276 489	54	53						194					
			501 593 394	545 134 72	57	220 503		601		372 574		514 459						
			474 473		166 65								432					
			349 300		46 423 400 373	299				253			130					
に	空間的到達点 抽象的到達手 限的限界 抽象的限界			430	135 279	123 518 132	202 301	251 592		573	345		104					
			596	488 328 100	527 221	142 502 64 472 155 440 549	465		475	556		191						
			315 314	269 433	521 58								231					
			336 316 476	404					214									
の	対雑象 空間的到達点 抽象的到達手		164 271 434 551	153 449	544 216 225 235	15 447	95				61 478		50					
			504	83 479 24	477 380								16					
			353 330 169 579 168	442 425 51 230	377		422		498	554	196 283		482					
					580 378 519									467				
まで	空間的到達点 限的限界 抽象的限界		594	367 219 462	258 121	538							415					
			560		105 602								552					
			268 492	205	327 89			381					183					
					382													
も	対雑象 空間的到達点 抽象的到達手		352	383 308	71 567	203							467					
					385 557								415					
					245 522	389							552					
					96 310	254 508							540					
より	比較の基 空間的到達点 時間的到達点				390 355								207					
					458	355		312		311			531					
					278 342				391				341					
			317 395	309 453	31						570		154					
を	空間的到達点 空間的起 主対象の場 抽象的場 ばあ 目内評 よ		597 167 454 428	481 401 97	217 94	163	564 343 505 438	427 565					329					
			577 387	386 206	384 388	557		252			419		530					
					245 96 310	522	389						240					
					390 508								322					
名詞	空間的到達点 空間的起 主対象の場 抽象的場 ばあ 目内評 よ				355								540					
					458	355		312		311			207					
					278 342				391				531					
			317 395	309 453	31						570		341					
形容詞	時間的到達点 時間的起 主対象の場 抽象的場 ばあ 目内評 よ				390 508								154					
					458	355							70					
					278 342				391				4					
			210 318	144 52 109 29	108	255 229		141			571		532					
副詞	時間的到達点 時間的起 主対象の場 抽象的場 ばあ 目内評 よ				390 508								4					
					458	355							532					
					278 342				391				4					
			210 318	144 52 109 29	108	255 229		141			571		532					

表 3.2 二つの<かかり>の前後関係

(pの意味は p.175)
(雑誌の略称一覧は p.72)

		総 計					純 計					実 例		
		全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五	
1	を(対象)~に(結果)	$.026 \geq p \geq .00004$										経験やカンだけを、たよりにして [エコ 四 7, 56]		
を→に		251	20	45	40	74	72	118	9	21	19	34	35	
に→を		1	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	後同寸に着丈を延します[婦公 二284]
2	は(主格)~に(結果)	$.029 \geq p$										国道の警戒はいっそう厳重になってしまった ので[若女 四115]		
は→に		155	21	26	30	21	57							
に→は		0	—	—	—	—	—							
3	は(主格)~が	$.050 \geq p \geq .005$										おちさは、もう本当に覚悟が据っていた [小 泉 二364]		
は→が		252	21	53	48	39	91							
が→は		5	—	1	1	—	3						武家というしろものが小生はどうにも気に入 らんのですよ[説小 九298]	
4	が~形容詞(結果)	$.054 \geq p$										窓が明るくなって[新潮 一223]		
が→形		83	9	15	18	12	29	44	4	7	9	7	17	
形→が		0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
5	は(主格)~を(対象)	$.055 \geq p \geq .023$										草江は腕時計を見た[面俱 五260]		
は→を		840	98	163	125	111	343						別所の投じた第一球をかれは打った [小サ 十一250]	
を→は		31	7	7	1	3	13							
6	が~に(結果)	$.066 \geq p \geq .003$										男女の交際が自由になった[婦生 十248]		
が→に		148	19	28	25	27	49	37	6	9	7	4	11	
に→が		3	—	1	—	—	2	1	—	—	—	—	1	最高殊勲選手に誰がおされるか [野球 十 157]
7	を(対象)~と(結果)	$.066 \geq p$										トリウムを原料として[ダイ 七12, 48]		
を→と		68	6	10	33	11	8	22	—	5	13	2	2	
と→を		0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
8	は(主格)~に(抽象的到達点)	$.074 \geq p \geq .0001$										学生の不満はここに集中した [週読 五6, 61]		
は→に		86	9	16	27	7	27						高いものには一般庶民はよりつけない [科朝 六76]	
に→は		1	—	—	1	—	—							
9	名詞(時)~に(空間的到達点)	$.079 \geq p$										徹夜の翌朝 吾々は小石川植物園に出かけて [美手 十二69]		
名→に		56	6	16	2	13	19	18	1	5	2	4	6	
に→名		0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
10	も(主格)~を(対象)	$.083 \geq p \geq .0001$										さすが巨人も兜を脱いだが[小説 三132]		
も→を		76	9	15	11	5	36						文芸部を先生も生徒もばかにしていた [葦 十59]	
を→も		1	—	1	—	—	—							
11	が~を(対象)	$.086 \geq p \geq .033$										私が山岸君の口絵を描いたのは [世界 三 149]		
が→を		467	63	81	72	44	207	168	16	30	27	14	81	
を→が		27	7	3	4	2	11	4	1	1	—	—	2	経済力を夫が持つなら [サ毎 一22, 8]

実 例

	総 計					純 計				
	全/一	二	三	四	五	全/一	二	三	四	五
12 名詞(時)~を(対象)	$.088 \geq p \geq .026$									
名→を	307/27	73	52	47	108	78/10	15	14	10	29
を→名	16/3	4	1	6	2	2/—	1	—	1	—
13 名詞(時)~に(結果)	$.088 \geq p$									
名→に	50/2	9	11	11	17	7/1	—	2	1	3
に→名	0/—	—	—	—	—	0/—	—	—	—	—
14 は(主格)~と(結果)	$.100 \geq p$									
は→と	44/4	9	16	1	14					
と→は	0/—	—	—	—	—					
15 は(対象)~に(結果)	$.102 \geq p$									
は→に	43/—	4	4	29	6					
に→は	0/—	—	—	—	—					
16 は(雑格)~が	$.102 \geq p$									
は→が	43/5	6	11	5	16					
が→は	0/—	—	—	—	—					
17 に(時)~を(対象)	$.106 \geq p \geq .024$									
に→を	191/16	36	41	46	52	44/4	7	8	12	13
を→に	11/2	2	1	5	1	3/1	—	—	2	—
18 は(主格)~副詞(ようす)	$.119 \geq p \geq .009$									
は→副	90/13	18	6	10	43					
副→は	4/—	—	1	—	3					
19 ながら~を(対象)	$.121 \geq p \geq .0002$									
ながら→を	51/7	9	1	8	26	8/1	1	—	3	3
を→ながら	1/1	—	—	—	—	0/—	—	—	—	—
20 は(主格)~に(受身の相手)	$.123 \geq p$									
は→に	35/12	3	3	3	14					
に→は	0/—	—	—	—	—					
21 副詞(評価)~に(結果)	$.123 \geq p$									
副→に	35/5	4	7	9	10	23/3	3	6	5	6
に→副	0/—	—	—	—	—	0/—	—	—	—	—
22 名詞(時)~名詞(量)	$.127 \geq p$									
時→量	34/2	6	5	9	12	14/1	2	2	4	5
量→時	0/—	—	—	—	—	0/—	—	—	—	—
23 は(主格)~に(空間的到達点)	$.129 \geq p \geq .009$									
は→に	84/9	20	7	14	34					
に→は	4/1	—	2	—	1					

ある夜ミドリを喫茶店に呼出した[主生 七105]

ゾラの居酒屋を昔読んだとき[芸新 三35]

老人の話聞いたとき、……ような眼つきになった[オ読 七31]

日本紅茶の名は一躍世界的となった[キン 五179]

袖はフレンチにします[婦生 七付111]

舎房は……十畳、十五畳とりどりの部屋が並んでいる[週朝 十21, 32]

こんな日に無理をすると[傑俱 八331]
この二つの道のどちらをさきにとり上げて
[婦公 一付100]

佐々木さんはどんどん工場をひろげた[キン 七付94]
だんだん東洋はちかづいて来た[小俱 六290]

……といいながら、大きく口を開いた[知性 四113]

細君のことを……笑ひながらゆっくりと云ふ
[文芸 九140]

その白痴の子供は熊にやられたのだ[旅 九113]

もしも良人を喪切る妻になったら[小俱 十二310]

その後アギナルドとは数回会合し[人物 十一181]

血液は胃の方に集まります[サ毎 十14, 54]
おらの方にはおサルさんは来なかったね[科読 十62]

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
24	は(雑格)~を(対象) .132 ≥ p ≥ .0002											
は→を	47	3	3	11	27	3						
を→は	1	—	—	—	1	—						
25	は(主格)~に(副・ようす) .132 ≥ p ≥ .032											
は→に	161	21	23	21	20	76						
に→は	12	—	2	2	2	6						
26	は(主格)~に(相手) .137 ≥ p ≥ .020											
は→に	110	16	22	11	16	45						
に→は	7	1	3	—	—	3						
27	は(主格)~名詞(量) .136 ≥ p ≥ .014											
は→名	88	9	17	14	18	30						
名→は	5	1	1	1	1	1						
28	名詞(時)~に(副・ようす) .137 ≥ p ≥ .0002											
名→に	45	5	7	7	6	20	14	2	3	2	1	6
に→名	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—
29	は(主格)~形容詞(結果) .142 ≥ p											
は→形	30	6	4	8	1	11						
形→は	0	—	—	—	—	—						
30	は(主格)~と(副詞語尾) .145 ≥ p ≥ .011											
は→と	73	4	13	3	5	48						
と→は	4	1	1	—	—	2						
31	は(主格)~形容詞(量) .147 ≥ p											
は→形	29	7	7	7	2	6						
形→は	0	—	—	—	—	—						
32	副詞(時)~に(結果) .147 ≥ p											
副→に	29	1	7	5	4	12	15	—	4	3	1	7
に→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
33	は(主格)~副詞(程度) .148 ≥ p ≥ .037											
は→副	152	15	27	30	18	62						
副→は	13	1	2	1	1	8						
34	名詞(時)~に(抽象的到達点) .148 ≥ p ≥ .0002											
名→に	41	5	8	10	4	14	17	3	5	3	1	5
に→名	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—
35	名詞(時)~と(引用) .148 ≥ p ≥ .0002											
と→名	41	2	9	2	6	22	3	—	—	1	1	1
名→と	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—

実例

玉ねぎは皮をむき[暮手 33号 157]
脇線を後は一センチ五ミリ出し[主生 七付 77]

若林先生は物柔かにいった[スタ 三178]
岩のように、ヤンの肩はその言葉をはね返した[面俱 三356]

徳球氏は私に味方し[人物 十201]
バルトークにほくたちは非常に期待していたわけです[知性 四203]

私はもう一度丁寧な礼をした[新潮 二138]
唯一人、スターバックのみは理性を失わなかった[傑俱 十二232]

毎日習慣的に飲むのが[群像 十73]
自ら栽培するとともに附近の農家への話が毎日毎日倦むことなくつづけられた[キン 五179]

結核で死ぬ公算は非常に少なくなって[保同一5]

二人はハッと顔色を変えた[特文春 二121]
べったりと枕もとへ俊文江は坐ったが[小俱 四196]

騎馬武者は多く撃たれ[大法 三129]

さっき別れ別れになった青年と[人生 十二 44]

男はずいぶん厭だろなア[世界 十二250]
少し背は低かったが[ファ 十二26]

翌年、鉄道省に入った[小俱 二278]
窃盗には当時重罪が科せられた[家光 十76]

私はそのとききれいな人と思ってしまいました[人手 十二44]
忘れてしまっているのだらうと……今朝もたいして気にかげずに[講俱 六258]

実 例

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
36 名詞(時)~副詞(程度)	.151 $\geq p \geq$.0002											
名→副	40	3	10	7	8	12	12	1	3	3	1	4
副→名	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
37 に(時)~名詞(量)	.152 $\geq p$											
に→名	28	1	6	5	8	8	6	—	2	—	1	3
名→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
38 が~と(結果)	.156 $\geq p \geq$.0003											
が→と	39	3	3	17	6	10	10	1	1	6	1	1
と→が	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
39 名詞(時)~と(結果)	.163 $\geq p$											
名→と	26	—	6	10	2	8	5	—	2	2	—	1
と→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
40 に(時)~に(結果)	.168 $\geq p$											
時→結	25	2	10	3	5	5	6	—	1	2	2	1
結→時	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
41 は(主格)~で(手段)	.171 $\geq p \geq$.018											
は→で	68	12	12	7	11	26						
で→は	5	—	1	1	—	3						
42 も(主格)~に(結果)	.175 $\geq p$											
も→に	24	5	9	3	3	4						
に→も	0	—	—	—	—	—						
43 は(主格)~形容詞(よろす)	.177 $\geq p \geq$.008											
は→形	50	7	10	4	8	21						
形→は	3	—	—	—	—	3						
44 で(空間的场所)~を(対象)	.181 $\geq p \geq$.052											
で→を	130	11	29	11	25	54	33	2	7	2	7	15
を→で	15	2	1	—	5	7	7	1	—	—	4	2
45 に(時)~に(抽象的到達点)	.181 $\geq p$											
時→抽	23	4	4	5	6	4	5	1	—	1	2	1
抽→時	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
46 に(原因)~を(対象)	.181 $\geq p$											
に→を	23	3	6	4	2	8	4	—	1	—	—	3
を→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
47 名詞(時)~と(副詞語尾)	.181 $\geq p$											
名→と	23	—	5	—	3	15	3	—	—	—	—	3
と→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

強い時は大変強いんですが[知性 六186]
よく昔は葛蒲浜に見に行ったですね[美手七増103]
まだ今までに三組しかやっていないんです[週読 一29,35]
これがかの女の道楽となって以来[才読 九73]
アイスと言えば……を食みたいな人間と相場がきまっていた[世界 二237]
葉子は今ふくよかに美しい若い母となり[主生 六209]
長い年月の間に分れ分れになり[人手 六71]
白糸達は馬車で出発したが[映フ 八169]
烏賊の煮付で私は常の如く焼酎を飲む[小サ 二235]
平等院前の堤も、すっかり葉桜になった[講俱 六364]
旅館の主人は、元氣なく言った[世界 二237]
暗示をかけられた如く、公子は共犯者の心理になっていた[宝石 十二85]
ガソリンスタンドで、現場検証の場所をきめる[娛よ 十二7,73]
ぼくらのことを客の前で話されると[講俱 十397]
三年も先にはゆる文壇に出てゐる[新潮 七95]
ペニシリンを注射したために、……が、ショックを起して[ダイ 七28,40]
よく朝は忘れた様にカラリと晴れて[野球 六72]

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
48 副詞(時)～を(対象)	.182 $\geq p \geq$.036											
副→を	90	12	12	19	11	36	49	6	6	12	4	21
を→副	9	—	3	1	2	3	1	—	1	—	—	—
49 と(相手)～を(対象)	.186 $\geq p \geq$.004											
と→を	40	5	10	5	6	14	18	2	4	4	1	7
を→と	2	1	—	—	1	—	0	—	—	—	—	—
50 は(対象)～が	.189 $\geq p$											
は→が	22	—	3	9	6	4						
が→は	0	—	—	—	—	—						
51 は(主格)～へ(空間的到達点)	.189 $\geq p \geq$.009											
は→へ	47	5	7	—	8	27						
へ→は	3	—	—	—	—	—						
52 を(対象)～形容詞(結果)	.191 $\geq p \geq$.0003											
を→形	31	5	3	3	9	11	23	3	2	1	8	9
形→を	1	—	—	1	—	—	1	—	—	1	—	—
53 で(抽象的场所)～を(対象)	.196 $\geq p \geq$.042											
で→を	90	7	16	32	9	26	13	1	3	1	1	7
を→で	10	3	1	2	—	4	4	1	—	1	—	2
54 は(主格)～に(認識内容)	.197 $\geq p$											
は→に	21	3	1	3	2	12						
に→は	0	—	—	—	—	—						
55 で(原因)～を(対象)	.197 $\geq p$											
で→を	21	3	3	6	1	8	4	2	—	—	—	2
を→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
56 副詞(評価)～を(対象)	.197 $\geq p \geq$.071											
副→を	158	24	29	18	18	69	78	11	12	9	9	37
を→副	22	5	6	2	2	7	2	—	1	—	—	1
57 に(目的)～を(対象)	.203 $\geq p \geq$.010											
に→を	43	4	10	15	9	5	3	—	1	—	2	—
を→に	3	1	2	—	—	—	0	—	—	—	—	—
58 は(主格)～に(副・程度)	.204 $\geq p \geq$.004											
は→に	36	6	8	6	5	11						
に→は	2	—	—	—	1	1						
59 で(抽象的场所)～に(結果)	.206 $\geq p$											
で→に	20	1	5	9	2	3	3	—	—	2	—	1
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実 例

かつて隣家の冷蔵庫を盗んだ佐々木さんは
〔キン 七付94〕

自分の暗い過去をはじめて知った四年前〔婦
生 四184〕

…は、桂小五郎と宗像邸を訪れ〔映フ 十二
175〕

友子を土地の新興財閥の長男と結婚させて
〔婦生 八187〕

鳩山・鈴木会談は誰が計画したのか〔エコニ
25, 7〕

二人は、新宿のデパートへ、足を運んで〔週
朝 八5, 57〕

小さい汁粉店へ平助は入った〔小泉 四259〕

島田清次郎は私と郷里を同じくし〔新潮 七
95〕

丸く上手に床を整えます〔ポピ 十72〕

原子力の分野で先進国としての実力を持って
いるのは〔世界 五188〕

文学の問題を文学の中だけで解決しようとし
ても〔群像 七222〕

刈田は青微の色に見えた〔新潮 七264〕

店が小さいおかげで場立ちを命じられた〔週
朝 七8, 57〕

富樫さんは、全然金の話をしないんだ〔ベマ
二100〕

人種の偏見を決して善しとみない人々の〔群
像 九112〕

メスのお産を早くやらせるために、そのお腹
を突つくのです〔主友 十166〕

神聖な生殖機能を、その本来の目的に使用し
ないで〔知性 三209〕

ルーシー役の浜田尚子は非常によかった〔音
友 七210〕

完全にビクターはコロンビア・キングをひき
はなしている〔小サ 五242〕

この世の中で、女を不浄扱いにするなんて
〔週朝 七15, 80〕

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
60 から(時間的出発点)~名詞(量)						.215 $\geq p$						
から→名	19	3	5	3	2	6	2	1	—	—	—	1
名→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
61 は(対象)~で(手段)						.215 $\geq p$						
は→で	19	—	1	2	10	6						
で→は	0	—	—	—	—	—						
62 名詞(時)~副詞(ようす)						.222 $\geq p \geq .0004$						
名→副	26	1	6	3	5	11	6	1	1	3	1	
副→名	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1
63 副詞(程度)~に(結果)						.222 $\geq p \geq .0004$						
副→に	26	2	4	4	8	8	20	2	1	4	6	7
に→副	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
64 に(副・評価)~に(結果)						.226 $\geq p$						
副→結	18	3	4	3	5	3	6	1	—	1	2	2
結→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
65 は(主格)~に(比較の基準)						.226 $\geq p$						
は→に	18	4	2	3	1	8						
に→は	0	—	—	—	—	—						
66 から(空間的出発点)~名詞(量)						.229 $\geq p \geq .0004$						
から→名	25	1	1	1	15	7	12	—	—	—	9	3
名→から	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
67 名詞(時)~が						.229 $\geq p \geq .112$						
名→が	232	26	41	50	21	94	45	6	10	10	1	18
が→名	46	5	12	10	5	14	11	1	2	2	1	5
68 副詞(ようす)~に(結果)						.237 $\geq p$						
副→に	17	3	3	2	3	6	9	2	—	1	1	5
に→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
69 から(時間的出発点)~を(対象)						.241 $\geq p \geq .043$						
から→を	62	7	12	11	12	20	15	2	4	3	3	3
を→から	8	—	1	3	1	3	1	—	—	—	—	1
70 が~形容詞(ようす)						.244 $\geq p \geq .072$						
が→形	58	4	14	9	13	18	15	2	4	1	4	4
形→が	11	2	1	1	1	6	6	1	1	1	—	3
71 は(主格)~を(空間的径路)						.246 $\geq p \geq .0004$						
は→を	23	3	5	1	3	11						
を→は	1	—	—	—	—	1						

実 例

それから二日すぎた夜〔読小 二206〕

綿帽子は白木綿で包み〔主友 十二339〕

母は毎日チョコチョコ言いますでしょう〔若女 九148〕

あとは順次満期になるまで毎月貯金し〔週東 六16, 6〕

すっかり感傷的になってしまった私の頬に〔保同 七増140〕

イバンスは金を浪費した気持には少しもならなかった〔小春 五224〕

ほんとに、屁にもならない相手と〔笑泉 四 98〕

柱は、地から生えた樹木の姿に似ている〔芸新 六86〕

裾から三センチ縮んで〔婦俱 四付59〕

女はもう一度後から与三郎に縋りつくのです〔傑俱 十二348〕

その日、昨夜見舞ったばかりの三浦が死んだ〔平凡 三224〕

看護婦さんがいつか下さった御手紙の〔保同 七増140〕

だんだんヤケになって〔読俱 五357〕

当社が実施してから、…がイオンを採用した〔東経 十二1, 73〕

君は現在していると同じ仕事を本年始めからやって来たか〔ジュ 五1, 60〕

以上のことがうまく運営されれば〔農朝 四 31〕

あわたたしく客が店に飛び込んできた〔商店 十57〕

桐彦は、谷川沿いの道を部落のほうへとほとほと歩いて行った〔週新 二103〕

陽のかげった町を、駕籠は…一散に走りだした〔小泉 九230〕

実 例

	総 計					純 計							
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
72	に(割当の基礎)~名詞(量)					.250 $\geq p$							
に→名	16	—	—	—	16	—	16	—	—	—	16	—	4段ごとに1目17回減らす〔婦俱 三村149〕
名→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
73	は(主格)~に(空間的存在場所)					.252 $\geq p \geq .041$							
は→に	52	5	8	4	6	29							手提カバンはこちらにございます〔商店 十57〕
に→は	7	1	3	—	1	2							日本には、なんとかスキー元帥はいないけれど〔週読 九30, 49〕
74	に(時)~に(空間的到達点)					.253 $\geq p \geq .012$							
時→到	33	2	6	5	4	16	5	—	—	1	2	2	子供の時に二十九尺下の石床に飛び降りた〔文春 五122〕
到→時	3	—	1	—	1	1	2	—	—	—	1	1	エレベーターに先に乗ろうと思ったら〔映フ 五49〕
75	は(主格)~と(相手)					.254 $\geq p \geq .020$							
は→と	38	2	13	3	9	11							アメリカは三十三國と原子力協定を結んでいるが〔ダイ 十二25, 41〕
と→は	4	1	—	—	2	1							青年とその娘は婚約をしたが〔文芸 一293〕
76	名詞(時)~で(空間的場所)					.261 $\geq p \geq .035$							
名→で	46	7	9	4	7	19	11	—	2	3	3	3	現在日本で開かれる競技会は〔ポピ 十53〕
で→名	6	—	2	2	—	2	0	—	—	—	—	—	教室以外ではいつも二人でいた〔週新 二196〕
77	副詞(時)~名詞(量)					.264 $\geq p$							
副→名	15	—	5	2	2	6	6	—	—	2	1	3	もう店の家賃も何か月かたまっていた〔婦生 七342〕
名→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
78	は(主格)~から(抽象的基点)					.266 $\geq p \geq .0005$							
は→から	21	2	3	3	7	6							家事室は主婦を家事の雑用から解放し〔婦画 六169〕
から→は	1	—	—	—	—	1							心底からわたしはそう思いこんではいけない〔実雑 三231〕
79	に(抽象的存在場所)~を(対象)					.268 $\geq p \geq .078$							
に→を	75	16	15	12	9	23	17	3	4	2	1	7	自分の生活の中にその共通の貧しさと云うものを見出して〔葦 四90〕
を→に	14	4	4	3	—	3	2	1	1	—	—	—	幻想と映像をわれわれの前に示して〔みづ 一28〕
80	に(抽象的存在場所)~が					.276 $\geq p \geq .148$							
に→が	205	28	44	43	22	68	23	3	3	4	2	11	言葉に飾りが無い〔スタ 九78〕
が→に	54	9	15	7	4	19	8	1	2	1	—	4	百子の苦しみの原因が兄にあるような気がして〔平凡 四225〕
81	名詞(時)~形容詞(ようす)					.277 $\geq p \geq .0005$							
名→形	20	4	4	—	4	8	6	2	1	—	1	2	バスが停った時、いきおいよく立ち上った〔小説 六294〕
形→名	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	ターキーにしては珍しく口論のすえ、…と申出た〔講俱 四140〕
82	で(抽象的場所)~に(抽象的到達点)					.280 $\geq p$							
で→に	14	2	4	2	2	4	1	—	—	—	—	1	あらゆる領域ですべての女を男のレベルにまで引きあげようとしても〔婦公 十104〕
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
83	は(雑格)~名詞(量)					.280 $\geq p$							
は→名	14	—	1	2	9	2							背の線は着込み分を一センチ出し〔若女 十二286〕
名→は	0	—	—	—	—	—							

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
84	に(副・ようす)~に(結果)					.280 $\geq p$						
副→結	14	—	2	3	5	4	7	—	1	3	2	1
結→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
85	が~に(抽象的到達点)					.284 $\geq p \geq .116$						
が→に	102	13	19	19	13	38	29	5	8	4	3	9
に→が	24	1	7	5	4	7	8	1	1	3	2	1
86	名詞(時)~で(手段)					.266 $\geq p \geq .006$						
名→で	24	2	3	2	4	13	7	—	1	1	2	3
で→名	2	—	—	1	1	—	0	—	—	—	—	—
87	に(相手)~を(対象)					.288 $\geq p \geq .177$						
に→を	162	23	35	18	28	58	53	9	12	5	11	16
を→に	53	4	10	14	6	19	8	—	2	2	—	4
88	は(主格)~から(空間的出発点)					.256 $\geq p \geq .006$						
は→から	23	2	6	1	5	9						
から→は	2	1	—	—	—	1						
89	は(主格)~より(比較の基準)					.296 $\geq p \geq .006$						
は→より	23	1	6	2	3	11						
より→は	2	—	—	1	—	1						
90	も(主格)~副詞(程度)					.298 $\geq p \geq .024$						
も→副	31	4	4	6	6	11						
副→も	4	1	1	1	—	1						
91	から(時)~に(抽象的到達点)					.298 $\geq p$						
から→に	13	2	3	3	1	4	6	2	1	2	1	—
に→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
92	で(抽象的场所)~名詞(量)					.298 $\geq p$						
で→名	13	1	2	2	3	5	1	—	—	—	—	1
名→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
93	と(比較の基準)~副詞(程度)					.298 $\geq p$						
と→副	13	2	3	2	1	5	2	1	—	—	1	—
副→と	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
94	は(主格)~名詞(対象)					.298 $\geq p$						
は→名	13	—	2	3	2	6						
名→は	0	—	—	—	—	—						
95	は(対象)~に(空間的到達点)					.298 $\geq p$						
は→に	13	—	—	—	8	5						
に→は	0	—	—	—	—	—						

実例

次第に自分が男のような気持になってしま
う〔婦公 三197〕

官僚が特定の政党に加入することは〔週東 六
30, 66〕

昨年(の)の新年号に堤さんが登場して以来〔棋道
七116〕

毎日寝る前によくセッケンで手を洗い〔主生
十二477〕

ブラシで毎日ホコリをはらい〔主生 七443〕

それは、私に拭うことの出来ない屈辱を与え
ていた〔婦公 四198〕

守備隊の死闘を私に悟らせた〔文芸 十一184〕

貴公方は越前から来たのか〔週サ 三11, 83〕
莫の煙の中から、龍吉はすぐきり出した〔小
説 十373〕

フルシチョフ失脚説は、前より強まっている
〔サ毎 十一4, 17〕

現在より採算はグッと良くなる〔ダイ 六9,
91〕

…意見も相当強かったし〔中公 入増53〕

いく分劇場の雰囲気もかたいのですが〔世界
—221〕

十六才の時から映画に出演しはじめ〔スク 十
二49〕

「ワルシャワの恋の物語」で二度東京の舞台に
立った〔婦画 四130〕

私の意見は日本の医者の考え方と多少違う
〔文春 六160〕

医者はメンツばかり考える〔保同 四38〕

老人子供は近村に避難させ〔小俱 十一407〕

実 例

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
96	名詞(目的)～を(対象) .298 $\geq p$										資本の充実を図るため株式で配当を行った [エコ 十6, 73]		
名→を	13	—	6	3	2	2	2	—	—	—	1	1	
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
97	名詞(主格)～を(対象) .304 $\geq p \geq .034$										河野道円父子首をはねられ[人物 八155] 夜半過ぎに終る仕事を我等もち[短歌 七104]		
名→を	34	4	5	7	4	14	12	—	2	3	1	6	
を→名	5	1	—	—	1	3	2	—	—	—	1	1	
98	名詞(時)～副詞(評価) .304 $\geq p \geq .050$										けふはたしか島田清次郎が来る筈だが[新潮 七95] かならずいつか統一させてやるから…[日週 —15, 28]		
名→副	41	5	11	6	2	17	7	—	2	1	1	3	
副→名	7	—	1	1	—	5	5	—	1	1	—	3	
99	は(主格)～と(比較の基準) .306 $\geq p \geq .0006$										袖は後身頃と同様です[婦生 七付111] 専門家とそう大差はないと見て[週サ 九2, 61]		
は→と	22	3	4	4	6	5							
と→は	2	—	1	—	—	1							
100	に(副・評価)～を(対象) .310 $\geq p \geq .124$										馬はたしかに西部劇にディグニティーを与へ てゐる[知性 八179] この国をほんとうに愛したいですね[婦俱 四 303]		
に→を	96	7	14	22	32	21	40	3	5	4	17	11	
を→に	25	1	3	4	15	2	5	—	—	—	5	—	
101	名詞(時)～に(空間的存在場所) .314 $\geq p \geq .044$										我々はいまニューヨークに住居を構えている [芸新 三281] 福島市に近ごろ開業したミグメオ教なんての は[娛よ 五18]		
名→に	36	6	6	3	5	16	6	3	1	1	1	—	
に→名	6	—	2	1	1	2	1	—	—	—	—	1	
102	が～に(空間的到達点) .314 $\geq p \geq .093$										外遊の皇太子がワシントンに到着した時[オ 説 五67] 玄関に取次の小間使いが出て来た[小サ 八 273]		
が→に	62	8	14	9	4	27	27	4	5	3	3	12	
に→が	14	—	4	2	1	7	3	—	—	1	—	2	
103	に(空間的存在場所)～が .316 $\geq p \geq .157$										焼け跡に他の家が建ってから[別文 54号86] 半弦の月が朧の中空にあったことを忘れない [文芸 六152]		
に→が	139	13	27	15	19	65	24	3	3	5	3	10	
が→に	41	6	12	5	3	15	10	2	4	2	—	2	
104	が～に(受身の相手) .316 $\geq p \geq .0006$										私が五代さんに叱られますわ[小説 二237] 実はこの事件の弁護士に僕が頼まれたんだ [別新 十267]		
が→に	17	4	3	—	1	9	5	3	1	—	—	1	
に→が	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	
105	は(主格)～も(対象) .316 $\geq p \geq .0006$										頼朝は寒気も季節も感じなかった[小泉 七 204] フランキイの必死の頼みも署長はきいてくれ なかった[トル 六107]		
は→も	17	2	3	2	1	9							
も→は	1	—	—	—	—	1							
106	で(原因)～に(結果) .319 $\geq p$										出めんとりで身体をだめにして[世界 十二 250]		
で→に	12	3	4	1	—	4	2	1	—	—	—	1	
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
107	に(時)～に(相手) .319 $\geq p$										選挙のときに彼等にギヴすべきだった[知性 十42]		
時→相	12	1	2	1	2	6	5	—	—	1	—	4	
相→時	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	

実 例

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
108	に(副・よろす)~形容詞(結果)					.319 $\geq p$						
に→形	12	2	2	1	4	3	10	1	2	—	4	3
形→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

急におかしくなって[芸新 一218]

109	も(主格)~形容詞(結果)					.319 $\geq p$						
も→形	12	1	1	2	4	4						
形→も	0	—	—	—	—	—						

また歌壇の気分も新らしくなるかと[保同 五 101]

110	名詞(主格)~名詞(対象)					.319 $\geq p$						
主→対	12	3	—	2	2	5	3	2	—	—	—	1
対→主	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

あたしたち、歌うたってるけど[世界 一305]

111	に(空間的存在場所)~を(対象)					.324 $\geq p \geq .131$						
に→を	97	4	15	14	34	30	41	3	6	4	14	14
を→に	27	2	5	3	4	13	6	—	1	2	1	2

陸に家を持っている海賊って、あるンですか
い[小泉 九344]

大消費地を周辺に持つ近郊農家の [エコ 九 29, 65]

112	に(時)~が					.325 $\geq p \geq .150$						
に→が	121	14	25	23	25	34	23	3	5	5	3	7
が→に	35	2	10	3	8	12	10	—	6	—	2	2

アンコールの時に「ハオハオ」という喚声があつた[世界 一221]

戦前の十二段屋が終戦後にトップを切って始めてみた[週新 二19, 37]

113	で(主体)~を(対象)					.332 $\geq p \geq .0006$						
で→を	16	—	4	6	1	5	2	—	1	—	—	1
を→で	1	—	—	—	1	—	0	—	—	—	—	—

わたしどもでは、つぎの図のような指示板を作ってみました[家光 一付183]

補助の面を本社でもっと御考慮いただきたい [婦公 十一345]

114	に(時)~と(引用)					.332 $\geq p \geq .0006$						
に→と	16	—	6	2	2	6	1	—	—	—	—	1
と→に	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—

二人は同時に「あッ」とかすかな叫び声を洩らして[小サ 八273]

どんな名前をつけようかと、夢にも見る位です[映フ 四60]

115	副詞(評価)~に(抽象的到達点)					.332 $\geq p \geq .0006$						
副→に	16	—	5	4	1	6	5	—	3	—	—	2
に→副	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

あの水が、はたして手に入るかどうか[読俱 五 454]

競輪にもパチンコにも……金輪際手を出さぬ [新潮 九147]

116	で(空間的场所)~名詞(量)					.335 $\geq p \geq .047$						
で→名	33	—	1	2	26	4	13	—	—	—	12	1
名→で	6	—	3	—	1	2	1	—	—	—	—	1

バスト線で一・五センチ出し[ドレ 七138]

三十分一いや時に二時間も貸本屋で待たされる[週朝 八12, 81]

117	名詞(時)~と(相手)					.337 $\geq p \geq .017$						
名→と	23	—	7	3	1	12	6	—	1	2	—	3
と→名	3	—	1	—	—	2	0	—	—	—	—	—

六月二十日、フランスはアメリカと原子力協定を結び[マイ 七21, 48]

神阪とは十年ほど前、満洲で知り合い[週読 三11, 71]

118	から(空間的出发点)~へ(空間的到達点)					.342 $\geq p$						
から→へ	11	1	2	1	4	3	10	1	2	1	4	2
へ→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

伊原は店から横町へ出た[小春 五38]

119	から(時)~に(結果)					.342 $\geq p$						
から→に	11	—	3	1	2	5	3	—	1	1	—	1
に→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

昔から神社恒例の行事になっていた[週読 七 29, 44]

	総計						純計					
	全	一	二	三	四		五	全	一	二	三	四
120	で(空間的场所)~に(結果)					.342	$\geq p$					
で→に	11	2	3	—	4	2	0	—	—	—	—	—
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

121	は(主格)~まで(抽象的限界)					.342	$\geq p$					
は→まで	11	1	1	3	1	5						
まで→は	0	—	—	—	—	—						

122	名詞(時)~から(空間的出发点)					.342	$\geq p$					
名→から	11	3	2	2	—	4	5	1	1	2	—	1
から→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

123	に(副・時)~を(対象)					.344	$\geq p \geq .007$					
に→を	19	2	3	4	1	9	8	—	—	2	1	5
を→に	2	1	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—

124	も(主格)~に(抽象的到達点)					.348	$\geq p \geq .018$					
も→に	22	2	—	6	3	11						
に→も	3	—	1	—	—	2						

125	も(主格)~名詞(量)					.349	$\geq p \geq .0006$					
も→名	15	1	2	3	2	7						
名→も	1	—	—	—	—	1						

126	は(主格)~も(主格)					.351	$\geq p \geq .059$					
は→も	34	4	12	7	3	8						
も→は	7	2	1	1	1	2						

127	で(状態)~を(対象)					.354	$\geq p \geq .013$					
で→を	67	3	11	10	17	26	19	—	5	2	4	8
を→で	20	3	3	1	7	6	5	—	2	—	2	1

128	に(空間的到達点)~名詞(量)					.358	$\geq p \geq .048$					
に→名	33	—	2	3	21	7	17	—	—	1	14	2
名→に	7	—	—	—	4	3	5	—	—	—	4	1

129	で(手段)~名詞(量)					.361	$\geq p \geq .019$					
で→名	21	—	1	—	19	1	14	—	—	—	14	—
名→で	3	—	—	2	—	1	2	—	—	2	—	—

130	に(原因)~が:					.361	$\geq p \geq .031$					
に→が	24	3	5	6	1	9	4	—	1	1	—	2
が→に	4	2	1	—	—	1	2	1	—	—	—	1

131	が~名詞(量)					.366	$\geq p \geq .161$					
が→名	92	10	27	15	9	31	20	1	4	4	4	7
名→が	31	1	3	5	7	15	10	—	2	1	2	5

実例

東京ではむしろ共かせぎということが常態になっている〔婦画 一225〕

運命はどこまで、彼女に過酷なのだろう〔平凡 七228〕

朝、床から離れると〔人物 十31〕

ついに、彼は狙っていたものを入手した〔中公 四244〕

アルジェリアを永久にフランスの一部とするために〔世界 六12〕

今春以来の話材もここに集中している〔実日 七1, 144〕

山本ナイズされてるチームですから、そこに弱さも出て来るが〔野球 一55〕

妻木君も驚いたらしい瞬きを三ツ四ツした〔宝石 十一293〕

いまの有川の生活は、どこに一点、くもりもなく〔明星 三145〕

彼のスランプの原因などは、いずれも作りごとで〔スク 十一47〕

何もほかのことはない〔大法 九173〕

安直なワンピースでも作る気で、和服を作られることを〔婦朝 十58〕

先方をこういう気持でお別れしますが〔小サ 一付101〕

3号針に376目捨る〔主生 十一付61〕

友子は一度岡山に帰って〔婦生 八187〕

地糸でメリヤス編を四センチ編みます〔婦俱 九付156〕

四億円の資金を全部借入金でまかない〔ダイ 九25, 26〕

熱さに全身が跳び上がった〔人物 一167〕

白旗が何十本となく風に動いている〔人物 九135〕

保安隊の自動車数が数台到着した〔リダ 五165〕

も一度雪が降ってくれないかなど〔文春 七119〕

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
132	は(主格)~に(副・時) .367 $\geq p \geq$.062											
は→に	32	3	7	9	4	9						
に→は	7	3	1	2	—	1						
133	も(主格)~副詞(ようす) .368 $\geq p \geq$.0007											
も→副	14	1	3	1	4	5						
副→も	1	—	1	—	—	—						
134	名詞(時)~に(目的) .368 $\geq p \geq$.0007											
名→に	14	1	5	1	1	6	0	—	—	—	—	—
に→名	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
135	名詞(時)~に(受身の相手) .368 $\geq p \geq$.0007											
名→に	14	4	—	2	1	7	5	1	—	2	—	2
に→名	1	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
136	副詞(時)~と(引用) .368 $\geq p \geq$.0007											
副→と	14	1	1	1	4	7	5	—	—	—	2	3
と→副	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
137	副詞(時)~に(空間的到達点) .368 $\geq p \geq$.0007											
副→に	14	2	3	1	1	7	9	1	3	—	1	4
に→副	1	—	—	—	1	—	0	—	—	—	—	—
138	副詞(時)~に(抽象的到達点) .368 $\geq p \geq$.0007											
副→に	14	2	5	3	1	3	10	1	3	2	1	3
に→副	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
139	副詞(程度)~に(抽象的到達点) .368 $\geq p \geq$.0007											
副→に	14	2	3	3	2	4	10	1	1	3	1	4
に→副	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
140	で(手段)~に(結果) .369 $\geq p$											
で→に	10	—	—	—	6	4	4	—	—	—	3	1
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
141	に(時)~形容詞(結果) .369 $\geq p$											
に→形	10	2	—	2	3	3	1	—	—	—	1	—
形→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
142	に(副・評価)~に(副・ようす) .369 $\geq p$											
評→ようす	10	—	1	1	5	3	5	—	1	1	2	1
ようす→評	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
143	を(対象)~形容詞(内容) .369 $\geq p$											
を→形	10	4	1	1	2	2	3	1	—	—	2	—
形→を	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実例

彼等の規準にあわぬものは常に醜く〔群像 九112〕

すぐにかの女は気を取り直した〔宝石 九103〕

スキーヤーの姿も三々五々見えた〔ベマ 増二十19〕

だんだん評判もよくなったが〔葦 十59〕

クリスマスの日の午後、私たちはドライブに行った〔リダ 二166〕

…するために、いつもより多くのがやがやの暮しが毎日繰返されていた〔新潮 十二202〕
音楽のあとあなたは悲しみにおそわれ〔新潮 四80〕

風邪の子にこんどは汽車を描かされぬ〔才読 三315〕

五十になってもまだ「八重ちゃん」といわれま
すからね〔婦公 三101〕

「…」と、夏子はさっそく苦情を云った〔新潮 一137〕

警官は速刻ウッドワード邸にかけつけた〔週新 二26, 59〕

当時日本にはまだ来ていなかった〔婦朝 八47〕

その大部分はもう鼻について来た〔週朝 十一11, 77〕

大人のオリの中に、やがて目かくしをとって若い私達もはいつて行く運命にあるのです〔漫読 九74〕

いっそう現実主義にかたむいたということであらうか〔群像 三76〕

最近では「火の鳥」にもちょっと顔を見せていた〔映フ 九141〕

共布のバイヤスで四ミリ巾の玉縁に整えます〔婦俱 七付211〕

わしの知らぬ間に、腹が大きくなったじゃ〔小説 六183〕

終戦までの三十五年、立派に国際的に承認されていた「国際条約」を〔実日 一15, 52〕

私もこれを機会に勉強できることをうれしく思っています〔知性 四290〕

	総計					純計					実例	
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四
144	名詞(時)→形容詞(結果) .369 $\geq p$										このごろは影がうすくなりましたね[週読 十二, 30]	
名→形	10	1	2	1	3	3	4	1	—	2	1	
形→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	
145	で(抽象的場所)～が .371 $\geq p \geq$.156										両者の間で、…本家争いが続いたことは、余りにも有名である[婦朝 十146]	
で→が	76	11	10	24	5	26	4	—	—	1	3	
が→で	26	2	2	4	5	13	2	1	—	1	—	…という甘い考えが、ところの片隅でうずいているからである[婦公 五258]
146	名詞(時)～で(状態) .372 $\geq p \geq$.032										毎月四百億円台で推移したものが[東経 十一10, 109]	
名→で	23	—	3	2	3	15	6	—	1	1	—	あのままで昼間とても町を歩けるものではありません[暮手 34号 63]
で→名	4	—	1	1	1	1	0	—	—	—	—	
147	に(抽象的存在場所)～副詞(程度) .374 $\geq p \geq$.008										非文学的な属性が地方誌の方に一層多い[短歌 十一-152]	
に→副	17	5	3	2	3	4	2	—	—	1	—	更にその背後に代々木当局が控へてゐたから[群像 六177]
副→に	2	1	—	1	—	—	0	—	—	—	—	
148	名詞(時)～に(相手) .374 $\geq p \geq$.020										僕はこの前も山本監督に話したんだけど[ベマ 五88]	
名→に	20	3	6	1	1	9	4	—	3	—	—	社会主義や共産主義に反対の反共の方々に今度は是非沢山来ていただきたい[人手 三42]
に→名	3	1	1	—	—	1	1	—	—	—	—	もし二人の間に友情があったとしたら[週読 六 24, 27]
149	副詞(評価)～が .375 $\geq p \geq$.208										すぐれたリアリズムの文学が決して生まれない[短歌 四74]	
副→が	143	29	22	21	22	49	56	11	11	8	6	20
が→副	57	13	10	9	1	24	18	7	2	2	1	6
150	に(空間的存在場所)～名詞(量) .378 $\geq p \geq$.072										ハルピンに約十日間滞在し[人物 十二76]	
に→名	34	2	8	4	11	9	13	—	3	2	6	2
名→に	8	1	—	—	4	3	2	—	—	—	1	1
151	は(主格)～で(状態) .380 $\geq p \geq$.104										わたしはいらいらとした心で、南の林をあゆむ[新潮 一49]	
は→で	43	4	11	2	6	20						
で→は	12	3	1	5	2	1						それとは別の意味で問題はきわめて重大化して[エコ 三17, 40]
152	副詞(程度)～を(対象) .382 $\geq p \geq$.170										あんまり日本を侮慢するから[週サ 九23, 34]	
副→を	86	6	12	12	23	33	52	4	6	7	14	21
を→副	31	4	2	6	13	6	13	—	1	2	8	2
153	は(対象)～名詞(量) .385 $\geq p \geq$.033										内容は一字も読んでゐない[中公 六344]	
は→名	22	2	1	3	12	4						
名→は	4	—	—	—	—	4						それほど寒さは感じなかった[読俱 六213]
154	が～形容詞(量) .389 $\geq p \geq$.021										蓬子は、雷がひどくきらいらしい[週朝 四29, 47]	
が→形	19	4	5	7	1	2	9	—	4	4	1	—
形→が	3	—	3	—	—	—	2	—	2	—	—	—
155	に(副・評価)～に(抽象的到達点) .389 $\geq p \geq$.0007										単に中共の国慶節祝典に参加することが[時法 八13, 45]	
副→抽	13	1	3	2	1	6	4	—	—	—	—	4
抽→副	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
156 から(抽象的基点)~に(抽象的到達点)						.391 $\geq p \geq$.008					前年の五%から六%に上昇している[実日 二 15, 15] この薄幸な女性の肖像に一つの角度から照明 をあてている[スタ 十102] 新人と云っても、今日ではボーナス規則があ り[ベマ 五195] 日高が、途中でかわったあとで[ベマ 六268]		
から→に	16	—	—	8	5	3	10	—	—	3		4	3
に→から	2	—	—	—	1	1	0	—	—	—		—	—
157 で(時)~が						.391 $\geq p \geq$.008					新人と云っても、今日ではボーナス規則があ り[ベマ 五195] 日高が、途中でかわったあとで[ベマ 六268]		
で→が	16	5	1	4	1	5	1	1	—	—		—	—
が→で	2	1	—	—	—	1	1	—	—	—		—	1
158 副詞(よろす)~に(抽象的到達点)						.391 $\geq p \geq$.008					堂々、大リーガーの眼にとまった[ベマ 十二 65] 長谷川の舞台に直接タッチしている[サ毎 五 20, 8] おふたりが共同でおつかいになる財産[主生 入270] 三千件中の一例くらいの割合でこういうこと がある[婦生 一206]		
副→に	16	2	—	2	5	7	7	—	—	1		2	4
に→副	2	—	1	—	1	—	1	—	—	—		1	—
159 が~で(状態)						.398 $\geq p \geq$.059					おふたりが共同でおつかいになる財産[主生 入270] 三千件中の一例くらいの割合でこういうこと がある[婦生 一206]		
が→で	26	1	10	3	2	10	8	—	4	—		1	3
で→が	6	1	—	2	1	2	1	—	—	1		—	—
160 名詞(時)~に(時)						.398 $\geq p \geq$.059					毎朝未明に起きて[美手 十一99] 後に、大正六年一月、堺利彦が立候補した時 も[特文春 十139] 小説の中で、男色家の伯爵と、彼のペットの 青年とに、映画館で西部劇を見た[知性 入179]		
名→に	26	3	5	5	1	12	10	2	2	2		1	3
に→名	6	1	2	1	2	—	3	1	1	—		1	—
161 で(抽象的场所)~に(相手)						.400 $\geq p$					小説の中で、男色家の伯爵と、彼のペットの 青年とに、映画館で西部劇を見た[知性 入179]		
で→に	9	—	3	4	1	1	2	—	1	1		—	—
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—
162 で(状態)~に(結果)						.400 $\geq p$					ビール瓶カバーと同じ要領で、外側に輪に編 みます[主生 五付152]		
で→に	9	1	1	—	4	3	1	—	—	—		—	1
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—
163 に(相手)~名詞(対象)						.400 $\geq p$					三木ニ入院オススメコウ[キン 八274]		
に→名	9	—	2	2	—	5	4	—	2	1		—	1
名→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—
164 は(対象)~副詞(よろす)						.400 $\geq p$					それは党としては断乎押えたい[東経 九22, 26]		
は→副	9	—	2	2	3	2							
副→は	0	—	—	—	—	—							
165 も(雑格)~が						.400 $\geq p$					新糸もなお増産がつづくし[東経 九1, 40]		
も→が	9	1	2	3	1	2							
が→も	0	—	—	—	—	—							
166 も(主格)~に(比較の基準)						.400 $\geq p$					演奏もブラームスのドイツ・ロマンチズム に違ひものだ[芸新 六25]		
も→に	9	2	—	3	4	—							
に→も	0	—	—	—	—	—							
167 名詞(主格)~副詞(程度)						.400 $\geq p$					成山一たん泳いだが[相撲 十一21]		
名→副	9	4	2	—	1	2	4	1	2	—		—	1
副→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
168 名詞(時)~へ(空間的到達点)						$.400 \geq p$					その時ウェイトレスが彼のテーブルの方へやって来たので[宝石 539]		
名→へ	9	—	3	—	—	6	2	—	1	—		—	1
へ→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—
169 副詞(時)~へ(空間的到達点)						$.400 \geq p$					それさへわかりゃお前もううちへ帰って居れ [別文 55号 56]		
副→へ	9	2	1	—	2	4	4	2	1	—		1	—
へ→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—
170 副詞(評価)~と(副詞語尾)						$.400 \geq p$					結局電話は次々と四人の秘書にかかっていった[リダ 六86]		
副→と	9	2	2	—	1	4	8	2	2	—		—	4
と→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—		—	—
171 が~副詞(よろす)						$.402 \geq p \geq .153$					装甲車の砲口がジリジリさがりはじめる [文芸 十一164] 月末になるといろいろ出費がかさんで [主友 十一225]		
が→副	56	6	11	8	6	25	22	3	7	4		2	6
副→が	20	2	3	2	5	8	7	1	1	1		2	2
172 は(主格)~ながら						$.402 \geq p \geq .105$					刑事はそう云いながら、喜村の頭をなぐった [新潮 十188] パイプの灰をはたき落しながら、ベラミは云った[宝石 七249] 会議が幕を閉じた時、もう晩春の日は暮れ果てていた[中公 八173] 最近多い月は二三%くらい広葉樹を使いました[東経 七28, 35]		
は→ながら	37	5	6	—	3	23							
ながら→は	11	1	1	—	—	9							
173 名詞(時)~副詞(時)						$.404 \geq p \geq .048$					二杯目のジンフィーズを呑みほした頃から、頭の中がふらふらしてきた[読俱 七97] 僕が前からちょっと黒谷を知ってたもんだから[別新 十267] 私は猿の大きな奴だと思っている [文春 九 207] 「ゐる。」と私は応へた[別文 50号 282]		
名→副	23	3	3	2	3	12	8	1	—	1		2	4
副→名	5	1	1	1	—	2	0	—	—	—		—	—
174 から(時間的出発点)~が						$.407 \geq p \geq .089$					そこから直ぐ又塀の上に飛び乗ると[新潮 八 302] 自分の顔に正面から懐中電燈の光を浴びせた和装の女の[新潮 三237] 日本の文化史の中でいちばん重要なのは [群像 十二136] わたし自身もしばしば霧の中や、吹雪の中でリングワンデルングをやった経験があります[婦朝 九52] これから一緒にビクターへ出かけよう [小サ 六148] 実際に昔からあったものが[保同 十13]		
から→が	32	2	5	11	4	10	6	1	—	2		2	1
が→から	9	—	1	3	—	5	3	—	—	1		—	2
175 は(主格)~と(引用)						$.409 \geq p \geq .238$					そこら直ぐ又塀の上に飛び乗ると[新潮 八 302] 自分の顔に正面から懐中電燈の光を浴びせた和装の女の[新潮 三237] 日本の文化史の中でいちばん重要なのは [群像 十二136] わたし自身もしばしば霧の中や、吹雪の中でリングワンデルングをやった経験があります[婦朝 九52] これから一緒にビクターへ出かけよう [小サ 六148] 実際に昔からあったものが[保同 十13]		
は→と	137	10	39	19	17	52							
と→は	63	13	13	—	6	31							
176 から(空間的出発点)~に(空間的到達点)						$.412 \geq p \geq .036$					そこら直ぐ又塀の上に飛び乗ると[新潮 八 302] 自分の顔に正面から懐中電燈の光を浴びせた和装の女の[新潮 三237] 日本の文化史の中でいちばん重要なのは [群像 十二136] わたし自身もしばしば霧の中や、吹雪の中でリングワンデルングをやった経験があります[婦朝 九52] これから一緒にビクターへ出かけよう [小サ 六148] 実際に昔からあったものが[保同 十13]		
から→に	20	3	2	5	8	2	12	1	1	3		6	1
に→から	4	2	—	—	2	—	0	—	—	—		—	—
177 で(抽象的场所)~副詞(程度)						$.412 \geq p \geq .036$					そこら直ぐ又塀の上に飛び乗ると[新潮 八 302] 自分の顔に正面から懐中電燈の光を浴びせた和装の女の[新潮 三237] 日本の文化史の中でいちばん重要なのは [群像 十二136] わたし自身もしばしば霧の中や、吹雪の中でリングワンデルングをやった経験があります[婦朝 九52] これから一緒にビクターへ出かけよう [小サ 六148] 実際に昔からあったものが[保同 十13]		
で→副	20	3	2	3	5	7	3	1	—	1		1	—
副→で	4	—	—	2	2	—	0	—	—	—		—	—
178 から(時間的出発点)~に(副・よろす)						$.413 \geq p \geq .0008$					そこら直ぐ又塀の上に飛び乗ると[新潮 八 302] 自分の顔に正面から懐中電燈の光を浴びせた和装の女の[新潮 三237] 日本の文化史の中でいちばん重要なのは [群像 十二136] わたし自身もしばしば霧の中や、吹雪の中でリングワンデルングをやった経験があります[婦朝 九52] これから一緒にビクターへ出かけよう [小サ 六148] 実際に昔からあったものが[保同 十13]		
から→に	12	—	4	2	3	3	3	—	—	1		1	1
に→から	1	—	—	1	—	—	1	—	—	1		—	—
179 副詞(時)~副詞(程度)						$.413 \geq p \geq .0008$					幸子はもうすっかり治ってみたのですか [新潮 四227] 高所得との格差がさらに年々拡大しつつある [エコ 十一24, 47]		
時→程	12	2	—	5	3	2	10	2	—	4		2	2
程→時	1	—	—	1	—	—	1	—	—	1		—	—

	総 計					純 計					実 例			
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五	
180	副詞(時)～が	.415 $\geq p \geq$.193												さっき秀島がのぞいていた部屋から、出てくるところであった[世界 十一-230]
	副→が	82/7	17	19	11	28	39/5	5	9	4	16		お客がまだ買物をしているのに[商店 十57]	
	が→副	34/7	7	7	3	10	11/2	1	4	—	4			
181	に(時)～に(副・ようす)	.417 $\geq p \geq$.050 ⁻												青年団員で活躍しているうちに次第に親しさを増していった(週読 五20, 7)
	時→副	22/4	4	5	3	6	3/2	—	—	1	—		毎晩時間通りに、九時と十二時と三時にこの犬は吠えた(リダ 二166)	
	副→時	5/1	4	—	—	—	2/1	1	—	—	—			
182	が～に(副・ようす)	.421 $\geq p \geq$.240												終戦を迎えて日本国民が異口同音に唱えたものは[ベマ 一244]
	が→に	106/18	14	25	14	35	31/4	5	7	3	12		かじかんでいた指先まで真赤に血が通って[小泉 一208]	
	に→が	51/7	8	9	5	22	20/5	4	1	2	8			
183	より(比較の基準)～が	.422 $\geq p \geq$.083												焼酎よりは亭主の方がいいからね[新潮 五293]
	より→が	29/4	5	5	8	7	1/—	—	—	1	—		自分が他より優れてゐると思ひたがるのは[短歌 八145]	
	が→より	8/2	2	4	—	—	1/1	—	—	—	—			
184	は(主格)～副詞(評価)	.423 $\geq p \geq$.253												我々は絶対再軍備すべきである[人手 一40]
	は→副	137/13	33	21	19	51							もちろんこれは一つの原則であって[主生 三351]	
	副→は	67/13	11	9	6	28								
185	は(主格)～副詞(時)	.429 $\geq p \geq$.213												私の合唱団はまだ貧弱である[芸新 三281]
	は→副	100/12	7	20	13	48							もう晩春の日は暮れ果てていた[中公 八173]	
	副→は	43/5	7	11	3	17								
186	で(原因)～が	.430 $\geq p \geq$.085												昼間の疲れで睡気が出て来た[才読 十150]
	で→が	28/2	8	7	1	10	7/1	3	2	—	1		衿や脇の下が汗で黄ばんだようなのは[主生 六72]	
	が→で	8/3	—	2	1	2	4/2	—	2	—	—			
187	で(主題)～が	.431 $\geq p \geq$.010												いずれにしてもこれでは、旅行日程が立たない[婦朝 一161]
	で→が	14/2	2	4	2	4	0/—	—	—	—	—		それまでそう目立たなかったのが、あれでかなり目立ったのじゃないかな[音友 六116]	
	が→で	2/—	1	—	—	1	0/—	—	—	—	—			
188	副詞(時)～に(副・ようす)	.431 $\geq p \geq$.010												やがて一気に熟睡に入った[小俱 四81]
	副→に	14/1	2	1	2	8	5/1	—	—	1	3		外国のように、玄関からすぐ自家用車でパーティへ出かけられるような[婦画 十二49]	
	に→副	2/—	—	1	1	—	1/—	—	—	1	—			
189	で(空間的场所)～が	.433 $\geq p \geq$.186												敦煌で私がしたこと…[芸新 十一162]
	で→が	59/9	10	12	5	23	11/3	2	2	1	3		この孤剣の歓迎会が神田の錦輝館で開かれたとき[新潮 六79]	
	が→で	25/1	9	2	3	10	10/1	4	2	1	2			
190	は(主格)～に(抽象的存在場所)	.434 $\geq p \geq$.200												文学者は文学の叢にとじこもるな[群像 十224]
	は→に	68/13	12	13	7	23							彼には大村益次郎や高杉などのような識見はなかった[中公 一312]	
	に→は	30/6	3	6	2	13								
191	に(副・評価)～が	.434 $\geq p \geq$.146												仮に私が同じ場合におかれたら[才読 五261]
	に→が	43/4	7	11	5	16	18/3	2	4	3	6		素粒子をどう定義するかが本当に判ってはいない[自然 九18]	
	が→に	16/3	6	3	1	3	6/3	—	1	1	1			

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
192	が～に(相手) .434 $\geq p \geq$.153											
が→に	48/	7	7	9	3	22	17/	1	4	1	2	9
に→が	18/	2	5	3	1	7	2/	—	—	—	—	2
193	で(手段)～を(対象) .436 $\geq p \geq$.225											
で→を	97/	4	17	11	33	32	33/	1	6	4	12	10
を→で	47/	4	12	8	11	12	14/	1	3	2	5	3
194	が～に(認識内容) .437 $\geq p$											
が→に	8/	—	—	1	4	3	3/	—	—	—	1	2
に→が	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
195	から(空間的出发点)～まで(空間的限界) .437 $\geq p$											
から→まで	8/	2	1	—	2	3	4/	1	1	—	1	1
まで→から	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
196	から(時間的出发点)～へ(空間的到達点) .437 $\geq p$											
から→へ	8/	—	1	—	2	5	1/	—	—	—	—	1
へ→から	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
197	から(抽象的基点)～に(結果) .437 $\geq p$											
から→に	8/	—	3	3	1	1	3/	—	1	1	1	—
に→から	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
198	から(抽象的基点)～へ(抽象的到達点) .437 $\geq p$											
から→へ	8/	—	1	6	1	—	5/	—	—	4	1	—
へ→から	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
199	で(抽象的場所)～と(結果) .437 $\geq p$											
で→と	8/	1	—	2	—	5	1/	—	—	—	—	1
と→で	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
200	と(引用)～に(結果) .437 $\geq p$											
と→に	8/	2	2	—	1	3	2/	—	—	—	1	1
に→と	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
201	に(時)～に(受身の相手) .437 $\geq p$											
時→相	8/	2	1	1	—	4	5/	2	—	1	—	2
相→時	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
202	に(副・時)～に(相手) .437 $\geq p$											
副→相	8/	1	4	—	1	2	6/	—	3	—	1	2
相→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
203	は(主格)～を(空間的起点) .437 $\geq p$											
は→を	8/	2	2	—	—	4						
を→は	0/	—	—	—	—	—						

実 例

…の積極的意義は、破産した富農が人民政權に投降したことにある[中公 十二169]
 検事や裁判官には、長文の上申書が来 [ダイ 一1, 59]

梶川は両手でヒカルの胴を抱くと [読俱 十 152]

陳列棚の両側を布で囲んだ丈でも [商店 四 33]

在学中に結婚生活に入ることが、幸福な談むべきことのように思われる [婦画 一225]

土俵の上から棧敷くらいまで突き飛ばし [相撲 七166]

外で親子丼かなんかを食べてから、旅館へ入って行って [新潮 十132]

このころはピョートル大帝からアンナ女帝の代になっていたが [人物 十116]

比較的寒い状態から比較的暖かい状態へ徐々に変わった [科朝 十一110]

民謡コンクールでNo. 1 となった伊東満に [娛よ 十一21, 37]

傷などありはしないかと、本当に真剣な気持になるわね [婦俱 三310]

海岸へ出ないうちに、向うの奴に尾行されちゃまずいから [宝石 三203]

常にソヴェトのスターリン主義に 対決していったチトー [中公 四62]

太助は、先に店を出て行った [読俱 十一132]

	総計					純計								
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五		
204 も(主格)~から(抽象的基点)						.437 $\geq p$								
も→から	8	/	4	1	1	2								
から→も	0	/	—	—	—	—								
205 より(空間的出发点)~名詞(量)						.437 $\geq p$								
より→名	8	/	—	8	—	—	7	/	—	—	7	—		
名→より	0	/	—	—	—	—	0	/	—	—	—	—		
206 名詞(時)~名詞(対象)						.437 $\geq p$								
時→対	8	/	3	1	3	1	3	/	2	—	—	1		
対→時	0	/	—	—	—	—	0	/	—	—	—	—		
207 名詞(評価)~が						.437 $\geq p$								
名→が	8	/	1	4	1	—	2	4	/	1	2	1	—	—
が→名	0	/	—	—	—	—	0	/	—	—	—	—	—	—
208 副詞(時)~と(結果)						.437 $\geq p$								
副→と	8	/	2	1	1	—	4	3	/	1	—	—	—	2
と→副	0	/	—	—	—	—	0	/	—	—	—	—	—	—
209 副詞(評価)~と(結果)						.437 $\geq p$								
副→と	8	/	1	—	4	1	2	3	/	—	—	2	1	—
と→副	0	/	—	—	—	—	0	/	—	—	—	—	—	—
210 副詞(程度)~形容詞(結果)						.437 $\geq p$								
副→形	8	/	—	—	2	2	4	8	/	—	—	2	2	4
形→副	0	/	—	—	—	—	0	/	—	—	—	—	—	—
211 に(副・ようす)~に(空間的到達点)						.438 $\geq p \geq .024$								
副→到	16	/	—	1	1	6	8	7	/	—	—	—	2	5
到→副	3	/	—	1	—	1	1	0	/	—	—	—	—	—
212 から(理由)~を(対象)						.439 $\geq p \geq .0008$								
から→を	11	/	1	3	3	—	4	1	/	—	1	—	—	—
を→から	1	/	—	1	—	—	—	0	/	—	—	—	—	—
213 で(時)~を(対象)						.439 $\geq p \geq .011$								
で→を	11	/	3	3	2	1	2	2	/	1	1	—	—	—
を→で	1	/	—	1	—	—	—	0	/	—	—	—	—	—
214 に(抽象的存在場所)~の						.439 $\geq p \geq .0008$								
に→の	11	/	2	3	—	1	5	5	/	1	1	—	1	2
の→に	1	/	—	—	1	—	—	0	/	—	—	—	—	—
215 に(時)~形容詞(ようす)						.439 $\geq p \geq .0008$								
に→形	11	/	—	1	2	6	2	3	/	—	—	—	3	—
形→に	1	/	—	—	—	—	1	0	/	—	—	—	—	—

実例

さしもの大虎夫婦も酒の酔から次第にさめ
[実雑 五32]

前中心よりW[ウエスト]線上に7センチ入り
[それ 39号267]

昨夜心配かけたで…[小説 一180]

事実一般の住宅は隙間が多く[週サ 一22, 47]

やがて正午すぎの紀州木本行の列車の出る時
刻となった[娛よ 三2, 64]

やはり、当社は、これでメタノールの事業を
一段落とし[ダイ 四28, 70]

…と…夕方とに殊に吐き気が強くなるのは
[婦生 七448]

一気に黒房下に寄倒す[相撲 十一21~22]
フタの内側に仰しわさびをつまみ、はり付
けるようにのせて[主生 十二付141]

一寸した油断から失敗を招いたことが [説小
六383]
実質的自由を侵すことを、ナチス時代の手痛
い経験から見抜いた[週読 二5, 61]

このあたりで締め括りらしいお話を出して頂
けると有難いと存じます[短歌 五78]
私達の想像以上に外部にこたへたことを後で
知ったが[文春 十126]

日本ほどインテリの間にマルクス主義者ない
し容共派の多いところはない[世界 一53]
スエズ運河を経由する輸入のわが国輸入総額
に占める割合は[ダイ 十二4, 104]

夜中にやかましく起して寝小便を防ごうとし
た[婦生 一436]
よくぞ隠せずまっ先に槍をつけた [小俱 五
90]

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
216	は(主格)~は(対象)					.439	$\geq p \geq .0008$					
主→対	11	1	3	2	1	4						
対→主	1	—	1	—	—	—						
217	は(主格)~名詞(主格)					.439	$\geq p \geq .0008$					
は→名	11	2	3	2	1	3						
名→は	1	—	—	—	1	—						
218	副詞(評価)~副詞(程度)					.439	$\geq p \geq .0008$					
評→程	11	—	3	1	2	5	11	—	3	1	2	5
程→評	1	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—
219	まで(時間的限界)~を(対象)					.445	$\geq p \geq .067$					
まで→を	22	3	4	4	1	10	6	—	1	1	—	4
を→まで	6	1	1	—	1	3	3	—	—	—	—	3
220	は(主格)~に(目的)					.446	$\geq p \geq .075$					
は→に	26	3	8	3	4	8						
に→は	7	1	2	1	1	2						
221	は(主格)~に(副・評価)					.449	$\geq p \geq .210$					
は→に	66	10	5	14	7	30						
に→は	31	2	3	12	5	9						
222	が~と(副詞語尾)					.451	$\geq p \geq .198$					
が→と	59	4	12	5	6	32	14	—	4	1	1	8
と→が	27	2	5	2	5	13	12	1	2	1	3	5
223	を(対象)~名詞(量)					.452	$\geq p \geq .279$					
を→名	124	3	18	12	65	26	67	2	8	3	43	11
名→を	73	7	15	10	15	26	33	2	6	6	8	11
224	で(空間的场所)~と(引用)					.453	$\geq p \geq .010$					
で→と	13	4	3	1	2	3	3	1	—	—	—	2
と→で	2	1	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
225	は(対象)~に(副・ようす)					.453	$\geq p \geq .010$					
は→に	13	1	2	—	9	1						
に→は	2	—	—	2	—	—						
226	は(主格)~で(空間的场所)					.454	$\geq p \geq .160$					
は→で	42	7	9	4	3	19						
で→は	17	3	4	1	2	7						
227	から(相手)~を(対象)					.458	$\geq p \geq .025$					
から→を	15	2	2	4	2	5	4	2	—	1	1	—
を→から	3	—	2	—	—	1	0	—	—	—	—	—

実 例

私はそんな人間は全然知らないし [実日 二 31, 88]
 その一五パーセント程度は、口きき料としてソ連は天引きしてしまう [日週 十一-15, 46]
 戦後のドイツ国民は住むに家なく、食うに職がない [週朝 一-8, 17]
 ボク、死ぬのは厭だ [主友 十一-103]

キットたくさんくれるだろう [サ毎 七8, 53]
 さらにまた私一人に対して次のような教訓を与えられたのです [大法 十一-91]
 夜中までラジオやレコードをかけた [婦生 八408]
 いまのお勤めをいつまでつづけたいですか? [婦公 九133]
 聞かなかったやつは、後学のために聞いておけ [新潮 十一-225]
 誰が為に鐘は鳴る [スク 十一-47]

比呂美は瞬間さすがに足がすくんだ [婦生 二 237]
 たしかにこれは早すぎた措置であった [知性 十一-182]

裳裾がフワッとなびいて [明星 十二96]
 ぱっと煙が上って、めらめらっと焔がゆれ出す [傑俱 三409]

丈夫できれいなのを三枚選び [主生 一-410]
 あらゆる証拠は今度もすべて私をさしているんですが [傑俱 十一-322]

歌舞伎荘でもこの紳士は「おれは作家の丹羽だ」とやった [週読 九23, 19]
 「…」と俊方は馬上で叫んだ [大法 四151]

後身頃の縫代は袖附止りから斜に折り [主友 十一-付176]
 労使共に主張すべきことは主張するが [東経 七7, 51]
 翌朝、太郎は梅林で剃刀自殺をとげていた [若女 五115]
 汐のあちらで朝日はおどる [平凡 十一-付64]

双方の親権者から同意書をとる [ベマ 二214]
 金五千円也を会社からせしめて [週読 二26, 20]

	総 計					純 計					実 例				
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五		
228	と(副詞語尾)~に(空間的到達点)					.458	$\geq p \geq .025$					優秀な軍事探偵をぞくぞくとロシアに送りこんだ[週サ 九23, 34]			
と→に	15	—	3	—	2	10	13	—	3	—	1	9	キハツ油をガーゼか白布にうっすらとつけ		
に→と	3	—	1	—	—	2	0	—	—	—	—	—	[週サ 二26, 47]		
229	は(主格)~副詞(内容)					.458	$\geq p \geq .025$					これについて高良武久博士はこういう[週読 四22, 8]			
は→副	15	—	2	6	1	—	6						そう私は考えたのである[笑泉 五232]		
副→は	3	—	1	—	—	1									
230	に(副・よろす)~へ(空間的到達点)					.459	$\geq p \geq .041$					二人は大股にタクシー乗場の方へ歩いて行った[婦生 五113]			
に→へ	17	—	4	3	—	3	7	7	—	2	—	2	自分のほうへ、まっすぐに歩いてくる美しい		
へ→に	4	—	—	—	—	1	3	1	—	—	—	1	少女を見て[主生 七329]		
231	が~に(副・程度)					.463	$\geq p \geq .184$					早植につきもののモンガレ病が非常に心配されるわけです[農世 五113]			
が→に	47	—	5	13	11	6	12	14	—	5	3	1	5	どんなにお金がかかろうとかまいません[ス	
に→が	21	—	—	4	6	3	8	15	—	2	4	3	6	タ 三178]	
232	と(引用)~を(対象)					.464	$\geq p \geq .245$					「悪口いうところがない」と旦那さまをたてる大友夫人[明星 五99]			
と→を	83	—	9	12	6	11	45	13	—	—	2	1	10	古くて伝統のある町を日本人はすぐ京都を小さくしたようだと言及し[旅 十90]	
を→と	45	—	7	8	7	4	19	8	—	1	—	1	5	立上って頭を下げながら巨漢レスラーはていねいに答えた[フェ 九31]	
233	ながら~に(副・よろす)					.470	$\geq p \geq .0009$					すなおにひょいひょい尻で調子をとりながら店へ行く[文芸 四205]			
ながら→に	10	—	—	1	—	1	8	1	—	—	—	—	1	自転車を止めようとした途端に太審巡査はガタガタと武者ぶるいした[娯よ 七20, 21]	
に→ながら	1	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	ゆっくりと 帰宅後に 整理すればいいと思う[若女 八230]	
234	に(時)~と(副詞語尾)					.470	$\geq p \geq .0009$					事件の法的な解決は裁判官に任せ[週読 二12, 81]			
に→と	10	—	—	1	1	1	7	0	—	—	—	—	—	何人にもおくれはとらぬ[読俱 十一445]	
と→に	1	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—		
235	は(対象)~に(相手)					.470	$\geq p \geq .0009$					収益もシリ上りに上昇している[ダイ 四4, 47]			
は→に	10	—	3	1	2	2	2							時代とともに 魅力の焦点も 変るし「読小 九198」	
に→は	1	—	—	—	—	—	1								
236	も(主格)~に(副・よろす)					.474	$\geq p \geq .098$					彦左衛門はたまりかねてハラハラ涙をこぼした[週新 九10, 42]			
も→に	24	—	2	4	5	5	8							女学生をアパートに連れ込むところなどを、はっきり描きすぎ[週東 七14, 48]	
に→も	8	—	—	2	2	1	3							一つ、ころっと気の持ちよきを変えてみよう[主友 一154]	
237	副詞(よろす)~を(対象)					.475	$\geq p \geq .255$					フェンシングのタイツで、体の線をクッキリと出して[婦朝 五104]			
副→を	84	—	8	12	7	20	37	47	—	5	9	4	10	19	布団の下から病にやつれた細く白い腕を出して[宝石 一221]
を→副	48	—	4	10	5	3	26	13	—	—	1	2	1	9	清水を下方から入れ[婦公 六320]
238	と(副詞語尾)~を(対象)					.476	$\geq p \geq .269$								
と→を	88	—	5	13	1	10	59	57	—	3	9	1	6	38	
を→と	52	—	5	9	2	10	26	11	—	—	1	—	4	6	
239	から(空間的出発点)~を(対象)					.477	$\geq p \geq .170$								
から→を	39	—	4	5	2	13	15	18	—	—	2	2	6	8	
を→から	17	—	—	1	3	—	8	8	—	—	2	—	4	2	

	総計					.478	≧ p ≧	.011	純計						
	全	一	二	三	四				五	全	一	二	三	四	五
240	名詞(抽象的场所)~が														
名→が	12	1	—	6	1	4	3	—	—	3	—	—	—	—	
が→名	2	—	1	1	—	—	2	—	1	1	—	—	—	—	
241	に(副・よりす)~を(対象)					.479	≧ p ≧	.319							
に→を	171	11	36	29	33	62	91	7	21	11	24	28			
を→に	112	15	15	23	33	26	36	5	3	9	14	5			
242	に(空間的到達点)~を(対象)					.482	≧ p ≧	.301							
に→を	137	12	24	6	56	39	56	4	12	4	23	13			
を→に	85	11	11	10	20	33	39	7	2	5	8	17			
243	から(理由)~が					.482	≧ p								
から→が	7	1	1	2	—	3	1	—	—	—	—	1			
が→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
244	から(受身の相手)~を(対象)					.482	≧ p								
から→を	7	—	3	1	1	2	1	—	—	1	—	—			
を→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
245	名詞(理由)~を(対象)					.482	≧ p								
名→を	7	—	2	3	—	2	0	—	—	—	—	—			
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
246	で(空間的场所)~で(状態)					.482	≧ p								
空→状	7	—	1	1	—	5	3	—	—	1	—	2			
状→空	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
247	で(空間的场所)~と(副詞語尾)					.482	≧ p								
で→と	7	1	—	—	—	6	1	—	—	—	—	1			
と→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
248	で(抽象的场所)~に(副・程度)					.482	≧ p								
で→に	7	2	1	1	—	3	1	—	—	1	—	—			
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
249	と(引用)~と(副詞語尾)					.482	≧ p								
引→副	7	—	—	—	1	6	1	—	—	—	—	1			
副→引	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
250	ながら~に(相手)					.482	≧ p								
ながら→に	7	3	1	—	1	2	1	—	—	—	—	1			
に→ながら	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			
251	に(副・時)~に(空間的到達点)					.482	≧ p								
副→到	7	—	1	—	2	4	4	—	—	—	1	3			
到→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—			

実例

一方三十年は増資が案外少かった〔実日 一
1, 139〕

国内が各方面とも手不足になりました〔ジュ
十15, 51〕

東に向けた窓から、ガラスごしに、すみ切っ
た空を見上げた〔小サ 一95〕

白崎が大きな当りを左翼越しに飛ばしている
〔野球 二156〕

御飯の上に揚げたての天ぷらをのせて〔主友
九246〕

怒って盃を床にたたきつけると〔明星 七131〕

つまり凡てからあんたが少々気にいった〔小
説 九360〕

三沢から倭文江の秘密を聞かされた晴美は
〔小俱 十二206〕

かくかくの点を見落したため、こうした誤り
をおかした〔エコ 十20, 7〕

その奥地で白骨で発見された〔旅 九113〕

ホテルの一室でいろいろと由美子の帰りを
待っている自分を〔群像 十157〕

米国市場では中級品で比較的均一の品質のも
のが大量に売れる〔エコ 六2, 19〕

「…」と朗々と吟じながら〔小説 七428〕

王は白布を肩に懸け、裸のまま、歩きながら
従者に支度を命じた〔講俱 五98〕

早目に合宿にみえた神田さんとはなしをして
いるうち〔ベマ 六268〕

実 例

	総 計					純 計					実 例	
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四
252	に(時)~名詞(対象) .482 $\geq p$											その時にね、フッと息とめちゃうんだよ [人手 九91]
に→名	7	2	2	—	—	3	2	2	—	—	—	—
名→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
253	に(原因)~と(副詞語尾) .482 $\geq p$											意味ありげなマリ子の微笑に、辰島の眼がキラッと光った[小説 二237]
に→と	7	—	—	—	—	7	0	—	—	—	—	—
と→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
254	は(主格)~名詞(内容) .482 $\geq p$											業務内容はざっと見ても、…提携協調等きわめて多方面にわたっているの[群像 六 93]
は→名	7	4	—	—	1	2						
名→は	0	—	—	—	—	—						
255	は(主格)~形容詞(内容) .482 $\geq p$											語尾が悲しくふるえたのを節子はいたましくきいて[小サ 一95]
は→形	7	2	—	1	2	2						
形→は	0	—	—	—	—	—						
256	も(主格)~に(空間的到達点) .482 $\geq p$											少し遅れて、友子もタクシーの乗場に行った [婦生 五113]
も→に	7	2	1	—	3	1						
に→も	0	—	—	—	—	—						
257	名詞(量)~に(結果) .482 $\geq p$											一度でも百万長者になったら[トル十144]
名→に	7	—	3	1	1	2	1	—	—	—	1	—
に→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
258	は(主格)~まで(時間的限界) .493 $\geq p \geq .061$											左近の生死は今にいたるまで不明である [別文54号 173] 面会の時間の終るまで、私共の会話はつづきました[婦友 十77]
は→まで	17	5	2	1	2	7						
まで→は	5	1	—	—	1	3						
259	で(空間的场所)~に(副・ようす) .498 $\geq p \geq .046$											日本でどのようにうけいれられたか[文春 七 119] 同僚とともに飲み屋ではす二級酒の味 [知性 九101]
で→に	15	1	3	—	6	5	5	—	1	—	2	2
に→で	4	—	1	1	—	2	1	—	—	—	—	1
260	副詞(評価)~と(引用) .499 $\geq p \geq .093$											然しまさか長政が反撃するとは思わなかった [週サ 五27, 82] 中小企業への就職者が不幸だとは決していえない[キン 十一68]
副→と	20	2	2	2	1	13	5	1	1	—	—	3
と→副	7	2	2	—	—	3	1	—	—	—	—	1
261	も(主格)~が .500 $\geq p \geq .104$											私も詩が入選した[新潮 二196] と金二枚の寄せが、詰上りも鮮かでしょう [文春 六357]
も→が	22	1	5	4	2	10						
が→も	8	1	2	1	—	4						
262	は(主格)~に(時) .500 $\geq p \geq .268$											返事は四月九日に来た[ダイ 六2, 10] その間にも先生は素早く靴下をぬぐ[明星 十 252]
は→に	70	8	13	13	10	26						
に→は	43	10	9	6	3	15						
263	で(抽象的场所)~も(主格) .503 $\geq p \geq .028$											文学の領域では評論家無用論も発生する [世界 十二157] いずれも短距離界では世界第一線級で [平凡 十一177]
で→も	13	1	3	4	1	4						
も→で	3	—	—	1	1	1						

	総 計					細 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
264	に(時)~副詞(ようす) .503 $\geq p \geq .028$										これまでも一生懸命働くところをさがした のですが[それ 39号 125]		
に→副	13	1	3	—	2	7	4	—	—	—	—	4	彼はとうとう佐々木安子の姉の説得に成功した[週読 三4, 49]
副→に	3	—	1	—	—	2	2	—	—	—	—	2	こんどの東宝歌舞伎でもプロデューサーとして長谷川の舞台に直接タッチして[サ毎 五20, 8]
265	で(抽象的场所)~副詞(ようす) .504 $\geq p \geq .001$										遮二無二,あらゆる領域で,すべての女を男の レベルにまで引き上げようと[婦公 十104]		
で→副	9	—	3	—	1	5	1	—	—	—	—	1	打ちながら, ああこれが俺の全盛時代の フォームだったなと思った[ベマ 九 51]
副→で	1	—	—	—	1	—	0	—	—	—	—	—	「まず最初に」と,パイプの灰をはたき落しながら,ベラミは云った[宝石 七249]
266	ながら~と(引用) .504 $\geq p \geq .001$										国際劇場の正面口にずらりと整列してね [週 サ 六10, 16]		
ながら→と	9	—	1	1	—	7	1	—	—	—	—	1	からからと矢車の音空にして吾がかなしみの 外に陽は照る[短歌 七 188]
と→ながら	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	都市ガスの新設より一寸高いいどである [キン 七 178]
267	に(空間的存在場所)~と(副詞語尾) .504 $\geq p \geq .001$										少しでも他の者よりすぐれていることを [特 文春 十二173]		
に→と	9	1	2	1	1	4	3	—	—	1	—	2	今非常に困っているから一つやってくれない か[相撲 五81]
と→に	1	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	そんなに毎晩乗りますか[旅 一61]
268	より(比較の基準)~副詞(程度) .504 $\geq p \geq .001$										最初の会の時から,もういやがらせが始まっ た[リダ 二68]		
より→副	9	2	2	1	2	2	3	—	—	1	—	2	もう生れてから一カ月たちましたが[映フ 四 60]
副→より	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—	香油は一切用いない[週サ 一1, 6]
269	名詞(時)~に(副・程度) .504 $\geq p \geq .001$										食後の甘いものをきらぎなければ, だいたい 文句はいませんね[週読 九2, 59]		
名→に	9	2	1	1	1	4	2	—	—	—	—	2	多方面に亘る仕事に頭を突っ込んで [スタ 十一-113]
に→名	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	政府財政を自分の思う方向に動かして [エコ 九8, 41]
270	から(時間的出发点)~副詞(時) .506 $\geq p \geq .012$										かつて彼等の歴史にこの偉大な画家をもった ことを[美手 五110]		
から→副	11	1	3	1	2	4	3	1	—	1	1	—	わしのような老人には,もう願いごとなどと いう態はないが[新潮 二289]
副→から	2	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	1	近衛にはむろんそういう一面もあったが [知 性 十222]
271	は(対象)~副詞(程度) .506 $\geq p \geq .012$										適当な人も他にあろうから[保同 五101]		
は→副	11	1	4	3	—	3						イギリス人の犬も決して後へ引かなかった [トル 四135]	
副→は	2	—	1	—	1	—						ここでは賃金統計もなく,もちろん雇用形態 の確立もない[エコ 十二29, 101]	
272	に(抽象的到達点)~を(対象) .507 $\geq p \geq .293$												
に→を	75	5	5	30	18	17	22	3	—	11	2	6	
を→に	50	5	8	15	4	18	12	—	3	5	—	4	
273	副詞(時)~に(抽象的存在場所) .512 $\geq p \geq .065$												
副→に	16	1	2	4	2	7	7	—	1	2	—	4	
に→副	5	—	3	1	—	1	0	—	—	—	—	—	
274	に(抽象的存在場所)~も(主格) .513 $\geq p \geq .121$												
に→も	22	2	7	5	—	8							
も→に	9	—	2	4	1	2							
275	も(主格)~副詞(評価) .518 $\geq p \geq .202$												
も→副	35	5	5	8	5	12							
副→も	19	3	7	2	4	3							

	総 計					純 計					実 例			
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五	
276	に(資格)~を(対象)					.520	$\geq p \geq .049$					誘拐された息子の身代金に五十万弗を要求された彼が[スク 八38]		
	に→を	14	—	—	4	1	9	5	—	—	1	—	4	浪費する彼を恋人に持ったあなたこそ [婦俱 三184]
	を→に	4	—	—	—	2	2	2	—	—	—	1	1	
277	は(主格)~で(時)					.520	$\geq p \geq .031$					佐々木さんの冷蔵庫は、今日では外国にも輸出されて[キン 七付94]		
	は→で	14	2	6	2	3	1							その後で彼は書いた[群像 -203]
	で→は	4	1	2	1	—	—							
278	形容詞(時)~を(対象)					.528	$\geq p \geq .031$					できるだけ早く犯人をとらえるように [知性 十二182]		
	形→を	12	1	3	2	2	4	4	—	—	1	2	1	
	を→形	3	—	—	—	1	2	0	—	—	—	—	—	メスのお産を早くやらせるために [主友 十248]
279	に(受身の相手)~を(対象)					.528	$\geq p \geq .112$					御木に才能を認められてゐるといふ青年と [文芸 -293]		
	に→を	20	1	4	1	6	8	13	1	4	—	4	4	
	を→に	8	1	2	1	1	3	2	1	1	—	—	—	道子さんを、きみにとられたから、[家光 六139]
280	が~と(相手)					.532	$\geq p \geq .068$					私がヴィンス・ミーガンと知り合ったのは [トル 十一-178]		
	が→と	15	—	3	3	—	9	6	—	1	2	—	3	青柳先生と体の関係があったなんて[小俱 四295]
	と→が	5	1	—	1	—	3	0	—	—	—	—	—	
281	は(主格)~に(評価の基準)					.532	$\geq p \geq .169$					この磯部のお湯は胃腸病にはピッタリで [キン 五付112]		
	は→に	15	1	2	2	5	5							すべて貯蔵する漬物には、生の水気は禁物ですから[婦俱 六455]
	に→は	5	—	—	1	2	2							
282	名詞(時)~に(抽象的存在場所)					.532	$\geq p \geq .169$					今後各大学に原子炉問題が予想され[科朝 三30]		
	名→に	15	1	2	8	1	3	4	—	—	2	—	2	
	に→名	5	—	2	1	1	1	0	—	—	—	—	—	我々の周囲に毎日、起っている交通事故には [ダイ 二1, 22]
283	が~へ(空間的到達点)					.534	$\geq p \geq .169$					安原克己が茨城県の水戸へ来ているということとを[中公 四244]		
	が→へ	26	4	2	1	2	17	9	1	1	1	1	5	家へアキスははいらないかしら[実雑 -207]
	へ→が	13	—	1	2	—	10	3	—	—	1	—	2	
284	から(時間的到達点)~に(相手)					.536	$\geq p$					数日前からやかましく会社の管轄課に頼んで [週読 二26, 20]		
	から→に	6	—	2	2	1	1	1	—	—	1	—	—	
	に→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
285	から(相手)~が					.536	$\geq p$					入江長官から肯定する答弁があった [ジュ 四15, 64]		
	から→が	6	—	1	1	1	3	1	—	—	—	—	1	
	が→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
286	で(空間的場所)~に(空間的存在場所)					.536	$\geq p$					禅宗のお寺などでは門のところに“葎酒山門に入るを許さず”と書いてあります [実日 十15, 95]		
	で→に	6	—	3	1	2	—	1	—	—	—	1	—	
	に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
287	で(抽象的場所)~に(抽象的存在場所)					.536	$\geq p$					暗い燈火管制の下で、私たちになんの楽しみがあったであろう [中公 八173]		
	で→に	6	2	—	3	—	1	0	—	—	—	—	—	
	に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
288	で(時)～に(結果) .536 $\geq p$											
で→に	6	2	1	—	—	3	1	—	—	—	—	1
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
289	で(時)～副詞(程度) .536 $\geq p$											
で→副	6	—	—	1	2	3	0	—	—	—	—	—
副→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
290	で(主題)～を(対象) .536 $\geq p$											
で→を	6	1	3	—	1	1	1	—	1	—	—	—
を→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
291	と(相手)～で(状態) .536 $\geq p$											
と→で	6	—	3	1	—	2	0	—	—	—	—	—
で→と	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
292	で(状態)～に(抽象的到達点) .536 $\geq p$											
で→に	6	—	1	—	—	5	3	—	—	—	—	3
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
293	と(相手)～に(空間的到達点) .536 $\geq p$											
と→に	6	—	1	1	1	3	3	—	1	1	—	1
に→と	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
294	と(相手)～に(結果) .536 $\geq p$											
と→に	6	—	2	—	—	4	1	—	—	—	—	1
に→と	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
295	と(副詞語尾)～に(抽象的到達点) .536 $\geq p$											
と→に	6	1	1	—	1	3	4	1	1	—	—	2
に→と	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
296	ながら～に(空間的到達点) .536 $\geq p$											
ながら→に	6	1	—	—	3	2	1	—	—	—	1	—
に→ながら	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
297	に(時)～から(抽象的基点) .536 $\geq p$											
に→から	6	1	1	2	1	1	1	—	—	1	—	—
から→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
298	に(時)～に(空間的存在場所) .536 $\geq p$											
時→存	6	1	1	1	—	3	0	—	—	—	—	—
存→時	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
299	に(原因)～に(結果) .536 $\geq p$											
原→結	6	1	—	1	1	3	1	—	—	—	—	1
結→原	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実例

外務省それ自体が、今日では無政策的、非政治的な官庁になってしまつて〔中公 四330〕

最近ではちょっとめづらしいことだつた〔エコ 二25, 7〕

映画人に非ざる女性たちでさえ、肉体攻勢に“不潔戦法”というのを採用している〔週サ 一1, 6〕

須美さんと二人で歩いていても〔週読 五20, 7〕

二十一才でプロに投げ〔ベマ 五195〕

私は編集部の方といわゆる「青春のたまり場」に出かけた〔婦公 八132〕

この伊三蔵という人と友達になりたいという気なら〔オ読 二64〕

自然と身についてしまつて〔俳句 十二68〕

…と思ひながら、折つてきた白薔を床の間の花器にさした〔新潮 一223〕

この大戦の間にわが国の生化学は、まったくの教育的段階から、実験研究の段階に移つて行つた〔自然 五24〕

晴れた日などには進行方向に富士ヶ嶺が望まれ〔映フ 十一—63〕

ほんのちょっとの注意がたりなかつたために思うようにならないことも〔装苑 一付106〕

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
300	に(原因)~副詞(程度) .536 $\geq p$											
に→副	6	—	1	1	—	4	0	—	—	—	—	—
副→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
301	に(副・時)~に(結果) .536 $\geq p$											
副→結	6	—	2	2	2	—	3	—	—	2	1	—
結→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
302	は(対象)~から(空間的出发点) .536 $\geq p$											
は→から	6	—	2	1	3	—						
から→は	0	—	—	—	—	—						
303	は(対象)~と(結果) .536 $\geq p$											
は→と	6	2	1	1	2	—						
と→は	0	—	—	—	—	—						
304	は(雑格)~に(空間的存在場所) .536 $\geq p$											
は→に	6	1	2	1	2	—						
に→は	0	—	—	—	—	—						
305	は(雑格)~に(副・評価) .536 $\geq p$											
は→に	6	2	—	—	4	—						
に→は	0	—	—	—	—	—						
306	も(主格)~で(原因) .563 $\geq p$											
も→で	6	—	1	—	2	3						
で→も	0	—	—	—	—	—						
307	名詞(時)~まで(時間的限界) .536 $\geq p$											
名→まで	6	2	2	—	1	1	1	—	1	—	—	—
まで→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
308	名詞(時)~を(空間的起点) .536 $\geq p$											
名→を	6	—	1	—	—	5	2	—	—	—	—	2
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
309	名詞(時)~形容詞(量) .536 $\geq p$											
名→形	6	—	2	1	2	1	3	—	2	—	1	—
形→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
310	名詞(内容)~を(対象) .536 $\geq p$											
名→を	6	5	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
311	名詞(よろす)~と(副詞語尾) .536 $\geq p$											
名→と	6	—	1	—	1	4	0	—	—	—	—	—
と→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実 例

わたし自身…悪いところに育ったために、ずい分損をしました[音友 140]

その利益によって直ちに一般の農民のくらしが楽になる[農朝 十二49]

大理石は山口県の犬田から海送し[文春 四247]

言葉の問題は別としても[若女 三196]

このクルミは現在各地に植栽が行われていますが[農世 四91]

若紫は紋切形のやうに親の貧苦を救ふための身売りであって[世界 八213]

黒部貞雄さんも、社長稼業より、文化趣味、ことに名隨筆で有名で[漫説 十160]

その翌晩、何処へ行ったのか父は十二時過ぎまで帰らなかった[新潮 六183]

朝長崎を出て、明るいうちに福江に着けた[旅 四122]

戦後強く民主主義が叫ばれている今日[葦 一25]

「負け犬」など評論集を出したころは「群像 四115]

寺に銃口をさしむけたまま、のんびりと遊び出した[週サ 三11, 83]

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
312 名詞(ようす)～に(結果) .536 $\geq p$												
名→に	6/	—	3	1	2	—	2/	—	1	—	1	—
に→名	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
313 副詞(時)～と(相手) .536 $\geq p$												
副→と	6/	—	1	1	—	4	4/	—	1	1	—	2
と→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
314 副詞(時)～に(副・程度) .536 $\geq p$												
副→に	6/	2	1	2	1	—	4/	2	1	1	—	—
に→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
315 副詞(評価)～に(副・程度) .536 $\geq p$												
副→に	6/	2	1	1	—	2	2/	2	—	—	—	—
に→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
316 副詞(評価)～の(主格) .536 $\geq p$												
副→の	6/	2	—	—	1	3	6/	2	—	—	1	3
の→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
317 副詞(評価)～形容詞(量) .536 $\geq p$												
副→形	6/	1	—	—	1	4	6/	1	—	—	1	4
形→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
318 副詞(評価)～形容詞(結果) .536 $\geq p$												
副→形	6/	1	1	1	1	2	6/	1	1	1	1	2
形→副	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
319 副詞(評価)～副詞(ようす) .536 $\geq p$												
評→ようす	6/	1	1	—	1	3	6/	1	1	—	1	3
ようす→評	0/	—	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
320 から(時間的出発点)～に(空間的到達点) .537 $\geq p \geq .013$												
から→に	10/	—	1	1	3	5	4/	—	—	1	—	3
に→から	2/	—	—	—	—	2	1/	—	—	—	—	1
321 で(空間的场所)～副詞(ようす) .537 $\geq p \geq .013$												
で→副	10/	1	1	2	1	5	1/	—	—	—	1	—
副→で	2/	—	1	—	1	—	1/	—	—	—	1	—
322 名詞(理由)～が .537 $\geq p \geq .013$												
名→が	10/	—	1	5	1	3	0/	—	—	—	—	—
が→名	2/	—	1	1	—	—	1/	—	1	—	—	—
323 副詞(評価)～に(空間的到達点) .537 $\geq p \geq .013$												
副→に	10/	—	2	1	—	7	6/	—	2	1	—	3
に→副	2/	—	1	—	1	—	0/	—	—	—	—	—

実例

腕を組んだまま二人はマンボのような足つきになった〔面俱 三151〕

その時はもう亭主の方が外の女と墮落して〔オ説 五67〕

最近天プラ屋の数はひじょうにふえてきた〔キン 十付103〕

一体競馬のどこがそんなに凄いのだろうか〔実雑 六244〕

なかなかスケールの大きいシロモノだ〔野球 三161〕

幸い外野に優秀な人材が多く居るから〔野球 四183〕

やっぱり大きくなりたいよ〔笑泉 八28〕

私が同じ立場におかれたら、やっぱりそうするだろう〔オ説 五261〕

二年目になってから適当な所に運搬するとよい〔農園 一47〕

いつも出演の日には会場に早くから来て〔音友 八118〕

あのだっ広い部屋でガタガタふるえてました〔実日 九15, 24〕

かわるがわるここで訓練を受けることになりました〔キン 三71〕

下痢や嘔吐のため水分が少なくなりますから〔婦俱 六350〕

隔壁のペンキが熱のためボロボロとめくれ返るのが〔特文春 十二43〕

なかなか山の斜面にはさしかからず〔週新 八13, 50〕

東支鉄道終点のボクラニチヤナ駅に先ず下車〔人物 十二76〕

	総 計					純 計					実 例	
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四
324	副詞(ようす)～に(空間的到達点)					.542 $\geq p \geq$.087					二度目にはうっかり頭にはのせられない〔装苑 二143〕 頭を、椅子の背にびったりつけて〔小説 三234〕	
副→に	16	1	3	1	1	10	10	—	2	—		—
に→副	6	—	1	—	2	3	0	—	—	—	—	—
325	で(抽象的場所)～に(副・ようす)					.544 $\geq p \geq$.001					おれの事を世間で色々と言ふって〔群像 九196〕 追跡法を具体的に果樹で説明すると〔農朝 一44〕	
で→に	8	1	2	1	1	3	3	1	—	—		—
に→で	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—
326	は(主格)～と(動作のし方)					.544 $\geq p \geq$.001					彼女との結婚生活は二年と続かなかった〔新潮 二135〕 自然主義から新浪漫主義へと時代は移りつゝあった〔俳句 三115〕	
は→と	8	1	—	3	1	3	—	—	—	—		—
と→は	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
327	より(比較の基準)～を(対象)					.544 $\geq p \geq$.001					なによりも陸海軍の一元化と、政治力の強化を強調している〔日週 一5, 6〕 型通りのことを何よりもきらった男が〔週新 十一, 34〕	
より→を	8	1	3	1	2	1	0	—	—	—		—
を→より	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
328	名詞(時)～に(副・評価)					.544 $\geq p \geq$.001					現在はさすがに化学製品が登場した〔才読 十313〕 御存知の様に当家の主人榎淵弥兵衛は先年身まかり申し〔傑俱 十290〕	
名→に	8	1	3	—	2	2	1	—	—	—		1
に→名	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
329	名詞(主格)～が					.544 $\geq p \geq$.001					あんた運がよかったのサ〔新潮 二138〕 ありとあらゆるできごとが何の咎かある〔大法 十二175〕	
名→が	8	1	1	1	1	4	3	1	—	—		—
が→名	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
330	副詞(評価)～へ(空間的到達点)					.544 $\geq p \geq$.001					どうやら目的の京へついたものゝ〔小春 十68〕 妻が母のところへ決して訪ねて来ないと云ふのは〔文芸 十二111〕	
副→へ	8	—	—	—	1	7	3	—	—	—		—
へ→副	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
331	名詞(時)～で(抽象的場所)					.554 $\geq p \geq$.073					かなり前、関係者の間でかすかに煙が立ったのだが〔週新 五29, 11〕 既設事業の面では、昨年未疏安の拡充を一段落〔東経 二18, 84〕	
名→で	14	—	1	3	2	8	2	—	—	—		—
で→名	5	—	1	3	—	1	0	—	—	—	—	—
332	副詞(時)～に(相手)					.554 $\geq p \geq$.073					やがて店員の一人々々にも頭を下げ、店を出た〔新潮 二138〕 田畑さんにはじめてお眼にかかったのは〔週サ 七29, 59〕	
副→に	14	2	3	1	4	4	6	1	1	—		1
に→副	5	—	1	—	—	4	2	—	1	—	—	1
333	は(主格)～から(時間的出発点)					.555 $\geq p \geq$.222					おれは、あの晩から家へ帰ってないんだ〔キン 七77〕 二十年昔から私は小説を書きつづけてゐるが〔婦公 十二89〕	
は→から	31	2	7	8	4	10	—	—	—	—		—
から→は	19	4	3	1	5	6	—	—	—	—	—	—
334	から(空間的出発点)～が					.556 $\geq p \geq$.201					海から冷たい風が吹き上げてきた〔才読 四293〕 若党が庭から走ってくる〔面俱 四253〕	
から→が	28	4	5	3	2	14	10	2	2	1		1
が→から	16	3	1	2	4	6	5	—	—	—	2	3
335	で(手段)～に(副・ようす)					.559 $\geq p \geq$.120					彼女は左手で、二本の火箸を一緒につかんだ〔人物 一167〕 I子は、それを熱心に手拭ひでこすつてゐるが〔文春 八357〕	
で→に	18	2	5	—	7	4	7	—	2	—		2
に→で	8	—	3	—	2	3	5	—	2	—	1	2

	総 計					全	純 計					
	全	一	二	三	四		一	二	三	四	五	
336 副詞(程度)~の(主格)	.559					$\geq p \geq .120$						
副→の	18	—	5	6	3	4	16	—	5	6	1	4
の→副	8	3	—	—	3	2	7	3	—	—	3	1
337 名詞(時)~は(主格)	.561					$\geq p \geq .395$						
名→は	148	20	36	19	14	59						
は→名	135	13	27	22	17	56						
338 に(副・ようす)~と(副詞語尾)	.569					$\geq p \geq .055$						
に→と	12	—	1	3	3	5	5	—	—	—	2	3
と→に	4	—	—	—	—	4	2	—	—	—	—	2
339 が~と(引用)	.572					$\geq p \geq .289$						
が→と	44	7	8	4	7	18	9	1	2	1	1	4
と→が	32	3	5	—	5	19	4	1	1	—	—	2
340 で(空間的场所)~に(相手)	.572					$\geq p \geq .014$						
で→に	9	1	2	1	1	4	0	—	—	—	—	—
に→で	2	1	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—
341 形容詞(時)~が	.572					$\geq p \geq .014$						
形→が	9	1	2	—	—	6	3	—	2	—	—	1
が→形	2	—	—	1	—	1	1	—	—	1	—	—
342 は(主格)~形容詞(時)	.587					$\geq p \geq .036$						
は→形	10	1	5	—	—	4						
形→は	3	—	—	—	—	3						
343 名詞(主格)~に(抽象的到達点)	.587					$\geq p \geq .036$						
名→に	10	—	1	2	1	6	3	—	—	1	—	2
に→名	3	—	1	2	—	—	1	—	—	1	—	—
344 名詞(時)~も(主格)	.588					$\geq p \geq .190$						
名→も	22	2	5	2	1	12						
も→名	13	—	5	2	3	3						
345 で(空間的场所)~に(受身の相手)	.590					$\geq p \geq .001$						
で→に	7	2	2	—	—	3	2	1	1	—	—	—
に→で	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
346 で(状態)~に(空間的到達点)	.590					$\geq p \geq .001$						
で→に	7	—	2	1	2	2	2	—	—	—	1	1
に→で	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
347 に(空間的存在場所)~と(引用)	.590					$\geq p \geq .001$						
に→と	7	—	2	1	1	3	1	—	1	—	—	—
と→に	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実 例

一番成績の悪い職場に一年間すわりこませる
〔週朝 七29, 21〕

牛乳だとかカルシュームのたくさん入ったものをとっくば〔ベマ 八196〕

戦後、塩の不足はひどかったので〔キン 十一付158〕

当社の資本金は、現在、八億円である〔ダイ 四21, 78〕

このとおりにきちっと当てはめてしまわなければならない〔主生 三351〕

しげしげと、さも懐かしげに見入った〔講俱 七317〕

ハナ島さんがいけないといえはやめる気が
〔家光 二67〕

「遊覧バスに乗ったよ」と都会育ちの人間がいうと〔週サ 六10, 16〕

海浜で武藤と神倉造船の若社長とに会った
〔週読 八26, 31〕

ひょっとすると一柳に大阪で逢へるかも知れない〔文芸 六66〕

なぜこうも早くスポンサーがついたかといえ
ば〔読俱 八195〕

俊鶴丸がいち早く空気中の放射能塵の分析を
行い〔自然 八14〕

翌朝、幹子はいつもより早く起きた〔小説 十一-387〕

それから間もなく、浩二は師匠にすすめられて松竹に入社し〔読小 五309〕

ことここにに到っては万事休すである〔読俱 一147〕

予算委に沼サン登場〔エコ 三3, 23〕

その後あるはずのメンスもなく〔明星 七付 87〕

中村喜平次も、その日、光国の供をした〔サ 毎 七15, 71〕

モレ首相が現地でフランス植民者に「モレ、パリへ帰れ」と罵られ〔世界 六12〕

未練者よと鷗にさえも故郷の波止場で笑われた〔平凡 四付52〕

下駄ばきで小学校に通っていたころ〔主友 二 390〕

満州に二週間の予定でロケに出かけたら〔映 フ 七81〕

門のところに“葦酒山門に入るを許さず”と書いてあります〔実日 十一-15, 95〕

隠れ場所にと、田圃の中に…の穴を掘ってくれた〔丸 十二81〕

	総 計					純 計					実 例	
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四
348	に(時)~副詞(程度) .590 $\geq p \geq$.001										ダービー前に再三出場者の打ち合せがあり	
に→副	7	—	2	2	3	—	2	—	—	—	—	[週朝 六17, 79]
副→に	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	さらにここに悪夢のように起った大事件は
												[実維 八167]
349	に(原因)~副詞(ようす) .590 $\geq p \geq$.001										本人の有責行為に直接起因する [ジュ 九1,	
に→副	7	—	2	2	—	3	0	—	—	—	—	43]
副→に	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	敢然、私をすてて、公に奉ずる精神にふるい
												立った[丸 十17]
350	も(主格)~と(副詞語尾) .590 $\geq p \geq$.001										そういう双子は性格もピタッと同じです [週	
も→と	7	1	1	—	1	4						説 一29, 35]
と→も	1	—	1	—	—	—						のびのびと仕事も休息も出来る煖房は [週サ
												一22, 47]
351	副詞(評価)~で(状態) .590 $\geq p \geq$.001										なるべく全員一致でゆきたいのです [主友 五	
副→で	7	1	1	—	4	1	4	—	—	—	3	80]
で→副	1	—	—	—	1	—	0	—	—	—	—	痙攣と努力でまず顔をつき出し [婦公 七290]
352	副詞(評価)~を(空間的径路) .590 $\geq p \geq$.001										ランナーは必ず右側を走れ [野球 六180]	
副→を	7	1	2	—	1	3	5	—	1	—	1	3
を→副	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
353	副詞(程度)~へ(空間的到達点) .590 $\geq p \geq$.001										父は兄がいたところは、もっと子供達の部屋へ	
副→へ	7	—	4	—	1	2	5	—	4	—	—	1
へ→副	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1
354	を(対象)~形容詞(ようす) .591 $\geq p \geq$.364										人間の脳を正しく知るのに役だてることが	
を→形	65	9	9	11	19	17	26	1	4	4	10	7
形→を	60	10	11	2	12	25	31	6	7	1	8	9
355	は(主格)~名詞(ようす) .596 $\geq p \geq$.132										吉田はセオリイ通り実行したのだ [小サ 十一	
は→名	16	2	1	1	1	11						250]
名→は	8	—	—	—	—	8						
356	から(時間的出発点)~で(手段) .602 $\geq p$										15分おいてから貨幣でしごととよい [ポピ	
から→で	5	1	1	1	—	2	0	—	—	—	—	—
で→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
357	から(時間的出発点)~と(相手) .602 $\geq p$										僕がそれから、敏子と赤坂の宿で一緒の夜を	
から→と	5	1	—	—	1	3	2	—	—	—	1	1
と→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
358	から(時間的出発点)~と(引用) .602 $\geq p$										私どもが若いころから最もいやだと思ひのは	
から→と	5	1	—	2	—	2	1	—	—	1	—	—
と→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
359	から(時間的出発点)~と(副詞語尾) .602 $\geq p$										…をやる頃からやととボツボツと好意のある	
から→と	5	1	—	—	1	3	1	—	—	—	—	1
と→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

	総計					純計					実例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
360 から(時間的出発点)~副詞(ようす) .602 $\geq p$													
から→副	5	1	—	—	—	4	2	—	—	—	—	2	さあ、これからどうなさるの? [宝石 五39]
副→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
361 から(抽象的基点)~まで(抽象的限界) .602 $\geq p$													
から→まで	5	—	—	—	1	4	3	—	—	—	1	2	個人を尊重することから隣人の存在を尊敬するところまで発展する [新潮 九187]
まで→から	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
362 名詞(時)~から(受身の相手) .602 $\geq p$													
名→から	5	—	3	—	—	2	2	—	—	—	—	2	調印式の日、皆からお芽出とうと挨拶されたが [人物 二61]
から→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
363 つつ~を(対象) .602 $\geq p$													
つつ→を	5	1	—	—	1	3	0	—	—	—	—	—	おこんをしりぞけつつ手まり姫を探していた左源太は [傑俱 二37]
を→つつ	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
364 で(空間的場所)~で(手段) .602 $\geq p$													
空→手	5	—	1	—	2	2	1	—	—	—	1	—	深夜の寝室でこっそりメスで斬りつけた [近映 七140]
手→空	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
365 で(時)~副詞(評価) .602 $\geq p$													
で→副	5	1	1	1	1	1	1	—	—	—	—	1	後ではなかなかベッドになじんでくれません [婦生 五付17]
副→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
366 で(手段)~と(副詞語尾) .602 $\geq p$													
で→と	5	—	2	—	—	3	2	—	1	—	—	1	いつも、ポマードでキチンと分けていた頭髪が [オ説 五261]
と→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
367 で(原因)~に(抽象的到達点) .602 $\geq p$													
で→に	5	—	1	1	—	3	0	—	—	—	—	—	双ツ竜関はどういう縁故で相撲に入られたんです [相撲 八118]
に→で	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
368 ながら~名詞(量) .602 $\geq p$													
ながら→名	5	—	1	—	1	3	1	—	1	—	—	—	苦痛に眉をよせながら口から一筋血をたらし [週東 七28, 26]
名→ながら	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
369 ながら~副詞(ようす) .602 $\geq p$													
ながら→副	5	—	1	—	1	3	0	—	—	—	—	—	石ころを蹴飛ばしながら、ぼんやり歩いていたら [旅 十一113]
副→ながら	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
370 に(空間的存在場所)~形容詞(ようす) .602 $\geq p$													
に→形	5	—	3	—	2	—	2	—	1	—	1	—	彼女らが、船中に行儀よく並んでハシヤグ表情態度に [週読 八19, 5]
形→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
371 に(時)~と(結果) .602 $\geq p$													
に→と	5	—	—	3	1	1	2	—	—	1	1	—	九月十二日に大詔渙発となった [エコ 二4, 59]
と→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
372	に(資格)~と(引用) .602 $\geq p$											
に→と	5	1	—	—	—	4	0	—	—	—	—	—
と→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
373	に(原因)~に(副・ようす) .602 $\geq p$											
理→副	5	2	2	—	—	1	0	—	—	—	—	—
副→理	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
374	に(評価の基準)~形容詞(ようす) .602 $\geq p$											
に→形	5	—	—	1	1	3	3	—	—	1	—	2
形→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
375	に(副・ようす)~と(結果) .602 $\geq p$											
に→と	5	—	1	1	2	1	1	—	1	—	—	—
と→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
376	に(副・評価)~と(結果) .602 $\geq p$											
に→と	5	1	1	2	—	1	2	1	1	—	—	—
と→に	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
377	は(主格)~へ(抽象的到達点) .602 $\geq p$											
は→へ	5	2	1	—	1	1						
へ→は	0	—	—	—	—	—						
378	は(主格)~まで(空間的限界) 602 $\geq p$											
は→まで	5	—	1	—	1	3						
まで→は	0	—	—	—	—	—						
379	は(対象)~形容詞(量) .602 $\geq p$											
は→形	5	—	1	—	2	2						
形→は	0	—	—	—	—	—						
380	は(雑格)~に(副・ようす) .602 $\geq p$											
は→に	5	2	—	—	3	—						
に→は	0	—	—	—	—	—						
381	より(比較の基準)~に(抽象的到達点) .602 $\geq p$											
より→に	5	—	1	2	—	2	0	—	—	—	—	—
に→より	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
382	より(時間的出発点)~を(対象) .602 $\geq p$											
より→を	5	—	1	—	2	2	1	—	—	—	—	1
を→より	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
383	名詞(時)~を(空間的径路) .602 $\geq p$											
名→を	5	1	1	—	1	2	3	—	1	—	1	1
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実例

借しいことに、剣影砲声というのを、彼声と書きちがえて[娛よ 九21, 17]

調べたことがありますだけに、直感的にこれはひじょうに甘い考え方だと感じました [キン -104]

これが若い人々には大へんよく似合う [婦朝 十58]

被害をあたえていることが、近年、次第に明らかとなって[週サ 八26, 28]

明らかに前途を期待した株価となっている [ダイ 七7, 97]

世界は平和へ前進した [キン -104]

彼はその薄野につづく細い道をどこまでもどこまでも歩いてきた [小俱 四81]

彼等の気風はよく知ってゐたが [文春 -311]

この点は、明治憲法と根本的に事情がちがっている [中公 十二264]

奈美子の心は過去よりも現実に向いて [新潮 七142]

小学生頃より音楽教育を受けただけあって [音友 十二198]

その時このせまい路地をタクシイが入って来た [別文 53号 117]

	総 計					純 計							
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五	
384	名詞(抽象的场所)~を(対象)					.602	≥	p					
名→を	5	—	2	2	1	—	1	—	—	—	—	—	
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
385	名詞(抽象的场所)~も(主格)					.602	≥	p					
名→も	5	1	1	2	—	1							
も→名	0	—	—	—	—	—							
386	名詞(対象)~名詞(量)					.602	≥	p					
対→量	5	—	—	—	4	1	2	—	—	—	2	—	
量→対	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
387	名詞(対象)~副詞(評価)					.602	≥	p					
名→副	5	—	—	—	—	5	4	—	—	—	—	4	
副→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
388	名詞(場合)~を(対象)					.602	≥	p					
名→を	5	—	1	1	—	3	0	—	—	—	—	—	
を→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
389	名詞(理由)~に(結果)					.602	≥	p					
名→に	5	—	1	2	—	2	0	—	—	—	—	—	
に→名	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
390	名詞(評価)~も(主格)					.602	≥	p					
名→も	5	2	—	—	2	1							
も→名	0	—	—	—	—	—							
391	形容詞(時)~に(空間的到達点)					.602	≥	p					
形→に	5	2	2	—	—	1	2	1	—	—	—	1	
に→形	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
392	副詞(時)~で(手段)					.602	≥	p					
副→で	5	1	—	—	3	1	3	—	—	—	3	—	
で→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
393	副詞(時)~と(副詞語尾)					.602	≥	p					
副→と	5	1	1	—	—	3	5	1	1	—	—	3	
と→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
394	副詞(時)~に(目的)					.602	≥	p					
副→に	5	—	2	—	—	3	4	—	1	—	—	3	
に→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
395	副詞(評価)~形容詞(ようす)					.602	≥	p					
副→形	5	—	—	—	2	3	4	—	—	—	2	2	
形→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	

実 例

他方, …俊鶴丸がいち早く空気中の放射能塵の分析を行い[自然 八14]

すまぬという一言の外は言葉もない[人物 二61]

吾子一人残し発つ日やカンナ 燃ゆ[婦朝 十—152]

御返事必ず差上げます[実雄 九305]

いろいろな地方の人が集まった席上, テキサス人が自分の州の自慢話を……話して[リダ 九135]

そのため追放にもなった[人物 二146]

実は私たちも心配している[主友 二270]

翌日の午後, 岸淵兵輔は早くも壬生の屯所に近藤をたずねてきた[サ毎 四22, 27]

やがて, わが伯父蒙^{マング}可大汗の手で攻略される日も[講俱 五98]

やがて, ぼつんと呟いた[小春 八140]

初めて美智子の家へ遊びに行ったとき [明星 四 236]

おそらく今日の社会の特定な構造と男女の役割と深く結び合っているから[婦公 十104]

	総計					純計					実例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
396	副詞(よろす)～と(結果) .602 $\geq p$										日本紅茶の名は一躍世界的となった〔キン 五179〕		
副→と	5	—	2	1	—	2	3	—	2	—	—	1	
と→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
397	副詞(よろす)～に(内容) .602 $\geq p$										一見武骨に見える金巻半九郎の……〔小泉 九230〕		
副→に	5	—	1	2	—	2	4	—	1	1	—	2	
に→副	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
398	副詞(時)～副詞(よろす) .602 $\geq p$										最近メキメキ人気を獲得している歌手に〔小泉 四13〕		
時→よろす	5	—	1	2	—	2	5	1	2	—	—	2	
よろす→時	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	
399	と(引用)～副詞(よろす) .602 $\geq p \geq .082$										己を見失ってはならないとつくづく思う〔保同 七増56〕		
と→副	12	1	2	2	3	4	1	—	—	—	1	—	
副→と	5	—	—	—	2	3	1	—	—	—	1	—	
400	は(主格)～に(原因) .606 $\geq p \geq .253$										ミチルは母の再婚話に胸をいためる〔主生 九75〕		
は→に	26	4	2	3	1	16							
に→は	19	1	6	3	—	9							
401	名詞(時)～名詞(主格) .606 $\geq p \geq .102$										今日は彼奴やってくるか〔婦俱 十二289〕		
時→主	13	1	1	1	4	6	1	—	—	—	—	1	
主→時	6	1	1	—	2	2	2	1	—	—	1	—	
402	副詞(程度)～が .606 $\geq p \geq .387$										もっと予算が少なくともやれる〔芸新 八263〕		
副→が	72	5	13	8	20	26	45	3	11	7	8	16	
が→副	71	7	12	17	13	22	24	1	5	3	7	8	
403	で(抽象的場所)～に(時) .612 $\geq p \geq .015$										右の計画では、来年度に増資が予想されていた〔ダイ 八14, 73〕		
で→に	8	—	3	3	—	2	0	—	—	—	—	—	
に→で	2	—	—	—	—	2	0	—	—	—	—	—	
404	名詞(時)～の .612 $\geq p \geq .015$										次に「水着の花嫁」で北川町子と一緒に女子大学生〔近映 一156〕		
名→の	8	—	1	2	3	2	6	—	1	2	3	—	
の→名	2	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	1	
405	副詞(よろす)～に(相手) .612 $\geq p \geq .015$										現在最も人気の高いバレリーナの〔知性 三123〕		
副→に	8	—	2	—	2	4	5	—	1	—	2	2	
に→副	2	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1	
406	から(空間的出发点)～に(副・よろす) .612 $\geq p \geq .139$										わたしがいまいったことが〔相撲 十二102〕		
から→に	15	1	2	—	10	2	10	1	2	—	5	2	
に→から	8	3	1	—	1	3	4	1	—	—	1	2	
407	は(主格)～で(抽象的場所) .619 $\geq p \geq .349$										いちいち、みんなに口頭で知らせておくことは〔家光 一付183〕		
は→で	44	7	9	9	3	16							
で→は	41	6	9	8	5	13							

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
408	(空間的存在場所)~副詞(よろす)					.622 ≥ p ≥ .036						
に→副	9/1	1	1	2	4	2/—	1	—	—	—	1	
副→に	3/—	1	—	—	2	1/—	—	—	—	—	1	
409	副詞(評価)~で(手段)					.622 ≥ p ≥ .036						
副→で	9/1	1	1	2	4	4/—	1	1	2	—		
で→副	3/—	—	—	1	2	1/—	—	—	1	—		
410	副詞(評価)~に(副・よろす)					.622 ≥ p ≥ .036						
副→に	9/2	—	2	2	3	4/—	—	1	1	2		
に→副	3/—	1	—	—	2	1/—	1	—	—	—		
411	で(抽象的场所)~副詞(評価)					.628 ≥ p ≥ .064						
で→副	10/2	—	3	1	4	2/—	—	1	—	1		
副→で	4/1	—	1	1	1	2/1	—	1	—	—		
412	も(主格)~と(引用)					.628 ≥ p ≥ .064						
も→と	10/4	1	1	1	3							
と→も	4/1	2	—	—	1							
413	は(主格)~で(原因)					.630 ≥ p ≥ .162						
は→で	15/3	1	2	3	6							
で→は	9/—	4	2	—	3							
414	副詞(評価)~に(相手)					.630 ≥ p ≥ .162						
副→に	15/4	3	2	5	1	6/2	—	1	3	—		
に→副	9/—	2	2	—	5	2/—	—	—	—	2		
415	まで(時間的限界)~が					.631 ≥ p ≥ .109						
まで→が	12/2	1	4	1	4	5/—	—	3	—	2		
が→まで	6/—	1	—	—	5	1/—	—	—	—	1		
416	副詞(評価)~に(抽象的存在場所)					.637 ≥ p ≥ .230 ⁻						
副→に	19/3	6	4	2	4	8/1	1	4	—	2		
に→副	14/3	2	4	—	5	1/—	—	—	—	1		
417	と(比較の基準)~が					.643 ≥ p ≥ .020 ⁻						
と→が	6/1	1	1	1	2	1/1	—	—	—	—		
が→と	1/—	—	—	—	1	0/—	—	—	—	—		
418	で(空間的场所)~から(空間的出发点)					.643 ≥ p ≥ .020 ⁻						
で→から	6/1	—	—	3	2	4/1	—	3	—	—		
から→で	1/—	1	—	—	—	1/—	1	—	—	—		
419	で(空間的场所)~名詞(対象)					.643 ≥ p ≥ .020 ⁻						
で→名	6/1	1	1	3	—	2/—	—	1	1	—		
名→で	1/—	—	—	—	1	0/—	—	—	—	—		

実例

箆笥の中にギッシリ詰まったスリッパを〔装苑 十二144〕
 ゴオラは相かわらず、寝台に横たわっていたが〔読小 五111〕
 結局藤田の続投で勝った〔ベマ 四252〕
 六千円で、はたして生活できるかどうか〔主友 二270〕
 もし各売場が勝手に値引きに応じていたなら〔商店 八45〕
 スパロウと一緒に又々留置場へほうり込まれた〔トル 六107〕
 思想面ではなるべく問題にすまい〔中公 七176〕
 むしろ幼なじみの間では、そういうものは生まれにくい〔明星 二145〕
 孔子も「時に会わず」と歎ぜられ〔大法 十一187〕
 自由な世界で働きたい、と貞雄も願った〔読小 十二240〕
 姉は差支えて今度はお何い出来ないのです〔スタ 四208〕
 寄生虫が一匹発生しただけでも人間は大いに苦しみ〔文春 十一265〕
 もしやあなたにあえやしないかと〔新潮 一49〕
 一般減税にはもちろん賛成であるが〔エコ 八25, 25〕
 今までピアノが弾けなかったのに〔週新 十一29, 62〕
 咳が、いつまでもとまらない〔明星 三145〕
 やはり投手力に不安がある〔野球 四76〕
 近衛にはむしろそういう一面もあったが〔知性 十222〕
 この点は明治憲法と根本的に事情がちがっている〔中公 十二264〕
 ペレスがあこのころと余り変っていないだろうとの〔実雑 十一296〕
 バスト線で中央から九センチ入って〔婦俱 五付99〕
 高山から平湯温泉で乗りつき〔キン 入付90〕
 一番へいこうさせられるのは、山でお刺身など出されることです〔婦友 七50〕
 この人ねえ、西鷺橋んここで拾ってきちゃった〔明星 十252〕

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
420	に(時)〜で(手段) .643 $\geq p \geq .020^-$											
に→で	6	1	2	1	2	1	—	—	—	—	1	—
で→に	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
421	に(時)〜と(相手) .643 $\geq p \geq .020^-$											
に→と	6	—	2	2	—	2	—	1	1	—	—	—
と→に	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
422	に(時)〜へ(空間的到達点) .643 $\geq p \geq .020^-$											
に→へ	6	—	—	—	1	5	1	—	—	—	—	1
へ→に	1	—	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—
423	に(原因)〜も(主格) .643 $\geq p \geq .020^-$											
に→も	6	1	3	—	—	2						
も→に	1	—	—	—	—	1						
424	に(原因)〜名詞(主格) .643 $\geq p \geq .020^-$											
に→名	6	3	2	1	—	—	1	1	—	—	—	—
名→に	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
425	も(主格)〜へ(空間的到達点) .643 $\geq p \geq .020^-$											
も→へ	6	1	—	—	—	5						
へ→も	1	—	—	—	—	1						
426	名詞(時)〜から(抽象的基点) .643 $\geq p \geq .020^-$											
名→から	6	1	1	—	1	3	1	—	—	—	—	1
から→名	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1
427	名詞(主格)〜と(副詞語尾) .643 $\geq p \geq .020^-$											
名→と	6	—	2	—	—	4	5	—	1	—	—	4
と→名	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
428	名詞(主格)〜副詞(時) .643 $\geq p \geq .020^-$											
名→副	6	1	—	—	3	2	5	1	—	—	3	1
副→名	1	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—
429	副詞(時)〜に(空間的存在場所) .643 $\geq p \geq .020^-$											
副→に	6	2	1	1	1	1	3	2	—	1	—	—
に→副	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
430	副詞(時)〜に(受身の相手) .643 $\geq p \geq .020^-$											
副→に	6	2	2	—	1	1	5	1	2	—	1	1
に→副	1	—	1	—	—	—	1	—	1	—	—	—
431	副詞(時)〜も(主格) .645 $\geq p \geq .195$											
副→も	16	—	3	—	4	9						
も→副	11	—	1	2	3	5						

実例

いざ戦争という時には…強大な軍事力で一気に相手を粉砕して[キン 一104]
いきなり大きな声で、奥さんが辞書を開かない中に…と、一芝居打って[小泉 六196]
後に、近藤勇五郎翁が、団左衛門と度々面会したが[人物 五99]
…なり、婦人議員の方なりと、この問題について事前に話し合いはなされたんですか [婦朝 三71]
クリスマスの日にレーニエがフィラデルフィアの私の家へきた[実雑 四237]
ホームへは、新宿方面行が先に来て[週読 六17, 4]
そのために、おりおり都合の悪いことも起こるので[家光 一付182]
週刊雑誌ブームもこのために表われたといわれる[明星 十二230]
吉原へ二月も通いつめた話には、両親まで感服した[週朝 七8, 57]
満天星(どうだん)の花風にゆれをり[短歌 七188]
大作も堂々とそれへ進んで[読小 四189]
家の中へはだれもはいりません[婦朝 三159]
当時、社長の椅子からすべり落ちて[主生 九314]
宝塚歌劇団から八月大映に入社し[平凡 十一224]
義経つかつかと土間へ入って来る[明星 十二96]
からからと矢車の音空にして[短歌 七188]
わたし、さっそく退散するわ[主生 七106]
ちょっと暑くなってくるとすぐ、みなさん、うすい生地のスカートにおかえになるようです[婦画 七155]
まだ、卓の上にウィスキーの角瓶がおいてあった[婦生 三151]
ボウフィン号には、まだ六発の魚雷と砲弾がどっさり残っていた[実雑 十318]
私はまだお母様には怨まれてゐるでせうから [文芸 十二111]
向うにすでに見つけられて[丸 六59]
もうスキーシーズンも終る[週サ 四8, 22]
その返事もまだ来なかった[主生 一310]

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
432	に(評価の基準)～が					.646	≥ p ≥ .215 ⁻					
に→が	18	2	2	3	2	9	1	—	—	—	—	1
が→に	13	3	3	—	3	4	0	—	—	—	—	—
433	に(副・程度)～を(対象)					.646	≥ p ≥ .215 ⁻					
に→を	18	3	3	3	4	5	10	2	2	2	3	1
を→に	13	—	3	3	6	1	4	—	1	2	1	—
434	は(対象)～副詞(評価)					.646	≥ p ≥ .215 ⁻					
は→副	18	3	—	4	1	10						
副→は	13	—	3	4	1	5						
435	名詞(量)～に(副・ようす)					.650	≥ p ≥ .171					
名→に	14	2	1	2	5	4	9	1	—	2	4	2
に→名	9	—	—	—	7	2	7	—	—	—	6	1
436	から(抽象的基点)～を(対象)					.650	≥ p ≥ .171					
から→を	21	1	4	6	3	7	4	—	1	—	1	2
を→から	17	2	2	3	2	8	3	—	1	1	—	1
437	に(副・ようす)～と(引用)					.652	≥ p ≥ .247					
に→と	19	2	3	5	3	6	1	1	—	—	—	—
と→に	15	3	1	1	3	7	1	—	1	—	—	—
438	に(抽象的存在場所)～名詞(主格)					.657	≥ p ≥ .017					
に→名	7	1	—	1	2	3	4	1	—	—	—	3
名→に	2	—	—	—	1	1	0	—	—	—	—	—
439	に(抽象的存在場所)～副詞(ようす)					.657	≥ p ≥ .017					
に→副	7	2	1	—	2	2	3	1	—	—	1	1
副→に	2	1	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—
440	に(副・評価)～に(空間的到達点)					.657	≥ p ≥ .017					
副→到	7	—	—	3	4	—	1	—	—	—	1	—
到→副	2	—	—	—	2	—	2	—	—	—	2	—
441	に(時)～副詞(評価)					.657	≥ p ≥ .152					
に→副	13	1	2	1	3	6	5	—	1	1	1	2
副→に	8	1	1	1	2	3	2	—	1	—	—	1
442	を(対象)～へ(空間的到達点)					.658	≥ p ≥ .309					
を→へ	25	2	3	—	7	13	12	1	2	—	3	6
へ→を	23	—	5	—	2	16	10	—	2	—	1	7
443	に(時)～副詞(時)					.658	≥ p ≥ .117					
に→副	11	4	—	2	3	2	3	1	—	1	—	1
副→に	6	1	1	1	—	3	1	—	1	—	—	—

実例

洋治なンかに何が判るか[週東 五12, 42]
 外国語的な扱いの方が現在の人にはびったりする[音友 二93]
 われわれは高橋氏以上に、…ことをみとめて
 いる[中公 三90]
 温い光を十分に送れば[週サ 五6, 16]

投資計画はなるべく来年に繰延ばし[東経 十
 13, 58]
 決して、軽卒なふるまいはなさらぬように
 [読小 七79]

石鹼素地を一度簡単に冷して[婦俱 五297]
 ウエスト線を平行に二センチ上げ[婦俱 五付
 184]
 以上新聞報道中から主な記事を紹介すれば
 [フエ 四22]
 変わったクセの所有者を有名人のなかから拾っ
 てみると[週新 七23, 17]
 医学的には栄養失調症と呼ばれて[婦生 五付
 196]
 「…」と無意識のように呟きながら [講俱 七
 317]

法立戦、中教戦もチーム力に大差なく [週新
 十一-19, 18]
 彼は、大事になる前に、…がキナクさい匂い
 をかいだことなど、念頭にないのだ [婦朝
 四174]

偏食を矯正するにはさまざまありますが
 [主生 二429]
 よし天罰が直接その面前にあらわれぬとして
 も[知性 三209]

図のように一方の衿先から他の一方に編みま
 す[婦生 一付42]
 前身頃に出来上りのように重ねて[婦俱 三付
 101]

繁殖期には必ず上陸し[科読 三38]
 やっぱり品物を手にするごとに緊張しますわ
 ね[婦俱 三310]

かうして女を宿屋へ連れ込みさへすれば [新
 潮 四36]
 お前のところへ手紙を出そうと[講俱 七103]

朝炊いた御飯が晩にはもう臭いのつくことが
 [婦俱 二付44]
 まだ今までに三組しかやっていないんです
 [週読 一29, 35]

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
444	に(副・よろす)~に(抽象的到達点)					.658 $\geq p \geq$.117						
副→抽	11	1	1	2	3	4	5	—	1	—	2	2
抽→副	6	—	1	—	1	2	0	—	—	—	—	—
445	に(副・よろす)~形容詞(よろす)					.658 $\geq p \geq$.117						
に→形	11	—	4	—	2	5	6	—	3	—	—	3
形→に	6	—	2	1	1	—	1	—	—	—	—	1
446	で(空間的場所)~と(相手)					.660 $\geq p \geq$.042						
で→と	8	—	2	—	—	6	4	—	1	—	—	3
と→で	3	—	1	—	—	2	1	—	—	—	—	1
447	は(対象)~に(時)					.660 $\geq p \geq$.042						
は→に	8	—	—	4	1	3						
に→は	3	—	—	—	2	1						
448	を(対象)~で(期限・値段)					.660 $\geq p \geq$.042						
を→で	8	—	2	3	1	2	1	—	—	1	—	—
で→を	3	—	1	—	—	2	0	—	—	—	—	—
449	名詞(時)~は(対象)					.660 $\geq p \geq$.042						
名→は	8	—	2	1	3	2						
は→名	3	—	—	2	—	1						
450	形容詞(よろす)~に(抽象的到達点)					.660 $\geq p \geq$.042						
形→に	8	—	1	2	1	2	2	6	—	1	2	2
に→形	3	—	2	1	—	—	—	0	—	—	—	—
451	形容詞(よろす)~に(空間的到達点)					.660 $\geq p \geq$.042						
形→に	8	—	1	2	1	3	7	—	1	1	1	3
に→形	3	—	—	—	2	1	3	—	—	—	2	1
452	で(抽象的場所)~と(引用)					.661 $\geq p \geq$.069						
で→と	9	—	2	2	—	3	3	—	2	—	—	1
と→で	4	—	1	—	—	1	0	—	—	—	—	—
453	を(対象)~形容詞(量)					.661 $\geq p \geq$.069						
を→形	9	—	2	3	2	2	4	—	2	1	—	1
形→を	4	—	1	1	2	—	2	—	1	1	—	—
454	名詞(主格)~副詞(評価)					.661 $\geq p \geq$.069						
名→副	9	—	1	2	—	6	5	—	1	—	—	4
副→名	4	—	1	1	1	—	3	—	1	1	—	1
455	が~で(手段)					.671 $\geq p \geq$.308						
が→で	23	—	3	2	—	—	18	9	—	1	—	7
で→が	22	—	2	5	3	7	5	6	—	1	—	3

実例

一気に熟睡に入った[小俱 四81]
 擲取の現実にも批判的に触れて[葦 九77]

当番から、順番に行儀よく配給されると [週
 サ 五13, 40]
 性格の動きをあますことなく網羅的につかん
 で[中公 六257]

台所でオバさんとはなしをしていたら [ベマ
 六 268]
 太田黒元雄さんと高の台のゴルフ場で一緒に
 なって[ベマ 二100]

事件はなるべく今夜中に解決しよう [別新 十
 267]
 事前に話合いは なさったんですか [婦朝 三
 71]

時計の分解掃除を三十分でする [小泉 二139]
 同じ値段で自動的に 國家がこれを買いあげ
 [芸新 十二231]

私はものを発表する場合匿名や擬名は一切用
 いない [葦 十38]
 そいつはその時おもらひ申しませう [新潮 四
 36]

寛直は一も二もなく、登丸の話に飛びついて
 [キン 十二134]
 こうした愚劣な偏見が黒人の上に重くしく
 覆いかぶさった [群像 九112]

あわただしくお客が店に飛び込んできた [商
 店 十57]
 器に形よく盛ってすゝめます [婦生 二付318]

親しい人人の間では、John 又は Willy とよ
 ばれて [週東 六30, 66]
 実は水素爆弾のプランであると閣議で力説し
 たため [映友 二170]

アメリカ版などでは、カラーページを多くと
 り入れてますから [ポピ 一203]
 …には影響は余りないが甚だしく商品価値を
 低下する [農園 十40]

あなた、一体、どうなさったの [キン 七77]
 先ず、陸軍機勇躍してこれが攻撃に飛び上っ
 た [丸 増十二191]

大森氏が肩を張った言葉で云うと [講俱 一
 150]
 あなたがたの手で平和がもたらされる時が
 [婦公 一115]

	総 計					$.671 \geq p \geq .194$	純 計				
	全/一	二	三	四	五		全/一	二	三	四	五
456	に(相手)~名詞(量)										
に→名	14/1	4	2	4	3	4/1	1	—	2	1	
名→に	10/—	3	1	1	5	4/—	1	—	—	3	
457	から(抽象的基点)~が										
から→が	13/1	5	3	1	3	5/1	3	1	—	—	
が→から	9/2	—	—	—	7	4/—	—	—	—	4	
458	を(対象)~名詞(ようす)										
を→名	16/1	2	5	3	5	4/1	1	—	1	1	
名→を	13/3	—	3	—	7	4/1	—	2	—	1	
459	が~に(目的)										
が→に	23/3	4	4	1	11	4/—	1	1	—	2	
に→が	23/3	4	9	4	3	3/1	1	1	—	—	
460	に(相手)~形容詞(ようす)										
に→形	11/1	1	2	2	5	4/1	—	2	—	1	
形→に	7/—	3	1	1	2	3/—	—	1	—	2	
461	で(主題)~は(主格)										
で→は	9/1	1	2	1	4						
は→で	5/1	—	1	—	3						
462	を(対象)~まで(抽象的限界)										
を→まで	9/1	1	2	1	4	4/—	1	—	—	3	
まで→を	5/1	—	1	—	3	2/—	—	—	—	2	
463	に(相手)~と(引用)										
に→と	13/—	4	—	3	6	2/—	—	—	1	1	
と→に	10/1	3	—	2	4	1/—	—	—	—	1	
464	に(副・時)~が										
に→が	14/2	4	3	3	2	5/—	1	—	3	1	
が→に	11/1	4	2	—	4	0/—	—	—	—	—	
465	に(抽象的存在場所)~に(副・程度)										
抽→副	8/1	1	1	1	4	2/1	—	—	—	1	
副→抽	4/—	2	—	—	2	2/—	—	—	—	2	
466	副詞(ようす)~で(手段)										
副→で	7/1	3	—	—	3	6/1	3	—	—	2	
で→副	3/—	1	—	2	—	1/—	1	—	—	—	
467	が~まで(空間的限界)										
が→まで	5/1	2	—	—	2						
まで→が	1/—	—	—	—	1						

実 例

あなたに二万円廻してあげるわよ【実雑 十二66】
 訴人の恩賞は半分お前にやるから【才読 八95】
 ILOから経営者代表が脱退し【東経 七7, 51】
 役者ずれのしない雰囲気は彼から漂うのであった【映友 六106】
 煮えたのを鍋ごと食卓へ運び【主友 一528】
 曳子は綱を持ったまま、この声を聞いている【別新 十79】
 よし、俺が助けに行ってやる【小泉 十349】
 感情を真実にするためには、感性を統禦するメドがある【美手 九43】
 憲兵に激しく抵抗するうち【平凡 五280】
 司教はやさしく、この男に食べ物とベッドを与えた【家光 十一76】
 東京からゆけば午後立ちでは下田一泊はちょっと遠すぎる【旅 十一194】
 ロッキイのすきだらけの構えは、あれでいいのかね【読小 三299】
 フランスを土台骨までゆすぶった疑獄事件【リダ 一135】
 男子は六人まで妻をもつことが公許されていたから【笑泉 五138】
 憲兵に、司教は「銀の燭台もやったのだ。」と書いて【家光 十一76】
 …と、親友の根本慎一に語った【婦公 十一122】
 芸妓屋のなかには、たまにそういう家がないとはいえない【週サ 十一25, 22】
 それが常に国際情勢、国際経済を念頭において、物事を処理している【東経 十20, 36】
 モリシゲの味が「こじき袋」の中にも十分に現われていて【週読 二12, 81】
 玉乃海を破った相撲が非常に印象に残っているんですが【相撲 十二102】
 ひょいひょい尻で調子をとりながら【文芸 四205】
 官の名前をつかい、軍用船でどしどし品物を送らせた【キン 四100】
 懲罰の兵が、逆に国境近くまで進められた【サ毎 十7, 24】
 かじかんでいた指先まで真赤に血が通って【小泉 一208】

	総 計					$.706 \geq p \geq .001$	純 計					
	全	一	二	三	四		五	全	一	二	三	四
468	から(発端)~を(対象)						$.706 \geq p \geq .001$					
から→を	5/	—	3	—	1	1	1/	—	—	—	—	1
を→から	1/	—	—	—	—	1	0/	—	—	—	—	—
469	で(空間的场所)~副詞(程度)						$.706 \geq p \geq .001$					
で→副	5/	—	2	2	1	—	0/	—	—	—	—	—
副→で	1/	—	—	—	—	1	0/	—	—	—	—	—
470	で(状態)~副詞(ようす)						$.706 \geq p \geq .001$					
で→副	5/	—	1	—	1	3	2/	—	1	—	1	—
副→で	1/	1	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
471	と(引用)~名詞(量)						$.706 \geq p \geq .001$					
と→名	5/	—	3	—	—	2	1/	—	—	—	—	1
名→と	1/	1	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
472	に(時)~に(副・評価)						$.706 \geq p \geq .001$					
時→副	5/	1	1	—	3	—	1/	—	—	—	1	—
副→時	1/	—	—	1	—	—	0/	—	—	—	—	—
473	に(評価の基準)~副詞(評価)						$.706 \geq p \geq .001$					
に→副	5/	—	1	—	1	3	0/	—	—	—	—	—
副→に	1/	—	—	—	1	—	0/	—	—	—	—	—
474	に(評価の基準)~副詞(程度)						$.706 \geq p \geq .001$					
に→副	5/	1	2	—	—	2	0/	—	—	—	—	—
副→に	1/	1	—	—	—	—	0/	—	—	—	—	—
475	に(副・評価)~と(引用)						$.706 \geq p \geq .001$					
に→と	5/	—	—	2	—	3	1/	—	—	1	—	—
と→に	1/	—	—	1	—	—	0/	—	—	—	—	—
476	副詞(時)~の						$.706 \geq p \geq .001$					
副→の	5/	1	—	—	3	1	3/	1	—	—	2	—
の→副	1/	—	1	—	—	—	1/	—	1	—	—	—
477	は(雑格)~は(主格)						$.706 \geq p \geq .001$					
雑→主	5/	2	—	3	—	—						
主→雑	1/	—	—	—	—	1						
478	は(対象)~で(空間的场所)						$.706 \geq p \geq .001$					
は→で	5/	—	—	—	4	1						
で→は	1/	1	—	—	—	—						
479	は(雑格)~名詞(時)						$.706 \geq p \geq .001$					
は→名	5/	2	—	1	—	2						
名→は	1/	—	—	1	—	—						

実 例

塩沢さんから糸口をきいていただきましょう
 [日週 三25, 14]
 今度は、戦前のゴルフ関係の参考書を片端から読んでみたい[週新 三25, 57]
 都会でもよく見受けられる [サ毎 十二23, 84]
 僕はしばらくそこで休んだんだ [小春 十一171]
 老後は二人でゆっくり生活を楽しむというには [主生 十一440]
 それぞれ違った意味で問題になるのではないか [短歌 九80]
 「困りましたね」と一言いった [キン 七288]
 どれほど会社をつくらうと熱心に考えたことでしょう [群像 一118]
 そんな時には別にほめてもらえないのです [婦生 五付109]
 第六一図に示すように、……品種では、分けつ期間に主力を用いて [農世 九127]
 国際美人の条件には、やはり……健康美が必要であろう [週新 十22, 28]
 とても私には理解が出来ない [婦画 九190]
 ……が彼女には一層やり切れないのだった [文春 五298]
 実はどういわけで掛っているんだか、かいても私にも分らない [別文 50号 282]
 逆に誘拐者を逮捕した者には五十万弗の賞金を出そうと宣言した [スク 八38]
 ……とたしかにっています [ジュ 十一1, 55]
 まだ理解のない人達も多い [婦公 七290]
 私の始めて出した涙の中には [葦 十二17]
 俳句はそんなことはない [俳句 十116]
 田島は…そんな客に接することは馴れていた [講俱 七422]
 打合はバスト線で一・五センチ出し [ドレ 七138]
 その家でせめて、二三日の餓ゑは凌ぎたい [新潮 五155]
 徳島のお城は、いまその中に城跡があって [美手 増十69]
 現在海岸における行為は、……規制がなされているので [時法 七23, 7]

	総 計					.706 $\geq p \geq$.001	純 計					
	全	一	二	三	四		五	全	一	二	三	
480	を(対象)~に(認識内容)						を(対象)~に(認識内容)					
を→に	5	—	—	—	3	2	4	—	—	—	3	1
に→を	1	—	—	—	1	—	0	—	—	—	—	—
481	名詞(主格)~名詞(量)						名詞(主格)~名詞(量)					
主→量	5	—	1	—	1	3	1	—	—	—	1	—
量→主	1	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—
482	が~へ(抽象的到達点)						が~へ(抽象的到達点)					
が→へ	6	—	—	1	2	3						
へ→が	2	1	—	—	—	1						
483	で(期限・値段)~が						で(期限・値段)~が					
で→が	6	2	—	—	1	3	1	—	—	—	—	1
が→で	2	—	1	1	—	—	0	—	—	—	—	—
484	で(状態)~名詞(量)						で(状態)~名詞(量)					
で→名	6	—	4	—	2	—						
名→で	2	—	1	—	1	—						
485	と(引用)~に(空間的到達点)						と(引用)~に(空間的到達点)					
と→に	6	1	—	—	1	4	0	—	—	—	—	—
に→と	2	1	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
486	に(空間的存在場所)~の						に(空間的存在場所)~の					
に→の	6	1	1	1	1	2	1	—	—	—	—	1
の→に	2	—	—	—	—	2	0	—	—	—	—	—
487	に(時)~で(状態)						に(時)~で(状態)					
に→で	6	—	3	2	1	—	1	—	—	1	—	—
で→に	2	1	1	—	—	—	1	—	1	—	—	—
488	に(副・評価)~名詞(量)						に(副・評価)~名詞(量)					
に→名	6	—	1	—	4	1	4	—	—	—	4	—
名→に	2	—	1	1	—	—	1	—	1	—	—	—
489	は(主格)~に(資格)						は(主格)~に(資格)					
は→に	6	—	1	1	1	3						
に→は	2	—	1	—	—	1						
490	副詞(評価)~から(空間的出发点)						副詞(評価)~から(空間的出发点)					
副→から	6	1	2	—	2	1	4	1	2	—	—	1
から→副	2	—	—	—	1	1	0	—	—	—	—	—
491	副詞(評価)~と(相手)						副詞(評価)~と(相手)					
副→と	6	—	1	1	2	2	2	—	—	—	1	1
と→副	2	—	—	—	1	1	0	—	—	—	—	—

実 例

異常の信頼できたわが身を幸せに思ひばかりである[実雑 三231]
 人間を動かす動機にいつも罪の意識を考へてゐた[婦公 十二89]
 私そのうちに一度行ってみたいわ[婦生 入 301]
 いくたびか虹出で農夫の鍬依然[知性 入267]
 古糸の過剰分が市中へ還流しているので[東 経 九1, 40]
 そこへまたガマンのならぬ情報が舞いこんだ [中公 十65]
 あと僅か一週間で年が明けると云う聞きわの ことでした[世界 入213]
 十人分ぐらいのアイスクリームが、十五分 で でき上がり[サ毎 六24, 8]
 夜道を徒歩で約二時間程歩き[人物 十二76]
 一月に三回位は入浴させるつもりで…汚れを よくとりましょう[主生 十付68]
 「…」と、病院の庭に美しくい声で呼びかけて くれる[小春 入232]
 切手に Port Fouad とオーバープリントし ただけで[笑泉 九163]
 右の頬に大きな刀の傷あとのあるのが [サ毎 九16, 67]
 黄金の地の中に眠っている 処には [小説 四 232]
 …がはじまるまえに、武俠世界の主催で、…を 何年かやったんです[週朝 入26, 25]
 …の推薦で東京市の衆議院議員補欠選挙に立 候補した際は[文春 七139]
 いいあんばいに本妻も「…」と一回も顔出しを しない[笑泉 一116]
 両国の財界人がすべてこのように経済的に大 人になるのには[リダ 七31]
 市川紅梅は 名優九代目團十郎の 孫娘に 生れ [キン 三178]
 不思議なことに、 ロンドン子たちは、 そうい う色調が好きらしい[家光 四131]
 せっかく日本から来られたのだから[文春 十 41]
 煙突からは 染外黒い煙を出して ますぞ [婦朝 七33]
 わたし、 やっぱりあなたと別れるわ[笑泉 十 二242]
 H子さんと、 たまたま出会った私は[婦画 九 53]

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
492	副詞(評価)~より(比較の基準)					.707 $\geq p \geq$.020							
副→より	6	—	—	1	—	5	2	—	—	—	—	2	却って外のチームよりやり易い〔野球 七69〕
より→副	2	—	1	—	—	1	0	—	—	—	—	—	円遊よりは、三語楼のほりがまだよかったで しょう〔週朝 二12, 26〕
493	に(抽象的存在場所)~名詞(量)					.709 $\geq p \geq$.153							
に→名	10	1	3	1	4	1	2	—	—	—	1	1	その中に遊女の詠んだものが幾つかある〔婦 公 一244〕
名→に	7	2	1	—	—	4	0	—	—	—	—	—	金田からひっくり返せる程今年のタイガース には力がある〔野球 九69〕
494	に(空間的存在場所)~に(副・よりす)					.718 $\geq p \geq$.135							
存→副	9	3	2	—	3	1	0	—	—	—	—	—	無表情な顔にも、しだいに…感情の翳がにじ みはじめたが〔小春 七132〕
副→存	6	—	1	1	2	2	2	—	1	—	1	1	夫と一男とともに生みの母稲子と一つ家に棲 み〔主生 六209〕
495	と(引用)~で(状態)					.738 $\geq p \geq$.084							
と→で	7	—	1	—	2	4	0	—	—	—	—	—	明日から親分だ、元締だと大きな顔で生きて は行かない〔小泉 一437〕
で→と	4	1	1	1	1	—	1	—	—	1	—	—	自分で悪いことをしたなあと思って〔婦生 五 付109〕
496	は(対象)~に(副・評価)					.738 $\geq p \geq$.084							
は→に	7	—	—	1	6	—	—	—	—	—	—	—	その他の残り物は、翌日の献立に適当に応用 して下さい〔主友 八311〕
に→は	4	—	—	—	3	1	—	—	—	—	—	—	持味をこわさない様に、細かいデテールはさ けて〔それ 42号 202〕
497	副詞(評価)~に(空間的存在場所)					.738 $\geq p \geq$.084							
副→に	7	1	1	—	2	3	1	—	—	—	—	1	もしだれかが一階の食堂にいたら〔婦朝 三 159〕
に→副	4	1	—	—	—	3	0	—	—	—	—	—	画架の上には、やっぱり……カンヴァスがの せられて〔芸新 一137〕
498	と(副詞語尾)~へ(空間的到達点)					.739 $\geq p \geq$.166							
と→へ	9	—	—	—	—	9	6	—	—	—	—	6	義経つつかかと土間へ入ってくる〔明星 十二 96〕
へ→と	7	1	—	—	—	6	1	—	—	—	—	1	絨氈の上へ、どさりと真美子を投げつけ〔説 俱 八405〕
499	に(空間的存在場所)~副詞(程度)					.750 $\geq p \geq$.053							
に→副	6	—	1	—	3	2	2	—	—	—	1	1	眼に一杯涙をためている〔傑俱 一358〕
副→に	3	—	—	—	1	2	2	—	—	—	1	1	たいてい、二人で八百円の旅館に泊るんです 〔週新 十一132〕
500	に(時)~に(抽象的存在場所)					.750 $\geq p \geq$.053							
時→抽	6	2	—	2	1	1	0	—	—	—	—	—	…しているうちに、おちさの心のなかに、一 つの変化が起きた〔小泉 二364〕
抽→時	3	—	—	—	—	3	1	—	—	—	—	1	スポーツに最初に云われたのは〔野球 七179〕
501	に(目的)~副詞(程度)					.750 $\geq p \geq$.053							
に→副	6	1	—	2	1	2	0	—	—	—	—	—	その間の反応を見るためにも、この手段は 麗々使われた〔中公 三272〕
副→に	3	1	—	1	—	1	2	1	—	—	—	1	卒業生がたくさん研究のために外国留学した 〔自然 五24〕
502	に(副・評価)~に(相手)					.750 $\geq p \geq$.053							
副→相	6	—	1	2	1	2	1	—	1	—	—	—	馬はたしかに西部劇にディグニティーを与へ てある〔知性 八179〕
相→副	3	—	—	1	2	—	0	—	—	—	—	—	違ふ先生に参考までに診てもらったら〔保同 四38〕
503	に(副・よりす)~に(目的)					.750 $\geq p \geq$.053							
副→目	6	1	1	—	—	4	0	—	—	—	—	—	一緒にハイキングにでも行けたらね〔傑俱 十一426〕
目→副	3	—	—	1	2	—	0	—	—	—	—	—	これをどこかで断ち切るには、災害予防と真 剣に取り組まなければならない〔時法 十 一3, 29〕

	総計					純計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
504	は(雑格)~副詞(評価) .750 $\geq p \geq$.053											
は→副	6	1	—	2	1	2						
副→は	3	—	1	—	1	1						
505	名詞(主格)~に(空間的到達点) .750 $\geq p \geq$.053											
名→に	6	—	—	1	1	4	6	—	—	1	1	4
に→名	3	2	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—
506	副詞(評価)~名詞(量) .750 $\geq p \geq$.053											
副→名	6	—	2	2	—	2	6	—	2	2	—	2
名→副	3	1	1	—	1	—	1	1	—	—	—	—
507	で(手段)~に(空間的到達点) .751 $\geq p \geq$.143											
で→に	8	—	—	—	7	1	6	—	—	—	5	1
に→で	6	1	—	—	4	1	5	1	—	—	3	1
508	は(主格)~名詞(評価) .751 $\geq p \geq$.143											
は→名	8	3	1	1	1	2						
名→は	6	1	1	—	1	3						
509	と(引用)~で(手段) .756 $\geq p \geq$.109											
と→で	8	—	—	—	1	7	2	—	—	—	—	2
で→と	5	—	—	1	1	3	1	—	—	—	—	1
510	に(時)~も(主格) .761 $\geq p \geq$.198											
に→も	9	1	3	2	2	1						
も→に	8	1	1	2	3	1						
511	名詞(主格)~に(空間的存在場所) .761 $\geq p \geq$.198											
名→に	9	4	2	—	1	2	3	3	—	—	—	—
に→名	8	4	2	—	1	1	3	2	—	—	—	1
512	副詞(程度)~に(相手) .761 $\geq p \geq$.198											
副→に	9	3	4	—	1	1	4	2	1	—	—	1
に→副	8	—	2	2	—	4	2	—	—	1	—	1
513	から(時間的出発点)~で(空間的場所) .764 $\geq p \geq$.023											
から→で	5	2	—	1	1	1	0	—	—	—	—	—
で→から	2	—	1	—	—	1	0	—	—	—	—	—
514	から(時間的出発点)~に(目的) .764 $\geq p \geq$.023											
から→に	5	2	—	—	1	2	3	2	—	—	—	1
に→から	2	—	—	—	1	1	0	—	—	—	—	—
515	から(受身の相手)~と(引用) .764 $\geq p \geq$.023											
から→と	5	—	4	1	—	—	1	—	1	—	—	—
と→から	2	1	1	—	—	—	0	—	—	—	—	—

実 例

この作品は、決して古いといふ感じを受けない[文芸 九210]

いったいてめえそれアどういふ量見だ [週東 八18, 53]

若ノ花さっと右にとんで[相撲 十一21]

青野来て一樹に遠き雲懸る[俳句 九179]

きつと一つ何か 芸当をご覧に入れ [東経 六 30, 41]

一杯、やっと飲まれただけの話だけど [芸新 一218]

エレベーターで、五階にあがる[小泉 二249]

一号針にベージュで28目拾う[主生 二付60]

当社は以上のとおり、加工部門の収益が安定し[ダイ 九4, 51]

事実一般の住宅は隙間が多く[週サ 一22, 47]

「…」と、病院の庭に美しい声で呼びかけてくれる[小春 八232]

武蔵守は小声で「三河」と呼びとめ[読俱 十一 346]

公休日には、彼女も池袋のアパートへ帰って行ったが[笑泉 六170]

いずれ、この未知数も一年位の間に解ける [群像 三160]

主婦道にあふれ冬日に米待つ黙 [俳句 四70]

泊り泊りにいで湯あり[キン 八付90]

文化勲章を……おくり、ややその晩年に報い得たのは[サ毎 一1, 92]

これには精神的因子が相当関係するし [知性 十129]

午後一時から帝国ホテル演芸場で記者会見があった[映友 六106]

この国では昔から、男子は六人まで妻をもつことが公許されていた[笑泉 五138]

朝から市街の見物に歩きまわった [旅 二32]

そのために、ふだんから副社長もおいてあるし[週東 五12, 42]

工場長から「お前の操作が下手だったからだ」といわれ[知性 五283]

目黒に住んでいると、長十郎から知らされる [週朝 七8, 57]

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
516	で(状態)~副詞(程度) .764 $\geq p \geq$.023												それとは別の意味で問題はきわめて重大化してきた[エコ 三17, 40]
で→副	5	1	—	4	—	—	1	—	—	1	—	—	加藤の短歌はよく上席で入選した[新潮 二196]
副→で	2	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	1	
517	に(資格)~が .764 $\geq p \geq$.023												私の恋人役には佐分利信さんがお出になった映画など[映フ 七81]
に→が	5	—	2	1	—	2	1	—	—	—	—	—	有力大手が副業にイースト製造をやって[東経 二4, 64]
が→に	2	—	—	1	—	1	1	—	—	1	—	—	未だに党の公式の解釈というものも発表されていない[中公 五171]
518	に(副・時)~も(主格) .764 $\geq p \geq$.023												思考も理解も一時に麻痺した[オ読 三223]
に→も	5	1	—	2	—	2							
も→に	2	—	—	1	—	1							
519	まで(空間的限界)~に(副・ようす) .764 $\geq p \geq$.023												かじかんでいた指先まで真赤に血が通って[小泉 一208]
まで→に	5	—	—	—	4	1	2	—	—	—	2	—	…のように釘つけ位置の表面より裏まで通して掘い[婦生 十485]
に→まで	2	—	—	2	—	—	0	—	—	—	—	—	
520	も(主格)~に(相手) .764 $\geq p \geq$.023												その青年も私に次々に話しかけ[人手 十二44]
も→に	5	—	2	—	1	2							これには林も同調[実日 十1, 91]
に→も	2	—	—	1	—	1							
521	も(主格)~に(副・程度) .764 $\geq p \geq$.023												生長も大いに害される[農世 六53]
も→に	5	—	1	3	—	1							融資関係と同程度に役員派遣の比重も高い[エコ 十一17, 39]
に→も	2	—	1	1	—	—							
522	は(主格)~名詞(理由) .765 $\geq p \geq$.121												わしは口惜しさのあまり、思わずかっとなって[小説 六183]
は→名	7	—	1	3	1	2							このため消費物資はおどろくほど高い[エコ 十一3, 23]
名→は	5	—	—	5	—	—							
523	名詞(時)~から(時間的出発点) .765 $\geq p \geq$.121												翌日は朝早くから、…でバケツ一杯の水を貰って[文春 七309]
名→から	7	1	1	1	2	2	1	—	—	—	1	—	君子にどなられた分を、これから毎日行次へ当てつけるだろう[読俱 一147]
から→名	5	—	1	—	—	4	2	—	—	—	—	2	…などとの関係から、それが出火原因かどうかは容易にわかる[ポピ 一90]
524	から(理由)~は(主格) .771 $\geq p \geq$.177												女房は、何かと不便や不安から家にいてほしかったらしいが[週読 二26, 20]
から→は	8	—	1	5	—	2							昨五五年十二月三十一日に、ペイルートで調印された[東経 四28, 42]
は→から	7	—	3	1	—	3							星の中では長い年月の間に反応がおこるのであるから[科読 八25]
525	に(時)~で(空間的場所) .771 $\geq p \geq$.177												妹尾の軍勢に、傘下りに矢を射かけたので[大法 三129]
に→で	8	—	3	1	2	2	1	—	1	—	—	—	現在真剣にその問題に取り組んでやっています[東経 七28, 35]
で→に	7	1	1	2	3	—	0	—	—	—	—	—	ラジオ通信を行うことも、絶対に許されないのである[実雑 二229]
526	に(相手)~に(副・ようす) .771 $\geq p \geq$.177												ついでに孝行も出来る[週新 五15, 56]
相→副	8	2	2	2	2	—	7	1	2	2	2	—	
副→相	7	—	—	5	1	1	3	—	—	1	1	1	
527	も(主格)~に(副・評価) .771 $\geq p \geq$.177												
も→に	8	1	1	2	1	3							
に→も	7	1	2	1	1	2							

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
528 副詞(程度)~に(副・ようす)						$.771 \geq p \geq .177$							
副→に	8	3	—	—	2	3	6	2	—	—	1	3	よく一しょに飲みますからね〔小サ 五137〕
に→副	7	1	—	1	—	5	4	—	—	1	—	3	中小企業者が主体的に十分自覚し〔エコ 十27, 15〕
529 副詞(ようす)~に(副・ようす)						$.771 \geq p \geq .177$							
副→に	8	—	1	1	1	5	5	—	—	—	1	4	新珠も葉山も、それぞれ別れ別れに仕事をして〔近映 八131〕
に→副	7	1	—	1	3	2	4	—	—	—	3	1	伏見の顔は神経質にびりびり慄えていた〔婦画 十270〕
530 が~名詞(対象)						$.778 \geq p \geq .002$							
が→名	4	1	1	—	1	1	0	—	—	—	—	—	おまきさん、わしが、この家、買おうやないか〔週朝 九2, 58〕
名→が	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	その争い、わたしが許しませぬ〔小説 九136〕
531 が~名詞(ようす)						$.778 \geq p \geq .002$							
が→名	4	—	2	—	1	1	0	—	—	—	—	—	メニューーヒンがバルトークを譜面通りひかなかった〔知性 四203〕
名→が	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	目をみひらいたまま、息がたえていた〔面俱 六167〕
532 が~形容詞(内容)						$.778 \geq p \geq .002$							
が→形	4	1	—	—	—	3	2	—	—	—	—	2	別人ではないかと思うほど、その顔が大きく見えた〔オ説 五261〕
形→が	1	—	—	1	—	—	0	—	—	—	—	—	黒くタキ火のあとが見えるだろう〔ポピ 一90〕
533 から(経由点)~が						$.778 \geq p \geq .002$							
から→が	4	—	—	1	2	1	0	—	—	—	—	—	錠戸の部分から風が入り〔婦生 十一105〕
が→から	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1	かね子がおそるおそる窓からのぞいたとき〔別新 七149〕
534 から(時間的出发点)~に(抽象的存在場所)						$.778 \geq p \geq .002$							
から→に	4	—	2	1	—	1	1	—	—	—	—	—	著者は、…の職を引いてから、弁護士として実業界に活躍し〔ジュ 四1, 68〕
に→から	1	1	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	あすこの社長さんには、昔っから、何やかやと御恩のあるお方だから〔芸芸 八162〕
535 から(抽象的基点)~副詞(程度)						$.778 \geq p \geq .002$							
から→副	4	1	1	1	—	1	2	1	1	—	—	—	インテリの類魔は、中原から最も遠いものである〔別文 50号 198〕
副→から	1	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	ほっておいても一応外形的には第一線から退却がくるでしょう〔短歌 十13〕
536 と(相手)~に(目的)						$.778 \geq p \geq .002$							
と→に	4	—	1	—	1	2	0	—	—	—	—	—	バードはシケイロスと前途の偵察に出かけた〔オ説 十一222〕
に→と	1	—	—	1	—	—	0	—	—	—	—	—	これをどこかで断ち切るには、災害予防と真剣に取り組まなければならない〔時法 十一3, 29〕
537 は(主格)~から(受身の相手)						$.778 \geq p \geq .002$							
は→から	4	—	1	—	—	3	—	—	—	—	—	—	僕は友人達から絶交されてしまいました〔傑俱 一142〕
から→は	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	付添のお母さんたちから「…」と花柳有洗さんは…相談をもちかけられる〔婦画 十168〕
538 まで(時間的限界)~に(相手)						$.778 \geq p \geq .002$							
まで→に	4	—	—	—	1	3	1	—	—	—	—	1	宝石が安く手に入ると、これまで近所の人に十点近く売っている〔婦朝 十二68〕
に→まで	1	—	—	1	—	—	0	—	—	—	—	—	下の人たちには、はっきりするまでは、黙っていないければ〔保同 三58〕
539 も(主格)~から(時間的出发点)						$.778 \geq p \geq .002$							
も→から	4	—	—	—	1	3	—	—	—	—	—	—	おみねも、これからは俸せになるだろう〔近映 二167〕
から→も	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	戦争が終ってから、妻もやっと法律の上で、夫と同権になり〔主生 八270〕

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
540 名詞(目的)~が	.778 $\geq p \geq$.002					.002					二大政党政治を…育成するようお互が看視し なければ[週サ 四22, 84]		
名→が	4	—	2	1	—	1	0	—	—	—	—	—	解散会社が仮勘定の閉鎖のため…を…に委託 する手続[ジュ 十二1, 75]
が→名	1	—	—	1	—	—	1	—	—	1	—	—	
541 副詞(評価)~から(抽象的基点)	.778 $\geq p \geq$.002					.002					むろん、心底からわたしはそう思いこんでは いない[実雑 三231]		
副→から	4	—	2	—	—	2	1	—	—	—	—	1	四百何十ページの本の初めから終りまでただ ただ口説きぬいて[明星 九303]
から→副	1	—	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	育児片手では、どうにも思存分働ひまも できず[婦朝 六119]
542 で(主題)~も(主格)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					お父さんも日常の面倒をみるだけでも大変な のに[婦生 一436]		
で→も	6	—	3	1	—	2	—	—	—	—	—	—	子供たちへも、ほのぼのとした愛情を感じる 今日この頃[婦公 一村13]
も→で	4	—	1	1	—	1	1	—	—	—	—	—	そいつを、てめえが…持ち主へ返してしまい やがった[小俱 七80]
543 へ(相手)~を(対象)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					夫婦喧嘩は犬も食わん[明星 十一154]		
へ→を	6	—	3	—	1	2	1	—	—	—	—	1	おれもあの谷のことはいくらか知っているが [群像 八67]
を→へ	4	—	2	—	—	2	0	—	—	—	—	—	手に入れるのにニドルかかった[宝石 二45]
544 は(対象)~も(主格)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					僕も一度見に行ってみよう[群像 一34]		
は→も	6	—	1	—	1	—	4	—	—	—	—	—	宿の女中が五人もきゃあきゃあ入っていた [小サ 六263]
も→は	4	—	1	1	—	1	1	—	—	—	—	—	えんえん十八年も続いてしまった[文春 十二 302]
545 に(目的)~名詞(量)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					山の深いところでは、まだ雪が残っていた [小春 九149]		
に→名	6	—	2	1	1	2	0	—	—	—	—	—	最近日本でも翻訳され[文芸 十86]
名→に	4	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	
546 名詞(量)~副詞(ようす)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					前面に不思議な面が粗いタッチで彫ってある [オ説 一300]		
名→副	6	—	1	1	—	4	1	—	—	—	—	1	今後もそのような道を辿ることは、年とった 私に、絶対にあり得ない[新潮 三147]
副→名	4	—	3	—	—	1	2	—	1	—	1	—	特に日本の文化史に後世までもの笑いの種を 残すのは[文春 七119]
547 で(空間的場所)~副詞(時)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					よく昔は菖蒲浜に見に行ったですね[美手 七 増103]		
で→副	7	—	1	—	5	—	1	0	—	—	—	—	塩水にしばらくつけておきます [主生 五付 161]
副→で	6	—	1	1	—	3	0	—	—	—	—	—	綿入りの夜具類は、ときどき陽に乾すが [週 朝 二19, 58]
548 に(空間的存在場所)~で(手段)	.782 $\geq p \geq$.093					.093					判事は、もうその子は収容所へ連れて行くま いと決心する[週サ 九9, 68]		
に→で	7	—	1	1	—	2	3	2	—	—	—	1	
で→に	6	—	—	—	4	2	4	—	—	—	—	3	1
549 に(抽象的存在場所)~に(副・評価)	.782 $\geq p \geq$.093					.093							
抽→副	7	—	2	3	—	2	—	0	—	—	—	—	
副→抽	6	—	—	1	1	1	3	2	—	—	1	1	—
550 副詞(程度)~に(空間的到達点)	.782 $\geq p \geq$.093					.093							
副→に	7	—	3	1	—	3	—	5	—	1	—	3	—
に→副	6	—	—	—	—	5	1	2	—	—	—	1	1
551 は(対象)~副詞(時)	.791 $\geq p \geq$.209					.209							
は→副	8	—	1	1	1	1	4	—	—	—	—	—	
副→は	8	—	—	3	2	1	2	—	—	—	—	—	

	総 計					純 計						
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三	四	五
552 が～まで(抽象的限界) .802 $\geq p \geq$.061												
が→まで	5	1	2	1	—	1	3	—	2	—	—	1
まで→が	3	—	1	2	—	—	1	—	—	1	—	—
553 から(空間的出发点)～と(副詞語尾) .802 $\geq p \geq$.061												
から→と	5	—	—	—	—	5	0	—	—	—	—	—
と→から	3	—	—	—	—	3	2	—	—	—	—	2
554 で(手段)～へ(空間的到達点) .802 $\geq p \geq$.061												
で→へ	5	—	2	2	1	—	5	—	2	2	1	—
へ→で	3	—	—	—	—	3	0	—	—	—	—	—
555 に(空間的存在場所)～も(主格) .802 $\geq p \geq$.061												
に→も	5	1	2	—	—	2						
も→に	3	1	1	—	—	1						
556 に(副・評価)～で(空間的場所) .802 $\geq p \geq$.061												
に→で	5	—	—	1	4	—	1	—	—	—	1	—
で→に	3	—	—	1	2	—	2	—	—	—	2	—
557 名詞(抽象的場所)～は(主格) .802 $\geq p \geq$.061												
名→は	5	—	2	3	—	—						
は→名	3	—	—	1	2	—						
558 副詞(時)～から(空間的出发点) .802 $\geq p \geq$.061												
副→から	5	1	1	—	—	3	2	1	—	—	—	1
から→副	3	—	—	—	1	2	1	—	—	—	1	—
559 副詞(時)～で(抽象的場所) .802 $\geq p \geq$.061												
副→で	5	1	—	3	—	1	1	—	—	—	—	1
で→副	3	—	1	1	—	1	0	—	—	—	—	—
560 副詞(評価)～も(対象) .802 $\geq p \geq$.061												
副→も	5	2	1	—	—	2						
も→副	3	—	—	1	2	—						
561 副詞(評価)～副詞(時) .802 $\geq p \geq$.061												
評→時	5	2	1	—	—	2	5	2	1	—	—	2
時→評	3	—	—	2	—	1	3	—	—	2	—	1
562 で(状態)～に(副・ようす) .805 $\geq p \geq$.195												
で→に	7	1	1	1	1	3	1	—	—	—	—	1
に→で	7	—	—	—	1	6	7	—	—	—	1	6
563 と(動作のし方)～を(対象) .806 $\geq p \geq$.134												
と→を	6	—	2	1	—	3	2	—	1	—	—	1
を→と	5	—	1	1	1	2	3	—	1	1	1	—

実 例

解職後は、就職難の波が土工の世界まで流れこみ[キン 二256]
 株式は、どこまで採算が立つか [ダイ 一5, 110]
 茸ぶきのかげからそろそろと出て来た [小泉 五399]
 男はダラリと腕から下った上着をずり上げながら[娛よ 七20, 21]
 ソ連絡客機でモスクワへ[実日 八1, 74]
 また元の酒蔵へ、そのサイド・カーで駆けつけちゃってサ[週東 六2, 42]
 あいにくあたりに人通りもない[週東 七28, 26]
 どれもこれも天下の往來の真中ががんばっている[キン 八169]
 逆にCの近辺で津波が生じれば[自然 七8]
 田の中でぜったいに停滞しないように水回しには苦心している[農朝 三73]
 半面、軽工業はまったくお話しにならないくらい貧弱だ[エコ 十一3, 23]
 そのような実験をするということは人道上許せない[婦朝 八137]
 もうすぐ本署から捜査の連中が来る[宝石 七63]
 そこから直ぐ又塀の上に飛び乗ると[週新 八302]
 かつてNHK民謡コンクールでNO.1となった伊東藩に[娛よ 十二21, 37]
 原子の世界ではもはや因果性が成立たない[科朝 五54]
 まるで想像もしていなかった入国許可が下りたのも[実雄 八52]
 勉強も作業もなるべく自分で考えさせ [主生 八478]
 必ずもう息をひきとっておって [群像 十一39]
 私どもの所でも……の発病が最近あんがい多いのです[保同 十一-13]
 ひとりで誰にも会わずに散歩できるところが [旅 十一-113]
 なごやかに母子で短い時間を楽しもう [婦俱 十194]
 妻の側からは三〇六、夫よりが一八一と三対一の比例をなしている[週サ 二12, 6]
 外野手を宮本、岩本、加倉井と並べた場合の [野球 十49]

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
564	に(時)～名詞(主格) .806 $\geq p \geq$.134										遭難船聞く度びごとに我がことと心傷むも… 〔婦生 二353〕		
に→名	6	3	—	—	2	1	2	1	—	—	1	—	私そのうちに一度行ってみたいわ〔婦生 八 301〕
名→に	5	1	1	—	2	1	0	—	—	—	—	—	私, …と違って心配してるんです〔婦生 十二 166〕
565	名詞(主格)～と(引用) .806 $\geq p \geq$.134										どんなにいいだろう, と, 彼, 有頂天でした 〔娛よ 三16, 31〕		
名→と	6	—	—	—	5	1	1	—	—	—	1	—	驟雨性の強い雨が, 断続しながら降っていた 〔家光 九66〕
と→名	5	1	—	—	1	3	0	—	—	—	—	—	酒をのみながら感情が充ぶると〔婦公 五352〕
566	が～ながら .825 $\geq p \geq$.175 ⁻										与四郎はけんめいに斜面を登っていった〔読 俱 五454〕		
が→ながら	6	2	2	—	—	2	1	1	—	—	—	—	川に沿った道を真直ぐに下るのが〔群像 四 115〕
ながら→が	6	—	—	—	2	4	1	—	—	—	—	1	玄関からすぐ自家用車でパーティへ出かけら れる〔婦画 十二49〕
567	に(副・ようす)～を(空間的径路) .825 $\geq p \geq$.175 ⁻										ソ連機でヘルシンキからレニングラードへ着 いて〔実日 八1, 74〕		
に→を	6	1	—	—	1	1	3	1	—	—	—	1	彼の腕から, 危くアンナの体を受けとめた 〔トル 二172〕
を→に	6	2	—	—	—	4	3	—	—	—	—	3	…という台詞がうまく咽から出て来ない〔そ れ 42号 31〕
568	から(空間的出発点)～で(手段) .827 $\geq p \geq$.027										化粧台で危く体を支えたとき〔トル 二172〕		
から→で	4	—	—	—	1	1	2	2	—	—	1	1	「討袁」の二字を太く墨で書いた白旗が〔人物 九135〕
で→から	2	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	一昨日ごろに二人でホイットニー氏に会って 〔ジュ 五15, 44〕
569	から(空間的出発点)～形容詞(ようす) .827 $\geq p \geq$.027										時平は雷神にひとりで対決して〔みづ 八61〕		
から→形	4	—	—	—	2	2	3	—	—	—	2	1	部落って何や, と子供にきかれました返事にこ まる〔婦公 六228〕
形→から	2	—	1	—	1	—	1	—	—	—	1	—	仲間に病院へ行けとすすめられた〔保同 十二 67〕
570	で(手段)～形容詞(量) .827 $\geq p \geq$.027										もっと予算が少くてもやれる, とその仕事の 横取りにやってきて〔芸新 八263〕		
で→形	4	—	—	—	3	1	2	2	—	—	—	—	それを誤魔化すために……だなどと云い出し たのかも〔宝石 十152〕
形→で	2	—	—	—	2	—	2	—	—	—	2	—	初めて美智子の家へ遊びに行ったとき〔明星 四236〕
571	で(手段)～形容詞(ようす) .827 $\geq p \geq$.027										……が……の録音にキングスタジオへゆき 〔中公 四153〕		
で→形	4	—	1	—	1	2	2	—	—	—	1	1	
形→で	2	—	1	—	1	—	1	—	—	—	1	—	
572	で(状態)～に(相手) .827 $\geq p \geq$.027												
で→に	4	1	—	1	1	1	2	—	—	1	—	1	
に→で	2	1	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	
573	と(引用)～に(受身の相手) .827 $\geq p \geq$.027												
と→に	4	—	—	—	2	2	0	—	—	—	—	—	
に→と	2	1	—	1	—	—	0	—	—	—	—	—	
574	と(引用)～に(目的) .827 $\geq p \geq$.027												
と→に	4	3	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	
に→と	2	—	—	1	—	1	0	—	—	—	—	—	
575	へ(空間的到達点)～に(目的) .827 $\geq p \geq$.027												
へ→に	4	—	—	—	1	3	1	—	—	—	—	1	
に→へ	2	1	—	—	—	1	0	—	—	—	—	—	

	総 計					純 計					実 例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
576	名詞(量)~に(抽象的到達点)						.827 $\geq p \geq$.027					オスカー像を二つ手に入れた彼女は〔傑俱 四210〕	
名→に	4	—	—	1	—	3	2	—	—	—	—	2	全面講和に一歩近づくと、処置に出られるものと信じ〔世界 十一53〕
に→名	2	—	1	—	—	1	2	—	—	—	—	1	入れかわり立ちかわり、お相手願っちゃ〔講俱 十七1〕
577	副詞(よろす)~名詞(対象)						.827 $\geq p \geq$.027					通るひとの顔ばかり、キョロキョロみて〔週朝 九23, 26〕	
副→名	4	—	1	—	—	1	2	—	—	—	—	1	…千住の四宿へ遊女の口入れをする者を女衛と言ひ〔読小 三191〕
名→副	2	—	—	1	—	—	1	0	—	—	—	—	個人を組織の方向へもっていかなかったことに〔新潮 十二65〕
578	へ(抽象的到達点)~を(対象)						.829 $\geq p \geq$.105					眼の前へ五六人、ばらばらと人影が飛び起った〔小説 十266〕	
へ→を	5	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	—	後のゴムテープを腰のところまで上げて〔主友 十二339〕
を→へ	4	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	1	あきにベルト上までジッパーを付けます〔主生 十二付90〕
579	へ(空間的到達点)~名詞(量)						.829 $\geq p \geq$.105					冗談をいったり、両親とも、気軽に、話をした〔主友 五208〕	
へ→名	5	—	—	1	—	3	1	—	—	—	—	2	—
名→へ	4	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	2	—
580	を(対象)~まで(空間的限界)						.829 $\geq p \geq$.105					—発ズドンとやって下さい〔読俱 二404〕	
を→まで	5	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	3	—
まで→を	4	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	1	—
581	と(相手)~に(副・よろす)						.850 $\geq p \geq$.150					足腰のたたぬほどたたきつけておいて、その上でこれと和し〔週サ 九23, 34〕	
と→に	5	—	—	—	—	3	1	—	—	—	—	2	—
に→と	5	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	—	—
582	と(副詞語尾)~名詞(量)						.850 $\geq p \geq$.150					大原の娘が楽土風情とパーティーで踊った〔小サ 十二179〕	
と→名	5	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	1	—
名→と	5	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—
583	で(抽象的场所)~と(相手)						.858 $\geq p \geq$.150					俳優協会の声明に真っ向から反ばくし〔娛よ 十12, 13〕	
で→と	4	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
と→で	3	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
584	に(相手)~から(抽象的基点)						.858 $\geq p \geq$.150					その中からあなたに二万円廻してあげるわよ〔実雑 十二66〕	
に→から	4	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
から→に	3	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
585	で(空間的场所)~副詞(評価)						.879 $\geq p \geq$.121					日本でもやはり一般的な発展法則が貫くんだ〔中公 十二78〕	
で→副	4	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
副→で	4	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
586	で(抽象的场所)~に(副・評価)						.879 $\geq p \geq$.121					ともかくロンドンでは、五分五分の立ちまわりを演じ〔世界 七109〕	
で→に	4	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
に→で	4	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
587	と(動作のし方)~に(副・よろす)						.879 $\geq p \geq$.121					ここで下手に彼等の手に乗り、…永久に植民地として終るか〔人手 一40〕	
と→に	4	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
に→と	4	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—

	総計					純計					実例		
	全	一	二	三	四	五	全	一	二	三		四	五
588	が～も(対象) .894 ≥ p ≥ .033						北海道僻地の農民が、灌漑溝の草も刈らない でみて[文春 四58]						
が→も	3	—	2	—	—	—	1						…に対する反対とかもボタン一つ押せば、全 国の学生がすぐに支持して動くように [東 経 九22, 26]
も→が	2	—	—	1	—	—	1						日共では…全国代表大会に…をきめたと発表 した[エコ 八11, 9]
589	で(主体)～と(引用) .894 ≥ p ≥ .033						…は目をつぶるからと事務所では早々にお引 取りを願った[週東 八11, 8]						
で→と	3	—	—	3	—	—	0	—	—	—	—	—	大したことはない、と全く楽観している [エ コ 六16, 27]
と→で	2	—	—	—	—	2	0	—	—	—	—	—	更に…戦闘はふたたび繰り返さないと約束し て[文春 増166]
590	と(引用)～副詞(程度) .894 ≥ p ≥ .033						この構想のなかに「…」とうたっている [農 朝 二27]						
と→副	3	—	—	1	—	2	0	—	—	—	—	—	諦めると心に誓ったばかりのその人の名を [小泉 七423]
副→と	2	—	1	—	1	—	0	—	—	—	—	—	日本人であることには永久に变りがない [婦 生 九257]
591	に(抽象的存在場所)～と(引用) .894 ≥ p ≥ .033						常に国際情勢、国際経済を念頭において [東 経 十20, 36]						
に→と	3	—	—	1	1	1	1	—	—	—	—	—	危険防止のためにもぜひ心がけて下さい [平 凡 六152]
と→に	2	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	忘れずきつと迎えにや来るぜ[小サ 十付4]
592	に(抽象的存在場所)～に(副・時) .894 ≥ p ≥ .033						いままでようやく秩序と形をたもっていた列 は…[文芸 七186]						
抽→副	3	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	もしや梢がこれまで銀座の酒場を数多く知っ ていたら[週東 十6, 43]
副→抽	2	—	1	1	—	—	1	—	—	1	—	—	この時は丹下左膳の代りに、……新人物が登 場した[近映 十二138]
593	に(目的)～副詞(評価) .894 ≥ p ≥ .025						人間を動かす動機にいつも罪の意識を考へて ゐた[婦公 十二89]						
に→副	3	—	—	1	1	1	0	—	—	—	—	—	まず絶対に酔いません[週サ 十二2, 56]
副→に	2	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	…という言葉からもわかるように、やはりこ れは、…が要素になっているので[ジュ 六 15, 44]
594	まで(時間的限界)～副詞(評価) .894 ≥ p ≥ .025						表戸をトントン……誰かたたく音が[傑俱 五 226]						
まで→副	3	1	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	ちんぐるまくるくる廻り霧あがる[婦朝 十一 152]
副→まで	2	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	—	ああ云ふ形で私に話しかけたいのが本意なの かも知れないと思ふが[中公 六344]
595	名詞(時)～に(資格) .894 ≥ p ≥ .025						カラテの本家にカラテで反撃[フェ 六18]						
名→に	3	—	—	—	—	3							部長はきらりと決意をその鋭い眼光に示して [傑俱 十150]
に→名	2	—	—	—	1	1							そのほかにも……合理化はいろいろと力を入 れて[中公 六75]
596	副詞(評価)～に(副・評価) .894 ≥ p ≥ .025												
副→に	3	—	1	—	1	1	1	—	1	—	—	1	
に→副	2	—	—	2	—	—	0	—	—	—	—	—	
597	副詞(よろす)～名詞(主格) .894 ≥ p ≥ .025												
副→名	3	—	1	—	—	2	2	—	—	—	—	2	
名→副	2	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—	1	
598	で(手段)～に(相手) .915 ≥ p ≥ .085												
で→に	3	1	—	1	1	—	1	—	—	1	—	—	
に→で	3	—	1	—	—	2	1	—	1	—	—	—	
599	と(副詞語尾)～に(抽象的存在場所) .915 ≥ p ≥ .085												
と→に	3	1	1	—	—	1	1	1	—	—	—	—	
に→と	3	1	—	—	—	2	0	—	—	—	—	—	

略し、全体の総計だけをしるす。並べ方は、かかりについて「が」「を」「は」などの助詞の五十音順による。すなわち、まず、各組を構成する三つのかかりを五十音順に並べ、つぎに各組を第1のかかりの順番によって並べる。これで同順位になった組は第2のかかりを基準にして並べ、同様の手づきを第3のかかりについてもくり返す。助詞のついていない名詞・副詞などは、助詞のついたものよりもあとに並べる。こうして、つぎのような分類ができる。

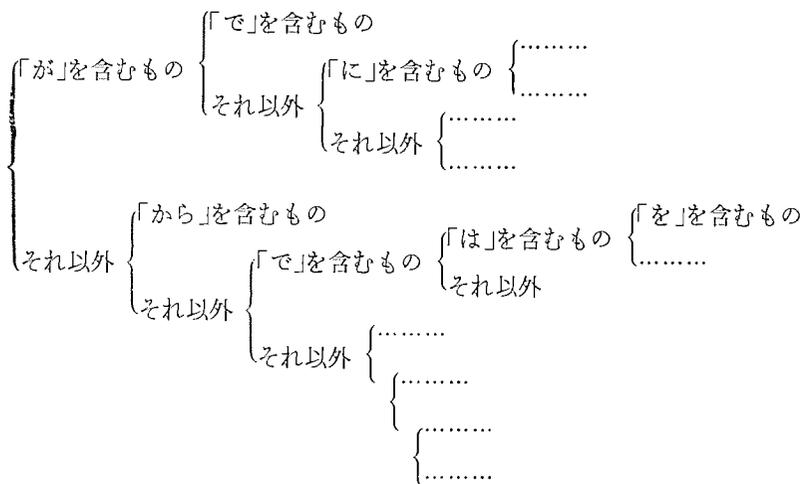


表 3.3 三つの〈かかり〉の前後関係

- (1) が～で(空間的場所)～を(対象)
が→で→を 10, が→を→で 3, で→が→を 3, を→で→が 1
- (2) が～に(空間的存在場所)～を(対象)
に→が→を 3, が→に→を 2, が→を→に 1
- (3) が～に(抽象的存在場所)～を(対象)
に→が→を 5, が→に→を 4, が→を→に 2
- (4) が～に(空間的到達点)～を(対象)
が→に→を 5, が→を→に 3, に→が→を 2, を→が→に 1
- (5) が～に(抽象的到達点)～を(対象)
が→に→を 5, が→を→に 1
- (6) が～に(時)～を(対象)
に→が→を 18, が→に→を 6, を→が→に 1
- (7) が～に(結果)～を(対象)
が→を→に 12, が→に→を 1, を→に→が 1
- (8) が～に(相手)～を(対象)
が→に→を 14, が→を→に 5, に→が→を 4
- (9) が～に(副・ようす)～を(対象)
が→に→を 9, が→を→に 5, に→が→を 1, を→が→に 1
- (10) が～に(空間的到達点)～名詞(時)
名→が→に 5, が→名→に 4, 名→に→が 2
- (11) が～に(抽象的存在場所)～副詞(評価)
に→副→が 6, 副→に→が 4, に→が→副 1, 副→が→に 1
- (12) が～は(主格)～副詞(評価)
は→副→が 6, は→が→副 2, 副→は→が 2
- (13) が～は(主格)～副詞(程度)
は→副→が 11, は→が→副 5, が→副→は 1, 副→は→が 1
- (14) が～を(対象)～名詞(時)
名→が→を 25, が→名→を 13

- (15) が～を(対象)～名詞(量)
 が→名→を 5, が→を→名 4, を→が→名 1, 名→が→を 1
- (16) が～を(対象)～副詞(評価)
 が→副→を 12, 副→が→を 10, を→が→副 1
- (17) が～を(対象)～副詞(時)
 副→が→を 6, が→副→を 5
- (18) から(時間的出発点)～は(主格)～を(対象)
 は→から→を 8, から→は→を 6, は→を→から 1
- (19) で(空間的場所)～は(主格)～を(対象)
 は→で→を 14, で→は→を 4, は→を→で 1
- (20) で(抽象的場所)～は(主格)～を(対象)
 で→は→を 9, は→で→を 9
- (21) で(手段)～は(主格)～を(対象)
 は→で→を 5, は→を→で 4, で→は→を 1
- (22) で(状態)～は(主格)～を(対象)
 は→を→で 11, は→で→を 3, で→は→を 2, を→で→は 2, を→は→で 1
- (23) で(空間的場所)～は(主格)～名詞(時)
 は→名→で 5, 名→は→で 4, で→名→は 1, は→で→名 1
- (24) で(空間的場所)～を(対象)～名詞(時)
 名→で→を 20, で→名→を 3, を→名→で 1, 名→を→で 1
- (25) と(相手)～は(主格)～を(対象)
 は→と→を 10, と→は→を 1
- (26) と(引用)～は(主格)～を(対象)
 は→と→を 13, と→は→を 12, は→を→と 10, を→は→と 3, を→と→は 1
- (27) と(副詞語尾)～は(主格)～を(対象)
 は→と→を 17, は→を→と 9, を→は→と 3
- (28) と(引用)～は(主格)～名詞(時)
 名→は→と 6, は→名→と 5, 名→と→は 2
- (29) ながら～は(主格)～を(対象)
 は→ながら→を 11, ながら→は→を 5
- (30) に(空間的到達点)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 17, は→を→に 10, に→は→を 1, を→は→に 1
- (31) に(抽象的到達点)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 8, は→を→に 5
- (32) に(時)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 15, に→は→を 11, は→を→に 1
- (33) に(結果)～は(主格)～を(対象)
 は→を→に 14
- (34) に(相手)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 11, は→を→に 10, に→は→を 3
- (35) に(原因)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 8, に→は→を 4
- (36) に(副・ようす)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 40, は→を→に 17, に→は→を 4, を→は→に 4
- (37) に(副・評価)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 15, に→は→を 3, は→を→に 1
- (38) に(副・時)～は(主格)～を(対象)
 は→に→を 6, に→は→を 3, は→を→に 1
- (39) に(結果)～は(主格)～名詞(時)
 名→は→に 9, は→名→に 1

- (10) に(相手)～は(主格)～名詞(時)
 名→は→に 5, は→名→に 3, 名→に→は 2
- (11) に(空間的到達点)～を(対象)～名詞(時)
 名→に→を 6, 名→を→に 4, を→名→に 2
- (12) に(相手)～を(対象)～名詞(時)
 名→に→を 9, 名→を→に 3
- (13) は(主格)～へ(空間的到達点)～を(対象)
 は→へ→を 8, は→を→へ 2, へ→は→を 1
- (14) は(主格)～を(対象)～名詞(時)
 は→名→を 37, 名→は→を 31, は→を→名 1, を→名→は 1, 名→を→は 1
- (15) は(主格)～を(対象)～名詞(量)
 は→名→を 9, は→を→名 6, 名→は→を 1
- (16) は(主格)～を(対象)～副詞(ようす)
 は→を→副 23, は→副→を 7
- (17) は(主格)～を(対象)～副詞(評価)
 は→副→を 17, 副→は→を 3, は→を→副 2, を→は→副 1, を→副→は 1
- (18) は(主格)～を(対象)～副詞(程度)
 は→副→を 20, は→を→副 1, 副→は→を 1
- (19) は(主格)～を(対象)～副詞(時)
 は→副→を 19, 副→は→を 5, は→を→副 2, を→は→副 1
- 50) を(対象)～名詞(時)～名詞(量)
 時→量→を 8, 時→を→量 4

3.3 <かかり>の量的性質

ここで<かかり>と呼ぶのは、主語および連用修飾語のことであり、<うけ>とはこれに対して述語および用言のことである。<かかり>の種類やかかり方の認定については p. 172 以下を参照。ただし、集計の便宜上、ここには格助詞、または格助詞と交替する係助詞をとまなるもので、度数 10 以上の<かかり>についての結果だけをあげる。(なお、「が」「は(主格)」「を(対象)」は数が多いので、それぞれはぼ三分の一にあたる量だけについて調べた。)

3.3.1 位 置

同じ<うけ>に対していくつかの<かかり>がかかる際の前後関係については、§3.2 (25) にその調査結果をのべた。ここでは、一般的にある<かかり>がどんな位置にあるかを問題にする。そのためには、まず<かかり>の相対的な位置を数量化しなければならぬ。ここでは、いくつか並んだ<かかり>のうち、中央にあるものを基準とし、これより<うけ>に遠いものにプラス、近いものにマイナスの点を 2 点きざみに与えることにする。<うけ>を u 、<かかり>を<うけ>に近い順に k_1, k_2, k_3, \dots であらわすと、

$$\begin{array}{llll}
 k_1 (0) & u. & & \\
 k_2 (1) & k_1 (-1) & u. & \\
 k_3 (2) & k_2 (0) & k_1 (-2) & u. \\
 k_4 (3) & k_3 (1) & k_2 (-1) & k_1 (-3) \quad u. \\
 k_5 (4) & k_4 (2) & k_3 (0) & k_2 (-2) \quad k_1 (-4) \quad u.
 \end{array}$$

n 個並んだ<かかり>のうち、<うけ>から r 番目の<かかり>の点数を T とすると、 $T = 2r - (n + 1)$ である。^{注4)} いろいろ<かかり>について計算した結果を表 3.4 に示す。

注 4) 宮島達夫「カカリの位置」『計量国語学』23 を参照。

表3.4 <かかり>の位置

順位	平均分散	かかり	計										r(n)度数		
			1	2	3	4	5	6							
1	-0.848	変化の結果	138	140	-	14	-	3	-	-	-	-	-	-	1/6)1
2	-0.758	変化的到達点	568	528	9	175	5	-	8	-	-	-	-	-	-
3	-0.667	抽象的到達点	33	10	11	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-0.639	認識内容	83	41	25	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-
5	-0.609	空間時間の幅	23	11	7	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
6	-0.592	空間的起点	49	26	14	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-0.575	抽象的基準点	40	25	2	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-0.557	抽象的到達点	815	289	216	75	106	47	17	34	19	2	5	1	1/6)1, 6/6)1
9	-0.515	副詞語尾	429	110	101	47	53	64	6	19	20	5	1	1	6/6)1
10	-0.506	空間的到達点	336	111	87	32	52	15	12	11	7	4	2	1	2/6)1
11	-0.492	空間的限界	59	19	4	7	6	1	-	2	-	-	-	-	-
12	-0.480	相手	25	4	9	5	2	1	-	1	-	-	-	-	-
13	-0.472	相手の相手	2333	941	584	292	275	78	24	80	21	7	14	7	2/6)1, 1/7)1
14	-0.465	受身の程度	187	76	51	18	19	8	4	5	5	-	-	-	-
15	-0.451	副・程度	233	72	68	26	26	19	3	4	8	5	-	-	-
16	-0.432	比較の基準	95	59	24	2	6	2	-	1	-	-	-	-	-
17	-0.417	しか	12	7	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
18.5	-0.407	空間的基準点	27	18	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
18.5	-0.407	空間的到達点	27	14	12	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
20	-0.370	抽象的限界	54	15	17	8	7	5	-	-	-	1	-	-	-
21	-0.344	対格	32	19	8	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-
22	-0.337	空間的経路	104	46	15	9	14	6	4	3	2	3	1	1	-
23	-0.308	状態の内容	13	11	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
24	-0.306	空間的到達点	866	292	214	149	81	46	24	25	12	7	4	3	1/6)1, 3/6)1
25	-0.283	副・ようす	1013	232	209	166	96	131	32	27	47	29	14	11	1/6)1, 2/6)1, 3/6)1, 4/6)2
26	-0.231	抽象的経路	26	17	5	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-
27	-0.212	対格・対象	33	7	10	8	1	2	-	1	2	-	-	-	-
28	-0.186	相手・対象	735	258	141	122	58	83	24	12	19	7	2	2	3
29	-0.152	主格	565	447	76	22	15	1	2	2	-	-	-	-	-
30	-0.125	受身の相手	32	8	8	6	2	4	1	1	1	-	-	-	-
31	-0.103	動作のし方	97	39	14	16	7	8	4	3	1	4	-	-	1/6)1, 2/7)1
32	-0.094	手段・方法	435	94	95	94	37	42	36	5	11	10	1	3	4/6)1
33	-0.090	引用・仲間	1607	1036	237	140	65	30	42	15	12	6	16	1	4/6)1
34	-0.071	相手・仲間	238	86	39	14	25	9	14	25	9	1	15	2	4/6)1, 4/7)1
35	-0.071	異同比較の基準	141	90	19	14	4	7	2	1	1	1	3	-	-

表 3.5 <うけ>の集中度 (説明はp. 286参照)

順位	集中度	か か り	延べ	うけの語数										度数11以上の内わけ 度数 / 異なり語数			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11~		
1	.828	にとにとと	1329	150	32	2	5	5	3	-	1	-	-	-	-	4	11/1, 12/1, 290/1, 725/1
2	.801	変化の結果	341	5	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	156/1, 164/1
3	.800	変化の結果 よりところ	253	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	238/1
4	.752	引用	1607	251	45	19	13	4	8	1	2	2	1	11	11	11/3, 15/1, 24/2, 42/1, 43/1, 46/1, 347/1, 504/1	
5	.713	異同比較の基準	141	14	2	1	2	1	1	1	-	-	-	-	2	29/1, 63/1	
6	.669	抽象的存在場所	561	104	16	10	6	4	1	-	2	1	1	7	7	11/1, 12/2, 16/1, 21/1, 65/1, 173/1	
7	.596	認識内容	83	19	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	11/1, 20/1, 21/1	
8.5	.547	対象	2433	643	128	61	30	3	10	8	3	8	4	24	24	12/1, 13/1, 14/1, 15/2, 16/3, 17/1, 18/1, 19/1, 20/1, 22/1, 23/1, 27/2, 33/3, 34/1, 38/1, 51/1, 62/1, 190/1	
8.5	.547	比較の基準	95	13	2	3	-	3	-	-	-	-	-	1	3	11/1, 16/1, 17/1	
10	.539	主格	565	169	27	9	6	3	4	1	1	2	1	7	7	13/1, 15/1, 16/2, 29/1, 51/1, 69/1	
11	.526	主格	1038	364	43	24	3	6	-	3	3	1	2	10	10	11/2, 12/1, 13/1, 15/1, 24/1, 27/1, 32/1, 111/1, 144/1	
12	.518	空間的起点	49	10	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	21/1	
13	.510	空間的到達点	815	208	45	26	11	11	2	1	3	2	3	12	12	12/1, 13/1, 14/1, 16/1, 17/1, 18/1, 19/2, 20/1, 24/1, 25/1, 52/1	
14	.509	主格	1549	527	82	39	12	7	6	4	3	1	3	12	12	18/1, 19/1, 23/2, 24/1, 29/1, 30/1, 32/1, 40/1, 41/1, 78/1, 174/1	
15	.491	空間的存在場所	545	188	22	14	12	2	-	-	1	1	2	4	4	15/1, 23/1, 45/1, 93/1	
16	.487	空間的到達点	866	255	58	21	18	6	6	1	-	-	1	13	13	12/2, 13/1, 15/1, 16/2, 17/1, 18/1, 19/1, 26/1, 36/1, 38/1, 39/1	
17	.471	空間的到達点	336	110	24	11	2	4	1	1	-	-	-	4	4	17/1, 21/1, 22/1, 44/1	
18	.456	抽象的基点	40	9	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	12/1	
19	.431	空間的基準点	27	6	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20	.426	相手・対象	735	265	59	29	5	7	5	3	2	1	2	6	6	12/1, 15/1, 16/1, 17/1, 22/1, 32/1	
21	.421	目的	247	108	11	4	4	3	-	-	1	-	-	3	3	14/1, 26/2	
22	.405	対象	376	153	22	12	5	5	3	1	-	-	-	3	3	13/2, 47/1	
23	.402	空間的経路	104	39	4	4	4	1	1	-	-	-	-	1	1	18/1	
24	.400	雑格	50	36	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25	.389	雑格の基準	142	54	7	8	2	1	1	1	1	-	-	1	1	16/1	
26	.383	副詞語尾	429	200	29	8	6	5	2	-	-	-	-	1	1	86/1	
27	.381	相手・仲間	238	94	20	3	3	2	2	3	1	1	1	1	1	13/1	
28	.380	主格・時間	1641	795	95	36	17	6	9	2	3	1	-	10	10	12/2, 23/1, 24/1, 30/1, 35/1, 46/1, 50/1, 57/1, 60/1	
29	.375	空間・時間の幅	23	11	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
30	.370	空間・よりず	1013	446	73	32	9	6	8	5	-	2	-	8	8	11/2, 12/2, 16/1, 25/1, 29/1, 42/1	

31	.369	対象	166	95	70	11	8	-	2	2	-	1	-	1	20/1
32	.358	時	804	485	384	53	16	8	11	1	-	3	1	1	12/2, 15/1, 16/1, 23/1, 26/2
33	.354	空間的場所	445	268	208	32	8	7	4	-	2	1	1	5	11/2, 13/1, 15/1, 20/1
34	.346	状態の遷移	13	6	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	12/1, 19/1
35	.342	手段・方法	435	271	206	37	12	3	4	2	2	-	-	3	12/1, 19/1
36	.339	抽象的段階	26	10	4	1	2	2	-	1	-	-	-	-	12/1, 13/1
37.5	.334	空間的出発点	260	161	125	18	6	4	1	1	3	1	-	2	11/2, 12/1, 16/1
37.5	.334	対象	355	221	172	28	5	5	4	-	2	1	-	4	
39	.333	主格	12	7	5	1	1	-	1	-	-	-	-	-	
40	.326	空間的限界	59	38	32	3	1	-	-	-	-	1	-	1	
41.5	.325	相手	36	20	12	4	2	1	-	1	-	-	-	-	
41.5	.325	対象	32	20	15	4	-	-	-	-	-	-	-	-	
43	.321	主属条件の提示	56	38	30	5	1	1	-	-	-	1	-	-	
44	.318	時間的出発点	269	175	143	17	6	3	2	-	-	-	1	3	11/1, 15/1, 17/1
45	.303	抽象的基点	27	16	11	1	2	2	-	-	-	-	-	-	
46	.290	理由	78	53	44	4	2	1	1	-	-	-	-	1	11/1
47	.285	抽象的場所	486	334	278	27	14	5	3	2	-	-	2	3	11/1, 16/1, 20/1
48	.268	雑格	207	145	120	10	7	3	2	1	-	-	1	-	
49	.249	副・評価	492	358	302	32	9	6	1	3	1	1	-	2	12/1, 15/1
50	.242	主格	36	26	21	3	-	1	1	-	-	-	-	-	
51	.239	受身の相手	187	133	101	18	9	3	1	1	-	-	-	-	
52	.237	副・程度	233	167	131	21	8	4	1	-	1	-	-	-	
53	.234	抽象的基点	154	111	86	13	10	-	1	-	-	-	-	-	11/1
54	.231	原因	98	73	61	8	2	1	-	-	-	-	-	1	
55.5	.229	主体	14	10	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
55.5	.229	主格	20	14	10	2	2	-	-	-	-	-	-	-	
57	.223	発端	33	25	22	1	1	-	-	1	-	-	-	-	
58	.208	時間的限界	139	106	88	8	7	2	-	1	-	-	-	-	
59	.201	原因	168	130	108	15	4	1	-	1	-	-	-	-	
60	.190	抽象的限界	54	43	39	1	1	-	2	-	-	-	-	-	
61	.186	比較の基準	102	82	74	5	1	-	-	1	-	-	1	-	
62	.184	資格	44	35	30	3	1	-	1	-	-	-	-	-	
63	.178	並行	144	116	101	9	4	1	-	-	-	-	-	1	9/1
64	.177	時期	64	52	48	-	3	-	-	-	1	-	-	-	
65	.170	動作のし方	97	79	69	6	2	1	-	1	-	-	-	-	
66	.148	受身の相手	32	27	25	1	-	-	1	-	-	-	-	-	
67	.146	副・時	113	95	84	7	2	1	1	-	-	-	-	-	
68	.132	期限・値段	46	39	33	5	1	-	-	-	-	-	-	-	
69	.113	総由点	15	13	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
70	.112	抽象的到達点	33	29	26	2	1	-	-	-	-	-	-	-	
71	.107	空間的出発点	16	14	12	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
73	.000	主格	15	15	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
73	.000	主体	20	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
73	.000	相手	25	25	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

表 3.4 の結果を「文型(2)」における 文の成分の 分類と対照してみると、〈うけ〉にもっとも近い位置にあるのが補語であり、ついで目的語がくる。逆に、陳述的成分や状況語は、〈うけ〉から遠い位置にあることが多い。なお、p. 228 参照。

3.32 〈うけ〉の集中度

空間的起点の「を」は 49 回使われており、したがってこれに対する〈うけ〉も延べ 49 あるわけであるが、その内わけをみると、「出る」が 21 回、以下 4 回のもの 1 語(「立つ」)、3 回のもの 2 語(「去る」「下りる」)、2 回のもの 4 語、1 回のもの 10 語となっている。すなわち、どの〈うけ〉も平均してあらわれるわけではなく、一部のものに集中しているわけである。これに対して時期を表わす「で」のばあいは、7 回のもの 1 語(「なる」)、3 回のもの 3 語、1 回のもの 48 語、計 64 回で、比較的まんべんなく〈うけ〉が現われている。さらに、相手をあらわす「へ」では 25 回のうけが全部別語でかたよりは見られない。(なお、「父から子へ」のように〈うけ〉がゼロのものもかぞえたが、これは他のどの〈うけ〉とも別語とし、かつ 2 回以上出てきたばあいはおたがいに別語とした。)このような、〈うけ〉の集中の度合の数量化を以下にところみる。^{注9)}

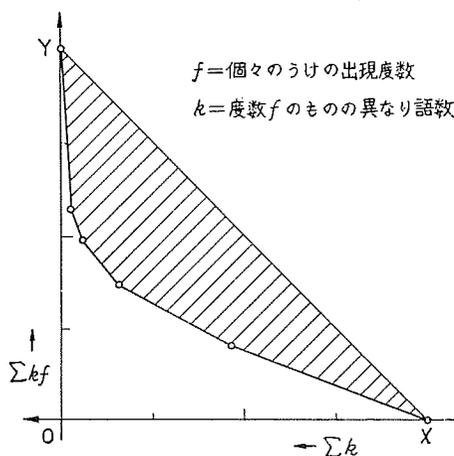


図 3.1 「を」(空間的起点)の集中度

今、X 軸上に左向きに累加異なり語数を、Y 軸上に上向きに累加延べ語数をとると、左のような図ができる。ここで折れ線 XY は、〈うけ〉の出方にかたよりがなければ直線 XY に近づき、逆にかたよりが大きければ下にたれ下がる。したがって、図で直線 XY と折れ線 XY とにかこまれた部分(斜線をほどこした部分)の面積は、集中度が高い(すなわち、かたよりが大きい)ほど大である。あらかじめ $OX = OY = \sqrt{2}$ の長さにしておけば、集中度 s は $0 \leq s < 1$ 。

前記「へ」(相手)のばあいは当然 $s = 0$ に

なる。「を」(空間的起点)では $s = 0.518$ 。この方式でいろんな〈かかり〉について集中度を計算すると、表 3.5 (pp. 234~235)のとおりである。

この表でみると、集中度の高いものには度数の高いものが多いようである。そこで、集中度の順位と度数の順位とのあいだで順位相関係数

集中度の順位 \ 度数	10~100	101~1000	1001~
1~20	5	10	5
21~40	6	12	2
41~60	11	9	—
61~74	11	3	—

と度数の順位とのあいだで順位相関係数 Kendall の $\tau(\tau_b)$ をとってみると、 $\tau_b = 0.407$ であり、無相関の仮説は 1% の危険率で棄却される。すなわち、度数が高いほど集中度も高くなるという趨向性がみとめられる。

注9) ここでとった方法は、水谷静夫の教示により、経済学で富の偏在度などをあらわすローレンツ曲線にならったものである。なお、G. HERDAN: *Type-Token Mathematics* (1960) の第 II 章 The Distribution Law of Linguistic Variables を参照。

表 3.6 <うけ>の集中度(延べ語数100について)

順位	集中度	か かり	異 なり	度	数	う け の 語 数	
						度数 3 以上の内わけ	度数 3 以上の内わけ
1	.783	よりどころ	6	5	1	95	21/する 52/なる
2	.685	変化の結果	27	4	2	3	3/変る 51/なる
3	.677	異同比較の基準	7	4	1	43	3/異なる 51/なる
4	.661	引用	21	13	4	3	3/異なる 26/思う 34/言う
5	.592	抽象的存在場所	37	32	1	4	6/変る 7/比べる 22/違う 30/同じ
6	.478	空間的経路	48	38	5	3	4/持つ 6/居る 13/ない 26/ある
7	.389	空間的経路	54	39	4	11	3/うろつく 3/駆ける 3/通す 3/登る 3/はいる 3/回る
8	.371	目的	57	44	4	9	3/持つ 4/やる 4/付く 4/できる 6/悪い 8/ない 9/よい 9/ある
9	.355	空間的到達点	62	53	4	3	7/出る 12/来る 15/行く
10	.347	評語の基準	63	56	2	5	3/着く 3/でかける 10/来る 11/帰る 13/行く
11	.344	空間的存在場所	59	42	9	3	3/充分 3/びつたり 4/ふざわしい 4/向く 4/足りる 5/似合う 7/必要 12/わかる
12	.330	空間的存在場所	63	50	6	7	3/懸ける 3/知る 3/捨てる 4/言う 4/持つ 6/聞く 15/する
13	.282	主格	68	54	8	6	3/懸く 3/起る 3/作る 7/ない 18/ある
14	.263	対象	72	63	6	3	5/できる 7/ない 18/ある
15	.247	抽象的存在場所	73	63	3	7	3/入れる 3/知る 3/まかせ 3/やる 4/言う 4/やめる 11/する
16	.243	対象	72	58	7	3	3/合う 3/属する 3/付く 4/入れる 3/はいる 5/かかる 6/加える
17	.237	主格	73	59	8	6	3/合う 3/上げる 3/やる 4/見る 9/する
18	.219	相手・仲間	75	61	10	4	4/着く 4/ない 7/ある
19,5	.212	空間的到達点	76	63	5	8	3/祭る 3/遊ぶ 3/結婚する 3/結ぶ 3/別れる 4/する 4/つき合う
20	.212	空間的到達点	76	63	8	5	3/着く 3/行く 5/入れる 3/出る 3/はいる
21	.211	時間的出発点	78	73	1	4	4/見る 6/する 3/凝つ 9/なる
22	.197	副詞語尾	74	67	6	1	21/する
23	.191	時間的限界	78	64	9	5	3/居る 3/考える 3/のこる 3/やる 6/ない
24	.191	空間的出発点	76	61	10	5	3/帰る 3/来る 3/出す 3/離れる 7/出る
25	.189	比較の基準	82	74	5	3	3/安い 6/早い 9/よい
26	.184	状態	80	70	6	4	3/居る 3/する 5/取る 7/言う
27	.180	雑格	80	69	5	6	3/入れる 3/する 3/通す 3/ない 3/用いる 6/なる
28	.172	受身の相手	81	70	7	4	3/考える 3/ひかえる 4/なる 6/する
29	.172	並行	80	66	9	5	3/おそく 3/好く 3/連れる 3/認める 4/囲む
30	.171	抽象的基点	81	69	9	3	3/うたう 3/聞く 7/言う
31	.170	空間的基点	83	70	9	4	3/得る 3/出る 3/はいる 3/みる
32	.169	空間的基点	82	73	7	2	6/やる 7/する
33	.159	相手・対象	83	76	2	5	3/まかせ 4/与える 5/会う 5/従う
34	.155	主格・程度	83	73	6	4	3/する 3/なない 4/言う 5/なる
35	.149	原因・時	83	71	7	5	3/ある 3/多い 3/大きい 3/強い 3/よい
36	.137	手続・方法	85	75	8	2	4/する 5/なる
37	.129	副詞	86	77	5	4	3/ある 3/出る 3/ない 4/なる
38	.103	副詞	80	80	7	5	3/する 3/やる 4/言う 5/作る 5/できる
39	.094	抽象的場所	90	83	5	2	3/する 4/はいる
40	.077	副・評語	92	87	3	2	3/言う 4/ある
41	.038		96	92	4	1	

このような度数の影響をけすために、度数100以上のものからランダムに100ずつぬいて計算したのが表3.6(p.237)である。(ただ1回の抽出だから、当然これにともなる誤差はさげられない。)

さきに位置についてつけた順位とこの集中度の順位とは、ある程度関係がある。 $r_b = 0.253$ で、あまり高くはないが、集中度の高いものほど〈うけ〉の近くにあることが、危険率5%でいえる。また、「文型(2)」における文の成分の分類を適用すると、補語・目的語で集中度が高く、状況語や陳述的成分では低い。ただ、位置のばあいの傾向とちがうのは連用語であって、これは、集中度の方ではもっとも低い方にはいるにもかかわらず、位置はかならずしも〈うけ〉から遠いとはかぎっていない。

3.33 共存度

かれは 自転車で 元気に 通学した。

という文では、「かれは」「自転車で」「元気に」という三種類の〈かかり〉が、「通学した」という一つの〈うけ〉にかかっている。このような事実を〈かかり〉が「共存している」とよぶことにする。どんな〈かかり〉とどんな〈かかり〉とは共存しやすいか、ということにはある傾向があるはずである。その共存の割合を数量化する一つのところみについて報告する。

共存度のはかり方にはいろいろありうるであろうが、ここではつぎのような考え方をとる。

“共存している度数を多くない方の〈かかり〉の度数でわった%を共存度とする”

たとえば、「～で(手段)」の度数は435で「～に(副・ようす)」の度数は1013、両者が共存した度数は26。ゆえにこの両者の共存度は、 $\frac{26}{435} \times 100 \approx 6.0$ 。なぜ多くない方を基準にとるかという、両者の共存の可能性は最大限435回であってそれ以上にはなりえないからである。このことは「～に」

表3.7 〈かかり〉の共存度

度 数	か か り	共 存 頂 数	と ・ 副 尾	で ・ 手 段	で ・ 空 場	で ・ 抽 場	に ・ 副 評	に ・ 空 存	に ・ 抽 存	の ・ 主 格	に ・ 相 手	に ・ 時	に ・ 抽 到	に ・ 空 到	に ・ 副 様	も ・ 主 格	に ・ 結 果	と ・ 引 用	が ・ 主 格	は ・ 主 格	を ・ 対 象
7299	を・対	象	17	34	33	33	21	25	23	16	-	29	25	15	26	28	7	19	8	11	18
4923	は・主	格	17	18	17	13	17	20	11	17	-	16	14	11	10	17	4	12	12	6	
4647	が・主	格	17	20	10	19	21	12	32	49	-	9	19	15	9	15	3	11	5		
1607	と・引	用	13	2	3	3	3	1	1	-	-	3	2	-	-	3	1	-			
1329	に・結	果	10	-	2	2	4	4	-	-	-	-	3	-	-	1	2				
1038	も・主	格	13	2	-	-	3	3	1	6	-	-	2	3	-	3					
1013	に・副・ようす		17	4	6	4	2	2	3	1	-	2	3	2	2						
866	に・空間的到達点		8	4	3	-	-	2	-	-	-	-	4	-							
815	に・抽象的到達点		9	1	-	-	3	3	-	-	-	-	3								
804	に・時		17	3	2	3	2	1	1	2	-	2									
735	に・相	手	10	-	1	2	2	2	-	-	-										
565	の・主	格	2	-	-	-	-	-	1	2											
561	に・抽象的存在場所		10	1	-	-	1	3	-												
545	に・空間的存在場所		11	2	3	1	-	-													
492	に・副・評 価		14	-	-	2	2														
486	で・抽象的場所		12	-	-	-															
445	で・空間的場所		12	2	1																
435	で・手	段	12	1																	
429	と・副 詞 語 尾		13																		

の方がかりに何千回、何万回使われていたとしてもかわらず、多い方の度数は共存の可能性に影響しない。

表にまとめたのは、標本使用度数 400 以上のかかりの共存度である。共存回数は語順の調査の際のを用いた。「が」「は」「を」の度数は他のかかりにそろえるためそれぞれ 3 倍して出した推定値である。「共存項数」というのは、共存度が 1 以上になった相手のかかりの数である。かかりの種類が 19 だから、他の全部のかかりとそれぞれ 1% 以上共存していれば、共存項数は 18 である。共存度 1 未満のものは一で示した。

この表を見てまず気づくことは、「の」のように極端にちがうものもあるけれども、大体度数の多いものの方が他のかかりとの共存度が高く、共存項数も多いことである。しかし同時に、かかりの構文上のはたらきもある程度関係があるらしいことが察せられる。たとえば、「に(結果)」は度数が高い割に他とはあまり共存しない。「の」を一応別にして、「文型(2)」によってかかりを分類すると、共存項数の多少から見て、大体つぎのような順序になる。〔 〕の中は共存項数。

主語 は〔17〕 が〔17〕 も〔13〕

状況語 に・時〔17〕 で・抽象場所〔12〕 で・空間場所〔12〕 で・手段〔12〕

連用語 に・副・ようす〔17〕 と・副〔13〕

陳述的成分 に・副・評価〔14〕

目的語 を〔17〕 に・空間到達〔8〕 に・抽象到達〔9〕 に・相手〔10〕

に・抽象存在〔10〕 に・空間存在〔11〕

補語 と・引用〔13〕 に・結果〔10〕

ここでもやはり集中度のばあいと同様、結びつきの比較的ゆるいものとかたいものとのちがいがあらわれている。

4 複合語 (β 結合)

4.1 複合語の名称と範囲

4.11 複合語の名称

「複合語の表」(p. 262 以下)は、このたびの調査の用語に従えば β 単位の結合体 (β 結合) の一覧表と称すべきものである。以下この一覧表を理解するに必要な限りで、 β 単位といわゆる単語 (厳密には単純語) の、 β 結合といわゆる複合語の、異同について予備的な記述を行なう。

β 単位とは、ある約束のもとに、操作的に定まつた、用語調査における単位語 であって、常識的に言えばいわゆる単純語に当たる概念である。すべての、語の集合は、残らず、しかもただ一度だけ β 単位に分割される。

β 結合、または β 結合としての複合語というのは、 β 単位が分かちがたく緊密に結びついたもので、単純語に対して言えば複合語とも称すべきものである。しかし、 β 単位が必ずしもいわゆる単純語そのものではないのと同様に、 β 結合も、必ずしもいわゆる複合語そのものでもない。以下問題になりそうな場合を例示しながら、 β 単位ならびに β 結合について説明したい。^{注1)}

たとえば、同じ「棚」という要素を共通に持つ二つの語「本棚」と「書類棚」とを考える。「本棚」は、 β 単位の規定によれば、二つの最小単位^{注2)}の一次結合であるから一 β 単位である (以下、一 β 単位を略して 1β と称する)。これに対して、「書物棚」は三つの最小単位の結合である。かつ、結合の関係から言っても、「書物」という一次結合にさらに「棚」が結合して、二次結合を形成している。これは、 1β のわくをはみ出しているので、「書物棚」の場合を β 結合または、 β 結合としての複合語と呼ぶ。 β 単位という物差しではかるとき、「書物棚」は 2β である。^{注3)}

また、同じ「本」ということばを共通に持つ二つの語「本番」と「本採用」とを考えよう。〈本番〉は 1β で、〈本採用〉は 2β である。「本採用」は、「本」と「採用」とが緊密に結合しているから、 β 結合でもある。

β 単位の観点からすれば、「本」、「棚」なども、それらが独立して単独に用いられるときは、やはり 1β である。「心」、「行く」、「スケート」、「信ずる」などもまた独立して単独に用いられるときはそれぞれ 1β である。

注1) β 単位の概念規定ならびに、認定上の手続きについては、第一分冊 3.2 調査単位の句切り方 (pp. 6~14) にくわしい。この章では、 β 単位に対する常識的な理解から生じやすい誤解を例にあげ、それを β 結合に対応させながら説明しようと思う。

注2) 最小単位とは「現代語として意味を担っている最小の言語単位をいう。」(第一分冊 p. 7)

注3) しかし、 2β は必ずしも β 結合とはならない。 β 単位の規定は、助詞・助動詞の類にも適用されるから、「本棚に」、「本を」、「のせた」はそれぞれやはり 2β である。かつ、三つの最小単位の結合も常に 2β となるわけではない。三つないし四つの最小単位の結合が 1β となる、いくつかの場合が例外的に認められている。(p. 241 参照)

次に、独立して用いられなくても、接頭・接尾的要素(総括して付属要素と呼ぶ)は、それだけを1 β として扱う。付属要素を意味的に分類した一覧表は第一分冊 pp. 8~10 に、五十音順に排列した一覧表はこの分冊の pp. 256~257 におさめてある。

また、「皇太子」、「不可思議」、「床の間」など、三最小単位以上でも特に1 β と認めるなどの、いろいろの例外規定その他については、第一分冊 p. 11 にゆずり、ここではふれない。

さて、「本棚」という語形に含まれ得る「本」が独立して単独に用いられたとき、これを「本採用」の「本」、「本年度」の「本」、「十五本」の「本」などと同じ語と認めるかどうかという問題がある。これはわれわれの調査では、見出しの立て方の問題の一部として取り扱う。^{注4)}見出しの立て方とは、たとえば採集したカードを五十音順に排列するとき、または、語彙表を作成するときなどの場合に、同じ語としてまとめるか、別な語として取り出すかということである。「本」については、われわれは次の五つの見出しを立てた。

- (1) 書籍の意味の、本
- (2) 「本会議」などの、本
- (3) 助数詞としての、本
- (4) 「本大会」、「本年度」などの、本
- (5) 「ほんにそうだ」、「ほんの少し」などの、本

先に例示した「本採用」の「本」は、(2)の見出しの範囲にかぞえられた。このような、意味範囲の区別に重きをおいて定まる、同語・別語判別の理論的規準については、報告 13『総合雑誌の用字用語』後編(1958)付録Ⅲ 同じ語か異なる語かの線型判別函数による決定 (pp. 108~115) に概略が述べてある。また、この調査での処理の実際については、この分冊の「同じ語か異なる語かの判別表」(pp. 301~331)に語例が列挙してある。

与えられた語形が1 β であるためには、次の条件のいずれかを満たさなければならない。

- (1) 独立して用いる一最小単位、または、付属要素として用いる一最小単位であること
- (2) 二つの最小単位の一次結合^{注5)}であること
- (3) 例外として、特定の三つないしそれ以上の最小単位の結合であること

このさい、いわゆる単純語か複合語かの区別は、ここでは問題にならない。「本」も「棚」も「本棚」もひとしく1 β である。同様に、「チョコレート」も「パン」も「チョコレートパン」もひとしく1 β である。また、「前(まえ)」も「スカート」も「前スカート[裁縫]」もひとしく1 β である。

そして、1 β の語構成を見ると、二つの最小単位の結合^{注6)}から成る場合が実際にはいちばん多いのである。

注4) 見出し、または、見出し語は、まず、同じ語が何回現われたかを集計するさいの、集計単位として問題になる(これについては、第一分冊総記 3.3 集計単位の定め方(pp. 14~20)を参照)。次に、見出し語の形のきめ方、カードへのしるし方および排列のし方(第一分冊語彙表 1.2 表の見出しの掲げ方(pp. 22~25)参照)として問題になる。

注5) 二つの最小単位の結合については、直接に結合するとき是一次結合しか起こり得ないが、間接の結合ならば、二次結合などもありうる。後述参照。

注6) その中には、いわゆる単純語も、いわゆる複合語もある。概して言えば、漢語の場合は単純語と意識されることが多く、和語、外来語の場合は、複合語と意識されることが多いかと思われる。

ただし、二つの最小単位の結合のすべてが常に1β単位であるとは限らないことは前述のとおりである。参考までに例外の主なものをあげよう。

例外の第一は、人名、地名、数に属する最小単位に関する優先規定である。まず、

|孫|文|

などのように、人名は姓を1β、名を1βとする優先規定がある。また、

|東|区|

などのように、行政区画を表わす地名の取り扱いについての優先規定がある。また、

|エベレスト|山|

などのように、国や地形や場所などの名前の取り扱いについての優先規定がある。

さらに、数に関しては、

|三|万| |五|億| |0|.5|

などのように句切る優先規定がある。

例外の第二は、付属要素(接頭・接尾的要素)、符号などに関する優先規定である。

|お|話| |どろ|だらけ| |書き|損じる| |リード|する| |リード|される|

などのように、付属要素は一最小単位を1βとする優先規定がある^{注7)}。また、

|イ|図| |甲|市| |〇〇|氏| |Na|Cl|[化学記号] |M|県|

などのように、符号・ローマ字は、一最小単位を1βとする優先規定がある。

例外の第三は、会社・店・学校・団体・新聞・雑誌・商品などの名称に関する規定である。

|すみれ|会| |タイムズ|紙| |キャノン|カメラ| |アラブ|人| |ラテン|語|

などのように、種差をあらわす部分(「キャノンカメラ」の「キャノン」に当たる部分など)は、一最小単位を1βとする優先規定がある。

以上に示した限りでは、1βは、一単純語とかなりよく対応しそりに思われる。従って、β単位の一次結合体も一複合語と意識されやすいと思われる^{注8)}。

第四の例外として、音節数(モーラ数)についての規定がある。

たとえば、「インクスタンド」は1βであるけれども「ガソリンスタンド」は2βとする。また、「前スカート」は1βであるけれども、「後(うしろ)スカート」は2βとする。

つまり、(1) 外来語の最小単位どうしの一次結合の場合、結合した全体が7音節を越えるとき、(2) それ以外の最小単位間の一次結合の場合は6音節を越えるとき、それぞれの最小単位を1βと見なす例外規定である。

注7) 付属要素の中には、普通助動詞とされる次の諸語を含む。

れる／られる せる／させる しめる たい ごとし

また、副助詞のうちの次の諸語も含む。

ぐらい ほど

注8) ただし、付属要素のうち、普通、接頭語・接尾語と呼ばれるものは、それが他と結合してもやはり単純語と意識されるかもしれない。

このさい、音節数のかぞえ方は、活用のある語については次のようにする。

動詞は、連用形の音節数でかぞえる。そこで、「思い乱れる」は 1β (6音節だから)であるけれども、「思いわずらう」は 2β (7音節だから)とかぞえる。

形容詞は、語幹の音節数でかぞえる。そこで「心苦しい」「物珍しい」などは 1β (6音節だから)であるけれども、「心はずかしい」は、もしあれば、 2β (7音節だから)である^{注9)}。

音節数の制約に関する規定になると、いわゆる単純語、複合語の別との対応は良好でない。

以上、一最小単位どうしの一次結合に関するいろいろの場合の例外規定をあげたが、次に一最小単位どうしが見かけの上で一次結合を形成した場合の取り扱いについて述べる。

たとえば、「庶務課長」という語がある。これは、課長のいろいろを列挙したと考えるならば、「庶務|課長」のように分割して、一次結合とすることも可能である。しかし、これを庶務課の職制ないしは人的構成を示したものと解すれば、まず「庶務|課」という一次結合が考えられ、その全体に「長」が結合して二次結合を形成しているとすることができる。後者の場合、「庶務課長」



は 3β となって(左図参照)、「課長」の部分は、一最小単位どうしの直接の結合ではないことになる。この調査ではわれわれは、語の構成の上から、 3β に分割する考え方に従った。

「庶務課長」のような結合については、もちろん複合語の意識が強いけれども、複合のし方の意識は、必ずしも、図式に示した語構成とは対応しないと思われる。

以上、いわゆる単純語、複合語の区別は、必ずしも β 単位、 β 結合の区別とは対応しないことを、いろいろの場合について示して来た。

単純語、複合語の区別については不透明な点が多い。複合語を明確に規定するためには、まず複合の要素である単純語を明確に規定しなければならない。しかしながら、単純語を規定しただけではだめで、次には複合(または結合)ということを明確に規定しなければならない。

この分冊では、いわゆる単純語、複合語の区別とはかかわりなしに、この調査のために定められた単純語としての β 単位、ならびに β 単位どうしの結合、という観点から問題を整理した。結合の概念も一往第一分冊で規定されている。^{注10)}この分冊の複合語表では、主として二つの β 単位の一二次結合を扱ってあるので、前記の規定に不都合を感じなかった。

いわゆる単純語、複合語の常識的な区別観念を持って β 単位ならびにその結合体を律することは、いろいろの誤解のもとになりかねない。そこで、この節までは単純語、一語、二語、複合語のかわりに、ことさら β 単位、 1β 、 2β 、 β 結合(または、 β 結合としての複合語)の名称を用いた。しかし、次節からは繁雑をいとい、 β 結合としての複合語を単に複合語と呼び、普通に複合語と呼ばれているものをさすときは、「いわゆる複合語」と呼ぶことにする。また、 β 結合としての複合

注9) 動詞・形容詞などの語形に関するこの規定は、第一分冊語彙表の排列にも適用される。従って、「来る」、「する」はそれぞれ<キ>、<シ>の所に排列される。また、「無い」、「暗い」はそれぞれ<ナ>、<クラ>の所に排列される。しかし、この分冊の複合語表その他では、すべて終止形で排列した。

注10) 「これは大まかに言えば、文節内での言語要素の結びつきの事である。更に、その結びついた一まとまりが意味・機能の上でも一まとまりになるという条件がつく。」(第一分冊 p.7)

語を、特にはっきりさし示したいときは、「ここに言う複合語」と呼んで、「いわゆる複合語」と区別することにする。

なお、この分冊の複合語表におさめた語数は、用語調査のために抽出した全標本の三分の二の範囲からえらんだものの中、その範囲内でβ結合としての標本使用度数が3以上であった、4381語である。

4.12 複合語の範囲

ここに言う複合語とは、β単位がわかちがたく緊密に結合したものであるが、与えられたβ単位の連続を、複合語とするかどうかの認定に関しては多少の約束を設ける必要があった。この分冊の複合語表ではβ単位の一次結合を主として扱っているので、一次結合の場合を中心として、いちじるしいものを例示する。説明の便宜上β結合の範囲外に行くべきものを主として、あげることにする。

(1) まず、複合語は自立語(詞)どうしの緊密な結合を対象とするので、助詞・助動詞との連続、または、助詞・助動詞どうしの連続は、当然複合語でない。^{注11)}

ただし、次のようなものは特に複合語とした。

友の会 柿の村人(雅号)

また、次のようなものも、複合語とした。

草の実会 二の丸城 我が物顔 着たきり雀 若い人好み 同郷のよしみ扱
いされる 主婦と生活文化学園

これらは、「草の実」「二の丸」などの部分がかっこにくくられて、「会」「城」などと結合の関係を構成すると見られるからである。

(2) 統辞論の範囲に属すると考えられる連続は複合語でないとする。

黄金／十枚 家中／一同 自分／ひとり 月／七日(なのか) 二人／共同で

一／即／神 巨人／対／阪神

青少年／相手〔「相談相手」は別〕

試合／終了〔「試合終了後」は別〕 ベートーベン／作曲〔「ベートーベン作曲集」は別〕

春／浅く 事／重大

県庁／気付け

今次／総会 右／比率

幹／もろとも 前後／別々 人／さまざま プロペラ／さながら 前／もって

故／羽川氏 バー／あざみ 僧／禪空 我々／青年

その／まま その／もの ああ／した この／際 それ／相応

彼／独特の それ／故 わが／国

注11) この調査で助詞・助動詞とした範囲は、中等文法などのそれと多少違うところがある。たとえば、受け身(れる／られる)、使役(せる／させる; しめる)願望(たい)、比況(ごとし)の助動詞、および助詞のあるもの(ぐらい、ほど等)は、この調査では付属要素とした。また、接続助詞から転成した接続詞(が、けれども等)は、助詞の方に数えてある。

思う／存分 半年／足らずの

注意 「申し訳ない」、「違いありません」などは、複合語と認めた。

- (3) 繰り返し、並列は複合語でないとする。

一瞬／一瞬 さあ／さあ 政治／経済〔「政治経済的」は別〕 はて／さて

- (4) 品詞で言えば、接続詞、感動詞、陳述の副詞、指示詞などは全く、または多く複合語を形成しない。

或いは 又

おや あら

むしろ

ああ〔～した〕 この

- (5) 付属要素は原則として複合語を形成するが、次のものは、複合語を形成しないとする。

接頭的要素 サー マダム ミス ミスター ミセス

接尾的要素

せる／させる れる／られる しめる〔使役〕 ごとし たい〔「願望」；「たさ」「たがる」も〕

くらい／ぐらい ほど〔程度の意〕

くせ(に)〔する～〕 こと〔私～〕 もの〔こまります～；言おう～なら〕 よう〔ある～だ〕

注意 付属要素ではないけれども、性質がそれとよく似ている次のものも、複合語を形成しないとする。

次第〔帰り～〕 とも〔ぜひ～；ふたり～〕など

〔「きり」「ばかり」は助詞の取り扱いをした。〕

- (6) 行政区画、地域、職域、時間などの区分は結合の句切りをなすとみとめ、複合語としない。

野州／宇都宮 東京／銀座 本年／下期 明日／午後 ここ／当分 東大／教授

〔「大学教授」は別〕

- (7) 次のような語は複合語を形成しないとする。

以上 以下 以前 以後 以外 以内 以来 直前 直後

自身 自体

私／自身 それ／自体

以上、きわめていちじるしいものを略記し、将来の再検討にそなえたい。

次に、まぎらわしい場合の処理の例を掲げる。

場合1 形容詞の連用形とそれから転成した名詞

{ 山麓／近く〔～進出した〕……形容詞
{ 山麓近く〔～に進出した〕……名詞

場合2 身分・肩書き

{ 東大／教授 { 大映／社長 { バリーグ／審判
{ 大学教授 { 会社社長 { 一塁審判

特定の職場・職域との連続は、複合語としない。

場合3 <おかあさん>、<おとうさま>などの処理

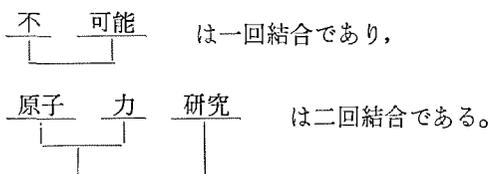
まず、〈かあさん〉、〈とうさま〉などの結合を考え、この一次結合にさらに〈お〉が結合すると考えた。ただし、〈お子さま〉は〈お子〉という一次結合に〈さま〉が結合したと考えた。〈お星さま〉その他の類例を考えると、これらは一括して、3βから成る一次結合とした方がよいのかもしれない。もっとも、複合語表では、このようなものは全体の結合形をあげ、検索の便にそなえてある。

場合4 〈庶務課長〉式の語の処理

まず〈庶務課〉の結合を考え、これが〈長〉と結合すると考える。このことに関しては前述した。(p. 243)

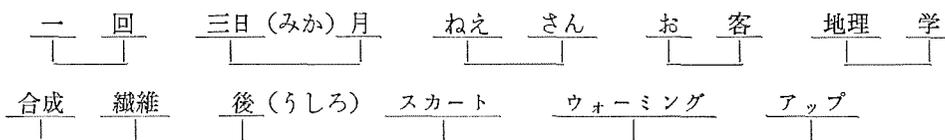
4.13 一次結合と二次結合

複合語におけるβ単位の結合は、結合の回数に応じて一回結合、二回結合、…に分けることができる。



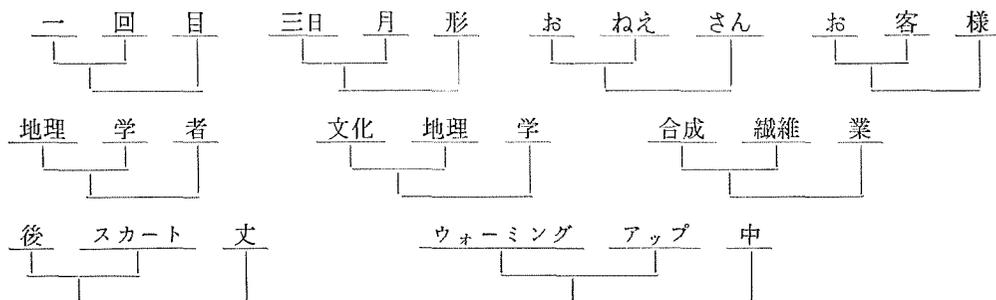
β単位の結合はまた、結合した要素相互のかかり方に応じて、一次結合、二次結合、…に分けることができる。前述の例で言えば「不可能」は一次結合であり、「原子力研究」は二次結合である注12)。

一次結合とは、二つのβ単位が直接かつ緊密に結合したもので、たとえば



などは一次結合である。

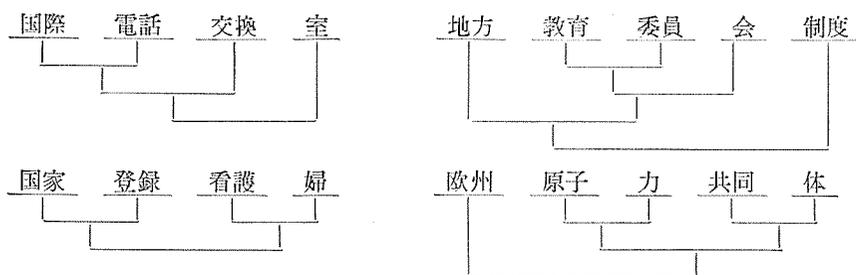
二次結合とは、三つ以上のβ単位が一次結合を媒介として緊密に結合したもので、たとえば、



などは二次結合である。二次結合は必ず一個の一次結合を含む。

やや複雑な結合の例をあげると

注12) 一次結合を単純結合と呼ぶことにすれば、二次以下の結合は複雑結合と呼ぶことができる。また、取り扱いの便宜上、二次結合という名称のもとに三次以下の結合を含めて考えることに約束してもよい。



などのように、二次結合、三次結合……を媒介とした各種の結合がある。

注意 結合の次数と回数とは別のものである。たとえば、「国家登録看護婦」において、 β 単位の結合の回数は三であるが、次数は二である。同様にして、「欧州原子力共同体」において、結合の回数は四であるが、次数は三である。一般的に言って、結合の回数が結合の次数を上回ることがありうるが、その逆はありえない。

さて、この分冊の複合語表は、もともと一次結合のありさまを概観しようとする意図のもとに出発したので、すべて一次結合の形で整理してある。たとえば「不可能」と「不可能事」とは、「不」を見出しとするとともに「-可能」の形で出している。「可能」を見出しとするときもまた、ともに「不-可能」の形で出している。

なお、「社会学者」「地理学者」などは「者」を見出しとするとともに、一括して「○○-学-者」の形にまとめて出した。^{注13)}「学」を見出しとするときには「社会-学」、「地理-学」などの形で出し、「社会」「地理」などが見出しのときも同じく、「社会-学」、「地理-学」などの形で出した。いずれも、結合の形を完全に示す代わりに、共通見出しとでもいうべき一次結合の形にまとめた点では、「不可能」「不可能事」などの場合と同様である。^{注14)}

以上の次第であるから、この分冊の複合語表は、「 β 単位を基礎として形成された、一次結合の表」と呼ぶのがもっとも正確である。

二次結合以下の完全な β 結合を含み、複合語表の標本使用度数を1にまで引き下げ、かつ調査対象を全標本にまで広げた、完全な一覧表の作成は他日を期したい。

4.14 語彙表(第一分冊)との関係

第一分冊の語彙表は、使用率0.016%(パーミル)、標本使用度数7以上の語7234をおさめている。この中には、「あるいは」「又」「就いて」などのように、語の性質上複合語を作り得ないものもある。

注13) 1 β としての「学者」という見出しは別にあって、そこでは、「大/学者」、「専門/学者」、「学者/先生」などの一次結合が示され、その一次結合の中には、「二/大/学者」、「各/専門/学者」、「学者/先生/連中」などの複雑な結合がありうる。この分冊の複合語表には、標本使用度数や語例が少なかったという事情のため、「学者」を見出しとする一次結合は出ていない。

なお、「文学者」、「科学者」などは、それぞれ「文学/者」、「科学/者」となるので、「社会/学/者」などと同列の例とはならない。

注14) 一次結合の形で出すことが不自然な若干の二次結合は、例外的に

お-子-様 (「お子様用」などを含みうる)

お-子-さん (「お子さん方」などを含みうる)

の形を、それぞれ見出し語「お」、「子」、「様」、「さん」の部に出すように配慮した。

るし、たまたまこのたびの調査では結合した例がなかったり、たといあっても、標本使用度数が3に達しなかったりしたものもある。

表 4.1 見出し語と複合語表との関係

見出し語の 標本使用度 数	複合語表に のせた見出 し語数	複合語の要 素としてあ らわれた見 出し語の延 べ数	複合語の延 べ数
7回以上	7234	1936	4402
6～3回	8123	316	316
2～1回	24654	0	0
計	40016	2252	4718

この分冊の複合語表は、すべて現実に複合語を形成した例があり、かつ、全標本の三分の二の範囲内での使用度数が3に達したものだけをおさめる。その代わり、この条件を満たさずれば、たとい第一分冊の語彙表に見出し語^{注15)}として出ていなくても、この複合語表には出すことにした。識別のために、見出し語としての標本使用度数が6～3回である語の頭には*印

を付けた。当然のことながら、*印のついた見出し語から形成された複合語の標本使用度数は、また6～3回である。

以上述べてきことを簡単に数字で示すと表 4.1 のとおりである。

4.2 複合語の概観

この調査で得られた複合語の数は4381である。この数字は、複合した形での標本使用度数2～1を除き、かつ全標本の三分の二の範囲での数字であるから、これをもってただちに全体におよぼすことはできない。そこで別に全標本から2000語(延べ約5.7万語)を無作為に抽出して調べたところから推定すると、複合語の総数は約6.8万種と予想される。^{注16)}

2000語の抽出調査の方法は、まず標本全体を見出し語の使用度数別に10階級に分け、各階級から200語をそれぞれランダムに抽出した。抽出比率は、見出し語の標本使用度数が4以上のところでは、おおむね $\frac{1}{11}$ ないし $\frac{1}{9}$ に近い。標本使用度数に幅のある階級ほど、抽出数は相対的に多くなっているため、全体の姿についての推定の精度は良好であると思われる。^{注17)}

以下、複合語の模様を概観するために、複合語表の作成と並行して行なった2000語だけの抽出

注15) 複合語表は、まず見出し語を示し、次にその見出し語を結合の要素として含む複合語を出してある。一つの複合語は原則として二か所の見出し語にわたって出されるから、複合語の総数は、見出し語の数のおよそ二倍である。なお、この文章に言う見出し語とは、常に、第一分冊語彙表所収の語そのもの、および語彙表以外の語でこれと同資格のものをさす。複合語そのものを見出し語と呼ぶことはしない。

注16) この分冊の複合語表では、人名、地名、数字などとの結合を、それぞれ区別、区別、区別などの形にまとめてあるが、2000語だけの抽出調査では、「青木/君」「岡山/市」「三十/人」などのように、くわしく出している。この分冊の複合語表の様式に合わせて6.8万の複合語をかぞえなおすならば、容易に6.5万の線を割るだろう。

注17) たとえば、人名・地名の総数を、2000語の抽出調査から推定した数字と比較すると、その差は、誤差の範囲内である。(p. 261 参照。)

表 4.2 複合語の
度数分布

標本 使用度数	語数
3	1813
4	872
5	485
6	304
7～	612
11～	342
18～	226
50～821	64
計	4718.*

* 異なる見出し語の正味は、2252。

- (1) 人名、地名、数字などとの結合は、もとの形を出す代わりに「匳盃-君」、「匳盃-メートル」などのようにまとめた。「君」、「メートル」などを見出しとする複合語は表にのせてあるが匳盃、匳盃などを見出しとする複合語は表のあとに付録として出した。
- (2) 2βの結合形だけではなお不自然を感じさせる場合、3βの結合の形で出したものが若干ある。たとえば次のようなもの。

見出し	複合語	備考
お	お-父-さん	「父」さんが見出しとなる場合も、それぞれ「お-父-さん」の形で出す。
赤	赤-葡萄-酒	「葡萄」酒が見出しとなる場合は、それぞれ「葡萄-酒」の形で出す。

表 4.3 見出し語の結合率(異なり)

標本 使用度数	結合率 %	標本全体 での語数	複合語を形成 する単位語の数
1	44.0	18066	7949
2	44.0	6588	2899
3	54.0	3475	1877
4	67.5	2185	1475
5	66.0	1436	948
6	66.5	1034	688
7～	74.5	2297	1711
11～	71.0	1708	1213
18～	84.0	2008	1687
50～	87.0	1219	1061
計	(平均 53.7)	40016	21508

以下の表・図で 2000 語調査の結果を掲載するとき、比率の形で示すことがある。各階級の語数はそれぞれ 200 語であり、その階級に属する見出し語の総数は表 4.3 に示してあるから、読者は容易に実数を求めうるであろう。

調査(略して 2000 語調査と称する)の概略も適宜織りこんで記述を進める。(記述はすべて異なり語数についてのそれである)

4.21 複合語の最高使用度数は 821 だった——度数分布の分析——

全標本の三分の二の範囲内での使用度数が 3 以上の複合語 4718 を度数別にまとめたものが表 4.2 である。最高使用度数 821 というのは、匳盃-年(ねん)の場合で、以下助数詞的な結合が続く。§ 4.25 標本使用度数の多い複合語に、おもな語の一覧がある。(pp. 253 ~ 254)

この複合語表は、見出し語を基本とした一次結合の一覧を示す体裁になっているから、同じ複合語が二か所の見出しのもとに現われるはずである。しかし、次のような事情で複合語の数は、見出しのちょうど二倍にはならなかった。

4.22 よく使うことばほど複合語を形成している——結合率の分析——

2000 語調査で、後段までの使用度数が 1 である見出し語 200 についてみると、88 語は複合語を形成し、112 語は形成しない。この場合、標本使用度数が 1 である単位語の(集団としての)結合率は 44% である、と呼ぶことにする。このような計算を見出し語の標本使用度数別にくり返すと、集団としてみたときの結合率の一覧表が得られる(表 4.3)。結合率は 40% 台から始まって最高 87% に至る。標本使用度数が 50 以上の見出し語は、その大部分が複合語を形成する。

4.23 よく使うことばほど複合語をたくさん作る——複合語の生産量の分析——

見出し語	複合語の種類	形
秋風	0	—
*悪性	1	悪性腫瘍
*褪せる	1	色褪せる
*医薬	3	医薬品, 医薬分業時代, 医薬用糸布
迂闊	0	—
⋮	⋮	⋮
計		
*印	135	249
比率	67.5%	1.25
	(/200)	

「見出し語」の欄の計は、複合語を形成する単位語(これは、複合語の見出しの役をする)の総数である。これを200語で割った値67.5%は、表4.3にも出した結合率である。また、「複合語の種類」の欄の計は、生産された複合語の総数である。これを200語で割った値1.25は、標本使用度数が4である見出し語の(集団としての)平均生産量である。ところが、表で明らかのように、実際に複合語を形成した見出し語の数は、200ではなくて135である。そこで、実際に複合語を形成した135語で、前記の249を割った値1.87は、いわば真の複合語生産量を示す。これに対して、見出し語の総数で割った値を、見かけの複合語生産量と呼ぶ。

表4.4は、以上の結果を一覧できるようにまとめたものである。

見かけの複合語生産量は、.44から出発して、度数4のところでは1.00の線を越える。そして度数50以上の階級で大飛躍を行なう。表4.3(結合率)と合わせ考えると、このことは、標本使用度数が50以上のことばは、おしなべて他のことばと結合しやすく、しかも多種類の複合語を生産しやすい、ということの意味する。2000語調査の結果によれば、「される」(延べ使用度数1098)の生産力が544種で最高であった。また、このたびの調査で得た見出し語4万種の中では、言うまでもなく「する」が最高で(中段までの延べ使用度数8749)、生産された複合語は1957種であった。

次に、複合語表にのせた4381語について、一つ一つの見出し語が幾種類の複合語を生産しているか、という観点から度数分布を調べてみると表4.5のとおりであった。この複合語表は、すでに

表4.4 見出し語の複合語生産量(異なり)

標本使用度数	見かけの生産量	真の生産量	生産された複合語数
1	.44	1.00	7919
2	.55	1.14	3623
3	.86	1.59	2989
4	1.25	1.87	2731
5	1.42	2.15	2039
6	1.63	2.47	1685
7~	2.40	3.23	5513
11~	2.97	4.18	5073
18~	5.92	7.06	11887
50~	19.77	22.70	24100
計	-	-	67589

述べたとおり、標本使用度数が3以上である複合語だけをおさめたものではあるが、多種類の複合語を生産した単位語の模様をうかがうには、これで十分である。

参考までに、標本使用度数3以上の複合語を7種類以上生産した見出し語79を表4.6に示す。生産量10種以上の33語中、三分の一は付属要素(接頭・接尾的要素)であること、かつ、最上位の三語が付属要素であることが注目される。(付属要素の語頭には*印をつけて区別した)。

図4.1 見出し語数と複合語数との関係

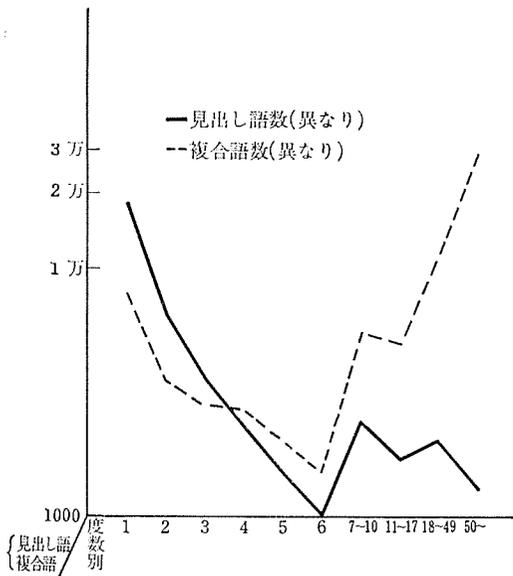


表4.5 生産された複合語

生産された種類	異なり語数
1	1628*
2	333
3	102
4	62
5	25
6	24
7~	49
11~489	29

計 2252

* 標本使用度数6~3回である見出し語316を含む。

表4.6 複合語(度数3以上)の生産量の大きい見出し語

見出し語	複合語の種類	見出し語	複合語の種類	見出し語	複合語の種類
*する	487	前(まえ)	11	生活	8
*お[御]	123	等(ら)	11	*ちゃん	8
*的	98	軍	10	何	8
される	59	経済	10	見返し[裁]	8
者(しゃ)	41	主義	10	無	8
*達(たち)	35	省[大蔵~]	10	屋	8
*方[考え~ 等]	33	性[sex は別]	10	*よい	8
*さん	29	員	9	後(うしろ)	7
会	17	映画	9	運動	7
大(だい)	17	学	9	期	7
法	17	金(きん)	9	局	7
家(か)	16	国(こく)	9	研究	7
*御(ご)	16	*式	9	工業	7
*様(さま)	16	新	9	上(じょう)	7
居(いる)	15	図	9	生産	7
所(しょ)	15	党	9	前後	7
ない[違い~ 等]	15	問題	9	団	7
*不	15	力(りょく)	9	年(ねん)	7
目[順序]	14	*得る	8	場所	7
長(ちょう)	13	*化	8	部	7
線	12	*間	8	放送	7
中(ちゅう)	12	車(しゃ)	8	身頃[裁]	7
人(にん)	12	新聞	8	率	7
機・器	11	数(すう)	8	労働	7
後(ご)	11	過ぎる	8		
*そう[あり~, 心配~ 等]	11	生(せい)	8		
成る	11	税	8		

4.24 複合しない見出し語

見出し語の中には、わりあい複合語を形成しやすいものとそうでないものがある。ここではまず、複合語を形成しにくい見出し語について分析してみる。

2000 語調査の結果にもとづき、標本使用度数が 50 以上である階級(200 語)の中から、次の規準で 63 語を選んだ。

1. 全標本を前段、中段、後段の部分集団に分けたときの、どの段でも全く複合語を形成しない見出し語……65 語(表 4.7 で△印をつける)
2. 複合語としての標本使用度数が、見出し語のその 5%を越えないもの……63 語 「姉」[54 回の中複合 6 回]、「泣く」[68 回の中複合 5 回]の二語は 1 の条件は満たすけれども、2 の条件を満たさないので、結局 63 語が分析されることになった。

この 63 語を品詞の観点から次の四類に分けてみると次のとおりである 注18)。

表 4.7 複合しにくい見出し語の例

1 名詞の類(17 語)

語 形	標本使用度数	語 形	標本使用度数	語 形	標本使用度数
△以外*	82	事(こと)	4731	名(な)	112
△いずれ	113	△今度	222	故(ゆえ)	51
気持	183	△際	55	世(よ)	143
首	70	そこ[指・接続]	389	我々	175
答え	56	誰	276		
△こっち[指]	59	血	57		

2 動詞の類(13 語)

追う**)	62	通じる	71	回る	69
重ねる	52	飛ぶ	62	求める	85
関する	104	△捨る	53	△依る	751
捨てる	61	振る	54		
対する	420	触れる	55		

3 形容詞の類(25 語)

(形容詞, 形容動詞, 連体詞, 程度の副詞)

一所・一緒	145	巧い	103	暗い	65
△色々	186	△嘗て	54	此の頃	51

注 18) この品詞分類のわくは、報告 13『総合雑誌の用字用語』後編(1958)所収「分類語彙表」(pp. 51~77), 資料集 6『分類語彙表』(1964)の四分類に従ったものである。報告 21『現代雑誌九十種の用字用語』第一分冊(1962)語彙表に付けた意味分類の番号もやはり同じ分類によったものである。

*) 語頭の△印は、全標本中のどの段でも全く複合語を形成しなかった見出し語である。なお、ここに掲げた 63 語が形成した複合語の延べ数は、「事」の 13, 「白い」の 5, 「少し」の 8 [少しずつ 8 例]を除き、すべて 4~1 であって、見出し語の標本使用度数の 5%を下回る。

**) 「追いかける」, 「追い払う」, 「追い廻す」などは常識的にはたしかに複合動詞であるが、ここにいう複合語ではないことに、特に注意されたい。これらは、われわれの調査では、見出し語であって、1βである。「追う」から形成された複合語とは、たとえば「追いつづける」, 「追い始める」など、第一分冊の付属要素の表のついている語と結合したものに限る。

語形	標本使用度数	語形	標本使用度数	語形	標本使用度数
白い	87	常に	52	△やがて	86
△随分	64	△冷たい	54	△約	127
少し	252	遠い	82	やっと	60
小さい, 小さな	159	激しい	104	弱い	52
終に	86	細い	50	僅か	79
大切	74	又	782		
沢山	81	まるで	84		

4 感動詞の類(6語)

(陳述の副詞, 接続詞, 感動詞)

△或いは	131	△さあ[感]	50	△又は	107
△及び[接]	150	△例えば	115	△寧ろ	88

以上の中には、たまたま今回の調査では複合語がなかったに過ぎない、というものもありうるわけだが、複合語を形成しにくい語の傾向ははっきりつかめると思う。

一二例説すれば、標本使用度数の大きい見出し語において、

- 1 感動詞の類の品詞はまったく複合語を形成しない。これは、後述の「語種・品詞と結合」のところをみても同じことである。「感動詞」の類の品詞は、標本使用度数のすべての階級にわたって複合語を形成しない。
- 2 後述の品詞別の分析によれば、四類の品詞の中では名詞の類が群を抜いて多い。ところが、今の場合は、形容詞の類に属する語がいちじるしく多い。
- 3 語種・品詞の観点から見ると、名詞の類の中では漢語名詞が、和語名詞や外来語の名詞などよりずっと多いのであるが(後述参照)、今の場合は和語名詞が大部分である。
- 4 同じく語種・品詞の観点から見ると、形容詞の類の中では圧倒的に漢語の比重が大きい。ところが、今の場合は圧倒的に和語の比重が大きい。

くわしくは、4.27 語種・品詞と結合の項も参照されたい。

4.25 標本使用度数の多い複合語

複合語表の中から、複合語としての標本使用度数が30以上であるもの111語を選び、これを度数の多い方から順に整理すると表4.8のようになる。

表4.8 標本使用度数の多い複合語(度数順)

語形	標本使用度数	語形	標本使用度数	語形	標本使用度数
年(ねん)【数】～	821	回【数】～	229	時(じ)【数】～	132
月(がつ)【数】～	593	氏【名】～	225	県【名】～	127
さん【名】～	585	度(ど)【数】～	170	% (パーセント)【数】～	125
円【金額】【数】～	529	市(し)【名】～	165	函【名】～	117
目(め)【順序】【数】～	451	割【数】～	163	君(くん)【名】～	115
センチ【数】～	331	お～【名】	153	号【数】～	108
日(にち)【数】～	274	枚【数】～	153	人(じん)【名】～	98
厘(センチメートル)【数】～	262	本【助数詞】【数】～	149	私(わたくし)～	98
入(にん)【数】～	260	分(ぶ)【数】～	137	達私～	97

語形	標本使用度数	語形	標本使用度数	語形	標本使用度数
分の[分数] 数字～	96	車 自動～	56	お ～客	39
分(ぶん) 数字～	91	名(めい)[助数] 数字～	56	客 お～	39
箇月 ～数字	83	都(と) 匹名～	53	川 匹名～	38
ちゃん 匹名～	82	番 数字～	53	前(まえ) 数字-年～	38
前 ～身頃	81	尺 数字～	52	次(じ) 数字～	37
身頃 前～	81	先生 匹名～	52	軍 匹名～	36
達人～	80	米(メートル) 数字～	52	等(ら) 匹名～	36
人(ひと) ～達	79	てる(テイ) し～	51	会 委員～	35
等(ら) 彼～	79	結婚 ～する	49	原子 ～力	35
彼 ～等	78	する 結婚～	49	夫人 匹名～	35
時間 数字～	76	ヤール 数字～	48	駅 匹名～	34
間 数字-年～	72	階 数字～	47	貫 数字～	34
杯 数字～	71	する ○○-化～	47	力 原子～	34
此れ ～ら	70	家(け) 匹名～	44	金(きん) 資本～	33
等(ら) 此～	69	する 利用～	44	資本 ～金	33
監督 匹名～	65	方 作り(動)～	43	点 数字～	33
個 数字～	65	作り(動) ～方	43	倍 数字～	32
違い ～ない	63	ミリ 数字～	43	位(い) 数字～	31
区 匹名～	62	利用 ～する	43	後 ～中央[裁]	31
ない 違い～	62	奥 ～さん	42	お ～金	31
ドル 数字～	60	さん 奥～	42	側 匹名～	31
頁 数字～	60	方 考え(動)～	41	共産 ～党	31
条 数字～	58	考え(動) ～方	41	語 匹名～	31
トン 数字～	58	母(かあ) ～さん	41	中央 後(うしろ)～	31
後 ～身頃[裁]	58	さん 母～	41	党 共産～	31
身頃 後～	58	寸 数字～	40	金(かね) お～	30
期 数字-月(がつ)～	56	代・台[世代・年		週間 数字～	30
自動 ～車	56	代]数字～	40	する はっきり～	30

匹名, 数字と結合した例が多いことは一見明らかであるが, 特に数字と結合した見出し語が標本使用度数の多い方に集中していることが特徴的である。

今こころみに, 結合の相手方を匹名・数字, 数字, 一般の三類に分けて整理してみると次のとおりになる。

標本使用度数	匹名・数字	数字	一般	計
821～100	5	19	0	24
99～60	4	8	13	25
59～40	3	11	19	33
39～30	7	6	16	29
計	19	44	48	111

ついたものである, と見えよう。

このような傾向が, 複合語としての使用度数とどの程度の関連性を持つかをたしかめるために,

使用度数 100 以上の階級では, 「一般」と複合した見出し語はゼロである。大部分が数字との複合である。これはきわめて印象深い。つまり, 非常によく使われる複合語の大部分は, 数字に助数詞のついたものであり, 残りは人名・地名に「君」「さん」などの

使用度数を11まで引き下げて得た629語について調べたところ、表4.9のようになった。

表4.9 複合の相手方の類別

複合語としての 使用度数	実 数				% (横に100%)		
	人名・地名	数字	一般	計	人名・地名	数字	一般
821~60	10	26	13	49	20.5	53.0	26.5
59~30	10	17	35	62	16.2	27.4	56.4
29~23	3	8	59	70	4.3	11.4	84.3
22~20	7	9	49	65	10.8	13.8	75.4
19~18	7	6	34	47	14.8	12.8	72.4
17~16	2	8	52	62	3.2	12.9	83.9
15~14	6	6	55	67	8.9	9.0	82.1
13	4	6	62	72	5.6	8.3	86.1
12	5	6	59	70	14.2	8.6	77.2
11	4	6	55	65	6.2	9.3	84.5
計	58	98	473	629			

使用度数23以上の階級をよくながめると、人名・地名、数字の類と一般用語の類とでは、現われ方の傾向が逆になっている。前者は、度数が大きくなるほど多くあらわれ、後者はこれに反する。23以下の階級では、通覧していちじるしい変動は見受けられない。そこで使用度数の多い階級、特に使用度数60以上の階級に重きをおいて考えてみると、結合の相手方として人名・地名、数字の類が標本使用度数の多い集団の中で占める比率は、一般用語のそれを上回っている。これは、われわれの言語生活の中でこれらのたぐいのことばが予想以上に多量に使われていることの反映であり、特に、結合の相手方としての数字が非常に多いということは、生活の中でのかぞえる機会が非常に多いことを意味する。しかし、われわれは普通そのことに余り注意を払わない。

また、数字が結合の相手方として多くあらわれることは、助数詞の発達、多用ということを他面では示すものである。事実、一般用語の内容を調べてみると、

年(ねん) 月(がつ) 円 センチ
などの助数詞の多用が目立つ。また、助数詞以外では、
さん 氏 お 達(たち) ら 方[考え~] する[漢語複合動詞などの] 監督
先生

などの付属要素(または、それに準ずるもの)がこれに続く。そのほかのことばも、

市 県 区 車[自動~] 部 所
など一字の漢語で、接尾的な性格の強い名詞が多い。

4.26 付属要素と複合語

付属要素[接頭、接尾的要素]は、その性質上複合語を形成する率が高く、しかも各種の複合語を生産する力も大きいように思われる。そのありさまを概観するために、第一分冊の付属要素の表を五十音順にならべかえた一覧表^{注19)}(159語)について、次のような観点からいろいろの印をつけてみた。

- 印 複合語の表で、複合語の生産量が6~1種である付属要素……54語

注 19) 名詞に対する動詞の形など、若干の派生形を追加してある。

- 2 ◎印 複合語の表で、複合語の生産量が7種以上である付属要素……20語
- 3 ☆印 見出し語としての標本使用度数が50以上である付属要素……76語
- 4 無印 複合語の表にない付属要素……67語^{注20)}
- 5 *印 見出し語としての標本使用度数が6～1回である付属要素……29語
- 6 ×印 このたびの調査にあらわれなかった付属要素……4語

以上のうち、*印および、×印の付属要素は、4 無印 の分の内訳の一部である。また、◇で参照させる項目は計算外である。

表 4.10 五十音順付属要素一覧表

☆○あい-[相成る] *あい(合)[変化] ☆○あう[声を掛け～][変化] *能う[状態] -宛て[その他] ☆○ある[お許しあれ][変化] -いい[状態]◇よい -いく[変化]◇ゆく ☆○いたす[行為] ☆○いる[変化] ☆○うえ[母～][敬称] ☆○得る[状態] ☆○お- -おえる[変化] *おおせる[変化] ☆○おく[行為] *おさめ[変化] *おみ-[～足] ☆ -おる[変化] -おわり[変化] ☆ -おわる[変化] おん- -外[関係] ☆ -かかる[変化] -かけ[変化] ☆○かける[変化] ☆○かた, がた[複数] ☆○かた[考え～][状態] -がた[複数]◇かた ☆○型[状態] ○がたい[状態] -かたがた[その他] ○がち[状態] ×がてら[その他] ○かねる[読み～][状態]	*がましい[状態] ×がましき[状態] ☆○がる[行為] ☆○間[関係] ☆○ごみ[父～][敬称] ○級[状態] ☆○きる[変化] ○きれる[変化] -くさい [ボール～ たま][状態] ☆○くせ(に) [そう言っ た～][その他] ☆○くださる[行為] ☆ -くらい[その他] -ぐらい[その他]◇く らい ☆○くる[降り～][変化] *ぐるみ[その他] ☆○くれる[行為] ☆○君[敬称] ☆○ご- ☆ -こと [私～このたび][その他] ☆ -ごと [田～の月; 丸～ 食べる][その他] ☆ -ごとし[状態] *サー-[人名につく時, または全体を人名的 にする時] -させる [その他] ◇せ る ☆○-さま[敬称] ☆○-さん[敬称] ☆○-式[状態] *しな[変化] -じまい[変化] -じまう [変化] ◇ちま う	-じみる[変化] -しめる[使令][その 他] -じゃう[変化]◇ちゃう ☆○-じゅう[うち～][関係] ○状[状態] ○-すぎ[状態] ☆○-すぎる[遊び～][状 態] *ずく[その他] ☆○-ずつ[その他] ☆○-する[行為] ☆ -せる, させる[その他] ☆○-そう [あり～だ][状 態] *そこない[変化] *そこなう[変化] *損じ[変化] *損ずる[変化] ☆ -たい[その他] -たげる [＜テアゲル][行為] -たさ[その他] ☆○-だす[変化] ☆○-たち[複数] *だてら[その他] ○たまう[行為] -だらけ[状態] -たる [＜テヤル][行 為] ○ちまう, じまう [＜ テシマウ][変化] ☆○-ちゃう, じゃう [＜テ シマウ][変化] ☆○-ちゃん[敬称] ☆○-中[関係]	-ちゅう[＜トイウ][そ の他] -ついで[変化] ○-つくす[変化] *つけ[変化] *つける[習慣の意][変 化] *つづけ[変化] ☆ -つづける[変化] -づらい[状態] -づらさ[状態] -て[＜トイウ][その 他] *体[状態] ☆○-的[状態] ☆○-できる[状態] -てく [＜テユク][変 化] -てらっしゃる [＜テイ ラッシャル][変化] ☆○-てる [＜テイル][変 化] ☆○-等[複数] ○-どうし, どし[関係] *-どおし[変化] ☆○-とおす[変化] ○-とく [＜テオク][行 為] ☆ -ところ [言った～が 見られなかった, 言った～でだめだ]][その他] -どころ [それ～か, それ～の騒ぎでは ない][その他] -どし [関係] ◇どうし
--	---	---	--

注 20) 複合語の表は、標本使用度数が3以上の複合語だけについて調べたものであるから、すべての複合語について調べれば、この数はもっとふえるはずである。

*-どち[関係]	-はたす[変化]	*ミスター-	☆ -様[状態]
☆○-どの, どん[敬称] ³⁾	-はてる[変化]	*ミセス-	☆ -よう ⁵⁾ 「あり～は」[状態]
-とふ[<トイウ][その他]	*-はん[敬称]	☆ -みたい[状態]	× -よげ[状態]
☆○-ども[複数]	☆○-風[状態]	*-めかしい[状態]	-よさ[状態]
-とる[<テオル][変化]	☆○-ぶり[男]～[状態] ⁴⁾	*-めかす[行為]	☆○-ら[複数]
-どん[敬称]⇨どの	*-ぶる[行為]	-めく[変化]	☆○-らしい[春～陽気; 助動詞の「らしい」 は別][状態]
☆○-内[関係]	☆○-分[ひとり～][関係]	☆○-面[関係]	-らしさ[状態]
☆○-なさる[行為]	○-辺[関係]	☆○-もの[困ります～; 言 おう～なら; 言って みた～の; 言ってや った～を][その他]	-られる[その他]⇨れ る
*○-にくい[状態]	○-ほい[状態]	○-やがる[行為]	☆○-流[状態]
×-にくさ[状態]	☆ -ほど[程度の意; 「さ きほど」「のちほど」 などは別][その他]	☆○-やすい[状態]	☆ -れる[その他]
-ぬく[変化]	*まかり-[罷出る]	-やすさ[状態]	-連[複数]
☆ -はじまる[変化]	マダム-	☆○-ゆく, いく[変化]	
☆ -はじめ[変化]	*み-	☆○-よい, いい[状態]	
☆○-はじめる[変化]	○ミス-		

- 1) [変化]などは、接尾的要素の、意味による分類。
- 2) ダンマリってのは／人生ってえ戦場で
- 3) 見出しは「トノ」
- 4) 見出しは「フリ」
- 5) [状態]の「様」と同見出し

以上を整理すると、下の表のとおりである。

印の区分	語数	見出しとしての標本使用度数	複合語表に	複合語生産量
☆◎	20	50以上	あり	7以上
☆	18	50以上	なし	2～0
☆○	38	50以上	あり	6～3
○	16	49～7	あり	6～3
◎	0	49～7	あり	7以上
計	92	(複合語の表に出ているものの計は74)		

第一分冊の付属要素の表の分類に従って、これらの結果のうち、主な語形を次に示そう。

1 見出し語としての標本使用度数が50以上でありながら、複合語を形成しにくいもの。(☆印)

1. 接尾的要素 (*印をそえてかっ

この中に出した語は、複合語の調査の対象としなかったものだが、参考までに示した。)

[状態] 様[歯ブラシ～の] よう[あり～は] (みたい* ごとし*)

[変化] かかる はじまる はじめ つづける おわる おる

[その他] (たい* れる*/られる* せる*/させる*) ごと[田～の月, 丸～食べる]

(くらい*/ぐらい* ほど*[程度の意; 「さきほど」「のちほど」などは別) こと[私～このたび;

まあ大きい～] ところ*[言った～が見られなかった; 言った～でだめだ]

2 見出し語としての標本使用度数が50以上で、複合語の生産量が7種類以上のもの。(☆◎印)

1. 接頭的要素

おご

2. 接尾的要素

[敬称] さま さん ちゃん

〔複 数〕 たち かた／がた ら

〔関 係〕 中 間

〔状 態〕 的 式 そろ[あり～だ] かた[考え～] よい／いい 得る すぎる
〔遊び～〕

〔変 化〕 いる てる

〔行 為〕 する〔<研究～>などの。<愛する>、<信ずる>などはこれで1βだから別。〕

4.27 語種・品詞と複合語

(1) 語種と結合

2000 語調査によって、見出し語を語種別に整理すると表 4.11のとおりである。

表 4.11 複合語の語種別分布

	1 見 出 し 語	2 内,複合 する 語	3 複合率 ($\frac{2}{1}$)	4 異なり 複合数	5 見かけの生 産量($\frac{4}{1}$)	6 真の生産 量($\frac{4}{2}$)	これを通覧すると, 1 漢語の複合語生産 量が いちばん大き く, 以下和語, 外来 語, 混種語と続くこ と 2 複合語の生産量から
和 語	824	459	.56-	2258	2.74	4.92-	
漢 語	898	688	.77-	4789	5.33	6.97	
洋 語	178	114	.64-	267	1.50	2.34	
混種語	99	55	.56-	122	1.23	2.22	
記 号	1	0	.00	0	.00	.00	
計	2000	1316	-	7436	-	-	

ら言って、(1)漢語、(2)和語、(3)洋語および混種語の三類に区別されること^{注21)}(混種語と外来語との間に差が認められない。)

3 漢語は和語その他にくらべると、わりあいに満遍なく複合語を形成するが、和語、混種語などは、やや限られた語が複合語を形成すること

などの傾向が認められる。

(2) 品詞と結合

2000 語調査の結果によって、見出し語を品詞別に整理すると表 4.12のとおりである。

表 4.12 複合語の品詞別分布

	1 見出し語	2 内,複合 する 語	3 複合率 ($\frac{2}{1}$)	4 異なり 複合数	5 見かけの 生産量 ($\frac{4}{1}$)	6 真の生 産量 ($\frac{4}{2}$)
1. 名 詞 の 類	1568	1155	.74-	6084	3.88	5.27-
2. 動 詞 の 類	234	84	.36	917	3.92-	10.92-
3. 形 容 詞 の 類	185	78	.42	435	2.35	5.58-
4. 感 動 詞 の 類	12	0	.00	0	.00	.00
記 号	1	0	.00	0	.00	.00
計	2000	1317		7436		

注 21) 複合語の生産量の大きい、特定の見出し語について言えば、以上の傾向に反した現象も見られる。(たとえば<する>)。表 4.6 で明らかのように、複合語の表から集計した結果によれば、特定少数の和語群は、それだけで、きわめて多くの複合語を生産するが、漢語群は、それにくらべると生産量が格段に落ちる。

感動詞の類（陳述の副詞・接続詞・感動詞など）は、複合語を形成しない。それ以外の三類では、名詞の類と動詞の類との間では、見かけの複合語生産量に差がまったく認められず、両者と形容詞の類との間に、少しく差を認める。

しかしながら、複合する見出し語だけを取り出して、真の複合語生産量の平均を調べると、動詞の類が抜群の値を示し、形容詞の類と名詞の類との順位が入れかわる。2000語調査のばあい、名詞の類と結合する 匹名・匹名、匹名などは、一括しないでなまの形でかぞえてあるから、もし、これらをまとめて数えるとすれば、名詞の類の複合語数は一段と少なくなって形容詞の類との差ははっきりするはずである。

品詞によって真の複合語生産量が大きく開いた事情としては、次のような諸点が考えられる。

1 名詞の類と動詞の類との間で真の複合語生産量が大きく開いた事情としては、

(1) 動詞の類では、複合語を形成することばが名詞の類よりは限られている。裏返して言えば、名詞の類は、わりあい満遍なく複合語を形成しやすいが、動詞の類はそうでない。一方、動詞の類が複合するときは複合動詞を作りやすい傾向が見られるが、これは、われわれの定めた付属要素の表の中に、複合して動詞となりうるものが多い、という条件もきいていられると思われる。

(2) われわれの調査上の約束で、「研究する」「スケッチする」などの複合サ変動詞は、 2β という認め方をした（「罪する」「信ずる」などは 1β と認めた）。そのため、「する」を見出しとする、非常に多くの複合語があらわれた。同様に、「される」の複合語も多くなった。2000語調査の結果によれば、「される」は544種の複合語を生産しており、これは、「される」を除いてかぞえた、複合語7種類以上を生産する見出し語12語の平均生産量200種をはるかに上廻っている。

2 名詞の類とその他の類との間で複合語の真の生産量の順位が入れかわった事情としては、たとえば「的」などのように、複合語生産量の大きい付属要素が含まれていることなどが考えられる。2000語調査では、「的」は調べなかったが、「大」は調べた。その結果によれば「大」は157種の複合語を生産しており、これは、「大」を除いてかぞえた、複合語7種類以上を生産する見出し語11語の平均生産量15.3種をはるかに上廻っている。

3 そこへ行くと、名詞の類には、そのような特殊事情が少ないようである。2000語調査の結果によれば、複合語生産量7種類以上の見出し語は189語。この中、最高の生産量を示すものは、「君(くん)」の141種で、以下、100種以上のものとしては、「会」の120種、「生活」の108種、

表 4.13 複合語の語種別・品詞別分布

語種 \ 品詞	名詞類	動詞類	形容詞類	感動詞類	平均	計(実数)
和語	3.65	11.52	2.68	-	4.92	4789
漢語	6.84	-	9.20	-	6.96	2258
外来語	2.36	-	1.50	-	2.34	267
混種語	2.25	1.40	-	-	2.18	122
平均	5.27	10.92	5.58	-	-	-
計(実数)	6084	917	435	-	-	7486

「等(とう)」の104種がこれに続くにすぎない。

(3) 語種別・品詞別に見た結合
最後に、語種別・品詞別に分けて、複合語の真の生産量を調べると表

4.13 のとおりである。

これによれば、漢語・名詞、和語・動詞、漢語・形容詞類の組み合わせにおける複合語の生産量が圧倒的に大きく、それ以外の組み合わせでの生産量はそれほど目立たない。中でも、次の組み合わせの場合は、複合語の生産量がまったく認められなかった。

1. 動詞類の中で、漢語、外来語に属する見出し語
2. 形容詞類の中で、混種語に属する見出し語
3. 感動詞類の中で、和語、漢語、外来語、混種語(つまり、全語種)に属する見出し語

なお、複合語生産量の比較的小さい組み合わせは、混種語・動詞類と、外来語・形容詞類の二つである。混種語の動詞類とは、たとえば「信ずる」である。「信ずる」から生産された複合語とは、たとえば「信じかねる」のようなものである。また、外来語の形容詞類とは、たとえば「スマート」である。「スマート」から生産された複合語とは、たとえば「スマート過ぎる」のようなものである。

4.28 人名・地名と複合語

2000語調査の結果にもとづき、人名・地名だけを取り出して、いろいろの観点から分析してみる。

表 4.14 人名・地名の含有率

見出し語の使用度数	人名・地名の含有率 (%)	人名・地名の総数
1	30.5	5510
2	26.5	1746
3	22.5	782
4	22.0	481
5	19.0	273
6	15.5	160
7~	14.5	333
11~	10.5	179
18~	6.0	110
50~	0.5	6
計	—	9580

表 4.15 人名・地名、それ以外の語の結合率(%)

標使用度数	人名・地名	人名・地名以外
1	68.9	33.1
2	64.2	36.7
3	77.8	47.1
4	81.8	63.5
5	84.2	61.7
6	74.2	65.1
7~	96.6	70.8
11~	95.2	68.2
18~	100.0	83.0
50~	100.0	86.9
平均	71.8	48.1

(1) 人名・地名の含有率

見出し語の中に、人名・地名が何%含まれているかを、見出し語の標本使用度数別に調べてみると、表 4.14 のとおりで、使用度数の少ない見出し語の集団ほど、人名・地名の含有率が多くなる。裏返して言えば、限られた少数の人名・地名がよく使われるという傾向で、この傾向は一般の用語よりもいちじるしい。参考までに、使用度数 50 以上の階級に属する見出し語に含まれる人名・地名とは、「佐藤」の一語であった。「佐藤」の中で最も出現回数が大きかった複合語は「佐藤一」(松川事件の)で、出現回数は 9 回であった。

(2) 人名・地名の結合率は高い

1 人名・地名が結合して複合語を形成する率はそれ以外の一般の用語のそれに比べ、すべての階級でいちじるしく高い(表 4.15)。その上
2 標本使用度数が 7 以上の階級では、ほとんど、またはすべての見出し語が複合語を形成しているが、一般用語の方ではこのようなことはみられない。
以上の二点は、人名・地名と一般用語との間に見られるいちじるしい相違点である。

(3) 人名・地名の複合語生産量

人名・地名の複合語生産量を、一般用語の場合と対比してあげると表 4.16 のとおりである。見かけ

の生産量は常に人名・地名の方が一般用語の生産量を上回っている。しかし、生産された複合語の総数を取り上げて、一見出しあたりの平均生産量に換算してみると(表 4.17), 逆に一般用語の複合語生産量の方が人名・地名のそれを上回ってしまう。これは一見奇妙なようであるが、人名・地名に属する見出しが、使用度数の大きい階級で極端に少なくなっているために、総体としてはせつかくの生産量の大きさがきいてこないことを考えれば、なっとくが行くであろう。

表 4.16 人名・地名の複合語生産量

標本使用 度数	見かけの生産量		真の生産量	
	人名・地名	それ以外	人名・地名	それ以外
1	0.69	0.33	1.00	1.00
2	0.79	0.46	1.24	1.26
3	1.22	0.75	1.57	1.59
4	1.50	1.17	1.83	1.85
5	1.79	1.33	2.13	2.15
6	1.97	1.56	2.65	2.40
7~	3.38	2.23	3.50	3.15
11~	4.00	2.34	4.20	4.17
18~	7.75	5.80	7.75	6.99
50~	26.00	19.74	26.00	22.71

また、表 4.16 で、見かけの生産量で両者の間に差が見られるにもかかわらず、真の生産量で差が見られなくなるのは、真の生産量を計算するときの分母となる結合率(表 4.15 参照)と、分子(見かけの生産量)との関係がまったく同じ傾向を示しているからである。(人名・地名とそれ以外とを合併したときの真の生産量は、表 4.4 のとおりで、表 4.16 の値とほとんど一致する。)

参考までに、2,000 語調査の結果から推定した人名・地名の総数その他を表示しておこう(表 4.17)。

表 4.17 人名・地名の総数(推定)その他

	1 見出し語総数	2 複合する単位 語	3 結 合 率 ($\frac{2}{1}$)(%)	4 複合語の総数 (異なり)	5 見かけの生産 量 ($\frac{4}{1}$)	6 真の生産量 ($\frac{4}{2}$)
人 名・地 名	9580*	6875	71.8	10512	1.10	1.53
そ れ 以 外	30350	14633	48.1	56969	1.87	3.89
計	39930	21508	—	67481	1.7	3.7
平 均	—	—	50.4	—	—	—

* 実際に 4 万語について調べた結果 9599 であった(表 2.4)。

なお、以上の記述は全部異なり語数についてのそれであった。延べ語数については、またちがった模様が予想されるのであるが、今はふれる余裕が全くなかった。

第3表 複合語の表

前書き

00 この表は、このたびの調査で得たすべての見出し語(40016)の中、始めから三分の二(見出し32000)の範囲にあって複合語を構成するもの、の一覧表(抜き書き)である。

01 この表を作成するために調べた見出し語の範囲は次の通りである。

1) サンプル全体の始め三分の二にあらわれたすべての見出し語から大部分の人名、地名、数字を除いた全部。

識別の便宜のため、このたびの調査のための標本全体で使用度数が7未満である見出し語の頭には*印を付けた。

[注意] *印以外の見出し語は、標本使用度数が7以上のものであって、それらはすべて第一分冊の語彙表に収録されている。使用率、使用順位などの詳細は同書について見られたい。

02 この表におさめた複合語は、複合語としての使用度数が3以上であるものに限った。この中、複合語としての使用度数が7以上であるものの数字はゴチャックで示した。

1 排列は、複合語を構成する見出し語の五十音順である。

1) 見出し語が前(まへ)要素に立つばあい、ハイフンを添える。

例 悪化-する

2) 見出し語が後(あと)要素に立つばあいは、まず見出し語をかかけ、次に複合した形を示す。その際、後要素は～で示す。

例 祝い お～

3) 複合した形が二種以上あるときは、次のようにして示す。

例1 相	例2 致す
～接する	お願い～
～次ぐ	文通～
～俟つ	

4) 見出し語が前要素にも後要素にも立つばあいは、まず見出し語をかかけ、次に複合した形を示す。その際、見出し語はすべて～で示す。

例 違反
～する
憲法～

5) 動詞などの複合語で、見出しの形が二種以上にわたるばあいは、まず見出し語を終止形でかかけ、次に各活用形ごとにまとめて示す。

例1 言う	例2 安い
言い-方	安-過ぎる

～切れる
～出す
言っ-てる

2 同音語の排列は次の原則に従う。

- 1) 和語→漢語→外来語
- 2) 接辞(接頭辞→接尾辞)→それ以外
- 3) 名詞→動詞→形容詞→副詞→その他
名詞には形容動詞の語幹その他の無活用語をふくめる。
- 4) 漢字の画数の少ないもの→多いもの
- 5) 同音同字の別語については、見出しの右肩に¹,²の数字をつける。(たとえば「本」(ほん)を見よ)

3 表記は、原文のそれに従い、まま統一した。

- 1) かなで表記してある語は、かなのまま。必要に応じて意味を示すための漢字を[]の中に示す。
- 2) ひらがなと かなと二種の表記があるばあいは、和語・漢語はひらがなの方に、洋語はかなの方に従う。
- 3) 漢字の表記と かなの表記とがあるばあいは、漢字の表記に従う。

- 4) 漢字の表記が二種以上あるばあいは、普通の用法と考えられるものに従う。
- 5) 送りがなに二種以上あるときは、新しい送りがなと一致する方に従う。どちらも一致しない時は、担当者の判断による。

4 理解の便を助けるため、(), []の中に簡単な注を入れた。

- 1) 動詞の連用形で、名詞とまぎれやすいものについては、(動)を入れた。
例 御(お)
～願い(名)「お願いがあります」などの
～願い(動)「出席をお願いする」などの
- 2) 漢字の読み方は()の中に、意味を示すための漢字は[]の中に示した。

例1 幾	例2 居る
～度(たび)	てる
～度(ど)	つい(付)～

5 複合の相手方が人名、地名、数字、ローマ字、記号のばあいは、区名、町名、数字、ローマ字、記号として一括し、いちいちの形は示さなかった。たとえば、

- 1) 君 区名～
は、青木君、正雄君、青木正雄君などのいろいろの複合語をまとめたものである。
- 2) 県 町名～
は、青森県、埼玉県、宮崎県などのいろいろの複合語をまとめたものである。
- 3) 数字のばあいは、

イチ, ニ, サン……
ヒトツ, フタツ, ミツツ……
ヒト, フタ, ミ……

を一括して扱った。

したがって、

組 数字～

は、イチクミ, ヒトクミ, ニクミ, フタクミ, ニサ
ンクミ, などのいろいろの複合語をふくむことを了
承されたい。

- 4) ヒトリ, フタリ, …… ; ツツカ, ミッカ, ……
などは数字扱いをしない。

例 頃

数字-日～(十一にちごろ, 二十五にちご
ろ など)

二十日～(はつかごろ)

また、イク(幾), スウ(数), ナン(何), スウジュ
ウ(数十), ナンゼン(何千)なども数字扱いをしない。

- 5) 人名・地名の一部は、見出しに出した。

例 平家-物語 ; 大理-石, 太平-洋

- 6) 人名, 地名, 数字以外でも、必要に応じ、まとめた
部分を○○であらわしたものがある。

例 違反

憲法～

○○-法～(「為替管理法～」, 「道路交通
法～」などをふくむことを示す。)

- 7) β単位の語構成の規定上、常識とくいちがう複合語
については、随時、相互参照ができるように注記し
た。

例1 長

例2 課長

○○-所～

区名～

[⇒所長も見よ]

[⇒長も見よ]

この複合語表にあらわれる「所長」は区名-所長, 所
長-夫人などのばあいに限られる。

読者の便宜のために、このような結合の型に属する
若干の語に限り、相互参照をさせることにした。

- 8) この表にのせた複合語は、二つの見出しが結合した
形をのせることを原則とした。

従って、複合語「原子力」は、「原子力」単独のばあ
いのほか、「原子力研究」「欧州原子力共同利用機関」な
ど、複雑な複合語をいろいろふくんでいることを了承
されたい。同様にして、「自転車」については、「自転
車操業」「自動自転車」などの複合語をふくみうるも
のである。

ただし、

赤-葡萄酒(見出し「赤」のところで)

愛育-研究所(見出し「愛育」のところで)

などのように、全体をあげた方がわかりやすいばあ
いは、例外としてそうした。

- 9) 使用度数は、各要素お互いの間でくいちがうこと
のないよう気をつけたが、次の場合は、くいちがっても
やむを得ない。

(1) 一方が調査対象外の場合

(2) 一次結合のしかたが結合要素によってかわる場合
(たとえば、

線 中央～[裁縫の場合 9]

中央 ～線[裁縫の場合 2]

とあるのは、「後中央線」「前中央線」などの取り扱
いが、見出し「線」と見出し「中央」との間で異なるか
らである。)

- 10) 「輸出入」の「入」の部分は、意味上は「輸入」である。
この表では見出し「入」の所で〔 〕の中に見出しとして
の取り扱い語形〔輸入〕を示し、複合語「輸出～」をあげ
ることにした。

相-接する	3	アフリカ	3	～出す	3	違反	
～次ぐ	8	アジア～-○○	4	言っ-てる	21	～する	5
～成る	3	北～	6	家 お～	5	憲法～	3
～俟つ	4	余り 匱乏-年～	3	医学 匱乏～	3	○○-法～	3
* 愛育-研究-所	3	編		息 匱乏～	4	意味	
挨拶	7	機械～	7	意義 有～	4	～する	3
～する	8	交叉～	3	生きる 生き-方	11	無～	4
御～	5	引返し～	21	幾		妹-さん	3
愛し-あう	3	模様～	20	～度(たび)	4	依頼-する	4
* 愛染-かつら	3	* 阿弥陀-仏	3	～度(ど)	13	医療-費	3
相手		編む 編み-方	23	～人	5	居る	
～方	3	アラブ-世界	4	行く⇄ゆく		居-やがる	3
お～	3	ある[有・在]		池 匱乏～	3	言っ-てる	21
愛読-者	4	あり-得る	8	意見 御～	4	書い～	4
会・合う		～方	10	移行-する	3	考え～	3
お-会い	3	～そう	9	意思 自由～	3	来～	5
愛し-合う	3	歩き-出す	18	維持-する	10	きまっ～	3
語り～	8	アルミ		意識		し～	51
し～	11	匱乏～	3	～する	10	知っ～	10
抱き～	5	裕-長着	3	～的	6	つい[付]～	3
話し～	5	案		無～	11	寝～	4
赤		○○-法～	8	遺失-物	8	待っ～	5
～葡萄-酒	3	法律～	4	医者 お～	4	見～	9
～ちゃん	18	暗殺-計画	3	移住-する	3	持っ～	3
アカデミー-賞	3	暗示-する	4	衣裳-哲学	3	やっ～	6
秋-場所	5	安心-する	14	いせこみ-分[裁]	4	行っ～	3
悪化-する	3	安静-度	3	忙しい お～	3	読ん～[てる]	4
旭-化成[朝日と見出し]	3	安全-保障	4	* 依存-する	3	色-よい	4
朝日-新聞	5	安打 匱乏～	5	* 医大 匱乏～	3	祝い お～	3
足 匱乏～	4	安定		委託-する	3	* 因 匱乏～	3
葦-会	8	～する	10	致す		院	
アジア		～性	3	お-願い～	4	学習～	6
～アフリカ-○○	4	～的	5	文通～	5	参議～	11
東南～	8	～配当	4	お-待ち～	4	衆議～	3
あたり[辺] 匱乏～	11	不～	5	市 見本～	3	宝蔵～	3
当り		* 居-酒屋	5	一時-的	4	員	
反～	5	位 匱乏～	31	一部-改正	14	会社～	4
トン～	3	医 主治～	3	* 胃腸-病	3	組合～	4
ポンド～	8	* 委 予算～	3	* 一覽-表	3	公務～	4
* 圧-呼吸	3	いい⇄よい		一墨-手	8	事務～	8
扱う 扱い-方	6	委員		一昨-年	13	従業～	5
圧倒-的	9	～会	10	一所・一生-懸命	10	○○-所～	4
圧迫		～長	4	一致-する	11	○○-隊～[「隊員」 第一分冊にあり]	3
～される	3	教育～	4	一般		乗組～	3
～する	4	審査～	3	～会計	3	販売～	5
あなた		文教～	3	～的	12	* 員外-利用	3
～方	9	言・云う		～むき	5	印象	
～たち	6	云い-得る	3	* 一変-する	4	～的	4
兄-弟子	3	～方	12	遺伝-学	3	～派	5
* アフガン		～難(がた)い	4	糸 配色-	11	インチ 匱乏～	13
プレーン～	3	～切れる	4	移動-する	3	引用-する	4

上 父～	7	重 <small>（え）</small> 数学～	7	～ <small>（人名）</small>	153	～上手	3
* 植木-屋	4	映画		～数学	3	～食事	4
ウエスト-寸法	3	～化	15	～会 <small>（動）</small>	3	～知らせ <small>（動）</small>	3
伺い 御～	5	～界	13	～相手	3	～尻	7
* 浮草-日記	3	～会社	4	～あり <small>（有）</small> <small>（動）</small>	3	～好き <small>（名）</small>	6
後		～館	10	～家	5	～すすめ <small>（動）</small>	7
～衿ぐり	5	～出演	3	～医者	5	～すまい <small>（名）</small>	3
～スカート	8	～スター	4	～忙しい	3	～相撲	3
～中央 <small>〔我〕</small>	31	～俳優	4	～祝	3	～世辞	6
～中心 <small>〔我〕</small>	4	匿名～	18	～伺 <small>（動）</small>	5	～世話	7
～身返し <small>〔我〕</small>	4	合作～	3	～家 <small>〔うち〕</small>	10	～膳	3
～身頃 <small>〔我〕</small>	58	影響-する	7	～選び <small>（動）</small>	4	～粗末	4
～脇丈 <small>〔我〕</small>	4	営業		～送り <small>（動）</small>	3	～互	26
右打 右投～	8	～収入	4	～母-様	8	～宅	18
歌う 歌い-方	3	～税	4	～母-さん	36	～訪ね <small>（動）</small>	3
疑い-ない	4	衛星 人工～	7	～母-ちゃん	9	～便り <small>（名）</small>	20
うたごえ-運動	3	永続-性	3	～帰り <small>（動）</small>	4	～父-上	4
家 <small>〔うち〕</small> お～	10	栄養-士	3	～かけ <small>（動）</small>	3	～茶	11
打つ 打ち-方	3	駅 匿名～	34	～菓子	3	～次	3
打合せ		* 易者-さん	3	～方	5	～つきあい	4
～する	3	会釈-する	3	～金	31	～作り	3
～分 <small>〔我〕</small>	3	選ぶ お-選び	4	～内儀	16	～勤め <small>（名）</small>	3
前～ <small>〔我〕</small>	5	衿割 後～ <small>〔我〕</small>	5	～上	4	～勤め <small>（動）</small>	3
腕 時計	4	衿付-止り <small>〔我〕</small>	13	～考え	3	～強い	3
右投-右打	8	得る		～聞き <small>（動）</small>	4	～手	3
生れ 匿名～	9	あり～	8	～気の毒	5	～出かけ	4
浦 匿名～	6	云い～	3	～客	39	～手紙	10
裏		し～	23	～国	3	～手々	3
～見返し <small>〔我〕</small>	4	堪え～	3	～車	3	～寺	3
～身頃 <small>〔我〕</small>	5	なし～	3	～くれ <small>〔呉〕</small> <small>（動）</small>	4	～転婆-娘	4
売り 現金～	3	なり <small>〔成爲〕</small> ～	3	～化粧	3	～父-様	4
売上げ-高	23	持ち～	4	～子	3	～父-さん	22
得る⇔える		忘れ～	3	～子-様	3	～父-ちゃん	3
嬉し-そう	6	円 <small>〔おかねの〕</small> 数学～	529	～声	4	～得意	6
上手-投	9	園		～心	4	～年玉	4
運-よく	3	甲子～	7	～答え <small>（動）</small>	3	～隣り	3
運河 匿名～	9	後楽～	4	～小遣	3	～供	4
運転		動物～	5	～魚	3	～友達	8
～資金	4	幼稚～	10	～酒	6	～なじみ	3
～手	5	演技-力	3	～座敷	4	～兄-様	4
～免許	3	園芸-部	3	～猿	3	～兄-さん	3
運動		演出-家	3	～じい-さん	8	～主	8
～会	4	援助 経済～	5	～辞儀	7	～姉-様	3
～場	4	演奏		～仕事	4	～願 <small>い</small> <small>（名）</small>	12
～する	3	～家	4	～しっこ	3	～願 <small>い</small> <small>（動）</small>	13
うたごえ～	3	～会	5	～しま <small>い</small> <small>（名）</small>	3	～婆-さん	11
解放～	3	～される	5	～喋り <small>（名）</small>	3	～ばあ-ちゃん	3
独立～	4	～する	4	～しゃれ	12	～入り <small>（動）</small>	3
平和～	4	延長-する	20	～嬢-様	5	～話 <small>（名）</small>	25
運輸-省	3	遠慮-する	7	～嬢-さん	17	～話 <small>し</small> <small>（動）</small>	12
運用 資金～	3	御		～正月	12	～二人	5

~風呂〔御 続き〕 6
 ~部屋 3
 ~返事 3
 ~まかせ〔動〕 3
 ~待ち〔動〕 20
 ~見合 3
 ~店 7
 ~目 7
 ~召し〔動〕 3
 ~目出度い〔~目出 度 2〕 5
 ~持ち〔動〕 3
 ~休み〔名〕 5
 ~湯 6
 ~許し〔動〕 5
 ~嫁 8
 ~料理 9
 ~礼 10
 ~わかり〔動〕 5
 ~別れ〔動〕 6
 ~梳 6
 王様 4
 * 翁 〔名〕 5
 応援-団 3
 * おう歌-する 3
 * 横隊-する 3
 欧州-〇〇-共同-体 3
 応接-間 5
 応募-する 4
 応用
 ~型〔がた〕 3
 ~する 3
 大
 ~御所 3
 ~手合〔あい〕 3
 多い
 多-過ぎる 9
 数~ 7
 大蔵
 ~省 8
 ~大臣 3
 オーバー-プリン
 ト〔切手の〕 3
 * 大宮-御所 3
 * 大本-教 3
 置く
 し-とく 8
 抛〔ほ〕っ~ 3
 奥
 ~様 15
 ~さん 42
 ~深い 3

見返し~〔表〕 7
 送る お-送り 3
 おくれ 時代~ 3
 起し-易い 4
 伯父・叔父-さん 13
 和尚 〔名〕 3
 落〔おち〕 権利~ 5
 * お転婆-娘 4
 弟-さん 3
 男-達 9
 大人-達 3
 踊り〔名〕 〔名〕 4
 踊る 踊り-始める 3
 叔母・小母-さん 16
 おば-ちゃん〔おば〕は 上と同じ見出し〕 4
 お前-さん 18
 * お巡り-さん 3
 面白-そう 4
 表-身頃〔表〕 3
 親分 〔名〕 5
 折返し-分〔表〕 6
 織物 毛~ 9
 折山-線〔表〕 10
 オリンピック 〔名〕 3
 ~ 3
 俺-たち 3
 音 〔名〕 6
 音楽
 ~家 5
 ~会 3
 ~祭 3
 クラシック~ 3
 オンズ 〔名〕 15
 温泉 〔名〕 14
 女-たち 15
 下 支配~ 3
 化
 映画~ 15
 企業~ 3
 近代~ 3
 具体~ 3
 工業~ 5
 合理~ 26
 社会~ 3
 不良~ 3
 価 原子~ 4
 科 初等~ 3
 * 架 十字~ 5
 家 演出~ 3

演奏~ 4
 音楽~ 5
 芸術~ 6
 研究~ 4
 作曲~ 7
 実業~ 6
 資本~ 4
 写真~ 3
 小説~ 13
 政治~ 11
 専門~ 19
 投資~ 3
 美術~ 4
 批評~ 8
 評論~ 17
 歌 流行~ 7
 課 〔名〕 3
 画
 〔名〕 8
 銅版~ 3
 母〔かあ〕
 お~様 8
 母-さん 5
 お~-さん 36
 お~ちゃん 9
 会
 葦~ 8
 委員~ 35
 運動~ 4
 演奏~ 5
 音楽~ 3
 〇〇-学~ 〔「学会」 第一分冊にあり〕 7
 歓迎~ 3
 競技~ 3
 後援~ 3
 懇談~ 5
 座談~ 10
 審議~ 3
 政友~ 5
 展覽~ 5
 発表~ 3
 理事~ 9
 連合~ 5
 回
 〔名〕 229
 数~ 4
 何~ 7
 界
 映画~ 13
 歌謡~ 4
 〇〇-業~ 〔「業界」

第一分冊にあり〕 4
 海 〔名〕 12
 階 〔名〕 47
 外貨-予算 3
 海外-投資 5
 改革 農地~ 4
 海岸 〔名〕 7
 会議
 〔名〕 3
 外相~ 3
 軍法~ 3
 国際~ 5
 国防~ 4
 本~ 3
 海軍-省 4
 会計 一般~ 4
 解決
 ~される 4
 ~する 21
 会見 記者~ 4
 外国
 ~語 4
 ~人 8
 開催-する 4
 * 改札-口 3
 開始-する 4
 会社
 ~員 4
 映画~ 4
 株式~ 14
 鉄鋼~ 4
 解釈-する 4
 外出-着 10
 解消-する 3
 外相
 ~会議 3
 〔名〕 3
 * 外食-券 3
 * 海水-浴 3
 回数-券 6
 改正
 ~する 5
 一部~〔法律〕 14
 憲法~ 3
 〇〇-法~ 3
 解説-する 5
 開拓-する 4
 会議
 〔名〕 4
 〔名〕 5
 * 害虫 病~ 3

会長 副～	3	線入～	4	匿名～〔宛て名の〕	9	* 割愛-する	3
回転-する	4	投資～	3	相手～	3	がっかり-する	7
会堂 公～	8	統制～	6	扱い(動)～	6	合作	
街頭-録音	3	画期-的	10	あなた～〔がた〕	9	～映画	3
該当-する	3	学校		編み(動)～	24	匿名～〔日伊～など〕	3
回復-する	10	高等～	3	在り(動)～	10	* 合衆-国	3
解放		女～	7	言い(動)～	13	合唱	
～運動	3	洋裁～	4	生き(動)～	12	～する	3
～される	5	学習-院	6	歌い(動)～	3	～団	6
～する	3	確信-する	5	打ち(動)～	3	* 合掌-する	3
* 解剖-学	3	革新-政党	3	お～	5	活動	
外務		学生		置き(動)～	3	～する	3
～省	13	～時代	4	考え(動)～	41	～力	3
～大臣	5	～生活	3	匿名-さま〔様〕～〔複数〕	8	創作～	3
買物-する	3	～たち	3	の	8	活躍	
外野-手	13	～服	3	匿名-さん～〔複数〕	4	～する	10
海洋-気象	3	女～	7	仕(動)～	14	大～	3
返す お-返し	3	拡大-する	9	仕立(動)～	3	活用-する	6
帰る お-帰り	4	拡張		先生～〔複数〕	3	* かつら〔桂〕 愛染～	3
顔-中	3	～計画	3	裁ち(動)～	24	家庭	
化学		～する	3	裁ち合せ(動)～	3	～裁判-所	5
～製品	3	獲得-する	6	食べ(動)～	4	～生活	6
～繊維	3	確認-する	3	使い(動)～	6	～的	4
～療法	4	確保-する	6	作り(動)～	43	金 お～	30
生～	3	革命 匿名～	3	つけ〔付〕(動)～	4	兼ねる	
科学		学問-的	3	縫い(動)～	23	たまり～	3
～者	4	確立-する	5	見(動)～	22	なり～	3
～捜査	4	かける〔掛〕 お-かけ	3	持ち(動)～	5	カ年 匿名～	14
～的	8	歌劇 匿名～	3	やり(動)～	19	可能	
書く		筒劇		行き(動)～	11	～性	14
書いて-る	4	匿名～	83	呼び(動)～	3	不～	10
限り-ない	5	数～	3	笑い(動)～	3	彼女	
各-科目	3	何～	4	型		～たち	11
角		加減		ロ-マ字～	6	～ら	5
匿名-センチ～	8	いい～	3	応用～	3	カバー-する	3
匿名-cm～	3	水～	3	○-字～〔「人」字； くの字～など〕	4	株	
核 原子～	8	加工-する	3	雌い		匿名～	25
学		カ国 匿名～	11	言い～	4	資産～	3
遺伝～	4	佳作 選外～	4	し～	7	仕手～	7
解剖～	3	* 下士-官	3	耐え～	3	低位～	4
経済～	12	菓子 お～	3	忘れ～	4	当社～	12
考古～	3	貸付-金	3	塊り 匿名～	3	歌舞伎-座	3
心理～	3	カ所 匿名～	12	* 肩山-線	3	* 下腹-部	3
推計～	4	* カ条 匿名～	4	語る 語り-合う	8	株式-会社	15
生物～	7	過剰 生産～	4	* 加担-する	3	我慢-する	9
物理～	6	頭 若者～	3	価値 担保～	3	上	
歴史～	7	数-多い	7	勝〔かち〕	3	～半期	3
楽		* 下垂-体〔脳～体の〕	3	し～	3	お～	4
管絃～	5	化成 旭～	3	なり～	4	内儀〔かみ〕 お～	16
交響～	13	方		課長⇨長を見よ		紳-様	12
額		～達〔若い方達 など〕	4	月 匿名～	593	* 科目 各～	3

歌謡				記 風土～	4	帰国-する	6
～界	4	* 元-年	4	基 匱字～	3	記者	
～曲	4	眼 匱字～〔一限レフ などの〕	7	期		～会見	4
カラー イーストマ ン～	3	考える		匱字～	22	匱字～	3
* 鴉 次男-坊～	3	考え-方	41	匱字-月～	56	新聞～	16
身体-中	4	～てる	3	決算～	3	技術	
空手-チョップ	3	～なおす	3	四半～	6	～陣	3
* 搦み 匱字-円～	3	お-考え	4	思春～	4	～的	5
借入-金	6	管轄-権	3	農繁～	5	気象 海洋～	3
がる		関係		播種～	3	* 既製-服	3
○○-た～〔行き～ など〕	7	～者	7	貴-金属	3	汽船 匱字～	3
懐し～	3	～上	7	機・器		規則 施行～	6
欲し～	4	～する	8	匱字～	19	北-匱字	14
彼		匱字～	3	航空～	9	期待	
～氏	7	相関～	3	呼吸～〔器〕	5	～される	16
～等	78	無～	3	抄紙～	6	～する	27
川 匱字～	38	歓迎		洗濯～	11	～できる	5
皮-算用	3	～会	3	戦闘～	4	* 帰宅-する	4
側(がわ)		～される	5	扇風～	4	* 木賃-宿	4
匱字～	3	* 管絃-楽	5	爆撃～	3	喫茶-店	14
匱字～	31	* 還元-する	3	飛行～	26	* 詰問-する	3
反対～	4	看護-婦	20	匱字-目～〔編物〕〔百 六十目機 など〕	3	規定-する	6
為替-管理	3	関西-地方	3	旅客～	5	* 企図-する	3
変り-ない	3	観察-する	6	着(ぎ) 外出～	10	軌道 無～	6
官		幹事-長	3	義 匱字～	3	記念	
下士～	3	感謝-する	7	機械		～撮影	3
裁判～	7	患者 ○○-病～	3	～編	7	～する	8
指揮～	3	感心-する	13	～工業	3	気の毒 お～	5
司令～	12	関心 無～	3	～設備	3	* 揮発-油	3
巻 匱字～	16	完成		企画-する	3	規模 大～	5
貫 匱字～	34	～する	16	機関		希望	
間		未～	4	～誌	3	～する	7
匱字-カ月～	6	完全-犯罪	5	金融～	3	御～	3
匱字-期～	3	観測 地球～年	4	研究～	3	基本的	7
国際～	3	艦隊 匱字～	4	原子-力～	3	きまる きまっ-てる	3
十日(とおか)～	6	* 勘違い-する	3	* 機器-局〔江南～局〕	3	君-達	5
匱字-年～	72	関東〔日本の〕 全～	3	* 聞き〔名〕 ご-用～	4	気味 不～	7
匱字-分〔ぶん〕～	10	* 関東〔澁州の〕-軍	3	棄却-する	4	客 お～	39
三日〔みつか〕～	5	* 敢闘-賞	3	帰京-する	4	客観-的	4
四日〔よつか〕～	4	監督		企業		* 逆行-する	3
感		～する	4	～化	3	* 逆説-的	3
幸福～	3	匱字～	65	～経営	3	逆転-する	3
劣等～	8	助～	9	系統～	3	* 義勇-軍	3
館		* 勘忍-する	4	公共～	3	旧-財閥	3
映画～	10	* 貫目 匱字～	4	中-小～	18	球 匱字～	9
講道～	4	* 陥落-させる	3	大～	5	級	
大使～	6	管理		聞く お-聞き	3	匱字～	5
図書～	3	為替～	4	機嫌		□-マ字～	4
美術～	4	物品～	4	御～	6	牛 匱字～	3
匱字-流～	3	完了-する	6	不～	3	吸収-する	5
		関連-する	4	機構 行政～	3	球場 匱字～	4
		緩和-する	3				

救世		脅迫-状	3	寄附～	3	【数字】～	20
～軍	3	興味		契約～	3	万字～	3
～主	3	～ある	3	資本～	33	組合	
*急増-する	3	～深い	9	準備～	3	～員	3
寄与-する	4	協力-する	14	積立～	7	労働～	10
器用 不～	3	共和		身代(みのしろ)～	3	暮らし 【数字】-人～	3
卿 【人名】～	3	～国	5	利益～	7	クラシック-音楽	3
鏡 望遠～	3	～党	3	菌 放線～	3	グラム 【数字】～	13
行 【数字】～	7	漁獲-高	3	緊急-輸入	3	繰入 準備-金～	3
業		漁業		銀行		グループ 【人名】～	3
小売～	3	～交渉	5	～預金	3	来る	
水産～	5	【人名】～	4	【人名】～	3	来-ちゃう	5
倉庫～	4	大洋～	3	【地名】～	5	～てる	5
教育		北洋～	3	信託～	5	車 お～	3
～委員	4	曲		相互～	3	呉れる	
～行政	5	【数字】～	7	金属		呉れ-給え	4
～的	4	歌謡～	4	貴～	3	お-呉れ	4
共演-する	4	協奏～	7	非鉄～	3	苦勞	
教科-書	4	交響～	3	近代		～する	16
競技-会	3	局		～化	3	御～	4
供給-する	5	【人名】～	5	～的	5	君	
共済 農業～	4	【数字】～	8	～文学	5	【人名】～	115
共産		機器～〔江南機器～〕	3	緊張-する	7	【ローマ字】～	7
～圏	4	事務～	10	*金ドル-準備	4	軍	
～主義	9	振興～	5	勤務-時間	3	【地名】～	36
～党	31	放送～	6	金融-機関	3	【数字】～	3
行事 年中～	4	郵便～	4	句 【数字】～	4	義勇～	3
教室 暴力～	3	局長⇨長を見よ		区		救世～	3
教授		*極洋-捕鯨	3	【地名】～	62	巨人～	4
【人名】～	14	巨人-軍	4	【数字】～	6	警察～	4
助～	5	拒否-する	5	選挙～	7	国府～	3
大学～	4	切(きり)		日長～〔島〕	4	国連～	3
*凝集-する	4	小口～	3	【数字】-人～	4	占領～	3
恐縮-する	5	みじん～	4	*クォート 【数字】～	4	連合～	6
強制-する	4	切る		苦笑-する	7	軍事的	4
行政		し～	4	苦心-する	6	*軍曹 【人名】～	3
～機構	3	なり～	5	癖 【数字】～	3	軍備 再～	4
教育～	5	切れる 言い～	4	具体		*軍法-会議	3
業績-向上	3	切替-線	19	～化	3	毛-織物	9
教組 日～	11	キリスト-教	3	～的	22	家 【人名】～	44
競争-する	4	切開き-線	8	下さる お-便り～	11	系	
協奏-曲	7	キロ 【数字】～	13	口		【人名】～	6
兄弟 【人名】～	4	記録		【数字】～	9	【地名】～	3
強調-する	16	～する	5	改札～	3	〇〇-党～	3
協定		大～	3	苦痛 〇〇-的～	3	*景 【数字】～	4
【数字】-次～	3	*キログラム 【数字】～	4	困 お～	3	軽-工業	3
貿易～	3	籽 【数字】～	6	工夫-する	3	芸 お-家～	4
原子-力～	3	キロワット 【数字】～	16	区別-される	3	経営	
共同		金		区別-する	6	～者	10
～体	3	貸付～	3	組		～する	6
～防除	3	借入～	6	【人名】～	5	企業～	3

積極 <small>〔経営 続き〕</small>	5	經由	3	～室	5	粉 小麦～	9
慶応-大学	3	～する	3	～者	6	個 匱乏～	65
経過-する	4	匱乏～	4	～所	8	こ <small>〔接尾〕</small> 雀～	4
警戒-する	5	* 形容-する	3	～する	18	子 匱乏っ～	7
計画		* 計略 匱乏～論	3	技術～	3	庫 冷蔵～	4
～する	10	劇	4	現金-売	3	湖 匱乏～	7
～的	3	匱乏～	4	原型 ○○-式～	10	御	
暗殺～	3	現代～	4	健康		～挨拶	5
拡張～	3	時代～	7	～診断	6	～意見	3
匱乏-カ年～	7	西部～	5	～保険	5	～機嫌	6
新～	3	劇場 大～	3	現行-憲法	4	～希望	3
景気 数量～	3	下車-する	3	検査		～苦勞	4
芸妓-屋	3	化粧		～する	4	～指導	3
經驗		～品	5	～役	3	～自分	6
～者	3	～まわし	3	原子		～主人	12
～する	4	結婚		～価	4	～紹介	3
螢光-燈	4	～後	4	～核	8	～承知	5
掲載		～式	12	～兵器	3	～仁	3
～される	3	～する	49	～力	35	～相談	4
～する	3	～生活	6	～炉	5	～存知	21
經濟		決算		現実-的	7	～馳走	9
～援助	5	匱乏-月～	6	* 検出-される	3	～用	9
～学	11	匱乏-期～	3	減少-する	4	～了簡	4
～自立	3	決心-する	11	元帥 匱乏～	6	～兩人	5
～的	16	血清		建設		後	
匱乏～	6	抗A～	3	～する	7	匱乏-カ月～	4
国民～	4	抗B～	4	～中	3	帰朝～	3
○○-主義～	4	結成-する	5	工場～	5	結婚～	4
自立～	4	決定		* 元素 同位～	3	数-日～	5
政治 <small>〔政治～上 など〕</small>	3	～される	4	* 眼鏡 正法～	3	終戦～	6
不～	6	～する	21	現代-劇	5	税引～	3
警察		～的	5	* 限定-される	3	増資～	13
～軍	4	* 月評-子	3	限度 最少～	3	卒業～	4
～署	3	件 匱乏～	10	見当		大戦～	3
計算-する	5	券		匱乏-円～	4	定植～	3
警視-庁	7	外食～	3	匱乏-分 <small>〔ぶ〕</small> ～	5	匱乏-年～	19
刑事 匱乏～	5	回数～	6	検討-する	7	語	
形式-的	4	県 匱乏～	127	現場 工事～	3	匱乏～	31
芸術		軒 匱乏～	17	減配-する	3	外国～	3
～家	6	園 共産～	4	見物-人	3	恋人-たち	3
～祭	3	圃 匱乏～	14	憲法		公 ¹	
計上-する	6	権		～違反	3	匱乏～	11
継続-する	4	管轄～	3	～改正	3	主人～	10
毛糸		借地～	4	現行～	4	公 ²	
～極細～	5	選手～	7	新～	4	～会堂	8
～中細～	4	抵当～	3	懸命 一所・一生～	9	～的	3
警部 匱乏～	3	原 <small>〔原爆〕</small> -水爆	10	言明-する	5	好-条件	4
* 敬服-する	3	喧嘩 夫婦～	4	権利		* 抗-腫瘍	3
* 輕蔑-する	3	研究		～落	5	高 ¹ -水準	3
刑務-所	11	～会	3	～者	4	高 ² <small>〔高校〕</small>	
契約-金	3	～機関	3	権力 国家～	4	匱乏～	22

(数字)~	6	漁業~	5	合衆~	3	誇張-する	4
校		工場		共和~	5	小遣 お~	3
(数字)~	11	(数字)~	18	〇〇-主義~	3	こて-なげ[小手投げ]	3
小学~	25	(数字)~	3	戦勝~	3	固定-資産	6
中学~	10	新~	5	先進~	5	個展 (数字)~	5
港 (数字)~	9	向上		(数字)等~[一等国 など]	3	言(こと) (数字)~	11
項 (数字)~	10	~する	4	理事~	3	子供	
鋼 特殊~	3	業績~	3	国家		~達	27
鉦[鉦業]-工業	3	攻勢 労働~	5	~権力	4	~っばい	3
号		抗生-物質	5	〇〇-主義~	3	~らしい	3
(数字)~	4	厚生-省	5	国際		断る お-断り	3
(数字)~	108	構成-する	5	~会議	5	ゴム編み	
(数字)月~	16	合成-繊維	5	~周	3	~止め	4
新年~	3	皇太子-さま	7	~収支	9	(数字)日~[一日~ など]	29
合 (数字)~	18	耕地-面積	3	~的	6	小麦-粉	9
高压-塔	3	交通-事故	3	国産-品	4	ごめん-なさる	10
* 抗A-血清	3	公定-歩合	3	* 国師 (数字)~	4	ごらん-なさる	9
公園 国立~	5	好転-する	7	黒人-問題	3	此れ-ら	70
後援-会	3	* 後天-的	3	* 小口-切(ぎり)	3	頃	
公開-される	3	* 耕土-培養	3	国内 (数字)~	4	(数字)月~	8
後悔-する	7	高等-学校	5	告白-する	6	(数字)時~	18
交換-する	12	行動-する	3	* 国府-軍	3	(数字)日~	4
好奇心	5	* 講道-館	4	国防-会議	4	(数字)年~	15
抗議-する	3	購入-者	3	極細-毛糸	5	今-場所	3
交響		* 抗B-血清	4	国民		言 (数字)~	8
~楽	13	* 公表-する	3	~経済	4	懇談-会	5
~曲	3	交付 無償~	7	~車	3	根本-的	10
工業		幸福-感	3	~的	5	婚約-披露	4
~化	5	興奮-する	7	~党	4	混用-率	4
~用	4	候補		~健康-保険	4	混乱-する	3
機械~	3	~者	5	(数字)忍~	7	差 試合~	4
軽~	3	立~	3	国務		座	
鉦~	3	攻防-戦	3	~省	4	~蒲団	6
重~	3	公務-員	4	~大臣	5	(数字)~[一座]	14
羊毛~	3	後楽-園	4	国立	5	歌舞伎~	3
鉦業 (数字)~[鉦も見よ]	5	小売	3	~公園	5	俳優~	4
* 合金-鉄	4	~業	3	~〇〇-所	4	再	
航空		~商	3	国連-軍	6	~軍備	4
~機	9	~店	9	心 お~	4	~増資	5
~隊	7	合理		越し (数字)年~	4	~評価	8
後継-者	5	~化	26	こじき-袋	3	祭	
高原 (数字)~	5	~的	6	御所		(数字)~[巴里~]	3
* 考古-学	3	不~	3	大~	3	音楽~	3
高校-生	9	考慮-する	6	大宮~	3	芸術~	3
皇后-様	4	声 お~	4	個人		(数字)年~	3
* 交叉-編	3	* 呼应-する	3	~主義	5	債 地方~	3
耕作 段畑~	4	小型-〇〇-車	3	~的	12	財	
甲子-園	7	呼吸 圧~	3	* 子雀-たち	3	消費~	3
交渉		石 (数字)~	10	コスト-低下	5	文化~	4
~する	6	国		戸籍-法	6	剂 殺虫~	3
(数字)~[ロソ~ など]	8	(数字)忍~	4	答える お-答え	3		
		(数字)忍~	12				

再開		雑誌-社	4	実行～	4	母～	36
～される	3	* 殺虫-剤	3	指摘～	3	お-母～	5
～する	3	殺到-する	6	収獲～	3	お-内儀 <small>(かみ)</small> ～	16
財界-人	5	さっぱり-する	6	粛清～	3	お-客～	10
在学-中	5	様		祝福～	4	お-子～	3
* サイクロトロン シ		囚 <small>ひと</small> ～	25	出荷～	3	じい～	3
シクロ～	3	王～	4	紹介～	7	おじい～	8
* 最少-限度	3	奥～	15	初演～	4	社長～	4
財政-的	3	お-母～	8	しわ寄せ～	3	お-嬢～	17
* 採草-地	6	神～	12	心配～	6	女工～	4
催促-する	3	お-客～	14	推定～	3	女優～	6
最低-賃金	3	皇后～	5	制限～	4	旦那～	4
* 再燃-する	3	皇太子～	7	生産～	4	お-父～	22
* 財閥 旧～	3	爺 <small>(お爺)</small> ～1	3	整理～	4	兄～	7
裁判		お-嬢～	5	洗練～	3	お-兄～	3
～官	7	旦那～	16	組織～	3	姉～	17
～所	20	お-父～	4	逮捕～	7	お-婆～	11
債務 手形～	3	殿～	7	注目～	13	坊～	5
採用		兄 <small>(お兄)</small> ～4	6	調印～	3	皆～	25
～される	4	姉 <small>(お姉)</small> ～3	4	提出～	4	息子～	3
～する	8	皆～	23	展開～	5	娘～	13
* 左往 右往～	5	宮～	3	動員～	3	〇〇-屋～	7
魚 お～	3	左右		廃止～	3	お-嫁～	3
* 酒屋 居～	5	～される	6	発揮～	5	* 産 <small>(産科)</small> -婦人-科	4
* 脚 匳 <small>へい</small> ～	4	～する	3	発見～	17	参加-する	13
作 代表～	3	作用		披露～	6	参議-院	11
昨-年度	5	～する	5	発売～	3	参考	
作曲家	7	副～	4	発表～	10	～書	4
作図-する	8	猿 お～	3	評価～	8	～図	6
昨年		される		表現～	4	* 散在-する	3
～中 <small>(ちゆう)</small>	3	〇〇-扱い～	3	編成～	3	* 算出-する	3
～末 <small>(まつ)</small>	4	圧迫～	3	放送～	5	参照	
酒 御～	5	育成～	3	保証～	3	～条文	3
座敷 お～	4	演奏～	5	誘拐～	4	～する	21
差支 <small>さしつか</small> え <small>(名)</small> -ない	6	〇〇-化～	7	要求～	6	賛成-する	3
させる		解決～	4	予想～	15	撒布	
陥落～	3	解放～	5	理解～	3	～する	3
向上～	3	歓迎～	5	利用～	5	薬剤～	3
成立～	4	期待～	16	山 匳 <small>へい</small> ～	21	* 産物 副～	3
発展～	6	区別～	3	さん		参謀	
座談-会	10	掲載～	3	囚 <small>ひと</small> ～	585	～長	3
冊 匳 <small>へい</small> ～	8	決定～	4	口-マ-字～	17	～本部	3
札 匳 <small>へい</small> -円～	4	検出～	3	お-医者～	3	* 算用 皮～	3
* 雑-低位-株	3	限定～	3	妹～	3	三墨-手	9
撮影		公開～	3	易者～	3	士	
～所	10	再開～	3	奥～	42	栄養～	3
～する	5	採用～	4	おじ～	13	代議～	5
～中 <small>(ちゆう)</small>	5	左右～	6	弟～	3	弁護～	11
記念～	3	〇〇-視～	7	おば～	16	子	
* さつき-賞 <small>(競馬)</small>	3	刺激～	3	お前～	17	匳 <small>へい</small> ～ <small>(毒)</small>	3
* 殺菌-灯	3	実現～	3	お巡り～	3	月評～	3

氏		文化～	8	大～	3	失敗-する	8
人名～	225	母船～	3	思想的	3	実物-大	3
ローマ字～	10	指揮		* 齒槽-膿漏	3	失望-する	4
彼～	13	～官	4	持続-する	10	質問-する	4
史		～者	4	時代		実用的	4
文化～	4	～する	3	～おくれ	3	失礼-する	3
文学～	3	時期 田植～	3	～劇	8	仕手-株	7
市 人名～	165	辞儀 お～	7	人名～	4	指定	
死 文字～	3	* 支給-される	3	人名～	6	～する	6
紙		* 支局 人名～	3	学生～	5	～文字	3
ローマ字～	3	資金		大正～	7	指摘	
新聞～	12	～ぐり	3	仕度-部屋	3	～される	3
誌 機関～	3	～需要	5	親しむ 親しみや-		～する	9
* 詞 代名～	3	運転～	4	すい	3	自転-車	21
字 文字～	10	自己～	4	下手-投げ	8	指導	
次 文字～	37	整理～	3	仕立てる 仕立て-		～者	9
寺		設備～	6	方	3	～する	3
道成～	3	死刑-廃止	3	師団 文字～	5	御～	3
炳靈～	4	刺激		自治 地方～	3	自動	
法隆～	3	～される	4	自重-する	6	～車	56
児 双生～	6	～する	6	室		～的	3
時		事件		研究～	5	次男-坊	5
文字～	132	人名～	5	文字-号～	3	地盤	
キロワット～	3	殺人～	4	試写～	3	～する	5
試合		大～	4	地下～	3	～ミシン	3
～する	3	自己		待合～	3	支配	
文字～	21	～資金	4	質		～下	3
爺		～資本	3	神経～	4	～人	3
～様	3	事故 交通～	3	蛋白～	8	四半-期	6
～さん	3	施行 ○○-法～	10	日		支部 人名～	5
お～さん	8	事項 認知～	3	文字～	7	自分	
自衛-隊	5	仕事 お～	4	数～	17	～たち	13
自家-用	5	* 示唆-する	3	しっかり-する	13	御～	6
司会-者	3	自殺-する	12	実業-家	6	事変 人名～	5
* 紫外-線	4	資産		実現		死亡-する	5
自覚-する	5	～株	3	～される	3	脂肪 体～	3
仕方-ない	14	～内容	3	～する	13	資本	
時間		固定～	6	実験		～家	4
～的	3	流動～	5	～者	4	～金	33
文字～	76	支持-する	7	水爆～	4	～充実	4
勤務～	3	事実-上	3	* しっこ お～	3	～主義	18
数～	5	* 試写-室	3	実行		自己～	3
短～	4	刺繡-する	3	～される	4	島 人名～	10
式		* 思春-期	4	～する	15	しまい お～	3
人名～	7	市場 人名～	4	～できる	3	しまう	
人名～	4	事情 特殊～	4	* 実在-する	4	なっ-ちまり	4
文字～	3	* 辞職 総～	3	実施		来-ちやう	5
結婚～	12	自然		～する	8	し～	4
卒業～	3	～主義	3	～中	3	なっ[成]～	11
ドレメ～	4	～発生	3	実質-的	10	始末-する	8
表彰～	3			* 実証-的	3	自民-党	13

事務		先駆～	4	～民主-党	4	民主～	8
～員	8	哲学～	5	○○-的～	3	修業-する	3
～局	8	当事～	5	不～	10	* 肅清-される	3
～所	10	逃亡～	3	重 ¹	3	* 祝福-される	4
* 下-半期	3	第一-人～	6	～工業	3	宿命的	3
社		被害～	6	～労働	4	* 主治-医	3
人名～	3	文学～	16	重 ² 数字～	10	首相	
数字～	12	編集～	3	中(じゅう)		人名～	15
雑誌～	4	誘拐～	4	数字～	3	数字～	5
新聞～	18	抑留～	3	顔～	3	主将 人名～	4
車		労働～	19	身体(からだ)～	4	主人	
機関～	3	○○-論～	6	世界～	4	～公	10
国民～	3	社会		数字-日～	5	御～	12
自転～	22	～化	3	数字-年～	4	主張-する	23
自動～	56	～主義	17	収益		出演	
乗用～	12	～的	11	～力	3	～者	5
人力～	3	～党	29	純～	5	～する	23
動力～	3	～保障	4	収獲-される	3	映画～	3
自家-用～	4	○○-主義～	5	週間 数字～	30	初～	4
者		* 社外-流出	3	衆議-院	3	出現-する	8
数字～	4	勺 数字～	8	宗教 新興～	3	出所-する	3
愛読～	4	尺 数字～	52	従業		出場-する	10
科学～	5	借地-権	4	～員	5	出席	
○○-学～〔「学者」第一		* 借用-する	3	～婦	3	～者	3
分冊にあり〕	14	写真-主義	3	収支 国際～	9	～する	5
関係～	12	写真 風景～	3	十字架	5	出動-する	4
管理～	3	社長		* 従事-する	4	出発-する	15
企業～	4	～さん	4	充実 資本～	4	出版-する	3
希望～	3	副～	5	就職-する	8	腫瘍 抗～	3
○○-業～〔「業者」第一		喋り お～	3	修正-する	3	需要	
分冊にあり〕	11	しゃれ お～	12	終戦-後	6	資金～	5
経営～	12	手		集中-する	9	有効～	3
経験～	4	運転～	5	収入 営業～	4	主流	
研究～	5	外野～	13	* 周年 数字～	3	～派	3
権利～	4	内野～	4	* 充満-する	3	反～	4
後継～	5	遊撃～	4	収容		種類 数字～	8
購入～	4	一塁～	8	～所	5	純-収益	5
候補～	6	三塁～	9	～する	3	純益-率	10
司会～	3	主 救世～	3	重要-性	4	巡查 人名～	12
指揮～	4	* 首 数字～	4	主演-する	6	春秋 文芸～	4
実験～	4	酒 ブドウ～	7	主観-的	4	準備	
指導～	10	種 数字～	11	主義		～する	6
○○-主義～	14	首位-打者	4	人名～	11	金ドル～	4
出演～	5	州 数字～	17	共産～	9	* 巡洋-艦	5
消費～	11	周 数字～	5	個人～	5	所	
初心～	4	週 数字～	25	自然～	3	刑務～	12
所有～	7	集 随筆～	3	資本～	18	研究～	21
製作～	4	自由		社会～	18	裁判～	20
生産～	3	～意思	3	写真～	3	撮影～	10
成年～〔未成年～〕	3	～主義	4	自由～	4	事業～	3
責任～	7	～党	10	帝国～	4	事務～	12

収容～	7	匱乏～	7	少佐 匱乏～	5	食堂 外食・券～	3
造船～	3	章 匱乏～	10	* 抄紙・機	6	職場・婦人	3
駐在～	3	勝 匱乏～	23	少女 匱乏・才～	3	植民	
停留～	4	* 傷 致命～	3	少将 匱乏～	6	～主義	3
鉄工～	3	賞		上昇・する	8	～地	5
発行～	3	敢闘～	3	上手 お～	3	女工・さん	4
発電～	3	さつき～〔競馬〕	3	小説		諸国 匱乏～	7
保健～	4	上		～家	12	女子・大	5
療養～	10	～半身	3	探偵～	6	女史 匱乏～	7
書		関係～	7	連載～	4	女兒 匱乏・歳～	3
教科～	4	○○・史～	3	* 小節 匱乏～	3	初心・者	4
参考～	4	○○・紙～	4	招待・する	4	女性	
証明～	7	事実～	3	状態 心理～	3	～たち	3
診断～	4	生活～	3	承諾・する	6	匱乏～	5
履歴～	4	○○・線～	5	承知		所長 匱乏～〔⇒長も 見よ〕	4
署		条 匱乏～	58	～する	8	* 書店 匱乏～	3
匱乏～	3	状		御～	5	* 初等・科	3
警察～	3	脅迫～	3	上等・兵	4	* 諸島 匱乏～	5
消防～	3	紹介～	3	小児・麻痺	4	所得・税	5
税務～	4	信用～	5	承認・する	5	書房 匱乏～	3
諸・問題	6	遺言～	4	少年 青～	5	署名・する	3
女		城		消費		所有者	7
～学校	7	匱乏～	22	～財	3	女優・さん	6
～学生	7	匱乏～	3	～者	11	処理・する	9
助		場		勝負 匱乏・番～	3	知らせる お知らせ	3
～監督	9	運動～	4	* 条文 参照～	3	尻 お～	7
～教授	4	会議～	3	* 小便 寝～	3	自立 経済～	3
使用		飛行～	8	* 正法・根蔵	3	知る	
～する	26	留置～	4	* 消防・署	3	知っ・てる	10
～人	6	疊 匱乏～	22	証明		○○・知ら・ず	4
小		嬢		～する	4	印 匱乏～	9
～○○・会〔小委員会〕	3	匱乏～	12	身分～	3	司令	
～選挙・区	7	お～さま	5	条約		～官	12
～法廷	3	お～さん	17	匱乏～〔サンフランシ スコ条約 など〕	4	～部	13
中～〔中小企業 など〕	24	紹介		平和～	6	白っ・ぽい	5
* 升 匱乏	3	～される	7	友好～	3	* シワ寄せ・される	3
省		～状	3	乗用・車	12	心	
匱乏～	5	～する	12	将来・性	3	～的	3
運輸～	3	御～	3	上陸・する	5	好奇～	5
大蔵～	8	小学		奨励・する	5	新	
海軍～	4	～校	25	昭和		～匱乏	10
外務～	13	～生	3	～電工	4	～計画	3
厚生～	4	正月 お～	12	大～〔会社名〕	4	～憲法	4
困務～	4	将棋 詰～	3	初演・される	4	～工場	5
通産～	4	上京・する	12	除去・する	3	～政権	3
農務～	4	消極・的	7	色		～制作〔団体〕	3
農林～	19	将軍 匱乏～	5	匱乏～	8	～製品	4
症 尿毒～	5	条件		天然～	6	～東宝	4
商 ¹ 小売～	3	好～	4	食 保存～	3	～平家	3
商 ² 〔商業高校の略〕		○○・的～	8	食事 お～	4	審 匱乏～	3
		* 商工 三国〔みくに〕	4			人	

題名～〔人 続き〕 98
 映画～ 3
 外国～ 8
 財界～ 5
 知識～ 6
 文化～ 8
 * 仁 御～ 3
 陣
 技術～ 3
 投手～ 5
 人員-整理 4
 * シンクロ-サイクロ
 トロン 3
 神経
 ～質 4
 ～痛 7
 * 人件-費 4
 進行-する 8
 振興 ～局 5
 新興
 ～宗教 3
 ～俳句 5
 人工
 ～衛星 7
 ～的 3
 新婚-旅行 3
 人事-的 3
 人種-的 5
 信州-地方 3
 進出-する 6
 信託-銀行 5
 診断 健康～ 6
 新築-する 4
 * 滲透-する 3
 新年-号 3
 心配
 ～される 6
 ～する 21
 新聞
 ～記者 16
 ～紙 12
 ～社 12
 題名～ 9
 〔ロ-マ字〕～ 3
 朝日～ 6
 毎日～ 6
 諛売～ 4
 進歩
 ～する 7
 ～的 3
 辛抱-する 3

信用
 ～状 5
 ～する 7
 心理
 ～状態 3
 ～的 7
 * 人力-車 3
 図
 〔略字〕～ 117
 〔ロ-マ字〕～ 5
 ○○(動詞連用)-方～ 10
 切開き～ 3
 参考～ 6
 正解～ 3
 設計～ 5
 総合～ 3
 符号～ 5
 推移-する 3
 * 推計-学 4
 水産 農林～ 8
 水準 高～ 3
 推進-する 7
 推測-する 3
 推定-される 3
 水爆 原～ 10
 隨筆-集 4
 数
 ～回 4
 ～カ月 3
 ～時間 5
 ～日(じつ) 17
 ～人 5
 ～年 16
 ～分(ぶん) 3
 〔略字〕～〔十～名 など〕 9
 数十-人 3
 崇拜 個人～ 3
 * 数量-景気 3
 スカート
 後～〔歳〕 8
 前後～〔歳〕 10
 好き(名) お～ 7
 過ぎ(名) 〔略字〕-時～ 7
 過ぎる
 多～ 9
 大き～ 3
 し～ 4
 狭～ 3
 なり〔成〕～ 3
 伸び～ 3
 ひど～ 4

良(x) ～ 3
 スキー-場 題名～ 4
 * スケッチ-する 3
 少し-ずつ 13
 筋
 〔略字〕～ 6
 政府～ 3
 すすめる お-すすめ 7
 雀-こ〔方言〕 4
 スター
 ～たち 3
 映画～ 4
 犬～ 3
 宛
 〔略字〕～ 5
 〔略字〕-円～ 5
 〔略字〕-回～ 4
 少し～ 13
 〔略字〕-本～ 6
 〔略字〕-目～ 20
 すっきり-する 3
 ステッチ-する 4
 ストライキ ○○-
 的～ 4
 住い(名) お～ 3
 相撲 お～ 3
 する
 し-方 14
 ～てる 14
 ～とく 3
 ～なざる 4
 ～よう〔様〕 3
 挨拶-する 8
 悪化～ 3
 圧迫～ 4
 引返し-編～ 3
 暗示～ 4
 安心～ 13
 安定～ 10
 案内～ 3
 家出～ 3
 移行～ 3
 維持～ 10
 意識～ 11
 移住～ 3
 依存～ 3
 委託～ 3
 一致～ 11
 一変～ 5
 移動～ 3
 違反～ 5
 意味～ 3

依頼～ 4
 いらいら～ 4
 ○○-入り～ 6
 引用～ 4
 お-伺い(動) ～ 3
 浮き浮き～ 3
 うろうろ～ 3
 影響～ 7
 会釈～ 3
 演奏～ 4
 延長～ 20
 遠慮～ 7
 おう歌～ 3
 横臥～ 3
 応対～ 3
 応募～ 4
 応用～ 3
 ○○-化～ 47
 解決～ 21
 開催～ 4
 開始～ 4
 解釈～ 4
 解消～ 3
 改正～ 6
 解説～ 5
 改善～ 3
 開拓～ 5
 回転～ 4
 該当～ 3
 回復～ 10
 解放～ 3
 買物～ 3
 お-返し(動) ～ 3
 確信～ 5
 拡大～ 9
 拡張～ 3
 確認～ 4
 獲得～ 9
 確保～ 6
 確立～ 5
 加工～ 3
 加担～ 3
 割愛～ 3
 がっかり～ 6
 合唱～ 3
 合掌～ 3
 活動～ 3
 活躍～ 11
 活用～ 6
 カバー～ 3
 我慢～ 9

関係～〔する 続き〕	9	掲載～	3	参照～	21	上京～	12
還元～	3	計算～	6	賛成～	3	上昇～	8
観察～	6	計上～	6	〇〇-視～	5	招待～	5
換算～	3	継続～	4	試合～	3	承諾～	6
感謝～	7	敬服～	3	自覚～	5	承知～	8
感心～	13	慳蔑～	4	指揮～	3	承認～	5
完成～	16	經由～	3	お-辞儀～	3	証明～	4
勘違い～	3	形容～	3	刺激～	6	上陸～	5
監督～	5	下車～	4	示唆～	3	奨励～	5
勘忍～	4	結婚～	49	自殺～	12	除去～	3
完了～	6	決心～	11	支持～	7	署名～	3
関連～	4	結成～	5	刺繍～	3	処理～	9
緩和～	3	決定～	21	持続～	10	進化～	3
企画～	3	研究～	18	自重～	6	進行～	8
棄却～	4	検査～	4	し-っかり～	13	進出～	6
帰京～	4	減少～	4	実現～	13	新築～	4
帰国～	6	建設～	7	実行～	15	浸透～	3
寄贈～	3	検討～	8	実在～	4	心配～	22
期待～	28	減配～	3	実施～	9	進歩～	7
帰宅～	3	言明～	5	失敗～	8	辛抱～	3
詰問～	3	後悔～	7	失望～	4	信用～	7
規定～	6	交換～	12	賀問～	4	推移～	3
企図～	3	抗議～	3	失礼～	3	推進～	7
記念～	8	交渉～	6	指定～	6	推測～	3
希望～	7	向上～	5	指摘～	10	スケッチ～	3
逆行～	3	構成～	5	指導～	3	お-すすめ(動)～	6
逆転～	3	好転～	7	地縫～	5	す-つきり～	3
吸収～	5	行動～	3	死亡～	5	ステッチ～	4
急増～	3	購入～	3	始末～	7	生活～	12
寄与～	4	公表～	4	借用～	3	請求～	4
共演～	4	交付～	3	従事～	4	制限～	9
供給～	5	興奮～	7	就職～	8	成功～	25
凝集～	4	考慮～	6	修正～	3	製作～	8
恐縮～	5	呼応～	3	集中～	9	生産～	7
強制～	4	告白～	6	充滿～	3	成熟～	3
競争～	4	誇張～	4	収容～	3	成人～	4
強調～	16	お-断り(動)～	3	主演～	6	製図～	6
協力～	14	混乱～	3	修業～	3	成長～	11
拒否～	5	再開～	3	主張～	22	整備～	3
記録～	5	催促～	3	出演～	29	整理～	8
緊張～	6	再燃～	3	出現～	7	成立～	10
苦笑～	7	採用～	7	出所～	3	接近～	3
苦心～	6	作図～	8	出場～	11	接触～	3
工夫～	3	指図～	3	出席～	5	設定～	3
区別～	6	撮影～	5	出張～	3	接吻～	7
苦勞～	16	殺到～	6	出動～	4	絶望～	3
経営～	7	さ-っぱり～	6	出発～	15	説明～	28
経過～	4	左右～	3	出版～	3	世話～	7
警戒～	5	作用～	5	準備～	6	宣言～	4
計画～	10	参加～	13	使用～	27	前後～	6
経験～	4	算出～	3	紹介～	12	宣告～	3

前述 <small>～[する 続き]</small>	4	注文～	3	にやにや～	4	復活～	4
前進～	6	調査～	7	入院～	4	復興～	4
洗濯～	3	調整～	3	入学～	3	服従～	3
選択～	3	頂戴～	5	入社～	7	不足～	5
全滅～	3	重宝～	4	入選～	3	沸騰～	4
占領～	6	調和～	7	認識～	4	プリント～	7
増加～	16	貯金～	4	妊娠～	6	憤慨～	6
増強～	3	直結～	3	お-願い(動)～	8	分析～	5
増減～	4	直面～	6	熱中～	4	文通～	6
総合～	3	貯蔵～	3	ノック～	3	分離～	3
増産～	3	ちよつと～ <small>[ちよつと した の形で]</small>	18	売却～	3	平均～	4
創造～	4	追求～	5	拝見～	4	閉口～	3
想像～	9	通過～	4	廃止～	3	変化～	10
増大～	4	通用～	5	買取～	3	勉強～	16
相談～	18	作り目 <small>～[細物]</small>	9	白状～	3	返事～	4
相当～	7	都合～	4	爆発～	6	放棄～	5
増配～	3	提案～	6	暴露～	4	報告～	8
疎開～	3	低下～	8	破産～	3	放心～	3
阻止～	5	提起～	8	発育～	3	訪問～	3
組織～	7	抵抗～	6	発芽～	4	保護～	4
卒業～	12	停止～	3	発揮～	13	補佐～	3
尊敬～	7	提出～	8	はっきり～	30	保存～	4
存在～	15	訂正～	6	発見～	24	発足～	6
尊重～	5	停滞～	4	発行～	3	お-待ち(動)～	9
退院～	4	出入(いり)～	8	抜粋～	3	マッチ～	3
対応～	5	デザイン～	6	発生～	12	満載～	3
待機～	3	徹底～	6	発達～	8	満足～	7
退却～	3	デビュー～	4	発展～	16	密着～	3
対決～	7	一転～	3	発表～	23	無視～	10
對抗～	5	転化～	3	お-話し(動)～	8	命令～	5
滞在～	4	展開～	10	〇〇-離れ～	3	黙認～	3
退散～	3	転向～	3	反映～	8	約束～	8
対談～	3	電話～	3	反省～	9	誘拐～	3
体得～	4	投資～	3	反対～	10	優勝～	12
対立～	7	投書～	3	判断～	9	融通～	3
妥協～	3	登場～	17	反駁～	3	輸出～	4
脱却～	3	同情～	3	反撥～	5	輸入～	6
タッチ～	4	当選～	6	比較～	14	用意～	11
脱党～	3	到達～	5	微笑～	4	要求～	10
探究～	3	到着～	5	びっくり～	17	要約～	3
探索～	3	導入～	3	びったり～	5	予期～	3
誕生～	3	等分～	7	ヒット～	4	予想～	6
担当～	4	動揺～	3	否定～	6	予定～	3
断念～	4	ドキドキ～	4	批判～	5	来日～	4
堪能～	3	特定～	3	批評～	4	理解～	15
遅刻～	3	独立～	6	評価～	6	履行～	3
注意～	25	突進～	3	表現～	10	離婚～	3
忠告～	3	突破～	5	病死～	4	留学～	4
中止～	3	努力～	18	飛来～	3	流行～	7
注射～	4	中ぬい <small>～[裁]</small>	3	披露～	4	利用～	44
注目～	6	何 <small>～[何しろ など]</small>	29	風靡～	3	恋愛～	5
				附記～	3		

練習～〔する 続き〕	3	結婚～	6	* 成年 未～	3	設置 ○○-省～	3
連絡～	3	性～	4	青年	5	* 設定-する	3
狼狽～	5	日常～	7	青年-たち	5	設備	
浪費～	4	夫婦～	5	～団	3	～資金	6
寸 匱字～	40	世紀 匱字～	22	整備-する	3	～投資	3
寸法		請求-する	4	税引		機械～	3
ウエスト～	3	政権 新～	3	～後	3	接吻-する	7
出来上り～	4	制限		～純益-率	3	絶望-する	3
青〔青年〕-少年	5	～される	4	製品		説明-する	29
生 ¹ -化学	3	～する	8	化学～	3	ゼネラル-モーターズ	3
生 ²		成功		新～	4	* 背幅-線〔歳〕	3
匱字-期～	5	～する	25	綿～	4	狭い 狭-すぎる	3
高校～	11	大～	3	政府		世話	
小学～	3	製鋼 匱名～	4	～筋	3	～する	6
卒業～	7	* 制作 新～	3	匱名～	18	お～	7
大学～	12	政策		西部-劇	3	船	
中学～	3	経済～	4	生物学	7	定期～	3
同級～	3	農業～	3	* 税務-署	4	独航～	3
匱字-年～	18	製作		* 政友-会	5	輸出～	3
世 匱字～	10	～者	4	生理-的	3	戦	
正-反対	5	～する	8	整理		匱字～	7
性 ¹ -生活	4	匱名～	5	～される	4	匱字-回～	7
性 ²		生産		～する	9	攻防～	3
安定～	3	～過剰	4	人員～	4	早慶～	3
永続～	3	～される	3	成立		名人～	3
可能～	13	～者	3	～させる	4	銭	
重要～	4	～する	7	～する	10	匱字～	15
将来～	3	～性	9	世界		髑髏～	3
生産～	9	～量	3	～中	4	線	
特殊～	4	～力	7	～大戦	6	匱名～	7
人間～	5	製紙 匱名～	8	～地図	3	匱字～	21
必要～	3	政治		～的	14	ロ-マ字～	5
放射～	5	～家	11	アラブ～	4	折山～〔歳〕	10
制 ○○-区～	3	～経済	3	石		肩山～〔歳〕	3
* 姓 匱名～	3	～的	18	匱名～〔大理～〕	4	切替え～〔歳〕	23
税		～力	3	匱字～	4	切開き～〔歳〕	8
営業～	4	* 成熟-する	3	隻 匱字～	13	紫外～	4
間接～	3	精神		関〔びき〕 匱名～	9	背幅～〔歳〕	3
消費～	3	～上	3	積極		中央～〔歳録の場合 9〕	13
所得～	7	～的	13	～経営	5	まち附～〔歳〕	3
直接～	3	～病	3	～的	21	見返し～〔歳〕	13
登録～	3	成人-する	4	責任		胸幅～〔歳〕	3
取引～	3	製図-する	6	～者	7	全	
法人～	7	成長		戦争～	4	～匱名	14
勢〔せい〕 匱名～	5	～する	11	無～	3	～○○-面積	3
正解-図	3	～率	4	世辞 お～	6	前	
性格 ○○-的～	6	製鉄 匱名～	6	節 匱字～	6	～○○-長〔～理事長 など〕	3
生活		生徒-たち	4	接近-する	3	～場所	4
～する	12	政党		設計-図	3	膳 お～	3
～力	3	革新～	3	接触-する	3	繊維	
学生～	3	大～	4	絶対-的	5	化学～	3
家庭～	6	製糖 匱名～	4				

合成～〔繊維 焼き〕	5	宣伝		～図	3	ソ連	
天然～	3	～する	3	～する	3	～〇〇-機	3
* 選外-佳作	4	～部	3	～的	6	～側	12
前期-〇〇-率〔～流益 率 など〕	4	仙(セント) 匱字～	7	捜査 科学～	4	尊敬-する	7
選挙-区	7	戦闘-機	4	* 造作 無～	4	存在	
* 先駆-者	4	前年-同期	3	創作-活動	3	～する	15
宣言-する	4	先輩 匱名～	3	増産-する	3	〇〇-的～	5
全権 匱名～	7	全般-的	6	増資	3	存知 御～	21
前後		* 扇風-機	4	～後	11	尊重-する	5
～スカート〔裁〕	10	* 全滅-する	3	～負担	5	多-方面	5
～する	4	全面-的	7	再～	5	打 本塁～	3
～中央〔裁〕	3	専門-家	13	倍～	3	体	
～中心〔裁〕	3	占領		倍額～	5	～脂肪	3
～身頃〔裁〕	13	～軍	3	半額～	7	下垂～〔脳下垂〕～	3
匱字～	3	～する	6	* 操縦 動力-車～	3	企業～	3
匱字-円～	8	* 洗練-される	3	蔵相 匱名～	3	共同～	3
宣告-する	3	* 素-粒子	3	双生-児	6	自治～	3
全国-的	7	そう〔相〕		造船		染色～	10
戦時-中	3	あり～	9	～所		隊	
選手		嬉し～	6	匱名～	3	航空～	4
～権	7	面白～	4	創造-する	4	自衛～	5
～たち	5	来～	3	想像-する	9	特攻～	3
匱名～	23	し～	3	* 相対-的	3	大 ¹	
匱名～	5	楽し～	6	増大-する	4	～匱名	9
大～	4	出～	3	相談		～活躍	3
名～	4	なき～	4	～する	17	～企業	5
前述-する	4	〇〇-なき〔辞〕～〔婦 りたくなさ～ など〕	4	～役	3	～規模	5
* 戦勝-国	3	なり〔成〕～	6	御～	4	～記録	3
染色-体	10	よさ～	6	装置 舞台～	3	～劇場	3
先進-国	6	総		相当		～事件	4
前進-する	6	～〇〇-官	3	～する	7	～昭和〔会社名〕	4
潜水-艦	5	～辞職	3	匱字-円～	3	～成功	3
先生		～天然-色	4	増配-する	3	～選手	4
～方	3	～動員	6	総理 匱名～	3	～都会	4
匱名～	52	～司令部	5	族 太陽～	13	～繁忙	3
□ニマ字～	5	増 匱字-%～	3	阻止-する	5	～部分	20
戦前-派	4	* 総当り 匱字-回～	3	組織		～本営	5
戦争		相違-ない	8	～される	3	～問題	7
～責任	4	増加		～する	7	匱字～	18
～中(ちゅう)	9	～する	15	租税-体系	3	実物～	3
匱名～	4	～率	3	措置 特別～	3	大 ² 女子～	5
太平-洋～	3	* 相関-関係	3	卒業		台	
洗濯		早期-妥結	3	～後	3	匱字～	23
～機	11	* 増強-する	3	～式	3	気象～	3
～する	3	操業 フル～	4	～する	12	代・台〔年代などの〕	
～屋	4	早慶-戦	4	～生	6	匱字～	40
選択-する	3	増減-する	4	袖下-縫目〔裁〕	6	匱字-円～	8
* 船団 匱字～	4	倉庫-業	4	祖父-母	4	匱字-人～	5
センチ 匱字～	331	相互-銀行	3	粗末 お～	4	退院-する	4
糧 匱字～	262	総合・綜合		空-飛ぶ	3	対応-する	5
船長 匱名～	3			それら	24	大会	

匱名～	4	田植-時期	3	選手～	6	投手～	4
第-匱字-回～	4	耐える		仲間～	5	段階 第-匱字～	3
大学		耐え-得る	3	人～	80	* 探求-する	3
～生	10	～難い	3	部下～	3	探険 匱名～	4
匱名～	21	高(たか)		僕～	10	* 探索-する	3
匱字～	4	売上～	23	娘～	7	男子	
慶応～	3	漁獲～	3	者(もの)～	5	～用	5
私立～	4	生産～	3	友人～	3	美～	3
* 待機-する	3	互い お～	26	老人～	4	男女-同権	3
* 大義-名分	3	宝塚-歌劇	3	若者～	3	誕生	
代議-士	5	抱く 抱き-合う	5	わし～	3	～する	3
* 退却-する	3	妥協-する	3	私(わたくし)～	97	～日	5
体系 租税～	3	宅 お～	18	わたし～	8	男性-的	3
対決-する	7	* 拓植-課	3	立ち 匱字-本～	3	炭素 匱字-酸化～	3
対抗-する	5	岳 匱名～	8	* 裁ち合せる 裁ち合		探偵	
大根-おろし	3	打撃-フォーム	4	せ-方	3	～小説	6
大佐 匱名～	3	妥結 早期～	3	立場 ○○-的～	3	名～	3
滞在-する	4	打者 首位～	4	裁つ 裁ち-方	24	断定-する	3
* 退散-する	3	* 多種-多様	3	* 脱却-する	3	担当-する	7
大使		出す		タッチ-する	4	旦那	
～館	3	歩き～	19	* 脱党-する	3	～様	15
匱名～	3	言い～	3	立・建(たて)		～さん	4
匱名～	6	飲み～	3	匱字-階-建	7	* 断念-する	4
大正		走り～	4	匱字-本-立	3	* 堪能-する	3
～時代	7	引っ張り～	3	他人-負債	3	* 短波-放送	3
～天皇	3	笑い～	6	楽しい 楽し-そう	6	蛋白-質	8
大将 匱名～	4	訪ねる お-訪ね	3	度(たび)		段畑-耕作	4
大臣		正しい 礼儀～	4	匱字～	5	担保-価値	3
大蔵～	3	違		いく～	4	* 段落 匱字～	4
外務～	5	匱名～	13	食べる 食べ-方	4	地	
国務～	5	あたし～	3	給う[給え の形などで]		採草～	6
総理～	4	あなた～	5	呉れ～	4	植民～	5
農林～	3	男～	9	見～	3	* 知的	4
大戦		大人～	3	玉縁-ボタンホール	6	地域 匱字～	3
匱字-次～	5	俺～	3	たまる たまり-兼		地下-室	3
世界～	6	女～	16	ねる	3	違いない	63
対談-する	3	学生～	4	* 多様 多種～	3	地球-観測-年	3
* 大帝 匱名～	3	方～[式をする方～		便り お～	20	地区 匱名～	8
大統領 匱名～	4	など]	4	反		* 遅刻-する	3
* 大納言 匱名～	3	彼女～	12	～当(あたり)	5	* 地裁 匱名～	3
代表		君(きみ)～	5	匱字～	6	知識-人	6
～作	3	子～	3	短-時間	4	地図 世界～	3
～的	13	恋人～	3	段 匱字～	274	馳走 御～	9
逮捕-される	7	子雀～	3	団		父-上	7
太平洋	16	子供～	27	匱字～	3	* 地中-海	4
* 代名-詞	3	匱名-さん～	17	応援～	3	* 智徳-寮	3
大洋-漁業	3	自分～	13	○○-楽～[交響楽団		地方	
太陽-族	13	○○-者～	8	など]	13	～委員	3
* 大理-石	4	女性～	3	歌劇～	3	～教育-行政	5
大陸 匱名～	3	スター～	3	合唱～	6	～債	3
対立-する	7	生徒～	5	青年～	3	～自治	3
		青年～	7				

匿名～〔地方 続き〕	16	前後～〔裁〕	3	直線 匿名～	4	* 低位 雑～株	3
ちまうちしまう		中細・毛糸	4	直面-する	5	低下	
* 致命-傷	3	注目		* 貯蔵-する	3	～する	8
ちやうちしまう		～される	12	ちょっと-する〔ちよ つとした の形で〕	15	コスト～	5
着 匿名～	9	～する	7	貸金 最低～	3	提起-する	8
ちゃん		注文-する	3	追求-する	5	抵抗-する	6
匿名～	82	中立-主義	3	通 匿名～	9	帝国	
赤～	19	庁		痛 神経～	7	～主義	4
おば～	4	企画～	3	通過-する	5	～ホテル	3
お-母～	9	警視～	7	通勤-用	3	匿名～	7
父～	3	防衛～	7	通行人	6	停止-する	3
お-父～	3	長		通産-省	7	提出	
お-ばあ～	3	委員～	6	通用-する	5	～される	4
坊～	3	〇〇-課～	13	使ら 使い-方	6	～する	9
中		幹事～	3	月〔month〕 匿名～	18	定植-後	3
〇 小〔中小企業 17〕	24	〇〇-局～	11	次 お～	3	訂正-する	6
匿名～	3	工場～	3	つきあい お～	4	停滞-する	4
匿名-月〔がつ〕～	7	参謀～	3	つく〔村〕 ついて		程度	
建設～	4	支店～	3	る	4	匿名-円～	5
在学～	6	〇〇-所～〔〇所長 も見よ〕	3	次ぐ 相～	8	匿名-割～	3
昨年～	3	書記～	3	尽す 〇〇-し～	3	* 抵当-権	3
撮影～	5	〇〇-部～〔〇部長 も見よ〕	10	作り目-する〔編物〕	10	出入り-する	8
実施～	3	分隊～	3	作る		* 停留-所	4
戦時～	3	編集～	3	作り-方	43	* 出かけ〔名〕 お～	3
戦争～	10	理事～	3	お-作り	3	手形-債務	3
滞在～	3	町〔市町村の〕 匿名～	11	付け 方向～	3	手紙 御～	10
夏休み～	4	* 町〔距離・面積〕 匿名～	5	つける つけ-方	4	的	
留守～	3	挺・丁 匿名～	9	都合	4	匿名～	3
注意		調 匿名～	3	～する	4	匿名～	9
～する	26	調印-される	3	不～	4	圧倒～	9
～深い	3	長官		続き 見返し～〔裁〕	6	安定～	5
中央		匿名～	5	勤め お～	3	医学～	3
～線〔裁縫の場合 2〕	6	〇〇-庁～	4	粒 匿名～	4	意識～	8
～布〔裁〕	5	調査-する	7	坪 匿名～	17	一時～	4
後〔うしろ〕～〔裁〕	31	* 長者 匿名～	3	積立 再-評価～	5	一般～	12
前後～〔裁〕	3	調整-する	3	詰(名)-将棋	3	印象～	4
前～〔裁〕	23	頂戴-する	5	強い		音楽～	3
中華-料理	3	町歩 匿名～	10	強-すぎる	3	科学～	9
* 虫害 病～	3	重宝-する	4	お-強い	3	〇〇-学～	9
中学-校	10	調味-料	7	貫く 貫き-通す	3	画期～	10
中級-品	3	丁目 匿名～	6	連れ		学問～	3
忠告-する	3	調和-する	7	家族～	3	家庭～	4
駐在		貯金		二人～	3	技術～	5
～所	3	～する	4	手		基本～	7
匿名～	3	預～	4	匿名～〔碁, 将棋の〕	7	容観～	4
中止-する	3	* 直結-する	3	お～	3	逆説～	3
注射-する	4	直接		手合(てあい) 大～	3	教育～	4
* 中将 匿名～	5	～税	3	邸 匿名～	12	近代～	6
中心		～的	4	提案-する	6	具体～	22
～部	3					軍事～	4
後〔うしろ〕～〔裁〕	4					計画～	3

経済～〔的 統き〕	19	伝統～	4	ローマ字～	3	自由～	10
形式～	4	道徳～	4	店		保守～	3
芸術～	3	都会～	4	喫茶～	14	民主～	13
決定～	5	内面～	3	小売～	9	島 匭名～	29
現実～	7	肉体～	7	百貨～	3	等〔例示の〕	
公～	3	人間～	4	理髮～	3	〇〇-体～	3
効果～	7	能率～	4	点		等～	3
後天～	3	発生～	3	匭字～	33	等〔等級〕 匭字～	22
合理～	6	美～	3	問題～	3	塔 高压～	3
国際～	6	比較～	15	* 転 匭字～	3	糖	
国民～	5	批判～	4	* 転化-する	3	甜菜～	5
個人～	11	病～	4	展開		匭字-番～	3
個性～	3	物～	5	～される	4	ブドウ～	4
根本～	10	物質～	3	～する	10	道	12
財政～	3	部分～	5	電気		匭名～〔東海道 4〕	5
時間～	3	文化～	3	～機械	3	武士～	3
思想～	3	文学～	4	～洗濯-機	6	* 同位-元素	3
実質～	10	法～	4	典型的	4	動員	
実証～	3	封建～	7	転向-する	3	～される	3
実用～	4	本格～	9	電工 昭和～	4	総～	6
自動～	3	本質～	9	* 甜菜-糖	5	東海-道	4
自発～	3	民主～	3	電子-ビーム	3	当局 匭名～	4
社会～	12	理想～	7	伝統-的	4	峠 匭名～	8
主観～	4	理論～	4	電燈 懐中～	3	* 同権 男女～	3
〇〇-主義～	12	歴史～	8	天然		投資	
宿命～	3	滴 匭字～	3	～色	6	～家	3
消極～	7	出来上り-寸法	4	～繊維	3	～する	3
心～	3	出来る		天皇 大正～	3	海外～	5
人工～	3	出来-やすい	3	展覧-会	5	設備～	3
人種～	5	期待-出来る	5	電話-する	3	* 当事-者	5
進歩～	3	実行～	3	都 匭名～	53	同士 〇〇-者 (も の)～	3
心理～	7	理解～	5	度		当社-株	12
性～	6	デザイン-する	6	匭字～	170	投手	
政策～	3	弟子 兄～	3	安静～	3	～陣	5
政治～	18	鉄 合金～	4	幾～	15	～団	3
精神～	13	哲学		何～	21	匭名～	16
生理～	3	～者	5	匭字-年～	12	投書-する	3
世界～	16	衣裳～	3	父(とう)		登場-する	17
積極～	21	鉄鋳-会社	4	お～様	4	同情-する	3
絶対～	6	徹底		お～さん	22	* 道成-寺	3
全国～	7	～する	6	～ちゃん	3	頭身 匭字～	3
全般～	6	～的	5	お～ちゃん	3	統制	
全面～	7	鉄道 匭名～	7	灯		～額	6
総合～	6	* 撤廃 統制～	3	螢光～	4	物資～	3
相对～	3	* 手々 お～	3	殺菌～	3	当選-する	6
代表～	13	デビュ-する	4	党		到達-する	5
男性～	3	寺 お～	3	匭字～	3	到着-する	5
知～	4	てる⇨居(いる)		共産～	31	道徳-的	4
直接～	4	出る 出-そう	3	共和～	3	東南-匭名	10
徹底～	5	テレビ		国民～	4	導入-する	3
典型～	4	～放送	3	自民～	13	* 同人-等(ら)	3
				社会～	28		

* 銅版-画	3	共(ども)私(わたくし)~	26	なす なし-得る	3	入選-する	3
投票 人気~	3	友達 お~	8	夏-場所	3	* 尿毒-症	6
動物-園	5	取り 匱字-本~	6	懐しい 懐し-がる	3	似る 似-てる	3
等分 匱字~	8	取締-役	3	納得-する	3	人	
東宝 新~	4	努力-する	18	夏休み-中(ちゆう)	4	匱字~	260
逃亡-者	3	取る 年~	3	何(なに, なん)		幾~	5
東洋-アルミ	3	ドル 匱字~	60	~匱字(何万 など)	5	見物~	3
動揺-する	3	* トルク-コンバーター	3	~回	7	支配~	3
動力-車	3	* ドレメ-式	4	~カ月	4	集配~	3
十日-間	6	トン		~する[~しろ など]	29	使用~	6
通す 貫き~	3	~当り	3	~度(ど)[回数]	21	上告~	4
通り		匱字~	58	~人	16	数~	5
匱字~	16	内 匱字-市~	7	~年	15	数十~	4
文字~	5	ない		~枚	3	通行~	6
予定~	3	なさ-そう	4	* 浪花-節	4	何~	16
都会		疑い-ない	4	なる		被告~	11
~的	4	遠慮~	4	相~	3	弁護~	3
大~	4	限り~	5	なっ-ちまう	4	人気	
時 匱字~	4	変り~	3	~ちゃう	11	~歌手	3
ドキドキ-する	3	関係~	4	~とる	3	~投票	3
とく~置く		差支え~	6	なり-得る	3	~者	4
得意 お~	6	仕方~	14	~勝ち	4	人間	
特攻-隊	4	相違~	8	~かねる	3	~性	5
* 独航-船	3	増減~	4	~切る	5	~的	4
特殊		頼り~	3	~切れる	3	~らしい	4
~鋼	3	違い~	62	~過ぎる	3	認識-する	3
~事情	4	間違い~	14	~そう	6	妊娠-する	6
~性	3	申し訳~	7	* 男 匱字~	4	認知	
特定-する	3	問題~	7	南極-大陸	3	~事項	3
特別-措置	3	内閣		何百-年	3	~無効	3
独立		~総理-大臣	3	兄(にい)		総目 袖下~[裁]	6
~する	6	匱字~	18	お~様	4	総う 縫い-方	23
民族~	3	* 内面-的	4	~さん	7	* 吐(ぬ)かす 吐かし	
* 髑髏-銭	3	内野-手	4	お~さん	3	-やがる	3
年		内容 資産~	3	難い		主(代名) お~	8
~取る	4	直す 考え~	3	傷け~[傷けられ~ 3]	4	布	
半~	16	仲-よい	5	〇〇-し~	3	中央~[裁]	8
* 年玉 お~	4	* 長着 袷~	3	肉体-的	7	見返し~[裁]	10
図書館	3	長さ 匱字-糧~	3	西-前頭	3	* 寝(名)-小便	3
突進		* 中ぬい-する[裁]	3	日 ¹ -教組	11	姉(ねえ)	
~させる	3	仲間-違	5	日 ² 匱字~	274	お~様	3
~する	3	投(なげ)		日常-生活	7	~さん	17
突破-する	5	上手~	9	日曜-日	11	願い お~	12
隣り お~	3	こて~	3	日記 浮草~	3	願う お-願い	13
殿		下手	8	日ソ-交渉	11	* 熱中-する	4
~様	7	なさる		* 日長 匱字-時間~区	4	寝る 寝-てる	4
匱字~(どの)	18	買い-なさい	3	にやにや-する	5	年	
飛ぶ 空~	3	ごめん~	10	入[輸入] 輸出~	5	匱字~	821
止り 衿付~[裁]	13	ごらん~	9	入院-する	4	一昨~	13
止め ゴム編~[細物]	5	し-なさる[なさい2]	4	入学-する	3	元~	4
供 お~	4	なじみ お~	3	入社-する	7	地球-観測~	4
						数~	21

何～	16	～する	3	～される	17	半期	
何百～	3	死刑～	3	～する	23	上～	3
* 年中・行事	4	買収-する	3	発行		下～	3
年度		売春-婦	6	～所	3	判決 法廷～	3
匱乏～	8	賠償 匱乏～	3	～する	3	犯罪 完全～	5
昨～	5	配色-系	11	* 抜粋-する	3	繁殖-法	4
本～	5	配当		発生		半身 上～	3
明～	3	～率	7	～する		反省-する	9
脳-下垂-体	3	安定～	4	自然～	12	反対	
能 放射～	3	匱乏-分(ふ)～	12	発達-する	8	～側	4
農業		匱乏-割～	17	拔擢-される	6	～する	10
～共済	4	俳優		発電 原子-力～	7	正～	5
～政策	3	～座	4	発展		判断	
* 農産-物	3	映画～	4	～させる	5	～させる	3
農試 匱乏～	7	培養 耕土～	3	～する	16	～する	8
* 農相 匱乏～	3	入る お-入り	3	発売-される	3	反応 核～	3
農地-改革	4	バカ-ヤロー	3	発表		販売	
* 農繁-期	5	葉書 絵～	3	～される	10	～員	5
* 農務-省	4	泊 匱乏～	7	～する	23	正札～	4
能率-的	4	爆撃-機	3	話 お～	25	* 反駁-する	3
* 膿漏 齒槽～	3	博士 匱乏～	22	話す		反発-する	5
農林		* 白状-する	3	話し-合ら	5	繁忙 大～	3
～省	19	爆発-する	6	お-話し	10	日	
～水産	5	暴露-する	4	幅		記念～	6
～大臣	3	箱 匱乏～	8	匱乏～	3	誕生～	5
* ノック-する	3	破産-する	3	匱乏-センチ～	23	日曜～	11
伸びる 伸び-過ぎる	3	始める		匱乏-糧～	3	労働～	3
飲む 飲み-出す	3	踊り～	3	匱乏-ミリ～	4	非-〇〇-的	8
* 乗組-員	3	〇〇-し～	15	原 匱乏～	4	費	
派		みえ～	3	払込		医療～	3
匱乏～	5	持ち～	3	匱乏-円～	9	組合～	3
印象～	5	場所		平均～	3	工事～	3
主流～	7	匱乏～	4	針		人件～	4
戦前～	4	秋～	6	匱乏-号～〔編物〕	25	治療～	3
婆(ばあ)		今～	3	匱乏-本～〔編物〕	7	養育～	3
～さん	3	前～	4	馬力 匱乏～	4	尾 匱乏～	7
お～さん	11	夏～	3	春-場所	3	美	
お～ちゃん	3	初～	9	反-主流	4	～男子	3
% 匱乏～	125	春～	3	半		～的	3
杯 匱乏～	71	走る 走り-出す	4	～年(とし)	16	ビーム 電子～	3
敗 匱乏～	11	初		匱乏時～	10	被害-者	6
倍		～出演	4	匱乏-時間～	4	比較	
匱乏～	32	～場所	9	匱乏-畳～	6	～する	14
～増資	3	発〔発射〕 匱乏～	10	匱乏-年～	6	～的	14
倍額-増資	5	発育-する	3	版 匱乏～	3	東-匱乏	5
* 売却-する	3	発芽-する	4	藩 匱乏～	5	匹 匱乏～	11
配給-費用	3	発揮		判 □-マ字～〔A5 判 など〕	5	引返し-編〔編物〕	21
俳句 新興～	5	～させる	5	晩 匱乏～	10	鋭 無精～	3
拝見-する	4	～する	13	番 匱乏～	53	飛行	
廃止		はっきり-する	29	反映-する	8	～機	27
～される	3	発見		半額-増資	7	～場	8

被告-人	11	～する	10	仄召～	3	負担 増資～	5
美術		病死-する	4	匱召～	4	部長 ○○-科～	
～家	3	表情 無～	4	風景-写真	3	[⇨長も見よ]	3
匱召～	4	評論-家	11	* 風靡-する	3	* 仏(ぶつ) アミダ-ブ	3
微笑-する	4	* 飛来-する	3	夫婦		物	
* 飛曹 匱字～	3	披露		～喧嘩	4	～的	5
左-脇明き〔裁〕	5	～する	4	～生活	5	遺失～	7
びっくり-する	18	婚約～	4	仄召～	4	農産～	3
ぴったり-する	4	品		* フェダン〔エジプトの地		有機～	3
ヒット-する	4	化粧～	5	産) 匱字～	4	二日-目	3
引っ張る 引っ張り		国産～	4	フォーム 打撃～	4	物資-統制	3
-出す	3	中級～	3	部下-たち	3	物質	
必要		必需～	3	深い		～的	3
～性	3	不		奥～	3	抗生～	5
不～	5	～安定	4	興味～	9	* 沸騰-する	4
否定		～可能	10	注意～	3	物品-管理	4
～する	6	～機嫌	3	* 附記-する	3	物理学	6
～出来る	3	～経済	6	附近 匱字～	5	* 風土-記	4
非鉄-金属	3	～公平	3	服 ¹ 学生～	3	葡萄	
人-達〔若い～達 など〕	79	～合理	3	* 服 ² 〔助数〕 匱字～	4	～酒	7
ひどい ひど-過ぎ		～自然	3	副		～糖	4
る	4	～自由	10	～会長	3	蒲団 座～	6
人差-指	6	～都合	4	～作用	4	部分	
* 檜-舞台	4	～必要	5	～産物	3	～的	5
批判		～名誉	3	～社長	5	大～	20
～する	4	～愉快	4	～○○-長	6	* ブラザーズ 仄召～	3
～的	4	～用意	4	復活-する	4	振り	
仄召～	6	～履行	3	復興-する	4	匱字-カ月～	3
批評		府 匱字～	5	* 服従-する	3	匱字-年～	6
～家	7	婦		袋 こじき～	3	不良-化	3
～する	4	看護～	20	夫妻 仄召～	7	プリント	
姫 仄召～	8	従業～	3	負債		～する	5
* 百貨-店	3	譜 第-匱字～	12	他人～	3	オーバー～	3
費用 配給～	3	分(ぶん) 匱字～	137	流動～	3	フル-操業	4
表		部		節		ブレーン-アフガン	3
第-匱字～	9	匱字～	22	三階～	3	風呂 お～	6
一覽～	3	園芸～	3	浪花～	4	プロ-野球	14
票 匱字～	10	下腹～	3	武士-道	3	* ブロック ㊦-マ字～	3
秒 匱字～	23	司令～	13	* 無精-髭	3	分(ぶん)	
病		宣伝～	3	夫人		匱字～	91
～害虫	3	中心～	3	仄召～	35	数～	4
～的	4	編集～	20	㊦-マ字～	6	分(ぶん)	
胃腸～	3	無・不(ぶん)		婦人		匱字～	3
精神～	3	～気味	7	産～科	4	いせこみ～〔裁〕	4
* 病〔病害〕-虫害	3	～器用	3	職場～	3	折返し～〔裁〕	6
病院 匱字～	5	* 歩合 公定～	3	不足-する	5	増資～	3
評価		ファン		舞台		匱字-人～	4
～される	8	仄召～	3	～装置	3	身返し～〔裁〕	5
～する	6	映画～	3	檜～	4	分の〔分数〕	
再～	8	音楽～	3	二人		匱字～	96
表現		風		お～	5	匱字-日～	3
～される	4			～連れ	3	文化	

～財	4	～長	3	防除	3	発足-する	6
～史	3	～部	20	～法	3	ホテル	
～式	8	編成-される	3	共同～	3	匿名～	4
～人	7	歩 匿名～	25	* 放心-する	3	帝国～	3
～的	3	* 母〔祖母〕 祖父～	4	法人-税	7	程-よい	3
～放送	4	ばい		* 放線-菌	3	本 ¹ 匿名～	149
憤慨-する	6	子供っ～	3	放送		本 ²	
文学		白っ～	5	～局	6	～会議	3
～者	14	方 匿名～	16	～される	5	～年度	6
～的	4	法		匿名～	5	本因-坊	4
匿名～	5	～的	3	短波～	3	* 本營 大～	5
近代～	5	管理～	4	テレビ～	3	本格的	9
* 文教-委員	3	〇〇-業～	4	文化～	4	本質-的	9
文芸-春秋	4	〇〇-禁止～	3	民間～	3	ポンド 匿名～	20
分析-する	5	〇〇-区～	4	* 宝蔵-院	3	本部	
紛争 匿名～	3	〇〇-組合～	3	法廷 小～	3	参謀～	3
文通		警察～	3	方面		党～	3
～致す	5	戸籍～	6	匿名～	13	* 本墨-打	3
～する	6	充実～	4	多～	5	間	
分離-する	3	〇〇-税～	6	訪問-する	3	匿名～	3
兵		設置～	3	法律-寮	4	応接～	5
匿名～	5	測定～	6	* 法隆-寺	3	枚	
上等～	4	繁殖～	4	暴力-教室	3	匿名～	153
匿名等～	4	遺失-物～	3	抛る 抛(ほ)っ-とく	3	何～	3
兵器 原子～	3	防寒～	4	ホール 匿名～	3	毎日-新聞	6
平均		防止～	3	僕		マイル 匿名～	8
～する	3	防除～	3	～たち	10	前	
～払込	3	報 匿名～	3	～ら	17	～打合せ〔歳〕	5
平家-物語	3	坊		北海道-〇〇公社	3	～中央〔歳〕	23
閉口-する	3	～さん	5	北洋-漁業	3	～見返し〔歳〕	6
* 炳靈-寺	4	～ちゃん	3	* 捕鯨 極洋～	3	～身頃〔歳〕	81
平和		匿名～	14	保健 匿名～所	4	〇〇-駅～	3
～運動	4	匿名-男～	6	保険 健康～	5	数-日(じつ)～	6
～条約	6	某 匿名～	4	保護		匿名-日(にち)～	4
頁 匿名～	60	紡 匿名～	4	～育成	3	匿名-人～	15
部屋		防衛-庁	7	～する	4	匿名-年～	38
お～	3	貿易		* 補佐-する	3	匿名-分(ぶん)～	3
仕度～	3	～協定	3	干(名)ぶどう	3	夜明け～	3
片 匿名～	8	匿名～	5	欲しい 欲し-がる	4	前頭 西～	3
辺 匿名～	4	* 望遠-鏡	3	保守-党	3	前脇-身頃〔歳〕	3
遍 匿名～	6	防寒-法	4	捕手 匿名～	4	まかせせる お-まかせ	3
編 匿名～	7	放棄-する	5	保障		幕 匿名～	3
変化-する	10	封建-的	7	安全～	4	町 匿名～	19
勉強-する	17	方向		社会～	5	* 待合-室	3
偏見 〇〇-的～	3	～付け	3	保証-される	3	間違いない	14
弁護		～転換	3	母船-式	3	まち附-線〔歳〕	3
～士	11	奉公-人	4	保存		末	
～人	3	報告-する	7	～食	3	匿名-月(がつ)～	15
返事 お～	3	放射		～する	4	昨年～	4
編集		～性	5	ボタンホール〔歳〕		待つ	
～者	3	～能	3	玉縁～	6	待つ-てる	5

お待ち	20	見本-市	3	匱乏～	18	尤も ご～	3
相待つ	4	宮 匱乏～	3	匱乏-回～	8	物・者	
* 松坂-屋	4	* 明-年度	3	匱乏-代～	12	～言う	4
マヒ 小児～	4	ミリ 匱乏～	43	匱乏-段～	11	～たち	4
険 二重～	5	耗 匱乏～	16	匱乏-度～	8	～同士	3
丸		魅力-ある	3	匱乏-頭～	3	匱乏～	5
匱乏～	6	見る		匱乏-日～	3	人気～	4
匱乏～〔船名〕	6	見-方	22	匱乏-人～	3	物語 匱乏～	12
* まわし 化粧～	3	～給う	3	匱乏-年～	12	木綿-糸	3
廻り 匱乏～	5	～てる	9	匱乏-番～	9	模様	
* 満載-する	3	民間-放送	4	二日～	3	～編	20
* 万字-組	3	民主		匱乏-枚～	6	匱乏～〔編物〕	17
満洲-事変	3	～主義	8	三日～	6	文 匱乏～	3
満足-する	7	～的	3	四日～	4	門 羅生～	3
* 満蒙-計略	3	～党	13	名 ¹		問 匱乏～	9
未		自由～党	4	～選手	4	問題	
～完成	4	民族-独立	3	～探偵	3	～点	3
～成年	3	民謡 匱乏～	3	名 ² 〔助教〕 匱乏～	56	～ない	7
見合 お～	3	無		銘柄 匱乏～	4	匱乏～	4
見返し		～意識	11	名人		匱乏～	3
～奥〔裁〕	8	～意味	4	～戦	3	改正～	3
～線〔裁〕	13	～関係	3	匱乏～	3	黒人～	3
～縫き〔裁〕	6	～関心	3	名誉 不～	3	諧～	6
～布〔裁〕	11	～軌道	6	命令-する	5	大～	7
～分〔裁〕	5	～責任	3	米(メートル) 匱乏～	52	領土～	8
後(うしろ)～〔裁〕	4	～造作	4	* 召す お-召し	3	匱乏～	27
裏～〔裁〕	4	～表情	4	目出度い お～〔お目出度〕	5	夜 匱乏～	9
前～〔裁〕	6	向き		面 匱乏～	13	屋	
* 三国-商工	4	一般～	5	綿-製品	4	匱乏～	7
身頃		外出～	3	免許 運転～	3	匱乏～	13
後～〔裁〕	58	〇〇-様～	3	面積 耕地～	3	植木～	4
裏～〔裁〕	5	無効 認知～	3	面倒-臭い	3	自動車～	3
表～〔裁〕	3	無視-する	10	申し訳		洗濯～	4
前後～〔裁〕	13	無償		～あり(ません)	3	松坂～	4
前～〔裁〕	81	～交付	7	～ない	7	洋服～	4
前脇～〔裁〕	3	匱乏-円～	5	申す おい～〔方言。持つおい～ など〕〔おいく盛り〕	3	料理～	3
脇～〔裁〕	3	息子		モーターズ ジェネラル～	3	ヤール 匱乏～	48
ミシン 地縫～	3	～さん	3	目 匱乏～	9	やがる	
みじん-切り	4	一人～	5	* 黙認-する	3	い～	3
水-加減	3	娘		文字		て～〔してやがる など〕	4
店 お～	7	～さん	13	～通り	5	吐(ぬ)かし～	3
三日		～時代	3	指定～	3	野球 プロ～	13
～間	5	～たち	7	持つ ¹		役	
～目	6	お-転婆～	4	持ち-得る	4	匱乏～	6
* 密着-する	3	* 棟 匱乏～	3	～方	4	相手～	3
皆		* 胸幅-線〔裁〕	3	持つ ¹		検査～	3
～様	23	村 匱乏～	19	～はじめる	3	相談～	3
～さん	25	目 ¹		持つ-てる	3	取締～	3
南-匱乏	11	匱乏～	451	お-持ち	3	薬剤-撒布	3
* 身代-金	3	お～	7	もつ ² 前-もって	3	約束-する	8
身分-証明	3	目 ² 〔順序〕				屋敷 お～	3

やす[方言]		いい-加減	3	子~	3	* 留置-場	4
くれ~ [おくれやす など]	3	良-すぎる	3	此~	69	流動	
やすい		よさ-そう	6	区名-氏~	7	~資産	5
起し~	4	色-よい	4	それ~	24	~負債	3
し~	6	運~	3	同人(どうにん)~	3	利用	
親しみ~	3	機嫌~	3	僕~	17	~される	5
でき~	3	仲~	5	奴(やつ)~	3	~する	43
わかり~	5	程~	3	我~	14	員外~	3
休み お~	5	用		来 ○○-年~	8	両[おかねの] 匱乏~	12
奴(やつ)-ら	3	御~	9	来日-する	4	料 調味~	6
宿 木賃~	4	工業~	4	らしい		量 生産~	3
山 匱乏~	20	自家~	5	子供~	3	寮 智徳~	3
やる		刺繡~	3	人間~	4	了簡 御~	4
やっ-てる	6	男子~	5	ラジオ-匱乏	4	兩國 匱乏~ [日米~ など]	4
やり-方	19	通勤~	3	里 匱乏~	7	領土-問題	8
ヤロー バカ~	3	洋 匱乏~	21	利益		* 兩人 御~	5
湯 お~	6	用意		~金	7	療法 化学~	4
油 揮発~	3	~する	11	~率	13	療養-所	9
* 遺言-状	4	不~	4	理解		料理	
有意義	4	* 養育-費	3	~される	3	~屋	3
誘拐-される	4	要求		~する	14	匱乏~	8
有機-物	3	~される	6	~出来る	5	お~	9
* 遊撃-手	4	~する	10	履行		旅客-機	5
* 友好-条約	3	洋裁-学校	6	~する	3	力	
有効-需要	3	* 用紙 原稿~	3	不~	3	演技~	3
優勝	3	幼稚-園	10	離婚-する	3	活動~	3
~候補	3	要点 ○○-方(かた) ~ [難い方~ など]	18	理事		供給~	4
~する	13	洋服-屋	4	~会	9	原子~	34
融通-する	3	羊毛-工業	3	~長	3	収益~	3
郵便-局	3	* 要約-する	3	理想-的	7	生活~	3
愉快 不~	4	予期-する	3	立-候補	3	生産~	6
行き 匱乏~	9	預金 銀行~	3	率		政治~	3
行く		* 浴 海水~	3	回転~	4	労働~	6
行き-方	11	* 抑留-者	3	混用~	5	旅行	
~そう	3	予算		純益~	10	自転車~	4
行っ-てる	3	~委	3	成長~	4	新婚~	3
輸出		外貨~	3	配当~	7	* リラ 匱乏~	3
~信用-状	3	予想		利益~	15	* 履歴-書	3
~する	5	~される	15	立教-大学	3	理論-的	4
~船	3	~する	6	* 理髮-店	3	厘 匱乏~	15
~入	5	四日-間	4	流		留守-中	3
輸入(へい入も見よ)		予定-する	3	区名~	13	礼 お~	10
~価格	4	読売-新聞	4	匱乏~	3	令 学校~	7
~する	4	嫁		匱乏~	13	例 匱乏~	8
緊急~	3	お~	8	留学-する	4	礼儀-正しい	4
指 人差~	5	~さん	3	流行		冷蔵-庫	3
許す お-許し	3	読む 読ん-でる	4	~歌	7	レーヨン 匱乏~	6
余 匱乏~	18	等(ら)		~する	7	歴史	
預(預金) ~貯金	4	区名~	36	* 粒子 素~	3	~学	7
夜明け-前	3	彼女~	5	* 流出 社外~	3	~的	8
よい		彼~	79			列 匱乏~	3

* 列島 匱孛～	4	～共	26	匱孛-時代	4	匱孛-某	4
劣等-感	7	わたし-達〔あたし達6〕	12	匱孛-社	3	匱孛-ホール	3
レフ 匱孛-眼～	6	ワット 匱孛～	8	匱孛-主義	11	匱孛-捕手	4
恋愛-する	5	笑う		匱孛-首相	15	匱孛-ホテル	4
れんが-色	3	笑い-方	3	匱孛-主将	4	匱孛-丸	6
連合		～出す	7	匱孛-巡査	12	匱孛-宮	3
○～会	5	割 匱孛～	163	匱孛-嬢	12	匱孛-名人	3
～軍	5	我-等	14	匱孛-將軍	5	匱孛-物語	12
連載-小説	3	俺 お～	6	匱孛-少佐	5	匱孛-問題	4
練習-する	3	* 湾 匱孛～	5	匱孛-少将	6	匱孛-屋	7
レンズ 匱孛～	3	* ワン ナンバー～	3	匱孛-女史	7	匱孛-等(ら)	36
連邦 匱孛～	4	A		匱孛-所長	4	匱孛-氏-等	7
連絡-する	3	～さん	4	匱孛-書店	3	匱孛-流	13
炉 原子～	5	～氏	3	匱孛-書房	3	匱孛-老人	8
路 匱孛～〔峠〕	6	～線	4	匱孛-姓	3		
労委 中～	3	～題	4	匱孛-関(げき)	9	匱孛-あたり	11
老人		* A B-型	3	匱孛-全権	7	匱孛-アルミ	3
～たち	4	N-氏	3	匱孛-選手	23	匱孛-医学	3
匱孛～	8	NHK-テレビ	3	匱孛-先生	52	匱孛-池	3
労働		S-紙	3	匱孛-船長	3	匱孛-医大	3
～組合	9	T-さん	3	匱孛-先輩	3	匱孛-生れ	9
～攻勢	5	付録 (p.293に追加あり)		匱孛-蔵相	3	匱孛-浦	6
～者	20	匱孛-翁	5	匱孛-総理	3	匱孛-運河	9
～収益	4	匱孛-和尚	3	匱孛-大佐	3	匱孛-映画	18
～日(び)	3	匱孛-親分	5	匱孛-大使	3	匱孛-映	34
～力	6	匱孛-外相	3	匱孛-大将	4	匱孛-踊り	4
重～	4	匱孛-会談	4	匱孛-大帝	3	匱孛-オリンピック	3
狼狽-する	5	匱孛-側	3	匱孛-大統領	4	匱孛-温泉	14
浪費-する	4	匱孛-監督	65	匱孛-大納言	3	匱孛-画	8
録音 街頭～	3	匱孛-記者	3	匱孛-達	13	匱孛-海	12
ロケ 匱孛～	4	匱孛-卿	3	匱孛-さん-達	17	匱孛-海岸	7
論 計略～	3	匱孛-教授	14	匱孛-ちゃん	82	匱孛-会議	3
わ 中央～〔裁〕	20	匱孛-兄弟	4	匱孛-中将	5	匱孛-会談	5
羽 匱孛～	8	匱孛-銀行	3	匱孛-長官	5	匱孛-革命	3
*話 匱孛～	4	匱孛-組	5	匱孛-郎	12	匱孛-歌劇	3
若者		匱孛-君	115	匱孛-的	3	匱孛-合作	3
～頭	4	匱孛-軍曹	3	匱孛-投手	16	匱孛-川	38
～たち	4	匱孛-家	44	匱孛-殿	18	匱孛-側	31
分る		匱孛-系	6	匱孛-内閣	18	匱孛-関係	3
分り-易い	5	匱孛-刑事	5	匱孛-農相	3	匱孛-艦隊	4
お-分り	5	匱孛-警部	3	匱孛-派	5	匱孛-汽船	3
別れ お～	5	匱孛-劇	4	匱孛-博士	22	匱孛-牛	3
脇-身頃〔袷〕	3	匱孛-元帥	6	匱孛-批判	6	匱孛-球場	4
脇明き 左～〔袷〕	6	匱孛-公	11	匱孛-姫	8	匱孛-漁業	4
脇丈 後～〔袷〕	4	匱孛-国師	4	匱孛-ファン	3	匱孛-局	5
わし-たち	3	匱孛-個展	5	匱孛-風(ふう)	3	匱孛-銀行	5
忘れる		匱孛-様	25	匱孛-夫婦	4	匱孛-区	62
忘れ-得る	3	匱孛-さん〔⇒道も見よ〕	585	匱孛-夫妻	7	匱孛-グループ	3
～難い	4	匱孛-氏〔⇒等(ら)も見よ〕	225	匱孛-夫人	35	匱孛-軍	36
私(わたくし)		匱孛-式	7	匱孛-ブラザー	3	匱孛-系	3
～達	98			匱孛-坊	14	匱孛-経済	6

麴-経由	4	麴-戦争	4	麴-流	3	麴-次-協定	3
麴-県	127	麴-造船	3	麴-兩國〔日米～など〕	4	麴-曲	7
麴-っ子	7	麴-大会	4	麴-料理	8	麴-局	8
麴-語	31	麴-大学	21	麴-レーヨン	6	麴-キロ	13
麴-高	22	麴-大使	6	麴-列島	4	麴-キログラム	4
麴-港	9	麴-大陸	3	麴-連邦	4	麴-籽	6
麴-号	4	麴-嶽	8	麴-ロケ	4	麴-キロワット	16
麴-鍼業	5	麴-探険	4	麴-計略-論	3	麴-句	4
麴-高原	5	麴-地区	8	麴-湾	5	麴-区	6
麴-交渉	8	麴-地裁	3	麴-足	4	麴-人-区	4
麴-工場	18	麴-地方	16	麴-年-余り	3	麴-クォート	4
麴-国	4	麴-駐在	3	麴-安打	5	麴-癖	3
麴-国内	4	麴-町〔市町村の〕	11	麴-位	31	麴-口	9
麴-国民	7	麴-調	3	麴-息	4	麴-組	20
麴-祭	3	麴-帝国	7	麴-因	3	麴-人-暮らし	3
麴-岬(さき)	4	麴-的	9	麴-インチ	13	麴-グラム	13
麴-山	21	麴-鉄道	7	麴-重(え)	7	麴-軍	3
麴-市	165	麴-都	53	麴-円	529	麴-景	4
麴-式	4	麴-島	29	麴-音	6	麴-カ年-計画	7
麴-支局	3	麴-道	5	麴-オンス	15	麴-月-決算	6
麴-事件	5	麴-当局	4	麴-課	3	麴-期-決算	3
麴-市場	4	麴-峠	8	麴-回	229	麴-件	10
麴-時代	6	麴-市-内	7	麴-階	47	麴-軒	17
麴-支部	5	麴-農試	7	麴-センチ-角	8	麴-間(けん)	14
麴-事変	5	麴-賠償	3	麴-em-角	3	麴-円-見当	4
麴-島	10	麴-原	4	麴-箇月	83	麴-分(ぶ)-見当	5
麴-州	17	麴-藩	5	麴-カ国	11	麴-個	65
麴-中(じゆう)	3	麴-版	3	麴-カ所	12	麴-カ月-後	4
麴-首相	5	麴-美術	4	麴-カ条	4	麴-日-後〔この項削除〕	5
麴-保健-所	4	麴-病院	5	麴-塊り	3	麴-年-後	19
麴-署	3	麴-府	5	麴-月(がつ)	593	麴-高	6
麴-省	5	麴-風	4	麴-カ年	14	麴-校	11
麴-商	7	麴-附近	5	麴-株	25	麴-項	10
麴-域	22	麴-文学	5	麴-円-搦み	3	麴-号	108
麴-条約	4	麴-紛争	3	麴-巻	16	麴-月-号	16
麴-諸国	7	麴-兵	5	麴-貫	34	麴-合	18
麴-女性	5	麴-辺	4	麴-カ月-間	6	麴-工場	3
麴-諸島	5	麴-紡	4	麴-期-間	3	麴-石	10
麴-人	98	麴-貿易	5	麴-年-間	72	麴-国	12
麴-新聞	9	麴-放送	5	麴-分(ぶん)-間	10	麴-等-国	3
麴-スキー-場	4	麴-方面	13	麴-流-館	3	麴-年-越し	4
麴-勢(せい)	5	麴-町	19	麴-眼	7	麴-言(こと)	11
麴-製鋼	4	麴-丸〔船名〕	6	麴-貫目	4	麴-目-ゴム編み	29
麴-製作	5	麴-民謡	3	麴-基	3	麴-月-頃	8
麴-製紙	8	麴-村	19	麴-期	22	麴-時-頃	18
麴-製鉄	6	麴-物	5	麴-月-期	56	麴-日-頃	4
麴-製糖	4	麴-問題	3	麴-機	19	麴-年-頃	15
麴-政府	18	麴-屋	13	麴-目-機〔編物で 百六十目機 など〕	3	麴-音(ごん)	8
麴-石〔大理～〕	4	麴-山	20	麴-球	9	麴-座	14
麴-線	7	麴-行き	9	麴-級	5	麴-年-祭	3
麴-選手	5	麴-洋	21	麴-行(ぎょう)	7	麴-冊	8

数学-円-札	4	数学-世紀	22	数学-割-程度	3	第-数学-表	9
数学-子(基)	3	数学-石	4	数学-滴	3	数学-票	10
数学-死	3	数学-隻	13	数学-点	33	数学-秒	23
数学-字	10	数学-節	6	数学-転	3	第-数学-譜	12
数学-次	37	数学-戦	7	数学-度	170	数学-分(ぶ)	137
数学-時	132	数学-回-戦	7	数学-年-度	12	数学-部	22
数学-試合	21	数学-銭	15	数学-党	3	数学-フェダン(地積)	4
数学-時間	76	数学-線	21	数学-等[等級]	22	数学-服(助数)	4
数学-式	3	数学-前後	3	数学-番-糖	3	数学-カ月-振り	3
数学-師団	5	数学-円-前後	8	数学-頭	12	数学-年-振り	6
数学-号-室	3	数学-船団	4	数学-頭身	3	数学-分(ぶん)	91
数学-日(じつ)	7	数学-センチ	331	数学-等分	8	数学-分(ぶん)	3
数学-社	12	数学-櫃	262	数学-通り	16	数学-人-分	4
数学-者	4	数学-仙(セント)	7	数学-時	4	数学-分の[分数]	96
数学-勺	8	数学-%-増	3	数学-本-取り	6	数学-日-分の[分数]	3
数学-尺	52	数学-回-総当り	3	数学-ドル	60	数学-等-兵	4
数学-首	4	数学-円-相当	7	数学-トン	58	数学-頁	60
数学-種	11	数学-大	18	数学-糧-長さ	3	数学-片	8
数学-周	5	数学-台	23	数学-男	4	数学-遍	6
数学-週	25	数学-代・台[order]	40	数学-日	274	数学-編	7
数学-重	10	数学-円-代・台	8	数学-時間-日長[~区]	4	数学-歩	25
数学-日-中(ちゆう)	5	数学-人-代・台	5	数学-人	260	数学-方	16
数学-年-中(ちゆう)	4	数学-回-大会	4	数学-年	821	数学-報	3
数学-週間	30	数学-大学	4	数学-年度	8	数学-男-坊	6
数学-周年	3	数学-次-大戦	5	数学-%	125	数学-本	149
数学-種類	8	数学-本-立ち	3	数学-杯	71	数学-ポンド	20
数学-升	3	数学-階-建	7	数学-敗	11	数学-間(ま)	3
数学-章	10	数学-本-立(だて)	3	数学-倍	32	数学-枚	153
数学-勝	23	数学-度(たび)	5	数学-分(ぶ)-配当	12	数学-マイル	8
数学-条	58	数学-反	6	数学-割-配当	17	数学-日-前	4
数学-城	3	数学-段	274	数学-泊	7	数学-人-前	15
数学-畳	22	数学-団	3	数学-箱	8	数学-年-前	38
数学-オ-少女	3	第-数学-段階	3	数学-場所	4	数学-幕	3
数学-小節	3	数学-酸化-炭素	3	数学-発(発射)	10	数学-月(がっ)-末(ま つ)	15
数学-番-勝負	3	数学-段落	4	数学-幅	3	数学-廻り	5
数学-色	8	数学-地域	3	数学-センチ-幅	23	数学-ミリ	43
数学-歳-女兒	3	数学-着	9	数学-糧-幅	3	数学-耗	16
数学-審	3	数学-中	3	数学-ミリ-幅	4	数学-円-無償	5
数学-凶	117	数学-月(がっ)-中	7	数学-円-払込	9	数学-棟	3
数学-名(十~名など)	9	数学-町(ちよう)[距離]	3	数学-号-針	25	数学-目	451
数学-時-過ぎ	7	数学-挺・丁	9	数学-本-針	7	数学-目(順序)	18
数学-筋	6	数学-長者	3	数学-馬力	4	数学-回-目	8
数学-宛	5	数学-町歩	10	数学-時-半	10	数学-代-目	12
数学-円-宛	5	数学-丁目	6	数学-時間-半	4	数学-段-目	11
数学-回-宛	4	数学-直線	4	数学-畳-半	6	数学-度-目	8
数学-本-宛	6	数学-通	9	数学-年-半	6	数学-頭-目	3
数学-目(め)-宛	20	数学-月(month)	18	数学-晚	10	数学-日-目	3
数学-寸	40	数学-粒	4	数学-番	53	数学-人-目	3
数学-期-生	5	数学-坪	17	数学-尾	7	数学-年-目	12
数学-年-生	18	数学-手(基・将棋の)	7	数学-匹	11	数学-番-目	9
数学-世	10	数学-円-程度	5	数学-飛曹	3	数学-枚-目	6

数学-名(助数)	56	数学-ヤール	48	数学-路(林)	6	ローマ字-図	5
数学-銘柄	4	数学-役	6	数学-羽	8	ローマ字-線	5
数学-米(メートル)	52	数学-余	18	数学-話	4	ローマ字-先生	5
数学-面	13	数学-里	7	数学-ワット	8	ローマ字-テレビ	3
数学-目(もく)		数学-流	13	数学-割	163	ローマ字-判[A5判 など]	5
数学-模様(編物)	17	数学-両	12	ローマ字-級	4	ローマ字-夫人	6
数学-文(もん)	3	数学-リラ	3	ローマ字-君	7	ローマ字-ブロック	3
数学-間	9	数学-厘	15	ローマ字-さん	17	ローマ字-レンズ	3
数学-夕	27	数学-例	8	ローマ字-氏	10	ローマ字-印(じるし)	9
数学-夜	9	数学-列	3	ローマ字-紙	3		
数学-ヤード	25	数学-眼-レフ	6	ローマ字-新聞	3		

追加

全-匁名	14	東南-匁名	10	南-匁名	11	何-数学(何万口など)	5
大-匁名	9	東-匁名	5	ラジオ-匁名	7		

5 同じ語か異なる語かの判別

5.1 この問題の分析

ある単位語にどのような見出しを与えて整理するか、裏からいえばある見出し語を定めたときその中に属する単位語としてどの範囲の単位語までを含めるか、すなわち集計単位のままめ方をどのようにするかは、語彙調査では重要かつ基本的な問題である。語をいかなるものとみるか、語の認定をいかに行なうかは語彙論上の重要問題であるが、ある見出し語にどんな単位語が属するかの問題は、その重要な一部をなすと考えられる。すなわちある単位語とある単位語とが同じ語であるか異なる語であるかは、語彙論の基本的な問題の一つであると考えられる。^{注1)}

同じ語か異なる語かの判別は語彙調査だけでなく、たとえば辞書を編集する時にも生ずる問題である。すなわち見出し語の立て方、分け方について問題になる。同じ語か異なる語かの問題は解決に困難な点があるが、これは次に示すように、辞典の見出し語の立て方がまちまちになっているということからも明らかである。

「あつい」という形容詞について、A『三省堂国語辞典』(1960)、B『辞海』(1954)、C『岩波国語辞典』(1963)を調べてみると見出しの立て方が下のようになっている。

	A	B	C		
厚い	}	}	}	動詞「つく」について、A『三省堂国語辞典』、B 広辞苑『(1955)』、C『辞海』	
篤い	}	}			
暑い	}	}			
熱い	}	}	}	を調べると、見出しの立て方が左下のようになっている。	
	A	B			C
次ぐ(自)	}	}			}
継ぐ(他)	}	}			
注ぐ(ろ)	}	}			

相違がみられる。^{注2)}このような点から、各辞典の間での見出し語の立て方の相違は見方によってはかなり大きいといえる。^{注3)}

注1) この種の問題について大きくまとめたものに O.C. Ахманова: *Очерки по общей и русской лексикологии*, Москва, 1957. がある。同書にはこの問題についての詳しい文献表が添えてある。

注2) ただし辞書の見出しは必ずしも同じ語か異なる語かの判別と正しく対応するものではなくて、一面便宜的な取り扱いも含まれている。たとえば『岩波国語辞典』では「外来語の場合は、別語であっても、かなで書いた形が同一である場合には一つの見出し語のもとに収め」ている。(同辞典凡例)

注3) フランス語の例については S. ULLMANN: *Précis de sémantique française*, Berne, 1952 および H. MITTERAND: *Les mots français*, « Que sais-je? », Paris 1963, 第一章。

以上のように同じ語か異なる語かの問題は辞書編集のさいにも生じ、辞書間で相違を生じている。語彙調査を行なうに際して、これについて何かある辞書を規準として用いるとすれば、他の辞書を用いたばあいと結果に相違を生ずることがあるわけである。また権威ある辞書があるとしてもそれに完全に従って行なえるとはいえないことを、『総合雑誌の用語』後編(報告13)の20ページで述べた。^{注4)}

アフマノバはこの問題を、語の意味、語の結合、語形、文体などの面に分けて詳しく論じている。たとえば語の意味に関しては、動詞の格関係などの統辞関係、派生語、などを挙げて、判別のためにはこれらは有効ではあるが結局補足的な手段にすぎずかつ万能でない、と言い、結局意味が最も重要であると言っている。(語の出自や品詞の相違については重要であると考えている。)アフマノバは意味のふれあいについて言及し、もともと別な意味なのか、一つの意味が拡張されて生まれた意味なのかを識別すべきであり、そのばあい意味につながりがあるかどうかを考慮することが必要であるといっている。^{注5)}

この調査での集計単位の定め方は第一分冊の14ページ以下に述べた。そこでは同じ語と認める単位語の範囲を主として形の上から定めることのできるものについて一般規則または枚举の形で示した。そのような方法で扱いたい、主として意味の相違に関して起こるものについては、報告13の付録Ⅲ(pp 108~115)に「同じ語か異なる語かの線型判別関数による決定」のしかたが述べてある。

同じ語か異なる語かを判別することの必要な語を概観すると、そこにある問題にさまざまな種類のものがあることに気がつく。たとえば、「黄色い—黄色な」の対がもっている性格と、「愛慾—愛欲」の対がもっている性格とは明らかに相違がある。これに対して「黄色い—黄色な」の対がもっている性格と「暖かい—暖かな」の対がもっている性格とは明らかな類似性を持っている。「愛慾—愛欲」に対する「崩潰—崩壊」についても同様のことがいえる。ここでこれらすべてに共通の処理法は考えられないが、そのなかの類似のものについては共通の処理法を考慮することができる。このように同じ語か異なる語かの判別を要する語を集めてその性質によって分類してみることも、この問題の解決のための一つの方法であると考えられる。それゆえ、同じ語か異なる語かの判別を要する語の性格について、観察する。

ここでは考えられるさまざまな観点の中から二つの観点を取りあげて述べる。一つは発生的な観点、他は語形と意味の並行性という観点である。

5.11 語 の 変 化

同じ語か異なる語かの問題は種々様々のばあいに生まれているが、これを発生的にみると、次の

注4) 「見出し語は、同じ語の範囲にある単位語から抽象したものと言える。従って、もしその範囲の一つの単位語だけからでも、それが属する見出し語を定める仕方があるとするれば、個々の単位語についてそれぞれ見出し語を立て、同じ見出し語をもつものをまとめていくという操作は、上記の操作と等価である。〔中略：これは〕権威ある辞書に従って完全に行えると言われるかも知れないが、そうではない。たとえ理想的な辞書が既にあるとしても、(1)その見出しとして、語彙調査の調査時に使われているすべての語をあらかじめ立てているとは期待出来ず、(2)集計単位の観点から見て、辞書の見出しが等質的かつ排反的であるとも期待出来ないからである。』(『総合雑誌の用語』後編、1958)

注5) Ахманова: *op. cit.*, p. 104 ff.

二つでその多くをおおうことができるであろう。

1° 何らかの事情で同音語が生まれたばあい。

2° 何らかの事情で、ある語のなかで語形、意味、用法上の若干の変異、拡張が生じたばあい。

ここで「生まれた」「生じた」のは必ずしも現代に限らない。過去において生じ、その結果が現代に残っているものも合わせて考える。

同音語が生まれれば、それを識別するという意味で同語別語の問題が起こるのは明らかであるが、語形・意味・用法に新しい変異が生じたばあいにも、どこまでそれをまとめてみるかという点で同語別語の問題が生ずるわけである。1°と2°とではそのような点に相違があり、それゆえにはじめに1°と2°を区別してみた。

1° 同音語が生まれたばあい。

これにも種々のばあいがある。^{注6)}最も普通なのは音韻変化によって同音語が生まれたばあいである。たとえば音<オイ>に対する語「老い(おい)」「笈(おひ)」「甥(をひ)」の三語があるとき。このような場合には一般的に言って同じ語か異なる語かの判別に困難することが少ない。

借用した語が同音語になることがある。シュウトに対する「舅」「宗徒」「shoot」「chute」。このよなばあいにも、一般に見分けることはそう困難ではない。

活用に関係したものとしては、たとえば「耐ふ」、「絶ゆ」から生まれた「耐える」、「絶える」がある。

語形の面からは、「見やる」「思いやる」の「やる(遣る)」と、「来やる」「居やる」の「やる」なども形態的に同音語になった例といえよう。

一般的にみて1°に属するもので判別に困難なものは少ない。

2° 語形、意味、用法の変容。

前項に比べて、この方が問題がむずかしい。これをさらに a 語形、b 文法的な用法、c 意味の三つに分けてみる。

a 語形

1) 「おい(呼びかけ)」と「おおい」、「あまり」と「あんまり」、「とても」と「とっても」などのように語を長くするばあい。

2) 「さようなら」と「さよなら」、「ほんとう」と「ほんと」、「赤ん坊」「赤んぼ」などのように語を短くするばあい。

3) 「それなら」と「そんなら」、「あたたかい」と「あったかい」、「わたくし」と「あたくし」、「ばあい」と「ばわい」「ばやい」などのようにある音が他の音に変化するばあい。

この3)の中には「まんよう」と「まんにょう」のような連声^{れんじやう}を含めることもできる。「はしら」と「電信ばしら」のような連濁^{れんじやく}の類も含めることができるかもしれない。また「かつて」から「かつて」、「あまささえ」から「あまつさえ」が出たなどの例を含めることもできる。

a の、語形の類の取り扱いについては第一分冊の15ページ以下に述べてある。語形の異なりと

注6) 『同音語の研究』(国立国語研究所報告20, 1961) p.11 ff.

いっても、全体としてはほとんど同じであるが語の一部が異なっているものである。また、語形が異なるのに対応して語の意味用法もいくらか異なるものがある。

b 文法的な使用法

同一の語が二つの異なった使用法をもつようになることがある。そのはなはだしいばあいには品詞の転成が行なわれる。

品詞の相違に關係を及ぼすものとして次のようなものがある。

名詞類 ある種の名詞には助辞類を伴わずに副詞的に用いられるようになったものがあり、そのなかには完全に副詞化し、あるいは副詞の用法しかもたなくなつたと思われるものもある。たとえば「いきおい」「さいわい」「心持ち」「正直」「都合」「つゆ」など。名詞、代名詞、連体詞が感動詞のように用いられるものもある。「畜生!」「糞!」「これっ!」「どれ」「あのう」など。名詞類に助詞などがついて、全体として他の品詞に近づいてゆくものもある。たとえば「わりに」「ちなみに」「ついでに」「まことに」「もとより」「いつも」「かりそめにも」など。

用言類 これは活用をもっているが、ある活用形が他の品詞のようにまたは他の品詞として用いられることが少なくない。「疑いたくなる」は動詞だが「疑いない」は名詞化している。「近くなる」と「近くの他人」、「救援物資きたる」と「きたる十二月一日に……」、「AはBにひとしく、Cは……」と「みなひとしく感激した」など。また助詞、助動詞を伴って全体として他の品詞に似た、または他の品詞としての用法をもつことがある。「至る」と「いたっておもしろい」「ゆく川の水は絶えずして」と「たえず注意する」、「運動をする」と「すると突然……」など。

補助的な用法をもついわゆる補助用言や形式名詞、あるいは造語成分として用いられる各種の語の中には意味が形式化したり、もとの意味からずれていたりすることがある。「ことは重大だ」と「することができる」、「人にあげる」と「……してあげる」、「お茶をだす」と「……しだす」など。

活用について言えば、ほとんど意味の差もないのにその活用の型が異なるものもある。「足る」と「足りる」、「感ずる」と「感じる」、「病篤く」と「あつしく」、「黄色い」と「黄色な」。

以上のような変容が生ずると、そこに同じ語か異なる語かの問題が起こってくる。この中のあるものは第一分冊の16ページ以下で取り扱っている。

一般的にいつてbに属するものはaの類よりも意味・用法の差がはなはだしくなっている。

c 意味

意味の面でも、他の面と同様、同じ語のなかに新しい意味が現われるとき問題が起こる。新しい意味がもとの意味と關係を保っていれば、同じ語の範囲と考えられるが、それが次第に離れてゆくに従って別な語と考えられるようになってゆく。^{注7)}

「おす」という動詞の多くの意味のなかには「車を押す」という意味もあり、「推して知るべし」という用法もある。後者は前者から出た使い方であると考えられる。このことばについて辞書を調べてみると、辞書によって同じ見出しのなかに収めているものと別の見出しを立てているものとの両者がある。「あした」ということばの「朝」「翌朝」「明日」の意味には歴史的に關連がある。^{注8)} これも辞

注7) ULLMANN: *op. cit.*, p. 222

注8) 大野晋『日本語の年輪』1961

書によって見出しの立て方が異なっている。「やさしい」の「優」の意味のものと「易」の意味のものと
の差別も同様であろう。

『広辞苑』では「こたえる」という動詞には「答・応・報」という漢字で表記する語と「堪」で表記する
語とを立てているが、後者は「反応する意味から転じ」と注記している。これは後者が前者の語の
中の一用法から発展して別な一語を形成したと解釈していると考えられる。この辞書によると「す
ます」という動詞には「清・洗・澄」で表記する語と「済」で表記する語を別の見出しとして掲げ、後
者には「(前項の転義)」とするしている。これも「こたえる」と同様な解釈であろう。「次ぐ・垂ぐ」と
「継ぐ・注ぐ・接ぐ」の両者も別見出しとして取り扱い、「次ぐ・垂ぐ」の項には「(「継ぐ」と同源の語)」
と説明している。『広辞苑』によればこれらの語は意味の分化によって別な語に分化したものである。
『岩波国語辞典』では木の「桜」と大道商人の「さくら」を別の語とし、後者は前者から出たことばであ
ると説明している。

このようなばあい、既に別な語となったかまたはもとの語の一用法にすぎないのかは、しばしば
認定に困難なことがある。すなわち新しい意味が生まれ、意味が分化しようとするとき同じ語か異
なる別な語かの問題が起こるわけである。意味の問題は語形などの問題に比べて一層複雑である。

これまで語形の問題、文法的な問題、意味の問題に分けて述べたが、実際にはこれらが複雑にか
らみあっていることがある。「殿」は現代では人の名の下につけて敬意を表わす語であるが、その用
法は接尾語としてのそれであり、昔用いられた体言としての「殿」と異なっている。意味もそれに
応じて異なっており、語形も「との」から常に「～どの」の形に変わっている。つまり語形、意味、文法
的な用法において異なりを生じてきている。

前にも述べたように、文法的な用法の面でも単に文法だけの相違でなく、意味における分離の傾
向があることが多かったし、語形の面でも幾分かの相違のみられることがあった。形の面から同異
を判別するのは比較的容易なので、結局この問題の中で一番重要なのは意味の問題であると考えら
れる。

これまでに

- 1° 同音語の生まれたばあいと
- 2° 語の分化のばあい

を述べたが、この問題の中には漢語や外来語に関係するものも存在する。漢語や外来語には上記の
問題にふれるものもあるが、また借用語として特殊な面もあるので、ここに別に取り上げてみる。

漢語のなかには次のようなものもある。

一般に漢語には同音語が多いが、表記の面でみればこれを識別しることが多い。けれどもなか
には表記が同じでも別の語とみられたり、表記が別でも同じ語であると考えられるものがある。

「重工業」「重火器」などの「重」と、「二重生活」の「重」とは日本語の中では同じ表記とよみ方をもつ
ものであるから、同じ単位語かどうかの問題が起こる。これはもとの中国語のなかでも両方の意味
用法をもちながら同じ表記をもっていたものである。「長時間」「長距離」の「長」と「裁判長」「教育長」
などの「長」の例も、これと同じようなばあいであろう。

漢語は漢字で表記することが多いが、日本語のなかで用いられるある種の漢語は表記の面では
違っていても概念上区別しにくいものがあり、文字の差があまり重要でないものもある。「交代――

交替,「要心——用心」,「友交——友好」,「賞賛——称赞」,「鑑賞——觀賞」,「生育——成育」,「仲展——進展」,「作成——作製」など。「追求——追究——追及」も一般の人には区別しがたい。

当用漢字以外の字で書かれた語のなかには同音の漢字による書き替えが近ごろ行なわれているものがある。

外来語のばあいには次のようなものがある。国語のなかでは同じ語形となっても外国語では異なるものがある。collar と color と calla(植物)のカラーはその例。ただしスチールも steel と steal とは原語でも同音である。食品の「パン」(ポルトガル語 pão)と「パンアメリカン」の「パン」(英語 pan-)とは意味も語源も違っている。ただし原語が異なっても語形が似ていて同じものを表わすものもある。「ディスク・ジョッキー」の「ディスク」(disk)と「ディスク大賞」の「ディスク」(disque)はその例。「テアトル」(フランス théâtre)と「テアター」(ドイツ Theater),「バルコン」(フランス)と「バルコニー」(英)なども同じである。また原語の写し方の差やなまりによって同一の原語がいくつかの異なる語形を日本語のなかでもつことは珍しくない。例,「ヴェール」と「ベール」,「チーム」と「ティーム」。

外来語は原語の意味が特殊化されて日本語の中にはいるので,原語では一語であっても日本語のなかでは意味の連関が認めにくくなることがある。例,貸金の「スライド」と幻燈の「スライド」。洋裁用語の「スナップ」と「スナップ」写真。

5.12 語形と意味の並行性

ここでは前節と観点を変えて共時的な立ち場から考えてみる。特に形と意味の対応という点を取りあげてみる。

a —

やまを	かく	やまの	え
はなを	かく	はなの	え
いぬを	かく	いぬの	え

上の例では助詞「を」がつくことによって,「やま」「はな」「いぬ」の三つは「かく」に対してそれぞれ連用修飾語となり,助詞「の」がつくことによって「え」に対してそれぞれ連体修飾語となっている。この三語は助詞「を」と「の」との前ではそれぞれ同じ語形,意味をもっている。助詞「を」がついて連用修飾語,「の」がついて連体修飾語となる。そのことは,この三語について並行的である。このようならば,「やまを」の「やま」と「やまの」の「やま」(および以下二語のそれぞれ)は同じ語であると考えられる。^{注9)}

- 1. 何がさいわいになるかわからない。
 - 2. 危ういところだったが, さいわい助かった。
-
- 1. いい心持ちだ。
 - 2. 心持ち坂を下ったところに……

注9) Homophonous formes with related meanings constitute a single morpheme if the meaning classes are paralleled by distributional differences, but they constitute multiple morphemes if the meaning class are not paralleled by distributional difference. (E. A. NIDA : *Morphology, descriptive analysis of words.*, Michigan, 1959. p. 56

- 1. はじめが肝心。
- 2. はじめそうになっていた。

これらの例のそれぞれで、1は体言的な用法、2は副詞的な用法である。これらの語は同じ形で二つの異なった機能をもっている。そのことは「さいわい」「心持ち」「はじめ」について並行的である。このようなばあい、1と2との各対はそれぞれ同じ語であるか。

このようなばあいすべての体言に2のような用法があれば問題なく1と2は同じ語と認められるかも知れない。が、事実はそのようではない。そこでは体言の用法についての考え方や語類の立て方に関する考え方が問題の解決に関係しよう。一方、語の意味を重視する考え方もあり、また語の中心的な意味が同じかどうかで判定しようとする立ち場もあり得る。

b——互いに関連する語があって、そのなかのあるものは共通のしかたによって他のいくつかの語に対応するようなばあいを考えてみる。たとえば

書く——書き(ます)

読む——読み(ます)

言う——言い(ます)

このようなばあい一般の文法書では「書き」は「書く」(「読み」は「読む」……)の活用形の一つであり、語尾が変わったものと教えている。言い直せば、「書く」と「書き」、「読む」と「読み」、「言う」と「言い」の中心的な意味が同じであり、形を変えて「ます」をつけることによって共通の付随的な意味を添えているので、「書く」と「書き」、「読む」と「読み」、「言う」と「言い」は同じ語である。

かくして「花が咲く」の「咲く」と「咲く花」の「咲く」とは同じ語である。では「援軍きたる」の「きたる」と「きたる十二月八日」の「きたる」はどうか。このばあいには「咲く」よりも幾分ずれているようにも感じられる。「そこに山がある」と「ある日のこと」ではそのずれが著しくなっている。このばあいには中心的な意味に関係がなくなっているともみることができよう。このように、意味のずれがはなはだしいばあいには別の語であると考えられる。

c——「納まる」と「納める」、「止まる」と「止める」のようなばあいには、それぞれの対は、一往共通のしかたで対応しているが、これは同じ語とは見ない(しかし観点によってはまとめてみることができるとはあり得る)。

次に「納める」と「収める」がもし同語ならば、「納める」に対する「納まる」と、「収める」に対する「収まる」は同じ関係に立つので、「納まる」と「収まる」とは同語であると考えられる。同様に「納める」と「治める」が異なる語であるならば、「納める」と「納まる」、「治める」と「治まる」の関係はそれぞれ同じであるから、「納まる」と「治まる」は異なる語であると考えられる。「泊まる」「留まる」「停まる」「止まる」が同じであるならば「泊める」「留める」「止める」「止める」も同じ語であると考えられる。

d——語の結合のばあい。これにはいわゆる詞に辞がついたものと詞同士の結合のばあいとある。はじめに前者をとりあげる。

これにはいろいろのばあいがある。その一例として動詞の連用形に助詞「て」のついたものを取りあげる。「雨が降って風が吹いた」のような例は一番普通の用法である。「音楽に合わせて踊る」もこれに属するが「合わせてここにお礼を申し述べます」の用法ではやや特別なものがある。このような

用法について

あわせて——あわせる

しいて ——しいる

ついで ——つぐ

のように意味が比較的近いものから

まして ——ます

いたって——いたる

すべて ——すべる

のように遠く離れているものまでである。これらに対してもし意味がどのくらい離れているかが判定できれば同じ語か異なる語かを判別できるわけである。

動詞に「ず」のついたもの、たとえば、「とりあえず」「たえず」「すかさず」「かかわらず」「しらずしらず」などもこの例である。体言に「に」のついたものたとえば「わりに」「さいわいに」「ちなみに」などもこの例である。dについては、体言関係のものはaの、用言関係のものはbの問題として扱うこともできる。

e——自立語または造語成分の結合。たとえば「^{りょう}料」という造語成分には①「材料」という意味と②「料金」という意味とがある。^{註10)}これは同じ見出し語のなかに収めてある。「料」が同じ「飲み——」という語形と結合したばあいどうなるか。

飲み料 ① のみもの ② のみしろ

これも同じ見出し語のなかにはいっている。^{註11)}一般に結合の前部分、後部分それぞれが、同じ語にはいる語形と結合してできたものは同じ語であると考えられる。

ただし次のようなばあいがある。まず「立てる」と「建てる」が同じ語であるとみとめたとする。そこから、その連用形「立て」と「建て」が同じ語であると見(上掲b)、「物」と「者」とが同じ語であるとする。するとそれぞれの結合「立て者」^{註12)}と「建て物」は同じ語であるか。このばあいのように、結合したばあいの意味が特殊化されたものは別の語とみてよいかもかもしれない。^{註13)}

このばあいでもそうであり、かつ以上のいずれのばあいでもそうであったように、同じ語か異なる語かの判別をするさいには、まず、語形が「同じ」であること、意味が「同じ」であることを判定することが必要であるが、特に意味が同じであるという判定にはなかなか微妙な点があって問題がむずかしい。

第4表 判別の実例一覧表

前 書 き

雑誌90種の用語用字の調査を行なう際の、同じ語か異なる語かの判別は次のように行なった。

注10) 『三省堂国語辞典』

注11) 『三省堂国語辞典』

注12) 江戸時代語。または「大|立者」から、分析したと考えるとよい。

注13) Ахманова : *op. cit.*, p. 126 にはロシア語における同様の例が示してある。

調査を始める前にあらかじめ判別実例集を作っておき、カード排列、枚数記入の時にこれによって判別を行なった。しかし調査の途中で新しい問題がたえず起こったのでそれに語例を追加して行った。このようにしてできたものが、以下に示す判別のための一覧表である(第一分冊の14ページ参照)。この表を作るに当たっての同じ語か異なる語かの判別は、『総合雑誌の用語』後編(報告13, 1958)の108ページ以下に示す線型判別函数により、あるいは書きことば研究室員の話し合いによって行なった。

一覧表は三欄に分かれる。

左欄は見出しで、語またはその表記を示す。

中央欄には集計単位のとめ方の区分、漢字表記、品詞、用例、説明などを書き入れてある。

右欄には立てる見出し語の形をかたかなで示した。

助詞・助動詞(辞)として採るべきものはその処理法を中央欄に示してある。「サゾカシ」の「かし」や「タイシタ、テ」の「た」「て」のように、見出し語の形の一部分として書いたものには、助詞・助動詞としては採らなかったものがある。

中央欄に①②……と区分のあるのはその集計単位のとめ方の区分を示し(すなわち数字ごとに異なる語として処理することを示し)、区分がなくて(合併)とあるものは全体を一つにまとめることを示す。

「ユケルはユキ、ッに集合」とあるのは「ユキ、ッ」の形で集計するほか、別に「ユケル」の形での内わけ票もつくることをいう。

記号など

- () 品詞 代=代名詞 指=指示詞 副=副詞 接=接統詞 連=連体詞 感=感動詞
～ 見出し語形またはその語幹
- [] 漢字による表記
- / 用例と用例の境目
- () 処理法・意味など。
- ① ② … 番号ごとに異なる語
- ・ 活用語の語幹と語尾の境目を示すことがある。このとき～は語幹の形。
- 合 併 「厚目」「厚い目」のように、違った形を一つの見出し「アツメ」にまとめて、集計すること。
- 集 合 違った形を一つの見出しにまとめて集計する点は合併と同じだが、集合の場合は、集合されたいちいちの形も、内わけとして別に集計される。たとえば、「言われる」「言える」などはそれぞれ「イイ、ッ」に集合される、ということは、「言われる」「言える」などの使用度数が「言う」のそれに合算される、(したがって、カードの排列の場所も「イイ、ッ」にうつる)と同時に、内わけとしての「言う」「言える」「言われる」の度数が別に集計される、ということの意味する。合併では、このように、内わけを個々に集計することはない。

語例	漢字・用例など	見出し語			
あ・ああ・あっ	①《感》あつといわせる／あ あ、そうだよ(yesの意)	ア, アア	あした	～の天気(明日)／雪の～ (朝)	アシタ
あい	②(指示語) ああする	アア	あずかる	①〔与〕ご招待に～／相談に ～	アズカリ,ル ①
あいかわらず	①〔合〕にらみ～／話し～／ 意味～／～ことば	アイ①		②〔預〕荷物を～	アズカリ,ル ②
愛欲・愛慾	②〔相〕《接頭語》……と～ なる次第／～も変わらず	アイ②	あた	《代》(アタシと別立)	アタイ
あう	(合併)(一般に、当用漢字表 外の漢字による同音同意の 書きかえは合併する)	アイヨク	あたかも	～……のごとく／時～	アタカモ
あえず・あえて	〔会, 逢, 遇, 遭, 合〕訪問 者に～／敵に～／嵐に～／ 気分～／洋服に～／った アクセサリー／殺し～	アイウ	あたくし	〔私〕(ワタクシに合わせる。 この形の現われたことを注 記する)	ワタクシ
あがる	①〔取〕行きあえず(アエテ は別。「ず」は助動詞ズへ)	アエル／助 動詞ズ	あたし	《代》(ワタシに合わせる。こ の形の現われたことを注記 する)	ワタシ
あきたらず・あきた りないで	②〔取〕あえて…する／～危 険をおかす(アエルと別立)	アエテ	あたたかい・あたた かな・あたたか に	〔暖〕(形容詞と形容動詞の活 用を合わせる。どちらが現 われたか注記する。「な」 「だ」「に」は助動詞ナ,ダ, 助詞ニへ)	アタタカイ, な
あくまで	①〔叩〕酒を～	アオリ,ル①	あたり	①〔当〕～のくじ／～狂言／ あの方は～がやわらかい／ 一時間～の平均(perの意)	アタリ①
あくる	②〔煽〕火を～／人を～	アオリ,ル②		②〔辺〕(付近の意)～一面 に／日本橋～の商店／今日 ～来るだろう	アタリ②
あげて	①〔上, 揚, 挙〕屋上に～／ 利益が～／学校に～／温度 が～／試験で～／仕事が～ ／お宅に～／犯人が～／て んぶらが～(自動詞)	アガリ,ル①	あたる	〔当, 膺, 中〕宝くじが～／ こたつに～／日の～坂道／ その任に～／ひげを～	アタリ,ル
あける	②〔上〕お酒を～(他動詞)	アガリ,ル②	あつ	①〔暑, 熱〕～気候／～湯／ ～戦争／～仲	アツイ①
あげる	(四段活用は上一段活用に合 わせる。四段活用の分は注 記する。「ず」「ないで」は助 動詞ズ, ナイ, 助詞デへ)	アキタリル	あつ	②〔厚, 篤〕～板／～・く札 を述べる／～情／友情に～ ／病～・し	アツイ②
あし	～戦いぬく	アクマデ	あつし	《代》(ワッシに合わせる。こ の形の現われたことを注記 する)	アッシ
あしく・あ しき	《連》～朝／～日	アクル	あつたかい など	(アタタカイ, なに合わせる。 あたたかい・あたたかな 参照)	アタタカイ, な
あしき	〔挙〕～賛成した(帆をあげ るなどのアゲルへ。「て」は 助詞テへ)	アゲル	あつめ・あ つめ	〔厚目〕(合併)	アツメ
あしき	①〔開, 明〕年季が～／夜が ～(自動詞)	アケル①	あて	〔宛, 当〕将来に～がない／ それを～にする／先生～の 手紙／ふたり～一本	アテ
あしき	②〔開, 明〕戸を～／さかず きを～／場所を～(他動詞)	アケル②	あてられる	夫婦仲に～(この意味に限り 右の見出しを立てる)	アテラレル
あしき	〔上, 揚, 挙〕帆を～／手を ～／反証を～／利益を～／ 音を～／名を～／一國を ～／げて／～／げて賛成した ／これを君に～／…して～	アゲル	あてる	〔当, 宛, 中〕かみそりを～／ 相撲の勝負を～／つぎを～ ／火に～／生徒に～・てて 答えさせる／一筆賞を～／ 友人に～・てて手紙を出す	アテル

あと	①〔後〕(時間的・空間的) ～とさき／～が絶える／～ の祭／～をつけてゆく	アト①	あわよくば	～大金を手に入れようとして 「あわよく助かった」のア ワヨクに合わせる。「ば」 は助詞バへ)	アワヨク
	②〔跡, 痕〕(痕跡) 昔の～を たずねる／きずの～	アト②	あんた	《代》	アナタ
あの・あの う	あの子はだれ?／あのう, ち よっとお尋ねしますが	アの	あんなに	～あるとは思わなかった 「に」は助詞ニへ)	アンナ
あはは・わ はは	(笑い声。「あっはっは」「わ はは」「わっはっは」「あは はははは」……なども合併)	アハハ	あんまり いい	～はやいので(アマリへ合併) ①〔謂〕……の～か(イイ・ウ と別立)	アマリ イイ
あまつさえ	(その上の意)	アマツサエ		②〔良, 好, 善〕(ヨイに合併)	ヨイ
あまり・あ まりに・ あんまり	(副詞も名詞も合併。「あんま り」「あまりに」もアマリに 合併。「に」は助詞ニへ)	アマリ	いう・ちゆ う・て	①〔言〕(融合しない形)悪口 をいう／佐々木という男/ そういうことになったら大 変／山という山／とはいい ながら(接統詞的)／佐々 木といえばあいつはどうし たろう／……といえども	イイ・ウ
あみ	①〔網〕～の目 ②〔繻〕模様～	アミ① アミ②		②(「ていう」「という」の融 合形「て」「ちゅう」「とふ」 などはイイ・ウに集合)	テ, チュウ, テフ, ト フ
あや	①〔文, 綾〕～をなす／文章 の～ ②～にかしこし	アヤ① アヤ②		②〔謂〕「言う」に合わせる。 「ども」は助詞ドモへ)	イイ・ウ
あやまる	①〔誤〕目測を～ ②〔謝〕すなおに～	アヤマリル ① アヤマリル ②	いえども	(「言う」の力行延音)	イエラク
あらぬ	～方を見つめる	⇒助動詞ア ル／助動 詞ヌ	いえらく いかが	品質は～ですか／地図のよみ 方など埋め草に掲げたら～ ですか	イカガ
あらゆる	(連)～種類の	アラユル	いかに	～忘れむ	イカデ
あらわす	[表, 現, 顕, 著] 姿を～/ 名声を～／悲哀の感情を～ 音楽／名は体を～／本を～	アラワシヌ	いかなる・ いかに・ いかにも	(合併。「なる」「に」「にも」 は助動詞ナ, 助詞ニ, モ へ)	イカ イカレル① イカレル②
ある	①〔或〕(連)～人 ②〔在, 有〕望みが～／庭の ～家／行きつつ～／置いて ～／音楽教育を受けただけ ～・って ③わがはいはねこで～(助動 詞)	アル アリル	いかれる	①頭が～・れてる ②〔行〕あそこまで三時間で は～・れない(可能の意。イ カレル②はユキ・クに集合)	イカレル① イカレル②
あるいは・ あるは	(両者を合併。「あるは」の形 が出たら注記する)	アル(い)は	いかに いき	[如何] (「いかに」等と別立) ①〔生, 活〕～字引き／～が いい／白先～〔碁で〕 ②〔粹〕～な ③〔意気〕～天をつく	イカン イキ① イキ② イキ③
あれ	①《指》～は何だ ②《感》(指示詞と別立)～ 大変だ。	アレ① アレ②	いきおい	[勢] 車に～がつく／騎虎の ～／そうらは自然の～だ ／～そうせざるをえない	イキオイ
あわせる・ あわせて	調子をあわせる／間にあわせ る／あわせて次の点にもふ れよう(「合うこと」をさせ る)意味のときは「合う」に 集合。副詞的な「あわせ て」もここに入れ, 「て」は 助詞テへ。四段活用の「あ わす」は「あわせる」と別立 し, 見出しをアワシヌに)	アワセル	いきる	[生, 活] 人類の～道／この 絵は～・きている／～・き とし～・けるもの／隅の白 は～〔碁〕	イキル
			いく	[行] (ユキ・クに合併する。こ の形の現われたことを注記 する)	ユキ・ク
			いくら	ギャラは～くらいなんですか	イクラ

	／ほかに～もある／～か／ ～何でも		う	かける	
いけない・ いける・ いかん・ いけませ ん	①(「いけません」「いけな い」「いかん」の形で不可の 意の場合。「ませ」「ん」「な い」は助動詞マス、ス、ナ イへ。②③のも同じ) ②歌も相当いける女優／酒が かなり～口(このような意 味に限って) ③〔行〕三時間でいける(可 能動詞)(ユケルはユキクに 集合)	イケル① イケル② ユケル		②〔一生、一所〕～懸命(こ の連続のときに限り一生、 一所を合わせ①③と別立) ③〔一生〕～を棒に振る／～ のお願い	イッショ(ウ) イッショウ
いざ・いさ	①いざ歌え／いざ行かん ②いざ知らず(「いさ」は注 記する)	イザ① イザ②	いったい いっぺん いつも	〔一体〕～化する／三位～/ ～に悪い／～どうしたんだ (「仏像一体」などは「一」 「体」に句切る) 〔一遍〕株師が～にさがった ／～の義理／通り～のあい さつ(「もう一遍来やれ」な どは「一」「遍」に句切る) ～行く店／～の着物(「も」 は助詞モへ)	イッター イッペン イツ
異常 異状	(異状と別立)屈折～ (異常と別立)～なし	イジョウ① イジョウ②	いでる	(「でる(出)」に合併。「おいで ください」「おいでになる」 「おいでをまつ」「またおい で」などの「おいで」は名 詞にする。オイデ参照)	デル
いづくんぞ	～知らん	イズクンゾ			
いたい・い たく	頭が痛い／いたいところをつ かれる／いたく感激(「非常 に」の意味の例が現われた ら注記)	イタイ			
いだく	〔抱〕夢を～(「だく」と別 立)	イダキク	いな	①〔否〕「限りたまふや」「～」 ／当選させるか～かは有権 者にある／……するや～や ／好むと～とにかかわらず	イナ
いたずら	①〔悪戯〕～小僧／～なこど も／～ををする／自然の～ ②〔徒〕～に祿を食む／～な る強がり	イタズラ① イタズラ②	いま	②〔異〕これは～・なことを 聞く	イ／助動詞 ナ
いただく	〔頂、戴〕峯に～白雪／あな たから～・いた手紙／…… して～	イタダキク	いや	〔今〕たった～／～小町／～ ひとたび(さらにの意) ①〔厭、嫌〕～なやつ／～に 多い／～っ! ②〔否〕～違う／～そんなは ずはない	イマ イヤ① イヤ②
いただける	この酒はなかなか～ね／その 考えはあまり～けない(こ の意味のとき、可能動詞と 別立)	イタダケル	いやしくも いらっしゃ る	～男子たる以上 ①早く～・い／きょうは自宅 に～ ②ご健康で～(助動詞)	イヤシクモ イラッシャ リル ⇒助動詞イ ラッシャル
いたって	～つまらない本(イタリルと 別立。したがって、「ここ にいたって」はイタリル)	イタッテ	いり	〔入〕～が悪い／砂糖～／仲 間～	イリ
いたむ	①〔悼〕先生の死を～ ②〔痛〕傷が～	イタミム① イタミム②	いれかわり たちかわ り	～上京して(「入れ替わる」 「立ち替わる」の二つに分 けてそれぞれ動詞とする)	イレカワリル ／タ チカワリル
いたる	〔至、到〕死に～病／……に ～・っては／……に～まで ／……するに～／～ところ で／～・れりつくせり(イ タッテは別立)	イタリル	いわば いわゆる いわんや	《副》 《連》 《副》	イワバ イワユル イワンヤ
いちばん	〔一番〕～強い人／奮起～	イチバン	ウイリアム ウイリアム ズ	(姓と名は別立) (姓と名は別立)	ウイリアム ウイリアム ズ
いつしか	手段が～目的と化した	イツ／助詞 シ／助詞カ	ウイルス・ ウィル	(ウイルス、ウィルスはビイ ルスに合わせる)	ウイルス ズ ビイルス
いっしょ・ いっしょ	①〔一所、一緒〕～に行く／ ～になる／～にそろってで	イッショ			

ス・ビ ルス			んろうん痛い痛い(うなり 声) / うらむ困った。		
うえ(うわ)	[上] 机の上 / その上 / …… した上で / 上様 / 父上 / う わ突張り	ウエ	② ……だろろう? うらん, ちが う (否定)	ウウン	
うかがう	[伺, 窺] 三時に自宅へ～・い ます / お話を～ / すきを～ 敵状を～	ウカガイ・ウ	え・えっ・ ええっ・え ええ など えしゃく	《感》 ……なんですよ, ええ / え? 何? / ええっ? そう / ええとどれがいいかしら [会釈] ～する / 遠慮～もな く	エ, エエ エシヤク
うかす	[浮] 水に～ / 宙に～ / 熱に ～・される	ウカシ・ス	えらい・え らく	[偉] えらい人 / えらい目に あう / えらく寒い / えらい こっちゃ (最後の二つのば あいは注記する)	エライ
うく	[浮] 水に～ / ～きつ沈みつ 下部組織から～・いた幹 部 / ～・かぬ顔 / たばこを やめると千円～	ウキ・ク	える・うる	[得] 時をえる / 人をえる / 支ええない	エル
うける	[受・享] 敵の攻撃を～ / 試 験を～ / 南を～・けた座敷 見物に～芝居 / 生を～	ウケル	えん	① [円] 百～ランチ (貨幣単 位)	エン①
うたう	[歌, 唄, 謡, 謡] 歌を～ / 悲し みを詩に～ / 宣伝文句に～	ウタイ・ウ	えん	② [円] 同心～ / ～の面積 (図形)	エン②
うたごうら くは	～これ地上の霜かと (「は」は 助詞ハへ)	ウタゴウラ ク	えん	③ [縁] ～は異なるもの / ～が ない	エン③
うち	① [中, 内, 裡] かさの～ / 朝の～に仕事をかたづける ② [家] ～が建つ / ～の女房 ～の人 / ～の社長	ウチ① ウチ②	お	④ [縁] ～の下 [御] 《接頭語》～ビール / 唐 人～吉 / ～帰りになる	エン④ オ
うつ	[打, 討, 射, 撃] ひざを～ / 心 を～ / ねがえりを～ / 悪臣 を～ / 鉄砲を～ / 城から ～・って出る / ～・って変 わった態度	ウチ・ツ	おいて おいて・お きまして ・おける	[置] そこに～くれ [於] 講習は公会堂において 行なわれる (「置く」と別立。 「て」「まし」「る」は助動詞 テ, マス, リへ)	オキ・ク① オキ・ク②
うつす	① [映, 写] ノートを～ / 記 念写真を～ / 鏡に～ / 映画 を～ ② [移] 時を～・さず / 都 を～	ウツシ・ス① ウツシ・ス②	おいで	[出] ～ください / ～になる / ～～をする / ～をまつ (以 上のような形のものは名詞 扱いとし, デルと別立)	オイデ
うつる	① [映, 写] よく～カメラ / 水に～・った影 / アクセサ リーがよく服に～ ② [移, 遷] 時が～ / 病気 が～	ウツリル① ウツリル②	おいらく おう おう	～の恋 [王] ホームラン～ / (将棋 の王将) ① [追, 逐] 中原に鹿を～ / 日を～・って悪化する / ～ って後日お知らせします ② [負] 重荷を～ / 傷を～ / 責任を～ / 今日あるは君に ～ところが多い	オイラク オウ オイ・ウ①
うま	[馬, 午] ～に乗る / ～小屋 ～があう / (しょうぎの 桂馬)	ウマ	おえる・お えない	① [追, 逐] 馬をおえない など (可能動詞)(オエル① はオイ・ウ①に集合) ② [負] 責任をおえない など 手におえない / あの男は おへねへかさかきだから (可能動詞)(オエル②はオ イ・ウ②に集合)	オエル① オエル②
うまれる	① [生] 鯛いねこにこどもを ～・れてこまった。 ② [生] こどもが～	ウミ・ム / レル ウマレル	おおいに・ おおい	おおいに笑う / 大いなる幻影 (どちらが現われたか注記 なる)	オオイに, なる
うまい・う まく	うまい牛肉 / 彼は英語がうま い / うまいことをいう / 万 事うまいいく	ウマイ			
うん・うう ん・うむ	①～そうか(問投詞的)…… だろろう?～(肯定) / うら	ウン			

なる	する。「に」「なる」は助詞ニ、 助動詞ナルへ)			衆を～／怒りを～／現場を ～／証拠を～／財産を～	
おおう	[掩, 覆, 蔽, 被, 蓋] トタ ンで屋根を～／目を～ばかりの 悲惨さ／～・いかぶさる／冷酷残忍な 態度は～べくもない	オオイ。ウ	おさまる	① [納, 収] 1ページに～／税金が～／ 会社の社長に～ ・っている／元のさやに～ ② [治] 国がよく～／痛みが～	オサマリル ① オサマリル ②
おおきい・ おおきな	(形容詞・形容動詞活用は合 わせる。どちらが現われた か注記する)	オオキい、 な	おさめる	① [納, 収] 倉庫に～／財布 に～／権力を手に～／この 一杯で～・めましよう	オサメル①
おおく	[多] ①だんだん～なる／… する場合が～, …(形容詞) ②～のばあい／国民の～が (は)／～を語らない／数 ～の／～は…である(名詞)	オオイ オオク	おじ	② [治] 国を～／紛争をまる く～ [伯父, 叔父, 小父] (親戚も 非親戚も合併)	オサメル② オジ
オーバー	①ミンクの～(外とう) ②～する／～なアクション (超過)	オオバア① オオバア②	おしなべて	(副)	オシナベテ
おかしい・ おかしな	おもしろおかしく／拳動に少 しおかしなところのある男 (「怪」も「可笑」も合わせる。 また形容詞・形容動詞の活 用を合わせ、どちらの形が 現われたか注記する)	オカしい、 な	おす	① [押, 捺, 推, 圧] 車を～ ／印を～／だめを～／病気 を～・して出場／座長に～ ② [推] (推量。推測) 彼の 口ぶりから～・して	オシ。ス① オシ。ス②
おかす	[冒, 犯, 侵] 危険を～／他 人の所有権を～／過ちを～	オカシ。ス	おそい・お そき	[選] おそい歩き方／もう夜も おそい／おそきに失す	オソイ
おかみ	① [女将] ～さん ② [上] (為政者, 政府) ～ じゃあちゃんとしらべがつ いているんだ	オカミ オ／カミ	おそく	① [選] 帰りが～なる／～行 くとだめ(形容詞「おそい」 に合併) ② [選] 朝早くから夜～まで (名詞)	オソイ オソク
おきまして	[於] わが国に～も(「おいて」 参照)	オキ。ク②	おそらく	(副)	オソラク
おく	[置, 措] 花びんを～／一目 ～／その点は～としても／ 用意をして～	オキ。ク①	おって	～お知らせします(「迫り」に 合併。「て」は助詞テへ)	オイ。ウ
おくる	[送, 贈] 駅まで～・って行く ／書留で～／席を順に～／ 海浜で夏を～／記念品を～	オクリル	おと	[音] 電車の～／～に聞えた	オト
おくれ	[後] 人に～をとる／～をと りもどす／ひと月～	オクレ	おどる	[踊, 躍] ダンスホールで～ ／裏面で～スパイ／胸が～	オドリル
おける	[於] 日本に～…(「おいて」 参照)	オキ。ク②	おなじい・ ～・く, ～・で, ～・なら	(形容詞・形容動詞の活用は 合わせる。「で」「なら」は 助動詞ダ, ナへ)	オナジ
おこる	① [起, 興] 事件が～／動揺 が～／めんどうが～ ② [怒] カンカンになって～	オコリル① オコリル②	おのが	己が罪(「オノレ」と別立。 「が」は助詞ガへ)	オノ
おごる	① [驕] ～・れるもの久しか らず ② [奢] 夕食を～	オゴリル① オゴリル②	おのずから	(副)	オノズカラ
おさえる	[押, 抑, 圧] 紙が飛ばない ように～／耳を～・えて聞 こうとしない／興奮した群	オサエル	おのずと	(副)(「と」は助詞トへ)	オノズ
			おぼ	[伯母, 叔母, 小母] (親戚も 非親戚も合併)	オボ
			おぼえる	[覚, 憶] 単語を～／興味を ～	オボエル
			おもい	① [思, 想] ～を寄せる／死 ぬ～	オモイ
				② [思, 想] ～も及ばない ／～もかけない／～もよら ない(動詞「おもう」に合併)	オモイ。ウ
			おもう	[思, 想, 念, 惟] おもしろ	オモイ。ウ

	いと～/故郷を～/～に/ ～いも及ばない/～もかけ ない/～もよらない			③ [変, 換, 代, 替] 顔色を ～/期日を～/柿の種をお むすびと～	カエル
おもて	[面, 表] ～をあげよ/～に 表わす/畳の～/～と裏/ ～の電車通り/～を飾る/ 三回の～に三点を取る	オモテ	かかり・が かり	[懸, 係] いろいろかかりが かかる/お声がかかり/しば いがかかり/案内がかかり/一 日がかかりで	カカリ
おもわく	[思感]《名》	オモワク	かかる	①～事件(かくのごときの 意)/～・れば(かくあれ ば)/～・らぬ人(こうで ない人)	カカリル①
おもわず	～苦笑した	オモイ・ウ/ 助動詞ズ			
および	《接》	オヨビ			
おり	[折]《食べ物入れ, 衣服の折 り返し, 「～を見て」など の用法をすべて合併。「折 りから(の突風)」は, オリ カラとして, 別立》	オリ		② [係, 掛, 懸, 罷, 架] 月 が中天に～/橋が～/しば いが～/会議に～/雨が～ /計略に～/お目に～/重 みが～/金が～/忘れ～/ 芝居がかかる/紫がかかる	カカリル②
おろか	① [愚] ～な女 ② [疎] 再建は～生きて行く ことさえもできない	オロカ① オロカ②	かかわらず	(「関わる」に合併。ただし, 「(にも) 拘らず」と注記 「ず」は助動詞ズ へ)	カカワリル
おろし	[卸, 下] 大根～/仕立て～ /比叙～/～で 630 円	オロシ	夏期・夏季 (合併)		カキ
おろす	[下, 卸] 腰を～/大根を～ /問屋が～/新しいくつを ～/こどもを～	オロシ・ス	かく	① [角] ～砂糖/三寸～ ② [角] (しょうぎの角行)	カク① カク②
おん	[音] 不協和～/前舌～/～ と訓	オン	かく	① [書, 拙, 画] 字を～/絵 を～/書評を～ ② [掻] 雪を～/かゆいとこ ろを～	カキ・ク① カキ・ク②
おんなじ	[同] オナジに合併。	オナジ			
おんわ	[溫和・穏和] (合併)	オンワ			
か	① [彼] 何でも～でも/何や ～や/何も～も ②～の人/～の有名な…… ③戦争は起こる～ など(副助 詞, 並列助詞, 終助詞など は, 助詞カ へ)	カ カ カの 助詞カ	かくて	③汗を～/泣きべそを～/あ ぐらを～/いびきを～/か ごを～ ④ [欠] 資格を～/事を～ (「かく(のごとく)」と合併。 この形を注記する。「て」は 助詞テ へ)	カキ・ク③ カキ・ク④
カーニバル ・カルナ バル	(合併)	カアニバル	かけ・がけ	① [掛] かけ茶屋/かけで購 入/ほうちょうかけ ②書きかけの手紙/帰りがけ	カケ① カケ②
がいして	[概]《副》	ガイシテ	かけ	[陰, 影] よらば大樹の～/ ～でそしる/～法師/～を かくす/うわさをすれば～	カゲ
かいとう	① [回答] ② [解答]	カイトウ① カイトウ②			
回復・恢復	(合併)	カイフク	かける	① [掛, 懸, 架] 手を～/費 用を～/声を～/戦場に～ 橋/電話を～/会議に～/ 五月から六月に～・けて/ パーマを～/思いも～・け ないできごと/書き～	カケル①
かいほう	① [開放] ② [解放]	カイホウ① カイホウ②			
潰滅・壊滅	(合併)	カイメツ			
かえす	① [返, 還, 帰, 反] 使を～ /金を～/裏を～/てのひ らを～ ② [解] 卵を～	カエシ・ス① カエシ・ス②			カケル②
かえって	《副》 結果は～悪かった	カエッテ	かご	① [籠籠] ～に乗る	カゴ ①
かえる	① [返, 還, 帰, 反] 二百万 人～/金が～/裏が～ ② [解] 卵が～	カエリル① カエリル②	苛酷・過酷 かさ	② [籠] 竹の～/～の鳥 (合併) ① [嵩] かなりの～がある	カゴ ② カコク カサ①

	② [笠, 傘, 畳] ~をかぶる /~をさす/月に~がかか る/~に着る/~にかかる	カサ②			通違反の~で	
かしこい・ かしこき	[賢, 畏] 犬はかしこい動物 だ/かしこきあたり	カシコイ	かなう		[適, 敵, 叶] おめがねに~/ 望みが~/大団には, とて も~・わない/あいうこ とをされちゃあ~・わない よ/あいつに~わけがない	カナイ・ウ
かしょう	① [過小] ② [過少]	カショウ① カショウ②	かなしい・ かなし		[悲, 愛] かなしいできごと /めこ見ればかなしくめぐ し(合併)	カナシイ
かしら・か しらん	① いつの間に 彼はその場所 を発見したのか知らんが/ おもしろいかどうかしらん が(動詞「知る」と助詞「か」 に分けて整理)	カシラ/助 動詞ヌ	かならずし も		(「必ず」に合併, この形を注 記する。「しも」は助詞シモ へ)	カナラズ
	② 明日は雨かしら/明日は 雨かしらん(助詞)	⇒助詞カシ ラ	かね・かな		① [金] かねの切れ目が縁の 切れ目/かねのわらじで捜 す/かな火ばし	カネ①
かす	[貸, 仮] 金を~/力を~/ ~に時をもってする	カシス	かねて かねる		② [鐘] ~の音/~をならす [予] (あらかじめの意)	カネ② カネテ
かする	[課, 科] 宿題を~/刑を~	カシスル	かねる		① [兼] 大は小を~/~・ね て司会も行ない	カネル①
かぜ	[風, 感冒] ~が吹く/~を ひく	カゼ	かの		② そんなことはうけあい~ ~国/~人/~有名な……	カネル② カノ
かた・がた	① [方] 作りかた/何某かた /あのかた/あなたがた	カタ①	かま・がま かむ		[釜, 竈, 竈] 電気~/~/の火	カマ
	② [片] ~や……/~意地	カタ②	カメラ・キ ャメラ		① [噛] ほえる犬は~/~まぬ ② はなを~ (合併)	カミ・ム① カミ・ム② カメラ
	③ [形, 型] ~が古くなる/ 踊の~/~/のごとく行なう /~を破る/~にはまる/ 必ず成功する~/の人間/紋 切~/~/がつかない	カタ③	がら		[柄] 着物の~/~/が悪い/ 職業~/時節~	ガラ
	④ 借金の~	カタ④	からい		[辛] 味がからい/点 がから い/からくも脱出に成功	カリイ
かたい・が たい	① [堅, 固] かたい板/かた い決心/義理がたい	カタイ①	からくも		(「やっ」と)の意。前項のカラ イと合併。この形を注記す る。「も」は助詞モへ)	カリイ
	② [難] たえがたい/人丸は 赤人がかみにたたむことか たく(感謝するときの「あり がたい」は別立)	カタイ②	からから		① 矢車が~/と鳴った ② 土が~/に乾いている	カラカラ① カラカラ②
かたり	[語, 騙] 歌と語りとドラ マで……/さぎや騙りを働く	カタリ	からみ・が らみ		[絡, 搦] 千筋の引綱からみ の鎖(「今国姓爺」の引用) /四十がらみの男	カラミ
かたる	[語, 騙] 一部始終を語る/ 文学を語る会/著名人の名 を騙って	カタリル	かりそめに も		(「かりそめ(の事)」と合併。 この形を注記する。「にも」 は助詞ニ, モへ)	カリソメ
かち・がち	① [勝] 白の~/白番~ ② [勝] 何もかも不足~	カチ① ガチ②	かる		① [刈] 草を~ ② [狩] いのししを~ ③ [借] (文語)(「かりる」に 合併)	カリル① カリル② カリル
かつて・か って	[昔] 《副》(合併)	カツテ	かろうじて		《副》	カロウジテ
がってん・ がてん	[合点] がってんだ/がてん がいく/早がってん/ひとり がてん(合併)	ガッテン	がわ・かわ		[側] 日本がわ代表/こちら っかわ/あちらのかわの人	ガワ
カット	① 一部を~する/作品のワン ・~/[ピンポンで]~する ② (さしえの)~	カット① カット②	かわす		[交, 替, 躰] あいさつを~ /めくばせを~/体を~	カワシス
かど	[角, 門, 扉] 柱の~/~/の てんぷら屋/~に入る/交	カド	かわり・が		[代, 変] たいしてかわり	カワリ

わり	(は)ない／そのかわり／朝食がわり			／お～の……／～がつかない／～が悪い	
かわる	[変, 代, 替, 換] 色が～／期日が～／あの人ちょっと～・ってるね／～った趣向	カワリル	きみ・ぎみ	[気味] きみが悪い／そのきみがある／あわてぎみ	キミ
かんして	[関] (「て」は助詞テへ)	カンシ.スル	きゃあきや	(「きゃあきやあ」「きゃっきやっ」「きゃっきや」などは合併)	キヤアキヤ
観取・看取	(合併)	カンシユ	あなど		ア
鑑賞・観賞	(合併)	カンショウ	カメラ	(カメラに合併)	カメラ
関東	①日本の～地方 ②満州の～軍	カントウ① カントウ②	カメラマ	(カメラマンに合併)	カメラマン
き	① [器] 大将の～ならず／呼吸～(organ)の意) ② [機, 器] (機械, 器具) 補聴～／計量～／飛行～／電子計算～	キ① キ②	強剛・強豪 協同	(合併) (共同と別立) 農業～組合	キョウゴウ キョウドウ ① ②
ぎ	① [義] ～を重んずる／第一～／二～的／～兄弟 ② [儀] 私～……／この～まげてお聞き届けを…／婚礼の～	ギ① ギ②	局	郵便～／大蔵省印刷～／(碁で) 二～打つ	キョク
きいろい・きいろな	(形容詞・形容動詞活用は合併する。「な」は助動詞ナへ)	キイロいな	ぎょく	① [玉] (しょうぎの王将の略) ② [玉] ～整理 (経済用語)	ギョク① ギョク②
きいろだ・きいろに	(名詞に合併。「だ」「に」は助詞ニ, 助動詞ダ, へ)	キイロ	きらい	[嫌] あの人～だ／一致しにくい～がある	キライ
気運・機運	(合併)	キウン	きり・ぎり	① [切] ガリ版きり／～のよいところでやめる／きりがいい／巾着きり／きり狂言／減多ぎり	キリ①
きく	① [聞, 訊, 聴] 音楽を～／先生のいうことを～／道を～／香を～／口を～ ② [利] 葉が～／しびれて足が～・かない／目が～／無理が～	キキク① キキク②	きる	② びんから～まで ③ (だけの意) 二人～ (副助詞)	キリ② ⇒助詞キリ
器具・機具	(合併)	キグ	きる	[切, 伐, 斬] 人を～／木を～／縁を～／トランプを～／期限を～／たんかを～／大見得を～／金を使い～ (なお「東京きっての美人」は別立し, 見出し キッテ)	キリル
ぎごちない・ぎごちない	(合併)	ギゴチナイ	きれ・ぎれ	[切, 片, 布, 裂] ひときれのパン／一枚の白いきれ／古代ぎれ／時間ぎれ	キレ
器材・機材	(合併)	キザイ	きれる	① [切] 堪え～・れない／使いたい～・れない／こんな刀ではとても～・れない (可能動詞。キレル①は「切る」へ集合)	キレル①
基準・規準	(合併)	キジュン		② [切] あらしで電線が～・れた／在庫が～／～あたま／そこを右に～と目的の家だ／よく～刀だ (自動詞)	キレル②
きたる	～五日 (連体詞の用法も原動詞に合併。注記せよ)	キタリル		～有望 (程度の副詞)	キワメテ
奇談・綺譚・奇譚	(合併)	キダン	きわめる	[究, 極] 栄華を～／真相を～／口を～・めてほめる	キワメル
きって	東京～の美人	キッテ	きん	[金] ①補償～／～一封／～	キン①
規定	(規程と別) 法律の～	キテイ①			
規程	(規定と別) 建設～	キテイ②			
キネマ・シネマ	(合併)	キネマ			
きまって	一か月に一, 二度～食事を共にして (決マリルに合わせる。「て」は助詞テへ)	キマリル	きわめて		
きまり	[決, 極] ～に従う／～文句	キマリ	きわめる		

	の指輪		くれ	〔暮〕年の～／秋の～／日の～	クレ
	②(しょうぎの金将の略)	キン②	くれぐれも	～気をつけるように	クレグレ／ 助詞モ
	③(金曜の略)	キン③			
	④(会社名の金属などの略)	キン④	くれる	「暮」日が～／途方に～／涙 に～	クレル
ぎん(銀)	①～の燭台	ギン①	訓	①音と～	クン①
	②(しょうぎの銀将の略)	ギン②		②養生～／戦陣～	クン②
くう	〔食, 喰〕夕飯を～／泡を～	クイウ	くんだり	四国～(クダリと別立)	クンダリ
	／待ちぼうけを～／その手 は～・わない		ケ	〔箇〕(コに整理)	コ
くさい	〔臭〕～におい／～球／ポー ル～／辛気～	クサイ	けい	①〔形〕円すい～／三角～	ケイ①
くさめ・く しゃみ	(合併)	クシャミ	けい	②〔型〕原始～	ケイ②
くさり	〔鎖〕～のベルト／おのろけ をひと～	クサリ	形式・型式(合併)	〔計〕温度～／～百円になる ／一年の～は元旦にあり	ケイシキ
くせ	〔癖〕なくて七～／知らな い～に	クセ	係争・繫争(合併)		ケイソウ
くそ・くそ ッ	〔糞〕犬のくそ／くそッ, 負 けてなるものか	クソ	けしからぬ ・けしか らん	(合併。「けしかりません」も ここに。「ませ」「ぬ」 「ん」は助動詞マス, ヌへ)	ケシカラぬ
くだる・く だらない	①〔下, 降〕坂道を～／軍門 に～／審判が～／千人を ～・らない聴衆	クダリル①	けして・け ッして	〔決〕(合併。「けして」は注 記する)	ケッシテ
	②～・らない話ばかりしてる (「ない」は助動詞ナイへ)	クダリル②	けぶり・け むり	〔煙〕(合併)	ケムリ
くち・ぐち	〔口〕～を開く／玄関ぐち	クチ	けぶる・け むる	(合併)	ケムリル
ぐっと・ぐ うっと・ ぐいと	(合併。「と」は助動トへ)	グツ, グイ と	けり	①～をつける／～がつかない ②昔男あり～(助動詞)	ケリ ⇒助動詞ケ リ
くび	〔首, 頸, 臍首〕～をくくる ／とっくりの～／～になる	クビ	けれど・け れども	《接》(合併, どちらが現われ たか注記する。助詞の部へ, ただし接続助詞と別立)	⇒助詞ケレ ド(モ)
くまなく	～捜す／残る～	クマ／ナイ	けん	〔険〕天下の～／～のある顔	ケン
くむ	①〔組〕三人で～／右四つに ～／足場を～／活字を～	クミム①	げん	①〔原〕機雷～／浮氷～	ゲン①
	②〔汲, 酌〕お茶を～／流れ を～／事情を～	クミム②		②〔原〕凝集～／～フィン語	ゲン②
くらい・ぐ らい	〔位〕～人臣をきわめる／こ の～はやれる／これ～なん でもない	クライ	げんに	③〔現〕～段階／～局長(現 職にある意)／～に(副詞的)	ゲン③
クラブ	①社交～	クラブ①	健全・堅実(合併)	～な方法	ケンジツ
	②ゴルフの～を買う	クラブ②	減小・減少(合併)		ゲンショウ
クラブ・グ ローブ	(合併)	グロオブ	現状・現情(合併)		ゲンジョウ
くる	①〔繰〕糸を～／雨戸を～／ ページを～／日数を～	クリル①	げんに	〔現〕～こうして…(「げん」に 合併。「に」は助詞ニへ)	ゲン
	②〔剥〕木を～	クリル②	こ	〔小〕～座敷／～人数／～ 時間／～なまいきな奴	コ
	③〔来〕台風が～／少し違っ て～／あいつと～・たら	キクル	こ	①〔子〕よその～	コ①
ぐるり	①部屋の～いっばいに(名詞)	グルリ①	ご(御)	②〔子, こ〕雀っ～／馬～ (方言の場合)	コ②
	②～と回転する(写声語)	グルリ②	こいねがわ	③云い負かしっ～をしている	コ③
			くは・こ	～あいさつ／花嫁～	ゴ
			いねがわ	《副》(「は」「ば」は, 助詞 ハ, バへ)	コイネガワ クは
			くば		

こう	① [高] ~打率/~原価 ② [高] (高等学校, 高等裁判所などの略) ③ [公] ~約数/~事業/~的 ④ [公] グロスター~/八~/熊~(人の後につくもの)	コウ① コウ② コウ③ コウ④	ごとし・ごとく・ごとき・とくに ことに	[如] ……の~ (左の語形を合併。「ごと」もここに入る。「に」は助詞ニへ) ① [殊] (副) ② [異] …を~する	ゴトッ コトに コト/助詞ニ
こう・こうと	コウ弥次さん見なせえ/はいあなたはコウト三十七八にももおなりなされますか (指示詞に合併。「こう」と)などが現われたら注記する。「と」は助詞トへ)	コウ⑤	ことわり ことわる	① [断] ~の手紙 ② [理] 盛者必衰の~ [断] 旅行に誘われたが~・った/先生に~・って休む	コトワリ① コトワリ② コトワリル
剛快・豪快 交替・交代	(合併)	ゴウカイ コウタイ	こないだ この・このう	(「この間」の融合) この人を見よ/そいつはこのう, こういうわけなんです	コナイダ コの
こく	① [扱] 稲を~ ② うそを~/へを~	コキク① コキク②	こぼす こま	水を~/涙を~/ぐちを~ ① [独楽] ~をまわす ② [駒] (馬) / (しょうぎの)	コボシヌ コマ① コマ②
ここ	[此処・兹] 《代》~がよかろう~/~を先途~/~をもって~/~に明智光秀は(接続詞的)	ココ	こまかい・こまかな	③ [論] 物語のひと~ [細] (どちらが現われたか注記する。「な」は助動詞ナへ)	コマ③ コマかい, な
ここに	[兹] (接続詞的な用法。指示詞と合併。この用法が現われたことを注記する。「に」は助詞ニへ)	ココ	こむ	[混・込] 電車が~/手の~・んだ作品/ひきずり~	コミム
こころなら ずも	~失礼させていたいただきます (「こころ」に合併し, 「こころ」以外の部分は, 助動詞ナ, ズ, 助詞モへ)	ココロ	こりゃ	① それは君の本で~ぼくのだ。/~何だろ。(「これ」と「は」に分解, 「は」は助動詞ハへ。) ② ああ, ~ [はやしことば] (「これ」参照)	コレ/ハ コリャ
心持ち	よい~/坂を~登ったかと思ふと	ココロモチ	こる	① [凝] ラジオに~/肩が~/~・った型の服(自動詞) ② [樵] 木を~ (他動詞)	コリル① コリル②
ござる	① 本はここに~/います/ここに~/ります/いやまことに世に連歌ほどおもしろいものは~/らぬ/ちよっちよと~/れ酒の相手に ② さようで~/います/ありがとう~/ります/このあたりに住まいいたすもので~(助動詞)	ゴザリル ⇒助動詞ゴザル	これ・こりゃ これみよがし	これおまえの名はなんというぞ/こりゃこりゃ家来ども (感動詞的用法[ああ, こりゃこりゃ]のは指示詞と別立) ~にあざわらう	コレ コレ/ミル/助詞ヨ/助詞カシ
こし・ごし こす	[越] 左翼~/二年~ [越] 峠を~/冬を~/六才を~/大阪に~/・していた友人/…するに~/したことはない	コシ コシス①	ごわす	① ここに~ ② さようで~ (助動詞)	ゴワシス ⇒助動詞ゴワス
こたえる	[答, 応, 堪] 質問に~/要望に~/寒さが~/テレビで野球をみるのは~/えられない	コタエル	今期 今季 こんだ	(今季と別立)~復配 (今期と別立)(野球など) (「今度」と「は」に分解, 「は」は助詞ハへ)	コンキ① コンキ② コンド
ごと ことさらに	[如] 雪の~ (「ことさらに」に合併。「に」は助詞ニへ)	ゴトッ コトサラ	こんなに さ	(「に」は助詞ニへ) ① (「さのみ」「さばかり」などの。「さ」を除いた部分	コンナ サ

	は助詞ノミ、バカリ へ)		さして	が現われたか注記する)	
	②それが～ などの。(助詞。な お助詞の中では、「さ」を 終助詞、間投助詞、方向を 示す格助詞(方言)に分け る)	⇒助詞サ	さしも	～堅固な要塞も	サシモ
	③(「厚さ」「寒さ」など、 「さ」のつく形は、「厚い」 「寒い」などに集合)	—	さしゃる・	①見～(「しゃる」も参照)	シャリル,
座	～につく／～が白ける／～布 団／～をけて立つ／文学 ～／明治～	ザ	さっしゃ る	②火の用心～りやしょう	サシャリル
さあ	～どうだかな／～早くいえ／ ～行こう	サア	さす	①[指、刺、播、差] 封棋を ～／東を～して進む／と どめを～／花びんに～／盃 を～／かさを～／油を～／ 水を～／蜂が～(他動詞)	サシス①
さい	①[才] 音楽の～	サイ①	さすれば	②[差、刺] 日が～／赤みが ～／潮が～／影が～／魔が ～(自動詞)	サシス②
さい	②[歳、才] 年齢三十～	サイ②		～必ずしも失敗とは言えない わけだ	サシス ル／助詞 バ
さい	①[祭] 芸術～／パリ～	サイ③	させる	退学～／練習を～(シヌルと 別立)	サセル
さい	②(祭日の略) 日・～	サイ④	さぞ	《副》～お疲れでしょう	サゾ
在	～アメリカ／長野の～	ザイ	さぞかし	《副》～気を悪くなすつたろう	サゾかし
さいご	①[最後] 本日～の好取組／ 出会ったら～逃げられない	サイゴ①	さだめし・	(合併。どちらが現われたか を注記せよ)	サダメシテ
	②[最期] ～をとげる／友の ～をしみじみと(この意味 でも、「後」が使ってあれば ①に入れる)	サイゴ②	さだめて	～した服装／～わからない	サツパリ
さいしょう	①[最小] 被害を～にくいと める	サイショウ ①	さつぱり	[倍] それは～おき…／今の 件は～おいて／～それから …／～こまった／～は… …／～／(接続詞、感動 詞の用法合併)	サテ
	②[最少] ～限の要求	サイショウ ②	さて		
さいわい	[幸] ～が訪れる／もっけの ～／これ～と／味方に～す る／～助かった／くらやみ を～／～にしてまだ…	サイワイ	さのみ・さ ばかり	(サに合わせる。「のみ」「ばか り」は助詞ノミ、バカリへ)	
さかい	①[境] ～にくいをうつ／今 次大戦を～に世相が一変／ 夢幻の～	サカイ	さばく	[捌、裁] 事務を～／手綱を ～／事件を～	サバキク
	②五年ごしの恋愛や～いいこ とも悪いこともお互によろ わかってまっせ(助詞)	⇒助詞サカ イ	さほど	～大切にも思っていない／～ の品をむざむざと(サに合 わせる)	サホド
さかな	[魚、肴] ～をつる／酒の～	サカナ	さま(様)・	①皇太子さま／お待ち遠さま です(「さん」は「さま」と 別立)	サマ①
さく	①[裂、割] 鶏を～／時間を ～	サキク①	さま	②事のさまを語る／かけより さま	サマ②
	②[咲] 花が～	サキク②	さみしい	(「さびしい」に合併)	サビシイ
作成・作製	(合併)	サクセイ	さめる	①[冷] ご飯が～／愛情が～	サメル①
作法	①行儀～	サホウ		②[褪] 色が～	サメル②
	②小説の～	サクホウ	さも	③[覚、醒] 目が～／夢から ～／迷いが～	サメル③
さしあたり	(副詞的用法。「さしあたっ て」「さしあたりまして」と 同様、動詞に合わせる)	サシアタリ ル	さよう なら・さよ なら	①～似たり／～うまそうに ②～あろう(「さのみ」などの サへ入れる。「も」は助詞モ へ)	サモ サ
さしたる・	～困難もなく(合併。どちら	サシタル、テ		(別れのあいさつ)	サヨウナラ

さらに	〔更〕〔副〕	サラに	せる。この形の現われたこ
さらば	① (感動詞的, 別れのことば) ~ナポリ/お~ ② ~一刀のもとに切り捨てん (接続詞的。「さりとて」「さりながら」のサリルと合併。この形を注記する。「ば」は助詞バ へ)	サラバ サリル	とを注記する)
さりげ	~なく (「サリゲ」はサリルに集合)	サリゲ	しかしなが ら
さりとて・ さりながら	(「さらば」のサリルに合併。現われた形を注記する。「とて」「ながら」は助詞トテ, ナガラ へ)	サリル	しかのみな らず
さる	~五日 (連体詞的。「去る」に合わせる)	サリル	しかも
さる・され ば	さるほどに/さる者ありと知られたる など(「さらば」「さりとて」などのサリルに合併。現われた形を注記する。「ば」は助詞バ へ)	サリル	しかり・し かるに・ しかるべ き・しか れども
される	攻撃~/攻撃を~ (シ.スルと別立)	サレル	しき
さわり	〔障, 触〕 ~が柔らかい人/ ~が生じて行かない/義太夫の~を聞かせる	サワリ	① [敷] ~ぶとん/どびん~ ② [式] 卒業~/~次第/不 等~/三八~/アメリカ~
さわる	〔触〕手で~/勝負事は体に~/癪に~/当らず~/らず	サワリル	③これ~のことでなくじけな い (助詞シキ)
さん	〔様〕 (サマと別立。チャンとも別立)	サン	しく
子	遺伝~/婦女~/白三~ (囲碁)	シ	しこうして
し	① ぼくと~/ては~/は~/ない (シ.スルに合併) ② 雨は降る~/風は吹く~/困った (助詞)	シ.スル ⇒助詞シ	したがって ・したが いまして
自	① 自由党などの略。 ② ~東京至大阪 (助詞「より」に入れる)	⇒助詞ヨリ	して
しいて・し いる	〔強〕無理をしいる/しいて言え (「て」は助詞へ)	シイル	したり 突
しか	~のみならず~/はあれど	シカ	して
しかくい・ しかくな	〔四角〕 (形容詞・形容動詞活用は合わせる。どちらが現われたか注記する。「な」は助動詞ナ へ)	シカクイ, な	しのご 突
しかくだ・ しかくに	〔四角〕 (この形のときは名詞に合わせる。「に」「だ」は助詞ニ, 助動詞ダ へ)	シカク	シネマ
しかし	《接》	シカシ	しのご 突
しかして	《接》 (「しこうして」に合	シコウシテ	しのみ ぶ
			しばし
			しばしば
			しばらく
			しほり
			しまい・じ まい
			しまう
			シノギ.ッ
			シノビ.ッ
			シバシ
			シバシバ
			シバラク
			シポリ
			シマイ①
			シマイ②
			シマイ.ッ

しまった	具を～／食べて～ ～と思ったがもう遅い(この形で見出しにする)	シマッタ	じょう	①〔丈〕中村福助～ ②〔丈〕一～五尺	ジョウ③ ジョウ④
しみる	①〔染, 泌〕薬が～／汁が紙に～／身に～・みて……	シミル	情況・状況	(合併)	ジョウキョウ
じみる	汗～／泥棒～／気狂い～・みた格好(シミルと別立)	ジミル	情景・状景	(合併)	ジョウケイ
しめた	～うまくいった(シメルと別立)	シメタ	称賛・賞賛	(合併。費が識になっていてもここへ入れる)	ジョウサン
しめる	①〔縮〕帯を～／首を～／気を～・めてかかる／～・めて三万円也	シメル①	召集・招集	(合併)	ジョウシュウ
しやる・さしやる	②〔占〕位置を～／味を～どこへ行かしたか／いわっしゃる／見さしやる(「れる」「られる」などと同様に扱う。「さしやる」も参照)	シメル② シャリル, サシャリル	じょうしょ	〔情緒〕(「じょうちよ」は「じょうしょ」に合わせる)	ジョウショ
洒落	～を言う／～者／～着／お～	シャレ	蒸溜・蒸留	(合併)	ジョウリュウ
しゅ	①〔主〕マホメット教～／～たる原因／～として	シュ①	ショート	(ショートと別立)	ショウト
じゅう(重)	②〔手〕運転～／～工業	シュ②	ショート	～のスカート／～・ストリー(ショートと別立)	ショウト
蒐集・蒐収	①～工業／～労働	ジュウ①	食餌	～療法(食事と別立)	ショクジ①
心身・身心	②二～ガラス	ジュウ②	食事	(食餌と別立)	ショクジ②
集束	(合併)	ジュウシュウ	食糧	～事情／～年度(食料と別立)	ショクリョウ①
束束	(集束と別立)(碁の用語)	ウ	食料	～品(食糧と別立)	ショクリョウ②
しゅうち	①〔衆智, 衆知〕～を集める(大勢の知恵)	シンシン	所々・処々	(合併)	ショショ
しゅうとく	②〔周知, 衆知〕～の事実／～のとおり(多くの人が知っていること)	シュウソク①	ジョルジュ	(フランス人名。英人名ジョージ(見出しジョージ)と別立)	ジョルジュ
習練・修練	(合併)	②	しらず・しらずしらず	(原動詞「知る」に合併。注記する。「ず」は助動詞ズへ)	シリル
しゅぎょう	①〔修業〕～中の身／～僧	シュウチ①	しらん	①わしは～	シリル／助動詞ス
しゅし	②〔修行〕針灸の～	シュウチ②	しるす	②あの話は本当か～	助詞カシラ
順法・遵法	(合併)	ジュウレン	しれる	〔記, 識, 印, 標〕日記を～／著者～／オそ幅40センチを～・して脇を結ぶ	シルシス
じょう	①〔状〕通知～／あいさつ～(手紙)	シュウトク①	じん	①〔知〕おさとが～／敵状が～・れない／……かも～・れない／～・れたことさ	シレル①
	②〔状〕液体～(状態の意)	ジュウトク②	しんぞう・しんぞ	②〔癲〕～・れに～・れて荒れ狂う	シレル②
		ジュウギョウ①	進展・作展	(合併)	ジン①
		ジュウギョウ②	吸い付ける	磁石は鉄片を～／たばこの火を～	ジン②
		ジュンポウ	数	学生～／～年にわたる努力／こうなったのは自然の～だ	シンゾウ① ジンゾウ②
		ジョウ①			シンテン
		ジョウ②			スイツケル
					スウ

すえる	① [据] 礎石を～/腰を～/目を～	スエル①		②～・ボード/～・カメラ/車の～がいたんだ(ばね)	スプリング②
	② [鑑] ごはんが～	スエル②	すべからく	[須] ～現代を超越すべし	スベカラク
すかす	① [透, 空] 間を～/千円札を～・してみる/～・さずとびこむ	スカシ.ス①	すべて	[総] 《名・副》問題を～解決する/～の問題を解決する	スベテ
	② [隙] いくらなだめても～・しても	スカシ.ス②	すみ	① [墨] すずりで～をする/いかの～/なべに～がつく	スミ①
	③ あいついやに～・してやがる	スカシ.ス③		② [炭] ～を焼く	スミ②
すき・ずき	[好, 羨奇] すきな人/スポーツずき/すきをこらす	スキ	すます	① [澄] 耳を～/～・した顔	スマシ.ス①
すく	① [透, 空] 腹が～/手の～・いているとき/肌が～・いて見える	スキ.ク①	すませる	② [済] 仕事を～(スマセルと別立)	スマシ.ス②
	② [梳] 髪を～	スキ.ク②		① [澄] 耳を～	スマセル①
	③ [漉] 紙を～/のりを～	スキ.ク③		② [済] 仕事を～(スマシ.スと別立)	スマセル②
	④ [鋤] 畑を～	スキ.ク④	すむ	① [住] ～・めば都	スミ.ム①
	⑤ [好] ～・いた同士/～・かぬ男(「好いたらしい」は「いやらしい」の反対の意味の時は全体で1β.好きになったらしいの意味のときはスキ.ク⑤)	スキ.ク⑤		② [済] 学期末試験が～	スミ.ム②
	⑥ [剝] 肉を～	スキ.ク⑥	すり	③ [澄] 水が～	スミ.ム③
すくう	① [救] 命を～	スクイ.ウ①		① [搦] ～に財布をすられた	スリ①
	② [抄, 掬] 氷を～/足を～	スクイ.ウ②		② [刷] この本は～が悪い	スリ②
すくなくからず	～おどろいた	スクナイ/助動詞ズ		① [為] 運動を～/運動～/それはともかくと～・て/心を一つに～/主と～・て/～と(接統詞的)	シ.スル
すくなくとも・すくなくとも・すくなくとも	(合併。ただし「少ない」の連用形と別立。どれが現われたか注記する。「も」「とも」「ても」は助詞モ, トモ, テモ へ)	スクナク(て, と)も	すると	② [刷, 摺, 摩, 捺, 搦] 五百部～/大根を～/マッチを～/財布を～/競馬で百円～・った	スリ.ル
すこしく	(「少し」に合わせる)	スコシ	すわる	[据, 坐] 腰掛に～/目が～/肝が～	スワリ.ル
すじ	[筋] 首の～を 遡る/煙ひと～/視測～/東海道～/～が通った話	スジ	せ・せい	① [背] せに負う(背中, 後部)	セ①
すすめる	① [勸, 奨, 薦] 中年のスポーツとしてゴルフを～/候補者として某君を～	ススメル①		② [背, 丈] せいが高い(身長)	セ②
	② [進] 工事を～/兵を～	ススメル②	せい	① [正] ～と邪/～と負(数学)/～反対/検事～	セイ①
スタンド	ガソリン・～/電気～/～をうずめた観衆	スタンド		② [生] ～と死/この世に～をうける/～への希望	セイ②
ステーション	～・ホテル(駅の)/サービス・～(所)	ステーション		③ [生] 高校～/門下～/一年～	セイ③
すでに	[既] 現品は～到着	ステに	せい	① [性] 放射～物質/可能～/人間～/人の～は善	セイ④
スナップ	①～写真	スナップ①		② [性] ～道徳(sex)	セイ⑤
	②(洋裁用のとめがね)	スナップ②	勢	明智～/敵の～	ゼイ
スプリング	①～・キャンプ/～・コート	スプリング	生育・成育(合併)		セイイク
		①	生彩・精彩(合併)		セイサイ

せいさく	①〔製作〕映画を～する ②〔制作〕新～(団体名) (合併)	セイサク① セイサク② セイチャウ	～はない／～でいう	
生長・成長			そらす	①〔外, 逸〕目を～／話を～ ／人を～・さない
せき(関)	①箱根の～	セキ		ソラシ.ス①
・せき	②若乃花～	ゼキ		ソラシ.ス②
節	上京の～／(プロ野球)22～ ／紀元～／～を曲げない	セツ	ソリヤ・ソ リヤあ	ソレ それやまだ食べたことがない ／ソリヤあ大変だ(指示詞 「それ」と「は」の融合。「は」 は助詞ハ へ)
せつ・せつ	[切]切なる願／切に祈る／	セツ	それ・それ	①《代》それとこれは違う ソレ①
に・せつ	待望するや切(「に」「なる」 は助詞ニ, 助動詞ナ へ)		ッ	②《感》それみたことか／そ ソレ②
なる				
ぜひ	[是非]～善悪／～お願いし たい	ゼヒ	それから・	(接続詞的。指示詞ソレに合 ソレ
せめる	①〔攻〕敵陣を～	セメル①	それだか	わせる。「だ」「から」「で」 は助動詞ダ, 助詞カラ, デに 入れる)
	②〔責〕怠慢を～	セメル②	ら・それ	
世話	～になる／～女房／～物／下 ～にも……という	セワ	で	
センター	～オーバーのヒット／文化～	センタア	それとも	(接続詞的)～いやか ソレとも
そう	①〔相〕王者の～／社会～/ ……し～だ／おもしろ～だ ／……する～だ／おもしろ い～だ	ソウ①	そんな・そ んなに	(「に」は助詞ニ へ) ソナナ
	②(指示)～思う／～～いい 子だね／うん～(感動詞の 用法もここへ入れる)	ソウ②	そんなら	(指示詞ソレ。「なら」は助動 詞ナ へ) ソレ
そう	[添, 沿, 副]影が形に～/ 長年～・ったつれあい／期 待に～／川に～・って／法 案の構想に～・った行政	ソイ.ウ	打	①～楽器／二壘～ ダ① ②打数の略 ダ②
相異・相違	(合併)	ソウイ	だい	①〔大〕～投手／にぎりめし ダイ① ～の……
総合・総合	(合併)	ソウゴウ	だい	②〔大〕同志社～(大学の略) ダイ② ①〔台〕天文～／～を置く／ ダイ③ 化粧～／バス三～ ダイ④ ③〔代〕所司～ ダイ⑤ ④〔代〕学用品～／お～は五 ダイ⑥ 百円でず
そうじて	[総]《副》	ソウジテ	たいした・	(合併) タイシ.たて
候	①老人に尋ねべきことの～ ②高砂の松にて～／申付け～ (助動詞)	ソウライ.ウ ウロウ	たいして	
そこそこ	あいさつも～に／四十～	ソコソコ	体勢・態勢	(合併) タイセイ
そこで	(接続詞的。「そこ」は代名詞 のソコに合わせ, 「で」は 助詞デ に入れる)	ソコ	大それた	～行為(「た」は助動詞タ へ) タイツ (タイトと別立) タイツ ～スカート(タイツと別立) タイト ①学者～／～が違う タイプ① ②英文～(タイプライターの 略) タイプ②
そしたら	あら, ～こうすればいいじゃ ない	ソウ ② / シ.スル / 助動詞タ	タイツ タイト タイプ	
そして	《接》楽しい～深い感激を	ソシテ	たえる	①〔耐, 堪〕耐乏生活に～/ タエル① ～・えがたい苦痛/ ②〔絶〕消息が～／～・えざ る努力／～・えず努力する ／～・えて消息がない タカ [高]物価だか／支出だか/ タカ 金をたか／たかまき絵／た かをくくる／たかが知れて る／たかが女の一人や二人
そなえる	①〔備, 具〕優秀な機械を ～・えた工場／商才を～・ えた男／台風に～ ②〔供〕お神酒を～	ソナエル① ソナエル②	たか・だか	
その・その	その事とこの事は別だ／だっ う てお父さん, そのう, なん ですよ……	ソノ		
そら	[空, 虚]パリの～の下／～ を飛ぶ／心も～に／生きた	ソラ		

たかる	入が黒山のように～・っている／はえが～／後輩に～・られる	タカリル	だて／三本だて／三頭だての馬車／二階だて		
たく	[焚, 炊, 炷] たき木を～／ふろを～／ご飯を～／香を～／フラッシュを～	タキク	② しほりたての牛乳	タテ②	
たしか・たしかに	たしか去年のことだったが／たしかにいただきました(「に」は助詞ニ へ)	タシカ	① [建前, 立前] 家の～	タテマエ①	
たす	[足] 一に二を～／書き～／用を～	タシス	② [建前, 立前] ……というのがこの会社の～(方針)	タテマエ②	
出す	代表を～／顔を～／苦しみ～	ダシス	[立, 建, 樹] 門松を～／見通しを～／証拠～／声を～／ふろを～／顔を～／茶を～／腹を～／戸を～	タテル	
たずねる	[尋, 訪] 久しぶりに故郷を～／事故の状況を電話で～／母を～・ねて三千里	タズネル	たとえ	タトイ	
たたえる	① [漕] 池は青い水を～／口もとにえみを～	タタエル①	たとえば	タトエバ	
ただし	[但]	タダシ	たね・だね	タネ	
ただす	① [正] 姿勢を～／誤りを～	タダシス①	たのむ	タノミム	
ただならぬ	二人の間には～ものがあった(「ぬ」は助動詞ヌ へ)	タダナリル	たま	① [玉, 球, 弾丸] パチンコの～／真珠の～／眼鏡の～／鉄砲の～／あの女はなかなかいい～だ／～の興に乗る	タマ①
たち・だち	① [立] 目鼻～／～往生	タチ①	② [稱] ～に／～の日曜日	タマ②	
	② [性, 質] 気の弱い～	タチ②	たまる・たまらない	タマリル	
	③ [達] こども～	タチ③	① [溜, 堪] 水がたまる／借金がたまる／こう寒くてはたまらない／たまったもんじゃない(合併。「ない」は助動詞ナイ へ)		
	④ [太刀] ～をはく	タチ④	ためし	タメシ	
	⑤ [裁] 直線～	タチ⑤	[試, 例] ～にやってみよう／二度ばかりあの男に会った～がある／そんなことをやった～はない		
たつ	① [立, 起, 建] マナスルに～／～・て労働者／家が～／うわさが～／歯が～・たない／役に～／義理が～／角が～／腹が～	タチッ①	たより	① [便] ～のないのがよい～／お～有難う／お～する	タヨリ①
	② [経] 三年～	タチッ②	② [頼] ～にする／道標を～に歩く／～を求める	タヨリ②	
	③ [絶, 裁] 交際を～／布を～／ブラウスを～	タチッ③	たらない・たりない	タリル	
達する	頂上に～／齢六十に～／お耳に～／目的を～	タッシ・スル	たりる・た	タリル	
脱する	①地球の引力を～／危機を～	ダッシ・スル①	る		
	②要点を～(ぬかすの意)	ダッシ・スル②	たん・たんに・たんなる	① [単] 単に／単なる／単細胞など。(「に」「なる」は助詞ニ, 助動詞ナ へ)	タン①
たった	～一人で(「ただ」に合わせる。注記する)	タダ	② [端] 東南～／～を発する／～を開く	タン②	
たっとい・とうとい	[尊] (合併)	トウトイ	たん(段)	～を登る／三～論法／升田九～／予算を組む～になると／此～御願申上候也	ダン
たっとうぶ・とうとぶ	[尊] (合併)	トウトビョ	探求・探究	(合併)	タンキョウ
たて・だて	① [立, 建] たて行司／忠義	タテ①	だんこ	[断乎, 断固] ～遂行する(「～たる」「～として」も合	ダンコ

	併。「たる」などの部分は 助動詞タ、助詞ト、テ、動 詞シ.スル へ)			「ついぞ」の「に」「ぞ」 は助詞ニ、ゾ へ)	
だんじて	[断] (副)	ダンジテ	追及・追求 (合併)	ツイキェウ	
鍛練・鍛錬	(合併)	タンレン	・追究		
ち	[知, 智] 知的/世間~/~/ に働けば角が立つ	チ	ついて	[就] その件に~ (「つく」参 照)	ツキ.ク③
ちいさい・ ちいさな	[小] (合併。「な」は助動詞 ナロへ)	チイサイ, な	ついで	「次」(接続詞的。原自動詞「次 (継)ぐ」に合併。「で」は 助詞テ へ)	ツギ.ク
智慧・智恵	(合併)	チエ	ついでに	[序] (副詞的な用法も名詞 (「序の折」などの)に合わ せる。「に」は助詞ニ へ)	ツイデ
チェック	①~の模様 ②番号の数字に~する/相手 の動きを~する	チェック① チェック②	つう (通)	①映画~/あるじの~な計ら いで…… ②手紙を三~(助数詞)	ツウ① ツウ②
近く	①目的地がだんだん~なった /千円~損した (形容詞に 合併) ②一割の~ (が, に, を…)/ 東京の~の (が, に, を, ま で…) /マドリードの~, マシクロアにすむ/山麓~ 一帯は…… (名詞とする)	チカイ チカク	通じる・通 ずる	故実に~/電話が~/心が~/ /すべての道はローマに~/ /一年を~・じて/友人を ~・じて伝える/電流を~	ツウジ.スル
ちっとも	~知らない	チットモ	つかい・づ かい	[使, 費] ~の者をやる/忍 術つかい/金のむだづかい	ツカイ
ちと・ちっ と, ちい と, ちょ いと	~お寄りください (「ちっと」 「ちと」「ちいと」はチョッ トに合わせる)	チョット	つかいもの	[遺物, 使物] 盆暮の~/弱 くてとても~にならない	ツカイモノ
ちなみに	[因] (接)	チナミに	つかう	[使, 費] いい辞書を~/妖 術を~/こづかいを~/弁 当を~	ツカイ.ウ
着	①東京駅~/水泳で三~ ②洋服三~	チャク① チャク②	つかえる	①[仕] 中宮に~ ②[支, 闕] 胸に~/道が~ ③両手を~・えて申し上げる	ツカエル① ツカエル② ツカエル③
ちゆう	いやだ~/ほかがあるか/なん ~ことだ (イ.ウに集合)	チュウ	つかぬ	~ことをうかがいますが (動 詞 ツキ.ク①に 合併。「ぬ」 は助動詞ヌ へ)	ツキ.ク
中	①(大中小, 上中下, なか, 最中, 命中などの)~/~程 度の~/~小企業/検討~/ 伝説~/の人物/百発百~ ②中央, 中堅の略	チュウ① チュウ②	つかる	[浸, 漬] 水に~/漬物が~	ツカリル
注文・注文	(合併)	チュウモン	月	①~世界探険~/~に村雲 ②~に三日休める/神無~/ ひと~	ツキ① ツキ②
ちよいと	(チョットに合わせる)	チョット	つきて	[就] 伊勢物語に~/の研究	ツキ.ク③
ちょう・て ふ	恋す~/我が名は (イ.ウに 集合)	テフ	つきまして	[就] それに~/は (以上二項 「つく」参照)	ツキ.ク③
長	①裁判~/一家の~ ②~/時間~/距離~/一日の~/ ~/をとり短をすてる	チョウ① チョウ②	つきもの	ハンゼン氏病に神経痛は付き 物で/ほくには憑き物のよ うにしか考えられないほど の虚子先生の影響から脱却 しきって	ツキモノ
ちょう	①[丁] 二三~/の近さ (距離 ・面積) ②[挺・丁] 鉄砲五〇~/ マツ~ (人名のうしろの)	チョウ③ チョウ④	つく・づく	①[付, 附, 就, 着, 著, 跟, 憑] しみが~/駅に~/職に~/ /先生に~/気が~/目に ~/鼻に~/決心が~/一 段落~/区別が~/高く~/ /訳が~/・かない/狐が~/	ツキ.ク①
ちん つい	①~/この間~/~口をすべらす ②[遂] ~に力がつきた~/ の別れ~/~ぞ (「ついに」	チン ツイ			

／取りかえしが～・かない
 ／～・かぬ事を伺いますが
 ／きょうは～・いてるね

② [突, 衝, 撞, 搦] 剣で～ ツキ・ク②
 ／ステッキを～／ひざを～
 ／もちを～／臭気鼻を～/
 雨を～・いて／意気天を～

③ [就] 選挙方法に～・いて ツキ・ク③
 の討論会／伊勢物語に～・
 きての研究 (about の意味)

つぐ ① [次, 継] 夜を日に～／跡 ツギ・ク①
 目を～／布を～／炭を～
 (他動詞)

② [次] あい～・いで起こる ツギ・ク②
 ／米ソに～・いで三番目の
 …／ついで (接続詞的) (自
 動詞)

③ [注] お茶を～ ツギ・ク③

つくす [尽] 味方として～／公共に ツクシ・ス
 ～／最善を～／焼き～／ポ
 カンとして立ち～

つくる [作, 造, 創] 料理を～／顔 ツクリ・ル
 を～／にわとりが時を～

つける・づ ① [付, 附, 着] 付録を～／袴 ツケル①
 ける を～／元気を～／印象づけ
 る／それに～・けても／善
 きに～・け悪しきに～・け

② [漬, 浸] 水に～／葉を～ ツケル②

つごう [都合] ～がよい／～よく／ ツゴウ
 何とか～する／金が～でき
 ない／～百万円になる

つとめる [勤, 努, 勉] デパートに～ ツトメル
 ／守護代を～／接待役を～
 ／忘れるように～／～・め
 て冷静にふるまう

つぶる・つ (合併) ツブリ・ル
 むる

つぼ [壺] 唐津の～／火消し～ ツボ
 ～をおさえる／思う～

つまり 《副》 (「換言すると」「要約す
 ると」の意)

つまる・つ ① [詰] 下水が～／返答に～ ツマリ・ル
 まらない /気が～／～ところ／～・
 ・つまら らない話をする (「ない」
 ん 「ん」は助動詞ナイ, ソ へ)

つむる 目を～ (ツブリルに合併) ツブリ・ル

つめる [詰] ガソリンを～／生活を ツメル
 ～／息を～／しょうぎで王
 を～／師匠の家に～

つる ① [吊, 釣] 魚を～／たなを ツリ・ル①
 ～／金でうまく～ (他動詞)

② 足の筋が～ (自動詞) ツリ・ル②

つれる ① [連] こどもを～・れて歩 ツレル①
 く／激しくなるに～・れて
 ／歌は世に～・れ…

② 足の筋が～ ツレル②

て ① こどもが泣い～た (イルに テル
 集合)

② こどもが走っ～った (ユ テキ・ク
 キ・クへ集合)

③ こどもが泣い～いた／こ ⇨助詞テ
 どもが走っ～いく (助詞)

って ①あなた～人は…… (「てい テ
 う」の意味のばあい。イイ・ウ
 に集合)

②あなた～ひどい人ね (助詞, ⇨助詞テ
 ただし接続助詞と別立)

てい ① [体, 態] 世間～／ほうほ テイ①
 うの～／さあらぬ～で／～
 よくことわる

② [底] 火山～／10を～とす テイ②
 る対数

③ [底] 目的の為には手段を テイ③
 選ばぬ～の男／非思量～

定形・定型 定形に就く (囲碁)／定型の テイケイ
 問題 (韻文) (合併)

てがた かわせ手形／ひさ子の手型に テガタ
 自分の手を合わせ

手軽 ～く持ち運べる／お～弁当／ テガルい, な
 ～に持ち運べる (「に」は助
 詞ニ へ)

でてゆけが ～の冷遇 デル／助詞
 し テ／ユキ・ク
 ／助詞カシ

手前・てめ ①《代》～もよく知っているとお ママエ①
 え おり／お～も拙者も／おい,
 てめえら, どこから来た/
 ～ども／～みそ／～勝手

②その一歩～で止まる／先生 テマエ②
 の～そらもいえない

デラックス (合併) デラックス
 ・デルク
 ス・ドリ
 ュクス

天 ～高く馬肥ゆ／大黒～ テン

てんで・て ① (各自の意, 「に」「の」は テンデ①
 んでに・ 助詞ニ, ノ へ)

てんでの ②てんでだめだ テンデ②

と・ト ①～もすれば／～みこうみ／ ト①
 ②～音記号 ト②
 ③と金 [将棋] ト③

	④こども～遊ぶ など。(助詞。ただし、格助詞、接続助詞、引用、並列助詞を区別)	⇒助詞ト		②〔説〕道を～君	トキ、ツ②
度	～が強い／新鮮～／四十～の熱／三～目	ド		③〔溶〕えのぐを～	トキ、ツ③
とある	《連》～茶店へ腰掛けた	トアル		④〔梳〕髪を～	トキ、ツ④
とう	～の昔／～に(トックと別立。古文の「とく去なんとする」の「とく」はトシ)	トウ	特徴・特長 (合併)	⑤〔特〕～A級(「特に」)のトクと合わせる。「特に」の「に」は助詞ニへ)	トク
等	①三～重役	トウ①	独特・独得 (合併)		トクチョウ
	②(などの意)。「等」はなるべく文脈に従って「とう」「など」と読みわけ、判別しがたいばあいには「とう」と読む。「など」は助詞へ)	トウ②	とくに	〔特〕《副》(「特A級」などの「トク」と合わせる。「に」は助詞ニへ)	トク
道	合気～／中仙～／北海～	ドウ	とこ・どこ	〔床〕とこに就く／とこの掛け軸／髪結どこ	トコ
どうか・どうぞ	①～やってください(頼む意のときはドウカ、ドウゾなど)	ドウか/ドウぞ	ところ・どころ	①〔所、処〕～変われば品変わる／～番地／兄の～にとまる／あれでなかなかいい～もあるのだ／出勤しようとしている～へ彼が来た／今ちょうど出た～だ／いくらやってみた～でだめだ	トコロ
	②あしたの天気はどうか(疑問のときは、ドウ、助詞カへ)	ドウ		②～がそうはいかない／～でどうしよう(接続詞的。「ところが」「ところで」の「が」「で」は助詞ガ、デへ)	トコロが、で
冬期・冬季	(合併)	トウキ		③……するどころか／……どころか	ドコロ/助詞カ
どうし	①〔同士、同志〕男～／～討ち(「どち」の転で仲間の意)	ドウシ①	トップ	南海が～に出る／～記事／～・マネージメント／スリッパの～をシャーリングする。	トップ
	②〔同志〕～を集める／～スターリン	ドウシ②	とても・とっても	～おもしろい／～出来ない(「とっても」はトテモに合わせる)	トテモ
投ずる	義勇軍に～／ホテルに～／八千万円を～(なお「投じる」もここに合わせる)	トウジ・ズル	とど	①(ぼらの成長したもの)／～のつまり	トド①
同心	～円／奉行所の～	ドウシン		②〔胡猿〕(食肉目あしか科の海獣)	トド②
どうせ	《副》～だめなら	ドウセ		③〔椀〕(とどまつ)	トド③
どうぞ	～おいでください(「どうか」も参照)	ドウゾ	とどめる	〔留、止〕この程度に～／筆を～／足を～／痕跡を～	トドメル
どうも・どうか	①どうもうまくいかない	ドウモ	とにかく	《副》(「とにかく」「ともかく」と別立)	トニカク
	②どうもこうもない(「どうか・どうぞ」参照)	ドウ	との・どの	〔殿〕とののごきげんうるわしく／部隊長どの／何某どの／(御殿の意)	トノ
どうやら	(指示詞ドウへ合併、注記。「やら」は助詞ヤラへ)	ドウ	とぶ	〔飛、跳、躍〕はえが～／～・～であるく／首が～／百～・～んで三	トビ、フ
とおからず		トオイ/助動詞ズ	とまる	〔泊、止、停、留〕旅館に～／目に～／発育が～／バスが～ところ	トマリル
とおり・どおり	〔通〕銀座の～に出る／銀座どおり／人のいう～にする／～が悪い／五～のやり方	トオリ	とめる	〔泊、止、停、留〕客を～／	トメル
とかく	《副》(「とにかく」「ともかく」と別立)	トカク			
ときならぬ	～歓呼のあらし	トキ/助動詞ナ/助動詞ヌ			
とく	①〔解〕難問を～	トキ、ツ①			

足を～／川の流れを～／タ
クシーを～

とも ① [友] 竹馬の～ トモ ①
② [供, 伴] お～する／～の
者 トモ ②
③ [共, 偕] ～に語る／それ
と～に／ぜひ～ トモ ③
④ ～すると(「とやかく」の
トと合わせる。「も」は助
詞モへ) ト
⑤ 知っている～など(助詞) ⇨助詞トモ
ともあれ ～けっこうなことだ／何は～ トモアレ
ともかく 《副》(「とかく」「とにかく」
と別立) トモカク
ともに 挨拶と～近況を知らせる トモ／助詞
ニ
とや とやかく(「や」「かく」は助
詞ヤ, 自立語カクへ) ト
とりあえず 《副》 トリアエズ
取り入れる 稲を～／外国文化を～ トリイレル
取り立てる 税金を～／役人に～／～て
ていうほどのこともない トリタテル
取り付ける ミシンに～モーター／アメリ
カの援助を～ トリツケル
とりなおし 二番後取り直し／写真の撮り
直し トリナオシ
とりまして わが社に～(「とる」参照) トリル
とりもなお
さず 本人の名誉は～学校の名誉だ
トリル／助
詞モ／ナ
オシ。ス／
助動詞ズ
とる 彼にとって有利だ(動詞「取
る」に合わせる) トリル
どりゃ・ど
れ ～出掛けよう(指示詞ドレと
別立) ドレ
とんだ・と
んでも とんだことになった／とんだ
おもしろい話だ／とんでも
ない／とんでもございませ
ん トンだ, ども
どんだん ① ～発展する ドンドン①
② どんつく～(写声語) ドンドン③
どんなに 「に」は助詞ニへ) ドンナ
ない ① [無] ～ものは～／しかた
が～／違い～／やむ～・く
／申すまでも～／この本に
は書いて～ ナイ
② 行か～(助動詞)。(ただし ⇨助動詞ナ
動詞などにつくもの, 形容
詞などにつくものを区別) イ
ないしょ・
ないしょ
う [内緒, 内証, 内所] 家の人
たちには～で～話／ご～
(妓楼等の主人, 帳場) ナイショ

なか ① [中] ガラス戸の～／～の
娘／雨の～／～をとる ナカ①
② [仲] 親しい～／～をさく
／～がいい ナカ②
ながい・な
がき [長, 永] 夏は昼が～／～す
ぎた春／～・きにわたる ナガイ
長島・長嶋 《(人) (合併)》 ナガシマ
ながらく ～ごぶさたしました ナガラク
なかんずく 《副》 ナカンズク
なく [泣, 鳴] こどもが～／牛が
～／こおろぎが～ ナキ。ク
なす [為, 成, 生] 不善を～／彼
をたれとか～／形を～／恐
れを～／～・さぬ仲 ナシ。ス
なぜならば [何故] (「なら」「ば」「か」は
助動詞ナ, 助詞バ, カへ) ナゼ
・なぜな
ら・なぜ
かなら
ナチ・ナチ (合併) ナチ(ス)
ス
なに・なん [何] 大きくなって～になる
／～が～して／これナアニ
／～かまうものか／なん
だなんだ(助詞「ぞ」「で」
「と」「に」に続くときの「な
ん」の形もこれに合わせる)
なにわ 浪花の国／浪華商高／浪速区 ナニワ
なべて 《副》 ナベテ
なみ [並] ～の牛肉／～大抵／映
画界～に ナミ
ならびに [並] (接続詞的) ナラビに
なるべく・ 《副》(「は」は助詞ハへ) ナルベク
なるべく
は
なんか ① 雨か～降ってる(ナニと助
詞カに分けて整理) ナニ
② きみ～にやれない(助詞) ⇨助詞ナン
カ
なんすれぞ 《副》 ナンスレゾ
なんぞ ～いいものはあるかな／こは
～(ナニと助詞ゾに分けて
整理) ナニ
なんだ・な
んで これはなんだ／なんだかおも
しろい／なんであろうか／
なんで来た？バス？都電？
／なんで人の悪口いうのや
(ナニと助動詞ダ, 助詞デ
に分けて整理)
なんて ① あいつが～言おうと(ナニ
と助詞テに分けて整理) ナニ
② ～いい春なんだろう／～お ナンテ

	もしろいんだろう			う/木曾谷から御岳を～	
	③おまえ～だめだ/いやだな	⇒助詞ナン		②〔臨〕式に～/海に～	ノゾミ.ム②
なんと	なんてこといわないで(助詞)	テ	のぶれば	〔陳者〕	ノブレバ
	①～いうすばらしさ/～驚いたことには	ナント	のべる	①〔述〕あいさつを～	ノベル①
	②名は～言うか?/～ならば	ナニ	飲み込む	②〔展, 延〕布を～/腰を～	ノベル②
	/～なく/～か(ナニと助詞トに分けて整理)		のみならず	食物を～/調子を～	ノミコミ.ム
なんなんと	〔垂〕～する(「ト」は助詞トへ)	ナンナン		～彼女の妹は	助詞ノミ/ 助動詞ナ /助動詞ズ
なんに	～もならない(ナニと助詞ニに分けて整理)	ナニ	のる	〔乗, 載〕車に～/投書が雑誌に～/相談に～/口車に～/油が～	ノリ.ル
なんら	〔何等〕～の問題もない	ナンラ			
におい	〔匂, 臭, 香〕きなくさい~/酒の~/解散の~/がする	ニオイ	パイプ	～をくわえた男(たばこの)/ガスの～	パイプ
にくい	〔憎, 難〕～敵/読み～	ニクィ	バイラス・	(バイルスに合わせる。ただしバイラス病はバイラスビョウをたてる)	バイルス
日	①8月15～	ニチ①	ビルス		
	②(日本の略)	ニチ②			
	③(日曜の略)	ニチ③			
ぬかす	〔抜〕大事な点を～/腰を～/大それたことを～(言う)	ヌカシ.ス	はからずも	〔図〕(原動詞ハカリ.ル〔図, 計〕と合併, 注記。「ず」「も」「ん」「き」「や」は助動詞ズ, ス, キ, 助詞モ, ヤへ)	ハカリ.ル
ぬく	〔抜, 貫〕ビール(のせん)を~/黒地に白を~/三人~/戦い~/	ヌキ.ク	・はからんや・はかりきや		
ぬける	〔抜, 脱〕森を~/露地を~/いやなにおいが~/はりあいが～	ヌケル	はかる	〔謀, 計, 図, 測, 量〕再建を~/同志に解決策を~/コスト切り下げを~/長さを～	ハカリ.ル
ぬし	①〔主〕広告~/池の～	ヌシ①	はく	①〔穿, 履〕ズボンを~/たびを～	ハキ.ク①
	②〔主〕《代》お～は忘れたか	ヌシ②		②〔吐〕へどを~/泥を～	ハキ.ク②
ね	①〔音〕虫の~/鐘の~/とらとう~/をあげた	ネ ①	はぐ	③〔掃〕庭を～	ハキ.ク③
	②〔値, 価〕～を引く	ネ ②	はげる	④〔刷〕はけで～	ハキ.ク④
ねかす・ねかせる	こどもを~/金を～(合併)	ネカシ.ス	はじめ・はじめて	①〔接〕布を～	ハギ.ク①
ねがわくば・ねがわくば	〔願〕(合併。「ねがわくば」の形は注記する)	ネガワクハ	はげる	②〔剥〕皮を～	ハギ.ク②
くは			はじめ・はじめて	〔剥, 禿〕壁土が~/頭が～	ハゲル
年中	①～行事	ネンチュウ	はじめ	①〔始, 初〕はじめが肝心/はじめに私が行く/……をはじめ…/……をはじめとして(〔名〕〔副])	ハジメ
	②～いそがしい	ネンジュウ		②〔初, 始〕その時はじめてわかった/はじめてエベレストに登った人(〔副])	ハジメテ
能	①放射~/～ある鷹は……	ノウ①	はしり・ばしり	〔走〕はしり高とび/いだ天ぼしり/さばのはしりを買う	ハシリ
	②～狂言~/～の鑑賞	ノウ②	はたして	〔果〕〔副〕	ハタシフ
のける	物を~/そこ~/けそこ~/・け/やって～	ノケル	はつ・ばつ	〔発〕大阪～東京行き/百～の弾丸	ハツ
のこらず	ほしいものを～与えた	ノコリ.ル/ 助動詞ズ	ハトス	(ペーソスと別)	ハトス
のぞく	①〔除〕障害物を～	ノゾキ.ク①	はなす	〔離, 放〕目を~/池にこいを～(「はなつ」と別立)	ハナシ.ス
	②〔視, 視〕かぎ穴から~/ポケットからハンカチが～	ノゾキ.ク②	はなつ	〔放〕「はなす」と別立	ハナチ.ッ
	・いている		はなれ・ばなれ	〔離〕はなれの屋敷/浮世ばなれ	ハナレ
のぞむ	①〔希, 望〕～ものを与えよ	ノゾミ.ム①	なれ		

はは・はは あ・はは ん・はは つ・はっ はっは	①ははあ、なるほど／ははあ んさては……／早く行け。 ははっ。 ②(笑声)	ハハア ハハハ	反乱・叛乱 (合併)	ハンラン	
はや・ばや	①[早]～飛脚／～じまい／ 出足ばや ②はや三年たった	ハヤ① ハヤ②	ひ	①[日]ある～のできごと／ こどもの～／日曜～／そん なことをした～には ②[日, 陽]～の光／～にや ける／～の当たる坂道 ③[火]～の用心／～の鳥 ④[灯]町の～がまたたく	ヒ① ヒ② ヒ③ ヒ④
はやい ばやい はやく	[速, 早]足が～／朝～・く [場合] (バアイに合併) ①[早, 速]朝(一時間)～ 起きる／～帰りたい(形容 詞)	ハヤイ バアイ ハヤイ	飛	① 飛車の略(しょうぎ) ②中前飛(野球)	ヒ⑤ ヒ⑥
はやびき・ はやびけ	[早引] (ハヤビキはハヤビケ と別立)	ハヤビキ ハヤビケ	ひいて・ひ いては	[延] (副詞的。動詞と別立。 「は」は助詞ハへ) (「ひ く」参照)	ヒイテ
はらい・ば らい	[払, 祓] はらいが悪い／で き高ばらい／おはらいを受 ける／厄介ばらい	ハライ	ビールス	(ウィルス, ウイルス, バイ ラスをこへ合わせる。た だしバイラス病はバイラス ビョウウ。)	ビールス
ばらす はらはら	箱を～／秘密を～／人を～ ～涙を流す／～とあられふり ける／～させる	バラシス ハラハラ	ひかえる	[控] 食事を～／ことばを～ ／主人のうしろに～／要点 をノートに～／試験を目前 に～・えて／胸を～・えて 行くほどに	ヒカエル
はり・ばり	①[針, 鉤, 鉞] ～に糸を通 す／魚に～をとられた／～ をうつ／～ほどのこと ②[梁] (建築用語) ③[張] ～の強い弓／やっ ても～がない／ちょうちん二 ～／十人ばりの弓／ピカソ ばりの絵／強情ッぱり	ハリ① ハリ② ハリ③	ひきあげる	[引上, 揚上] 給料を～／外 地から～	ヒキアゲル
はる	①[張] 根が～／腹が～／肩 が～／氷が～／気が～ (自 動詞) ②[張, 貼] 幕を～／勢力を ～／宴を～／綱を～／意地 を～／見えを～／横面を～ ／……の向うを～／筆陣を ～／のりで～／布を洗って ～ (他動詞) ③(方言) 行か～	ハリ, ル① ハリ, ル② ハリ, ル③	ひく	[惹, 弾, 引, 延, 挽, 轆] 線を～／尾を～／手を～／ 興味を～／人目を～／お茶 を～／ピアノを～／板をの こぎりで～／車が人を～ (「ひいて」参照)	ヒキ, ク ヒケル① ヒケル②
はるか・は るかに	[遙] (合併。「遙かに」は注記 する。「に」は助詞ニへ)	ハルカ	ひける	①[引, 退] 会社が～／気が～ ②(可能動詞) (ヒキ, クに集 合)	ヒケル① ヒケル②
バルコニー ・バルコ ン	(合併)	バルコニイ	ひどく	～混んでいる(原形容詞「ひ どい」と合併。注記する)	ヒドイ
はん	(方言) だんな～ (「さん」に 合わせる)	サン	ひとしく	[均, 等] (「ひとしく」で副 詞的に用いられたばあいも 原形容詞に合わせる)	ヒトシイ
バンド	①～をしめる／かわの～ ②～演奏／ハワイアン～	バンド① バンド②	ひとり	[一人, 独] こわくて～で 行けない／～舞台／～われ れのためばかりでなく(副 詞的用法)	ヒトリ
反覆・反復	(合併)	ハンブク	ひょう	①[票] 住民登録～ ②[表] 計画～	ヒョウ① ヒョウ②
			ひるがえる ・ひるが えて	[翻] 旗が風に～／～・って 思うに(副詞的用法)(合 併。「て」は助詞テへ)	ヒルガエリ ル
			びん・ピン	①～からキリまで／～をはね る(ポルトガル語 pinta)	ピン①
				②～でとめる(英語 pin)	ピン②

	③～とはねる／すぐ～とくる (写声語)	ピン③		／かなを～	
ぶ	① [分, 歩] たびは十文三～ ／打率は三割七～／二～金 ／～が悪い	ブ①	ふるう	② [降] 雨が～	フリル②
風	② [無, 不]～気味／ご～きた ① 季節～／貿易～	ブ② フウ①	ふるまう	[振, 奮] 需要が～・わない ／士気大いに～／刀を～/ 腕力を～／～・った演説	フルイ・ウ フルマイ・ウ
ブール	② 西洋～の／こんな～にやれ ／……といった～で	フウ②	ふれる	[振舞] 女らしく～／客に夕 食を～	フルマイ・ウ
フォーム・ フォルム	① 二十五メートル・～ ② 資金を～する／モーター・ ～	ブウル① ブウル②		① [触] 手を～・れないでく ださい／折りに～・れて/ 法律に～／人々に～・れて まわる／気が～	フレル①
打撃フォーム／ 絵画のフォルム	と構成	フォオム	プロ	② [振] 磁針が西に～／地震 で電燈が～	フレル②
ふかす	① [吹] 金持ち風を～／たば こを～／エンジンを～	フカシ・ス①		①～野球 (アマの対語。pro- fessional)	プロ①
	② [蒸] まんじゅうを～	フカシ・ス②		② 音楽会の～(programme)	プロ②
吹く	② [更] 夜を～	フカシ・ス③		③ 独立～(production)	プロ③
ふける	風が～／火を～	フキ・ク		④～作家 (proletariat)	プロ④
	① [更, 老] 夜も～・けた/ 年のわりに～・けている	フケル①	ぶん (分)	⑤ 5～の水溶液 (Prozent)	プロ⑤
	② [蒸] おいもがよく～・け た	フケル②		①～を守る／ほくの～／その ～なら／～工場／十人～\ 脂肪～／八～目	ブン
ふし・ぶし	[節] 竹のふし／疑わしいふ しがある／ふしをつけてう たう／河東ぶし／森繁ぶし	フシ	へいこう	② 十～の一 (分數のとき)	ブンの
ふす	① [臥, 伏] 地に～／病に～	フシ・ス		① [並行] 百メートル競争と 砲丸投げを～して行り	ヘイコウ①
風情	② [付] 注を～	フシ・スル	兵法	② [平行] ～線	ヘイコウ②
	さびしげな～／～を添える/ 何の～もなく／町人～/ こちとら～	フゼイ		③ [平衡] ～を失り	ヘイコウ③
ふたたび	① [再] ～会うことはない	フタタビ	へん・べん ・べん	① (個人技の武術, 剣術)	ヒョウホウ
	② [二度] ～みたび打ち鳴ら す	フタ／タビ		② (軍学)	ヘイホウ
ふたつ	[双] ～ながら(数のフタツと 合わせる)	フタツ		① [編] 第二へん第三章／西 尾実へん	ヘン①
ふだん	① [不断] ～の努力／霧～の 香をたく	フダン①	へんしゅう	② [辺] 三角形の一べんは他 の二へんよりも大／このへ んは大変静かだ	ヘン②
	② [不断・普段] ～から心掛 けておく／～着	フダン②		③ [遍] 一べん／百万べん	ヘン③
付与・賦与	(合併) 財政に積極的性格を ～する／組織に強権が～さ れると	フヨ	へんしゅう	① [編集, 編輯] ～部	ヘンシュウ ④
不要・不用	(合併)	フヨウ		② [編修] 図書～官	ヘンシュウ ②
ふり・っぷ り・ぶり	① [振] 飲むふりをする／飲 みっぷりがいい／十五年ぶ り／ふりの客	フリ①	ほ・ぼ		ホ
	② [振] 袖のふり／ひとふり 振る	フリ②	ぼう・ぼっ	[歩] 歩を進める／歩一步と	ホ
ふる	① [振] 大手を～／わき目も ～・らず／女を～／棒に～	フリル①		[坊] ほうさん／武蔵ほう/ 本因ほう／ぼっちゃん／暴 れんほう	ボウ
			龐大・龐大 ・龐大	(合併)	ボウダイ
			ほうる・ほ る	[放, 抛] 石をほうる／ほう っておく／ほっといてくれ	ホウリル
			ホーム	①～直前でタッチ・アウト/ ～・グラウンド／老人～/ ～・ライブラリー	ホオム①
				② (駅の) ～で別れる	ホオム②

ポール	①～をなげる／ワン・ストラ イク・スリー・～	ポオル①	まぎれ	[紛] さびしさ～に／～もな い(「うれしまぎれ」は1β)	マギレ
ほかならな い・ほか なりませ ん	②サラダ用～ ……に～／……するに～ 〔「ない」「ませ」「ぬ」など は助動詞ナイ、マス、ヌ へ〕	ポオル② ホカナリル	まく	① [巻, 捲] たばこを～／舌 を～／煙に～	マキ・ク①
ほしいまま に	[恣] (「に」は助詞ニ へ)	ホシイママ	枕	② [撒, 蒔] 種を～／金を～ パンヤの～／話の～／～こ とば	マキ・ク② マクラ
ほす	[干, 乾] おむつを日に～／ 田を～／飲み屋で～酒の味	ホシ・ス	まげて	～御承諾いただきたく(原動 詞「曲げる」に合併。「て」 は助詞テ へ)	マゲル
ほっち・ほ (っ)ち	一人ほっち／あれっほっち／ これっほち	ポッチ	まげる	[曲, 枉] 首を～／事実を～ ・げていう／～・げてご来 駕ください	マゲル
ほる	① [掘, 彫] 穴を～／仏像を ～	ホリル	まこと	[誠, 真] 心の～／～におも しろい	マコト
ほろびる・ ほろぶ	② [放] たまを～ [滅, 亡] (合併)	ホウリル ホロビル	まさに	(副) (「に」は助詞ニ へ)	マサに
ほん(本)・ ほん・ほ ん	①～を読む／人情～ ②～会議(副, 次, 仮に対す る)	ホン① ホン②	まして	(副) 人間だれしも間違いは 犯すもの, ～や親の監督指 導よろしきをえなかったた めに	マシテ
盆	③ビール三～(助数詞) ④～年度／～大学(この) ⑤～のおしるし／～のすこし ／～にそうだった	ホン③ ホン④ ホン⑤	マスター	(喫茶店などの)～／バンド の～／コンサート・～／英 語を～する	マスタア
盆	①茶を～にのせて出す／ばく ちの～	ボン①	まぜっかえ す・まぜ かえす	(合併)	マゼカエシ ・ス
ほんと・ほ んとう	②(うら盆)／お～映画	ボン②	また	[又, 亦] ～あう日まで／あ すも～かくてありなん(副 詞的)／～彼はこうもいっ た(接続詞的) (「または」は 別立)	マダ
ほんとうに	[本当] (合併。「ほんとう」は注 記する)	ホントウ	まだしも	[未] (マダに合併。注記する。 「しも」は助詞シモ へ)	マダ
ボンボン	(「に」は助詞ニ へ)	ホントウ	または	[又] 《接》 A～B	マタは
ボンボン・ ボンボン	(bonbon, キャンデーの)	ボンボン①	まつ	[待, 俟] チャンスを～／～ ・ってました／～・てどく らせど／君の努力に～とこ ろが大きい／言を～・たな い／両両あい～・って	マチ・ッ
間	(pompon, 玉房)(合併)	ボンボン②	まったき・ まった く・まっ とう	①命を全うする／全きを得る ②まったく知らない	マツタイ マツタク
間	～を置く／用意する～もない ／～がある／～を見ていう ／～が悪い／二～の部屋／ 応接～	マ	マッチ	①～の箱／～をする ②ブラウスに～したスカート	マッチ① マッチ②
まあ・ま	～お掛けなさい／君としては ～上出来だ／～きれいな花 だこと／あら～	マア	まつる	① [祭, 祀] 祖先を～／大國 主神を～・った神社 ②スカートのすそを～	マツリル① マツリル②
参る	迎えが～・ります／お先に ～・ります／お寺に～／そ ういうわけには～・りませ ん／～・った(勝負で)／ 寒さに～／彼女に～	マイリル	マネキン・ マヌカ ン・マヌ キャン	(合併)	マネキン
前	～に進む／～の家／五年～／ 五人～	マエ			
任す	(任せると別立)	マカシ・ス			
任せる	(任すと別立)	マカセル			
まかなう	[賄] 自己資金で～／三百で ～／(食事をつくる)	マカナイ・ウ			

まる	[丸, 円] 二重～／～てんじょう／二の～(城の)／～のまま食べる／～ごとたべる／～三年	マル	④ [命] 出勤の～くだる／落城の～明らかなり	メイ ④
まるで	(副)	マルデ	めいひん	① [名品] メイヒン①
まわり	[回, 周] 家の～をまわる／身の～／ひと～／地方～	マワリ	② [銘品] メイヒン②	
みずから	[自]	ミズカラ	メーター・メートル	① ～がぐんぐん上る(計器) メエタア
みだりに・みだりな	みだりに出入できない／みだりなことはいえない(「に」「な」は助詞ニ, 助動詞ナへ)	ミダリ	② 三～二〇センチ	メエトル
身近い・身近な	身近な親しさ／すごく身近に考えていますね(「な」は助動詞ナへ)	ミジカイ, な	召す	お気に～／花を～・しませ／殿が～のだ(呼ぶの意)
みな・みんな	[皆](合併)	ミナ	めでたい	ああら～な～な／お～人
みはる	[見張, 瞳] 驚いて目を～／敵の行動を～	ミハリル	メンス・メンゼス	(合併) メンス
みみ(耳)	うさぎの～／～学問／なべの～／パンの～／反物の～	ミミ	面目	① ～にかかわる／～にかけて／～次第もない／～ない
宮	お～の境内／～様	ミヤ	も	② ～を改める／～を一新
妙	～なやつ／～に寒い／造化の～／彫刻に～を得ている	ミョウ	もう・も	～ひとつ(モウに合わせる)
みる	[見, 観, 視, 看, 診, 試] 山を～／うしと～・し世ぞ／研究して～／患者を～／ざま～・ろ／やって～	ミル	もう・も	～だめだ／～いくつねるとお正月
むかう	[向, 対] 敵に～／西に～・った窓／～・いあら／面と～・って／ぼくに～・って……という／彼は東京に～・った／快方に～	ムカイウ	もうけ	① [設, 儲] 会場にはお茶の～がある
むき	① [向] ～を変える／少年～の読物／ご希望の～は	ムキ ①	もうける	② [儲] 株でひと～する
むずかしい・むづかしい	② そろ～になっておこるな	ムキ ②	もうし	① [設] 罰則を～／立ち入り禁止区域を～
むね	[難](合併)	ムズカシイ	もうしあげ	② [儲] 金を～方法
無理からぬ	① [旨] この～を伝えてほしい／孝行を～とする	ムネ ①	る	(呼びかけ)
め	② [胸] ～の中	ムネ ②	もし	[若] (仮定. 呼びかけと別立)
めい	① [目, 眼] ～をみはる／網の～／法の～をくぐる／～にあまる／あぶない～	ムリカラぬ	もし・もんじ	[文字](合併)
	② [目] ここで会ったが百年～／二番～の娘		もしか	[若] (「か」は助詞カへ)
	③ [名] 定員十五～(人数)		もしくは・もしは	(接)(合併)
	④ [名] 会社～(名前)		もしも	[若] モンに合わせる。呼びかけのモンと別立。「も」は助詞モへ)
	⑤ [名] ～演奏／～講義		もしもし	(呼びかけ)
			もしや	(副詞的。「や」は助詞ヤへ)
			もじり	[揆] 月形は月形半平太, 竜之介は「大菩薩峠」の机竜之介からの～で／紺色の～を着て
			もち	[持, 保] 主人～／この道具は～がよい
			もちまして	[以] これを～閉会といたします(「まし」「て」は, 助動詞マス, 助詞テへ)
			もつ・もっ	① [持, 有, 保] 手に～／根

て	に～／～・ちつ～・たれつ ／刀を～・て(「もってこ い」の意)／三年は～／体 が～・たない		・くさめ～	
	② [以] これを～・って閉会 とする(「て」は助詞テに)	モチ.ッ②	やっと やはり・ やっばり ・やっば し	～出来た／～のことで [矢張]《副》(合併) ヤツト ヤハリ
もつとも	① [尤] ～らしく／～な意見 ／ぼくはもう帰る。～君が 残るなら別だが／ご～です	モットモ①	やぶさか やぶれる	賛成するに～でない [破, 敗, 傷] 戦いに～／～ ヤブサカ ヤブレル
もと	② [最] ～大きな事件 ① [下, 許] (ねもと, 下) よらば大樹の～／勇将の～ 弱卒な／し提供するという 約束の～に	モットモ② モト①	やまて やまのて やむ	[山手] (山の手と別立) ヤマテ [山の手] (山手と別立) ヤマノテ ① [止, 已] 雨が～／～なく ／望んで～・まない／～を えず
	② [元] (時間) ～は軍人だ った／～からの社員／～大 蔵大臣／～のまま／～に帰 る／～を正せば	モト②	やめる	② [病] 胸を～ ヤミ.ム② [辞, 止, 廃] 会社を～／仕 事を～／工事を～ ヤメル
	③ [本, 元, 因, 基] ～と末 ／彼は～がしっかりしてる ／酒が～で死ぬ／失敗は成 功の～／こんなに安く売っ ては～がとれない	モト③	やや やや やり やる	[稍] ～大きい(次と別立) ヤヤ① [動] ～もすると(「稍」と別 立) ヤヤ② [槍] ～と刀／(しょうぎの 香車) ヤリ ① [遣] 恨みを～／子を旅に ～／目を～／大改革を～ ・ってのける／一杯～／え さを～／めんどろをみて～ ／～・ってくる ヤリ.ル①
もとより	① [固] (副) (もちろんの意) ② 前からの意。「元首相」のモ トに合併。「より」は助詞 ヨリ へ)	モトヨリ モト②		② 早うし～・れ ヤリ.ル② [柔] (形容詞・形容動詞の活 用は合わせる。「な」は助動 詞ナ へ) ヤワラカイ, な
者・物	(合併)	モノ	有	～意義／九十～余巻 ユウ (合併) ユウコウ
もはや	[最早]《副》	モハヤ	友好・交友	ユウコウ
模様	色～／～編み／明日できる～ だ	モヨウ	ゆうべ	[夕, 昨夜] ～の試合はどう ユウベ だった／名曲の～
門	① 羅生～／せまき～／法然の ～に入る	モン①	ゆき	① 「行」東京～急行／～と帰 ユキ① り
もん	② 大砲三～ [者, 物] おもしろい～だ／ この土地の～だ／ばか～! (モノに合わせる)	モン② モノ	ゆく・いく	② [桁] (裁縫用語) ユキ② [行, 往, 逝] (「いく」「いけ ユキ.ク ば」「いかない」なども含 む) わが道を～／うまく～ ／～春／先生～・きて早春 年／そこへ～と／賛成する わけに～・かない
やがて	《副》	ヤガテ	ゆくりなく	《副》 ～も ユクリナク
やき	[焼, 妬] 有田～／目玉～/ ～を入れる／やきもち～	ヤキ	ゆるす	[許, 赦] 入学を～／自他共 ユルシ.ス に～／罪を～／気を～
やけ	① [焼] ～野原 ② [自暴] ～のやんぱち／～ になる	ヤケ① ヤケ②	よ	① [予, 余]《代》 ヨ① ② [余] 30～里 ヨ②
やける	[焼, 灼, 妬] 火事で～／魚 が～／空が～／日に～／あ の二人を見ると～ね	ヤケル	用	～に立つ／会社の～で／自家 ヨウ ～／ご～聞き
やさしい	[優, 易] ～お父さん／優に ～／～問題	ヤサシイ		
やすい	[安, 廉, 易] ～物を買う/ ～・かろう悪かろう／～・ からぬ気持／お～・くない ね／それは～こと／熱し～	ヤスイ		

よい・いい ・よく	① [良, 善, 好, 佳] 仲がい い／よく見るとわかる／よ くもなぐったな	ヨイ	乱読・濫読 (合併) 乱売・濫売 (合併) 乱用・濫用 (合併)	ランドク ランバイ ランヨウ
	②よく映画をみる (しばしば の意)	ヨク①	リ	リ①
	③ [能] 歌をよくする	ヨク②		リ②
よう	[様] ゴム ひも～の物で/ 食べ～が悪い／直し～がな い／まるで雪の～だ／だれ かくる～だ	ヨウ	リクリエー ション	① 娯楽のとき。 ② [改造のときは, リクリエ ーション]
ようする	[要] 注意を～／～に今回の 事件は／要すれば	ヨウシスル	りこう	① [利口, 利巧] ～な人 ② [利口] 興言～
ようするに	[要] 《副》(「注意を要する」 の「要する」に合わせる。 この形を注記する。「に」は 助詞ニへ)	ヨウシスル	りつ・りっ 流	[立] りっ候補／愛知県りつ 小笠原～／英国～の紳士/ ～メーカー品
よしや	～失敗に終ろうとも	ヨシ／助詞 ヤ	りょう	① [兩] ～の腕 (二つの意) ② [輛, 兩] 三～連結 (車輛 の助数詞) ③ [兩] 千～箱 (お金の助数 詞)
よしんば	《副》	ヨシンば	リラ	(ライラックと別立)
よせ	① [寄席] ～中継 ② [寄] (しょうぎなどの)	ヨセ① ヨセ②	レビュー	①サイエンティフィック・～ (雑誌) ②～の劇場 (劇)
寄せる	好意を～／関心を～／シワを ～／まゆを～／口を～／春 に～・せて歌う／波が～/ 敵が～・せてくる	ヨセル	連	作家～／悪童～／三～星/ 二～式
よほど・よ っほど	[余程] (合併)	ヨホド	ろく	①～に話もできない／どうせ ～なことはない ② [祿] ～を食む
読む	本を～／心中を～／数を～/ さばを～	ヨミム	露地・路地 (合併)	ロク② ロジ
よも・よも や	《副》(「や」は助詞ヤへ)	ヨモ	ロマン・ロ ーマン・ ロマンス	①～式 (ローマの) ② (浪漫) ～主義 ③読者を魅了する大ロマン/ 彼女とのロマンス
よる	① [寄] 西土俵に～／医者に ～／～・ってたかって／し わが～ ② [縦] 糸を～ ③ [依, 拠, 因] 警察の手に ～・って逮捕された／交渉 に～解決／時に～・っては ④ 切ってしまい～・ったん や (方言)	ヨリム① ヨリム② ヨリム③ オリム④	わい わが わけても わざ わし	(方言の一人称代名詞) [我] ～国 (特にの意。「も」は助詞モ へ) [技, 業] 京流独特の～／人 間～ 《代》(「あっし, わっし」と 別立)
よろしく	① [宜] どうぞ～ ② [宜] ～感謝すべし	ヨロシキ	わたくし・ あたくし	[私] (合併。「わたし・あた し」と別立)／おおよけ～ の区別なく
ライト	① (野球) ～後方へ飛球 ②～級 (ボクシングなど) ③～を当てる (光)	ライト① ライト② ライト③	わたし・あ たし	[私] (合併「わたくし・あた くし」と別立)
らしい	①あの子にはこども～とても かわいいところがある (… …的な, ……にふさわしい) ②暗くてよく見えないがどう もこども～ (……と判断さ れる。助動詞)	ラシイ ⇒助動詞 ラシイ	わたる	[渡, 亘] 川を～／人手に～ ／十年に～研究／十年に～ ・って (合併。「て」は助詞 テへ)
			わっし・	《代》(合併。ワシと別立)

わっち・
 あっし
 わはは・あ (笑声。「あっはっは」「わは アハハ
 はは は」「わっはっは」「あはは
 ははは」……なども合併)
 わびる [詫, 佗] 無礼を~/孤独を ワビル
 ~
 わり [割] ~が悪い/一日百円の ワリ
 ~で/へや~/~/に合わな
 い仕事~/~/におもしろい/

~とよくできた
 わるさ [悪, 悪戯] 頭の~をさらけ ワルサ
 だす~/~をするな(いたず
 らの意。ワルィに集合)
 P, p ①~11 (11 ページのばあい。 ペエジ
 ペエジに合併)
 ②(字母の)~夫人/(元素 P, p
 略号)

索 引

- この索引には、第一分冊、第二分冊、第三分冊を通じて（目次から容易に検索されるもの以外の）おもな事項や人名のしるしであるページを示した。見出し通りの語句が使ってなくても、その事柄が扱ってあれば、取り上げた。
- 見出しの排列は、現代かなづかいによる五十音順とし、ローマ字などで始まる項目はワ行の後に置いた。
なお小見出しの部分の排列は、便宜によって、五十音順でない所もある。
- 第一分冊のページは、数字の前に*を、第二分冊のページは、数字の前に**をつけて示した。従って、こういう符号のついて

- いないものは第三分冊である。
脚注にある事を示すには、数字の後にnを添えた。
定義など大切な記述のある場所は、ゴチック数字にした。
- は「矢印の次にあげる項目を見よ、参照せよ」の意である。
 - 同じ見出しについての記述が同じページに二箇所以上あっても、特に断わることはしなかった。従って、求める項目が見つかった時も、その前後に注意せられたい。
 - 論文名は「」に、書名は『』に包んで示した。それが外国語によるものであるときは、イタリック体とした。

ア 行		活用		見出しへの示し方	**48
アスペクト	159	～形の分け方(用法による)	66~68	感情表現	123
アフマノバ	295	上一段～	64	函数	
意志的な動作	131	下一段～	64	基本度～	9, 14, 45
一次結合	246	動詞の～	64	基本度～の作成に使った刺激語	17
一次成分	228	四段～	64	試作基本度～の具体的な形	22
1βの条件	241	假定	137, 160	語の使用率の分布～	52
一回結合	246	～形	66~68	間接目的語	129
意味	297	～条件	154	感動詞(類)	55~62, 63
～分類	47	カテゴリー	162	慣用句	133, 136, 137, 138, 148
『岩波国語辞典』	294n, 298	可能表現	124, 125	含有率	
いわゆる複合語	243	カ変	64	漢字～の推定	**14
うけ →かか	171, 231	上一段活用	64	人名・地名の～	57, 260
エキスパートの意見	*2	間隔尺度	15, 45	完了	158
→基本度		漢語	55~62, 64, 298	木枝増一	161n
エキスパート判定 →基本度	14	冠詞	69	記号	
大野晋	297n	漢字		語に相当するような記号	*3
同じ語か異なる語かの判別	294~301	～含有率の推定	**14	擬声・擬態語	137
音訓の示し方	**48	～数と使用率との関係	**8, **9	基礎語	48
カ 行		～調査の調査対象	**1~2	既定条件	154
外来語	55~62, 64, 299	～の異なり字数	**10~12	規範意識	145
会話	166	～の使用度数分布表	**7, **8	基本語彙	7, 8, 47, 48
～文	159, 164	～の延べ字数	**10, **12	～の大きさ	47
かか	171, 231	教育～	**6	～の選定	*1
～方	173	教育～の使用率	**7	基本的な度合の力	15
「～の位置」	231n	教育外当用～	**6	基本度	8, 9, 14, 23, 25, 45
～の共存項数	239	教育外当用～の使用率	**7	～函数	9, 14, 45
～の共存度	122	助詞・助動詞に使われた～	**14	試作～函数の具体的な形	22
～の種類	172, 228	当用～以外の漢字	**6, 299	～函数の作成に使った刺激語	17
～の長さ	174	当用～以外の漢字の使用率	**7, **13	刺激語の～	25
格助詞	172	当用～補正案	**6, **14	～測定の精度	46
掛け言葉	*14	補正案に示された～の使用度数	**14	「語の～の決定法試案」	7n, 15n
過去	162	表外～	**6, 299	基本らしさ	23
合併(見出しの) →集合	302	表外～の使用率	**7, **13	客観的条件	152

教育外当用漢字	**6
～の使用率	**7
共存(かかりの)	
～項数	239
～度	238
～率	123
区間	
語彙～	8, 10
信頼～	*297
単位～	10
総起の表現	153
形式名詞	133, 297
係助詞	173, 174
継続動詞	167
形容詞(類)	55～62, 63, 173
形容動詞	63, 69, 135
結合	*7
～の回数と次数	246
～率	249
一回～	246
一次～	246
人名・地名の～率	260
二回～	246
二次～	246
β～	240
言語主体の意識	45
現在	162
～完了	166
『現代語の助詞・助動詞』	72
『現代文における語順の傾向』	174n
語	
～に相当するよな記号	*3
『～の基本度の決定法試案』	7n, 15n
～の示し方(漢字)	**49
～の代表形	*23
基礎～	48
刺激～	16
刺激～の基本度	25
指示～	174
状況～	228, 236, 238, 239
対象～	115
多義～	54
単位～	*14, *23, 240
→β単位	
単純～	240
同音～	296
同音～の排列	262
見出し～	*14, *296, 248n
語彙	52
～区間	8, 10
～調査	7
～調査(word count)の目的	7
『～調査—現代新聞用語の一例』	

「～調査大体」	60n
～表備考欄の-	7n
-数字の意味	*30, *31
-*の意味	*30
-#の意味	*31
基本～	7, 8, 47, 48
「計量～論の基礎づけ」	*4
「分類～表」	47
口語	126, 145, 160, 168
『広辞苑』	294, 293
後段(標本の)	4
後置詞	151
肯定	121, 122, 162
講文論	171
『国語および国語研究の代数学』*4	
『国語法論攷』	139
語形と意味	299
語形の変容	296
語源単位	*7
ここにいう複合語	252n
誤差	
使用率推定量の平均二乗～	*27
抽出～	*25, 8
散らばり度の標本～評価式	13
「延べ語数測定の～」	*27
語種	64
～の分け方	55～62
～・品詞に関する文献	52
～・品詞別異なり語数	57, 58, 61
～・品詞別延べ語数	59, 61
外来語	55～62, 64, 299
漢語	55～62, 64, 298
混種語	55～62, 65
和語	55～62
異なり語数	*21, *321, 1, 355
この調査の抽出・推定法の方針	*295
語尾	69, 71, 160
混種語	55～62, 65
サ行	
採集カード	*308
採集箇所一覧表	*306
最小単位	*7, 240
～に関する優先規定	242
～の分類	*8
佐伯哲夫	174n
雑格	173
サ変動詞	64
『三省堂国語辞典』	294, 301n
使役	127
『辞海』	294
刺激語	16
～の基本度	25

指示語	174
辞書	294
時代のもの	164
自動詞	130, 131, 132
地の文	159, 164, 166
下一段活用	64
集計単位	*14
集計票	*310
集合(見出しの) →合併	302
終止・連体形	66～68
集中度	236, 238
集落	*295
熟字訓	**48, **49n
主語	115, 151, 228, 239
述語	117
瞬間動詞	167
純計(語順の調査における)	174
使用順位	*26
～の示し方(漢字)	**15
使用度数	*296, 8
～の少ない当用漢字一覧	**13～14
標本～(語の)	52
漢字の～分布表	**7～8
使用率	*24, 8, 17, 25
～推定量の片寄り(語の)	*28
～推定量の平均二乗誤差(語の)	*27
～の示し方(漢字)	**16
～の高い語	54
～の分布(語の)	53
漢字数と～との関係	**8～9
教育外当用漢字の～	**7
教育漢字の～	**7
高い～をもつ語の性格	60
低い～をもつ語の性格	62
表外漢字の～	**7～13
状況語	228, 238, 239
条件	
1βの～	241
仮定～	154
既定～	154
客観的～	152
陳述的～	149
状態性動詞	163, 167
助詞・助動詞に使われた漢字	**14
助詞・助動詞の本質	71
「庶務課長」の取り扱い	243
真の複合語生産量	249
人名・地名	55, 57, 60
～の含有率	57, 260
～の結合率	260
～の複合語生産量	260
信頼区間	*297

数詞	63
「数量化の立場序説」	15n
鈴木重幸	228
生産量(複合語の)	249, 260
成分	171
一次～	228
造語～	297
陳述的～	228, 236, 238, 239
二次～	228
文の～	228
整理票	*309
接続詞	63, 69
接続助詞	173
接頭・接尾的要素	241
→付属要素	
前段(標本の)	4
前置詞	69
総計(語順の調査における)	174
造語成分	297
『総合雑誌の用語』前編	*21
『総合雑誌の用語』後編	*1, *14, *19, *20, *295, *298, 52n
操作ページ	*304
相の類	55
その他の類(品詞の一種)	55
タ行	
体	
～の類	55
「だ」～	146
「だ・である」～	169
「であります」～	169
「である」～	147
「です」～	147
「です・ます」～	169
代動詞	136
第一分冊の内容	2, 336
第二分冊の内容	2, 337
第三分冊の内容	iv～vi, 4～5
対象語	115
対象雑誌の選択	*2
代表形(語の)	*23
代名詞	63
多義語	54
高い使用率をもつ語の性格	61
「だ」体	147
「だ・である」体	169
他動詞	130, 131, 132
単位	
～区間	10
～語	*14, *23, 240
語源～	*7
最小～	*7, 240
集計～	*14
抽出～	*295
調査～	*14

二最小～の一次結合体	*12
β～	*7, 124, 240
単純語	240
力	14, 15, 17, 23, 25
～の測定	16
～の測定値	20
抽出語差	*25, 8
抽出台帳	*304
～総括表	*304
～要約表	*304
抽出単位	*295
抽出法	*295, 2
中段(標本の)	4
調査	
～対象の選択	*2
～対象の発行部数	3
～単位	*14
漢字～の調査対象	**1～2
語彙～	7
語彙～の目的	7
この～の抽出・推定法の方針	*295
2000語～	249
用語～	1
用字～	2
直接目的語	129
散らばり度	8, 11, 17, 25
～の標本誤差評価式	13
陳述的条件	149
陳述的成分	228, 236, 238, 239
陳述度	164
「であります」体	169
「である」体	147
提示	141
提題	160
ていねい体	162
です体	147
「です・ます」体	169
同音語	296
『～の研究』	296n
～の排列	262
動作	163
～性動詞	166
意志的な～	131
無意志的な～	131
継続～	167
動詞(類)	55～62, 163
～の活用	64
～の種類	129
～文	121
サ変～	64
瞬間～	167
状態性～	163, 167

代～	136
動作性～	166
当用漢字	
～以外の漢字	**6, 299
～補正案	**6
教育外～	**6
教育外～の使用率	**7
時枝誠記	161n
特殊なよみ方(漢字の)	**48
読書世論調査報告書	*2
ナ行	
二回結合	246
二最小単位の一次結合体	*12
二次結合	246
二次成分	228
2000語調査	249
『日本語の年輪』	297n
『日本文法論』	139
延べ語数	*296, *321
語種・品詞別～	59, 61
ハ行	
『話しことばの文型(2)』	118, 228
『話しことばの文法』	169 n
低い使用率をもつ語の性格	62
否定	121, 122, 162
票	
集計～	*310
整理～	*309
表外漢字	**6, 299
～の使用率	**7, **13
標本	
～異なり語数	*321, 57, 335
～延べ語数	*321, 59, 335
～使用度数	52
比例尺度	25, 45
品詞	62, 120, 162
～の分け方	55～62
～分類のわく	252 n
名詞類(体の類)	55～62, 297
動詞類(用の類)	55～62
形容詞類(相の類)	55～62
感動詞類(その他の類)	55～62
複合語 →β結合	
～の語種・品詞別分布	259
～の語種別分布	258
～の品詞別分布	258
～生産量	249
～の範囲	244
「～の表」の性質	247
いわゆる～	242
ここにいう～	252n

真の～生産量	250
人名・地名の～生産量	260
見かけの～生産量	250
β結合としての～	240
複合述語	117, 118, 119
副詞	63, 173
『婦人雑誌の用語』	9n, 72
付属要素	*8, 241
～の表(意味による分類)	*8
～の表(五十音順)	255
普通体	162
文	
～の成分	228
会話～	159, 164
地の～	159, 164, 166
動詞～	121
名詞～	121
文語	126, 145, 160, 168
文節形	91
文体	138, 146, 156, 163, 168
→体, 「だ」体 等	
分布	
～函数(語の使用率の)	52
漢字の使用度数～表	**7～8
文法形式	71, 91, 149
文法的な使用法	297
『分類語彙表』	47
方言	164
補語	228, 236, 238, 239
母集団(現代雑誌九十種の)	*296
補助用言	297
本文と認めた部分	*3
マ行	
前おき(条件法の一部)	151
松尾捨次郎	139
三尾 砂 <small>いさご</small>	169n
見かけの複合語生産量	250
水谷静夫	*4, *27, 7n, 15n
未然形	66～68
見出し	*23
～漢字の示し方	**48

～語	*14, *296, 248n
～語の立て方, 分け方	294～301
～の合併	302
～の集合	302
宮島達夫	231n
無意志的な動作	131
ムード	159
名詞	55～62, 173
～文	121
～類	55～62, 297
形式～	133, 297
命令形	66～68, 69
迷惑の受け身	129
目的語	129, 228, 236, 238, 239
間接～	129
直接～	129
紋切り型	126
ヤ行	
山田孝雄	139
優越関係	15
優越行列	15, 17
用言	66
～類	297
用語調査の規模	1
用字調査の規模	2
要素	
付属～	*8, 241
付属～の表	*8, 255
接頭・接尾的～	241
→付属要素	
用の類	55
四段活用	64
ラ行	
累加異なり語数	52
ルビ <small>れんじよう</small>	*14
連声	296
連体	

～詞	63
～の用法	128, 141
連濁	296
連用	
～形	66～68
～語	228, 238, 239
～の用法	128, 141
ワ行	
和語	55～62
ローマ字・記号	
АХМАНОВА, О. С.	294n, 295n, 301n
β結合 →単位語	240
～としての複合語	240
β単位	*7, 124, 240
COCHRAN, W.G.	*298
credit number	8
FISHER, R. A.	13n
HERDAN, G.	236n
HORN, E.	8
<i>Introduction to Finite Mathematics</i>	14n
KEMENEY, J. G.	14n
<i>Les mots francais</i>	294n
MITTERAN, D. H.	294n
<i>Morphology, descriptive analysis of words</i>	299n
NIDA, E. A.	299n
Очерки по общей и русской лексикологии	294n
<i>Précis de sémantique francais</i>	294n
range	8
<i>Statistical Methods for Research Workers</i>	13n
THORNDIKE, E. L.	8
<i>Type-Token Mathematics</i>	236n
ULLMANN, S.	
*の意味(語彙表備考欄の)	*30
#の意味(語彙表備考欄の)	*31

調査のデータ概略

(ページを表す数字の前の*は第一分冊、**は第二分冊、無印は第三分冊。)

調査対象 下記の5部門にわたる90種の雑誌の、昭和31年分の本文全体。

「本文」に対する詳しい規定は、☞*3ページ。

- 一 評論・芸文 12種…世界 群像 短歌 芸術新潮 等
- 二 庶民 14種…文芸春秋 家の光 サンデー毎日 等
- 三 実用・通俗科学 15種…ダイヤモンド 時の法令 科学朝日 等
- 四 生活・婦人 14種…主婦の友 暮らしの手帖 装苑 等
- 五 娯楽・趣味 35種…オール読物 アサヒカメラ 映画之友 野球 球界 囲碁 等

各部門の採択雑誌名、採択規準は、☞*2, 3ページ。

調査方式 ランダムに構成した集落の、層化集落抽出法。

詳細は☞*付録§1.2 (*295~297ページ)、*§4 (*303~301ページ)。

使用率の推定方式 比推定。ただし各部門の標本をランダムに前段、中段、後段に三分し、中間集計を二度はさむ。中間集計の結果、一定水準の推定精度に達した語の調査は、途中打ち切りとする。

詳細は☞*付録§1.2~§3(*295~303ページ)、*§5(*306~315ページ)。

調査の規模

- 1 母集団 延べページ数 226358ページ(正味)
延べ語数 約1.6億語(β単位による)
- 内訳 { 下記以外の語 1億語
助詞・助動詞 5600万語

β単位の規定は、☞*総記§3.2(*6~14ページ)、240~243ページ。

- 2 抽出比 標本全体を調べた時、1/227; 前段で打ち切られた時、1/681; 従って助詞・助動詞以外の語に関する抽出比は、この間にある。

助詞・助動詞については、1/681; 漢字については、ほぼ1/340。

なお☞*296ページ 表6 層ごとの、調査対象・標本・集落の大きさ。

- 3 標本延べ語数

全 体	助詞・助動詞以外	助詞・助動詞
	438135	94660
延 一層	46020	11314
べ 二層	76549	17887
三層	83887	14717
語 四層	81165	16117
数 五層	150514	34625

なお☞*314ページ 表13 標本延べ語数。

参考 助詞・助動詞とそれ以外との延べ語数の比率は全体の範囲について、下記の表の通り。

助詞・助動詞 : それ以外		
助詞・助動詞	1	: 1.53
それ以外	0.654	: 1
両者の合計	0.395	: 0.605

各層については、☞*34ページ 表5。

おもな数値

- 1 標本における見出し語の数

- 1.1 助詞・助動詞以外の語

☞*321ページ

	異なり語数	延べ語数
総数	40016	438135

☞*321ページ

注意 57ページの39930は、記号、ローマ字などを除いたもの。

58ページの30331は、上記から人名、地名も除いたもの。

延べ語数についても、同じ事情がある。

内訳

- (1) 人名・地名と一般

	異なり	延べ
人名・地名	9599	21213
一般	30331	411972

☞57, 59ページ [記号、ローマ字を含まない]

- (2) 語種別(人名・地名を含まない)

	異なり	延べ
和 語	11134	221875
漢 語	14407	170033
混種語	2964	12034
外来語	1826	8030

☞58, 59ページ [記号、ローマ字を含まない]

- (3) 品詞別(人名・地名を含まない)

	異なり	延べ
名 詞 類	23783	254494
動 詞 類	3460	97328
形 容 詞 類	2861	52545
感 動 詞 類	227	7605

☞58, 59ページ [記号、ローマ字を含まない]

- (4) 度数別

標本使用度数	異なり語数	(延べ語数中 で占める%)
1~6	32782	(14%)
7~ (第一分冊 語彙表所収)	7234	(86%)
(内50~の語数)	1220)	(63%)

国立国語研究所
報告 25

現代雑誌九十種の用語用字
第三分冊 分析

昭和39年7月10日印刷
昭和39年7月15日発行

¥ 800.

著作者 国立国語研究所
発行者 株式会社 秀英出版
代表者 坂東博人
印刷者 相川印刷株式会社

発行所 株式会社 秀英出版

東京都新宿区市ヶ谷左内町39
電話 (260) 5281(代)
振替東京 119739

VOCABULARY AND CHINESE CHARACTERS
IN
NINETY MAGAZINES OF TODAY

(Volume III)

ANALYSIS OF THE RESULTS

CONTENTS

- 1 FUNDAMENTALITIES OF WORDS. — The fundamentality function $f = a + b \log p + c \log sc$ is fitted, by the least square method, to twenty five sets of triads (whose components are the experts' evaluation of a set of quantitatively similar words, the averaged relative frequency and the averaged degree of scattering). This chapter contains the table of fundamentalities of the 1,200 most frequent words and the list of semantic classification of the 700 most fundamental words.
- 2 STATISTICAL STRUCTURE OF VOCABULARY. — This is described from three points of view according to the various categories of vocabulary. Section 2.1 shows how many different words belong to each word-frequency grade and what proportion of the total occurrences is covered by accumulative number of such different words. The result suggests the stability of the frequency distribution among strata by classes of magazines. Sections 2.2–2.3 show distributional differences among (1) parts of speech and (2) classes by word origin. Section 2.4 shows the distribution of inflectional forms of verbs and adjectives.
- 3 USAGE OF *ZYOSI* AND *ZYODÔSI*. — This contains frequency tables according to their meanings and to their combinational forms in *bunsetu* (pause group). Differences of usage among synonymous *zyosi* or *zyodôsi* are discussed. In addition, some quantitative studies in syntax are carried out, since most of *zyosi* and *zyodôsi* are important markers in Japanese syntax.
- 4 WORD-CONSTRUCTION. — A table of 4,381 compound words and their analysis. Speaking generally, high frequency words (called β -units in this report) have a tendency both to be used as elements of compound words and to make many sorts of compound words.
- 5 ON A DISCRIMINATION PROBLEM WHETHER WORDS FORMALLY SIMILAR ARE RECOGNIZED AS SAME OR AS DIFFERENT WORDS. — Discussion on this problem is proposed from two points of view, with a word list (974 headings) relating to the problem.

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

KITA-KU, TOKYO

1964

国立国語研究所刊行書

◇国立国語研究所年報

1 (昭和24年度)	200 円
2 (昭和25年度)	品切れ
3 (昭和26年度)	160 円
4 (昭和27年度)	160 円
5 (昭和28年度)	240 円
6 (昭和29年度)	200 円
7 (昭和30年度)	200 円
8 (昭和31年度)	220 円
9 (昭和32年度)	200 円
10 (昭和33年度)	220 円
11 (昭和34年度)	220 円
12 (昭和35年度)	350 円
13 (昭和36年度)	160 円
14 (昭和37年度)	220 円

◇国立国語研究所報告

1 八丈島の言語調査	290 円
2 言語生活の実態	品切れ
—白河市および付近の農村における—	
3 現代語の助詞・助動詞	450 円
—用法と実例—	
4 婦人雑誌の用語	500 円
—現代語の語彙調査—	
5 地域社会の言語生活	600 円
—鶴岡における実態調査—	
6 少年と新聞	180 円
—小学生・中学生の新聞への接近と理解—	
7 入門期の言語能力	200 円
8 談話語の実態	200 円
9 読みの実態的研究	300 円
—音読にあらわれた読みあやまりの分析—	
10 低学年の読み書き能力	350 円
11 敬語と敬語意識	500 円
12 総合雑誌の用語(前編)	250 円
—現代語の語彙調査—	
13 総合雑誌の用語(後編)	230 円
—現代語の語彙調査—	
14 中学年の読み書き能力	400 円
15 明治初期の新聞の用語	400 円
16 日本方言の記述的研究	900 円
(明治書院刊)	

17 高学年の読み書き能力	420 円
18 話しことばの文型(1)	450 円
—対話資料による研究—	
19 総合雑誌の用字	80 円
20 同音語の研究	350 円
21 現代雑誌九十種の用語用字(1)	800 円
—総記および語彙表—	
22 現代雑誌九十種の用語用字(2)	800 円
—漢字表—	
23 話しことばの文型(2)	400 円
—独話資料による研究—	
24 横組みの字形に関する研究	350 円
25 現代雑誌九十種の用語用字(3)	800 円
—分析—	

◇国立国語研究所資料集

1 国語関係刊行書目(昭和17年~24年)	45 円
2 語彙調査	80 円
—現代新聞用語の一例—	
3 送り仮名法資料集	200 円
4 明治以降国語関係刊行書目	300 円
5 沖繩語辞典(印刷局刊)	2500 円
6 分類語彙表	900 円

◇国立国語研究所論集

ことばの研究	500 円
~~~~~	
高校生と新聞(日本新聞協会と共編)	280 円
~~~~~	

国語年鑑

昭和29年版	450 円
昭和30年版	600 円
昭和31年版	450 円
昭和32年版	480 円
昭和33年版	480 円
昭和34年版	500 円
昭和35年版	550 円
昭和36年版	800 円
昭和37年版	950 円
昭和38年版	950 円